

IBM® DB2® ユニバーサル・データベース



メッセージ解説書 第 1 巻

バージョン 7

IBM® DB2® ユニバーサル・データベース



メッセージ解説書 第 1 巻

バージョン 7

ご注意!

本書、および本書がサポートする製品をご使用になる前に、573ページの『付録C. 特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典 :	GC09-2978-01 IBM® DB2® Universal Database Message Reference Volume 1 Version 7
発 行 :	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当 :	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2001.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1993, 2001. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2001

目次

本書について	v	第10章 GSE メッセージ	495
本書の対象読者	v	第11章 SAT メッセージ	513
本書の構成	v	第12章 SPM メッセージ	525
編成	v	第13章 SQJ メッセージ	545
表記規則	vi	付録A. SPM プロトコル違反レコード	549
第1章 メッセージの概要	1	Resync プロトコル違反レコード	549
使用可能なオンライン情報	1	Syncpoint プロトコル違反レコード	549
その他の DB2 メッセージ	3	XLN プロトコル違反レコード	550
その他のメッセージ・ソース	3	付録B. DB2 ライブラリーの用法	551
第2章 収集プログラムおよび変更適用プログラム (ASN) のメッセージ	5	DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料	551
収集プログラムのメッセージ	5	DB2 情報	551
変更適用プログラムのメッセージ	21	PDF 資料の印刷	563
第3章 CCA メッセージ	39	印刷資料の注文方法	563
第4章 CLI メッセージ	49	DB2 オンライン文書	563
第5章 DBA メッセージ	65	オンライン・ヘルプへのアクセス	563
第6章 DBI メッセージ	133	オンライン情報の表示	566
第7章 DB2 メッセージ	195	DB2 ウィザードの使用	568
第8章 DWC メッセージ	231	文書サーバーのセットアップ	570
第9章 FLG メッセージ	353	オンライン情報の検索	571
情報カタログ・マネージャー理由コード	353	付録C. 特記事項	573
FLG0001 - FLG0083 情報カタログ・マネージャー・メッセージ	406	商標	576
FLG0200 - FLG0273 情報カタログ・マネージャー・メッセージ	419	索引	579
FLG0301 - FLG0800 情報カタログ・マネージャー・メッセージ	429	IBM と連絡をとる	581
		製品情報	581

本書について

本書の目的は、DB2 の各種コンポーネントから戻されるメッセージをリストすることです。

本書の対象読者

メッセージ解説書 は、戻されるメッセージの詳細な情報を必要とする DB2 ユーザーを対象としています。

本書の構成

本書は、DB2 の各種コンポーネントから戻されるエラー・メッセージをすべてリストしています。

編成

本書は、次のように構成されています。

- 『第1章 メッセージの概要』では、エラー・メッセージにアクセスし、それを解釈する方法を説明しています。
- 『第2章 収集プログラムおよび変更適用プログラム (ASN) のメッセージ』では、DB2 複製で生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第3章 CCA メッセージ』では、DB2 クライアント構成アシスタントで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第4章 CLI メッセージ』では、DB2 コール・レベル・インターフェースで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第5章 DBA メッセージ』では、DB2 コントロール・センターおよびデータベース管理ユーティリティで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第6章 DBI メッセージ』では、DB2 のインストールおよび構成の際に生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第7章 DB2 メッセージ』では、コマンド行プロセッサで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第8章 DWC メッセージ』では、データウェアハウスセンターで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第9章 FLG メッセージ』では、情報カタログ・マネージャーで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第10章 GSE メッセージ』では、地理情報エクステンダーで生成されるメッセージについて説明しています。

- 『第11章 SAT メッセージ』では、DB2 サテライト・エディションで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第12章 SPM メッセージ』では、同期点マネージャーで生成されるメッセージについて説明しています。
- 『第13章 SQJ メッセージ』では、DB2 Java Embedded SQL (SQLJ) で生成されるメッセージについて説明しています。
- 『付録A. SPM プロトコル違反レコード』では、SPM によって DB2 の最初の障害保守ログに書き込まれるレコードの C 言語定義をリストしています。

表記規則

日時の形式、および日時の区切り文字として使用する文字は、米国語形式を使用する構成になっているシステムに適用されます。ご使用になるシステムの各国語形式によって、これらの形式や文字の表示は異なる場合があります。

第1章 メッセージの概要

本書では、DB2 がインストールされたオペレーティング・システムの機能をよくご存じであることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なりカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

使用可能なオンライン情報

以下の DB2 メッセージは、オペレーティング・システムのコマンド行からアクセスできます。

接頭部 記述

ASN	DB2 複製で生成されるメッセージ
CCA	クライアント構成アシスタントで生成されるメッセージ
CLI	コール・レベル・インターフェースで生成されるメッセージ
DBA	コントロール・センターおよびデータベース管理ユーティリティーで生成されるメッセージ
DBI	インストールおよび構成で生成されるメッセージ
DB2	コマンド行プロセッサで生成されるメッセージ
DWC	データウェアハウスセンターで生成されるメッセージ
FLG	情報カタログ・マネージャーで生成されるメッセージと理由コード
GSE	DB2 地理情報エクステンダーで生成されるメッセージ
SAT	DB2 サテライト・エディションで生成されるメッセージ
SPM	同期点マネージャーで生成されるメッセージ
SQJ	Java Embedded SQL (SQLJ) で生成されるメッセージ
SQL	警告やエラー状態が検出されたときにデータベース・マネージャーで生成されるメッセージ

さらに、SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストもオンラインで参照できます。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部 (上のリストを参照) と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号から成り立っています。エラー・メッセージの重大度を示す末尾の 1 文字はオプションです。

上記のエラー・メッセージにアクセスするには、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
db2 "? XXXnnnnn"
```

where *XXX* represents the message prefix
and where *nnnnn* represents the message number.

注: db2 コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID は、大文字小文字の区別がありません。また、終了の文字も不要です。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- db2 “? SQL0000N”
- db2 “? sql0000”
- db2 “? SQL0000n”

ご使用の画面に対しメッセージ・テキストが長すぎる場合は、次のコマンドを使用します (UNIX ベース・システムおよび「more」をサポートしている他のシステムの場合)。

```
db2 "? XXXnnnnn" | more
```

ヘルプは、対話式入力モードでも起動できます。対話式入力モードに入るには、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
db2
```

対話式入力モードになると、次のコマンド・プロンプトにコマンドを入力できます。

```
db2 =>
```

このモードで DB2 メッセージを見るには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
? XXXnnnnn
```

注: メッセージ・テキストが画面に収まらない場合、非グラフィック・ワークステーションで作業しているユーザーは、出力を「more」プログラム (UNIX ベース・システムの場合) に送るか、または表示可能なファイルに出力を転送します。

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できません。

db2 "? nnnnn"

or

db2 "? nn"

ここで、*nnnnn* は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、*nn* は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

その他の DB2 メッセージ

本書またはオンラインで解説されていないメッセージを戻す DB2 コンポーネントもいくつかあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

AUD DB2 監査機能で生成されるメッセージ。

DIA 多くの DB2 コンポーネントで生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、db2diag.log という診断ログ・ファイルに書き込まれ、ユーザーや DB2 サービス担当者がエラーを調査する際に、追加情報を提供することが目的です。

GOV DB2 管理プログラム・ユーティリティーで生成されるメッセージ。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の資料を参照してください。

第2章 収集プログラムおよび変更適用プログラム (ASN) のメッセージ

以下は、収集およびアプライ・プログラムの DB2 レプリケーションによって発行されるメッセージのリストです。これには状況の簡単な説明が示されています。

他に指定されていない限り、ここに記述されたすべてのエラー・コードは、IBM サービスおよび IBM 開発によって使用される内部エラー・コードです。また他に指定されていない限り、エラー・メッセージは 8 の戻りコードとともに発行されます。

レプリケーション・メッセージには、以下の接頭部が付きます。

ASN0 収集プログラム

ASN1 変更適用プログラム

収集プログラムのメッセージ

ASN0000S メッセージ番号 “<number>” の内部エラーが起きました。エラー・コードは “<error_code>” です。戻りコードは “<return_code>” です。

説明: 収集プログラムのメッセージ・ファイルが正しくインストールされませんでした。

ユーザーの処置: ご使用のプラットフォームのブックのインストールおよび構成情報を参照してください。メッセージ・ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。インストールが正しい場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN0001E 収集プログラムが SQL エラーを検出しました。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<name>”
- SQL 要求 - “<request>”

- 表名 - “<table_name>”
- SQLCODE - “<sqlcode>”
- SQLERRML - “<sqlerrml>”
- SQLERRMC - “<sqlerrmc>”

説明: 収集プログラムが EXEC SQL を発行したときに、ゼロでない SQLCODE が返されました。

ユーザーの処置: プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料を参照して、置換フィールドとして SQLERRML および SQLERRMC を使用する SQL 戻りコードについての情報を調べてください。詳細については、データベース管理者にお尋ねください。

ASN0002E 収集プログラムが DB2 に接続できませんでした。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”

- SQLCODE - “<sqlcode>”

説明: 収集プログラムが以下のいずれかを発行したときに、エラーが起きました。

- DB2 for VSE & VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出し接続機能 (CAF) への CONNECT 関数
- 共通サービスのための DB2 への暗黙の接続

ユーザーの処置: プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料の DB2 コードを参照して、該当する理由コードを調べてください。

DB2 (OS/390 版) のエラーの場合、呼び出し接続機能について記述している管理の手引き内のセクションを参照してください。ご質問および診断については、データベース管理者にお尋ねください。

DB2 UDB (UNIX 版) の下または DataJoiner (UNIX 版) の下で収集プログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数が、収集プログラムが始動する環境と同じ環境に設定されていることを確認してください。詳細については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。

ASN0003E 収集プログラムがプランをオープンできませんでした。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 戻りコード - “<return_code>”
- 理由コード - “<reason_code>”
- サブシステム - “<subsystem>”
- プラン名 - “<ASNLPLAN>”

説明: 収集プログラムがプラン ASNLPLAN をオープンしようとしたときに、エラーが起きました。

ユーザーの処置: プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料の DB2 コード・セクションを参照し

て、該当する理由コードを調べてください。プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーの管理の手引きの該当するセクション『呼び出し接続機能』を参照してください。

ASN0004E 収集プログラムはトレースを開始できませんでした。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 戻りコード - “<return_code>”
- 理由コード - “<reason_code>”

説明: START TRACE DB2 コマンドが実行されたとき、または収集プログラムが DB2 ログを読み取っているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料の DB2 コード・セクションを参照して、該当する理由コードを調べてください。詳しくは、ご使用のプラットフォームの DB2 データベース・マネージャーの管理の手引き資料で次のセクションのいずれかを参照してください。

(CAF) START TRACE DB2 エラーには、『呼び出し接続機能』、DB2 ログ読み取りエラーには、Instrumentation Facility Interface (IFI) または DBA にお尋ねください。CAF または IFI がメッセージを返した場合、それはシステム表示コンソールにも印刷されます。

ASN0005E DB2 ログの読み取り中、収集プログラムがエラーを検出しました。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- LSN - “<log_sequence_number>”
- 戻りコード - “<return_code>”
- 理由コード - “<reason_code>”

説明: 収集プログラムが DB2 ログを読み取っているときにエラーが起きました。SQL エラーが起こった可能性があります。

収集プログラム (OS/390 版) では、このメッセージにはダンプが生成されます。出力は、収集プログラム (OS/390 版) を呼び出す JCL の CEEDUMP DDNAME で名前を指定されたデータ・セットに表示されます。

DB2 DataPropagator では、“<return_code>” は非同期読み取りログの値になります。UNIX では、ログ・ファイルはパスに入っていない可能性があります。

収集プログラム (VSE 版) では、“<return code>” は VSE/VSAM GET マクロの値です。

収集プログラム (VM 版) では、“<return code>” は Diagnose X'A4' の値です。

ユーザーの処置: プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料の DB2 コード・セクションを参照して、該当する理由コードを調べてください。

収集プログラム (OS/390 版) の場合、プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーの管理の手引き資料の Instrumentation Facility Interface (IFI) セクションを参照するか、または DBA にお尋ねください。

収集プログラム (VSE 版) の場合、詳細については “VSE/VSAM Return and Error Codes” のマニュアルを参照してください。

VM/ESA の場合、詳細については VM/ESA Programming Services を参照してください。

ユニバーサル・データベースの IBM DPROPR 収集プログラムには、管理の手引き (共通サーバー) の活動およびアーカイブ・データベース・ログ・セクションを参照するか、または IBM サービス技術員にお尋ねください。

ASN0006E 収集プログラムが不明なログ・バリエーションの予期しないログ・エラーを検出しました。ルーチン名は “<routine>” です。

説明: 予期しないログ・エラーが、次のいずれかによって報告されませんでした。

- 収集プログラム (OS/390 版) の Instrumentation Facility Interface (IFI)
- ユニバーサル・データベースの IBM DPROPR 収集プログラムの非同期読み取りログ API

このエラーは、収集プログラムが DB2 ログ・レコードを処理しているときに発生しました。収集プログラムは、ログ・レコードに関連する SQL 更新のタイプを判別できませんでした。

収集プログラム (OS/390 版) では、このメッセージにはダンプが生成されます。出力は、収集プログラム (OS/390 版) を呼び出す JCL の CEEDUMP DDNAME で名前を指定されたデータ・セットに表示されます。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN0007E 収集プログラムが非適用データ・タイプの予期しないログ・エラーを検出しました。ルーチン名は “<routine>” です。

説明: 予期しないログ・エラーが、次のいずれかによって報告されませんでした。

- 収集プログラム (OS/390 版) の Instrumentation Facility Interface (IFI)
- ユニバーサル・データベースの IBM DPROPR 収集プログラムの非同期読み取りログ API

このエラーは、収集プログラムが DB2 ログ・レコードを処理しているときに発生しました。収集プログラムは、ログ・レコードに関連する SQL 更新のタイプを判別できませんでした。

収集プログラム (OS/390 版) では、このメッセージにはダンプが生成されます。出力は、収集プログラム (OS/390 版) を呼び出す JCL の CEEDUMP DDNAME で名前を指定されたデータ・セットに表示されます。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN0008I 収集プログラムが停止しました。

説明: IBM 複製管理者が、いずれかの有効なメソッドを使用して収集プログラムを停止しました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0009E DATA CAPTURE CHANGES (DCC) 属性なしで表が作成されました。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 表名 - “<table_name>”

説明: ソース表が DCC 属性なしで定義され、収集プログラムがレプリケーション・ソースへの変更の収集を試みました。

ユーザーの処置:

1. 収集プログラムを停止する。
 2. 複製ソースを削除する。
 3. 複製ソースをもう一度定義する。「データ収集が全最新表示のみ」チェック・ボックスが選択されていない場合、DB2 コントロール・センターはソース表を DCC 属性で更新します。
 4. 収集プログラムを始動する。
-

ASN0010E 収集プログラムが十分なストレージを取得できません。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 要求したストレージ - “<amount>”

説明: 使用可能なフリー・ストレージが不足しているため、収集プログラムは処理を続行できません。

ユーザーの処置: 収集プログラム (OS/390 版) では、REGION パラメーターがジョブを実行する

のに十分なストレージを割り振っているかどうかを確認してください。必要であれば、十分なストレージの要求方法を判別するために OS/390 システム・プログラマーに連絡してください。

収集プログラム (VM 版) では、仮想記憶域の取得要求が満たされていない可能性があります。収集プログラムが実行される仮想計算機のサイズを大きくする必要があります。

収集プログラム (VSE 版) では、使用可能なすべての GETVIS ストレージが使い果たされました。より大きな区分を割り振った後に、収集プログラムを再始動する必要があります。

ASN0011E DB2 圧縮辞書が使用可能でないか、または IFCID 306 バッファが無効です。

パラメーター:

- ルーチン・コード - “<routine_code>”
- 理由コード - “<reason_code>”

説明: DB2 圧縮辞書が使用不能エラーの場合、収集プログラムは前の圧縮辞書のログ・レコードの読み取りを試みます。DB2 (OS/390 版) はメモリー内に 1 つのバージョンの圧縮辞書しか保存しません。ログ・レコードの圧縮に使用された圧縮辞書が現行の圧縮辞書である場合のみ、DB2 は圧縮表のログ・レコードを元に戻すことができます。

IFCID 306 バッファが無効である場合は、制御情報がバッファから欠落しています。

どちらの場合も、このメッセージにはダンプが生成されます。出力は、収集プログラム (OS/390 版) を呼び出す JCL の CEEDUMP DDNAME で名前を指定されたデータ・セットに表示されます。

ユーザーの処置: DB2 圧縮辞書エラーでは、収集プログラムには不要のコールド・スタートを回避するために、新しいバージョンの圧縮辞書を作成する前に、圧縮表のすべてのログ・レコードを収集する必要があります。KEEPDICTIONARY

オプションを使用して、REORG ルーチンの処理中に現行バージョンの圧縮辞書を保存してください。

表の新規の圧縮辞書が必要な場合、REORG ユーティリティの実行を、更新されたアプリケーションおよび収集プログラムの実行と同期化してください。同期化は次のように行ってください。

1. 更新されたアプリケーションを休止する。
2. 収集プログラムで、ログに記録された圧縮表の更新をすべて収集する。
3. 圧縮表に REORG ユーティリティを使用して、新しい圧縮辞書を作成する。
4. 更新されたアプリケーションを解放する。

IFCID 306 バッファ・エラーでは、すべての DB2 保守が現行であることを確認してください。

ASN0013E 変更データ (CD) 表に定義されていない列を収集プログラムが要求しました。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 表名 - “<table_name>”

説明: ユーザーが変更データ表の IBMSNAP 必須列を定義していませんでした。

ユーザーの処置: 変更データ表の定義が正しいことを確認してください。詳細については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。

ASN0014E 収集プログラムの処理が最小レベルより下になりました。ログ・レコードは現在の時刻より “<number>” 秒遅れます。ルーチン名は “<routine>” です。

説明: 高い DB2 トランザクション率によって収集プログラムの実行速度が、定義された最低レベルよりも下になったため、収集プログラムが停止しました。

ユーザーの処置: ラグ限界の詳細については、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関する章を参照してください。ワールド・スタートを実行してください。

ASN0015E 収集プログラムがストレージ割り振りエラーを検出されました。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 要求したストレージ - “<amount>”

説明: ストレージ割り振りエラーが検出されました。十分なストレージが使用可能ではありません。収集プログラムが正しくインストールされていない可能性があります。

AIX の収集プログラムでは、共用ディレクトリーに対するコンポーネント・ファイルのソフト・リンクが設定されていない可能性があります。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムおよびアプリケーション・タスクの状況を見て、ストレージが割り振られない理由を判別してください。エラー・メッセージにリストされたストレージの要求方法を判別するために、システム・プログラマーに連絡してください。

収集プログラム (AIX 版) では、コンポーネント・ファイルのソフト・リンクが設定されているかどうかを判別してください。

収集プログラム (VM 版) では、仮想記憶域の取得要求が満たされていない可能性があります。収集プログラムが実行される仮想計算機のサイズを大きくする必要があります。

収集プログラム (VSE 版) では、使用可能なすべての GETVIS ストレージが使い果たされました。より大きな区分を割り振った後に、収集プログラムを再始動する必要があります。

ASN0016E 適格複製ソースがないため、収集プログラムが変更の収集を開始できませんでした。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 表名 - “<table_name>”

説明: レジスター表の複製ソース情報が定義されていません。

収集プログラムは開始されましたが、以下のようなソース表を見つけることができませんでした。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの DATA CAPTURE CHANGES オプションで使用可能な表。
- 「ソースとして定義」ウィンドウの「データ収集は全最新表示のみ」チェック・ボックスを選択せず、複製ソースとして定義されている表。

ユーザーの処置: レジスター表が正しく定義されていることを確認してください。レジスター表の詳細については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。複製ソースが定義されていることを確認してください。

ASN0017E 収集プログラムが重大な内部エラーを検出し、正しいエラー・メッセージを発行できませんでした。ルーチン名は “<routine>”、戻りコードは “<return_code>”、エラーメッセージ番号は “<error_message_num>” です。

説明: 収集プログラムが収集プログラム・メッセージ・ファイルからメッセージを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 収集プログラム・エラー・メッセージ・ファイルを編集します。ASNnnnn エラー・メッセージ番号を探し、発行されなければならなかったエラー・メッセージを判別してください。このリストのエラー・メッセージの情報を参照して、エラーの解決方法を判別してください。

ASN0018W 収集プログラムがレジスター表の行に行われた更新を処理できませんでした。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: 収集プログラムの実行中にユーザーによって複製ソースの定義が変更されました。その後、REINIT コマンドが実行されました。それぞれの複製ソースごとに行を 1 つ含むレジスター表が、その他の複製ソース制御表と一致しない可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 収集を停止する。
2. 複製ソースを削除する。
3. 複製ソースを再定義する。
4. 収集を開始する。

ASN0019E 収集プログラム・ライブラリーが許可プログラム機能 (APF) に許可されていません。

説明: STEPLIB ライブラリーが APF で許可されていないため、収集プログラムは STOP、SUSPEND、RESUME、または REINIT コマンドを処理できません。

ユーザーの処置: APF に収集リンク・ライブラリーを許可してください。

ASN0020I Netview 総称アラート・インターフェースに失敗しました。
Netview 戻りコードは “<return_code>” です。

説明: プログラム・インターフェースが失敗したため、プログラムがネットワーク管理ベクトル転送 (NMVT) を Netview に送信できませんでした。これは 2 次的な通知メッセージです。

ユーザーの処置: Netview プログラミング資料の戻りコードの説明を参照して、インターフェース・エラーを判別してください。収集プログラム・アラートは、エラーが訂正されるまでシステ

ム・サービス制御ポイント (SSCP) によって受信されません。

ASN0021I プログラム・インターフェースへの NetView プログラムは使用できません。Netview 戻りコードは “<return_code>” です。

説明: Netview が使用不能です。これは 2 次的な通知メッセージです。

ユーザーの処置: Netview プログラミング資料の戻りコードの記述を参照して、Netview の問題を判別してください。たとえば、サブシステムが開始されていない可能性があります。

ASN0022E DB2 リリース “<release>” はサポートされていません。ルーチン名は “<routine>” です。

説明: 収集プログラムはこのリリースの DB2 をサポートしません。

ユーザーの処置: 該当するリリースの DB2 で収集プログラムを実行してください。

ASN0023I 収集プログラムはレジスター表を正常に再初期設定しました。表名は “<table_name>”、ルーチン名は “<routine_name>” です。

説明: REINIT コマンドが実行され、収集プログラムの内部制御情報が正しく更新されました。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0024I 収集プログラムはレジスター表を再初期設定する必要はありませんでした。表 “<table_name>” は変更されませんでした。

説明: REINIT コマンドが実行されました。初期設定後または最後の REINIT 後、レジスター表は更新されませんでした。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0025I 収集プログラムはレジスター表を再初期設定しました。表 “<table_name>” には “<number>” の潜在的に不良の行があります。

説明: このメッセージは ASN0018W を伴います。ASN0018W で報告された潜在的な問題がありますが、要求どおり再初期設定が実行されました。

ユーザーの処置: ASN0018W を参照してください。

ASN0026W 収集プログラムがトレース・バッファを割り振ることができませんでした。ルーチン名は “<routine>”、要求したストレージは “<required_storage>” です。

説明: ストレージ割り振りエラーが検出されました。トレース・バッファに十分なストレージが割り振られていません。トレース・バッファは、収集プログラムの情報のみの機能です。収集プログラムを実行するために割り振り済みストレージは必要ありません。

ユーザーの処置: エラー・メッセージにリストされたストレージの要求方法を判別するために、システム・プログラマーに連絡してください。

収集プログラム (VM 版) では、仮想記憶域の取得要求が満たされていない可能性があります。収集プログラムが実行される仮想計算機のサイズを大きくする必要があります。

収集プログラム (VSE 版) では、使用可能なすべての GETVIS ストレージが使い果たされました。より大きな区分を割り振った後に、収集プログラムを再始動する必要があります。

ASN0027W 収集プログラムはすでに活動状態です。

説明: DB2 サブシステムまたはデータベースに対して複数の収集プログラムを開始しようとした。

VSE/ESA では、収集プログラム (VSE 版) はデータベースごとに固有のロック名を生成します。このロック名はすでに使用中であり、収集プログラム (VSE 版) がデータベースですでに活動状態であることを示しています。

VM/ESA では、収集プログラム (VM 版) はロックに使用されるリソース ID がすでに使用中であると判別しました。リソース ID は CAPTURE ASNPARMs ファイルの ENQ_NAME パラメーターに指定されます。

ユーザーの処置: DB2 (OS/390 版) サブシステムでは、データ共有グループのメンバーであるすべてのサブシステムに収集プログラムの 1 つのインスタンスのみを実行するか、または独立型システムで収集プログラムの 1 つのインスタンスのみを実行してください。

その他の DB2 データベース・プラットフォームでは、データベースごとに 1 つの収集プログラムのみを実行してください。

収集プログラム (VM 版) では、1 つのシステムで複数の DB2 データベースに収集プログラム (VM 版) を実行したい場合、各収集プログラムの固有値を確実に指定するために、CAPTURE ASNPARMs の ENQ_NAME パラメーターを変更することができます。

ASN0028I 収集プログラムはオペレーター・コマンドによって中断されます。

説明: IBM 複製管理者が収集プログラムを中断し、待ち状態になりました。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0029I 収集プログラムはオペレーター・コマンドによって再開されます。

説明: IBM 複製管理者が中断状態から収集プログラムを再開し、収集プログラムの実行を続行しました。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0030I オペレーターによって入力された収集プログラム・コマンドが認識されませんでした。

説明: IBM 複製管理者が、収集プログラムによって認識されないコマンドを入力しました。以下のコマンドのみが有効です。

- STOP (DB2 DataPropagator の場合 *Ctrl+C*)
- SUSPEND
- RESUME
- REINIT
- PRUNE
- GETLSEQ

上記のコマンドで許可されるパラメーターはありません。

ユーザーの処置: 有効な収集プログラム・コマンドのみを使用してください。

ASN0031E 収集プログラム・チューニング・パラメーター表は 1 行だけもつことができます。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: チューニング・パラメーター表が正しく定義されていないか、無効な列が更新されています。

ユーザーの処置: この表の正しい形式については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。無効な行を除去してください。

ASN0033E 収集プログラムがレジスター表を初期設定できませんでした。表名は “<table_name>” です。

説明: IBM 複製管理者が収集プログラムを再初期設定しようとしたのですが、レジスター表にエラーがありました。収集プログラムの実行中または中断中にユーザーが複製ソースの更新を試みて、レジスター表が他の制御表と一致しなかった可能性があります。

ユーザーの処置: これは 2 次的なメッセージです。このエラーの詳細については、前のメッセージを参照してください。収集プログラムの再初期設定の詳細については、各プラットフォームの『収集プログラムと変更適用プログラム』の項、レジスター表の詳細については、レプリケーションの手引きおよび解説書 をそれぞれ参照してください。

ASN0034E 収集プログラム・チューニング・パラメーター表の列 “<column>” に正しくない値が指定されました。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: チューニング・パラメーター表の値が正しくありません。値が範囲外の可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細については、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関するセクションを参照してください。ラグ限界、保存期間、およびコミット頻度をチェックしてください。

ASN0035W サポートされないアーキテクチャー・レベルのあるレジスター表にいくつかの行が見つかりました。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: レジスター表のバージョンが、現行の収集プログラムのバージョンと一致しません。DB2 コントロール・センターの現行バージョンは、実

行中の収集プログラムのバージョンと互換性がありません。

ユーザーの処置: レジスター表の ARCH_LEVEL 列に必要な値については、レプリケーションの手引きおよび解説書 を参照してください。ソース・サーバーのレジスター表の値が正しいことを確認してください。正しくない場合、互換性のあるバージョンのコントロール・センターと収集プログラムを使用してください。

ASN0036E DB2 は異常終了しました。ルーチン名は “<routine>” です。

説明: 収集プログラムがまだ活動状態のままで DB2 が終了しました。

OS/390、VSE/ESA、または VM/ESA では、収集プログラムが活動状態のときに DB2 が終了し、ユーザーは NOTERM 呼び出しパラメーターを指定していませんでした。

ユーザーの処置: DB2 を開始し、収集プログラムを開始してください。

ASN0037W DB2 は静止モードで終了しました。ルーチン名は “<routine>” です。

説明: 収集プログラムがまだ活動状態のままで DB2 が終了しました。

ユーザーの処置: DB2 を開始し、収集プログラムを開始してください。

ASN0038E DB2 への切断に失敗しました。ルーチン名は “<routine>”、戻りコードは “<return_code>”、理由コードは “<reason_code>” です。

説明: DB2 は QUIESCE モードで停止しましたが、収集プログラムの実行は継続する必要があります。DB2 への接続を終了しているときに、収集プログラムが呼び出し接続機能 (CAF) からエラー戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: 収集プログラムを再始動してください。

ASN0040E “<platform>” の FORK 関数からエラーが返されました。エラーは “<error_text>” です。

説明: AIX FORK 関数から負の値が返されました。“<Error_text>” にエラーが記述されます。

ユーザーの処置: FORK 関数の詳細については、AIX Calls and Subroutines Reference を参照してください。エラーを判別するには、示されたエラー・テキストを使用するか、または IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN0041E インスタンス名を取得中にエラーが返されました。理由コードは “<reason_code>” です。

説明: DB2 ユニバーサル・データベースの SQLEGIN API がエラーを返しました。

ユーザーの処置: SQLEGIN API のエラーを判別するには、DB2 API 解説書を参照するか、または IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN0042E EXECLP 関数からエラーが返されました。エラーは “<error_text>” です。

説明: AIX EXECLP 関数から負の値が返されました。“<Error_text>” にエラーが記述されます。

ユーザーの処置: EXECLP 関数については AIX Calls and Subroutines Reference を参照するか、または IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN0043E ASNLMAIN の子プロセスが終わりました。

説明: ASNLMAIN で作成された子プロセスが終了しました。考えられる理由には、以下があります。

- ユーザーによる子プロセスの停止。

- AIX システム上の問題。

ユーザーの処置: システム処理に矛盾がないかどうかをチェックするか、または AIX システム・プログラマーにお尋ねください。

ASN0044E 子プロセスは拡張待機後のダミー・プロセスを呼び出していません。

説明: 子プロセスは、ダミー・ルーチン ASNLVPRF を呼び出せませんでした。インストールの際のソフト・リンクが設定されていない可能性があります。

ユーザーの処置: インストールの際のソフト・リンクが設定されているかどうか確認してください。システムで問題をチェックするか、または IBM サービス技術員にお尋ねください。

ASN0045E MSGRCV 関数からエラーが返されました。エラーは “<error_text>” です。

説明: MSGRCV 関数がエラーを返しました。“<Error_text>” にエラーが記述されます。

ユーザーの処置: エラーを判別するには、示されたエラー・テキストを使用するか、または IBM サービス技術員にお尋ねください。

ASN0046E MSGGET 関数からエラーが返されました。エラーは “<error_text>” です。

説明: MSGGET 関数がエラーを返しました。“<Error_text>” にエラーが記述されます。このエラーはメッセージ処理中に発生します。

ユーザーの処置: エラーを判別するには、示されたエラー・テキストを使用するか、または IBM サービス技術員にお尋ねください。

ASN0047E “<platform>” の FTOK 関数からエラーが返されました。エラーは “<error_text>” です。

説明: AIX FTOK 関数がエラーを返しました。“<Error_text>” にエラーが記述されます。

ユーザーの処置: FTOK 関数の詳細については、AIX Calls and Subroutines Reference を参照してください。エラーを判別するには、示されたエラー・テキストを使用するか、または IBM サービス技術員にお尋ねください。

ASN0048E 収集プログラムがログ・ファイルをオープンできませんでした。エラーは “<error_text>” です。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 収集プログラムがログ・ファイルをオープンできませんでした。いくつかの考えられる理由は以下のとおりです。

- 収集プログラム・ログ・ファイルが削除されている。
- ユーザーが収集プログラム・ディレクトリーの適切な権限を持っていない。

ユーザーの処置: エラーを判別するには、システム・プログラマーまたは IBM サービス技術員にお尋ねください。

ASN0050E 収集プログラムがエラー・メッセージ・ファイルへの書き込み中にエラーを検出しました。

説明: 収集プログラム・ログ・ファイルへの書き込み中に I/O エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージについては、トレース表をチェックしてください。

ASN0053E 非同期読み取りログ API (SQLURLOG) からエラーが返されました。

パラメーター:

初期 LSN - “<log_sequence_number>”

冒頭読み取り LSN - “<first_read_LSN>”

最終読み取り LSN - “<last_read_LSN>”

現在活動中の LSN - “<currently_active_LSN>”

書き込み済みログ・レコード - “<log_records_written>”

書き込み済みログ・バイト - “<log_bytes_written>”

説明: 非同期読み取りログ API は、このメッセージに先行した SQL エラー・メッセージに SQLCODE を返しました。このメッセージは SQL エラーに関する追加情報です。

ユーザーの処置: SQLCODE については ASN0001E を参照してください。

ASN0054E 収集プログラムは呼び出しパラメーターを認識しませんでした。

説明: 無効な呼び出しパラメーターが、ASNCCP コマンドとともに入力されました。

ユーザーの処置: 有効な呼び出しパラメーターを入力してください。

有効なパラメーターの詳細については、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関するセクションを参照してください。

ASN0055E 収集プログラムが原点表でサポートされていない SQLTYPE を検出しました。

パラメーター:

- ルーチン名 - “<routine>”
- 列番号 - “<column_num>”

説明: 収集プログラムが無効な SQL タイプを検出しました。表が DB2 コントロール・センター

外の複製ソースとして定義されており、サポートされない SQL タイプ (例: LONG VARGRAPHIC) を含んでいる可能性があります。

ユーザーの処置: 複製ソースを削除し、有効なタイプのみを確実に定義するために DB2 コントロール・センターを使用して複製ソースを定義してください。または、複製ソースを手操作で定義する場合は、その表がサポートされる SQL タイプであることを確認してください。プラットフォームの DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料を参照して、無効な SQLTYPE を調べてください。

ASN0056E ASN.IBMSNAP_UOW 表は存在しません。

説明: 作業単位 (UOW) 表は除去された可能性があります。または、ソース・サーバーのデータベースが除去された可能性があります。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN0100I 収集プログラムの初期設定が正常に行われました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0101W 既存のデータが古すぎるため、収集プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。コールド・スタートが試行されます。

説明: 変更データ表のデータが、値 “<current_timestamp_lag_limit>” よりも古い値です。コールド・スタートが実行されます。

ユーザーの処置: 収集プログラムがウォーム・スタートできなかった理由については、レプリケーションの手引きおよび解説書 中にあるウォーム・スタートとコールド・スタートの説明を参照してください。

ASN0102W ウォーム・スタート情報が足りないため、収集プログラムはコールド・スタートに切り替わります。

説明: ウォーム・スタートの情報を検索中に問題が発生しました。ウォーム・スタートの表データが無効でした。コールド・スタートが実行されません。

DB2 ユニバーサル・データベースの場合、ウォーム・スタートでのログの読み取り中に非同期読み取りログ API エラーが発生しました。OS/390 の場合、ウォーム・スタートでのログの読み取り中に Instrumentation Facility Information (IFI) が発生しました。

ユーザーの処置: 収集プログラムがウォーム・スタートできなかった理由については、レプリケーションの手引きおよび解説書 中にあるウォーム・スタートとコールド・スタートの説明を参照してください。

ASN0103I 収集プログラムが “<server_name>” で開始されました。

パラメーター:

- SERVER_NAME - “<server_name>”
- ENQ_NAME - “<enq_name>”
- START_TYPE - “<start_type>”
- TERM_TYPE - “<term_type>”
- PRUNE_TYPE - “<prune_type>”

説明: このメッセージは、DB2 サーバー名および収集プログラム開始オプションを表示する通知メッセージです。

収集プログラム (VSE および VM 版) では、ENQ_NAME には DB2 データベースに 1 つの収集プログラムだけを確実に実行するために 収集プログラムがロックした名前が示されます。VM/ESA のロック名は、CAPTURE ASNPARMs ファイルの ENQ_NAME パラメーター値を変更することによって指定できます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0104I ログ順序番号 (LSN)

“<log_sequence_number>” で所有者 “<owner>”、表名 “<copy_table>” の変更収集が開始されました。

説明: 収集プログラムが、示されたログ順序番号 (LSN) で表所有者、表名について開始されました。このメッセージは、収集プログラムが変更を収集するそれぞれの原点表に発行されます。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0105I コピーされたデータは変更データ表および作業単位表からプルーニングされました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0106I 収集プログラムは DB2 が起動するのを待っています。

説明: 収集プログラムを最初に起動する時に DB2 が起動していなかった場合、収集プログラムは DB2 が起動するまで待っています。DB2 が起動した後、収集プログラムは接続して変更の収集を開始します。

収集呼び出しパラメーターに NOTERM オプションが指定され、DB2 が正常に終了した場合、収集プログラムは DB2 の再起動を待ちます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0110E OS/390 ストレージ・ダンプを収集します。制御アドレスは “<address>” です。

説明: これは、重大エラーのストレージ・ダンプの先頭に印刷される通知メッセージです。メッセージにダンプが生成される場合、ダンプ出力は収

集プログラム (OS/390 版) を呼び出す JCL の CEEDUMP DDNAME で指定された名前のデータ・セットに表示されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0115I ウォーム・スタート制御情報は提供されませんでした。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: ウォーム・スタート表が欠落しているか、破壊されています。この表は、より高速のウォーム・スタートを提供します。収集プログラムがウォーム・スタートします。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0116I 収集プログラムはチューニング・パラメーター表を再初期設定しませんでした。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: REINIT コマンドが実行されました。しかしチューニング・パラメーター表のチューニング・パラメーター情報が使用不可能でした。直前のチューニング・パラメーター値が保存されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0117W ウォーム・スタート制御情報は保管されませんでした。ルーチン名は “<routine>”、表名は “<table_name>” です。

説明: IBMSNAP_WARM_START 表へのウォーム・スタート情報の保管を妨げるエラーが発生しました。ウォーム・スタートを試みますが、バックアップ・ソースが使用されるため、時間がかかる可能性があります。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0121E 既存のデータが古すぎるため、収集プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。収集プログラムは終了します。

説明: ウォーム・スタート情報の時間が LAG_LIMIT を超えました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。WARMNS が指定されていたため、収集プログラムは終了します。

ASN0122E ウォーム・スタート情報または DB2 ログを読み取り中、エラーが発生しました。収集プログラムは終了します。

説明: ウォーム・スタート情報を検索中に問題が発生しました。ウォーム・スタート表データが OS/390 で無効です。ウォーム・スタートでログの読み取り中に Instrumentation Facility Interface (IFI) エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。WARMNS が指定されていたため、収集プログラムは終了します。

ASN0123I 正常に収集したログ・レコードの最高ログ順次番号は “<log_sequence_number>” です。

説明: 収集プログラムが、最も高いログ順序番号 (LSN) をウォーム・スタート表に保管しました。これは、収集プログラムがログ・データの処理を正常に終了したポイントです。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。このメッセージも共に終了します。

ASN0124I プルーニング・コマンドが受け入れられ、プルーニング・アクションはキューにあります。

説明: IBM 複製管理者がプルーニング・コマンドを入力し、収集プログラムは要求をキューイングしました。収集プログラムは、変更データ (CD) 表および作業単位 (UOW) 表をプルーニングします。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ASN0125I 正常に処理されたログ・レコードの現行ログ順序番号は “<log_sequence_number>” です。ログ・タイム・スタンプは “<timestamp>” です。

説明: 収集プログラムは、示されたログ順序番号で DB2 ログを処理しています。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0126E 収集プログラムが構文エラーを検出しました。収集プログラムは終了します。

説明: 収集プログラムが、誤りのある呼び出しパラメーターの組み合わせを検出しました。

ユーザーの処置: START コマンド構文の詳細については、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関するセクションを参照してください。

ASN0130I 収集プログラムが DB2 ログの最後から読み取りを開始することをユーザーが要求しました。

説明: 収集プログラムを呼び出すときに、ユーザーが WRMSKPM パラメーターを指定しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0132I 収集プログラムはモバイル・オプションで **ASNCOPY** に呼び出されました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0133I 収集プログラムはモバイル・トランザクションの終わりに達しました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN0134E 収集プログラムは、モバイル・オプションで **ASNCOPY** に呼び出された時、ログ情報の開始が獲得できませんでした。

説明: 収集プログラムはログで情報を読み取るための開始点を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 詳細な情報は、次のメッセージを待ってください。

ASN0135E 収集プログラムの試行期間が終了しました。

説明: DB2 DataPropagator 製品の試行期間が終了しました。DB2 (OS/390 版) の DataPropagator ライセンス機能をオーダーしてインストールするまで、この製品を使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 DataPropagator 製品のオーダーについては、その担当者に連絡してください。

ASN0136I 試行版の **Capture** が *nn* 日で終了します。

説明: 使用中の DB2 DataPropagator は試行版です。*nn* 日経過すると、DB2 (OS/390 版) の DataPropagator ライセンス機能をインストールしない限り、DB2 DataPropagator を使用することができなくなります。

ユーザーの処置: 注: DB2 DataPropagator 製品のオーダーについては、その担当者に連絡してください。

ASN0137E 製品情報モジュールに予期しない内容があります。

説明: DB2 DataPropagator 機能の登録モジュール (ASNLP61) の内容が、このバージョンの DB2 DataPropagator 製品で予期しない内容です。正しい登録モジュールが示されるまで、製品をこれ以上使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされたことを確認してください。エラーが発生していた場合、それを訂正して再試行してください。

DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされ、機能登録モジュール (ASNLP61) に正しくアクセスしている場合は、IBM 技術員に援助を依頼してください。

ASN0138E 製品試行モジュールに予期しない内容があります。

説明: DB2 DataPropagator 試行モジュールの内容が、このバージョンの DB2 DataPropagator 製品で予期しない内容です。正しい試行モジュールが示されるまで、製品をこれ以上使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされたことを確認してください。エラーが発生していた場合、それを訂正して再試行してください。

DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされ、それに正しくアクセスしている場合は、IBM 技術員に援助を依頼してください。

ASN0139E 収集プログラムがトレース・ファイルをオープンできませんでした。エラーは“<error_code>”です。

説明: ユーザーが TRCFILE オプションを指定しましたが、収集プログラムはそのトレース・ファイルをオープンできませんでした。考えられる理由は以下のとおりです。

- ASNPATH 環境変数に指定されたディレクトリに誤りがある。
- ユーザーがディレクトリの適切な権限を持っていない。

ユーザーの処置: システム・プログラマーまたは IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN0200E 誤ったパラメーター“<parameter>”が収集プログラムに渡されました。

説明: VM/ESA の場合、以下のいずれかの状況によってエラーが発生しました。

- ASNCCP 呼び出しコマンドに誤ったパラメーターが指定されている。
- CAPTURE ASNPparms ファイルに無効なパラメーターが入っている。
- :DBNAME の RESID NAMES ファイル中の :RESID タグに無効なパラメーターが指定されている。たとえば、RESID が長すぎる。

VSE/ESA の場合、ASNCCP 呼び出しコマンドで無効なパラメーターが指定されました。

ユーザーの処置: 指定したパラメーターが有効であることを確認してください。ASNCCP コマンドの詳細については、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関するセクションを参照してください。

ASN0201E 収集プログラムが“<platform>”エラーを検出しました。ルーチン名は“<routine>”、関数名は“<function>”、戻りコードは“<return_code>”です。

説明: VM では、

- LINK 関数の場合、*database* SQLFDEF ファイルで識別されるミニディスクに LINK を試みているときに、収集プログラムがエラーを検出しました。

database は SQLINIT または SQLGLOB コマンドで識別されるデータベースです。デフォルトは SQLDBA です。

- FSREAD、FSPOINT、または FSTATE 関数エラーの場合、CAPTURE ASNPparms または *database* SQLFDEF ファイルの読み取りを試みているときに、収集プログラムがエラーを検出しました。

- XCIDRM 関数の場合、収集プログラムは DB2 データベースで活動状態の収集プログラムが 1 つだけになるようにロックするためのリソース ID を得ることができませんでした。次の理由でエラーが発生した可能性があります。

- アプリケーションが実行されている仮想計算機には、*IDENT に接続する権限がありません。
- アプリケーションが実行されている仮想計算機には、リソースを宣言する権限がありません。

VSE では、

- GENCB、MODCB、OPEN、GET、CLOSE、または ENDREQ 関数エラーの場合、データベース・ログまたはディレクトリーのセットアップまたは読み取りを試みているときに、収集プログラムがエラーを検出しました。

- GETVIS、FREEVIS、または XPCC 関数エラーの場合、このいずれかの関数を実行しようとしたときに、収集プログラムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: プラットフォーム資料に記述されているとおりにエラーを訂正してください。

VM では、

- LINK 関数の場合、戻りコードの詳細については VM/ESA CP コマンドおよびユーティリティー解説書を参照してください。
- FSREAD、FSPOINT、または FSTATE 関数エラーの場合、VM/ESA CMS アセンブラーによる適用業務開発の解説書を参照してください。
- XCIDRM 関数の場合、戻りコードの詳細については VM/ESA CPI コミュニケーション・インターフェース 使用者の手引きを参照してください。
- その他の関数は、プラットフォーム製品アプリケーション開発およびコマンド資料を参照してください。

VSE では、

- GENCB、MODCM、OPEN、GET、CLOSE、または ENDREQ 関数エラーの場合、IBM VSE/VSAM マクロの詳細については VSE/ESA メッセージおよびコード解説書を参照してください。
- GETVIS、FREEVIS、または XPCC 関数エラーの場合、VSE/ESA システム・マクロ解説書を参照してください。

変更適用プログラムのメッセージ

ASN0202E USERID パラメーターは指定されていませんでした。

説明: 収集プログラムに渡された EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM= フィールドには、USERID パラメーターが必要です。

ユーザーの処置: PARM= フィールドに USERID= パラメーターを追加してユーザー ID とパスワードを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

ASN0203I “<vdev>” として “<diskname>” ミニディスク “<diskowner>” にリンクしています。

説明: 収集プログラムは、示されたデータベース・ミニディスクに内部 CP リンク・コマンドを実行するところです。

ユーザーの処置: プロンプトが出されたら、ミニディスク・パスワードを入力してください。

ASN1000S メッセージ番号 “<number>” の内部エラーが起きました。その代替フィールドは、
“<substitution_field_1>”、
“<substitution_field_2>”、
“<substitution_field_3>”、
“<substitution_field_4>”、
“<substitution_field_5>”、
“<substitution_field_6>”、および
“<substitution_field_7>” です。エラー・コードは “<error_code>”
です。戻りコードは
“<return_code>” です。

説明: 変更適用プログラムのメッセージ・ファイルが正しくインストールされませんでした。

ユーザーの処置: ご使用のプラットフォームのブックのインストールおよび構成情報を参照してください。メッセージ・ファイルが正しくインストールされていることを確認してください。インストールが正しい場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN1001E 変更適用プログラムが SQL エラーを検出しました。

パラメーター:

- ERRCODE - “<error_code>”
- SQLSTATE - “<sqlstate>”
- SQLCODE - “<sqlcode>”
- SQLERRM - “<sqlerrm>”
- SQLERRP - “<sqlerrp>”
- サーバー名 - “<server_name>”
- 表名 - “<table_name>”

説明: SQL ステートメントの実行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL についてはデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1002E “<table_name>” をロックできませんでした。ERRCODE は
“<error_code>”、SQLSTATE は
“<sqlstate>”、SQLCODE は
“<sqlcode>”、SQLERRM は
“<sqlerrm>”、SQLERRP は
“<sqlerrp>”、サーバー名は
“<server_name>”、表名は
“<table_name>” です。

説明: 変更適用プログラムが表をロックできませんでした。

ユーザーの処置: データベースのメッセージ解説書を参照してください。

ASN1003E 変更適用プログラムがサーバー
“<server>” に接続できませんでした。

パラメーター:

- エラー・コード - “<error_code>”
- SQLSTATE - “<sqlstate>”
- SQLCODE - “<sqlcode>”
- SQLERRM - “<sqlerrm>”
- SQLERRP - “<sqlerrp>”

説明: 変更適用プログラムがデータベースへの接続を試みたが、データベースが起動していなかったか、またはアクセスしているユーザーが多すぎたため、失敗の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: DB2 UDB (UNIX 版) の下または DataJoiner (UNIX 版) の下で適用プログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数が、変更適用プログラムが始動する環境と同じ環境に設定されていることを確認してください。詳細については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。

SQL についてはデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1004I 試行版の **Apply** が *nn* 日で終了します。

説明: 使用中の DB2 DataPropagator は試行版です。*nn* 日経過すると、DB2 (OS/390 版) の DataPropagator ライセンス機能をインストールしない限り、DB2 DataPropagator を使用することができなくなります。

ユーザーの処置: 注: DB2 DataPropagator 製品のオーダーについては、その担当者に連絡してください。

ASN1005E 変更適用プログラムの試行期間が終了しました。

説明: DB2 DataPropagator 製品の試行期間が終了しました。DB2 (OS/390 版) の DataPropagator ライセンス機能をオーダーしてインストールするまで、この製品を使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 DataPropagator 製品のオーダーについては、その担当者に連絡してください。

ASN1006E 製品情報モジュールに予期しない内容があります。

説明: DB2 DataPropagator 機能の登録モジュール (ASNAPR61) の内容が、このバージョンの DB2 DataPropagator 製品で予期しない内容です。正しい登録モジュールが示されるまで、製品をこれ以上使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされたことを確認してください。エラーが発生していた場合、それを訂正して再試行してください。

DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされ、機能登録モジュール (ASNAPR61) に正しくアクセスしている場合は、IBM 技術員に援助を依頼してください。

ASN1007E 製品試行モジュールに予期しない内容があります。

説明: DB2 DataPropagator 試行モジュールの内容が、このバージョンの DB2 DataPropagator 製品で予期しない内容です。正しい試行モジュールが示されるまで、製品をこれ以上使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされたことを確認してください。エラーが発生していた場合、それを訂正して再試行してください。

DB2 DataPropagator 機能がエラーなしでインストールされ、それに正しくアクセスしている場合は、IBM 技術員に援助を依頼してください。

ASN1008E 変更適用プログラム修飾子 “<qualifier>” とセット名 “<set_name>” の付いたサブスクリプション・セットが正しく定義されていません。ERRCODE は %3 です。

説明: サブスクリプション・セットが正しく定義されていません。

ユーザーの処置: ASN.IBMSNAP_SUBS_SET の WHOS_ON_FIRST 列が正しく指定されていることを確認してください。

ASN1009E 変更適用プログラム修飾子 “<qualifier>” に定義されたサブスクリプション・セットがありません。

説明: 変更適用プログラム修飾子 “<qualifier>” に定義されたサブスクリプション・セットがありません。

ユーザーの処置: 変更適用プログラム修飾子 “<qualifier>” に少なくとも 1 つのサブスクリプション・セットを定義してください。

ASN1010E “<error_code>” エラーのため、変更適用プログラムが監査証跡表に行“<row>” を挿入できませんでした。

説明: この SQL 戻りコードは、監査証跡表がレプリケーションの手引きおよび解説書にある表と同じ構造で設定されていなかったことを示します。

ユーザーの処置: レプリケーションの手引きおよび解説書 およびご使用のデータベースの SQL マニュアルを参照してください。

ASN1011E コピー要求はコピー元およびコピー先の属性と互換性がありません。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: この SQL エラー・コードは、ターゲット表の属性がソース表の属性と互換性を持つ必要があることを示しています。

ユーザーの処置: ソースおよびターゲットの属性の互換性については、レジスター表の BASE_STRUCTURE 列を参照してください。

ASN1012E ソース表の構造が無効です。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: この SQL 戻りコードは、レジスター表のソース表の構造が、レジスター表の SOURCE_STRUCTURE 列にしたがってセットアップされていないことを示しています。

ユーザーの処置: ソース表の有効な構造については、レプリケーションの手引きおよび解説書にある、レジスター表の SOURCE_STRUCTURE 列に関する説明を参照してください。

ASN1013E ターゲット表の構造が無効です。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: サブスクリプション・ターゲット・メンバー表 (ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBER) のターゲット表構造が無効です。

ユーザーの処置: ターゲット表の有効な構造については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。

ASN1014E 変更適用プログラムが変更データ表を見つけられなかったため、コピー要求のコピー元を見つけられませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更データ表がレジスター表に定義されていませんでした。変更適用プログラムがレジスター表の変更データ表名を検索しなかったか、またはソース表が正しく登録されていないことが原因です。

ユーザーの処置: レプリケーションの手引きおよび解説書を参照して、変更データ表がレジスター表 (ASN.IBMSNAP_REGISTER CD_OWNER、CD_TABLE) で正しく定義されていることを確認してください。

ASN1015I グローバル SYNCETIME を拡張するために、変更適用プログラムがサーバー “<server_name>” で収集プログラムを待機しています。収集プログラムが実行されていることを確認してください。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1016I 最新表示が使用できませんでした。
エラー・コードは “<error_code>”
です。

説明: 全最新表示の実行を試みているときに、変更適用プログラムがレジスター表でオンに設定されている DISABLE_REFRESH 列を検出しました。

ユーザーの処置: DISABLE_REFRESH 列をオフにするか、または変更適用プログラムをバイパスして、手操作で最新表示を行ってください。

ASN1017E 変更適用プログラムがターゲット列名を見つけることができませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムは ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS サブスクリプション列表で列を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 複製サブスクリプションを再定義するには、“<Defining Replication Subscriptions>” を参照してください。

ASN1018I 変更適用プログラムがサブスクリプション・セット “<set_name>” (“<whos_on_first>”) を処理しています。 (“<total_sets>” の “<set_number>”)。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1019E ターゲット表にキー列がありません。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムは、1 次キーを必要とする列の 1 つでキー列名を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 複製の記述を再定義するには、

“<Defining Replication Descriptions>” を参照してください。

ASN1020S 変更適用プログラムがストレージ・ブロックを予約できませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムは必要な (メモリー) ストレージを取得できませんでした。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1021S 変更適用プログラムが作業ファイルを読み取ることができませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: システム・エラーのため、変更適用プログラムは作業ファイルを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 問題の原因がスペース不足であるかどうかを判別して、必要であればシステム管理者に連絡してください。

ASN1022S 変更適用プログラムが作業ファイルに書き込むことができませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: ユーザーが、1 つまたはすべてのファイルに正しいアクセス権限を持っていないか、またはターゲット・ファイルへの書き込み後、十分なスペースが残っていないかのいずれかです。

ユーザーの処置: 問題の原因が、アクセス権限がないため、またはスペースがないためのどちらであるかを判別し、必要なものを得るためにシステム管理者に連絡してください。

ASN1023S 変更適用プログラムが作業ファイルをオープンできませんでした。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 変更適用プログラムが作業ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1024S 変更適用プログラムが作業ファイルをクローズできませんでした。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 変更適用プログラムが作業ファイルをクローズできませんでした。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1025I 変更適用プログラムがサブスクリプション・セット“<set_name>” (“<whos_on_first>”) の処理を完了しました。戻りコードは“<return_code>”です。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1026I バインドの試行中に変更適用プログラムがエラーを検出しました。
SQLSTATE は“<sqlstate>”、
SQLCODE は“<sqlcode>”です。

説明: バインドの実行中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: データベースのメッセージ解説書を参照してください。

ASN1029E SQL ステートメントを実行できませんでした。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: ユーザーによって指定された SQL ステートメントの実行が失敗しました。

ユーザーの処置: 詳細については、適用追跡表の SQLSTATE、SQLCODE、SQLERRR、および SQLERRM とデータベース SQL マニュアルを参照してください。

ASN1030S 変更適用プログラムが OS/2 エラーを検出しました。エラー・コードは“<error_code>”、戻りコードは“<return_code>”です。

説明: OS/2 API の実行が失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、OS/2 WARP コントロール・プログラム プログラミング解説書を参照してください。

ASN1031E SQL ステートメントが空です。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: SQL ステートメントは空ストリングです。

ユーザーの処置: 実行する SQL ステートメントを指定してください。

ASN1032S 変更適用プログラム・ログ・ファイルをオープンできませんでした。エラー・コードは“<error_code>”、戻りコードは“<return_code>”です。

説明: 変更適用プログラムがログ・ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、OS/2 WARP コントロール・プログラム プログラミング解説書、または特定のプラットフォームの

システム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1033E 変更適用プログラムが変更適用プログラム・ログ・ファイルに書き込むことができませんでした。エラー・コードは“<error_code>”、戻りコードは“<return_code>”です。

説明: 変更適用プログラムがログ・ファイルに書き込むことができませんでした。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、OS/2 WARP コントロール・プログラム プログラミング解説書、または特定のプラットフォームのシステム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1034E ストアード・プロシージャは DB2 (MVS/ESA 版) V3 ではサポートされていません。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: DB2 バージョン 3 はストアード・プロシージャ呼び出しをサポートしていません。

ユーザーの処置: ステートメント表 (ASN.IBMSNAP_SUBS_STMT) から、ストアード・プロシージャ CALL ステートメントを除去してください。

ASN1035E 変更適用プログラムがサブスクリプション列表にアクセスできませんでした。

パラメーター:

- エラー・コード - “<error_code>”
- SQLSTATE - “<sqlstate>”
- SQLCODE - “<sqlcode>”
- SQLERRM - “<sqlerrm>”
- SQLERRP - “<sqlerrp>”
- サーバー名 - “<server_name>”
- 表名 - “<table_name>”

説明: SQL ステートメントの実行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL についてはデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1036E 式“<expression>”の列タイプ“<col_type>”が無効です。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: サブスクリプション列表の COL_TYPE 列の値が無効です。

ユーザーの処置: 値を A、B、C、F、または R に変更してください。

ASN1037E 変更適用プログラムが日付と時刻を取得できませんでした。エラー・コードは“<error_code>”、戻りコードは“<return_code>”です。

説明: OS/2 API DosGetDateTime が失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、OS/2 WARP コントロール・プログラム プログラミング解説書を参照してください。

ASN1038E サブスクリプション列表に列名または式が指定されていません。

説明: コピー・ステートメントの列名または式を指定する必要があります。

ユーザーの処置: サブスクリプション定義の詳細な要件については、レプリケーションの手引きおよび解説書を参照してください。

ASN1039S 変更適用プログラム・プラン“<plan_name>”をオープンできませんでした。

パラメーター:

- エラー・コード - “<error_code>”
- 戻りコード - “<return_code>”

• 理由コード - “<reason_code>”

説明: 変更適用プログラム・プランをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 変更適用プログラム (OS/390 版) のプログラム資料説明書を参照してください。

ASN1040S 変更適用プログラムが OS/390 エラーを検出しました。エラー・コードは “<error_code>”、戻りコードは “<return_code>” です。

説明: OS/390 システム操作の実行が失敗しました。

ユーザーの処置: OS/390 システム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1041I 変更適用プログラムがサブシステム名 “<subsystem>” を使用して開始されました。

説明: これはエラー・メッセージではありませんが、表示されたサブシステム名が有効であるかどうかを確認する必要があります。

ユーザーの処置: サブシステム名が有効であることを確認してください。

ASN1042W 呼び出しパラメーターが多すぎます。

説明: アプライ・プログラムを呼び出す時に指定したパラメーターの数が、最大許可数を超過しています。

ユーザーの処置: 該当する呼び出しパラメーター数の詳細については、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関するセクションを参照してください。

ASN1043E この変更適用プログラム修飾子 “<qualifier>” で 1 つの変更適用プログラム・インスタンスがすでに実行されています。エラー・コードは “<error_code>”、理由コードは “<reason_code>” です。

説明: 検証しようとしたことが失敗しました。

ユーザーの処置: 変更適用プログラムの 1 つのインスタンスのみが、このサブシステムまたはデータベースのこのユーザー ID で実行されていることを確認してください。

ASN1044I 変更適用プログラムは “<number>” 分 “<number>” 秒間、非活動状態になります。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1045I 変更適用プログラムがデータベース “<database>” を使用して開始されました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 予期したデータベースの場合は、処置は必要ありません。

ASN1046S 変更適用プログラム・ライブラリーが許可プログラム機能 (APF) に許可されていません。

説明: 変更適用プログラム・ライブラリーは APF に許可される必要があります。

ユーザーの処置: 変更適用プログラム・ライブラリーを許可してください。

ASN1048E コピー・ステートメントの実行が失敗しました。詳細については、適用追跡表を参照してください。
“<text>”

説明: コピー・ステートメントを実行できませんでした。メッセージでは、“<text>”で“<copy_server>”、“<copy_owner, copy_table, stmt_number>”、および“<cntl_server>”を識別できます。

ユーザーの処置: コピー・ステートメントが失敗した理由を判別するには、監査証跡表の APPERRM フィールドをチェックしてください。

ASN1049S 変更適用プログラムがシステム・エラーを検出しました。エラー・コードは“<error_code>”です。戻りコードは“<return_code>”です。

説明: システム操作の実行が失敗しました。

ユーザーの処置: 特定のプラットフォームのシステム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1050E 変更適用プログラムがターゲット表の更新中に無効な操作を検出しました。エラー・コードは“<error_code>”です。適用しようとした無効な操作は“<operation>”です。

説明: ソース表からフェッチされた行の操作フィールドが無効です。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

ASN1051E 変更適用プログラムがソース“<source>”表とターゲット表の間でギャップを検出しました。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 変更適用プログラムがコピーする前に、収集プログラムが変更データを失ったことを変更適用プログラムが検出しました。たとえば、収集プログラムがコールド・スタートした可能性があります。

ユーザーの処置: 制御表をチェックして、ギャップの理由を判別してください。制御表をリセットして、定義を再実行する前に、データ保全性を確保するために該当する処置をとってください。

ASN1052E 変更適用プログラムが **ASNLOAD** プログラムを見つけることができませんでした。

説明: 変更適用プログラムが現行ディレクトリーで **ASNLOAD** プログラムを見つけることができません。

ユーザーの処置: 変更適用プログラムを呼び出したディレクトリーに **ASNLOAD** が存在することを確認してください。

ASN1053E **ASNLOAD** プログラムの実行が失敗しました。戻りコードは“<return_code>”です。

説明: **ASNLOAD** プログラムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: **EXPORT** および **IMPORT** ユーティリティーで生成されるメッセージ・ファイルを参照してください。これらのファイル名は変更適用プログラム (**OS/2** 版) と変更適用プログラム (**AIX** 版) では異なることに注意してください。

ASN1054S 変更適用プログラムがソース所有者 “<src_ownr>”、ソース表 “<src_tbl>”、およびソース視点修飾子 “<src_view_qual>” の登録情報を見つけることができませんでした。

説明: ソース表登録が誤っているかまたは不完全です。

ユーザーの処置: 登録を除去してもう一度行ってください。また、登録情報がレジスター表とプルーニング制御表の両方に存在することを確認してください。

ASN1055S 変更適用プログラムがソース所有者 “<src_ownr>”、ソース表 “<src_tbl>”、ソース視点修飾子 “<src_view_qual>”、ターゲット所有者 “<tgt_ownr>”、およびターゲット表 “<tgt_tbl>” のプルーニング制御情報を見つけることができませんでした。

説明: ソース表登録が誤っています。

ユーザーの処置: サブスクリプションを除去してもう一度行ってください。

ASN1056E ユーザー ID/パスワードがないために、変更適用プログラムがサーバーに接続できませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムはサーバーに接続するためのパスワードとユーザー ID を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 変更適用プログラムのパスワードが存在することを確認してください。DB2 ユニバーサル・データベース・サテライト・エディションを使用している場合は、パスワードとユーザー ID がクライアント・システムに定義されていることを確認してください。

ASN1057E 変更適用プログラムが変更適用プログラム・パスワード・ファイルのパスワードを読み取ることができませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: パスワードがないことを変更適用プログラムが検出しました。

ユーザーの処置: AUTHENTICATION=SERVER 体系を使用したい場合、プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関する章の変更適用プログラムのセクションに記述されているようにパスワードを指定する必要があります。

ASN1058E 変更適用プログラムがパスワード・ファイルをクローズできませんでした。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムがパスワード・ファイルをクローズできませんでした。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1059E 変更適用プログラムがパスワード・ファイルの “<line>” 行目で無効な構文を検出しました。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムがパスワード・ファイルで行を認識できませんでした。

ユーザーの処置: パスワード・ファイル内の構文エラーを訂正してください。プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関する章の変更適用プログラムのセクションを参照してください。

ASN1060E 一時作業ファイルの動的割り振りが失敗しました。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 動的割り振り中にシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1061E 無効なキーワード・パラメーターが指定されました。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 無効な呼び出しパラメーターが指定され、変更適用プログラムによって無視されました。

ユーザーの処置: 呼び出しパラメーターを訂正してください。プラットフォームの収集プログラムおよび変更適用プログラムに関する章の変更適用プログラムのセクションを参照してください。

ASN1063E サブスクリプション・セットでは**200** より多くのメンバーを持つことはできません。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: サブスクリプション数が最大許可数である**200** を超えました。

ユーザーの処置: サブスクリプションから余分なメンバーを削除してください。

ASN1066S 内部変更適用プログラム・エラーが発生しました。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 内部変更適用プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1067E 変更適用プログラムが更新競合を検出し、拒否されたトランザクションを補正しました。詳細は、作業単位表を参照してください。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: 複数のアプリケーションが異なる場所から、同じ表の同じ列を変更しました。いくつかのトランザクションは拒絶され、補正されました。

ユーザーの処置: 詳細は、ASN.IBMSNAP_UOW表を参照してください。

ASN1068E 参照保全違反のため変更適用プログラムはサブスクリプションを非活動状態にしました。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: ソース表からレプリカへのデータのコピー中に参照保全違反が検出されました。変更適用プログラムは終了し、サブスクリプションは非活動状態にされました。

ユーザーの処置: 参照保全エラーを訂正し、サブスクリプションを再活性化してください。

ASN1069E 変更適用プログラムは参照保全違反を検出して、リジェクトされたトランザクションを補正しました。詳細については作業単位表を参照してください。エラー・コードは“<error_code>”です。

説明: レプリカからユーザー表にデータをコピーしているときに、参照保全違反が検出されました。

ユーザーの処置: 詳細については作業単位表を参照してください。

ASN1070E 変更適用プログラムがターゲット表をロックできませんでした。

パラメーター:

- ERRCODE - “<error_code>”

- SQLSTATE - “<sqlstate>”
- SQLCODE - “<sqlcode>”
- SQLERRM - “<sqlerrm>”
- SQLERRP - “<sqlerrp>”
- サーバー名 - “<server_name>”
- 表名 - “<table_name>”

説明: 変更適用プログラムは更新の矛盾をチェックする前にターゲット表をロックできませんでした。

ユーザーの処置: 適用プログラムを再実行する前に、すべてのターゲット表が使用可能であることを確認してください。

ASN1071E 変更適用プログラムが一時作業ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: 変更適用プログラムが一時作業ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1072E 変更適用プログラムが **ASNDONE** プログラムを見つけることができませんでした。

説明: 変更適用プログラムがユーザー出口プログラム **ASNDONE** を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: **ASNDONE** プログラムが正しいディレクトリーに入っているかどうかを確認してください。

ASN1073E **ASNDONE** プログラムの実行に失敗しました。戻りコードは “<return_code>” です。

説明: ユーザー出口、**ASNDONE** の呼び出し中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

ASN1074E 変更適用プログラムが **ASNDLCOPY** プログラムを見つることができませんでした。

説明: 変更適用プログラムは現行の検索パス中に **ASNDLCOPY** プログラムを見つることができませんでした。

ユーザーの処置: **ASNDLCOPY** プログラムを検索パスに追加して、変更適用プログラムを再実行してください。

ASN1075E **ASNDLCOPY** プログラムが失敗しました。戻りコードは “<error-code>” です。

説明: **ASNDLCOPY** プログラムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、**ASNDLCOPY** プログラムによって生成されたログ・ファイルを参照してください。このログ・ファイルの名前は **asndlxxxx.log** です。

ASN1076E 変更適用プログラムが、**ASNDLCOPY** プログラムによって生成された結果ファイルの形式を読み取ることができません。

説明: **ASNDLCOPY** プログラムによって生成された結果ファイルが、予期されている形式ではありません。

ユーザーの処置: **ASNDLCOPY** プログラムを修正した場合は、変更したために形式が無効になったかどうか調べてください。変更を加えたために問題が生じたのではない場合は、結果ファイルにとって十分なスペースがマシンにあるか調べてください。

ASN1077S 変更適用プログラムが、ターゲット表の更新中に無効な **DATALINK** 列値を見つけました。エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: ソース表からフェッチされた行の **DATALINK** 列フィールドが無効です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN1097I 上のエラーのため変更適用プログラムが停止しました。

説明: 前に報告されたエラーによって変更適用プログラムが停止しました。

ユーザーの処置: このメッセージの前に報告されたエラーを修正してください。

ASN1100I ユーザーによって変更適用プログラムが停止されました。

説明: ユーザーによって **STOP** コマンドが実行され、変更適用プログラムが停止しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1109I **RI** 違反のため **Jet** データベースのすべての変更が適用されません。

説明: ソース表の参照保全 (**RI**) に違反した行レプリカ・ターゲット表に、最低でも 1 つの変更がありました。

ユーザーの処置: 詳細については、**IBMSNAP_ERROR_INFO** および **IBMSNAP_ERROR_MESSAGE** 表を参照してください。

ASN1110I 変更適用プログラムが **Jet** データベース “<db_name>” を作成しました。

説明: ターゲット・データベース <db_name> が作成されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1111I 変更適用プログラムが **Jet Database “<db_name>”** を **Design Master** に変換しました。

説明: 指定したデータベースは、すべての **Microsoft Jet Replicas** の作成元となる新しい **Design Master** です。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1115I **ODBC** 呼び出しが、**SQLCODE “<sqlcode>”**、**SQLSTATE “<sqlstate>”**、およびメッセージ “<message>” で正常に行われました。

説明: **ODBC** 呼び出しが正常に行われ、メッセージが発行されました。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1116E **ODBC** 呼び出しが失敗しました。**SQLCODE “<sqlcode>”**、**SQLSTATE “<sqlstate>”**、およびメッセージ “<message>”。

説明: **DB2 ODBC** ドライバーまたは **MS Jet ODBC** ドライバーのどちらかに対して **ODBC** 操作を実行しているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については、該当する **ODBC** 解説書を参照してください。

ASN1130E DAO 呼び出しの実行が失敗しました。 **ERRCODE** “<error_code>”、**DAO エラー番号** “<error_number>”、**DAO エラー・メッセージ** “<error_message>”。

説明: Microsoft Data Access Object (DAO) の実行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については、Microsoft DAO の解説書を参照してください。

ASN1135E ファイル操作が失敗しました。ファイル名は “<file_name>”、エラー・コードは “<error_code>” です。

説明: オープン、クローズ、読み取り、または書き込み操作が失敗しました。

ユーザーの処置: ユーザーにファイル操作の権限があることを確認してください。また、システムに十分なスペースがあることも確認してください。

ASN1200I **asncopy** プログラムが完了しました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1201S 一般メッセージ用のプレースホルダー - 内部エラー

説明: ASNCOPY プログラムで SQL エラーが起きました。

パラメーター:

- **ERRCODE** - “<error_code>”
- **SQLSTATE** - “<sqlstate>”
- **SQLCODE** - “<sqlcode>”
- **SQLERRM** - “<sqlerrm>”

- **SQLERRP** - “<sqlerrp>”
- **サーバー名** - “<server_name>”
- **表名** - “<table_name>”

ユーザーの処置: SQL についてはデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1202E **ASNCOPY** プログラムで **SQL** エラーが起きました。 **ERRCODE** は “<error code>”、**SQLSTATE** は “<sqlstate>”、**SQLCODE** は “<sqlcode>”、**SQLERRM** は “<sqlerrm>”、**SQLERRP** は “<sqlerrp>”、表名は “<table name>” です。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1203I **asncopy** プログラムは、ユーザーが停止しました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1204E **ASNCOPY** プログラムで不正なキーワードが検出されました。キーワードは “<keyword>” です。

説明: キーワードの入力が間違っています。

ユーザーの処置: 正しいキーワードを使用して、コマンドを再実行してください。

ASN1205E 収集プログラム・エラーのため、**ASNCOPY** プログラムが終了しました。

説明: 収集プログラムの実行の不整合によって **ASNCOPY** プログラムは終了しました。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別するには、収集プログラムによって作成されたトレース (ASN.IBMSNAP_TRACE)、または **ASNCOPY** プ

ログラム・エラー・ログを参照してください。

ASN1206E 変更適用プログラム・エラーのため、**ASNCOPY** プログラムが終了しました。

説明: 変更適用プログラムの実行の不整合によって **ASNCOPY** プログラムは終了しました。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別するには、適用追跡表または **ASNCOPY** プログラム・エラー・ログを参照してください。

ASN1207E “<subscription>” のサブスクリプションが活動化されていませんでした。

説明: 選択されたサブスクリプションは活動状態ではありません。

ユーザーの処置: そのサブスクリプションを活動状態にするか、または別のサブスクリプションを選択してください。

ASN1208E **ASNCOPY** プログラムが “<set>” セットのサブスクリプションを見つけることができませんでした。

説明: 選択されたサブスクリプションは存在しません。

ユーザーの処置: 正しいサブスクリプションを入力してください。

ASN1209E **asncopy** プログラムは、適格サブスクリプションを見つけることができませんでした。

説明: サブスクリプション名が指定されていないか、または指定された名前が無効です。

ユーザーの処置: サブスクリプション名をチェックして、正しい名前を入力してください。

ASN1210E 変更適用プログラム修飾子はキーワード **-q** の次に指定する必要があります。

説明: キーワード **q** の次に変更適用プログラム修飾子を指定する必要があります。

ユーザーの処置: キーワード **q** の次に変更適用プログラム修飾子を指定してください。

ASN1211E セット名はキーワード “<keyword>” の次に指定する必要があります。

説明: キーワード (**O**、**U**、**D**、または **S**) の次に設定名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: キーワードを指定し、次に設定名を指定して、**ASNCOPY** プログラムを再開してください。

ASN1212E 読み取り専用セット名 “<set_name>” がキーワード “<keyword>” の次に指定されました。

説明: キーワード **U** または **D** の後ろに読み取り専用設定名が指定されています。

ユーザーの処置: キーワード **U** および **D** にはレプリカだけを指定してください。

ASN1214E セット名 “<set_name>” が 2 回以上指定されています。

説明: 同じ設定名を複数のリストに指定できません。

ユーザーの処置: 各セット名がすべてのリストで 1 回だけ指定されたことを確認し、**ASNCOPY** プログラムを再開してください。

ASN1221I セット “<set_name>” が
“<time>” に “<number>” 行で正
常にリフレッシュされました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1222I セット “<set_name>” によって、
“<time>” に “<number>” 行の挿
入、“<number>” 行の削除、
“<number>” 行の更新が正常に行
われました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1223E 変更適用プログラムがセット
“<set_name>” をコピーできませ
んでした。

説明: 変更適用プログラムがコピー中に問題を検
出しました。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別するには、
適用追跡表または ASNCOPY プログラム・エラ
ー・ログを参照してください。

ASN1230S ASNCOPY プログラムがシステ
ム・エラーになりました。エラー・
コードは “<error_code>”、戻りコ
ードは “<return_code>” です。

説明: データベースで、asncopy プログラムのエ
ラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーをトレースし、IBM サ
ービス技術員にお尋ねください。

ASN1240E システム・エラーが検出されまし
た。エラー・コードは
“<error_code>”、戻りコードは
“<return_code>” です。

説明: データベースで、asncopy プログラムのエ
ラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーをトレースし、IBM サ
ービス技術員にお尋ねください。

ASN1242E SQL エラーが起きました。
ERRCODE は “<error_code>”、
SQLSTATE は “<sqlstate>”、
SQLCODE は “<sqlcode>”、
SQLERRM は “<sqlerrm>”、
SQLERRP は “<sqlerrp>”、表名
は “<table_name>” です。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ASN1243E ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表に
は、適格サブスクリプションがあり
ません。

説明: サブスクリプションが選択されていない
か、または変更適用修飾子が無効です。

ユーザーの処置: サブスクリプション名および変
更適用修飾子を確認してください。

ASN1244E ユーザーが設定を選択していま
せん。

説明: サブスクリプション・セットが
ASNMobil ダイアログから選択されていま
せん。

ユーザーの処置: ASNMobil ダイアログから少
なくとも 1 つのセットを選択してください。

ASN1303E ASNSAT プログラムが誤った呼び出しキーワードを検出しました。キーワードは “<keyword>” です。

説明: 不明なキーワード・パラメーターが指定されました。

ユーザーの処置: 正しいキーワード・パラメーターを指定してください。

ASN1304E 収集プログラム・エラーのため、ASNSAT プログラムが終了しました。

説明: 収集プログラムがエラーを返しました。

ユーザーの処置: 収集プログラム・ログ・ファイルでエラーを判別してください。

ASN1305E 変更適用プログラム・エラーのため、ASNSAT プログラムが終了しました。

説明: 変更適用プログラムがエラーを返しました。

ユーザーの処置: 変更適用プログラム・ログ・ファイルでエラーを判別してください。

ASN1309E デフォルト・コントロール・データベース名を見つけることができません。

説明:

サテライト:

データベース・ディレクトリーでデフォルトの制御サーバー SATCTLDB を見つけることができません。

非サテライト:

ユーザーによって DB2DBDFT にデフォルトの制御サーバー名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: -n キーワードの次に制御サーバー名を指定してください。

ASN1310E 収集プログラムの呼び出し中にASNSAT プログラムがシステム・エラーを検出しました。戻りコードは “<return_code>” です。

説明: asnccp の呼び出し中にオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 実行するパスに収集プログラムが存在することを確認してください。

ASN1311E 変更適用プログラムの呼び出し中にASNSAT プログラムがシステム・エラーを検出しました。戻りコードは “<return_code>” です。

説明: asnaply の呼び出し中にオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 実行するパスに変更適用プログラムが存在することを確認してください。

ASN1312E デフォルトのターゲット・サーバーDB2DBDFT が設定されていません。

説明: ユーザーによってターゲット・サーバー名が指定されておらず、ASNSAT プログラムが DB2DBDFT のデフォルトのデータベース名を判別できませんでした。

ユーザーの処置: -t キーワードの次にターゲット・サーバー名を指定してください。

ASN1314E ASNSAT がデフォルトの変更適用プログラム修飾子を取得しているときに **SQL** エラーが発生しました。**SQLSTATE** は “<sqlstate>”、**SQLCODE** は “<sqlcode>” です。

説明: ユーザーによって変更適用プログラム修飾子が指定されていません。ASNSAT プログラムが USER 特殊レジスターの検索中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: -q キーワードの次に変更適用プログラム修飾子を指定してください。

ASN1315E データベース・サーバーに接続できません。SQLSTATE は “<sqlstate>”、SQLCODE は “<sqlcode>” です。

説明: ターゲット・データベースへの接続を試みているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベースのメッセージ解説書を参照してください。

ASN1316E バインドの試行中に ASNSAT がエラーを検出しました。SQLSTATE は “<sqlstate>”、SQLCODE は “<sqlcode>” です。

説明: 自動バインドの試行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: バインド・ファイルが sqllib\bnd ディレクトリーに存在することを確認してください。

ASN1317E ASNSAT が ASN.IBMSNAP_REGISTER 表から CD_TABLE 値を取得しているときに SQL エラーが発生しました。SQLSTATE は “<sqlstate>”、SQLCODE は “<sqlcode>” です。

説明: レジスター表からの選択中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベースのメッセージ解説書を参照してください。

ASN1318E ASNSAT が DB2 ノード・タイプを取得しているときに SQL エラーが発生しました。SQLSTATE は “<sqlstate>”、SQLCODE は “<sqlcode>” です。

説明: ノード・タイプ構成パラメーターの検索中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベースのメッセージ解説書を参照してください。

第3章 CCA メッセージ

このセクションは、クライアント構成アシスタント・インターフェース (CCA) メッセージを含んでいます。メッセージは番号順にリストされています。

CCA2001W CCA2001W 指定されたファイル・パターンに一致するファイルが見つかりませんでした。

説明: 指定されたファイル・パターンに一致するファイルから読み取るために、要求が作成されました。パターンに一致するファイルがありませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたファイル・パターンを訂正し、処理を再試行してください。

CCA2002W TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。

説明: サービス名およびポート番号を TCP/IP サービス・ファイルに追加しようとしたのですが、失敗に終わったか、あるいはネットワーク情報サービスが使用されていて、ローカル・サービス・ファイルが更新されています。ポート番号は、サービス名の代わりにノードをカタログするのに使用されました。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリー項目内のポート番号の代わりにサービス名を使用したい場合は、そのノードを手操作でアンカタログしてからサービス名を使用して再度カタログしてください。サービス・ファイルも手操作で更新してください。ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性があります。NIS サーバーは手操作で更新してください。この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされています。

CCA2003W ディスカバー要求は、1 つまたは複数の DB2 システムに対してデータを戻しませんでした。

説明: ディスカバー要求は、要求された DB2 システムの 1 つまたは複数に対してデータを戻しませんでした。以下のいずれかが起きた可能性があります。

- ディスカバー要求が送信された管理サーバーがまだ始動していない。
- ディスカバー要求を実行しようとしてエラーが発生した。
- ディスカバー要求が送信された DB2 システムがディスカバリー用に構成されていない。

ユーザーの処置: ディスカバー要求が送信された DB2 システムがディスカバリーに使用できるか検証してください。ディスカバリーを使用できる場合、DB2 システム上の管理サーバーが実行中であることを確認してください。

CCA2004W 指定された nname 値は固有ではありません。

説明: 指定された nname 値は、ネットワークの別の NetBIOS アプリケーションですでに使用されています。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定した名前を使用するか、あるいは「いいえ」で要求を取り消します。「はい」を選択すると、既存の nname を使用しているアプリケーションに影響があります。

CCA2005W 指定されたソケット番号は固有ではありません。

説明: 示されているソケット番号は、ワークステーションの別の DB2 インスタンスによって使用されています。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したソケットを使用するか、あるいは「いいえ」で要求を取り消します。「はい」を選択すると、既存のソケットを使用しているアプリケーションに影響があります。

CCA2006W 示されているサービス名とポート番号の TCP/IP サービス・ファイルに、項目がすでに存在しています。

説明: 示されているサービス名とポート番号の TCP/IP サービス・ファイルに、項目がすでに存在しています。別のアプリケーションがこの項目を使用している可能性があります。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して既存の項目を使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、既存の項目を使用しているアプリケーションに影響があります。

CCA2007W 指定されたポート番号は異なったサービス名で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたポート番号を使用するエントリが入っていますが、関連サービス名が指定されたサービス名に一致しません。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したサービスを使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、新規項目がサービス・ファイルに追加されず、既存ポート番号を伴う項目を使用するアプリケーションに影響がある可能性があります。

CCA2008W 指定されたサービス名は異なったポート番号で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには指定されたサービス名を使用する項目が入っていますが、関連ポート番号が指定されたポート番号に一致しません。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したサービスを使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、サービス名を使用するサービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するように更新されます。これは、既存項目を使用するアプリケーションに影響がある可能性があります。

CCA2009W この要求はユーザーによって取り消されました。

説明: この要求はユーザーによって取り消されました。

ユーザーの処置: ありません。

CCA2010W APPC スタックの更新の試行に失敗しました。

説明: トランザクション・プログラム名を APPC スタックへ追加しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: APPC スタックは手操作で更新してください。トランザクション・プログラム名がスタックに追加されていない場合、サーバーへのリモート接続は不可能です。

CCA2011W サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

説明: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。データベース・マネージャー構成ファイルは指定されたサービス名で更新されています。

ユーザーの処置: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加は手操作で行ってください。項目がサービス・ファイルに追加されていない場合、このサーバーへのリモート接続は不可能です。

CCA2012W ディスカバリー要求は DB2 システムを検出しませんでした。

説明: DB2 システムのネットワークの検索の要求は正常終了しましたが、DB2 システムは見つかりませんでした。DB2 システムが見つからなかった理由として、以下のリストにあげるものが考えられます。

- ディスカバリーの検索が DB2 システムで使用できない (つまり、DB2 システムの管理サーバーの DBM 構成ファイルで DISCOVER = SEARCH が指定されない)。
- DB2 システムが、検索するためにクライアントに対して適切なディスカバリー・プロトコルで設定されていない (つまり、管理サーバー上の DISCOVER_COMM にはクライアントの DISCOVER_COMM に対して指定されたプロトコルに一致するものが入っていない)。
- ルーターまたはブリッジの別のサイドに DB2 システムがあり、ネットワークのルーターおよびブリッジが、ディスカバリー・パケットがフィルターがかけられ渡されないように、構成されている。

ユーザーの処置: DB2 システムを検索するディスカバリーのための可能な処置のリストです。

- 検索したいすべての DB2 システムの管理サーバーの DBM 構成ファイルで DISCOVER = SEARCH を設定する。
- クライアントがディスカバリー要求を発行するのに使用するプロトコルの入った管理サーバー用に、DISCOVER_COMM を設定する (つまり、クライアントの DISCOVER_COMM で指定されたプロトコルを少なくとも 1 つは含むように DISCOVER_COMM を設定する)。

- ネットワーク管理者が、(指定されたプロトコルに対して) ディスカバリー・パケットを渡すことができるように、ルーターあるいはブリッジの再構成を行う。

CCA2013W リモート・データベースが APPC の使用をカタログ化しましたがスタックは構成されませんでした。

説明: データベースをカタログ化する要求がある場合、APPC プロトコルを使用するノードをカタログすることになります。ノードは指定されたプロファイルから検索される記号宛先名を使用してカタログされました。APPC スタックは、スタックを構成するプロファイルに十分な情報がないか、あるいは APPC が DB2 システムで検出されないために構成されませんでした。他に一致するプロトコルがクライアントで検出されないため別のプロトコルを使用することができませんでした。

ユーザーの処置: APPC がクライアントにインストールされていない場合、クライアントとサーバーの両方で使用可能なプロトコルを使って、手でデータベースをアンカタログし、改めて再度カタログしてください。APPC がインストールされている場合、スタックがまだ構成されていない場合にはこれを構成してください。

CCA2014W 指定されたトランザクション・プログラム名は固有なものでないか、あるいはすでに構成されています。

説明: 指定されたトランザクション・プログラム名はすでに別の DB2 インスタンスあるいはこのサーバー上の DB2 以外のアプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したトランザクション・プログラム名を使用するか、あるいは「いいえ」で要求を取り消します。「はい」を選択した場合、トランザクション・プログラム名を並行して使用しているすべてのアプリケーションに対して APPC は最初に始動したアプ

リケーションに対してのみ作動可能です。APPC パラメーター値が指定されている場合、APPC スタックはこの値で更新されます。

CCA2015W 指定されたサービス名およびポート番号は、サービス・ファイルの別の項目で使用中です。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたサービス名とポート番号を使用している項目が入っていますが、これらは同一の項目では使用されていません。

ユーザーの処置: 「はい」を選択して指定したサービスを使用するか、「いいえ」を選択して要求をキャンセルしてください。「はい」を選択すると、サービス名を使用するサービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するように更新されます。これは、既存項目を使用するアプリケーションに影響がある可能性があります。

CCA3000C 内部エラーが起きました。理由コードは "`<reason code>`"です。

説明: 予期しない内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、エラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

CCA3001N 指定されたサービス名およびポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。

説明: ユーザーによって入力されたサービス名およびポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。サービス名は別のポート番号ですすでに使用されているか、またはポート

番号が別のサービス名ですすでに使用されているか、あるいはその両方の可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

CCA3002N I/O エラーが発生しました。

説明: ファイル位置のオープン、読み取り、変更、またはファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル名を指定した場合、ファイル名が有効で、ユーザーにこのファイルへのアクセス許可があるかどうか確認してください。また、ディスクおよびオペレーティング・システムのエラーも検査してください。

CCA3003N このファイルの形式は無効です。

説明: ファイルから読み取り中にエラーが発生しました。このファイルの形式は無効です。エラーとして考えられることは、以下のとおりです。

- ファイルに無効なデータが入っています。
- ファイルに予想されたデータが入っていない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

ユーザーの処置: ファイル名を指定してユーザーによってファイルが更新されていた場合は、ファイルを再生成して処理を再試行してください。問題が解決せず、ファイルがユーザーによって修正されていなかった場合、またはディスクカバー要求中に問題が発生した場合、トレース機能をオンにして問題の原因となったステップを再試行してください。問題が再発する場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- トレース・ファイル
- ファイル名が指定されている場合は、エラーを引き起こしたファイル

CCA3004N メモリーを割り振ろうとして失敗しました。

説明: メモリー割り振りの試行中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合、トレース機能をオンにして操作を再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- トレース・ファイル

CCA3005N ファイルに書き込み中にエラーが発生しました。

説明: プロファイルへ書き込み中にエラーを検出しました。このエラーはホスト・システムのパスワードを更新したときにも発生する可能性があります。エラーはファイル db2pem.log に記録されません。

ユーザーの処置: ファイルが常駐するファイル・システムがフルではなく、損傷を受けていないことを確認してください。また、オペレーティング・システムのエラーも検査してください。

CCA3006N 一致するコミュニケーション・プロトコルを検出ませんでした。

説明: クライアントで使用可能なプロトコルに、サーバーで使用可能なプロトコルに一致するものがないため、データベースをカタログできません。

ユーザーの処置: クライアントとサーバーに、一致するプロトコルが少なくとも 1 つ存在することを確認してください。一致するプロトコルがクライアントおよびサーバーの両方にインストールされている場合、そのプロトコルを検出できませんでした。この場合、データベースおよびノード

を手操作でカタログしてください。

CCA3007N 指定されたデータベースの別名が無効です。

説明: 指定されたデータベース別名の長さが無効か、無効な文字の入った別名があります。

ユーザーの処置: 別名を訂正し、要求を再実行依頼してください。

CCA3009N 指定されたアプリケーション・リクエスト名が無効です。

説明: 指定されたアプリケーション・リクエスト名の長さが無効か、無効な文字の入った名前があります。

ユーザーの処置: アプリケーション・リクエストを訂正し、要求を再実行依頼してください。

CCA3010N 指定されたパラメーター値の長さが無効です。

説明: アプリケーション・リクエストに指定されたパラメーター値の長さが無効です。

ユーザーの処置: パラメーター値を訂正し、要求を再実行依頼してください。

CCA3011N 指定されたターゲット・データベースが無効です。

説明: 指定されたターゲット・データベース名の長さが無効か、または無効な文字が入っています。

ユーザーの処置: ターゲット・データベース名を訂正し、要求を再実行依頼してください。

CCA3012N ODBC データ・ソースの追加に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースを追加する要求に失敗しました。このエラーはメモリー不足エラー、ディスク・フル条件、またはディスク障害によって起こる可能性があります。

ユーザーの処置: ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが存在するディスクがフルでなく、そのディスクが損傷を受けていないことを確認してください。さらに、多くのメモリーを使用しているアプリケーションがあれば、そのアプリケーションを終了し、操作を再実行してください。

CCA3013N ODBC データ・ソースの除去に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースの除去に失敗しました。このエラーはメモリー条件の範囲外またはディスク障害で起こる可能性があります。

ユーザーの処置: ほかのアプリケーションが多くのメモリーを使用している場合はアプリケーションを終了し、操作を再実行してください。

ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクが損傷を受けていないことも確認してください。

CCA3014N バインド要求を処理できません。

説明: 他のバインド操作がすでに実行中のため、バインド要求を処理できません。

ユーザーの処置: 進行中のバインドを完了または終了し、バインド要求を再実行依頼してください。

CCA3015N 指定されたアダプターが無効です。

説明: 指定されたアダプターが DB2 システムで検出されませんでした。

ユーザーの処置: 使用可能なアダプターを指定して、要求を再実行依頼してください。

CCA3016N 指定された nname 値は固有ではありません。

説明: 指定された nname 値は、ネットワークの別の NetBIOS アプリケーションですでに使用されています。

ユーザーの処置: 固有な nname を指定し操作を再実行してください。

CCA3017N ファイル名に指定されたパスが無効です。

説明: 指定されたファイルをオープンしようとしたが、指定されたパスが無効か、あるいは存在しません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが有効でありそのファイルに存在することを確認してください。

CCA3018N ユーザーは、このファイルにアクセスするために十分な権限を持っていません。

説明: 要求されたファイルにアクセスしようとしたが、ユーザーはこのファイルにアクセスするために必要な権限を持っていません。

ユーザーの処置: ファイルにアクセスするのに必要な権限があることを確認してください。

CCA3019N 指定されたファイル名はディレクトリです。

説明: 指定された名前がディレクトリであってファイルではないため、このファイルのアクセスの試行に失敗しました。

ユーザーの処置: 有効なファイル名を指定し、操作を再度試行してください。

CCA3020N 指定されたファイルへのアクセスの試行が共用違反のために失敗しました。

説明: 指定されたファイルへのアクセスの試行が共用違反のために失敗しました。排他モードで別のプロセスがファイルをオープンしている可能性があります。

ユーザーの処置: このファイルは排他モードで別のプロセスからアクセスされています。ほかのプロセスがこのファイルにアクセスしないように

し、操作を再度試行するか、別のファイル名を指定してください。

CCA3021N 変数 "`<variable name>`" を検索、追加、または DB2 プロファイル登録から除去しようと試みましたが、失敗しました。理由コードは "`<reason code>`" です。

説明: 指示された変数を検索、追加、または DB2 プロファイル登録から削除しようとしたが、失敗しました。理由コードは問題の原因を示します。理由コードは以下の通りです。

- -3 要求を処理するためのメモリーが不足
- -4 レジストリー内で変数が見つからない
- -7 この DB2 システムで DB2 プロファイル・レジストリーが見つからない
- -8 指定のインスタンスのプロファイルが見つからない
- -9 指定のノードのプロファイルが見つからない
- -10 UNIX レジストリーのファイル・ロックのタイムアウト

ユーザーの処置: 理由コード -3 の場合、大量のメモリーを使用しているアプリケーションを終了し、操作を再試行してください。理由コード -4 の場合、変数が DB2 プロファイル登録に設定されているかどうか確認してください。理由コード -7 の場合、DB2 プロファイル登録が作成されているかどうか確認してください。理由コード -8 および -9 の場合、指定されたプロファイルが作成されているかどうか確認してください。理由コード -10 の場合、別のプロセスによって登録ファイルがロックされていないかどうか確認してください。

CCA3022C ライブラリー "`<library name>`" から関数のアドレスの検索の試行に失敗しました。理由コードは "`<reason code>`" です。

説明: 指示されたライブラリーから関数のアドレスの検索の試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ライブラリーの正しいバージョンが使用されているかを確認してください。正しくないバージョンが使用されている場合は、正しいバージョンをインストールしてください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

CCA3023C ライブラリー "`<library name>`" のロードの試行に失敗しました。理由コードは "`<reason code>`" です。

説明: 指示されたライブラリーのロードの試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ライブラリーが常駐するパスにライブラリーのパスが入っているかを確認してください。また、ライブラリーをロードするのに使用可能なメモリーが十分あるのかも確認してください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

CCA3024C ライブラリー "<library name>" のアンロードの試行に失敗しました。理由コードは "<reason code>" です。

説明: 指示されたライブラリーのアンロードの試行に失敗しました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、内部エラーの原因となったステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

CCA3025N 指定された 1 つまたは複数の IPX/SPX パラメーターが無効です。

説明: 1 つまたは複数の入力パラメーターが無効です。エラーとして考えられるものは、以下のとおりです。

- fileserver、objectname および ipx_socket パラメーターの中で NULL となっているものがある。
- fileserver パラメーターあるいは objectname パラメーターのみが "*" に設定されている。
- fileserver または objectname パラメーター、あるいはその両方が Windows NT および Solaris に対して "*" に設定されていない。
- 指定された objectname 値は固有ではない。
- 指定された ipx_socket 値は固有ではない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲内にない。
- 指定された fileserver への接続に DB2 システムが失敗しました。

ユーザーの処置: 以下の項目について確認してください。

- fileserver、objectname および ipx_socket パラメーターが NULL となっていない。
- fileserver に指定された値が "*" の場合、objectname の値も "*" である。
- Windows NT および Solaris では fileserver および objectname は両方とも "*" になっている。
- objectname に指定された値が "*" でない場合、fileserver に登録されているすべての DB2 インスタンスおよび IPX/SPX アプリケーション登録に対してその値が固有でない。
- ipx_socket に対して指定された値が、DB2 システムのすべての DB2 インスタンスについて固有ではない。
- ipx_socket に対して指定された値が有効範囲内である。
- 指定された fileserver が存在し、実行中である。

すべてのエラーを訂正し、操作を再試行してください。

CCA3026N 使用可能な NetBIOS アダプターを検出できませんでした。

説明: NetBIOS アダプターをこの DB2 システムで検出できませんでした。このデータベースはカタログ化されません。

ユーザーの処置: データベースおよびノードを、アダプターが DB2 システムで使用可能な場合は手操作でカタログ化してください。

CCA3027N 指定されたポート番号は範囲外にあります。

説明: 指定されたポート番号は範囲外にあります。ポート番号に指定可能な最大値は 65534 です。

ユーザーの処置: 最大値を超えないポート番号を指定し、操作を再試行してください。

CCA3028N DB2INSTANCE 変数が無効です。

説明: DB2INSTANCE 環境変数が設定されていないか、管理サーバーのインスタンスに設定されていません。クライアント構成アシスタントは管理サーバー・インスタンスのもとでは実行できません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 変数を管理サーバー・インスタンス以外のインスタンスに設定してください。

CCA3029N ODBC データ・ソース設定の更新が失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースの設定を更新する要求が失敗しました。このエラーはメモリー不足エラー、ディスク・フル条件、またはディスク障害によって起こる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2CLI.INI ファイルが存在するディスクがフルでなく、そのディスクが損傷を受けていないことを確認してください。さらに、多くのメモリーを使用しているアプリケーションがあれば、そのアプリケーションを終了し、操作を再試行してください。

CCA3030N APPC を構成する値に欠落があります。

説明: APPC を使用しているデータベースをカタログする、あるいは APPC のサーバー・インスタンスを構成する要求が行われました。この要求は 1 つまたは複数のパラメーターが指定されていないため完了できませんでした。

ユーザーの処置: 必須パラメーターがすべて指定されているかを確認してから操作を再試行してください。

CCA3031N APPC スタックは選択したデータベースに対して構成されません。

説明: 選択されたデータベースはデータベース接続で APPC を使用しています。ただし、APPC

スタックは接続に対して構成されません。

ユーザーの処置: 選択されたデータベースに対して APPC スタックを構成してください。

CCA5000N 指定されたユーザー ID が無効です。

説明: 指定されたユーザー ID が存在しません。

ユーザーの処置: 正当なユーザー ID を入力して要求を再度実行してください。

CCA5001N 指定されたパスワードが誤っています。

説明: ユーザー ID に対して指定されたパスワードが誤っています。

ユーザーの処置: ユーザー ID に対して正当なパスワードを入力して要求を再度実行してください。

CCA5002N ユーザー ID に対するパスワードが期限切れです。

説明: ユーザー ID に対するパスワードが期限切れで更新できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してパスワードのリセットを行ってください。

CCA5003N 指定された新規パスワードが無効です。

説明: 指定された新規パスワードが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを入力し、要求を再実行してください。

CCA5004N 予期しないエラーが起きました。

説明: 指定されたユーザー ID に対するパスワードを更新しようとして予期しないエラーが起きました。追加情報が、インスタンス・ディレクトリーのファイル db2pem.log に書き込まれている可能性があります。

ユーザーの処置: さらに援助が必要な場合には、システム管理者に連絡してファイル db2pem.log からの情報を提供してください。

第4章 CLI メッセージ

この項では、コール・レベル・インターフェース (CLI) メッセージについて説明されています。メッセージは番号順にリストされています。

CLI0001W 切断エラーです。

説明: 切断中にエラーが起きました。ただし、切断は成功しました。

ユーザーの処置: クライアントとサーバー間の通信がまだ活動状態であるかを調べてください。

CLI0002W データが切り捨てられました。

説明: 指定された出力バッファーには、データを入れるために十分な大きさがありません。

ユーザーの処置: 出力バッファーのサイズを増やしてください。

CLI0003W 権限が取り消されませんでした。

説明: ステートメントが REVOKE ステートメントで、ユーザーは指定された権限を持っていませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0004W 接続ストリング属性が無効です。

説明: 接続ストリングで指定された接続ストリング属性が無効、またはサポートされていません。ただし、ドライバはデータ・ソースに接続可能でした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0005W オプション値が変更されました。

説明: ドライバは指定されたオプションの値をサポートしていないので、類似した値が代用されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0006W SQLCancel をクローズと同様に扱いました。

説明: SQLCancel 呼び出しが、SQL_CLOSE オプションによる SQLFreeStmt 呼び出しのように処理されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

CLI0100E パラメーターの数が正しくありません。

説明: SQLSetParam または SQLBindParameter に指定されたパラメーター数が、SQL ステートメントにあるパラメーター数よりも小さくなっています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定するか、SQLSetParam または SQLBindParameter を使用してパラメーター数を増やしてください。

CLI0101E ステートメントが結果セットを返しませんでした。

説明: 前のステートメントによって結果セットが返されていません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定してください。

CLI0102E 無効な変換です。

説明: アプリケーションのデータ・タイプと SQL データ・タイプ間の変換は、ドライバによってサポートされていません。

ユーザーの処置: ドライバーによってサポートされているデータ変換を再指定してください。

CLI0103E 列が多すぎます。

説明: SQLBindCol に指定された列数が、現在の結果セットの列数よりも多くなっています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定するか、または SQLBindCol にあるバインド済み列情報をリセットしてください。

CLI0104E データ・ソースに接続できませんでした。

説明: ドライバーが、データ・ソースとの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: サーバーが始動しており、クライアントとサーバーの間の通信が正しいことを確認してください。

CLI0105E 接続が使用中です。

説明: 指定された接続ハンドルはすでに使用されており、接続はまだオープンされています。

ユーザーの処置: SQLAllocConnect を使用して新しい接続を割り振り、接続を再試行するか、または既存の接続を終了してください。

CLI0106E 接続がクローズされています。

説明: 接続ハンドルによって指定された接続が、活動状態ではありません。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0107E トランザクション中に、接続に障害が起きました。

説明: 機能の実行中に接続に障害が起き、障害の前に COMMIT または ROLLBACK が実行されたかどうか判別できません。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0108E 通信リンクに障害が起きました。

説明: この機能の実行中に、ドライバーとデータ・ソース間の接続に障害が起きました。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0109E スtring・データの右側が切り捨てられました。

説明: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して指定されたデータが、パラメーター・マーカの使用に対して許可された最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

CLI0110E 無効な出力または標識バッファが指定されました。

説明: 返されたデータが NULL でしたが、指定された出力または標識バッファは NULL バッファでした。

ユーザーの処置: 非 NULL バッファを与えて出力または標識バッファを再指定し、操作をやり直してください。

CLI0111E 数値が範囲外です。

説明: 数値データが返されると、数値の整数部分が切り捨てられる可能性があります。

SQLPutData がパラメーターに対して複数回呼び出され、入力データは文字または 2 進数のタイプではありませんでした。

ユーザーの処置: 数値データが切り捨てられないようにするために、SQLBindCol または SQLGetData のいずれかを使用して、出力バインドを再指定してください。

SQLSetParam または SQLBindParameter によってそのパラメーターに指定されたアプリケーションのデータ・タイプが SQL_C_CHAR または SQL_C_BINARY ではない場合は、パラメーターに対して SQLPutData を呼び出さないでください。

CLI0112E 割り当てにエラーがありました。

説明: パラメーターまたは列について送信されたデータが、関連する表の列のデータ・タイプと一致しません。

ユーザーの処置: SQLBindCol または SQLGetData を使用して出力バインドを、あるいは SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して入力バインドを再指定してください。

CLI0113E 日付形式が無効です。

説明: 日付フィールドについて送信されたデータが無効です。

ユーザーの処置: 日付データを再指定してください。

CLI0114E 日時フィールドがオーバーフローしました。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプ・パラメーター、あるいは列について送信したデータが無効です。

ユーザーの処置: 日付、時刻、またはタイム・スタンプのデータを再指定してください。

CLI0115E カーソル状態が無効です。

説明: ステートメントが行に位置付けられていません。

ユーザーの処置: SQLFetch または SQLExtendedFetch を呼び出して、ステートメントを行に位置付け、操作をやり直してください。

CLI0116E トランザクション状態が無効です。

説明: SQLDisconnect が呼び出されたとき、実行中のトランザクションがありました。

ユーザーの処置: SQLDisconnect を呼び出す前に、SQLTransact を呼び出してください。

CLI0117E カーソル名が無効です。

説明: 無効な、または重複したカーソル名が SQLSetCursorName に指定されました。

ユーザーの処置: SQLSetCursorName を使用して、有効なカーソル名を再指定してください。

CLI0118E SQL 構文が無効です。

説明: 無効な、または誤った SQL ステートメントが指定されました。

ユーザーの処置: 有効な SQL ステートメントを再指定してください。

CLI0119E 予期しないシステム障害です。

説明: 機能の処理中に予期しないシステム障害が起きました。

ユーザーの処置: アプリケーションを再始動して、もう一度やり直してください。

CLI0120E メモリーの割り振りが失敗しました。

説明: ドライバーは、機能の実行または完了をサポートするために必要なメモリーを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: 要求された操作を完了するために十分なメモリーがシステムにあるかを確認してください。

CLI0121E 無効な列数です。

説明: iCol で指定された値が 0 より小さいか、結果セットにある列数より大きいか、または結果

セットで許可されている列の最大数を超過していません。

ユーザーの処置: iCol に有効な値を再指定してください。

CLI0122E プログラム・タイプが範囲外です。

説明: fCType に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: fCType に有効な値を再指定してください。

CLI0123E SQL データ・タイプが範囲外です。

説明: fSQLType に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: fSQLType に有効な値を再指定してください。

CLI0124E 引き数の値が無効です。

説明: 引き数に指定された値が無効です。NULL ポインター、無効な長さ、無効なオプションなどが原因として考えられます。

ユーザーの処置: 関数に渡された引き数をもう一度調べて、無効な引き数を判別してください。

CLI0125E 関数のシーケンス・エラーです。

説明: この関数が誤った順序で呼び出されました。

ユーザーの処置: アプリケーションでの順序を訂正して、操作をやり直してください。

CLI0126E この時点で無効な操作です。

説明: システムが実行しようとした操作は、この時点では無効です。

ユーザーの処置: 操作の順序を訂正して、操作をやり直してください。

CLI0127E トランザクション・コードが無効です。

説明: SQLTransact に指定されたトランザクション・オプションが、SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK ではありませんでした。

ユーザーの処置: SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK のどちらかを指定して、操作をやり直してください。

CLI0128E 予期しない、メモリーのハンドル・エラーです。

説明: メモリー・ハンドル・エラーです。

ユーザーの処置: 内部メモリー・バッファを処理中に、ドライバで予期しないエラーが起きました。アプリケーションを再始動してください。

CLI0129E これ以上ハンドルがありません。

説明: SQLAllocEnv、SQLAllocConnect、または SQLAllocStmt を呼び出しましたが、ドライバで使用できるハンドルはこれ以上ありません。

ユーザーの処置: SQLFreeEnv、SQLFreeConnect、または SQLFreeStmt を呼び出して、アプリケーションで使用していないハンドルを解放してください。

CLI0130E 使用できるカーソル名がありません。

説明: ステートメント上にオープン・カーソルがなく、カーソルが SQLSetCursorName で設定されていません。

ユーザーの処置: SQLSetCursorName を使用して、カーソル名を指定してください。

CLI0131E スtringまたはバッファの長さが無効です。

説明: 指定されたバッファの長さが無効です。

ユーザーの処置: 有効なバッファ長を指定してください。

CLI0132E 記述子タイプが範囲外です。

説明: 指定された記述子タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な記述子タイプを指定してください。

CLI0133E オプション・タイプが範囲外です。

説明: 指定されたオプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なオプション・タイプを指定してください。

CLI0134E 無効なパラメーター数です。

説明: パラメーター番号に指定された番号が 0 より小さいか、またはデータ・ソースによってサポートされているパラメーターの最大値を超えています。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター番号を指定してください。

CLI0135E 位取りの値が無効です。

説明: 指定された位取りの値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な位取り値を指定してください。

CLI0136E 関数タイプが範囲外です。

説明: 関数タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な関数タイプの値を指定してください。

CLI0137E 情報タイプが範囲外です。

説明: 情報タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な情報タイプの値を指定してください。

CLI0138E 列タイプが範囲外です。

説明: 列タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な列タイプの値を指定してください。

CLI0139E 有効範囲のタイプが範囲外です。

説明: 有効範囲のタイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な有効範囲タイプの値を指定してください。

CLI0140E Uniqueness オプション・タイプが範囲外です。

説明: uniqueness オプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な uniqueness オプション・タイプの値を指定してください。

CLI0141E Accuracy オプション・タイプが範囲外です。

説明: accuracy オプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な accuracy オプション・タイプの値を指定してください。

CLI0142E Direction オプションが範囲外です。

説明: direction オプションが無効です。

ユーザーの処置: 有効な direction オプションの値を指定してください。

CLI0143E 精度の値が無効です。

説明: 精度の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な精度の値を指定してください。

CLI0144E パラメーター・タイプが無効です。

説明: パラメーター・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター・タイプの値を指定してください。

CLI0145E フェッチ・タイプが範囲外です。

説明: フェッチ・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なフェッチ・タイプの値を指定してください。

CLI0146E 行の値が範囲外です。

説明: 行の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な行の値を指定してください。

CLI0147E Concurrency オプションが範囲外です。

説明: concurrency オプションは無効です。

ユーザーの処置: 有効な concurrency オプションの値を指定してください。

CLI0148E カーソルの位置が無効です。

説明: カーソルの位置が無効です。

ユーザーの処置: 有効なカーソルの位置の値を指定してください。

CLI0149E ドライバーの完了が無効です。

説明: ドライバーの完了が無効です。

ユーザーの処置: 有効なドライバー完了値を指定してください。

CLI0150E ドライバーが使用できません。

説明: この操作は有効ですが、ドライバーまたはデータ・ソースによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な操作を指定してください。

CLI0151E 保留中のデータはありません。

説明: SQLParamData または SQLPutData が呼び出されましたが、このステートメントで実行を保留中のデータがありません。

ユーザーの処置: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

CLI0152E スtring値ではありません。

説明: 関数は、String引数数が指定されることを予期しています。

ユーザーの処置: 関数に渡す引数数を再指定してください。

CLI0153E ファイル名の長さが無効です。

説明: ファイル名に指定された長さが無効です。

ユーザーの処置: 有効なファイル名の長さを指定してください。

CLI0154E 接続状態が無効です。

説明: 接続タイプを変更しようとしたのですが、接続または他の接続 (分散作業単位の場合) がすでにオープンされています。

ユーザーの処置: 接続がオープンされてから、接続タイプを変更しないでください。

CLI0155E ファイル名が長すぎます。

説明: ファイル名に与えられた長さが、サポートされている長さを超えています。

ユーザーの処置: 有効なファイル名の長さを指定してください。

CLI0156E ファイルのクローズ・エラーです。

説明: ファイルをクローズ中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0157E ファイルのオープン・エラーです。

説明: ファイルをオープン中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0158E ファイルの書き込みエラーです。

説明: ファイルの書き込み中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0159E ファイルの削除エラーです。

説明: ファイルを削除中に予期しない状態が起きました。

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0164E ヌル・タイプが範囲外です。

説明: 無効なヌルの値が指定されました。

ユーザーの処置: ヌル値を再指定してください。

CLI0165E 行にエラーがあります。

説明: 1 つ以上の行をフェッチ中にエラーが起きました。(関数は SQL_SUCCESS_WITH_INFO を返しました。)

ユーザーの処置: やり直してください。

CLI0166E PARMLIST 構文エラーです。

説明: ストアード・プロシージャのカタログ表の PARMLIST の値に、構文エラーがあります。

ユーザーの処置: このストアード・プロシージャの行を再指定してください。

CLI0167E 操作が取り消されました。

説明: SQLCancel がステートメントで呼び出されました。

ユーザーの処置: 操作を再実行依頼してください。

CLI0171E データベースが接続できませんでした。理由:

説明: データベース接続が失敗しました。「理由:」は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

ユーザーの処置: 問題を修正し、もう一度接続を試みてください。

CLI0172E データベースが接続できませんでした。構成を続けますか? 理由:

説明: データベース接続が失敗しました。「理由:」は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

ユーザーの処置: 問題を修正し、もう一度接続を試みるか、または構成を続けてください。

CLI0175E ODBC ドライバー・マネージャーが見つかりません。

ODBCINST.INI ファイルをオープンできません。

説明: Visigenic または Intersolv のいずれかの ODBC ドライバー・マネージャーがインストールされていません。ODBC ドライバー・マネージャーは、関連した ODBCINST.INI ファイルに

DB2 ODBC ドライバーを登録する前に存在していなければなりません。

ユーザーの処置: ODBC ドライバー・マネージャーをインストールして、このコマンドの実行をやり直してください。

CLI0176E ODBCINST.INI ファイルに書き込みできません。

説明: ODBC ドライバー・マネージャーで使われる ODBCINST.INI ファイルへの書き込み中にエラーが起きました。これは、オリジナルの ODBCINST.INI ファイルの形式が正しくないために起こることがあります。

ユーザーの処置: 既存の ODBCINST.INI ファイルを他の名前に変更して、このコマンドの実行をやり直してください。このエラーが続く場合には、技術サービス担当者に連絡してください。

CLI0177E DB2 OS/2 クライアントがインストールされている場所を判別することができません。

説明: DB2 OS/2 クライアントのインストール場所を見つけようとしている時にエラーが起きました。

ユーザーの処置: DB2 OS/2 クライアントが正しくインストールされていることをチェックしてください。

CLI0178I DB2 ODBC ドライバーが正常に登録されました。

説明: DB2 ODBC ドライバーは、インストール済みの ODBC ドライバー・マネージャーに登録されました。

ユーザーの処置: ユーザーはこの時点で、ODBC ドライバー・マネージャー・ベンダーによる適切な ODBC 管理者ツールを使用し、ODBC データ・ソースを構成することができます。

CLI0179E ダイアログ・ボックスを表示できません。

説明: DB2 ODBC ドライバーは、アプリケーションによって用意されたウィンドウ・ハンドルでダイアログ・ボックスをオープンすることができません。

ユーザーの処置: アプリケーションは正しいウィンドウ・ハンドルを渡さなければなりません。

CLI0180E ブックマークの値が無効です。

説明: 引き数 FetchOrientation は SQL_FETCH_BOOKMARK であり、SQL_ATTR_FETCH_BOOKMARK_PTR ステートメント属性の値が指すブックマークは正しくありません。

ユーザーの処置: 正しいブックマークの値を再指定してください。

CLI0181E 記述子索引が無効です。

説明: 列番号の引き数として指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 正しい列番号を再指定してください。

CLI0182W 小数点以下切り捨てです。

説明: ある列のデータが切り捨てられました。

ユーザーの処置: 特になし。

CLI0183E 関連ステートメントが準備されていません。

説明: 記述子ハンドルは IRD と関連があり、関連ステートメント・ハンドルが準備状態にありません。

ユーザーの処置: 記述子と関連のあるステートメントを準備してください。

CLI0184E インプリメンテーション行の記述子を修正できません。

説明: 記述子ハンドルは IRD と関連があり、IRD レコード・フィールドを更新できません。

ユーザーの処置: 正しい記述子およびフィールドを指定してください。

CLI0185E 自動割り振りの記述子ハンドルについて無効な使用です。

説明: SQLAllocHandle 機能を使用して割り振られた明示記述子のみ、この方法で使用することができます。

ユーザーの処置: 明示的に割り振った記述子を使用してください。

CLI0186E サーバーは取り消し要求を拒否しました。

説明: 通信エラーのため、サーバーが取り消し要求を拒否しました。

ユーザーの処置: 特になし。

CLI0187E 文字または 2 進数のいずれでもないデータが別々に送信されました。

説明: SQLPutData が、文字または 2 進数ではない列に対して複数回呼び出されました。

ユーザーの処置: 文字または 2 進数のいずれでもないデータに対して、SQLPutData を 1 回だけ呼び出してください。

CLI0188E null 値の連結を試行します。

説明: このパラメーターに対する SQLPutData の直前の呼び出しによって、長さが SQL_NULL_DATA の入力バッファーが指定されました。

ユーザーの処置: 正しい入力バッファーの長さで SQLPutData を呼び出すか、または SQLPutData

を正確な回数で呼び出していることを確認してください。

CLI0189E 記述子情報が矛盾します。

説明: 関連する記述子が、整合性検査で失敗しました。

ユーザーの処置: 記述子フィールドが正しいか、また互いに依存しているフィールドがすべて正しく設定されているかを確認してください。

CLI0190E 間接的な参照では無効な記述子です。

説明: 記述子ハンドルが無効であるか、または ARD の TYPE、OCTECT_LENGTH、DATA_PTR、INDICATOR_PTR、OCTECT_LENGTH_PTR フィールドに無効な値が入っています。

ユーザーの処置: 間接記述子ハンドルが正しいか、また据え置きフィールドが正しく設定されているかどうか確認してください。

CLI0191E 属性の値が無効です。

説明: 与えられた値は、指定した属性について正しくありません。

ユーザーの処置: 指定した属性に正しい値を使用してください。

CLI0192E 無効なデータベース別名が指定されました。

説明: DB2CAP コマンドの -d パラメーターに無効な、または存在しないデータベース別名を指定しました。

ユーザーの処置: 存在するデータベース別名を指定してください。現在カタログされているデータベースを判別するには、LIST DATABASE DIRECTORY コマンドを使用してください。

CLI0193E 構成ファイル <capture-file-name> が見つからないか、または使用中です。

説明: DB2CAP は、BIND パラメーター値として指定されたファイル <capture-file-name> をオープンすることができません。ファイルが存在しないか、または別のプロセスが独占して使用しています。

ユーザーの処置: 存在するキャプチャー・ファイルの名前を指定するか、またはファイルが別のプロセスから解放されるまで待機してください。

CLI0194E コマンド構文エラーです。正しい構文: `db2cap [-h | -?] bind capture-file -d db-alias [-u userid [-p password]]`

説明: コマンド名と同様、DB2CAP コマンドのパラメーターは、上の構文図に示されているように正しく入力しなければなりません。UNIX プラットフォームでは大文字小文字が区別されますが、Intel プラットフォームでは区別されません。パラメーターとその値の間には、スペースを少なくとも 1 つ入れなければなりません。

例: `-u userid` は正しい形式ですが、`-uuserid` は正しくありません。

構文図において、大括弧 ([]) はオプション・パラメーターを表しています。userid を指定しても password を省略した場合、パスワードを入力するよう要求されます。(パスワードを入力するとき、画面には表示されません。)

`-h` または `-?` パラメーターを指定すると、コマンドは構文ヘルプを表示し、その他のパラメーターは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドの構文がダイアグラムで説明されている形式になっているかどうか確認してください。

CLI0195E 無効なキャプチャー・ファイル: 有効なステートメント・グループを含んでいません。

説明: キャプチャー・ファイルには、有効なステートメント・グループが少なくとも 1 つ入っていないければなりません。

ユーザーの処置: 同じキャプチャー・ファイルを使用してアプリケーションを取り込み直し、SQL ステートメントが少なくとも 1 つ取り込まれたかどうか確認するか、あるいはキャプチャー・ファイルを編集して、ステートメント・グループを手操作で追加してください。ステートメント・グループを手操作で追加する場合、追加する SQL ステートメントのタイプに必須のキーワードをすべて指定してください。その後、要求をもう一度サブミットしてください。

CLI0600E 無効な接続ハンドルか、または接続がクローズされています。

説明: 操作よりも前に接続がクローズされました。

ユーザーの処置: 操作よりも前に接続クローズが呼ばれていないことを確認してください。

CLI0601E 無効なステートメント・ハンドルか、またはステートメントがクローズされています。

説明: 操作よりも前にステートメントがクローズされました。

ユーザーの処置: 操作の前にステートメント・クローズおよびステートメント接続クローズが呼ばれていないことを確認してください。

CLI0602E サーバー上のメモリー割り振りエラー。

説明: サーバー上でメモリーを割り振ることができません。

ユーザーの処置: 詳細については、データベース

管理者に DB2 JDBC ログ・ファイルの確認を依頼してください。プログラムを再実行してください。

CLI0603E CallableStatement get* メソッドは registerOutParameter なしで呼ばれました。**

説明: Get*** メソッドは registerOutParameter を使用して登録されなかったパラメーター上で呼ばれました。

ユーザーの処置: パラメーターに registerOutParameter 呼び出しを追加してください。

CLI0604E CallableStatement get* メソッドは呼び出しの実行をされずに呼ばれました。**

説明: CallableStatement get*** メソッドは呼び出し中の CallableStatement の実行よりも前に呼ばれました。

ユーザーの処置: どの CallableStatement get*** メソッドよりも前に CallableStatement の実行が呼ばれるようにしてください。

CLI0605E CallableStatement get* メソッドは registerOutParameter で使用されたタイプと一致しませんでした。**

説明: CallableStatement get*** メソッドは、このパラメーターの registerOutParameter で使用されたタイプと一致するものではありません。

ユーザーの処置: このパラメーターの registerOutParameter で使用されるタイプに一致する get*** メソッドに変更してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0606E 列が返した値は、get* メソッドに対応するデータ・タイプと互換性がありません。**

説明: CHAR/VARCHAR/LONGVARCHAR 列内の値は無効な数値です。

ユーザーの処置: 数値を返すメソッド以外の適切な get メソッドを使用してください。

CLI0607E 無効な日付時刻形式です。

説明: CHAR/VARCHAR/LONGVARCHAR 列内の値は、無効な日付 / 時刻 / タイム・スタンプ値です。

ユーザーの処置: getDate/getTime/getTimestamp 以外の適切な get*** メソッドを使用してください。

CLI0608E 変換が無効です。

説明: get*** メソッドはこの列タイプでは無効です。

ユーザーの処置: この列からデータを検索する有効な get*** メソッドを使用してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0609E 数値が範囲外です。

説明: この列の値は short または int 値として大きすぎるか、小さすぎ、変換によってデータが失われる原因となります。

ユーザーの処置: 値を調節できる get メソッドを使用してください。

CLI0610E 無効な列数です。

説明: 列数は 1 より小さいか ResultSet の総列数より大きい数です。

ユーザーの処置: 列数が 1 より小さくなく、総列数より大きくならないようにしてください。

CLI0611E 無効な列名です。

説明: 指定された列名は ResultSet に見つかりません。

ユーザーの処置: 列名が正しいか確認してください。

CLI0612E 無効なパラメーター数です。

説明: 指定されたパラメーター数が 1 より小さく、総パラメーター数より大きい数です。

ユーザーの処置: パラメーター数が 1 より小さくなく、総パラメーター数より大きくなるようにしてください。

CLI0613E プログラム・タイプが範囲外です。

説明: PreparedStatement/CallableStatement setObject で指定されたオブジェクトは有効なオブジェクト・タイプではありません。

ユーザーの処置: 設定されるオブジェクトが setObject で許可されているオブジェクト・タイプの 1 つであることを確認してください (JDBC 仕様を参照)。

CLI0614E ソケットへの送信エラー、サーバーは応答しません。

説明: サーバーへデータを送信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0615E ソケットからの受信エラー、サーバーは応答しません。

説明: サーバーからデータを受信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0616E ソケットのオープン・エラー。

説明: サーバーへのソケットをオープンできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0617E ソケットのクローズ・エラー。

説明: サーバーへのソケットをクローズできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0618E ユーザー ID またはパスワード (あるいは両方) が無効です。

説明: 指定されたユーザー ID/パスワードが無効です。

ユーザーの処置: ユーザー ID/パスワードが正しいことを確認して、プログラムを再実行してください。

CLI0619E 無効な UTF8 データ形式です。

説明: getUnicodeStream が DBCS 列でない列で呼ばれる場合、UTF8 形式からのデコードが行われますが、データは正しくデコードできません。

ユーザーの処置: 代わりに getString/getBytes/getAsciiStream/getBinaryStream を使用してください。

CLI0620E IOException、入力ストリームからの読み取りエラーです。

説明: 入力ストリームから入るデータを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイル長が正しく指定されているか確認してください。

CLI0621E サポートされていない JDBC サーバー構成です。

説明: ターゲット JDBC サーバー構成はサポートされていません。コントロール・センターを実行している場合、ターゲット JDBC サーバーはスタンドアロンの db2jd プロセス (db2jstrt によって開始されたもの) でなければならず、2 階層のネイティブ JDBC サーバーであってはなりません。

ユーザーの処置: コントロール・センターのターゲットとなるポートに対して db2jstrt を使うことによって、JDBC サーバーを再構成してください。

CLI0622E JDBC 管理サービス拡張機能へのアクセス・エラー。

説明: コントロール・センターは、JDBC サーバーとともに実行する管理サポート・サービスに依存しています。コントロール・センターは、それらの管理サービスを見つめることができずアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コントロール・センターの管理サービスが JDBC サーバーと共にインストールされていることを確認してください。

CLI0623E コード・ページ変換表がありません。

説明: コード・ページ変換表が見つかりません。

ユーザーの処置: 変換表 (ローカル・コード・ページから Unicode への変換と Unicode からローカル・コード・ページへの変換) がインストールされているかどうか、確認してください。

CLI0624E コード・ページ変換表がロードされていません。

説明: コード・ページ変換表をロードできません。

ユーザーの処置: JDBC アプリケーションに、コ

ード・ページ表へのアクセスがあり、表が破壊されていないかどうか、確認してください。

CLI0625E JDBC 1.22 の振る舞いを指定しました。JDBC 2.0 関数は使用できません。

説明: 呼び出そうとしている関数は、JDBC 2.0 で定義された新規の関数ですが、JDBC 1.22 の振る舞いが必要であると指定しました。

ユーザーの処置: JDBC 2.0 関数を使用したい場合には、JDBCVERSION キーワードを "122" に設定しないでください。設定をしないか、または "200" に設定します。

CLI0626E "<function-name>" は DB2 JDBC 2.0 ドライバーのこのバージョンではサポートされません。

説明: この機能は、DB2 UDB JDBC 2.0 ドライバーのこのバージョンではサポートされません。

ユーザーの処置: この機能を使用しないでください。

CLI0627E 結果セットはスクロールできません。

説明: 結果セットはスクロールできません。

ユーザーの処置: ステートメント / 結果属性設定を SCROLLABLE に設定しているか、確認してください。

CLI0628E パラメーター・セット "<set-number>" 番の "<parameter-number>" 番パラメーター・マーカーが設定されていません。

説明: この入力パラメーターに対して、set<data-type> メソッドが呼び出されていません。

ユーザーの処置: set<data-type> メソッドを呼び

出して、この入力パラメーターの入力値のデータ・タイプを指定してください。

CLI0629E "**<function-name>**" はこの列でサポートされません。

説明: この操作は、この列では呼び出されません。

ユーザーの処置: 別のメソッドに変更してください。

CLI0630E 識別されない結果セット・タイプ / 並列性 "**<number>**"。

説明: 結果セット・タイプまたは並列性に対して、無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 指定で提供された正しい値に変更してください。

CLI0631E 混合文字 / clob 列のランダム・アクセスがありません。

説明: ランダム・アクセスは、この混合文字列ではサポートされていません。

ユーザーの処置: データを順番に検索してください。

CLI0632E 無効なフェッチ・サイズです。0 から **maxRows** の間の値である必要があります。

説明: フェッチ・サイズは、0 以上で、**maxRows** 以下である必要があります。

ユーザーの処置: 値を修正してください。

CLI0633E 現在行がないときには **relative()** を呼び出すことができません。

説明: カーソルが有効行にない時に、相対メソッドが呼び出されました。

ユーザーの処置: まず、カーソルを有効行に移動

し、(absolute、next、など)、次に relative を呼び出します。

CLI0634E CLI 環境ハンドルの割り振りでエラーが起きました。

説明: 初期化中に SQLAllocEnv が失敗しました。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

CLI0635E **<function-name>** はアプレットでサポートされていません。

説明: **<function-name>** はアプレットでサポートされていません。

ユーザーの処置: アプレットで **<function-name>** を使用しないでください。

CLI0636E プロパティ "**<property-name>**" が **Context** オブジェクトに指定されていません。

説明: Java アプリケーション中で、Context オブジェクトのプロパティ "**<property-name>**" が指定されていません。

ユーザーの処置: Java アプリケーション中で、Context オブジェクトのプロパティ "**<property-name>**" が指定されているか確認してください。

CLI0637E **<object>** が見つかりません。

説明: **<object>** が存在しません。

ユーザーの処置: **<object>** が存在するかどうか確認してください。

CLI0638E **<object>** はすでに存在します。

説明: すでに存在するため、**<object>** を作成することができません。

ユーザーの処置: 操作が正しいかどうか確認してください。

CLI0639E **文字列が空です。**

説明: 空の文字列は許可されていません。

ユーザーの処置: 指定されている文字列を訂正してください。

CLI0640E **<object> をリストできません。**

説明: <object> をリストできません。

ユーザーの処置: <object> をリストできるかどうか確認してください。

CLI0641E **バッチに SELECT ステートメントがあります。**

説明: SELECT ステートメントはバッチでは許可されていません。

ユーザーの処置: バッチから SELECT ステートメントを除去してください。

CLI0642E **フェッチ指示が無効です。**

説明: 指定されたフェッチ指示はサポートされていません。

ユーザーの処置: フェッチ指示を訂正してください。

CLI0643E **バッチにステートメントがありません。**

説明: バッチの中にステートメントがありません。

ユーザーの処置: ステートメントをバッチに追加してください。

CLI0644E **absolute() 呼び出しへの行の値が無効です。**

説明: absolute() 呼び出しに指定されている行の値は無効です。

ユーザーの処置: 行の値を訂正してください。

CLI0645E **ドライバー “<class-name>” の登録エラー。メッセージ: “<message>”。SQLSTATE: “<sqlstate>”。SQLCODE: “<sqlcode>”。**

説明: DriverManager が DB2 JDBC ドライバーを登録できません。

ユーザーの処置: 返されたメッセージ、SQLSTATE、および SQLCODE に従って問題を訂正し、プログラムをもう一度実行してください。

CLI0646E **ライブラリー “<library-name>” が見つかりません。**

説明: “<library-name>” がライブラリー・パスに見つかりません。ライブラリー・パスは以下のオペレーティング・システムで環境変数によって定義されます。

AIX (Java 1.1)

LD_LIBRARY_PATH

AIX (Java 1.2 以降)

LIBPATH

HP-UX SHLIB_PATH

Linux LD_LIBRARY_PATH

OS/2 LIBPATH

Silicon Graphics IRIX

LD_LIBRARY_PATH

Solaris 稼働環境

LD_LIBRARY_PATH

Windows 32 ビット オペレーティング・システム PATH

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を正しく使用するために構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために sqllib/db2profile スクリプトが実行されていることを確かめてください。

CLI0647E DB2 環境ハンドルの割り振りエラー。戻りコード =
“<return-code>”。

説明: DB2 CLI 環境を設定できませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を正しく使用するために構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために sqllib/db2profile スクリプトが実行されていることを確かめてください。戻りコードの説明については、コール・レベル・インターフェースの手引きおよび解説書の SQLAllocHandle() の項を参照してください。

第5章 DBA メッセージ

各メッセージは接頭部 (DBA) とメッセージ番号から成るメッセージ ID を持っています。メッセージはメッセージ番号順にリストされます。これらのメッセージは、警告またはエラー状態が起きたときに、それを知らせるために、コントロール・センターおよび DBA ユーティリティによって生成されます。

DBA0000I 機能は正常に完了しました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA0001E メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。

説明: メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: いくつかのアプリケーションをクローズしてメモリーを解放してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA0002E 内部エラーが発生しました。予期しない入力を要求から受け取りました。

説明: 予期しない入力値を要求から受け取りました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0003E 表定義の矛盾が更新要求を処理中に検出されました。

説明: 表の更新要求を処理しているときに、最新の表定義とデータベースから取り出した表定義との間で不整合が検出されました。表定義について、管理ツールのコンテキストの外側で変更する

可能性があります。表は更新されません。要求を終了します。

ユーザーの処置: 「表」のポップアップ・メニューで「最新表示」を選択し、データベースから更新された表のリストを入手します。表の更新を再度行ってください。

DBA0004E データベースへの接続の妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。サーバーがダウンして現在保留中の接続が有効でなく、新規接続を獲得できない場合に問題が発生します。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続したいデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで実行中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0005E インスタンスへの接続の妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります

あります。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続したいデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで実行中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0006E 持続データベース接続またはインスタンス接続のハンドルを妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続したいデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで実行中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0007E 接続のコンテキスト・タイプを設定中に内部エラーが発生しました。

説明: アプリケーションで確立された接続に対するコンテキスト・タイプを設定中にエラーが発生しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0008E 内部エラーが発生しました。予期しないリストが要求されました。

説明: リストされるオブジェクトのタイプはアプリケーションの有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0009E 内部エラーが発生しました。予期しない要求タイプを受け取りました。

説明: 実行される要求のタイプはアプリケーションの有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0010E 内部エラーが発生しました。予期しないオブジェクト・タイプを検出しました。

説明: 処理されるオブジェクトのタイプはアプリケーションの有効なタイプと認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0011E オープン接続が多すぎます。

説明: オープンできるデータベース接続の最大数に達しました。要求を終了します。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- 他のデータベースから接続を切断して必要なデータベースに接続してください。切断したいデータベースのポップアップ・メニューから「切

断」を選択します。接続したいデータベースのポップアップ・メニューから「接続」を選択します。

- 構成パラメーターを更新して接続できる数を増やします。

DBA0012E 接続ハンドルを割り振ることができません。

説明: 接続ハンドルを割り振るときにエラーが起きました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0013W リスト可能なオブジェクトの最大数に達しています。

説明: アプリケーションでリスト可能なオブジェクトの最大数に達しています。最大数は 20,000 です。

ユーザーの処置: なし

DBA0014E 内部エラーが発生しました。予期しないドロップ・タイプを要求しました。

説明: ドロップされるオブジェクトのタイプはアプリケーションによって有効なタイプと認識されませんでした。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0015E 内部エラーが発生しました。ラッチ要求が失敗しました。

説明: ラッチ要求が失敗しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0016E 内部エラーが発生しました。アンラッチ要求が失敗しました。

説明: アンラッチ要求が失敗しました。アプリケーションを終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0017E 使用可能な情報がありません。管理ツールのログを参照してください。

説明: 表示できるエラー情報がありません。

ユーザーの処置: エラー情報の詳細は管理ツールのログを参照してください。

DBA0018E 管理サーバーが開始されていません。管理サーバーを開始し、このアクションを再度試行してください。

説明: 管理サーバーが開始されていません。

ユーザーの処置: ターゲット・システムで DB2ADMIN START コマンドを使用して管理サーバーを開始し、アクションを再度行ってください。

DBA0019E オブジェクト “<object_name>” は使用中です。あとでこのアクションを再度試行してください。

説明: アクションが要求されたオブジェクトあるいは関連オブジェクトは、すでに別のアクションで使用されています。オブジェクトあるいは関連オブジェクトに対する修正が進行中である可能性があります。

要求されたアクションは、現行のアクションと同時に実行できません。

例:

- 表が更新されている場合、同じ表の名前更新要求はウィンドウの更新を用いた対話が完了するまで許可されません。ただし、その表の内容をサンプルする要求は許可されます。

- 他のアクションが関連オブジェクト（データベース、表示、トリガーなど）で保留中の場合、オブジェクト（表など）をドロップする要求は許可されません。

アクションは実行されません。

ユーザーの処置: あとでオブジェクトが使用可能になったら、アクションを再実行してください。

DBA0020E 管理ツール・トレース・ファイルを開くときにエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルを開くときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0021E 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0022W 管理ツール・トレース・ファイルを閉じる際にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルを閉じる際にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0023W 管理ツール・ログ・ファイルを開くときにエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルを開くときにエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0024W 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されていて書き込みが可能であるか確認してください。

DBA0025W 管理ツール・ログ・ファイルを閉じる際にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルを閉じる際にエラーが発生しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0026E 内部管理ツール・エラーが発生しました。

説明: リカバリー不能エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0027E 内部エラーが発生しました。管理ツールでロックの競合が発生しました。

説明: 管理ツールでロックの競合が発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0028I 現行管理ツール・セッションは、復元不可能なエラーのために終了しません。

説明: 重大な内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0029 アプリケーション・プログラミング・インターフェース
“<program>” は理由コード
“<name>” を伴うオブジェクト
“<name>” のために正常終了しませんでした。もう一度やり直すか、またはローカル・サポート担当者に連絡してください。

説明: アプリケーション・プログラミング・インターフェースの呼び出しが完了しませんでした。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0030 データベース “<name>” に接続を
試行中にエラーが発生しました。

説明: 要求された操作はデータベース “<name>” への接続を必要とするため、完了できませんでした。接続は成功しませんでした。

ユーザーの処置: データベースがアクセス可能なことを確認してください。データベース・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用してデータベースへの明示的接続を試してください。接続でよくあるエラーの原因は、無効なユーザー ID およびパスワードです。正しいユーザー ID およびパスワードを指定したかどうかを確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0031 インスタンス “<name>” に接続しようとしてエラーが発生しました。

説明: 要求された操作は、インスタンス “<name>” との接続を必要とするため、完了できませんでした。接続は正常に終了しませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスがアクセス可能なことを確認してください。インスタンス・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用して明示的にインスタンスの接続を試行してしてください。接続でよくあるエラーの原因は、無効なユーザー ID およびパスワードです。正しいユーザー ID およびパスワードを指定したかどうかを確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0032 DLL “<name>” のロードを試行中にエラーが発生しました。

説明: ダイナミック・リンク・ライブラリー “<name>” が検出されなかったか、またはファイルの読み取り中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: DLL がインストールされており、壊れておらず、その場所が CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH パラメーターに指定されていることを確認してください。

DBA0033 “<name>” は、現在管理ツールによって使用されているためドロップできません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: ドロップするために選択したオブジェクト “<name>” またはドロップするために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。たとえば、ドロップしようとしているデータベースに対して ALTER 表ウィンドウをオープンしている可能性があります。この場合は、ALTER 表ウィンドウ

をクローズするまでデータベースをドロップできません。

ユーザーの処置: 選択したオブジェクトを使用しているすべてのオブジェクトをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

DBA0034 “<name>” は、現在管理ツールによって使用されているため除去できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: 除去するために選択したオブジェクト “<name>” または除去するために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。たとえば、除去しようとしているデータベースに対して、ALTER 表ウィンドウをオープンしている可能性があります。この場合は、ALTER 表ウィンドウをクローズするまでデータベースを除去できません。

ユーザーの処置: 選択したオブジェクトを使用しているすべてのオブジェクトをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

DBA0035 “<operation>” 処理は、オブジェクト “<name>” が現在管理ツールによって使用されているため実行できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: この操作 “<operation>” では、“<name>” が “<name>” 状態にあることが必要です。

ユーザーの処置: 選択されたオブジェクトで保留中の他のすべての操作が完了したことを確認して、コマンドを再試行してください。

DBA0036 データベース構成は正常に更新されました。変更が反映される前に、データベース “<name>” からすべてのアプリケーションを切断してください。すでにバックアップが行われている場合には、新しい構成値を反映させるために、データベースのバックアップをもう一度行うことをお勧めします。

説明: データベース構成の変更は成功しましたが、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、活動データベース構成は変更できません。すべてのアプリケーションが切断されると、データベースへの最初の接続時に、変更が反映されます。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断されたことを確認してから、そのデータベースに再接続してください。

DBA0037 インスタンス構成は正常に更新されました。たいいていの変更を有効化するには、事前にインスタンス “<name>” を停止しなければなりません。

説明: インスタンス構成は正常に更新されました。

構成パラメーター “dfidbpath” に対する変更は、すぐに反映されます。

残りの構成パラメーターの場合、すべてのアプリケーションがデータベースから切断され、しかもインスタンスの停止と再始動が成功しない限り、変更は反映されません。

ユーザーの処置: すべての変更を有効にするためには、すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、インスタンスを停止して再始動してください。

コントロール・センターのインスタンス・ポップアップ・メニューの停止アクションを選択して、インスタンスを停止できます。その後、コントロ

ール・センターのインスタンス・ポップアップ・メニューの開始アクションを選択して、インスタンスを開始できます。

DBA0039 現在データベース・オブジェクトがロックされているか、あるいはデータベース接続が使用されています。シャットダウンを続行しますか？

説明: コントロール・センターのデータベース・オブジェクトは、表の更新などのアクションが行われるとロックされます。他のアクションは、タスクを完了するために必要なデータベースへの接続を保守します。

ユーザーの処置: 「シャットダウンして続行」を選択すると、すべてのロックおよび接続が強制され、ツールがシャットダウンします。ただし、これを行うのは危険が伴います。タスクを介して特定のアクション（データベース復元など）を中途半端に強制実行すると、データベースは壊れた状態になることがあるからです。

まず DB2 ツールに戻り、未解決のデータベース操作がないことを確認するのが最も安全な方法です。

DBA0040 シャットダウンによってスナップショット・モニターが停止します。シャットダウンを続行しますか？

説明: スナップショット・モニターが 1 つまたは複数のデータベース・オブジェクトで開始しています。モニターを続行するには、DB2 ツールを実行しなければなりません。

ユーザーの処置: スナップショット・モニターがもう必要なくなった場合のみ、シャットダウンの続行を選択してください。

DBA0041 要求された操作は、DB2 アドミニストレーション・ツールが未承認アプレットであるため、実行されませんでした。

説明: ネットワークを経由してロードされたアプレットは、通常、未承認とみなされます。Web ブラウザーおよびアプレット・ビューアーが異なれば、大半のローカル・システム操作（たとえば、ファイルの読み取り、ファイルの書き込み、およびファイルの印刷）の入った未承認のアプレットに対する制限も異なることがあります。

ユーザーの処置: システム管理者に問い合わせ、この制限を緩和あるいはカスタマイズできるかどうかを確かめてください。

DBA0042 このデータベースへの接続に使用されたユーザー ID およびパスワードの設定をクリアしますか。

説明: この設定のクリアを選択した場合、ご使用のワークステーションからの本データベースへの未許可のアクセスを防ぐことができます。ただし、本データベースに次回接続するときには、正しいユーザー ID とパスワードを入力するよう要求されます。

ユーザーの処置: ユーザー ID およびパスワード設定をクリアするには、「はい」をクリックしてください。コントロール・センターを終了するまで、ユーザー ID とパスワードを保管するには、「いいえ」をクリックしてください。

DBA01001 コントロール・センターは、インスタンス "`<instance>`" のノード・ディレクトリー情報を更新していません。正しくない情報は訂正されません。現行要求は実行できません。

説明: コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出し新規の情報に基づいてインスタンスを再カタログしました。インスタンスのノード・タイプ値に応じて、コン

ロール・センターからの処置が異なります。

ユーザーの処置: 可能であれば、要求を再試行してください。

DBA0101W 例外リストで指定された項目は使用されません。続行しますか?

説明: 「例外が含まれるノード」チェック・ボックスの選択を解除しますが例外コンテナは「例外リスト」ダイアログで指定されます。

ユーザーの処置: 例外コンテナ・リストをクリックするには「はい」を「例外が含まれるノード」チェック・ボックスを再度選択するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA0102W インスタンス - "<instance>" に対するノード・タイプが検出できません。理由コード "<reason-code>"。

説明: Nodetype は、インスタンスが単一区分または区分化環境のどちらであるかを識別するデータベース・マネージャー構成パラメーターです。

検索機能によって nodetype の解析を行います。単一区分と区分済み環境のどちらであるかによってコントロール・センターでのアクションが異なるため、このようなインスタンスの区別が必要です。

理由コードが -1 の場合、検索機能は有効な DB2 インスタンスに対してカタログ済みのインスタンスをマップできません。

他のすべての理由コードは有効な SQL メッセージにマップを行います。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 検索機能には次の要件がありません。

1. DB2 管理サーバーは、セットアップ済みで、しかもカタログあるいはアクセスしたいリモート・インスタンスで実行されていなければなりません。

2. インスタンスがレジストリー・リストにあるかを確認してください。カタログしているホストから db2set -l を発行してください。
3. 次のグローバル DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。

- DB2SYSTEM
- DB2ADMINSERVER

4. 次のインスタンス DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。

- DB2COMM

5. 次の管理サーバー構成パラメーターが設定されている必要があります。

- DISCOVER = KNOWN and
DISCOVER_COMM = null

または

- DISCOVER = SEARCH and
DISCOVER_COMM = protocol (たとえば、
TCPIP)

db2set -all を入力し、以上のレジストリー値の設定を検証してください。

DBA0103W 構成パラメーター値に対して行った変更は使用されません。続行しますか?

説明: 別のデータベース区画が選択されましたが、構成パラメーターに対する変更は、以前選択された区画に対して適用されます。

ユーザーの処置: 「はい」をクリックして次のデータベース区画に対する構成パラメーターの値を獲得し、以前選択したデータベース区画に対して指定された変更を廃棄してください。

DBA0113E 例外コンテナが指定されましたが、ノードグループのすべてのノードが入っているわけではありません。次のノードに対して指定されたコンテナがありません：
"node-list"

説明: 指定の例外コンテナには共通コンテナがありません。共通コンテナが指定されていないため、nodegroup のすべてのノードで例外コンテナを定義する必要があります。

ユーザーの処置: 指定のノードにコンテナを追加するには「了解」をクリックしてください。

DBA0114W コントロール・センターは、インスタンス - "<instance>" に対する誤ったノード・ディレクトリー情報を検出しました。正しくない情報は訂正されます。コントロール・センターを終了して再始動してください。現行要求は実行できません。

説明: コントロール・センターがインスタンスで変更された nodetype を検出しました。

ユーザーの処置: コントロール・センターを終了して再始動してください。

DBA0115I このインスタンスに関するノード・ディレクトリー情報が訂正されました。インスタンス "<instance>" を更新してください。

説明: インスタンスに関してカタログされた情報が更新されているため、表示されたオブジェクトとアクションが正しくない可能性があります。

ユーザーの処置: インスタンス・ポップアップ・メニューから「最新表示」を選択してコントロール・センターを更新して要求を再度試行してください。

DBA0116I JDBC サーバーで処理できる操作はありません。しばらくしてからやり直してください。

説明: JDBC サーバーは、すでに存在している操作で使用されており、ユーザーの操作を実行することができません。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが既存の操作を完了するまで待機し、操作をやり直してください。

DBA1005W このアクションによってローカル・データベースとゲートウェイ・アプリケーションの両方が強制終了されます。続行しますか？

説明: インスタンス上のすべてのアプリケーションの強制終了を要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA1006E 無効なプラグイン拡張子がコントロール・センターで検出されました。

説明: ファイル "db2plug.zip" が壊れているか、または正しくセットアップされていません。

ユーザーの処置: コントロール・センターがアプリケーションとして実行されている場合、"db2plug.zip" が "CLASSPATH" 環境変数に組み込まれているかどうか確認してください。コントロール・センターがアプレットとして実行されている場合は、"db2plug.zip" が db2cc.htm HTML ファイルの "archive" タグに組み込まれているかどうか確認してください。問題が解決しない場合、DB2 システム管理者に問い合わせてください。

DBA1007W 無効なオブジェクト名またはパラメーターが入力されました。コントロール・センターはシステム・フォルダーをナビゲーター・ツリーのルートとして開始します。

説明: オブジェクトが無効であるという場合は、入力されたシステム、インスタンス、サブシステム、またはデータベース名が存在しないか入力された名前の組み合わせが無効であるために見つけられないことを示します。たとえば入力されたデータベース名が存在していても、指定されたシステム名にはない場合もあります。パラメーターが無効であるという場合は、-h、-i、-sub、または-d 以外のパラメーターが入力されたことを示します。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト名およびパラメーターを使用していることを確認してから、再試行してください。

DBA1100 “<number>.” MB より小さいメモリーがサーバーに占有されます。推奨はされていません。結果ページの現行値は推奨値と一致しています。

説明: サーバー専用のメモリー量が少ないため、パフォーマンス構成ウィザードは推奨の作成ができません。

「結果ページ」の推奨値は現行値と同じです。

ユーザーの処置: サーバー専用のメモリーが増加可能な場合、「サーバー・ページ」に移って、メモリーを増やしてから再試行してください。それ以外は、「取消」をクリックしてパフォーマンス構成ウィザードをクローズしてください。

DBA1102 パフォーマンス構成ウィザードがシステム・ファイルに推奨値を保管しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: パフォーマンス構成ウィザードは、インスタンス・ディレクトリーの下に CFG サブディレ

クトリーを作成できなかったか、または推奨値の入ったシステム・ファイルをインスタンス・ディレクトリーの CFG サブディレクトリーに保管できませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーが置かれたディスクがいっぱいではなく、このディスクに対して書き込みアクセスできることを確認してください。その後、「完了」をクリックして再試行してください。

DBA1104 インスタンスおよびデータベース構成パラメーターは正常に更新されました。変更が反映される前に、インスタンス “<name>” を停止してください。バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする場合があります。

説明: パフォーマンス構成ウィザードは、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができたなら、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DBA1107 パフォーマンス構成ウィザードがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: 想定外のエラーが起きました。パフォーマンス構成ウィザードを続行できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA1108 パフォーマンス構成ウィザードは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファ・プールのサイズを増やすことができませんでした。バッファ・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定の使用は、サーバーのページングを引き起こします。

説明: これは、指定されたワークロードを実行するのにサーバーには十分なメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

ユーザーの処置: パフォーマンス構成ウィザードの直前のページの選択を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、サーバーにメモリーを追加してください。

DBA1109 入力したトランザクション・レートが、接続済みアプリケーションの平均数の 10 倍以上になっています。トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。

説明: パフォーマンス構成ウィザードは、トランザクション・レートが妥当かどうかを検査します。トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが高くなりすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: トランザクション・マネージャ

ーを使用する場合、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、一分ごとに低い数値を使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

DBA1110 システム・データベース・ディレクトリーに項目がありません。

説明: 現在、このデータベース・ディレクトリーで記入項目がありませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1111 データベース別名 “<name>” は別のデータベースに存在しています。

説明: 新しいデータベースへのバックアップ・リカバリーを要求しましたが、指定したデータベース名は、既存のデータベースの別名としてすでに使用されています。

データベースを作成すると、データベース名を別名として使用してシステム・データベース・ディレクトリーにそのデータベースはカタログされますが、この別名は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 別名として使用されていないデータベース名を指定するか、またはバックアップを既存のデータベースにリカバリーするよう要求してください。

DBA1112 データベース別名 “<name>” がシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりませんでした。

説明: バックアップの既存のデータベースへのリカバリーが要求されましたが、この別名を持つデータベースは存在しません。

ユーザーの処置: 既存のデータベースを選択するか、またはバックアップを新しいデータベースにリカバリーすることを要求してください。

DBA1113 データベースに対し未確定なトランザクションが存在しているため再始動は失敗し、データベースの接続がドロップされました。

説明: 再始動操作で未確定トランザクションが見つかりました。そのため、データベースが不整合状態になりました。DBA ユーティリティーが、データベースに対する接続をドロップしました。

ユーザーの処置: 未確定トランザクションを解決してください。解決できない場合は、データベースが必要になるたびに、アプリケーションがデータベースを再始動する必要があります。

XA/DTP 環境で作業していて、データベースを使用していたトランザクション・マネージャーが使用できる場合は、これを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

そうでない場合は、コマンド行プロセッサを使用して、おのおのの未確定トランザクションを手動で完了してください。

DBA1114 データベース “<name>” はバックアップ保留状況にあります。

説明: この状態はデータベースの更新を妨げます。更新が行われる前に、データベースをバックアップする必要があります。

ユーザーの処置: データベースをバックアップしてください。

DBA1115 “<name>” の値を入力してください。

説明: 値が必要です。

ユーザーの処置: 値を指定して、要求を再試行してください。

DBA1116 “<parameter>” 値は “<minimum>” と “<maximum>” の間になくはありません。

説明: 値は示された範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: 指定された範囲内で値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1117 “<name>” の値が無効です。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1118 “<name>” 値は “<maximum>” を超えてはありません。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1119 “<name>” 値は “<minimum>” より小さい値にしてはいけません。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1121 システム “<system>” の要求 “<description>” のためにジョブが作成されました。ジョブ番号は “<number>” です。ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルのジョブ・ページを使用してください。

説明: ジョブの始動が成功しました。

ユーザーの処置: ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルのジョブ・ページを使用してください。

DBA1122 システム “<system>” の要求 “<description>” のためにジョブが完了しました。ジョブの状況および出力については、ジャーナルのジョブ・ページにあるジョブ “<number>” をご覧ください。

説明: ジョブが完了しました。

ユーザーの処置: ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルのジョブ・ページを使用してください。

DBA1123 ジョブ “<description>” が取り消されました。

説明: ユーザーの要求でジョブが取り消されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1126 データベースに表スペースがありません。

説明: データベースに表スペースがありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1127 表スペースはコンテナを持っていません。

説明: 表スペースはコンテナを持っていません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1128 コンテナが指定されていません。コンテナ作成のため「追加」を選択してください。

説明: 現在のリストには、新しいコンテナが入っていません。

ユーザーの処置: 「追加」を選択して、必要なフィールドに入力し、コンテナをリストに追加してください。

DBA1129 “<name>” の値を入力してください。

説明: 要求した操作は、“<name>” の値を入力した時のみ、実行されます。

ユーザーの処置: 値を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA1130 “<name>” 項目は “<maximum>” 文字を超えてはなりません。

説明: 入力文字は最大文字数を超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA1131 “<device>” は有効なテープ装置ではありません。

説明: オペレーティング・システムは、指定されたテープ装置を受け入れませんでした。ローカルのテープ装置は “¥¥.¥TAPEn” の形式で、n はドライブ番号 (0 が最初) を示します。

ユーザーの処置: テープ装置の有効な値を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA1132 テープ装置 “<device>” は “<blocksize>” のテープ・マーク・ブロック・サイズをサポートしません。

説明: コントロール・センターは、指定されたテープ装置がサポートしていないテープ・マーク・ブロック・サイズを使用します。

ユーザーの処置: コマンド行プロセッサを使用して、要求を実行依頼してください。サポートされているブロック・サイズを、DB2 INITIALIZE TAPE コマンドに指定してください。

DBA1133 テープ装置 “<device>” を処理中にエラーが発生しました。

説明: 指定されたテープ装置の操作中に、想定外のエラーが起きました。

ユーザーの処置: 要求を再実行依頼してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA1134 要求 “<description>” のためにジョブが作成されました。ただし、データベース管理サーバー (DAS) インスタンスにアクセスできなかったため、ジョブに関連していない項目をジャーナル内で作成できません。

説明: ジョブは正常に始動しましたが、ジョブの状況および出力はジャーナルで記録されません。これは DAS インスタンスを開始していない場合に起こります。

ユーザーの処置: ジャーナルでジョブの状況および出力を記録するため、バックアップ操作を開始する前に、最初に DAS インスタンスを開始してください。

DBA1135 要求 “<description>” のためにジョブが終了しました。

説明: ジョブが完了しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1136 データベース “<db>” が前方リカバリーで使用できないため、表スペース・レベルでのバックアップを実行できません。

説明: そのデータベースを順方向リカバリー用に使用可能にした場合のみ、表スペース・レベルのデータベースのバックアップができます。

ユーザーの処置: データベースを順方向リカバリー用に使用可能にするには、データベース構成パラメーターを LOGRETAIN または USEREXIT

を ON に設定して、既存データベースのアプリケーションの接続を切断して、データベースのオフライン・バックアップを取ってください。

DBA1137 “<name>” 値は “<minimum>” “<units>” より小さい値にしてはいけません。

説明: 入力された値は、最小 “<minimum>” “<units>” より小さいです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1138 “<name>” 値は “<maximum>” “<units>” を超えてはなりません。

説明: 入力された値は “<unit>” の “<maximum>” を超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1139 システム・カタログに少なくとも “<pages>” を割り振ってください。

説明: おおのの表スペース・コンテナには “<pages>” を超えてはなりません。おおののデータ・ページは 4 KB (キロバイト) を必要とします。したがって、1 MB (メガバイト) のストレージはこれらの 4 KB (キロバイト) ページの 256 と等しいです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1140 単一コンテナに “<pages>” より多くのページを割り振ることはできません。表スペースでは “<pages>” を超えてはなりません。

説明: おおののデータ・ページは 4 KB (キロバイト) を必要とします。したがって、1 MB (メガバイト) のストレージはこれらの 4 KB (キロ

バイト) ページの 256 と等しいです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1141 コンテナごとにも少なくとも “<pages>” ページを割り振ってください。

説明: 表スペース・コンテナの最小ページ数は表スペースのエクステント・サイズに関連します。それは エクステント・サイズの 5 倍 プラス 1 ページです。したがって、エクステント・サイズ 32 ページ (デフォルトの値) の表スペースに対して、単一コンテナの最小サイズは 161 ページです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1142 LOGARCHIVE データベース構成パラメーターは現在データベース “<name>” に対して ON に設定されています。すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるとすぐに、データベースはバックアップ保留状態になります。この状態はデータベースの更新を防ぎます。データベースは追加の更新が行われる前にバックアップされる必要があります。

説明: データベース・マネージャーがユーザーのおおののトランザクションのログ記録を開始する前に、データベース・マネージャーは、開始ポイントとして使用するためのフル・オフライン・データベース・バックアップを持っていない限りなりません。

ユーザーの処置: すぐにフル・オフライン・データベース・バックアップを作成してください。これが可能でない場合は、LOGARCHIVE パラメーターを OFF に設定してください。

DBA1143 少なくとも 1 つのアプリケーションがまだデータベースに接続されているため、即座にオフライン・バックアップを実行できません。あとで再試行するか、あるいはインスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから強制を選択して即時にデータベースに接続しているすべてのアプリケーションを切断することが可能です。

説明: オフライン・バックアップは選択されたデータベースに接続しているすべてのアプリケーションが停止するまで、実行されません。アプリケーション自身が切断するのを待機するか、あるいは即座に接続されているアプリケーションを強制的に切断してください。

ユーザーの処置: このアクションをあとで再試行するか、あるいは、接続されているアプリケーションを即座に強制切断するために、インスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから「強制」を選択してください。

DBA1144 指定したコンテナは、現在作動しているシステムにすでに存在しています。

説明: 表スペースはそれぞれ固有なものにしてください。

ユーザーの処置: システムに現在存在していないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

DBA1145 コンテナが複数回指定されています。

説明: 表スペースはそれぞれ固有なものにしてください。

ユーザーの処置: 新規コンテナ・リストに現在存在していないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

DBA1146 ユーザーおよび一時表スペースの両方で、同じコンテナを指定しました。

説明: 表スペースはそれぞれ固有なものにしてください。

ユーザーの処置: ユーザーあるいは一時表スペースのどちらかで、コンテナのファイル名あるいはディレクトリーを変更してください。

DBA1147 カタログおよび一時表スペースの両方で、同じコンテナを指定しました。

説明: 表スペースはそれぞれ固有なものにしてください。

ユーザーの処置: カタログあるいは一時表スペースのどちらかで、コンテナのファイル名あるいはディレクトリーを変更してください。

DBA1148 ユーザーおよびカタログ表スペースの両方で、同じコンテナを指定しました。

説明: 表スペースはそれぞれ固有なものにしてください。

ユーザーの処置: ユーザーあるいはカタログ表スペースのどちらかで、コンテナのファイル名あるいはディレクトリーを変更してください。

DBA1149 指定したコンテナに対する十分なフリー・スペースがありません。

説明: DMS コンテナが作成されると、割り振ったスペースの全部を使いきります。

ユーザーの処置: より多くのストレージがあるエリアにコンテナの場所を変更するか、あるいはコンテナの現在の場所の使用可能なストレージを増やすかしてください。

DBA1150E 同じ名前を持つ列がすでに存在します。

説明: 同じ名前を持つ列がすでに指定されているか、あるいは作成または更新中の表にすでに存在しているため、追加できません。

ユーザーの処置: 別の列名を指定してください。

DBA1151E 列は、一次キーまたは外部キーに関与します。

説明: 列は、一次キーまたは外部キーに関与しているため、除去されませんでした。

ユーザーの処置: 指定列が除去するのに正しい列かどうか、確認してください。表の指定列を除去するには、指定の列が参照されないように一次キーまたは外部キーを修正してください。

DBA1152E 同じ名前を持つ制約がすでに存在します。

説明: 同じ名前を持つ制約がすでに指定されているか、あるいは作成または更新中の表にすでに存在しているため、追加できません。

ユーザーの処置: 別の制約名を指定してください。

DBA1153E このオブジェクトはリストにすでに存在します。

説明: 指定オブジェクトはリストにすでに存在します。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: 別のオブジェクトを指定するか、あるいはウィンドウをクローズしてください。

DBA1154E 指定されたシステム、インスタンスおよびデータベースは、認識データベースを識別しません。

説明: システム、インスタンス、およびデータベース指定はアプリケーションで認められたデータ

ベースを識別しません。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: システム、インスタンス、およびデータベース名が正しいか確認してください。あるいは、アプリケーションにアクセスしたいシステム、インスタンス、およびデータベースを追加してください。

DBA1155E オブジェクト “<object_name>” はデータベースに存在しません。要求を実行できません。

説明: 指定オブジェクトはデータベースに存在せず、操作できません。要求を終了します。

ユーザーの処置: オブジェクトの更新リストを入力するために、オブジェクト・フォルダーのポップアップ・メニューから「最新表示」を選択してください。

DBA1156W この要求は警告を伴い終了しました。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 要求されたアクションは完了しましたが、1 つ以上の警告メッセージが出されました。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1157I ”<user_name>“ の ”<object_name>“ で権限または特権が授与または取り消されませんでした。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 要求されたアクションは完了しました。指定のオブジェクトでの指定のユーザーまたはグループの権限または特権に対するアクションは行われませんでした。

ユーザーの処置: なし

DBA1158I ロード中に読み取るレコード数は “<count>” です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は “<count>” です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は “<count>” です。ターゲット表にインポートされた行数は “<count>” です。削除されたコピー行数は “<count>” です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は “<count>” です。

説明: アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1159I エクスポートが完了しました。 “<item_description>” = “<count>”

説明: エクスポート・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1160I インポートが完了しました。インポート中に読み取るレコード数は “<count>” です。インポートが始まる前にスキップされたレコード数は “<count>” です。ターゲット表にインポートされた行数は “<count>” です。インポートされなかったレコード数は “<count>” です。削除されたコピー行数は “<count>” です。正常にインポートされ、データベースにコミットされたレコード数は “<count>” です。

説明: インポート・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1161I “<item_description>” =
“<count>”

説明: インポートあるいはエクスポートは指定された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1162I ロードが完了しました。ロード中に読み取るレコード数は“<count>”です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は“<count>”です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は“<count>”です。ターゲット表にインポートされた行数は“<count>”です。削除されたコピー行数は“<count>”です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は“<count>”です。

説明: ロード・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1163E 表はコピーされませんでした。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 表のコピー中に 1 つまたは複数の警告あるいはエラーが起きました。表はコピーされませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1164E 指定したターゲット表はすでに存在します。ソース表はコピーされませんでした。

説明: 表のコピー・アクションはターゲット表がすでに存在しているため、失敗しました。

ユーザーの処置: 新規のターゲット表を指定するか、あるいはすでに存在するターゲット表を削除

してアクションを再試行してください。

DBA1165E “<user_name>”の特権が授与または取り消されませんでした。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 指定ユーザーあるいはグループに対して、特権が授与されなかったか、あるいは取り消されました。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1166E ID “<identifier_name>”の引用符が対になっていません。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 示された ID に、対になっていない単一あるいは二重引用符があります。命名規則は引用符が対になっていることを必要とします。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: ID を訂正し、アクションを再試行してください。

DBA1167E ID “<identifier_name>”には組み込みブランクが含まれています。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 指定の ID にはブランク文字が入っています。これは通常 ID の命名規則に違反しています。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: ブランクを除去するか、ID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

DBA1168E ID “<identifier_name>”の最初の文字が無効です。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 指定の ID の先頭文字が無効です。通常 ID の命名規則に従ってください。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: 先頭文字を有効な文字に置換するか、ID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

DBA1169 インスタンスおよびデータベース構成パラメーターの更新が可能なコマンド・スクリプトが正常に作成されました。スクリプト・センターを使用してスクリプトの実行あるいはスケジュールを行ってください。

説明: 新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。スクリプト・センターをオープンして新規コマンド・スクリプトを表示、実行あるいはスケジュールしてください。

スクリプトの実行後、変更はインスタンスがサーバー上で停止するまで反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新しく保管されたスクリプトの表示、実行またはスケジュールについては、アイコン・バーからスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターをオープンしてください。

スクリプトの実行後、新規構成パラメーターを使用する準備ができたなら、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DBA1170 表スペースのページ・サイズとバッファークール・プールのページ・サイズは、同じでなければなりません。

説明: 作成したい表スペースと一致するページ・サイズの、既存のバッファークール・プールを選択してください。デフォルトのバッファークール・プールのデフォルトのページ・サイズは 4K です。表スペースに他のページ・サイズが必要な場合、一致するページ・サイズのバッファークール・プールがなければなりません。

ユーザーの処置: 「拡張表スペース」ウィンドウで表スペースのページ・サイズを変更してバッファークール・プールのページ・サイズに合わせるか、表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズのバッファークール・プールに変更します。必要なページ・サイズのバッファークール・プールがなければ、「バッファークール・プールの作成」ウィンドウで作成できます。

DBA1350I 索引ウィザードが索引を推奨できませんでした。「計算」ページで時間制限をより長く設定して、推奨される索引の計算を再試行してください。

説明: 最長検索時間が短すぎたため、索引ウィザードが索引を推奨できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 索引ウィザードの「計算」ページに設定する時間制限を長くするか、または時間制限を設定しないでください。
2. 索引ウィザードをもう一度実行してみてください。

DBA1351I 索引ウィザードが索引を推奨できませんでした。「制限」ページでサイズ制限をより大きく設定して、推奨される索引の計算を再試行してください。

説明: すべての索引の最大論理サイズが小さすぎたため、索引ウィザードが索引を推奨できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 索引ウィザードの「制限」ページに設定する最大論理サイズを大きくするか、または最大論理サイズを設定しないでください。
2. 索引ウィザードをもう一度実行してみてください。

DBA1352I 索引ウィザードが、ワークロードのパフォーマンスを改善する索引を推奨できませんでした。

DBA1353W ワークロードに 1 つの SQL ステートメントのみを指定しました。データベースで他の活動が行われている可能性があります。他の理由のためには必要ではないことを確認しない限り、索引をドロップしないでください。

説明: ワークロードに 1 つの SQL ステートメントしか指定しなかったため、データベースに対する活動のすべてを表現していない可能性があります。

索引ウィザードの「ドロップ」ページには、この SQL ステートメントで推奨されなかった既存の索引すべてがリストされています。

ユーザーの処置: 他の理由のためには必要ではないことを確認しない限り、索引をドロップしないでください。

DBA1500 ローカル・システム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1501 ローカル・システム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1502 不明なシステム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: 未知のシステム・オブジェクトは、任意の既存のシステムに関連していないと認識された孤立インスタンスが見つかった場合のみ、ツリーで表示されます。このオブジェクトは、必要時に応じて自動的に表示されるため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。ただし、オブジェクトをツリーで表示するため必要性を除去したい時は、次のステップに従ってください。

- 未知のシステム・オブジェクトを拡張して、すべての孤立インスタンスを表示してください。
- 必要な場合、孤立インスタンスを含むため、コントロール・センターに新規システム・オブジェクトを追加してください。

- 必要な場合、変更アクションを使用して、残りの任意の孤立インスタンスでシステム名を更新してください。
- 未知のインスタンス・オブジェクトもまた表示される場合、ユーザーが任意の既存のインスタンスに関連が認識されていない孤立データベースを持つことを意味します。孤立が表示されなくなるまでインスタンスを追加するか、またはデータベースを更新することでオブジェクト表示の要求を除去してください。

DBA1503 不明なシステム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: 未知のシステム・オブジェクトは、任意の既存のシステムに関連していないと認識された孤立インスタンスが見つかった場合のみ、ツリーで表示されます。このオブジェクトは、必要に応じて自動的に表示されるため、また変更できない特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを変更できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1510 システム名を指定してください。

説明: 新規システム・オブジェクトを追加する前に、システム名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1511 指定したシステム名はすでに使用されています。

説明: 指定されたシステム名は、ツリーの別のシステム・オブジェクトに使用された名前と一致しています。システム名はコントロール・センター内で固有でなければなりません。また、それらは大文字小文字の区別を必要とします。「ローカル」または「不明」をシステム名として使用することはできません。それは、この 2 つは、ローカルおよび不明のシステム・オブジェクトで使用

するため、予約されているためです。混乱を避けるため、ツールでは使用することができませんが、既存のインスタンス名またはデータベース名をシステム名として使用しないようにしてください。

ユーザーの処置: 固有のシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1520 このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムは“<newos>”であると検出されていますが、ローカル情報では“<oldos>”であると表示します。即時にローカル情報を更新し、正しいオペレーティング・システムのタイプを反映しますか?

説明: 新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。その後、実際の接続がリモート・システムに対して実行されたとき、真のオペレーティング・システム・タイプが報告し直されます。オリジナルのオペレーティング・システム・タイプが不正に設定されたため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1521 このシステム・オブジェクトのバージョン・タイプは“<newtyp>”であると検出されていますが、ローカル情報では“<oldtyp>”であると表示します。即時にローカル情報を更新し、正しいバージョン・タイプを反映しますか?

説明: 新規のシステム・オブジェクトを追加するとき、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが

自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際の接続がリモート・システムに対して行われたとき、(DB2 V2 のような前のリリースの可能性がある) 真のサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1522 このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムとサーバー・バージョン・タイプは、それぞれ “<newos>” および “<newtyp>” であると検出されていますが、ローカル情報では “<oldos>” および “<oldtyp>” であると表示されています。即時にローカル情報を更新し、これらの正しい値の設定を反映しますか？

説明: 新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。また、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際接続がリモート・システムに対して行われたとき、真のオペレーティング・システム・タイプおよびサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この情報のオリジナル設定が不正のため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1533E サーバー・プロファイルをエクスポートできません。

説明: ターゲット・ファイル・システムに、エクスポート操作を完了するための十分なディスク・スペースがない可能性があります。

ユーザーの処置: ターゲット・ファイル・システムのディスク・スペースを解放して、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、DB2 システム管理者に問い合わせてください。

DBA1540 活動状態のローカル・インスタンスは除去が許可されていません。

説明: 活動状態のローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1541 活動状態のローカル・インスタンスは変更が許可されていません。

説明: 活動状態のローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特定のプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを除去できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1550 インスタンス名を指定してください。

説明: 新規システム・オブジェクトを追加する前に、インスタンス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1551 指定したインスタンス名はすでに使用されています。

説明: 指定されたインスタンス名は、ツリーの別のインスタンス・オブジェクトに使用された名前と一致しているか、またはツリーのシステム・オブジェクトによって使用されています。インスタンス名はコントロール・センター内の固有なもので、いつも大文字である必要があります。さらに、システム・オブジェクトは、(選択されたシステム名の短形のインスタンス名)自動的に生成されたインスタンス名を使用してプロトコル情報を保管します。インスタンス名に対して、'LOCAL' の名前または現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を使用できません。

ユーザーの処置: 別のインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1552 リモート・インスタンスを指定してください。

説明: 新規インスタンス・オブジェクトを追加する前に、リモート・インスタンスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでリモート・インスタンスを指定して、アクションを再試行してください。

DBA1560 宛先名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルの宛先名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドで宛先名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1561 ファイル・サーバーを指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのファイル・サーバーを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでファイル・サーバーを指定して、アクションを再試行してください。

DBA1562 ワークステーション名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのワークステーション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでワークステーション名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1563 ホスト名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのホスト名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでホスト名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1564 サービス名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのサービス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでサービス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1565 コンピューター名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのコンピューター名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでコンピューター名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1566 インスタンス名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのインスタンス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1567 このアクションまたは機能は、このインスタンス・タイプまたは関連するシステムでは選択可能ではありません。

説明: 選択されたアクションまたは関連機能は現在、そのアクションまたは機能が開始されたインスタンスのタイプについてはサポートされていません。ただし、サテライト・エディションなど、インスタンス・タイプの全機能がサポートされないわけではありません。

ユーザーの処置: このインスタンス・タイプで使用できる機能について説明されている文書を参照してください。

DBA1568W データベース接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を確立しませんでした。

説明: 同期点 2 フェーズ接続タイプを使用して、データベースへの接続が試みられました。接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続

を作成できませんでした。このデータベース接続が含む複数サイトの更新は成功しません。

ユーザーの処置: 複数サイトの更新のシナリオが、ご使用の環境用に正しく構成されているか、およびインスタンスの座標が、構成の完了後に再始動しているかどうか、チェックしてください。DB2 の同期点マネージャーが使用されている場合、これが正常に開始されているかどうか調べるには、db2diag.log をチェックしてください。

DBA1569E リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。

説明: リモート・インスタンス名は任意指定のパラメーターで、指定されていませんでした。このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

ユーザーの処置: 「インスタンス変更」ウィンドウを呼び出して、リモート・インスタンスの名前を指定します。

DBA1570E このシステムの DB2 管理サーバーが定義されていません。

説明: この操作ではシステムの管理サーバーに接続する必要がありますが、そのインスタンス名が指定されていません。

ユーザーの処置: ターゲット・システムで変更アクションを呼び出して、インスタンス名、オペレーティング・システム、およびその他のプロトコル・パラメーターを指定します。

DBA1571W ローカル・システムの名前が DB2SYSTEM 環境変数と一致しません。

説明: ローカル管理ノードのシステム名が DB2SYSTEM 環境変数の値と異なります。

ユーザーの処置: 次の 3 つのオプションがあります。

- DB2SYSTEM 環境変数の値を、ローカル管理ノードのシステム名と一致するように変更する。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、自動的に再カタログするコントロール・センターを呼び出す。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、DB2SYSTEM 環境変数の値と一致するシステム名で再カタログする。

DBA1572E 指定されたインスタンス名が無効です。

説明: 指定されたインスタンス名が無効です。インスタンス名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。また、インスタンス名は他のカタログ・インスタンスの名前と一致しないものにしてください。

ユーザーの処置: インスタンス名に異なる値を指定します。

DBA1573E このアクションは選択されたシステムでは使用できません。

説明: コントロール・センター・アクションの中には、ターゲット・システムで管理サーバーが使用可能であることが前提となっているものもあります。選択されたシステムには管理サーバーがありません。要求されたアクションは、このシステムでは使用できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1580 新規データベース・オブジェクトは不明システムへの追加が許可されていません。

説明: 未知のシステム・オブジェクトは、任意の既存のシステムに関連していないと認識された孤立インスタンスが見つかった場合のみ、ツリーで表示されます。ツールは、可能な限り新規孤立の作成を妨げるため、未知インスタンスで新規孤立を追加できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA1581 データベース名を指定してください。

説明: 新規データベース・オブジェクトを追加する前に、データベース名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドでデータベース名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1582 別名を指定してください。

説明: 新規データベース・オブジェクトを追加する前に、別名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドで別名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1583 指定された別名はすでに使用されています。

説明: 指定した別名は、ツリーの別のデータベース・オブジェクトに使用された別名と一致しています。データベース別名はコントロール・センター内の固有なもので、いつも大文字である必要があります。

ユーザーの処置: 固有の別名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1590 “<dbase>” データベースは DB2 V5 よりも前の DB2 のバージョンを使用して作成されました。このデータベースが移行するまで限られた機能のみが許可されます。

説明: DB2 V5 タイプ・システム・オブジェクト下で見つかったすべてのデータベースは最初 DB2 V5 データベースとして想定されます。このデータベースは実際に、まだ DB2 V5 にマイグレーションしていないバック・レベル・データベースだと分かりました。このデータベースにアクセスはできますが、実際にマイグレーションするまで

に、限られた機能のバック・レベルだけが使用可能です。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA2000E ジョブ記述が指定されていません。

説明: ジョブの記述は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにジョブ記述を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA2001E 選択に対する時間数が指定されていません。

説明: 選択に対する時間数は必須情報です。

ユーザーの処置: 時間入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2002E 選択に対し、少なくとも 週 の 1 日 を選択してください。

説明: 定期的ジョブをスケジュールするには、ジョブに対して少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

ユーザーの処置: 定期的ジョブをスケジュールするときは、少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

DBA2003E 無効な日付を指定しました。

説明: 指定された日付が無効です。指定された日付が過ぎた可能性があります。

ユーザーの処置: 有効な日付を入力してください。

DBA2004E 指定された日付または時刻、または日時の組み合わせが無効です。

説明: 次の実行日時を計算できないため、ジョブがスケジュールされません。可能なエラーとしては、実行されるジョブに対して指定された時刻が過ぎた時刻だったことです。スケジュールされたジョブを実行する管理ホストでの日時の組み合わせ

が有効でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な日時組み合わせを入力してください。

DBA2005E スクリプト名が指定されていません。

説明: スクリプト名は必須情報です。

ユーザーの処置: スクリプト・ファイル名を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA2006E 注釈が指定されていません。

説明: ジョブ完了後に注釈を記録する指示があったが、注釈入力フィールドが空です。

ユーザーの処置: 注釈を入力するか、または「注釈を結果とともに表示」チェック・ボックスを消去してください。

DBA2007E 無効なスクリプト名を指定しました。

説明: コマンド・スクリプトはファイル・システムでファイルとして保管されています。スクリプト・パスは最大 255 バイトまでです。スクリプト名のファイル名部分は最長 8 バイトです。指定された拡張子は 3 バイトまでです。スクリプト名には空白を含んではなりません。たとえば、有効なスクリプト名は次の通りです。

```
j:\script\new.cmd c:\data\test\crtdb.bat
```

ユーザーの処置: 有効なスクリプト名を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA2008I ジョブ “<job id>” は正常に作成されました。

説明: 新規ジョブが正常にスケジュールされました。新しく作成されたジョブの表示については、ジャーナル・ジョブ要約を参照してください。

ユーザーの処置: 新しく作成されたジョブの表示については、アイコン・バーのジャーナル・アイ

コンを選択して、ジャーナル・ジョブ要約を参照してください。

DBA2009E システム・エラーが発生しました。スケジューラー **InfoBase** 呼び出しが失敗しました。RC = “<return code>”。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2010E スケジューラー・サービスが実行されていません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: ジョブ・スケジューラーまたはスクリプト・センターに関連する任意のアクションを行うには、スケジューラー・サービスが実行中でなければなりません。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

DBA2011E システム・エラーが発生しました。スケジューリング・タイプ (**DBA** または **PGM**) が無効です。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2012E システム・エラーが発生しました。OS エラーを検出しました。RC = “<return code>”。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2013E ジョブ ID キーが見つかりませんでした。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2014E システム・エラーが発生しました。ジョブの状況を変更できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2015E システム・エラーが発生しました。クライアントでのメモリー割り振りに異常がありました。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決され

ない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2016E システム・エラーが発生しました。走査ハンドルが無効です。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2017I 本当に、選択されたジョブを除去しますか？

説明: 選択したジョブの除去を指定しました。選択したジョブを除去して継続するか、あるいは要求を取り消すかを今再確認できます。

ユーザーの処置: 選択したジョブを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2018I 本当に、選択された保管スクリプトを除去しますか？

説明: 現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去して、そのあと要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択したスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2019E 選択に対する日数が指定されていません。

説明: 選択に対する日数は必須情報です。

ユーザーの処置: 日数入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2020E システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプを判別できません。コマンド・スクリプトが実行されていません。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2021I 本当に、変更を廃棄してもいいですか？

説明: 変更がスクリプト・センターで保管されないように指定しました。変更の廃棄を継続するか、または要求を取り消して編集を再開することができます。

ユーザーの処置: 変更を廃棄するには「はい」を選択してください。コマンド・スクリプトの編集を再開するには「いいえ」を選択してください。

DBA2022I コマンド・スクリプト “<script id>” が正常に作成されました。

説明: 新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。新規コマンド・スクリプトを表示するには、スクリプト・センターを参照してください。

ユーザーの処置: 新しく保管されたスクリプトの表示については、アイコン・バーのスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターを参照してください。

DBA2023E インスタンス “<instance name>” が存在しません。コマンド・スクリプトが実行されていません。

説明: スクリプト・ファイルに関連するインスタンス名が存在しません。

ユーザーの処置: スクリプト・センターから「編集」を選択して、インスタンス名を既存のインスタンスへ更新してください。

DBA2024E コマンド・スクリプト “<script id>” が存在しません。

説明: ジョブに関連するスクリプト・ファイルが存在しないため、スケジュールされたジョブを実行できません。

ユーザーの処置:

DBA2025E システム・エラーが発生しました。この問題は、クライアントのメモリー割り振りに関連している可能性があります。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2026I 本当に、選択されたジョブを除去しますか？

説明: 選択したジョブの除去を指定しました。選択したジョブを除去し、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択されたジョブを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2027I 本当に、選択された保管スクリプトを除去しますか？

説明: 現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択されたスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2028E 選択に対する週数が指定されていません。

説明: 選択に対する週数は必須情報です。

ユーザーの処置: 週数入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2029E システム・エラーが発生しました。スケジューラー・キーが見つかりません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2030E システム名を指定していません。リストより選択してください。

説明: アクションを処理するために、システム名は必須情報です。

ユーザーの処置: ドロップダウン・リストよりシステム名を選択してください。

DBA2031I ジョブ “<job id>” は正常に再スケジュールされました。

説明: 要求されたジョブの再スケジュールが正常に再スケジュールされました。

ユーザーの処置:

DBA2032E スクリプト名が指定されていません。

説明: スクリプト名は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにスクリプト名を入力して「了解」をクリックしてください。

DBA2033E コマンド・スクリプトが入力されていません。

説明: コマンド・スクリプトが空です。

ユーザーの処置: コマンド・スクリプトの内容を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA2034I コマンド・スクリプト “<script id>” が正常に更新されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2035E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト “<script id>” を検索できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2036E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプトを作成できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2037E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト “<script id>” を置換できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2038E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト “<script id>” をコピーできません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2039E 選択に対する月数が指定されていません。

説明: 選択に対する月数は必須情報です。

ユーザーの処置: 月数入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2040E 選択に対し、少なくとも月の 1 日を選択してください。

説明: 定期的ジョブをスケジュールするには、ジョブに対して少なくとも月の 1 日を指定してください。

ユーザーの処置: 定期的ジョブをスケジュールするときは、少なくとも月の 1 日を指定してください。

DBA2041E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト “<script id>” を除去できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2042E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト “<script id>” を実行できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2043I ジョブ “<job id>” はコマンド・スクリプト script “<script id>” の実行用に正常に作成されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2044E スクリプト記述が指定されていません。

説明: スクリプト・ファイルの記述は必須情報です。

ユーザーの処置: スクリプト・ファイルの記述を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA2045E ジョブ “<job id>” に関連するコマンド・スクリプトはシステムより生成されます。内容を表示できません。

説明: バックアップまたは再編成表アクションの関連するスクリプトは、読み取り可能形式ではありません。

ユーザーの処置: 次の内容を表示するには、別のコマンド・スクリプト (ファイル?) を選択してください。

DBA2046E コマンド・スクリプト “<script id>” はシステムで生成されます。内容の編集はできません。

説明: バックアップまたは再編成表アクションの関連するスクリプトは、読み取り可能形式ではありません。

ユーザーの処置: 編集するには、別のコマンド・スクリプト・ファイルを選択してください。

DBA2047E システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプが不明です。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2048E 指定されたファイル名はすでに存在します。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。

説明: おおのこのスクリプト・ファイル名が固有でなければなりません。指定されたファイル名はすでに存在します。

ユーザーの処置: 固有なスクリプト・ファイル名を指定してください。

DBA2049E システム・エラーが発生しました。
ファイル・アクセスが拒否されました。

説明: アプリケーションはファイルをファイル・システムにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2050E システム・エラーが発生しました。
ディスクがいっぱいです。

説明: ディスクにスペースがありません。処理を継続できません。

ユーザーの処置: ファイル・システムより不要なファイルを削除してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2051E システム・エラーが発生しました。
ハード・ディスク・エラーが発生しました。

説明: ハード・ディスクに関連する内部エラーが発生しました。アプリケーションはファイルにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2052E ログオンが失敗したのでジョブを実行できません。ユーザー ID =
“<user id>”。

説明: パスワードが与えられたユーザー ID に対して無効であるか、あるいはユーザー ID が無効です。

ユーザーの処置: プロンプトから有効なユーザー ID およびパスワードを入力します。

DBA2053E システム・エラーが発生しました。
ジョブ・ヒストリー入力を除去できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2054E システム・エラーが発生しました。
ジョブ “<job id>” が実行できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2055E コマンド・スクリプト “<script id>” がスクリプト・センターから除去されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2056I コマンド・スクリプト “<script id>” が変更されませんでした。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2057E システム・エラーが起きました。パスが有効ではありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2058E ファイルの行が “<number>” バイトより大きいです。

説明: 行の最大数を超過しています。

ユーザーの処置: 制限を超えないように、長い行を分離して書き込みしてください。

DBA2059E システム・エラーが発生しました。
共用違反がありました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2060E システム・エラーが発生しました。
スクリプト “<script id>” をコピーできません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2061I スクリプト “<script name>” が正常に作成されました。

説明: 名前 “<script name>” の新規スクリプト・ファイルが正常に作成されました。

ユーザーの処置: 新しく作成されたスクリプトの表示については、アイコン・バーのスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターを参照してください。

DBA2062E システム・エラーが発生しました。
新規スクリプトを作成できません。
管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2063E システム・エラーが発生しました。
ジョブ “<job id>” の結果を検索できません。管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2064E このスクリプト・ファイル名に対して、スクリプト・センター・レコードがすでに存在します。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。

説明: おおのこのスクリプト・ファイル名がスクリプト・センター内で固有でなければなりません。指定されたファイル名はすでに存在します。

ユーザーの処置: 固有なスクリプト・ファイル名を指定してください。

DBA2065E システム・エラーが発生しました。
スクリプト・ファイルがファイル・システムに存在しません。

説明: スクリプト・ファイルがファイル・システムで見つかりません。ファイルが消去された可能性があります。

ユーザーの処置: スクリプト項目を除去して再度作成してください。

DBA2066E db2job 実行可能プログラムが予定のディレクトリーにありません。スクリプトを実行できません。

説明: db2job 実行可能プログラムはインストールの一部として sqllib bin にコピーされる必要があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA2067I REORG TABLE コマンドは正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2068E インスタンス名が入力されていません。

説明: インスタンス名は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにインスタンス名を入力して、「了解」をクリックしてください。

DBA2069W “<number>”の最大数ジョブが作成されています。古くなったジョブを除去してください。

説明:

ユーザーの処置: 別の新規ジョブを作成する前に、不要になったジョブを除去してください。

DBA2070W “<number>”の最大数スクリプトが作成されています。古くなったスクリプトを除去してください。

説明:

ユーザーの処置: 別の新規スクリプトを作成する

前に、不要になったスクリプトを除去してください。

DBA2071W “<number>”バイトの最大数に達しました。表示されるデータは切り捨てられます。完全なファイル“<file name>”がサーバーにあります。

説明: エディターは、現行のファイルが大き過ぎるためハンドルできません。表示されたデータが切り捨てられました。

ユーザーの処置: ファイル全体が、指示された位置でサーバーで表示されます。

DBA2072E ジョブ“<job id>”に関連するスクリプトはスクリプト・センターから除去されました。

説明: スクリプト・ファイルは存在しません。

ユーザーの処置:

DBA2073E ユーザー ID およびパスワードを指定していません。

説明: ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードは必須指定です。

ユーザーの処置: ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードを入力し、「了解」をクリックします。

DBA2074E システム・エラーが起きました。作業ディレクトリー・パスが無効でした。

説明: 指定の作業ディレクトリーは、スクリプトの実行に使用されないため、存在しません。

ユーザーの処置: 有効な作業ディレクトリー・パスを選択するには、「ブラウズ...」ボタンを使用してください。

DBA2075I ジョブ “<job id>” が実行依頼されました。結果を見るにはジャーナルのジョブ・ページを使用してください。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2076E ジョブが異常終了しました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2077E ファイル名 “<file name>” はすでにファイル・システムにあります。

説明: ファイル名は固有にしてください。

ユーザーの処置: 別のファイル名を指定してください。

DBA2082W スクリプトについてのファイル許可が、スクリプト・センターが現在のユーザー ID でスクリプトを読み取るには十分ではありません。

説明: スクリプトについてのファイル許可が、スクリプト・センターが現在のユーザー ID でスクリプトを読み取るには十分ではありません。

ユーザーの処置: 該当するスクリプトのファイル許可を設定しているか確認してください。

DBA2078E 予期しないエラーが起きました。ジョブの出力がありません。

説明: ジョブの実行からの出力がありません。

ユーザーの処置: 無効なファイル拡張子がオペレーティング・システムで使用されているためと考えられます。有効な拡張子でスクリプトを再作成してください。

DBA2081W ファイル “<file-name>” がスクリプト・センターでの最大バイト数 (“<maximum-bytes>”) を超えています。このファイルを表示または編集するには、外部エディターを使用する必要があります。

説明: ファイルの大きさが、スクリプト・センターで表示できる最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: 外部エディターを使用して、ファイルを表示するか編集してください。

DBA2151E スクリプトが保管されていないため、スケジュールできません。

説明: 保管アクションを取り消したため、スクリプトがスケジュールされません。そのため、スクリプトがスクリプト・センターで保管されませんでした。

ユーザーの処置: スクリプトを保管してスケジュールリングの再試行をしてください。

DBA2152I スケジュールされる前に、スクリプトはスクリプト・センターに保管される必要があります。

説明: スクリプト・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

ユーザーの処置: スクリプト・センターにスクリプトを保管するには「了解」を、スクリプトのスケジュールをしない場合には「取消」を選択してください。

DBA2153I ファイル “<file name>” は正常にオープンしました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2154I スクリプト “<script name>” は正常にオープンしました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2155I ファイル “<name>” に上書きしたいですか?

説明: ファイル “<file name>” は現在ファイル・システムに存在していますが、保管操作でその内容が上書きされます。

ユーザーの処置: ファイル内容を上書きしたい場合には「了解」を、内容を更新したくない場合には「取消」を選択してください。

DBA2156I スクリプト “<script name>” に上書きしたいですか?

説明: スクリプト “<script name>” は現在スクリプト・センターに存在していますが、保管操作でその内容が上書きされます。

ユーザーの処置: スクリプトの内容を上書きしたい場合には「了解」を、内容を更新したくない場合には「取消」を選択してください。

DBA2157I ファイル “<file name>” は正常に更新されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2158I ファイル “<file name>” は正常に作成されました。

説明: 名前 “<file name>” の新規ファイルはファイル・システムに正常に作成されました。

ユーザーの処置:

DBA2171I スクリプトに対するすべての変更を廃棄してコマンド・センターを終了しますか ?

説明: コマンド・センターの終了を選択しましたが、現行スクリプトに対する変更はまだ保管されていません。終了要求を取り消さないかぎり、変更内容は失われます。

ユーザーの処置: 変更を廃棄して、コマンド・センターを終了する場合は「はい」を、終了要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2172I 現行スクリプトに対するすべての変更を廃棄して新規のスクリプトを作成しますか ?

ユーザーの処置: 変更を廃棄して、新規スクリプトを作成する場合は「はい」を、要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2173I コマンド・センターがまだコマンドを処理しています。後で再試行してください。

説明: スクリプトの実行あるいはコマンド・セットの発行をしましたが、コマンド・センターは、コマンドが現在処理中のものを終了しないかぎり、コマンドを処理できません。

ユーザーの処置: しばらく待機して、のちほど再度お試しください。現行コマンドを停止するには、ツールバーのギア変更アイコンをクリックするか、あるいは結果ページの結果メニューから「終了」を選択します。

DBA2174E コマンド行で指定されたファイル “<file name>” はオープンできません。ファイルの存在とファイルへの読み取りアクセス権があることを確認して、再度試行してください。

説明: インポートしたいスクリプトの入ったファイルの名前を指定しましたが、コマンド・センターがそのファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置: コマンド行でファイル名を正しく入力したか確認して、ファイルが存在すること、およびユーザー ID でそのファイルに読み取りアクセスが使用できるかも確認してください。

DBA2175E コマンド・センター・ウィンドウを作成するだけのメモリーがありません。アプリケーションを続行できません。

説明: コマンド・センター・ウィンドウを作成しようとしてシステムで、メモリー割り振りの問題が発生しました。

ユーザーの処置: コマンド・センターを実行するのに十分なメモリーがシステムにあることを確認して再度試行してください。

DBA2176E システム環境が初期設定されていません。アプリケーションを続行できません。データベース・マネージャーを再始動して再度試行するか、あるいはローカル・サポート担当者に連絡してください。

説明: コマンド・プロセッサ環境が正しく初期設定されていません。

ユーザーの処置: ディスク・スペースが十分あることを確認し、再試行してください。

DBA2177E Visual Explain に関連した問題が起きたため、システムはアクセス・プランを作成できません。

説明: コマンド・センターで、アクセス・プランを作成中に問題が発生しました。

ユーザーの処置: 前のメッセージからヘルプを参照してください。

DBA2178E アクセス・プランを作成するにはデータベース接続が必要です。「接続」ステートメントを使用してデータベースへの接続を行うか、あるいはコマンドを再度試行してください。

ユーザーの処置: まず「接続」を使用してデータベース接続を確立し、次にそのデータベースのアクセス・プランを作成します。使用可能なデータベースのリストを見るには、「データベース・ディレクトリーのリスト」コマンドを実行してください。

DBA2179E 使用したステートメントが正しい形式でないか、照会でないためアクセス・プランが作成されません。

説明: アクセス・プランを作成しようとして使ったステートメントは正しい照会の形式でないか、照会でないかのいずれかです。

ユーザーの処置: 照会形式中にエラーがないか、ステートメントをチェックして、必要な変更を行い、ステートメントを再試行してください。有効な照会形式については、Visual Explain の文書を参照してください。

DBA2180I ステートメントの前のプログラム名 "db2" は必要ないため無視されません。

説明: コマンド・センターでは、ステートメントの前に "db2" を入力する必要はありません。入力が必要なのは、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトの場合です。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA2181I コマンド・センターは現在使用できません。しばらくしてからやり直してください。

説明: JDBC サーバーは、複数の WEBCC コマンド・センター・セッションをサポートしています。

せん。 JDBC サーバーは、既存のコマンド・センター・セッションですでに使用されています。

ユーザーの処置: 現在のコマンド・センター・セッションが完了するまで待機し、操作をやり直してください。

DBA2182N パターン

“<script_name_pattern>” に従ったスクリプト名は、同じパターンに従った名前のスクリプトがスクリプト・センターにすでに多く含まれているために保管できません。スクリプト・センターからこのパターンに従う古いスクリプトを除去して、“<tool_name>” を再び呼び出してください。

説明: “<script_name_pattern>” のような名前を持つ、自動的に生成されたスクリプトが多すぎます。

ユーザーの処置: スクリプト・センターで、“<script_name_pattern>” のような名前を持つスクリプトを少なくとも 1 つ除去し、“<tool_name>” を再度呼び出してください。

DBA2193W “<window-name>” は “<program-name>” がなければ実行できません。データベース・ツール・オプションがインストールされていることを確認してください。

説明: “<window-name>” を呼び出すには、“<program-name>” のアプリケーションがサーバーにインストールされていなければなりません。デフォルトでは管理および構成ツール・コンポーネントのデータベース・ツール・サブコンポーネントは、インストール時に選択されています。“<program-name>” のアプリケーションをインストールできるようにするには、データベース・ツール・サブコンポーネントはインストール時に選択してください。

ユーザーの処置: データベース・ツール・オプション

がインストールされていることを確認してください。データベース・サーバーのインストール時にデータベース・ツールを選択しないと、DB2 セットアップをもう一度実行する必要があります。

- 1 すべての DB2 サービスを停止します。
- 2 DB2 セットアップを実行します。
- 3 「カスタム・インストール」を選択します。
- 4 管理および構成ツールを除くすべてのコンポーネントのチェックを外します。
- 5 管理および構成ツールの詳細で、「データベース・ツール」を選択します。
- 6 インストールを完了します。
- 7 すべての DB2 サービスを再始動します。
- 8 “<window-name>” を使用します。

DBA3007 本当に、Explained ステートメントを削除してもいいですか？

説明: Explained ステートメントを削除しようとしています。そうすると、対応する Explain 表の行が削除されます。

ユーザーの処置: Explained ステートメントを削除する必要があることを確認してください。

DBA3008 本当に、Explained ステートメントを削除してもいいですか？

説明: Explained ステートメントを削除しようとしています。そうすると、対応する Explain 表の行が削除されます。

ユーザーの処置: Explained ステートメントを削除する必要があることを確認してください。

DBA3009 システム・エラーが発生しました。
Visual Explain ツールが、処理を
続行できませんでした。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラー
が起きました。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認し
てください。
- 該当する場合は、システムを使用している他の
プログラムを停止してください。

問題が解決されない場合は、システム管理者に問
い合わせてください。

DBA3010 **Explain** スナップショットが削除さ
れています。要求を完了できませ
ん。

説明: この要求に必要な **Explain** スナップシ
ョットが、**Explain** 表から削除されています。

ユーザーの処置: スナップショットを再生成して
ください。

DBA3011 この **Explain** スナップショットは
Visual Explain Tool のデータベー
ス・マネージャーの別のバージョン
を使用して作成されました。要求を
完了できません。

説明: この **Explain** スナップショットは **Visual**
Explain Tool のデータベース・マネージャーの新
規バージョンまたは前のバージョンを使用して作
成されました。アクセス・プランのグラフは、こ
のツールでは作成できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの
同じバージョンを **Visual Explain Tool** として使
用して **Explain** スナップショットをグラフ表示し
ます。

DBA3012 スtringがありません。

説明: 検索Stringが、表示されているテキ
ストに見つかりません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3013 テキストがありません。検索する
テキスト・Stringを指定する必
要があります。

説明: 検索Stringが指定されませんでした。

ユーザーの処置: 検索Stringを指定してく
ださい。

DBA3014 リスト内で選択が行われていま
せん。リストの項目を少なくとも 1
つは選択しなくてはなりません。

説明: リストでの選択が行われませんでした。

ユーザーの処置: リストの少なくとも 1 つの項
目を選択してください。

DBA3015 このアクセス・プランに関連して参
照された列はありません。

説明: 参照表に対する照会で、参照された列はあ
りませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3016 この索引に関連するページ・フェッ
チ・ペア統計がありません。

説明: この索引について、カタログ表に格納され
ているページ・フェッチ・ペア統計がありませ
ん。詳細情報については、管理の手引きの「シ
ステム・カタログ統計」セクションを参照してく
ださい。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3017 このアクセス・プランに関連して参照された関数はありません。

説明: このアクセス・プランでは、関数を使用する必要がありません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3018 この列に関連する列分布統計がありません。

説明: この列について、カタログ表に格納されている列分布統計はありません。詳細情報については、**管理の手引き** の「システム・カタログ統計」セクションを参照してください。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3019 この表に関連する索引はありません。

説明: Explain 時に参照された表に定義された索引がなく、表に現在定義されている索引もありません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3020 データベースに対する **COMMIT** 中にエラーが起きましたが、**SQLCODE** が返りませんでした。

説明: 予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3021 データベースに対する **ROLLBACK** 中にエラーが起きましたが、**SQLCODE** が返りませんでした。

説明: 予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3022 **Get Database Manager Configuration api** が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3023 **Get Database Configuration api** が、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3024 ファイル “<file>” への保管中に、エラーが起きました。

説明: 考えられる原因には、以下があります。

- ファイルが、書き込み用にオープンできませんでした。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に適合していません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- ファイル属性を、読み書きに変更してください。
 - 正しいファイル名を指定してください。
-

DBA3025 ファイル “<file>” からの取り出し中に、エラーが起きました。

説明: 考えられる原因には、以下があります。

- ファイルが読み取り可能ではありません。
- ファイルが存在しません。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を指定してください。

DBA3026 プリンターがインストールされていません。

説明: マシンにインストールされているプリンターがありません。

ユーザーの処置: マシンにプリンターをインストールしてください。

DBA3033 このアクセス・プランに関連して参照された表スペースはありません。

説明: このアクセス・プランは、表スペースに入っているデータベース・オブジェクトを参照していませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3034 スナップショットはコード・ページ“<codepage>”を使用して作成されましたが、**Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。

説明: グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、**Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。スナップショットが大き過ぎるため、コード・ページ変換が失敗しました。アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

ユーザーの処置: **Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用された同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

DBA3035 スナップショットはコード・ページ“<codepage>”を使用して作成されましたが、**Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。データベース・マネージャー構成パラメーター **UDF_MEM_SZ** の値が小さすぎます。

説明: グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、**Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。コード・ページ間変換に使用されるユーザー定義関数が実行するのに十分なメモリーがないため、コード・ページ変換を正常に行えません。アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- サーバーのデータベース・マネージャー構成パラメーター **UDF_MEM_SZ** を 512 に変更して、再びアクセス・プラン・グラフを表示してください。構成パラメーターは、サーバーで次の **db2start** を行うまで反映されないことに注意してください。
 - **Visual Explain** ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用された同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。
-

DBA3036 ユーザーの動的 **Explain** 要求を処理するため、**Explain** 表が作成されました。

説明: 現行のユーザー ID 下で 1 つまたは複数の **Explain** 表が作成されました。これらの表は、ユーザーの動的 **Explain** 表が必要とする情報を保管するために使用されます。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3037 Explain スナップショットが破壊されています。要求を完了できません。

説明: この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から破壊されています。

ユーザーの処置: スナップショットを再生成してください。

DBA3038 このアクセス・プランに関連して参照されたバッファ・プールはありません。

説明: このアクセス・プランは、バッファ・プールに入っているデータベース・オブジェクトを参照しませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3039 Explain 表が見つかりません。

説明: Explain 表が存在しません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、Explain 表を作成してください。

- EXPLAIN.DDL ファイルで提供されているサンプル・コマンド・ファイルを使用する。このファイルは、`sqllib¥misc` ディレクトリにあります。コマンド・ファイルを実行するには、このディレクトリに移って、**db2 -tf EXPLAIN.DDL** コマンドを実行してください。
- コントロール・センターから、あるいは Explain 済みステートメント・ヒストリー・ウィンドウで、**SQL の選択** をメニュー選択から選ぶ。「SQL ステートメントの Explain」ウィンドウを使用して、動的に SQL ステートメントを Explain し、Explain 表を自動作成します。

DBA3040 コマンドが正しく指定されていません。

説明: コマンドに、無効な構文があります。

ユーザーの処置: -h オプションを付けたコマンド

ドを実行して、正しい構文を参照してください。

DBA3041 データベースの名前は、1 文字から “<maximum>” 文字の間でなければなりません。

説明: 指定されたデータベース名が空か、または長すぎます。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3042 Explain 可能ステートメント・テキストは、1 文字から “<maximum>” 文字の間でなければなりません。

説明: 指定された Explain 可能ステートメント・テキストが空か、または長すぎます。

ユーザーの処置: 有効な Explain 可能ステートメント・テキストを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3043 照会タグには、“<maximum>” 文字より多くの文字を使用できません。

説明: 指定された照会タグが長すぎます。

ユーザーの処置: 有効な照会タグを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3044 ユーザー ID には、“<maximum>” 文字より多くの文字は使用できません。

説明: 指定されたユーザー ID が長すぎます。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3045 照会番号の有効な範囲は 0 から “<maximum>” までです。

説明: 指定された照会番号が小さすぎるか、または大きすぎます。

ユーザーの処置: 有効な照会番号を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3046 最適化クラスに有効な値は 0、1、3、5、7 および 9 です。

説明: 指定された最適化クラスが、有効な値のいずれでもありません。

ユーザーの処置: 有効な最適化クラスを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3047 データベース “<name>” が見つかりません。

説明: コマンドに指定されたデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在しません。

ユーザーの処置: 既存のデータベース名を使用して、コマンドを再発行するか、またはデータベースをシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。

DBA3048 **db2vexp** は、アクセス・プラン・グラフを作成するための動的 SQL ステートメントを解説します。
構文:

```
db2vexp -db <database name>  
-sql <explainable statement  
text>
```

```
[-queryno <query number>]  
[-querytag <query tag>]  
[-opt <optimization class>]  
[-user <user ID>]  
[-password <password>]  
[-withsnapshot]
```

ヘルプ情報を参照するには、**-h** オプションを使用してください。

説明: これは db2vexp コマンドの構文です。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3059 選択した演算子 “<operator>” に関連する詳細情報がありません。

説明: 選択した演算子の詳細情報は、DB2 アドミニストレーション・ツールの現行リリースでは使用することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3060 選択した演算子 “<operator>” に関連するヘルプ情報がありません。

説明: 選択した演算子のヘルプ情報は、DB2 アドミニストレーション・ツールの現行リリースでは使用することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4000W 本当に、モニターを停止して、スナップショット・モニターを終了してもいいですか？

説明: 現在モニター中のすべてのデータベース・オブジェクトのモニターを停止し、パフォーマンス・モニターを終了することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4001I 選択した項目についてのモニター要約が存在しません。

説明: 何もモニターされていないオブジェクトのレベルでのモニター活動を表示するよう要求しました。表示する要約活動が存在しません。

ユーザーの処置: 選択したレベルに対応するオブジェクトについてモニターを開始したときに、アクションを再試行してください。

DBA4002W “<name>” のモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中のオブジェクトのモニター停止を要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4003I IBM 提供のモニターでデフォルト・レベルのみが変更されました。

説明: IBM 提供のモニターの場合、変更可能な属性はこのモニターがデフォルトとして指定されているレベルのみです。

ユーザーの処置:

DBA4004E 「除去」アクションにのみ複数の選択が許可されています。

説明: モニターのリストから複数のモニターを選択しました。複数のオブジェクトに対して実行できるアクションは「除去」のみです。

ユーザーの処置: リストから 1 つのモニターを除くすべてのモニターを選択解除して、アクションをやり直してください。

DBA4005W 選択したモニターを除去しますか?

説明: 選択されたモニターをリストから除去しよう要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4006W カウンターをリセットしますか?

説明: データベース・カウンターのリセットを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4007W このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止しますか?

説明: 現在モニター中の、このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4008W このオブジェクト内のすべての区分のモニターを停止しますか?

説明: 現在モニター中の、このオブジェクト内のすべての区分のモニターを停止することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4009I IBM 提供のモニターを作成中です。

説明: IBM 提供のモニターを作成中です。しばらくお待ちください。

ユーザーの処置:

DBA4010E パフォーマンス・モニターが問題を検出したため、続行できません。アクションを再試行してください。問題が解決しない場合、クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

説明: 予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポートに連絡してください。

DBA4011E プログラム “<name>” は有効な名前ではありません。プログラムは実行できません。名前を確認して、アクションをやり直してください。

説明: 無効なプログラム名を指定しました。

ユーザーの処置: 有効なプログラム名を指定して、アクションをやり直してください。

DBA4012E プログラム “<name>” を実行できません。このプログラムを実行するために、現在実行中のスレッドは許可されていません。

説明: 示されているプログラムの実行時にセキュリティ例外が発生しました。実行コマンドはアプリケーション・モードでのみ有効です。

ユーザーの処置: コントロール・センターをアプリケーションとして実行するとき、アクションをやり直してください。

DBA4013I データベース・マネージャー・ノード “<name>” がダウンしています。

説明: ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードのダウン時にその状況を通知するよう選択しました。

ユーザーの処置: 処理を続行するには、データベース・マネージャー・ノードを再始動してください。

DBA4014I データベース・マネージャー・ノード “<name>” の状態が不明です。

説明: ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードの状態が不明のときにその状況を通知するよう選択しました。

ユーザーの処置:

DBA4015E “<name>” には無効入力が含まれています。項目を再入力してください。

説明: 項目に無効な文字が入っています。

ユーザーの処置: 新しい項目でアクションをやり直してください。

DBA4016E 新しいモニターを作成できません。モニターの最大数は “<number>” です。

説明: 作成、別名保管、またはコピー要求が失敗しました。モニターの最大数に達しています。

ユーザーの処置: 未使用のモニターを除去して、アクションをやり直してください。

DBA4017E モニター接続を確立できません。モニター接続の最大数は “<number>” です。

説明: モニター接続の最大数に達しています。

ユーザーの処置: 後でアクションをやり直すか、またはマシンで実行されているモニター・セッションを停止してください。

DBA4018W “<name>” の入力長が長すぎます。文字の最大数は “<number>” です。項目は切り捨てられます。

説明: 項目が限界を超えています。

ユーザーの処置:

DBA4019E “<name>” の入力長が長すぎます。文字の最大数は “<number>” です。有効な入力でアクションをやり直してください。

説明: 項目が限界を超えています。

ユーザーの処置: 有効な入力でアクションをやり直してください。

DBA4020W パフォーマンス・モニター
“<name>” に変更を加えました。
変更を保管しますか？

説明: パフォーマンス・モニターに対して 1 つまたは複数の変更を行いました。まだ保管されておらず、「モニターの表示」ウィンドウを終了、または実行モニターに別のモニターを設定するよう要求しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4021W “<name>” のパフォーマンス変数設定に変更を加えました。変更を次のスナップショットに適用しますか？

説明: パフォーマンス変数設定に対して 1 つまたは複数の変更を行いました。まだ保管されておらず、別のパフォーマンス変数の操作を選択しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

ユーザーの処置: 次のスナップショットに変更を適用するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4023E パフォーマンス変数 “<name>” に、無効なアラームしきい値と警告しきい値の組み合わせが入力されました。1 つまたは複数のしきい値を変更して、やり直してください。

説明: 上限アラームしきい値は、上限警告しきい値よりも大きくなければなりません。つまり、「上限アラームしきい値 > 上限警告しきい値 > 下限警告しきい値 > 下限アラームしきい値」である必要があります。しきい値は、9 桁を超えない浮動値です。

ユーザーの処置: しきい値を確認して、操作をやり直してください。

DBA4024W 「要約」ページは、“<number>” 列を超えて表示することはできません。「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

説明: 「要約」ページには現在、収容可能な列数が表示されていますが、いくつかのパフォーマンス変数が示されていません。

ユーザーの処置: 「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

DBA4025W “<type>” 視点は、“<number>” のパフォーマンス変数を超えて表示することはできません。

説明: パフォーマンス変数の最大数が表示されています。

ユーザーの処置: パフォーマンス変数を追加する前に、1 つまたは複数のパフォーマンス変数を“<type>” 視点から除去してください。

DBA4026I 非適用可能モニターがこのレベルのデフォルトとして設定されました。

説明: モニターにはこのレベルの pv が少なくとも 1 つは組み込まれていなければなりません。

ユーザーの処置: デフォルトのモニターを変更して、このレベルの pv が少なくとも 1 つは組み込むようにします。

DBA4027I モニターするものがないので、モニターはまだ開始されていません。

説明: 現在このインスタンスでモニターされるデータベースまたはゲートウェイ接続はありません。

ユーザーの処置: モニターを開始するデータベースまたはゲートウェイ接続をカタログします。

DBA4060E パフォーマンス・モニターは現在、このインスタンスの別のモニターで活動状態です。

説明: インスタンスごとに一度に活動状態にできるモニターは 1 つだけです。たとえば、データベース用のデフォルト・モニターと接続用のデフォルト・モニターが異なる場合、データベースのモニターと接続のモニター（またはリスト）を同時に行うことはできません。

ユーザーの処置: 「モニターのリスト」ウィンドウでは、以下を行うことができます。

1. どのモニターが実行中かを調べ、別のモニターを指定できるようにそのモニターを停止します。
2. どのモニターが実行中かを調べ、次のモニター・アクションにそのモニターを指定します。
3. すべてのレベルについてパフォーマンス変数を持つモニターを作成し、そのモニターを各レベルのデフォルト・モニターとして選択します。

DBA4065E しきい値を空白にしたり、9 文字より多くすることはできません。有効なしきい値を入力してください。

説明: 無効なしきい値が入力されたか、値が内部で変更されています。たとえば 123456789 は 123,456,789.0 と変更されますが、この場合しきい値に許容される文字数を超過してしまいます。

ユーザーの処置: しきい値を再入力して、アクションをやり直してください。

DBA4070E JDBC サーバーが問題を検出しました。パフォーマンス・モニターのリストを処理できませんでした。

説明: 予期しない問題が見つかりました。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが稼働中である

かどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

DBA4071W モニターのいくつかは現在ローカルで使用中です。最新表示されたリストには、ローカル・モニターのみが表示されます。

説明: モニターのリストは、ローカル・モニターでのみ最新表示されます。

ユーザーの処置: 全リストを表示するには、活動モニターを停止して操作をやり直してください。

DBA4072E このモニター名はすでに存在しています。固有名を指定してください。

説明: JDBC サーバーのパフォーマンス・モニター名は、モニターの作成者に関係なく固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有なモニター名を指定してください。

DBA4074E JDBC サーバーが問題を検出しました。操作を実行できませんでした。

説明: 予期しない問題が見つかりました。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

DBA4075E このパフォーマンス・モニターが空であるため、保管できません。少なくとも 1 つのパフォーマンス変数をモニターに追加して、操作をやり直してください。

説明: モニターは、有効にするために少なくとも 1 つのパフォーマンス変数を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのパフォーマンス変数をモニターに追加して、操作をやり直してください。

DBA4076E あなたはモニターの作成者でないため、アクションを実行できません。

説明: モニターの変更、名前変更、または除去を行うには、そのモニターを所有していなければなりません。

ユーザーの処置: モニターを変更したい場合、そのモニターを別の名前の下にコピーしてから変更してください。

DBA4079E このモニターは現在、ローカルで使用中です。モニターを停止してから、除去または名前変更を行ってください。

説明: 活動状態のモニターを除去または名前変更することはできません。

ユーザーの処置: 除去または名前変更を行う前に、モニターを停止してください。

DBA4080E このモニターは現在、リモートで使用中です。モニターが停止されてから、除去または名前変更を行ってください。

説明: 活動状態のモニターを除去または名前変更することはできません。

ユーザーの処置: モニターが停止されてから、除去または名前変更を行ってください。

DBA4083E このモニターが見つかりませんでした。他のユーザーがモニターを除去した可能性があります。すべてのモニターを停止してから、モニターのリストを最新表示してください。

説明: あなたが使用しているモニターを他のユーザーが除去した可能性があります。

ユーザーの処置: すべてのモニターを停止して、モニターのリストを最新表示してください。

DBA4090E JDBC サーバーへの接続が異常終了しました。コントロール・センターをクローズして、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

説明: 予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コントロール・センターをクローズして、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

DBA4095I この関数はこのオブジェクトでは実装されていません。

説明: この関数は将来のリリース用のもので、現在このオブジェクトでは実装されていません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4220 全データベース復元は表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

説明: 全データベース復元は表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4221 表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

説明: 表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4222 表スペースの選択は、データベースがバックアップ保留状態にあるため、できません。

説明: 表スペースの選択は、データベースがバックアップ保留状態にあるため、できません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4223 バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

説明: バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4730E モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題を見つけました。モニターを続行できません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4731E リソース問題がモニター・サーバーで起きました。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: サーバー・リソースを解放して、操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4732E データベース・インスタンスへの接続を試みたときに問題が起きました。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: やり直してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4733W モニターしたデータベース・インスタンスが停止しました。インスタンスを再始動してください。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: インスタンスを再始動してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4734E モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題を見つけました。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: やり直してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4735E データベース・インスタンスへの接続を試みたときに問題が起きました。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4736E クライアントで使用中の現行国別コードあるいはコード・ページを判別できません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: クライアントの国別コードとコード・ページはデータが正しいコード・ページで戻されるようにサーバーに送信される必要があります。モニター・サーバーが、活動中の国別コードまたはコード・ページを判別できませんでした。

ユーザーの処置: システムの国別コードおよび活動中のコード・ページの設定方法を判別するためにオペレーティング・システムの文書を参照してください。国別コードおよびコード・ページを設定してから操作を再試行してください。

DBA4737E サーバー上に現行のクライアントの国別コードあるいは現行のコード・ページを設定できません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: クライアントの国別コードとコード・ページはデータが正しいコード・ページで戻されるようにサーバーに送信される必要があります。モニター・サーバーが、クライアントの活動中の国別コードまたはコード・ページをサーバー上に設定できませんでした。

ユーザーの処置: サーバー・システムでクライアントの国別コードとコード・ページを活動化する方法について判別するにはオペレーティング・システムの文書を参照してください。コード・ページを活動化してから操作を再試行してください。

DBA4738E システム “<name>” の管理サーバーが始動していません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: システム “<name>” でリストされた管理サーバーが始動していません。

ユーザーの処置: 管理サーバーを始動して、操作をやり直してください。

DBA4739E クライアント・システムのコード・ページを判別できませんでした。クライアント・システムが正しくセットアップされていない可能性があります。 **smcode:** “<Error code>”

説明: これはクライアント・システム上の問題です。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA4740E クライアント・コード・ページ “<name>” は、インスタンス “<name>” で使用できません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: リストされたコード・ページが、インスタンス “<name>” にインストールされていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ “<name>” をインスタンス “<name>” にインストールする必要があります。

DBA4741E クライアント・コード・ページ “<name>” がインスタンス “<name>”、ノード “<name>” で使用できません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: リストされたコード・ページが、インスタンス “<name>”、ノード “<name>” にインストールされていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ “<name>” をインスタンス “<name>”、ノード “<name>” にインストールする必要があります。

DBA4742E 管理サーバー “<name>” が見つかりません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: この問題が発生すると考えられる理由は
1) リモート・インスタンス名が無効である。
2) ホスト名が無効である。のいずれかです。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4743E 管理サーバー “<name>” が問題を検出しました。 **sqlcode:** “<Error code>”。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 管理サーバー “<name>” に内部エラーがあります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4744E コントロール・センターがノード “<name>” のインスタンス “<name>” で並列ツールと通信できませんでした。通信を開始してみてください。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 通信が始動していない可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4745E コントロール・センターとノード “<name>” インスタンス “<name>” での並列ツールの間の TCP/IP ポート構成が間違っています。 **smcode:** “<Error code>”

説明: ノード “<name>” にある /etc/services ファイルに誤った情報が入っている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者は db2ccmsrv のポート名がノード

“<name>” の /etc/services ファイルに正しく入力されているか、検査する必要があります。

DBA4746E インスタンス・ノード・ホスト名 “<name>” はインスタンス “<name>” では無効です。 **smcode:** “<Error code>”

説明: インスタンス “<name>” に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が入っている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者はインスタンス “<name>” に対する db2nodes.cfg ファイルで見つかるホスト名の妥当性検査をする必要があります。

DBA4747E パフォーマンス・モニターが、スナップショット取り込み間隔内にノード “<name>” から応答を受け取りませんでした。 **smcode:** “<Error code>”

説明: リストされたノードでパフォーマンスあるいは通信に問題があるために応答の送信が阻止されているか、またはスナップショット取り込み間隔が短いためにそれぞれのノードが要求に応答するのに十分な時間がありません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者は次のいずれかを行ってください。

1) リストされたノードでのパフォーマンスの妥当性検査を行う。 2) スナップショット取り込み間隔を大きくして、ノードがスナップショット要求に対応する時間を長くする。

DBA4748E インスタンス “<name>” の論理ノード “<name>” は無効です。 **smcode:** “<Error code>”

説明: インスタンス “<name>” に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が入っている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4749E インスタンス “<name>” のモニター・サーバーが、ノード “<name>” との通信を確立できません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 通信サブシステムが始動していない可能性があります。

ユーザーの処置: 上で指定したノードで db2cclst 処理を開始します。それでも問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA4750E 切り替えられるインスタンスがありません。 **smcode:** “<Error code>”

説明: 詳細については管理サーバー・エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA5006E PIPE イベント・モニターはサポートされていません。

説明: イベント・アナライザーだけが、FILE イベント・モニターが作成したトレースを処理できます。

ユーザーの処置: FILE イベント・モニターを使用してください。

DBA5007E 指定されたイベント・モニターが存在しません。

説明: -evm オプションで指定されたイベント・モニターが、-db オプションで指定されたデータベースのカタログに見つかりませんでした。イベント・モニターがドロップされているか、または間違ったデータベースに接続しようとしています。

ユーザーの処置: -db で指定されているデータベース別名が正しくカタログされており、イベント・モニターがドロップされていないことを確認してください。後者の場合は、イベント・モニターを再作成してください。

DBA5250I 取り出されたオブジェクトの数が、ウィンドウに適合可能な数の制限を超えています。リストの一部が表示されます。

説明: 取り出されたオブジェクトの表示に必要なウィンドウの高さが、システム制限を超えています。

ユーザーの処置: 以下を行えば、ウィンドウに表示されるオブジェクトの数を減らすことができます。

- 「組み込み」項目が「表示」メニューで使用可能な場合は、ウィンドウに表示するオブジェクトのサブセットを指定できます。「組み込み」を選択すると、ウィンドウが現れて基準のサブセット化をプロンプトで指示されます。

DBA5300E イベント・アナライザーの呼び出しエラー。使用方法:

```
db2eva -path evmon-target
        [-conn
         [-db database-alias]] |
        -evm evmon-name
        -db database-alias
        [-conn]
```

説明: db2eva のコマンド・パラメーターは以下のとおりです。

-path evmon-target

イベント・モニター・トレース・ファイルの入ったディレクトリーを指定します。

-db database-alias

イベント・モニターが定義されたデータベースを、トレースを解析したマシンでカタログ化したように指定します。

database-alias は、トレースで指定したデータベース名を上書きします。

-evm evmon-name

解析するトレース・ファイルを生成するイベント・モニター。指定された場合、db2eva は、データベース・システム・カタログからイベント・モニター・ターゲットを読み取ることによってユーザーにトレース・ファイルを位置指定します。

-conn

は db2eva に、-db オプションによって指定されたデータベース接続の保守を要求します。-db が提供されない場合、トレース・ファイル・ヘッダーで指定されたデータベース接続の保守を要求します。イベント・アナライザーは、接続を保持することで、静的 SQL ステートメントのテキストのような、トレース・ファイルの入っていない情報を取得できません。(静的 SQL のステートメント・テキスト・イベントにはパッケージ作成者、パッケージ番号およびセクション番号のみが含まれます。-conn オプションが指定された時、db2eva はデータベースに接続し、テキストをデータベース・システム・カタログ 'sysibm.sysstmt' から検索します。) デフォルトは「接続を保持しない」です。

ウィンドウ・マネージャー・オプションと db2eva 引き数を混合することができます。

イベント・モニター・トレース・ファイルの読み取りには、以下の 2 つのモードの操作が提供されます。

1. ユーザーが、トレース・ファイルが存在するディレクトリーを指定します (-path を使用)。このモードを使用すると、イベント・モニターがドロップされていても、ユーザーがトレース・ファイルをサーバーから移動して、ローカルに解析できます。

2. ユーザーが、データベースおよびイベント・モニター名を指定します (db2eva がトレース・ファイルを自動的に見つけます)。

このモニターを使用すると、db2eva はデータベースに接続し、'select target from sysibm.syseventmonitors' を発行して、イベント・モニターがトレース・ファイルを書き込んだディレクトリーを検索します。-conn が指定されていない限り、その後で接続が解放されます。このモードの使用中は、イベント・モニターをドロップしないでください。

注: -conn と -db オプションの両方ともに、トレースが記録されたデータベースが存在すること、およびユーザーがシステム・カタログからの接続および選択を行うための十分なアクセス権を持っていることが必要です。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA5311E イベント・モニター呼び出しエラー。 使用法:

db2emcrt database-alias

説明: db2emcrt コマンドのコマンド・パラメーターは次のとおりです。

database-alias

db2emcrt コマンドが呼び出されるマシンにカタログされているとおりに、イベント・モニターを作成または解析するデータベースを指定します。database-alias は、トレースで指定したデータベース名を上書きします。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA5350E 指定されたファイルがオープンできません。

説明: 原因不明で、指定されたファイルを読み取り専用でオープンできませんでした。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、および空ではない `00000000.evt` という名前の読み取り可能なトレース・ファイルがこのディレクトリーに入っていることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に `00000000.evt` という名前で、この名前は変更できません。

DBA5351E 指定されたファイルが見つかりません。

説明: `-path` で指定されたディレクトリーに `00000000.evt` ファイルがありません。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル `00000000.evt` を含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に `00000000.evt` という名前で、この名前は変更できません。

DBA5352E 指定されたパスが見つかりませんでした。

説明: `-path` オプションが、存在しないディレクトリーを指定しています。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル `00000000.evt` を含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に `00000000.evt` という名前で、この名前は変更できません。

DBA5353E 指定されたファイルへのアクセスが拒否されました。

説明: 指定されたファイルが、読み取り専用でオープンできませんでした。 `-path` オプションが、あなたが十分なアクセス権限を持っていないディレクトリーを指定している可能性があります。

ユーザーの処置:

- `-path` オプションで指定されているディレクトリーに対するアクセス権限をチェックしてください。
- 指定されたファイルが、排他モードでロックされていないことを確認してください。

DBA5354E 指定されたファイルから、データが読み取れません。

説明: イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが入っているか、またはアクセスできません。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があるか、または除去されています。

ユーザーの処置: もう一度、サーバーからトレース・ファイルを伝送してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送が 2 進モードで実行されていることを確認してください。

DBA5355E イベント・モニター・ログ・ヘッダーが、指定されたファイルに見つかりませんでした。

説明: イベント・モニターによって書き込まれる最初のファイル名は `00000000.evt` で、このファイルには、トレースの特性を識別するデータ構造が入っています。このデータ構造が読み取れませんでした。考えられる理由は、以下の通りです。

- トレース・ファイルが壊れていました。
- トレース・ファイルが空です。これは、イベント・モニターが活動しているときに、まだバッファをフラッシュしていない場合に起きる可能性があります。

ユーザーの処置:

- トレースがリモート・サーバーから伝送された場合は、伝送が 2 進モードで実行されることを確認して、再伝送してください。
- トレース・ファイルが空の場合は、イベント・モニターをオフにして、強制的にバッファをフラッシュしてください。

DBA5356E 指定されたファイルでは、バイト順序は無効です。

説明: イベント・モニター・ログ・ヘッダー (新しいトレースに最初に書き込まれるレコード) が、トレースに入っているのが、little-endian (たとえば、OS/2) なのか、big-endian (たとえば、AIX) なのかを示します。指定されたトレース・ファイルに存在する値が、サポートされる 2 つのタイプのデータのいずれでもありません。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

ユーザーの処置: もう一度、サーバーからトレース・ファイルを伝送してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送が 2 進モードで実行されていることを確認してください。

DBA5357E 指定されたファイルの指定されたオフセットで、予期しないデータが見つかりました。

説明: イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが入っています。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

ユーザーの処置: 伝送が 2 進モードで実行されることを確認して、トレース・ファイルをサーバーから再伝送してください。

DBA5358I 活動状態のローカル管理サーバーがないと、ローカル・ファイル・システムをブラウズできません。

説明: ファイル・ブラウザーには、ファイル・システムをブラウズするためのデータベース管理サーバー (DAS) インスタンスが必要です。これがクライアント・インストールの場合、DAS インスタンスは存在せず、ローカル・ファイルのブラウズもできません。

ユーザーの処置: サーバーのインストールの場合、DAS インスタンスが開始されていることを確認して操作を再実行してください。

DBA5500E システム・エラーが起きました。イベント・アナライザー・ツールが処理を続行できませんでした。

説明: アプリケーション環境の初期化を試行中に、原因不明でシステム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBA5501W 除去するイベント・モニター “<evname>” に関連するイベント・ファイルを削除しますか?

説明:

ユーザーの処置: 選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、「了解」をクリックしてください。イベント・ファイルを削除しないで、イベント・モニターを除去したい時は「いいえ」をクリックしてください。

DBA5502E イベント・タイプリストからなにも選択されていません。リストから 1 つまたは複数のタイプを選択する必要があります。

説明: イベント・モニターを作成するときは、少なくとも 1 つのイベント・タイプを選択する必要があります。

ユーザーの処置: 「作成イベント・モニター」ウィンドウから 1 つまたは複数の「イベント・タイプ」チェック・ボックスを選択してください。

DBA5503I イベント・モニター “<evname>” が正常に作成されました。

説明: イベント・モニターが正常に作成され、イベント・モニターのリストに追加されました。

ユーザーの処置: 「了解」をクリックしてメッセージを除去してください。

DBA5504W イベント・ファイルを削除できなかったため、いくつかのイベント・モニターが除去されませんでした。除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。

説明: 選択されたいくつかのイベント・モニターが正常に除去されましたが、その他は、関連のイベント・トレース・ファイルを削除できなかったため、除去されませんでした。

これは、イベント・ファイルが読取専用のときまたは別の活動状態処理によって使用される場合に発生します。

ユーザーの処置: 除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限を検査してください。その後、イベント・モニターのリストからイベント・モニターを選択してメニューから除去を選択してください。

DBA5505E 最大ファイル・サイズが指定されていません。

説明: 4K ページの最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大サイ

ズを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 4K ページまでの最大ファイル・サイズを入力するか、最大オプションなしを選択できます。最大オプションなしを選択した場合は、イベント・ファイルの最大数が 1 です。

DBA5506E ファイルの最大数が指定されていません。

説明: 最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 までのイベント・ファイルの最大数を入力するか、最大オプションなしを選択できます。

DBA5507E バッファー・サイズが指定されていません。

説明: 4K ページのイベント・モニター・バッファー・サイズを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 4K ページまでのイベント・モニター・バッファー・サイズを入力する必要があります。

DBA5508W 除去するイベント・モニター関連のイベント・ファイルを削除しますか?

ユーザーの処置: 選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、「了解」をクリックしてください。イベント・ファイルを削除せずにイベント・モニターを除去したい時は「いいえ」をクリックしてください。選択されたイベント・モニターを除去しない場合、またはイベント・ファイルを削除しない場合には、「取消」をクリックしてください。

DBA5509E イベント・モニターに対して入力された名前は無効です。

説明: イベント・モニター・フィールドに入力された名前は、1 つまたは複数の許可されない文字を含んでいます。イベント・モニターは英数字を含めますが、文字で始める必要があります。

ユーザーの処置: 英数字以外のを名前から除去して、名前は文字で始めてください。

DBA5510E モニターを活動化するとき、データ・ファイルのディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: イベント・モニターを活動化するとき、イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリーが存在しなければなりません。バッファをフラッシュするには、イベント・モニターは既存のファイルおよびパスを必要とします。

ユーザーの処置: イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリーを作成してください。イベント・モニターを再び活動化してください。

DBA5511E 入力“<name>”は許容範囲外の値であるため、無効です。

説明: イベント・モニター最大ファイル・サイズの値、ファイルの最大数、およびバッファ・サイズが 1 から 2,147,483,647 まででなければなりません。

ユーザーの処置: 入力フィールドに、与えられた範囲内の値を入力してください。

DBA5512E イベント・モニターに対して入力された“< character>”文字は許可されません。

説明: イベント・モニター名入力フィールドで入力された文字はイベント・モニター名に対して無効な文字です。

ユーザーの処置: 名前から英数字以外を除去して、名前は文字で始めてください。

DBA5513W ダイナミック・リンク・ライブラリー“<dllname>”のロードは正常ではありませんでした。

説明: イベント解析器の分析中に、dll が削除または除去されたためロードされません。

ユーザーの処置: インストール処理中にパフォーマンス・モニターを選択してイベント解析器を再インストールしてください。

DBA5514I イベント・モニター“<evname>”のイベント・ファイルを削除できませんでした。

説明: イベント・モニターのイベント・ファイルを、ファイルが活動状態処理によって使用中か、または読取専用のため削除できませんでした。

ユーザーの処置: ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限を検査してください。イベント・モニターを再選択してメニューから除去を選択してください。

DBA5515W データベース別名またはデータベース名“<dbname>”が見つかりません。

説明: コマンド行で入力された別名はこのマシンではカタログ化されていません。

ユーザーの処置: このマシンの別名をカタログ化してコマンドを再入するか、または有効な別名でコマンドを再発行してください。

DBA5516W このイベント・モニターのトレースの表示には時間がかかります。処理を継続しますか?

説明: ユーザーはイベント・モニターの大きなトレースの表示を要求しました。読み取りファイルを完了するには時間がかかります。

ユーザーの処置: トレース処理を継続したいとき、「了解」をクリックしてください。トレー

ス・ファイル処理を継続しない場合は「いいえ」をクリックしてください。

DBA5517E 理由コード “<reason-code>” のため、イベント・モニターを開始できません。

説明: “<reason-code>” が指定した理由のため、イベント・モニターを開始できません。

1. イベント・モニター・パスが無効です。
2. イベント・モニターが開始される装置が作動不能です。
3. 管理サーバーとの接続機構が失敗しました。

ユーザーの処置: イベント・モニターを開始するには、イベント・モニター・パスが有効であること、管理サーバーが開始したこと、および装置の正確な権限が存在していることを確認してください。「了解」をクリックします。

問題が継続する場合、装置にイベント・モニターのディレクトリーを手動で作成して「了解」をクリックしてください。

イベント・モニターを開始せずに作成する場合、「今開始する」チェック・ボックスを選択解除して、「了解」をクリックしてください。

DBA5518E イベント・モニターの出力ディレクトリーが作成されないため開始できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、ディレクトリーが作成できません。

1. 要求ファイル・システムにディレクトリーを作成するために適切な権限がない。
2. イベント・モニターの作成が Intel 以外のプラットフォーム上のディレクトリーの作成をサポートしていない。
3. FAT ファイル・システムで 8 文字より大きいディレクトリーを作成できない。

ユーザーの処置: ディレクトリー作成に適切な権限があるかを確認してください。

Intel 以外のプラットフォームでイベント・モニター出力ディレクトリーを手操作で作成してください。

DBA6001I 複製サブスクリプション設定 “<subscription_set>” は使用されています。しばらくしてから再試行してください。

説明: 変更適用プログラムは現在複製サブスクリプションを処理中のため、このアクションを非活動にできません。変更適用プログラムが処理を完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6002I 複製ソース “<source_name>” は正常に定義されました。複製ソースに変更を取り込むには、コマンド行から取り込みプログラムを開始してください。

説明: 取り込みプログラムは、実行するために、定義済みの複製ソースが必要です。

ユーザーの処置: 取り込みプログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6003I 複製サブスクリプションは正常に定義されました。サブスクリプション設定の複製を始めるには、コマンド行から変更適用プログラムが開始済みであるか確認してください。

説明: 変更適用プログラムは、実行するために、定義済みの複製ソースが必要です。

ユーザーの処置: 変更適用プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6004I 複製サブスクリプションは正常に変更されました。

説明: これは通知でしかありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6005I 複製ソースは正常に除去されました。

説明: これは通知でしかありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6006I 複製ソース “<source_name>” を除去できませんでした。

説明: これは通知でしかありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6007I 複製サブスクリプション “<subscription_name>” を除去できませんでした。

説明: これは通知でしかありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6008I 複製サブスクリプションは正常に除去されました。

説明: これは通知でしかありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6009E “<file_name>” は別のアクションによってロックされています。

説明: 現在ファイルは別のアクションで使用中です。

ユーザーの処置: アクションが完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

DBA6010I 結合は正常に定義されました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6012I 複製ソースは正常に定義されました。複製ソースへの変更の取り込みを開始するにはコマンド行から取り込みプログラムが開始済みであることを確認してください。

説明: 取り込みプログラムは、実行するために、定義済みの複製ソースが必要です。

ユーザーの処置: 取り込みプログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6013I 複製サブスクリプションは正常に更新されました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6014I 複製サブスクリプションは正常にクローンされました。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6015I このアクションの SQL ステートメントはこれからの編集および実行のためにファイルに保管されています。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6016I SQL スクリプト・ファイルは正常に実行されています。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6100I 変更適用プログラムはこの設定の全リフレッシュ・コピーのみを行います。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6101E 表 “<table_name>” を検索できません。

説明: 指定された制御表がデータベースで見つからないか、誤って削除されました。

ユーザーの処置: 制御表を作成してください。詳細については「表」の章を参照してください。

DBA6102I このアクションは、終了までしばらく時間がかかります。お待ちください....

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6103E SQL ファイル “<file_name>” を実行できません。

説明: ユーザーは、複製ソースの定義のような複製アクションに対して SQL ステートメントを編集した可能性があるため、SQL ステートメント・ファイルでエラーが起きました。

ユーザーの処置: SQL ステートメント・ファイルのエラーを訂正して、ファイルを再実行してください。

DBA6104W 固有な接頭部文字が見つかりませんでした。接頭部文字は NULL に設定されました。

説明: 接頭部文字は、ソース表で変更前イメージ列を識別するために使用される英字文字または数値文字です。接頭部文字は、すべての可能な接頭部文字がすでに使用中のため割り当てられない場

合は、この警告が出されます。変更データ表は作成されません。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列をチェック解除してアクションをやり直してください。

DBA6105E フィールド “<field_name>” には入力が必要です。

説明: ユーザーは必須フィールドを埋めていません。

ユーザーの処置: パラメーターを指定して、「了解」を選択してください。

DBA6106E 複製アクションは現在このデータベース・システムをサポートしていません。

説明: 複製アクションは、実行するためにデータベース・システムをサポートする必要があります。

ユーザーの処置: 弊社サービス担当員に連絡してください。

DBA6107E フィールド “<field_name>” に対して別の値を入力してください。

説明: 複製サブスクリプションをクローンするとき、「ターゲット・サーバー」および「適用修飾子」フィールドがオリジナルの「ターゲット・サーバー」および「適用修飾子」フィールドと異なる必要があります。

ユーザーの処置: 別のターゲット・サーバー名を入力するか、修飾子を適用して「了解」を選択してください。

DBA6108E 構文エラーのためアクションを完了できません。

説明: SQL ステートメントには構文エラーが含まれます。

ユーザーの処置: 正しい構文については、「SQL 解説書」をチェックしてください。サブスクリプ

ション・アクションについては、WHERE 文節、行ページ、あるいは CREATE 列をチェックしてください。define-join アクションについては、CREATE VIEW ステートメントをチェックしてください。

DBA6109E SHOW COLUMNS アクションを完了できません。

説明: SHOW COLUMNS アクションには選択された表が必要です。

ユーザーの処置: 「選択表」リスト・ボックスから表を選択して、SHOW COLUMNS キーを押してください。

DBA6110E SQL ファイル "<file_name>" をオープンできません。

説明: SQL ファイルが存在していない、間違ったサブディレクトリーにある、あるいは別の処理で使用中等であるかのいずれかです。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を入力していて、そのファイルが正しいサブディレクトリーにあるか確認してください。ファイルが別の処理に使用されている場合、処理を終了してファイル名を再入力します。

DBA6111E ファイル "<file_name>" をオープンできません。

説明: ファイルが存在しないか、あるいは間違ったサブディレクトリーにあります。

ユーザーの処置: 「ツール設定」ノートブックの「複製」ページで正しいファイル名を入力しているか、確認してください。

DBA6112I 「ツール設定」ノートブックに複製オブジェクトを定義するためにユーザー定義の値の置換を選択しました。ファイル "<file_name>" にこの値を提供してください。

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: ファイルにすでにユーザー定義の値を提供している場合には処置は必要ありません。

DBA6113E "<keyword>" はファイル "<file_name>" で無効なキーワードです。

説明: 指定されたキーワードは無効で、タイプミスによるエラー可能性があります。

ユーザーの処置: デフォルト・ファイル "DPREPL.DFT" で与えられたようにキーワードを使用してください。

DBA6114E キーワード "<keyword>" に対する値がファイル "<file_name>" では見つかりません。

説明: このキーワードに対する値はこのアクションを完了するのに必要です。

ユーザーの処置: このキーワードに対する値をファイルに指定してください。

DBA6115E 列リストの項目で選択された項目はありません。このアクションを完了することができません。

説明: このアクションを完了するには、列リストの少なくとも 1 つの項目が選択される必要があります。

ユーザーの処置: 列リストから 1 つまたは複数の項目を選択して「了解」を押してください。

DBA6116E キーワード "`<keyword>`" に対する値がファイル "`<file_name>`" では無効です。

説明: このキーワードに対する値が長すぎて間違ったデータ・タイプか、あるいは形式が間違っているかのどちらかです。

ユーザーの処置: 値を訂正してアクションを再度呼び出してください。

DBA6117W 変更前イメージ列 "`<column_list>`" が "`<number>`" バイトに切り捨てられました。これは、オリジナル列の長さが、変更前イメージ接頭部 "`<before_image_prefix>`" に付加される前にデータベース制限に達していたためです。

説明: 元のソース表からの列の長さがデータベースの制限に達しています。変更前イメージ接頭部に追加される前に、列名の終わりにある文字が、データベースの制限に適合するように、切り捨てられています。新しい変更前イメージ列名は、切り捨てられた文字に固有名を保証するため、固有とはなりません。

ユーザーの処置: 切り捨てられた名前が固有でない場合には、変更前イメージ列をチェック解除して、アクションを再実行してください。

DBA6118W データ・タイプ "`<datatype_list>`" はデータベース "`<database>`" でサポートされません。データ・タイプは SQL スクリプトで "`<datatype_list>`" に変換されません。

説明: ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。ただし、同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにあります。生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タ

イプの代わりに、変換されたデータ・タイプを使用します。

ユーザーの処置: 変換されたデータ・タイプが許可できるものである場合、処置は必要ありません。許可できるものでない場合、ターゲット列をチェック解除して、アクションを再実行してください。

DBA6119W データ・タイプ "`<datatype_list>`" はデータベース "`<database>`" でサポートされません。これらのデータ・タイプが含まれる列は、SQL スクリプトから排除されます。

説明: ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにあります。生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タイプが含まれる列を排除します。

ユーザーの処置: 特定のデータ・タイプを、将来名前付きデータベースでサポートしてもらいたい場合には、IBM サービスに連絡してください。

DBA6120W ソース表 "`<table_name>`" は 1 次キーで定義されていません。ターゲット表の 1 次キーを「ターゲット列」ページで指定してください。

説明: サブスクリプション定義アクションは、ソース表に対する修飾 1 次キーを検出できませんでした。そのため、サブスクリプション定義はターゲット表に対する該当 1 次キーを判別できません。

ユーザーの処置: ターゲット表の 1 次キーを「拡張」ノートブックの「ターゲット列」ページで指定してください。

DBA6121W 非互換 Java 実行時環境が検出されました。必要なレベルの Java 実行時環境がインストールされているかどうかを確認してください。

説明: インストールされた Java 実行時が、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 前提となる Java 実行時環境レベルの情報については、コントロール・センターの readme.htm を参照してください。

DBA6123E オブジェクトのスキーマ名の長さが "`<number>`" バイトを超えているので、要求されたアクションを実行できません。

説明: データ複製コンポーネントは最長 18 バイトのスキーマ名をサポートします。それよりも長いスキーマ名のオブジェクトに対して複製アクションを実行しようとした。アクションを実行できません。

ユーザーの処置: スキーマ名が 18 バイト以下のオブジェクトを選択して、アクションを再実行してください。

DBA6124W 一部のオブジェクトのスキーマ名の長さが "`<number>`" バイトを超えているため、選択されたそれらのオブジェクトでは要求されたアクションを実行できません。

説明: データ複製コンポーネントは最長 18 バイトのスキーマ名をサポートします。それよりも長いスキーマ名の一部のオブジェクトに対して複製アクションを実行しようとした。アクションはスキーマ名が 18 バイト以下のオブジェクトに対してだけ実行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBA6125W フィールド "`<field>`" に "`<number>`" バイトを超える長さのスキーマ名があります。スキーマ名は "`<number>`" バイトで切り捨てられます。

説明: データ複製コンポーネントは最長 18 バイトのスキーマ名をサポートします。フィールド内のスキーマ名は 18 バイトを超えるので、18 バイトに切り捨てられます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。ただし既存のスキーマ名を切り捨てたくない場合は、フィールドに入力するスキーマ名を短くしてください。

DBA7000E "`<product-name>`" のライセンスは除去できません。 RC = "`<return-code>`"

説明: ライセンスを除去できませんでした。ライセンスが `nodelock` ファイルに見つからないか、`nodelock` ファイルを更新できませんでした。

ユーザーの処置: `nodelock` ファイルの許可を検査して、ライセンスがあることを検査してください。

ファイルの位置は、以下のようにプラットフォームによって特定されます。

- AIX - `/var/ifor/nodelock`
- Windows NT4/95/98/2000 OS/2 - `$DB2PATH/license/nodelock`
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - `/var/lum/nodelock`

DBA7001E ライセンスを `nodelock` ファイルに追加できませんでした。 RC = "`<return-code>`"

説明: ライセンス・ファイルの転送中またはライセンスのインストール中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: `nodelock` ファイルの許可を検

査してください。ファイルの位置は、以下のよう
にプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows NT4/95/98/2000 OS/2 -
\$DB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システ
ム - /var/lum/nodelock

またコマンド行ユーティリティーの db2licm を使
用してライセンスを追加することもできます。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡
してください。

DBA7002E ライセンス証明書が無効です。有効
なライセンス・ファイルでこのコマ
ンドを再度試行してください。 RC
= “<return-code>”

説明: 指定されたファイルに含まれるライセンス
証明書に有効な db2 ライセンスがないか、認識
されていない形式になっています。

ユーザーの処置: 弊社の担当者または正規販売代
理店から有効な DB2 ライセンス証明書を入手し
てください。

DBA7003W 現在のユーザーのリストを検索でき
ません。 RC = “<return-code>”

説明: ユーザーをトラックするデーモンまたはサ
ービスが正しく機能していないか、まだ開始され
ていません。並列ユーザー・ポリシーまたは登録
されているユーザー・ポリシーを活性化してくだ
さい。

ユーザーの処置: 並列ユーザー・ポリシーまたは
登録されているユーザー・ポリシーをオンにし
て、すべてのインスタンスを再始動してくださ
い。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡
してください。

DBA7004E 登録済みユーザーを登録済みユーザ
ー・リストから除去できませんでし
た。 RC = “<return-code>”

説明: サーバーにある登録済みユーザー・リスト
を、要求された変更を行って更新することができ
ませんでした。

ユーザーの処置: ユーザーが存在し、これがこの
製品に対して有効なアクションであることを確認
してください。問題が解決されない場合は、IBM
サービスに連絡してください。

DBA7005E 登録済みユーザーの追加ができませ
んでした。 RC= “<return code>”

説明: サーバーにある登録済みユーザー・リスト
を、要求された変更を行って更新することができ
ませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー名が有効で、登録済み
ユーザー・ポリシーがこの製品にとって有効であ
ることを確認してください。問題が解決されない
場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7006E ライセンス・ポリシーを更新できま
せんでした。 RC = “<return
code>”

説明: この製品のライセンス・ポリシーを更新し
ようとしたのですが、できませんでした。

ユーザーの処置: コマンド db2licd -xxx を使用
するか、Windows NT の場合は Services Control
Manager を使用して、インスタンスとライセン
ス・サーバーを再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡
してください。

DBA7007E ライセンス使用法に関する統計を検
索できませんでした。 RC =
“<return-code>”

説明: 統計が破損しているか、通信エラーが発生
したか、または使用できるデータがありません。

データはポリシーが更新されてインスタンスが再始動された後に、接続と切断をされると生成されます。

ユーザーの処置: 統計が破損していたら、統計データベースを除去してください。そうすると、以前に収集されたすべての統計が除去されます。位置はプラットフォームごとに異なり、また製品がどこにインストールされているかによっても影響されます。

- UNIX - DB2 インストール・ディレクトリ
- /misc/db2licst
- Windows NT4/95/98/2000 OS/2 -DB2 インストール・ディレクトリ - ¥license¥db2licst.dat

DBA7008I インスタンスが開始されるまで、ライセンス・ポリシーは完全には有効にはなりません。

説明: インスタンスが再始動されると、ライセンス構成を再読み取りします。

ユーザーの処置: サーバーのインスタンスを再始動します。

DBA7009E この製品 “<product>” は指定されたライセンス・ポリシーをサポートしません。 RC = “<return-code>”

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品で使用することはできません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。

DBA7010E ライセンス・センターは指定されたサーバーから製品のリストを検索できませんでした。 RC = “<return-code>”

説明: このサーバーの製品のリストを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: 管理インスタンスとコントロー

ル・センターを再始動して再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7011E 指定されたアクションを実行するための適切な権限がありません。

説明: ユーザーはこの操作をするための許可を持っていません。

ユーザーの処置: このコマンドを実行するだけの適切な許可のあるユーザー ID でログインしてください。

DBA7012E 指定された期間は、統計が使用できません。

説明: 指定された期間は、統計を使用できません。

ユーザーの処置: 統計のある有効な日付範囲を入力してください。

DBA7013E ライセンス証明書 “<filename>” が見つかりませんでした。有効なライセンス・ファイルでこのコマンドを再度試行してください。 RC = “<return-code>”

説明: 指定されたファイルがないか読み取れません。

ユーザーの処置: 弊社の担当者または正規販売代理店から有効な DB2 ライセンス証明書を入手してください。

DBA7014E ライセンス・センターで一般エラーが発生しました。 RC = “<return-code>”

説明: コントロール・センターおよび管理インスタンスを再始動して、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: 問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7015E DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。
DB2 OLAP 処理は、現在活動状態にあります。

説明: DB2 OLAP Server の実行時に、DB2 で DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。

ユーザーの処置: OLAP ライセンスを更新するには、OLAP プロセスをすべて停止してからこの DB2 ライセンスを再インストールしてください。

DBA7100W ファイル “<file-name>” がオープンできませんでした。そのファイルに対応するインフォメーション・センター内のページ “<page-name>” は表示されません。

説明: インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイル “<file-name>” が正しいディレクトリーからなくなっている可能性があります。

インフォメーション・センターが Java アプレットで実行している場合、Web サーバーが正しく NDX ファイルを処理していない可能性があります。

ユーザーの処置: NDX ファイルが以下にリストされた正しいディレクトリーにあることを確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです。

- タスク - db2tasksuc.ndx
- ブック - db2booksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- 障害追及 - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- Web - db2webuc.ndx

これらのファイルは以下のディレクトリーにあります。

- Windows および OS/2: %SQLLIB%\cc\prime
- UNIX: /DB2DIR/cc/en_US、ただし DB2DIR は
 - AIX では /usr/lpp/db2_07_01
 - HP-UX、Solaris、または SGI IRIX では /opt/IBMDb2/V7.1
 - Linux では /usr/IBMDb2/V7.1

DBA7101E インフォメーション・センターのどの NDX ファイルもオープンできないので、インフォメーション・センターを表示できません。

説明: DB2 情報のいずれかのリンクを表示するには、インフォメーション・センターは少なくとも 1 つの NDX ファイルを読み取る必要があります。

インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイルが正しいディレクトリーにない可能性があります。

インフォメーション・センターが Java アプレットで実行している場合、Web サーバーが正しく NDX ファイルを処理していない可能性があります。

ユーザーの処置: NDX ファイルが以下にリストされた正しいディレクトリーにあることを確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです:

- タスク - db2tasksuc.ndx
- ブック - db2booksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- 障害追及 - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- Web - db2webuc.ndx

これらのファイルは以下のディレクトリーにあります。

- Windows および OS/2: %SQLLIB%\cc\prime
- UNIX: /DB2DIR/cc/en_US、ただし DB2DIR は

- AIX では /usr/lpp/db2_07_01
- HP-UX、Solaris、または SGI IRIX では /opt/IBMDB2/V7.1
- Linux では /usr/IBMDB2/V7.1

DBA7102W ファイル “<file-name>” が正しくフォーマットされていません。次の行は無視されます:
“<line-numbers>” これらの行を正しくフォーマットしてください。

説明: NDX ファイル内の各行はコンマで区切られたリストの形式になっていなければなりません。以下はその例です。

```
"IBM",1,"IBM Home Page",http://www.ibm.com
```

リストの形式は以下のとおりです。

- 1 ツリー形式で表示される項目の名前またはインフォメーション・センターの項目のリストの名前
- 2 この項目のカテゴリーを表す数
- 3 この項目が選択されたときに状況表示行に表示される記述
- 4 項目の位置を示す完全 Web アドレス

ユーザーの処置: このファイルを編集した場合、各行が以下のように正しくフォーマットされていることを確認してください。

- 名前および記述の最初と最後は二重引用符でなければなりません。
- 名前と記述には二重引用符を含めないでください。
- 区切り文字にはコンマを使用してください。
- ファイル内の最初項目はファイル内の項目数に対応する数です。項目を追加または除去する場合、この数を手操作で更新してください。

DBA7200E 最大 10 の列を geocoder への入力として選択できます。

説明: 10 列を超える列が geocoder への入力として選択されました。

ユーザーの処置: 「選択列」ボックスが 10 個以下の名前をリストするまでは、列名を「選択列」から「使用可能列」に移動します。

DBA7201E データベースを使用して地理情報エクステンダーを実行することはできません。

説明: 地理情報エクステンダーを使用可能にしないと、地理情報エクステンダーの操作を実行できません。

ユーザーの処置: データベースを右クリックして、メニューから「地理情報エクステンダー」->「使用可能」を選択します。

第6章 DBI メッセージ

この章では、DB2 製品のインストールおよび構成時に出される可能性のあるエラー・メッセージについて説明します。

DBI1001I 使用法 :

```
db2icrt [-a AuthType]
         [-p PortName]
         [-s InstType]
         [-w WordWidth]
         -u FencedID InstName
```

説明: db2icrt コマンドに無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ
(SERVER、CLIENT、DCS、DCE、
SERVER_ENCRYPT、DCS_ENCRYPT、
または DCE_SERVER_ENCRYPT)

-p PortName

このインスタンスで使用されるポート名
あるいはポート番号

-s InstType

作成されるインスタンスのタイプ
(eee、ee、あるいは client)

-u FencedID

分離した UDF および分離したストアード・プロシージャが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

-w WordWidth

作成されるインスタンスの幅 (バイト単

位: 32 または 64) です。(AIX、Sun)
これを機能させるためには、DB2 の前提条件バージョン (32 ビットまたは 64 ビット) がインストールされていなければなりません。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2icrt [-a AuthType]
         -u FencedID InstName
```

DBI1003I 使用法 :

```
dlfmcrct [-b BackupDir]
          -p PortName
          DLFMAdmin
```

説明: 無効な引き数が dlfmcrct コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-p このインスタンスで使用されるポート名
あるいはポート番号

-b BackupDir は、dlfm データベースのバックアップを作成するために使用されるディレクトリーです。

DLFMAdmin

DB2 データ・リンク・マネージャー管理
者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmcrt -p PortNum DLFMAdmin
```

DBI1005I 使用法 :

db2idrop InstName

説明: 間違った引き数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2idrop InstName
```

DBI1006I 使用法 :

db2idrop [-f] InstName

説明: 間違った引き数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-f 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2idrop [-f] InstName
```

DBI1007I 使用法 :

dlfmdrop DLFMAdmin

説明: 無効な引き数が dlfmdrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

DLFMAdmin

DB2 データ・リンク・マネージャー管理
者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmdrop DLFMAdmin
```

DBI1008E インストールするメディアと AIX のバージョンが一致しません。

説明: AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、AIX バージョン 4 および AIX バージョンの CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 5 を実行していることを検出しましたが、AIX バージョン 4 用の DB2 CD からインストールしています。

ユーザーの処置: AIX バージョン 5 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

DBI1009E インストールするメディアと AIX のバージョンが一致しません。

説明: AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、AIX バージョン 4 および AIX バージョンの CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョ

ン 4 を実行していることを検出しましたが、AIX バージョン 5 用の DB2 CD からインストールされています。

ユーザーの処置: AIX バージョン 4 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

DBI1011I 使用法 :

```
db2iupdt [-hl-?] [-d] [-k] [-s]
          [-a AuthType]
          [-w WordWidth]
          [-u FencedID]
          {-eInstName}
```

説明: 間違った引き数が db2iupdt コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- k** 更新中の現行インスタンス・タイプを保持する
- s** 既存の SPM ログ・ディレクトリーを無視する

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ
(SERVER、CLIENT、DCS、DCE、
SERVER_ENCRYPT、DCS_ENCRYPT、
または DCE_SERVER_ENCRYPT) デフォルトは SERVER です。

-w WordWidth

作成されるインスタンスの幅 (バイト単位: 32 または 64) です。(AIX、Sun) -e が指定されている場合は無視されます。これを機能させるためには、DB2 の前提条件バージョン (32 ビットまたは 64 ビット) がインストールされていなければなりません。

-u FencedID

分離した UDF および分離したストア

ド・プロシージャーが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

- e** すべてのインスタンスが更新されるよう指定します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 正しいオプションおよび引き数でコマンドを再入力してください。

DBI1012I 使用法 :

```
db2iupdt [-f] -u FencedID
          InstName
```

説明: 間違った引き数が db2iupdt コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

-u FencedID

分離した UDF および分離したストアド・プロシージャーが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2iupdt [-f] -u FencedID InstName
```

DBI1013I 使用法 :

dlfmupdt [-hl-?] DLFMAdmin

説明: 無効な引き数が dlfmupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

DLFMAdmin

DB2 データ・リンク・マネージャー管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

dlfmupdt [-hl-?] DLFMAdmin

DBI1014E 32 ビットへのインスタンス・マイグレーションはサポートされていません。

説明: 64 ビットから 32 ビットへのマイグレーションは、このバージョンではサポートされていません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1015I 使用法 :

**db2imigr [-a AuthType]
-u FencedID InstName**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ
(SERVER、CLIENT、DCS、DCE、
SERVER_ENCRYPT、DCS_ENCRYPT、
または DCE_SERVER_ENCRYPT)

-u FencedID

分離した UDF および分離したストア

ード・プロシージャーが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

db2imigr [-a AuthType]
-u FencedID InstName

DBI1016I 使用法 :

**db2imigr [-f] [-a AuthType]
-u FencedID InstName**

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-f 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ
(SERVER、CLIENT、DCS、DCE、
SERVER_ENCRYPT、DCS_ENCRYPT、
または DCE_SERVER_ENCRYPT)

-u FencedID

分離した UDF および分離したストアード・プロシージャーが実行されるシステム下のユーザー名 DB2 クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: このコマンドに関する詳細については、ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2imigr [-f] [-a AuthType]
          -u FencedID InstName
```

DBI1018I 使用法 :

```
db2istop [-hl-?] [-d]
          [-f] InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2istop [-hl-?] [-d] [-f] InstName
```

DBI1020I 使用法 :

```
db2setup [-hl-?] [-d]
          [-r RespFile]
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする

-r RespFile

DB2 のインストールに使用される応答ファイルの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2setup [-hl-?] [-d] [-r RespFile]
```

DBI1021I 使用法 :

```
db2imigrev [-hl-?] [-m Version]
            InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- m** DB2 のバージョンを指定します。

バージョン

逆方向へマイグレーションされるインスタンスのバージョンです。

InstName

DB2 のバージョン 7 から以前のバージョンにマイグレーションされるインスタンスの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2imigrev [-hl-?] InstName
```

DBI1022I 使用法 :

```
db2imigrev [-hl-?]
            [-f] InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用法情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラ

グが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

DB2 のバージョン 7 から以前のバージョンにマイグレーションされるインスタンスの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2imigrev [-hl-?] [-f] InstName
```

DBI1023I 使用法 :

```
db2ginfo [-hl-?] [-y]
           [-c InstName
           [-a AuthType]
           [-u FencedID]]
           OutputDir
```

説明: db2ginfo コマンドに無効な引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法を表示する

-y スクリプト表示 (警告を表示するのみ)。

-c InstName

テストするインスタンスの指定。

-a AuthType

認証タイプ
(SERVER、CLIENT、DCS、DCE、
SERVER_ENCRYPT、DCS_ENCRYPT、
DCE_SERVER_ENCRYPT) の指定

-u FencedID

隔離したユーザー ID を指定する

OutputDir

出力ファイル dbginfo.txt が置かれるディレクトリー。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2ginfo [-hl-?] [-y]
          [-c InstName [-a AuthType]
          [-u FencedID]] OutputDir
```

DBI1024I 使用法 :

```
db2iauto [-hl-?] -onl-off
          InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-onl-off

インスタンスの自動開始を使用可能/使用不能にする

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2iauto [-hl-?] -onl-off InstName
```

DBI1025I 使用法 :

```
dasicrt DASName
```

説明: 間違った引き数が dasicrt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

DASName

DB2 管理サーバーの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasicrt DASName
```

DBI1026I 使用法 :

```
dlfmfsmd [-hl-?] [-j] dlfsMntPt
```

説明: dlfmfsmd コマンドに無効な引き数が入力

されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-? 使用情報を表示する
- j 名前付きファイル・システムを ddfs から jfs (AIX) または ufs (SUN) に変更する

ddfsMntPt

データ・リンク・マネージャー・フィルター・ファイル・システムのマウント・ポイント (スラッシュ / も含む)

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmfmsmd ddfsMntPt
```

DBI1027I 使用法 :

dasidrop DASName

説明: 間違った引き数が dasidrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-? 使用情報を表示する

DASName

DB2 管理サーバーの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasidrop DASName
```

DBI1028I 使用法 :

dasiupdt [-hl-?] DASName

説明: 間違った引き数が dasiupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- hl-? 使用情報を表示する

DASName

DB2 管理サーバーの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasiupdt [-hl-?] DASName
```

DBI1029I 使用法 :

db2nqadm [start|stop]

説明: 無効な引き数が db2nqadm コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

```
start  すべての NetQ サービスおよびデー  
モンを開始する  
stop   すべての NetQ サービスおよびデー  
モンを停止する
```

いずれかの引き数を指定してください。

ユーザーの処置: 正しい引き数で、コマンドを再入力してください。

DBI1030E カーネル・パラメーター

“<name>” は “<value>” に設定してください。

説明: DB2 ではある特定のカーネル・パラメーターを更新する必要があります。

ユーザーの処置:

- ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルの記述どおりに、必要なくすべてのカーネル・パラメーターを更新します。
- システムをリポートします。
- このコマンドを再度試行します。

DBI1031E 選択した製品をインストールするには、まず **DB2 UDB** ワークグループ・エディション、**DB2 UDB** エンタープライズ・エディション、または **DB2 UDB** エンタープライズ - 拡張エディションのいずれかをインストールしなければなりません。

ユーザーの処置:

- DB2 UDB ワークグループ・エディション、DB2 UDB エンタープライズ・エディション、または DB2 UDB エンタープライズ拡張エディションのいずれかをインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1032E 選択した製品は、バージョン 4.3 未満の **AIX** にはインストールできません。

説明: 選択した DB2 製品には、バージョン 4.3 以上の **AIX** が必要です。

DBI1033E 選択した製品をインストールするには、まず **DB2 UDB** エンタープライズ・エディションまたは **DB2 UDB** エンタープライズ - 拡張エディションのいずれかをインストールしなければなりません。

ユーザーの処置:

- DB2 UDB エンタープライズ・エディションまたは DB2 UDB エンタープライズ拡張エディションのいずれかをインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1034W 前提条件パッケージが見つかりません。

説明: パッケージ “<pkg-name>” のいずれかをインストールしよう選択しましたが、インストールされている “<pkg-name>” ファイル・セットの

レベルが “<name>” よりも低くなっているか、またはこれを削除できません。

ユーザーの処置: “<pkg-name>” ファイル・セットがバージョン “<name>” またはそれ以上であることを確認してください。

“<pkg-name>” のレベルは DB2 のインストールに影響を与えません。

DBI1035E ファイル・システム “<File-System>” のマウントに失敗しました。

説明: 示されているファイル・システムをマウントしようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムが定義されていることを確認してください。マウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

DBI1036E ファイル・システム “<File-System>” のアンマウントに失敗しました。

説明: 示されているファイル・システムをアンマウントしようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: アンマウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

DBI1037E ファイル・システム “<File-System>” は存在しません。

説明: 示されているファイル・システムは、このワークステーションに定義されていません。

ユーザーの処置: ワークステーションにファイル・システムを定義して、やり直してください。

DBI1038E ファイル・システム “<File-System>” を変更できません。

ユーザーの処置: ファイル・システム定義を備えたシステム・ファイルへの書き込み許可があるか

どうか確認して、やり直してください。

DBI1039W 前提条件パッケージが見つかりません。

説明: パッケージ: “<name>” のいずれかをインストールするよう選択しましたが、“<name>” ファイル・セットのレベルが “<name>” よりも低くなっています。

ユーザーの処置: CD で提供されている “<name>” ファイル・セット・バージョン “<name>” をインストールしてください。

DBI1040I 次のメッセージの翻訳バージョンはこのシステムでは使用できません。

ユーザーの処置: 次のメッセージの翻訳バージョンはこのシステムでは使用できません。PRODDIR/Readme/LOCALE ディレクトリーの “インストール・ノート” ファイルを参照してください。PRODDIR は製品のディレクトリーで LOCALE はロケール名です。たとえば、プロダクト・ディレクトリーは次のものがあります。

```
/usr/lpp/db2_07_01 (AIX)
/opt/IBMdb2/V7.1 (Solaris, HP-UX, SCO
                  UnixWare, SGI,
                  NUMA-Q)
/usr/IBMdb2/V7.1 (Linux)
```

DBI1041E ファイル・システム “<inputMntPt>” を dlfs に変換できません。

説明: ファイル・システム “/”、“/var”、“/usr”、および “/tmp” を dlfs ファイル・システムに変換できません。これは、dlfs ファイル・システムを作成すると起きるおそれのあるブート問題が起きないようにするための措置です。

ユーザーの処置: 別のファイル・システムを指定してコマンドをもう一度実行してください。

DBI1042E 基本ファイル・システム “<BaseFS>” を dlfs に変更できません。

説明: Aix では、vfs が fsm または jfs の場合にのみ、ファイル・システムを dlfs に変更できます。他の dfs では dlfs はサポートされてません。

ユーザーの処置: jfs または fsm ファイル・システムでコマンドをもう一度実行してください。

DBI1043E 選択した製品の場合、最初に DB2 アドミニストレーション・クライアントをインストールする必要があります。

ユーザーの処置:

- DB2 アドミニストレーション・クライアントをインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1050E サポートされていないオペレーティング・システム - “<OS-name>”、バージョン “<OS-ver>”。

説明: 現行のオペレーティング・システムがサポートされていないか、あるいはオペレーティング・システムのこのバージョンがサポートされていません。ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

DBI1051E このプログラムを root で実行することはできません。

説明: このプログラムは root 以外のユーザー ID でのみ実行できます。

ユーザーの処置: root 以外のユーザー ID でログインしてから、コマンドを再発行してください。

DBI1052E このプログラムを実行するには
root である必要があります。

説明: このプログラムは **root** ユーザー ID でのみ実行できます。このプログラムを実行するには特別な特権が必要です。

ユーザーの処置: **root** でログインしてから、コマンドを再発行してください。

DBI1053E “<fsys-type>”のファイル・システム・タイプはサポートされていません。

説明: このタイプのファイル・システム上にインスタンスのホーム・ディレクトリーを作成することはサポートされていません。インスタンスのホーム・ディレクトリーは、ローカル・ファイル・システムあるいは NFS が取り付けられたファイル・システムに存在する必要があります。

ユーザーの処置: サポートされているファイル・システムにホーム・ディレクトリーを変更してインスタンスの再作成をしてください。

DBI1055E メッセージ・ファイル
“<file-name>”が見つかりません。

説明: インスタンス・コマンドが必要とするメッセージ・ファイルが、システムから失われていますが、これが削除されているか、またはデータベース製品が正しくインストールされていない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを備えた製品オプションが正しくインストールされているかを調べてください。検証エラーがある場合は、製品オプションを再インストールしてください。

DBI1057E 必須ロケール “<locale>” が無効です。

説明: 必須ロケールのディレクトリー、`/usr/lib/locale/LANG/LC_MESSAGES` が存在しません。ここで LANG は現行ロケール名です。

ユーザーの処置: 指定されたロケールが正しくインストールされたかどうか確認してください。さらに、読み取りと実行の許可がそのディレクトリーに正しく設定されているかチェックしてください。

DBI1060E 無効なパッケージ名
“<pkg-name>”。

説明: 間違った名前が入力されました。そのパッケージは存在しないか、または名前が間違えて入力されました。

ユーザーの処置: 与えられたパッケージの名前が配布メディアに存在するかどうか確認してください。存在する場合、名前につづりの間違いがないか調べてください。すべてのパッケージ名は小文字である必要があります。

DBI1061E ファイル・セットまたはパッケージ名 “<pkg-name>” がありません。

説明: ソフトウェアの前提条件を検証中にエラーが起きました。このコマンドを使用する前に上記のファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: 与えられたパッケージの名前がシステムにインストールされているかどうか確認してください。

DBI1062E ファイル・セットまたはパッケージ名 “<pkg-name>” がありません。

説明: このコマンドを使用する前に上記のファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: ファイル・セットまたはパッケージをインストールして、コマンドを再発行してください。

DBI1063E PTF またはパッチ
“<patch-name>”がありません。

説明: このコマンドを使用する前に、上記の PTF またはパッチをインストールする必要があります。このコマンドを正常に実行するには、この PTF またはパッチが必要です。

ユーザーの処置: 必要な PTF またはパッチをインストールして、コマンドを再発行してください。

DBI1065E プログラム “<program-name>”
が異常終了しました。

説明: 実行中にエラーが発生し、このプログラムが異常終了しました。

ユーザーの処置: 問題を訂正してコマンドを再試行してください。

DBI1066E プログラム “<program-name>”
は要求によって終了されました。

説明: このプログラムはユーザーによって終了されました。

ユーザーの処置: 同じコマンドを発行しプログラムを再始動してください。

DBI1067E ロケール “<locale-name>” の
DB2 製品ライブラリーはインストールされていません。

説明: DB2DIR/doc/“<locale-name>”/html ディレクトリに、tar 圧縮された HTML ファイルがありません。ここで、

```
DB2DIR =  
/usr/lpp/db2_07_01 (AIX)  
/opt/IBMcdb2/V7.1 (HP-UX, Solaris, SCO  
UnixWare, NUMA-Q)  
/usr/IBMcdb2/V7.1 (Linux)
```

ユーザーの処置: 必要なロケールの DB2 製品ラ

イブラリーをインストールして、このコマンドを再発行してください。

DBI1068E ディレクトリ “<dir-name>” に
HTML ファイルのすべてを圧縮解
除および un-tar するのに十分なス
ペースがありません。

説明: ファイルシステムがいっぱいなため、圧縮解除および un-tar を行った後で、HTML ファイルをすべて上記のディレクトリに保管できません。

ユーザーの処置: ファイルシステムのサイズを増やすか、またはファイルシステムで十分なディスク・スペースを解放してください。コマンドをもう一度発行してください。

DBI1069E 予期しないエラーです。関数 =
“<fname>”、戻りコード =
“<return-code>”。

説明: このプログラムの実行中、想定外のエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 関数名
- 戻りコード
- 問題記述

DBI1070I プログラム “<program-name>” は
正常に完了しました。

DBI1072I db2licm が nodelock ファイルを
更新できませんでした。詳細情報に
ついては、ログ・ファイル
“<log-name>” を参照してくださ
い。

説明: db2licm が nodelock ファイルにライセンスを追加できなかったため、DB2 は製品ライセン

スがインストールされるまで試供版のライセンスで実行されます。

ユーザーの処置: コマンドを再試行し、またうまくいかない場合には、`nodlock` ファイルにライセンス・キーを手動で追加してください。ライセンスの詳細情報については、「概説およびインストール」を参照してください。

DBI1079I 出力はログ・ファイル
“<log-name>” に保存されています。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1080E ディスクがいっぱいです。
“<dir-name>” には “<KB>” KB が最低限必要ですが、使用可能なスペースは “<KB>” KB しかありません。

説明: ファイル・システムあるいはディレクトリに十分な空きスペースがありません。

ユーザーの処置: ディスク・スペースを開放してコマンドを再試行してください。

DBI1081E ファイルまたはディレクトリ
“<file-name>” がありません。

説明: このコマンドの処理に必要なファイルまたはディレクトリがありません。

ユーザーの処置: ファイルがいずれかのデータベース製品に属するものである場合は、その製品が正しくインストールされているかどうかを調べて、必要であればその製品を再インストールしてください。ファイルがインスタンスに属するものである場合は、そのインスタンスがすでに除去されているか、または壊れている可能性があります。

与えられたディレクトリの名前がシステムに存在しているかどうか確認してください。存在する場合、名前につづりの間違いがないか調べてください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリの名前でも、大文字小文字が区別されることに注意してください。

DBI1082E ファイルまたはディレクトリ
“<file-name>” がすでに存在しています。

説明: コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリが、すでに存在しています。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリを調べてください。前にコマンドが正常に完了した結果としてファイルまたはディレクトリが存在する場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリを名前変更または除去する必要があります。

DBI1083E “<file-name>” を除去しようとした
ましたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリの削除中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリの所有権が不適当である可能性があります。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリのファイル許可または所有権を調整して、コマンドを再発行してください。

DBI1084E “<file-name>” を作成しようとした
ますが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリの作成中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムに十分なスペースがあること、また必要なディレクトリに対して書き込み許可があることを確かめてください。推奨ディレクトリ許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1085E ファイルまたはディレクトリー “<file-name>” を “<file-name>” へ移動しようとしたますが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの再配置中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理できませんでした。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーが移動できなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

DBI1086E ファイルまたはディレクトリー “<file-name>” を “<file-name>” へコピーしようとしたますが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーのコピー中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理できませんでした。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーがコピーできなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

DBI1087E リンク “<filename>” を作成しようとしたますが、失敗しました。

説明: 与えられたリンクを作成できません。親ディレクトリーの書き込み許可がオフになっているか、あるいはこのファイルまたはディレクトリーと同一の名前がすでに存在していることが考えられます。

ユーザーの処置: 親ディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rX` です。

DBI1088E ディレクトリー “<directory>” で無効なアクセス許可が検出されました。

説明: このエラーが発生する場合、複数の理由がある可能性があります。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられた名前がディレクトリー名でない、あるいは読み取りおよび実行許可がない。
- 与えられたディレクトリーは作成できるがアクセスできない。このパスにある親ディレクトリーのいずれかの許可が、正しく設定されていないと考えられます。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rX` です。

DBI1089E “<backup-dir>” ディレクトリーに現行インスタンス関連情報を保管中のエラーです。

説明: このエラーが発生する場合、複数の理由がある可能性があります。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 指定されたディレクトリーに十分な許可がないか、あるいは書き込み許可がありません。
- ファイルシステムに残っているスペースがありません。

ユーザーの処置: 適切な訂正処置を行なって、コマンドを再発行してください。

DBI1090E “<file-name>” の “<parameter>” を更新しようとしたますが、失敗しました。

説明: 提供されたファイルの更新でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: “<parameter>” のすべてのオカレンスが “<file-name>” で “<value>” に設定されているか、確認してください。

DBI1091E “<directory>” に対する許可を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの所有権の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの許可および所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1092E “<directory>” に対する所有権を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの所有権の変更中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

DBI1093E “<directory>” に対するグループ所有権を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの所有権の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

DBI1094E ディレクトリー・アクセス・エラーです。

説明: ツールが、ディレクトリー・サーバーでの入出力操作中にアクセス・エラーを見つけました。

ユーザーの処置: ディレクトリー・サーバーがオンラインで、LAN でアクセス可能であることを確認してください。

DBI1095W ファイルまたはディレクトリー “<name>” が見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル / ディレクトリーを提供するファイル・セット / パッケージがインストールされていることを確認してください。

DBI1096E ファイルまたはディレクトリー “<file-name>” がすでに存在しています。

説明: コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。このファイルまたはディレクトリーが必要でない場合、除去してコマンドを再実行してください。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

DBI1097E ファイルまたはディレクトリー “<file-name>” が存在しません。

説明: コマンドに必要なファイルまたはディレクトリーが存在しません。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーが存在しない場合、ファイルまたはディレクトリーを提供するソフトウェアをインストールする必要がある場合があります。ファイルまたはディレクトリーが存在する場合、PATH 変数が正しく設定されているかどうか、チェックしてください。

ファイルまたはディレクトリーが PATH に設定されたら、コマンドを再試行してください。

DBI1100E インスタンス・ロックが検出されました。別のインスタンス管理コマンドが実行中です。

説明: 別のインスタンス管理コマンド (たとえば、db2icrt, db2idrop, db2iupdt, または db2imigr) が実行中であるため、このコマンドが失敗しました。インスタンス管理コマンドは、排他ロックを獲得しているため、同一インスタンスに対して同時にコマンドを実行することができません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行する前に、インスタンス・コマンドの他のすべてのオカレンスの実行が完了するのを待ってください。他のインスタンス・コマンドが実行されていない場合、次のいずれかのディレクトリーで、ファイル “instance.lock” を削除してください。

```
/var/db2/v71  
または /var/opt/db2/v71
```

DBI1101E インスタンス名が無効です。

説明: インスタンス名は、既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下の名前は使用できません。

1. 8 文字より長い名前。
2. “sql”、“ibm” または “sys” で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a-z、\$, #、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1103E 管理サーバーはすでに存在しています。

説明: 管理サーバーがすでにご使用のシステムに作成されていることを検出しました。1 つのシステムに管理サーバーは 1 つしか作成できません。

ユーザーの処置: 管理サーバーを再作成する場合、先に管理サーバーをドロップしないと再作成できません。

DBI1104E 管理サーバーはドロップできません。

説明: 管理サーバーをドロップ (ドロップ) しようとして、失敗しました。システムは管理サーバーが存在しないか、あるいは異なるユーザー ID で作成されていることを検出しました。

ユーザーの処置: “dasilist ” コマンドで報告された管理サーバーの名前が正しいことを確認して、再試行してください。

DBI1105E DB2 データ・リンク・マネージャー管理者はすでに存在します。

説明: システムが、DB2 データ・リンク・マネージャー管理者がシステムにすでに作成されていることを検出しました。DB2 データ・リンク・マネージャー管理者は、システムごとに 1 つしか作成できません。

ユーザーの処置: DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を再作成したい場合、その前に DB2 データ・リンク・マネージャー管理者をドロップしなければなりません。

DBI1106E DB2 データ・リンク・マネージャー管理者をドロップできません。

説明: DB2 データ・リンク・マネージャー管理者をドロップしようとしたが、失敗しました。システムが、DB2 データ・リンク・マネージャー管理者が存在しないか、または別のユーザー ID で作成されていることを検出しました。

ユーザーの処置: “dlfmlist” コマンドで報告されている DB2 データ・リンク・マネージャー管理者の名前が正しいことを確認して、やり直してください。

DBI1107E DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を作成できません。

説明: DCE によって DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を作成するには、システム上の DFS がバージョン 3.1 またはそれ以上でなければなりません。

DBI1109E カーネル・パラメーターはこのコマンドを使用する前に更新される必要があります。

説明: 正しく構成されていないカーネル・パラメーターがあります。

ユーザーの処置:

- ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルの記述どおりに、必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新します。
- システムをリブートします。
- このコマンドを再度試行します。

DBI1111E FencedID パラメーターはこのコマンドでは -u flag を使用して指定する必要があります。

説明: FencedID パラメーターはこのコマンドを使用して指定する必要があります。FencedID パラメーターは分離したユーザー定義関数 (UDF) および分離したストアード・プロシージャが動作するユーザーの名前に設定されます。

ユーザーの処置: 引き数 “-u FencedID” を追加してコマンドを再入力してください。ここで FencedID は 分離した UDF あるいは分離したストアード・プロシージャが動作するユーザーの名前です。

セキュリティ上の理由から、FencedID としてインスタンス名を使用しないことをお勧めします。ただし、ユーザー定義関数 (UDF) あるいはストアード・プロシージャを使用する予定のない場合に、FencedID をインスタンス名に設定すると、

FencedID に別のユーザーを作成する手間が省けます。

DBI1112E FencedID パラメーター “<fenced-id>” は無効です。

説明: 分離したユーザー定義関数およびストアード・プロシージャが実行されるユーザー名を指定する FencedID パラメーターは以下のいずれかにしてください。

- 既存ユーザーのログイン名。
- root または bin ユーザーの設定は不可。

ユーザーの処置: 有効な FencedID パラメーターでこのコマンドを再度試行してください。

DBI1113W FencedID パラメーターの前の値 “<old-value>” が異なっています。新規の値 “<new-value>” が無視されます。

説明: コマンド行で入力された FencedID パラメーターはこのユーザー ID の前に使用されたパラメーターと異なります。このパラメーターの新規の値は無視されます。

DBI1115E 無効な AuthType パラメーター “<auth-type>” が -a フラグを付けて指定されました。

説明: インスタンスに使用される認証タイプを指定する AuthType パラメーターが無効です。有効な認証タイプは、次のとおりです。

- SERVER
- CLIENT
- DCS
- DCE
- SERVER_ENCRYPT
- DCS_ENCRYPT
- DCE_SERVER_ENCRYPT

ユーザーの処置: 有効な AuthType パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1120E インスタンス “<inst-name>” がドロップできません。

説明: まだ活動状態である可能性のあるインスタンスをドロップしようとしてしました。

DBI1121E “db2idrop” を使用して管理サーバーをドロップできません。

説明: “db2idrop” を使用して管理サーバーのドロップをしようとしてしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasidrop” コマンドを使用して管理サーバーを除去してください。

DBI1122E インスタンス “<inst-name>” が更新できません。

説明: インスタンスを更新しようとしてしました。このインスタンスは以下の理由で更新できません。

- この “db2iupdt” コマンドはこのインスタンスを更新するためには使用できない。
- インスタンスがまだ活動状態である。

ユーザーの処置: 適切なバージョンの “db2iupdt” コマンドを使用していることを確認してください。また、インスタンスで実行中の db2 処理がないことも確認してください。コマンドを再発行してください。

DBI1123E “db2iupdt” を使用して管理サーバーを更新できません。

説明: “db2iupdt” を使用して管理サーバーの更新をしようとしてしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiupdt” コマンドを使用して管理サーバーを更新してください。

DBI1124E インスタンス “<inst-name>” が移行できません。

説明: インスタンスをマイグレーションしようとしてしました。このインスタンスは以下の理由でマイグレーションできません。

- インスタンスがまだ活動状態である。
- このインスタンスのマイグレーションがサポートされていない。
- このバージョンの “db2imigr” がこのインスタンスをマイグレーションするためには使用できない。

ユーザーの処置: インスタンスが、マイグレーションに使用できて、適切なバージョンの “db2imigr” コマンドを使用しているかを確認してください。インスタンスマイグレーションに関する詳細については、ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

DBI1125E “db2idrop” では DB2 データ・リンク・マネージャー管理者をドロップできません。

説明: “db2idrop” を使用して DB2 データ・リンク・マネージャー管理者をドロップしようとしてしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dlfmdrop” コマンドを使用して、DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を除去してください。

DBI1126W 1 つ以上の視点がデータベース・マイグレーションに影響する可能性があります。

説明: DB2 が、変更されたデータベース・エンティティに從属する視点を見つけました。これは、データベース・マイグレーションの失敗を引き起こす原因となります。ユーザーの応答については Release.Notes を参照してください。

DBI1128E “dlfmdrop” を使用して管理サーバーをドロップできません。

説明: “dlfmdrop” を使用して管理サーバーのドロップをしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasidrop” コマンドを使用して管理サーバーを除去してください。

DBI1129E “dlfmupdt” を使用して管理サーバーを更新できません。

説明: “dlfmupdt” を使用して管理サーバーの更新をしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiupdt” コマンドを使用して管理サーバーを更新してください。

DBI1131E ユーザー ID “<user-id>” が無効です。

説明: 与えられたユーザー ID にアクセスしようとして失敗しました。次の状態のいずれかが発生しました。

- このユーザー ID がシステムにない。
- このユーザーのホーム・ディレクトリーが正しく設定されていない。
- DB2 で必要なユーザー属性のいずれかが設定されていない。
- このユーザーの UID が 0 である。

ユーザーの処置: 有効なホーム・ディレクトリーの有効なユーザー ID、シェル、1 次グループ、および 2 次グループが使用されているか、確認してください。必要なら、ユーザーを新規作成してください。

DBI1135E ユーザー ID “<user-id>” の 1 次グループ “<group-name>” が無効です。

説明: インスタンス・ユーザー ID の基本グループ名には、以下を使用することはできません。

1. “guest”、“admin”、“user” または “local” のいずれかの名前。
2. “sql” または “ibm” で始まる名前。
3. 数値で始まる名前、あるいは a-z、\$、#、@、または 0-9 以外の文字を使った名前。

ユーザーの処置: インスタンス・ユーザー ID の 1 次グループを有効な名前を持つグループに変更して、コマンドを再発行してください。

DBI1145W 同期点マネージャー (SPM) ログ・ディレクトリーがすでにあります。

説明: 同期点マネージャー (SPM) ログ・ディレクトリーがすでにあります。SPM の新規バージョンはログの古いバージョンを処理できません。この SPM の新規バージョンを使用する前に、未確定のトランザクションがないかどうか、確認する必要があります。

ユーザーの処置:

- 未確定のトランザクションに関心がない場合、db2iupdt コマンドに -s フラグを付けて実行し、インスタンスを更新して処理を続行します。この結果、sqllib/spmlog50 の下に、sqllib/spmlog ディレクトリーのコピーを作成します。
- 未確定のトランザクションの存在に関心がない場合には、DB2 製品を前のバージョンに戻す必要があります、また未確定のトランザクションに関する製品の readme にある指示に従う必要があります。

DBI1170E **-w** フラグは、可能な入力として **64** または **32** だけを受け入れません。

説明: db2icrt または db2iupdt コマンドを使用している場合、オプション・フラグ **-w** に指定できるのは値 **32** または **64** だけです。64 ビット・インスタンスを作成するには、db2icrt に **-w 64** と指定します。また 32 ビット・インスタンスを 64 ビットに更新するには、db2iupdt に **-w 64** と指定します。このような場合でなければ、**-w** フラグは必要ありません。

ユーザーの処置: 正しい引き数でコマンドを出し直してください。

DBI1171E **DB2 64** ビット・サポートはインストールされていません。

説明: DB2 64 ビット修正パッケージはインストールされていません。32 ビット・インスタンスのみが作成される可能性があります。

ユーザーの処置:

- **-w** オプションを指定せずにコマンドを再実行して、32 ビット・インスタンスを作成してください。
- 64 ビット修正パッケージをダウンロードして、コマンドを再実行してください。

DBI1172E **64** ビットのインスタンスを作成または更新しようとしている時に、**bos.rte.libc** と **bos.adt.prof** のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが、**64** ビットのインスタンスに必要な最低要件より低いことがわかりました。

説明: bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが 4.3.3.50 より低くなっています。このレベルは 64 ビットのインスタンスをサポートするために必要な最低限の要件です。

ユーザーの処置: 処理を進める前に、次の PTF

のいずれかまたは両方をダウンロードしてシステムを更新してください。

- bos.rte.libc の場合、PTF は U473728.bff です。
- bos.adt.prof の場合、PTF は U473581.bff です。

PTF のダウンロードに関する情報は <http://www.ibm.com/aix> から使用できます。

DBI1186I **使用法 :**

db2cdbcr [-d] -n CDBName

説明: 間違った引き数が db2cdbcr コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用方法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-n CDBName

CDBName は、作成するウェアハウス・コントロール・データベースの名前です。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2cdbcr -n CDBName

DBI1187E **DB2** ウェアハウス・コントロール・データベースのセットアップを完了できません。

説明: DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースを作成しようとしたましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: エンタープライズ・エディションのインストールでは、手操作でデータベース作成コマンドを出してください。エンタープライズ - 拡張エディションのインストールでは、ノード・グループ (ノード 0 に作成) と表スペース (どちらも FLG32K と呼ばれる) も同様に作成しなければなりません。詳細については DB2

DataWarehouse の資料を参照してください。

DBI1200E ディレクトリー
“<directory-name>” が、バージョン
“<version-number>” インスタ
ンスではありません。

説明: 示されたディレクトリーが、データベース
製品の必要なバージョンを指していないために、
コマンドが処理できません。

ユーザーの処置: 示されたインスタンスでは、コ
マンドを実行できません。

DBI1202E インスタンス “<inst-name>” の移
行がサポートされていません。

説明: インスタンスは以下の理由で、マイグレイ
ションできません。

1. このバージョンのインスタンスからのマイグ
レーションがサポートされていない。
2. インスタンスがすでに製品の現行バージョン
を使用していてマイグレーションが必要ない。

ユーザーの処置: このインスタンスがマイグレイ
ションに対して有効であるか確認して有効なイン
スタンス名を指定して、コマンドを再試行しま
す。

DBI1205E 新しいバージョンに移行できない 1
つまたは複数のローカル・データベ
ースが検出されました。エラー・リ
ストのログファイル
“<logfile-name>” を調べてくださ
い。

説明: 考えられるデータベース上のエラーは以下
の通りです。

- バックアップ保留中
- ロールフォワード保留中
- データベースの不整合

- 1 つまたは複数の表スペースは正常な状態でない

- SYSCAT、SYSSTAT、または SYSFUN という
スキーマ名を持つデータベース・オブジェクト
がデータベースに入っている

- SYSFUN.DIFFERENCES 関数に依存しているデ
ータベース・オブジェクトの入ったデータベ
ース。違反していると考えられるオブジェクトは
次のとおりです。

- 制約
- 関数
- トリガー
- 視点

ユーザーの処置: ファイル “<logfile-name>” の
各データベースに対して、以下の訂正処置を行っ
てください。

- バックアップ保留中 - データベースをバックア
ップしてください。
- ロールフォワード保留中 - ログの終わりまでデ
ータベースをロールフォワードし、停止してく
ださい。
- データベースの不整合 - 一致した状態に戻すよ
うにデータベースを再始動してください。
- 表スペースが正常な状態でない - データベース
をロールフォワードしてください。
- 無効なスキーマ - オブジェクトをドロップし、
正しいスキーマ名 (修飾子) でオブジェクトを
再作成してください。オブジェクトが表の場
合、最初にそのデータを抽出し、表をドロップ
し、正しいスキーマ名で表を再作成してから、
新しい表にデータをインポートまたはロードし
てください。
- SYSFUN.DIFFERENCES に依存しているオブジ
ェクト -
 - 制約 - 制約をドロップするように表を更新
してください。
 - 関数 - 関数をドロップしてください。
 - トリガー - トリガーをドロップしてくださ
い。

- 視点 - 視点をドロップしてください。

DBI1211E “<directory-name>” の移行が失敗しました。

説明: ディスク・スペースまたはメモリーの不足などのシステム・エラーが、ディレクトリーのマイグレーション中に見つかりました。インスタンスのマイグレーションは失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行する前に、十分なディスク・スペースとメモリーがあることを確認してください。

DBI1212W “<path>” にあるローカル・データベースの移行が失敗しました。

説明: 想定外のエラーが発生したため、ローカル・データベース・ディレクトリーのマイグレーション・プロセスは完了しません。

ユーザーの処置: エラー・ファイル “db2mgdbd.err” およびローカル・データベース・ディレクトリーのバックアップ “sqlbdir/sqllddir.bak” は上記のディレクトリー・パスに作成されます。

使用しているディレクトリーの修理をするには、2 つのファイルを保持し、可能な方法についての指示を IBM サービスにおたずねください。ローカル・データベースがない場合、ローカル・データベースにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

DBI1220W “<path>” 上のノード・ディレクトリーの移行は失敗しました。

説明: 想定外のエラーが発生したため、ノード・ディレクトリーのマイグレーション・プロセスは完了しません。

ユーザーの処置: リカバリーのオプションには以下の 2 通りがあります。

1. ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。

2. エラー・ファイル “db2mgndd.err” およびノード・ディレクトリーのバックアップ “sqlnmdir/sqlnlddir.bak” は上記で言及しているディレクトリー・パスに作成されます。

使用しているディレクトリーの修理をするには、2 つのファイルを保持し、可能な方法についての指示を IBM サービスにおたずねください。ノード・ディレクトリーをリカバリーするには、IBM サービスに連絡してください。

DBI1221W ノード・ディレクトリーが壊れているので、移行できません。

説明: ノード・ディレクトリー・ファイルが同じでないか、またはノード・ディレクトリー・ファイルが壊れています。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。

DBI1222W システム・データベース・ディレクトリーが壊れているので、移行できません。

説明: 1 次およびバックアップ・システム・データベース・ディレクトリーが同一でないか、あるいはシステム・データベース・ディレクトリーが壊れています。

ユーザーの処置: システム・データベース・ディレクトリーを除去し、すべてのデータベース項目を再カタログしてください。

DBI1223W ローカル・データベース・ディレクトリーが壊れているので、移行できません。

説明: 1 次およびバックアップ・データベース・ディレクトリーが同一でないか、あるいはローカル・データベース・ディレクトリーが壊れています。

ユーザーの処置: エラー・ファイル “db2mgdbd.err” およびローカル・データベース・

ディレクトリーのバックアップ

“sqldbdir/sqlddir.bak” は上記のディレクトリー・パスに作成されます。

使用しているディレクトリーの修理をするには、2つのファイルを保持し、可能な方法についての指示を IBM サービスにおたずねください。ローカル・データベースがない場合、ローカル・データベースにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

DBI1225W カatalog済みローカル・データベースの認証タイプが変更されました。

説明: インスタンスに指定されている認証タイプと異なる認証タイプを持つ、1つ以上のカタログ済みデータベース項目が見つかりました。何も処置を行なわないと、すべてのカタログ済みローカル・データベース項目が、それらが属しているインスタンスの認証タイプを想定します。

ユーザーの処置: インスタンスに指定されている認証と同じでないカタログ済みローカル・データベース項目のリストについては、インスタンスのホーム・ディレクトリーのファイル migration.log をチェックしてください。データベースに前の認証タイプを維持させたい場合は、インスタンスの認証タイプを変更するか、またはデータベースを必要な認証タイプを持つ別のインスタンスに移動することができます。ただし、インスタンスの認証タイプを変更する前に、すべてのカタログ済みローカル・データベースに、新しい認証タイプを持たせることを確認する必要があります。

DBI1240E データベース・マネージャーが始動できませんでした。

説明: カatalog済みローカル・データベースがマイグレーション可能かどうかをチェックしようとしたときに、データベース・マネージャーが始動できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが始動できなかった理由を解決して、コマンドを再発行してください。

DBI1250E アプリケーションは、インスタンス“<instance-name>”をまだ使用中です。

説明: 指定されたインスタンスを使用している実行中のアプリケーションが、まだ存在します。コマンドを正常に完了させるには、このインスタンスを使用しているすべてのアプリケーションを終了する必要があります。次のコマンドを実行すると、現在インスタンスを使用中のアプリケーションのリストを取得できます。

```
db2 list applications
```

ユーザーの処置: アプリケーションが終了するのを待つか、またはアプリケーションを明示的に強制終了させることができます。インスタンス所有者としてログオンし、次のコマンドを実行することもできます。

```
db2 force application all
```

上記のコマンドを使用して終了したときに、想定外の動作をするアプリケーションがある可能性があることに注意してください。すべてのアプリケーションが停止したあとで、“db2istop”コマンドを使用してデータベース・マネージャーをしてください。

DBI1260E 応答ファイルから読み取ることができません。

説明: 指定された応答ファイルからの読み取りに失敗しました。応答ファイルに読み取りアクセスがあり、応答ファイルへの指定パスが正しいことを確認してください。

ユーザーの処置: アクセス許可および応答ファイルの位置を訂正して、再試行してください。

DBI1261E 値は、キーワードでは無効です。

説明: 応答ファイルで指定された値は、応答キーワードとして無効です。有効な入力については、サンプル応答ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1262E 応答ファイルに不明のキーワードがあります。

説明: 応答ファイルで指定されたキーワードは無効です。有効なキーワードについては、サンプル応答ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1264E “<program-name>” 実行中にエラーが発生しました。詳細情報については、インストール・ログ・ファイル “<log-name>” を参照してください。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1266I 詳細情報については、ログ・ファイル “<log-names>” を参照してください。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1268E ファイル・セット “<fileset>” はインストール・メディアでは使用できません。

説明: インストールされるファイル・セットのいずれかが、インストール・メディアで見つかりません。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、インストールができません。

ユーザーの処置: ファイル・セットがインストール・メディアにあるかどうかを確認してください。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、このファイル・セットの選択を取り消し、再試行してください。

DBI1270E 応答ファイルにエラーがあります。

説明: 応答ファイルの処理中にエラーを検出しました。問題が訂正されない限り、インストールは続行できません。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1278W 応答ファイルから警告が出されました。

説明: 応答ファイルの処理中に警告を検出しました。DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

ユーザーの処置: 必要であれば、応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1279I 応答ファイルから注意が出されました。

説明: 応答ファイルの処理中に注意を検出しました。DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

ユーザーの処置: これは通知でしかありません。処置は必要ありません。

DBI1281E データベース・マネージャー構成ファイルが初期化できませんでした。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの初期化中にエラーが起きました。DB2 パージョン 7 インスタンスを作成または・マイグレーションできませんでした。

ユーザーの処置: ログ・ファイルを参照して問題を解明してください。問題を解決してコマンドを

再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBI1282E データベース・マネージャー構成ファイルがマージできませんでした。

説明: 2つのデータベース・マネージャー構成ファイルのマージ中に、エラーが見つかりました。前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、新しいデータベース・マネージャー構成ファイルとマージできませんでした。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・マネージャー構成ファイル内の値を調べて、必要ならパラメーターを更新してください。

DBI1283E “<instance>”に対する通信情報が更新できません。

説明: SVCENAME パラメーターまたは DB2COMM レジストリー値、あるいはその両方が、インスタンス作成中に更新できませんでした。

ユーザーの処置: SVCENAME パラメーターがデータベース・マネージャー構成ファイルで “<profile-name>” に設定されていて、次の例を使用して更新されることを確認してください。

```
db2 update dbm cfg using
    SVCENAME “<profile-name>”
```

また、DB2COMM 値は、次のコマンドを実行して tcpip に更新されることを確認してください。

```
db2set DB2COMM=tcpip
```

DBI1290E プロファイル・レジストリー “<profile-name>” を作成しようとしたが、失敗しました。

説明: プロファイル・レジストリーの作成中にエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- プロファイル・レジストリーを備えたファイルに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 次のディレクトリーのいずれかにあるインスタンス・リスト・プロファイルのファイル許可をチェックしてください。

```
/var/db2/v71
または /var/opt/db2/v71
```

DBI1291E インスタンス “<instance-name>” がインスタンス・リストに見つかりませんでした。

説明: 示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: “db2ilist” コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいことを確認してください。有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

DBI1292E インスタンス “<instance-name>” はすでにインスタンス・リストにあります。

説明: 作成または・マイグレーション中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

ユーザーの処置: “db2iset -I” コマンドで報告されているインスタンス・リストの一部でない別のインスタンス名を使用してください。

DBI1293E このシステムには DB2 クエリー・パトローラー・サーバーがセットアップされていません。

ユーザーの処置: DB2 インストーラーによって DB2 クエリー・パトローラーがインストールされていない場合、このインストーラーを使用して

DB2 クエリー・パトローラー・サーバーで使用するインスタンスを正しくセットアップします。インスタンスがセットアップされている場合は、それが `default.env` ファイルに記録されていて、そのファイルが世界中で読み取り可能であることを確認してください。 `default.env` ファイルは以下のいずれかにあります。

```
/var/db2/v71  
または /var/opt/db2/v71
```

DBI1295E インスタンス・リストを更新できませんでした。

説明: インスタンスをインスタンス・リストへ追加できなかったか、またはインスタンス・リストから除去できませんでした。インスタンス・リストからインスタンスを追加または削除しているときにエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- レジストリー・プロファイルに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 次のディレクトリーのいずれかにあるインスタンス・リスト・プロファイルのファイル許可をチェックしてください。

```
/var/db2/v71  
または /var/opt/db2/v71
```

DBI1297E インスタンス・プロファイル “<profile-name>” を更新できませんでした。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーの更新中にエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- インスタンス・プロファイル・レジストリーに誤ったアクセス許可がある。

- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 次のディレクトリーのいずれかにあるインスタンス・リスト・プロファイルのファイル許可をチェックしてください。

```
/var/db2/v71  
または /var/opt/db2/v71
```

DBI1300N `db2set` は DB2 プロファイル変数を表示、設定、あるいは取り除きません。

```
db2set [[[variable]=[value]]  
[-gl-i instance[  
node-number]]]  
[-all] [-null]  
[-r instance[node-number]]  
[-n DAS node[  
-u user[-p password]]]  
[-ll-lr] [-v] [-ull-ur]  
[-?!-h]
```

説明: コマンド・オプションは次のとおりです。

- g** グローバル・プロファイル変数にアクセスする
- i** 現行あるいはデフォルト値の代わりに使用するインスタンス・プロファイルを指定する
- n** リモート DB2 管理サーバー・ノード名を指定する
- u** 管理サーバー付加機構で使用するユーザー ID を指定する
- ul** ユーザー・プロファイル変数にアクセスする
- ur** ユーザー・プロファイル変数を最新表示する

- p** 管理サーバー付加機構で使用するパスワードを指定する
- r** 与えられたインスタンスに対するプロファイル・レジストリーをリセットする
- l** すべてのインスタンス・プロファイルをリストする
- lr** サポートされたすべてのレジストリー変数をリストする
- v** Verbose モード
- ?** コマンド・ヘルプ・メッセージを表示する
- h** -? オプションと同じ
- all** 次のように定義されているローカル環境変数のすべてのオカレンスを表示する
 - 環境は、[e] で示されます。
 - ユーザー・レベル・レジストリーは、[u] で示されます。
 - ノード・レベル・レジストリーは、[n] で示されます。
 - インスタンス・レベル・レジストリーは、[i] で示されます。
 - グローバル・レベル・レジストリーは、[g] で示されます。
- null** 指定されたレジストリー・レベルで変数の値を null に設定し、変数値の検索順序で定義されている次のレジストリー・レベルの変数を参照できないようにする。

注:

- 変数名なしの db2set では 定義されている変数をすべて表示します。
- db2set <variable> では <variable> の値を表示します。
- db2set <variable>= (nothing) では <variable> を削除します。
- db2set <variable>=<value> では <variable> の値を修正します。
- db2set <variable> -null では <variable> の値を NULL に設定します。

- db2set <variable> -all では 定義されているすべての <variable> の値を表示します。
- db2set -ur では 現行ユーザー・プロファイルを最新表示します。
- db2set <variable> -ul では ユーザー・レベルで定義された <variables> を表示します。
- db2set -all では、すべてのレジストリー・レベルで 定義されているすべての変数を表示します。

DBI1302E 無効なパラメーターを検出しました。

説明: 無効なパラメーターが使用されました。

ユーザーの処置: 使用法のヘルプ・メッセージを調べるには、-? を使ってください。

DBI1303W 変数が設定されていません。

説明: 変数がプロファイル・レジストリーに設定されていません。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

DBI1304E 予期しないエラーです。

説明: ツールで想定外のシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当者に連絡してください。

DBI1305E プロファイル・レジストリーが見つかりません。

説明: ターゲット・マシンにはプロファイル・レジストリー設定がありません。

ユーザーの処置: DB2 のインストールでターゲット・マシンにレジストリーを作成してください。

DBI1306N インスタンス・プロファイルが定義されていません。

説明: インスタンスがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

ユーザーの処置: 既存のインスタンス名を指定するか、あるいは必要なインスタンスを作成してください。

DBI1307N インスタンス・ノード・プロファイルが定義されていません。

説明: インスタンス・ノードがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

ユーザーの処置: 必要な DB2 製品パーツをインストールしてレジストリーを作成してください。

DBI1308E メモリー不足状態が発生しました。

説明: ツールで「メモリー・リソース不足」エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システムのメモリー・リソースが少なくなっています。不要なアプリケーションを終了するか、またはあとで再試行してください。

DBI1309E システム・エラーです。

説明: ツールでオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム・エラーがレジストリーにアクセス中に発生しました。レジストリーがある場所のファイル・システムにメモリーが十分あるか、およびレジストリーがリモートの場合、LAN 接続が有効であるか確認してください。

DBI1310E リモート・レジストリー・アクセスがサポートされていません。

説明: ツールではリモート・レジストリー・オプションをサポートしていません。

ユーザーの処置: レジストリーにリモート・アク

セスする方法についてはコマンド解説書を参照してください。

DBI1311I レジストリー・インスタンス・プロファイルをリスト中...

DBI1312I 定義済みグローバル変数をリスト中...

DBI1313I 定義済みインスタンス変数をリスト中...

DBI1314I サポートされているすべてのレジストリー変数をリスト中...

DBI1315W 不明なメッセージ！

DBI1316E インスタンスが MPP ではありません。

説明: ターゲット・インスタンスが DB2 MPP インスタンスではありません。

ユーザーの処置: MPP インスタンスを選択してください。

DBI1317E インスタンス・ノードがすでにあります。

説明: インスタンス・ノードが重複して存在しています。

ユーザーの処置: 別のインスタンス・ノードを選択してください。

DBI1320W 警告:

説明: このスクリプトは、起こりうる問題のデバッグのために IBM サポートが有益な情報を収集するために使用されます。この情報は、機密情報の場合があります。出力ファイル db2ginfo.txt は IBM サポートに送信する前に編集することができます。

ユーザーの処置: 上記の警告を認識および受諾し

たことを通知するには、このスクリプトを -y フラグ付きで実行してください。

DBI1330W 処置が別のインスタンスに影響する可能性があります。

説明: ファイル IWH.environment には、すべてのインスタンスのグローバル情報が入っています。このファイルを更新すると、すべてのインスタンスに影響する可能性があります。続けますか?

DBI1332E IWH.environment のテンプレート・ファイルが見つかりません。

説明: IWH.environment のテンプレート・ファイルが必要です。

DBI1350I 使用法 :

```
dqpsetup
dqpsetup -D DbName
          -t TblSpcName
          -r RsltTblSpcName
          -l TblSpcPath
          [-g NodeGroup]
          [-n NodeNum]
          [-s SizeDMS]
          [-o]
          [-hl-?] InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

DbName

DB2 クエリー・パトローラー・サーバーで使用するデータベースの名前

TblSpcName

DB2 クエリー・パトローラーの表スペースの名前。デフォルト・タイプは SMS 表スペースです。

RsltTblSpcName

使用する結果表スペースの名前

TblSpcPath

表スペースの全パス名

NodeGroup

DB2 クエリー・パトローラー・サーバーの表スペースの属したノード・グループの名前 [EEE に必須]

NodeNum

ノード・グループが定義されている単一ノードのノード番号 [EEE に必須]

-s SizeDMS

DMS 表スペースのサイズ。-s フラグを使用して、DMS 表スペースのサイズを指定します。

-o 既存の IWM スキーマ・オブジェクトを上書きする

InstName

クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスの名前

-hl-? 使用法情報を表示する

[EEE に必須] とマークされているオプションは DB2 UDB エンタープライズ - 拡張エディション MPP インスタンスに必要で、MPP インスタンスではないインスタンス (たとえば DB2 UDB エンタープライズ・エディション・インスタンス) では無視されます。

このインスタンスを DB2 クエリー・パトローラーの旧バージョンから・マイグレーションしている場合、単にスキーマを現在のスキーマに更新するためにパラメーターは必要ありません。古いスキーマ・オブジェクトを除去してスキーマを再作成したい場合、その他の必要なパラメーターと同様、-o も指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1351E このコマンドを実行するには、インスタンス所有者でなければなりません。

説明: このコマンドを実行するには、DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンス所有者でなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスがファイル default.env に正しく記録されていることを確認します。DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンス所有者としてログインし、このコマンドを再発行してください。 default.env ファイルは以下のいずれかにあります。

/var/db2/v71
または /var/opt/db2/v71

DBI1352E インスタンス “<instance-name>” は EE または EEE インスタンスではありません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバー / エージェントを EE または EEE インスタンスに作成する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な EE または EEE インスタンス名を使用してこのコマンドを再実行するか、またはこのコマンドを再実行する前に新しい EE または EEE インスタンスを作成およびセットアップすることができます。

DBI1353E DB2 クエリー・パトローラー・サーバーはすでにインスタンスにセットアップされています。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは 1 つの DB2 UDB インスタンスにのみセットアップできます。

ユーザーの処置: コマンド dqplis を実行して、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーとして使用されているインスタンスの名前を見つけます。インスタンス名が正しい場合には、サーバーのセ

ットアップに dqpcrt を実行する必要はありません。エージェントをセットアップする場合は、正しいインスタンス名を使用する必要があります。このインスタンスがエージェントをセットアップする目的で使用されない場合、次のコマンドを実行して除去します。

```
dqpdrop inst_name
```

次に、dqpcrt コマンドを再実行してください。

DBI1354E インスタンス “<instance-name>” が DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスではありません。

ユーザーの処置: dqplist で正しいサーバー・インスタンス名を探して、コマンドを再実行してください。

DBI1355I 使用法 :

```
dqpcrt [-hl-?] <-sl-a>  
-p PortName InstName
```

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

PortName

DB2 クエリー・パトローラー・サーバー / エージェントで使用するポート名

InstaName

DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスとして指定するインスタンスの名前

-s 指定のインスタンスに DB2 クエリー・パトローラー・サーバーを作成する

-a 指定のインスタンスに DB2 クエリー・パトローラー・エージェントを作成する

-hl-? 使用法情報を表示する

-s か -a のどちらかを指定する必要がありますが、両方を指定することはできません。 -a オプ

ションは、エンタープライズ - 拡張エディション・インスタンスにのみ有効です。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1356I 使用法 :

dqplist [-hl-?]

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1357I 使用法 :

dqdrop [-hl-?] InstName

説明: 間違った引き数が入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

InstName

DB2 クエリー・パトローラー・サーバーを除去したいインスタンスの名前

-hl-? 使用法情報を表示する

このコマンドは、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが作成されたノードでのみ発行できません。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1358W DB2 クエリー・パトローラー・プロファイル・ファイルを変更できませんでした。

説明: dqpprofile ファイルか dqpcshrc ファイルのいずれか、またはその両方を更新しようとしたが、失敗しました。考えられる原因は以下のとおりです。

- これらのファイルがインスタンス・ホーム・ディレクトリーの下で `sqllib` ディレクトリーに存在しない。
- これらのファイルへの書き込み許可がない。
- `/tmp` ディレクトリーに一時ファイルを作成できなかった。

ユーザーの処置: これらのファイルが存在しているか、またファイルの許可について調べます。`/tmp` への書き込みが可能であることを確認してください。コマンドをもう一度発行してください。

DBI1359E DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをインスタンス “<instance-name>” から除去できません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーを指定のインスタンスから除去しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル `sqllib/cfg/dqplevel` を手操作でインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーから除去してください。また、ファイル `default.env` を編集して、`DQPSEVER` 行をこのファイルから除去します。 `default.env` ファイルは以下のいずれかにあります。

`/var/db2/v71`
または `/var/opt/db2/v71`

DBI1360E DB2 クエリー・パトローラーのセットアップを完了できません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをセットアップしようとしたが、失敗しました。考えられる原因は以下のとおりです。

- DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのデータベースを作成できなかった。
- 指定のノードにノード・グループを作成できなかった。

- ・ ノード・グループに表スペースを作成できなかった。

ユーザーの処置: データベースまたはノード・グループの作成が失敗した場合、これらを手操作で作成してコマンドを再実行してください。

表スペースの作成が失敗した場合は、指定したパスへの書き込み許可を持っていることを確認します。表スペースを手操作で作成してみてください。

DBI1361E DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・コードがインストールされていません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・コードがインストールされていないため、実行操作の完了が要求されました。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・コードをインストールして、コマンドを再実行してください。

DBI1362W IWM スキーマ・オブジェクトが検出されました。

説明: DB2 が IWM スキーマ・オブジェクトを検出しましたが、これは以前の IWM のインストールによって作成された可能性があります。

ユーザーの処置: 既存の IWM スキーマ・オブジェクトを保持したい場合、何もする必要はありません。既存のオブジェクトを除去して新しいオブジェクトを再作成したい場合は、dqpsetup コマンドを -o フラグ付きで再発行してください。

DBI1363E IWM スキーマ・オブジェクトを作成できませんでした。

説明: IWM スキーマ・オブジェクトを作成しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル db2_qp_schema および iwmschema.sql がどちらもディレクトリー /usr/lpp/db2_07_01/bin にあることを確認します。

両方のファイルが存在する場合、IWM スキーマ作成プロシージャーの出力が /tmp/iwmschr.log にあります。エラーを訂正して、dqpsetup コマンドを再実行してください。

DBI1364E 前の DB2 クエリー・パトローラー・スキーマ・オブジェクトが存在しません。

説明: ・マイグレーションの対象の旧 DB2 クエリー・パトローラー・スキーマ・オブジェクトが存在しません。

ユーザーの処置: 正しい構文で dqpsetup を再実行してください。正しい構文を調べるには 'dqpsetup -h' を使用してください。

DBI1365E ノード番号が定義されていません。

説明: ノード番号が db2nodes.cfg に定義されていません。

ユーザーの処置: db2nodes.cfg ファイルを調べて、必要な項目が存在することを確認します。db2nodes.cfg ファイルに記録されているものとまったく同じコード番号を使用して、コマンドを再入力してください。

DBI1366E コンテナ “<sms_path>” はすでに使用中です。

説明: 表スペースのコンテナとして指定されたディレクトリーはすでに存在します。

ユーザーの処置: 表スペースのコンテナに別のパスを使用して、コマンドを再実行してください。

DBI1367E “<bind_list>” にリストされているファイルをバインドできませんでした。

説明: 指定のファイルにリストされたバインド・ファイルのバインドで問題が起きました。

ユーザーの処置: バインドを手操作で行ってください。

DBI1368E DQP データベース “<db2dbdft>” に接続できませんでした。

説明: このデータベースは存在しないと思われる。

ユーザーの処置: dqpsetup に必要なパラメータをすべて使用して、新しい DQP インスタンスをセットアップするよう指定してください。このインスタンスを・マイグレーションすることはできません。

DBI1370W ユーザー “<inst-name>” の .profile あるいは .login ファイルの修正はできません。

説明: DB2 は、このユーザーの .profile ファイルまたは .login ファイルを修正することができません。これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。変更を行わないと、DB2 クエリー・パトローラーを使用するためにこのユーザーでログインするたびに、手操作で環境を設定しなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 環境を自動的に設定する方法に関する詳細については、「概説およびインストール」をご覧ください。

DBI1371E クエリー・パトローラー・サーバーをセットアップするための引き数が見つかりません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーがインストールされている場合、クエリー・パトローラー・インスタンスをサーバーとしてセットアップする必要があります。そのため、以下の引き数を与えなければなりません。

1. ノード・グループ
2. ノード番号
3. データベース名
4. 表スペース

5. 結果表スペース
6. 表スペース・パス

オプション:
DMS 表スペース・サイズ

ユーザーの処置: 応答ファイルに必須またはオプション引き数、あるいは両方の引き数を指定してください。

DBI1372E クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスをセットアップできません。

説明: クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスをセットアップするには、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーがインストールされていなければなりません。

ユーザーの処置:

- DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをインストールしてください。
- クエリー・パトローラー・エージェントをセットアップしたい場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および DMS 表スペース・サイズの引き数を取り除いてください。

DBI1373E 新規 EE または EEE インスタンスの作成中、クエリー・パトローラー・サーバー・インスタンスをセットアップできません。

ユーザーの処置: EE または EEE インスタンスを作成し、別々のステップでインスタンスをクエリー・パトローラー・サーバーとしてセットアップしてください。

DBI1374E **EE** インスタンスでクエリー・パトローラー・サーバーのノード・グループおよびノード番号をセットアップできません。

ユーザーの処置:

- EEE インスタンスでクエリー・パトローラー・サーバーをセットアップしたい場合、EEE をインストールしてください。
- ノード・グループおよびノード番号の指定を応答ファイルから除去してください。

DBI1375E **EE** または **EEE** をインストールせずに、クエリー・パトローラー・インスタンスをセットアップすることはできません。

ユーザーの処置: EE または EEE、および DB2 クエリー・パトローラー・エージェント / サーバーをインストールしてください。

DBI1376E クエリー・パトローラー・インスタンスをセットアップするには、**IWM** ユーザーのサービス名およびポート番号を与える必要があります。

ユーザーの処置:

- クエリー・パトローラー・インスタンスをセットアップしたい場合、**IWM** ユーザーのサービス名およびポート番号を入力してください。
- クエリー・パトローラー・インスタンスをセットアップしたくない場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および **DMS** 表スペース・サイズの指定を応答ファイルから取り除いてください。

DBI1400N **db2licm** コマンドの構文に誤りがあります。

説明: コントロール・センターがない場合には、**db2licm** ツールが基本ライセンス機能を実行します。それによって、ローカル・システムにインス

トールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

```
db2licm [-a filename]
         [-e HARD | SOFT]
         [-p prod-password
         REGISTERED | CONCURRENT |
         MEASURED]
         [-r prod-password]
         [-u prod-password num-users]
         [-n prod-password num-processors]
         [-l]
         [-v]
         [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- a 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。
- n 権利のあるプロセッサの数を更新します。この製品で使用できるプロセッサの数を指定してください。
- e システムの制約方針を更新します。有効な値は **HARD** および **SOFT** です。**HARD** は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。**SOFT** は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。
- l すべての製品を使用可能なライセンス情報とともにリストします。
- p システムで使用するライセンス方針タイプを更新します。キーワード **CONCURRENT**、**REGISTERED**、またはその両方を指定できます。また、DB2 接続無制限製品には **MEASURED** も指定できます。
- r 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去されると、製品機能は「試供

版」モードになります。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。

- u 購入したユーザー権利数を更新します。権利を購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。
- v バージョン情報を表示します。
- ? ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1401I コマンド行 DB2 ライセンス・マネージャー

説明: コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。それによって、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

```
db2licm [-a filename]
        [-e HARD | SOFT]
        [-p prod-password
        REGISTERED | CONCURRENT |
        MEASURED]
        [-r prod-password]
        [-u prod-password num-users]
        [-n prod-password num-processors]
        [-l]
        [-v]
        [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- a 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に

収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

- n 権利のあるプロセッサの数を更新します。この製品で使用できるプロセッサの数を指定してください。
- e システムの制約方針を更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。
- l すべての製品を使用可能なライセンス情報とともにリストします。
- p システムで使用するライセンス方針タイプを更新します。キーワード CONCURRENT、REGISTERED、またはその両方を指定できます。また、DB2 接続無制限製品には MEASURED も指定できます。
- r 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去されると、製品機能は「試供版」モードになります。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。
- u 購入したユーザー権利数を更新します。権利を購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。
- v バージョン情報を表示します。
- ? ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

DBI1402I ライセンスが正常に追加されました。

DBI1403I ライセンスが正常に除去されました。

DBI1404N 製品パスワードが見つかりません。

説明: この製品のライセンスが nodelock ファイルで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: このコマンドを -I オプション付きで発行して、入力された製品パスワードが、この処置を実行したい製品の正しい製品パスワードであることを確認してください。

DBI1405I ライセンス方針タイプが正常に更新されました。

DBI1406N 無効なライセンス方針タイプです。

説明: 入力されたライセンス方針タイプが、指定された製品には無効でした。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。オプションは次のとおりです。

- CONCURRENT
- REGISTERED

DBI1407N 無効なライセンス証書ファイルです。

説明: ライセンス証書ファイルが正しい形式ではありません。

ユーザーの処置: 正しいライセンス証書形式を持つファイルの名前を入力してください。

DBI1408N ファイル “<file-name>” がオープンできませんでした。

説明: ファイルが見つからないか、ファイルへのアクセスが拒否されました。

ユーザーの処置: 存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。

DBI1409N 無効な制約方針タイプです。

説明: 指定された制約方針タイプはこの製品には無効です。

ユーザーの処置: 指定の製品がサポートする有効な制約方針タイプを入力してください。

DBI1410I 並列ユーザーが正常に更新されました。

DBI1411I 制約方針タイプが正常に更新されました。

DBI1412W ハード・ストップ制約方針は、ライセンス違反が生じたときに非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を停止します。

DBI1413W ソフト・ストップ制約方針は、ライセンス違反をログに記録しますが、非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を許可します。

DBI1414N db2licm コマンドの構文に誤りがあります。

説明: コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。それによって、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

```
db2licm [-a:filename]
          [-e:HARD | SOFT]
          [-p:prod-password
REGISTERED | CONCURRENT |
MEASURED]
          [-r:prod-password]
          [-u:prod-password num-users]
          [-n:prod-password num-processors]
```


[-l]
[-v]
[-?]

コマンド・オプションは次のとおりです。

- a** 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。
- n** 権利のあるプロセッサの数を更新します。この製品で使用できるプロセッサの数を指定してください。
- e** システムの制約方針を更新します。有効な値は **HARD** および **SOFT** です。**HARD** は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。**SOFT** は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。
- l** すべての製品を使用可能なライセンス情報とともにリストします。
- p** システムで使用するライセンス方針タイプを更新します。キーワード **CONCURRENT**、**REGISTERED**、またはその両方を指定できます。また、**DB2** 接続無制限製品には **MEASURED** も指定できます。
- r** 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去されると、製品機能は「試供版」モードになります。特定の製品のパスワードを取得するには、**-l** オプション付きでコマンドを呼び出します。
- u** 購入したユーザー権利数を更新します。権利を購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。
- v** バージョン情報を表示します。
- ?** ヘルプ情報を表示します。このオプション

が指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1415I コマンド行 **DB2** ライセンス・マネージャー

説明: コントロール・センターがない場合には、**db2licm** ツールが基本ライセンス機能を実行します。それによって、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

```
db2licm [-a:filename]
        [-e:HARD | SOFT]
        [-p:prod-password,
        REGISTERED | CONCURRENT |
        MEASURED]
        [-r:prod-password]
        [-u:prod-password, num-users]
        [-n:prod-password, num-processors]
        [-l]
        [-v]
        [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- a** 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。
- n** 権利のあるプロセッサの数を更新します。この製品で使用できるプロセッサの数を指定してください。
- e** システムの制約方針を更新します。有効な値は **HARD** および **SOFT** です。**HARD** は非ライセンス要求が許可されない

いことを指定します。SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

- l すべての製品を使用可能なライセンス情報とともにリストします。
- p システムで使用するライセンス方針タイプを更新します。キーワード CONCURRENT、REGISTERED、またはその両方を指定できます。また、DB2 接続無制限製品には MEASURED も指定できます。
- r 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去されると、製品機能は「試供版」モードになります。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。
- u 購入したユーザー権利数を更新します。権利を購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。
- v バージョン情報を表示します。
- ? ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

DBI1416N ライセンスを自動的に **nodelock** ファイルに追加できませんでした。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: ライセンス証明書が読み取り可能であることを確認してください。また、手操作でライセンスを **nodelock** ファイルに入力することもできます。指示については、ライセンス・ファイルを参照してください。

DBI1417N 指定されたライセンスを **nodelock** ファイルから除去できません。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: この製品のライセンスが

nodelock ファイルに存在することを確認してください。

DBI1418I このマシンでライセンスされたプロセッサ数が正しく更新されました。

DBI1419N ライセンスされたプロセッサ数を更新しているときにエラーが起きました。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

DBI1420N この製品は、このライセンス・ポリシーのタイプをサポートしていません。

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品に適用されないか、またはサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。

DBI1421N 指定された製品は、このシステムにインストールされていません。

説明: 製品がインストールされるまで、この製品のライセンス・ポリシーを構成することはできません。

ユーザーの処置: 製品をインストールしてからコマンドを実行するか、または正しい製品パスワードを指定してください。システムにインストールされている製品をリストするには、**db2licm -l** を使用してください。

DBI1422N 並列ユーザーの数は更新されませんでした。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: この製品で並列ポリシーが可能であることを確認してください。

DBI1423N このオプションには、インスタンスの作成が必要です。

説明: この処置を行うために必要な機能は、インスタンスの作成後にアクセス可能になります。

ユーザーの処置: インスタンスを作成し、このコマンドを出し直してください。

DBI1424N プロセッサ情報にアクセスしているときに、予期しないエラーが起きました。

説明: 戻りコードは “<return-code>” です。

ユーザーの処置: ありません。

DBI1425E **DB2 OLAP Server** のライセンスを更新することはできません。
DB2 OLAP 処理は、現在活動状態にあります。

説明: DB2 OLAP Server の実行時に、DB2 で DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。

ユーザーの処置: OLAP ライセンスを更新するには、OLAP プロセスをすべて停止してからこの DB2 ライセンスを再インストールしてください。

DBI1500I 使用法 :

db2inst [-f <response-file>]

説明: 間違った引き数が入力されました。コマンドが、「DB2 インストーラ」応答ファイルのバスの前に任意選択のフラグ -f を指定しました。

ユーザーの処置: 有効な引き数を指定して、コマンドを再入力してください。

DBI1501E 内部エラーが発生しました。

説明: 内部処理を実行中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ファイルが置かれているファイル・システムが損傷していないか調べてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 内部エラー・メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1502E ファイル “<file-name>” のオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。

説明: ファイルのオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- ファイルのオープンあるいは読み取りで入出力エラーが起きた。
- 予定の値がファイルに見つからない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

ユーザーの処置: ファイルがユーザーによって修正されている場合、ファイル内のデータが有効かどうか調べてください。ファイルがユーザーによって修正されていない場合、次の情報を IBM サポート担当者に連絡してください。

1. メッセージ番号
2. メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1503E ファイル “<file-name>” のオープンあるいは書き込み中にエラーが発生しました。

説明: ファイルのオープンあるいは書き込み中にエラーが発生しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられたディレクトリーに誤ったアクセス許可がある。
- ファイル・システムに十分な空きスペースがない。

ユーザーの処置: 親ディレクトリーの許可が正し

く設定されているかチェックしてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1504E **メッセージ・ファイルのオープンでエラーが起きました。**

説明: “DB2 インストーラー”・メッセージ・カタログ・ファイルのオープンおよび読み取りをしようとして失敗しました。DB2 Installer を開始する前に、次の 2 つのリソース・ファイル -- db2inst.rcx と db2inst.cat を次のロケーションで検索します。

- DB2 製品ディレクトリー、または
- 配布先メディア、または
- 環境変数 DB2IRCX および DB2ICAT

ユーザーの処置: 環境変数 DB2IRCX と DB2ICAT を db2inst.rcx と db2inst.cat の絶対ロケーションに設定してください。

DBI1505E **メモリーを割り振ろうとして失敗しました。**

説明: メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージ記述
3. 問題記述

DBI1507E **DB2 インストーラーのインスタンスはすでに開始しています。**

説明: DB2 インストーラーを開始しようとして、エラーを検出しました。DB2 インストーラーの別のインスタンスがまだ実行中です。

ユーザーの処置: DB2 インストーラーのすべてのインスタンスを終了して、インストール・プロセスを再始動してください。問題が解決しない場合、ロック・ファイル /tmp/.db2inst.lck を除去してから、DB2 インストーラーを再始動してください。

DBI1515E **サブプロセスに対するリソースを割り振ろうとして失敗しました。**

説明: サブプロセスを開始しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1516E **サブプロセスを終了しようとして失敗しました。**

説明: サブプロセスを終了しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1517E サブプロセスでコマンドを実行しようとして失敗しました。

説明: サブプロセスでコマンドを実行しようとして、エラーを検出しました。次のいずれかの問題が発生しました。

- コマンドが存在しない。
- コマンド検索パスが不完全である。
- コマンドに誤ったアクセス許可がある。
- システム・リソースに問題がある。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1520E 端末表示の最小サイズは 24 x 80 です。

説明: 現在の端末またはウィンドウ・サイズが十分な大きさではありません。このプログラムでは最低 24 行 80 列の端末表示が必要です。

ユーザーの処置: 端末またはウィンドウ・サイズをチェックして再試行してください。

DBI1521E 端末機能情報の読み取りに失敗しました。

説明: 端末表示の初期化をしようとして、エラーを検出しました。このエラー・タイプが発生する場合は、次の 2 つが考えられます。

- この機能が、環境変数 TERM を検出できないか、あるいは端末についての正しい terminfo データベース項目を検出できないかのいずれかである。
- 端末表示を初期化中に使用可能なメモリー・スペースが十分でない。

ユーザーの処置: 環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーション

ョンで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1522E 端末機能情報の復元に失敗しました。

説明: 端末表示を元の状態に復元しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述

DBI1530E イメージ・ファイルをアンパックできません。

説明: 配布されたメディアからの tar イメージをアンパック中にエラーが発生しました。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパス名が存在していないディレクトリーである。
- ファイル・システムに十分なスペースがない。
- 与えられたパスのアクセス許可が誤っている。
- tar コマンドが現行検索パスで見つからない。

ユーザーの処置: インストール処理を再始動して、正しいパス名で再試行してください。

DBI1540E 無効な配布媒体パスが指定されました。

説明: インストール可能なイメージを配布メディアに位置指定しようとして、エラーを検出しまし

た。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられたパスと関連したファイル・システムが、正しく取り付けられていない。
- 誤ったアクセス許可が、与えられたパスに割り当てられている。

ユーザーの処置: パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大文字小文字が区別されます。

DBI1541E 与えられた状況ファイルからのオープンまたは読み取りに失敗しました。

説明: 状況ファイルからのオープンまたは読み取りを行おうとしてエラーを検出しました。状況ファイルを手動で修正していない場合、次のいずれかのエラーが発生しました。

- 誤ったファイル・パスが指定された。
- 誤ったアクセス許可が、状況ファイルに割り当てられている。
- 与えられたパスと関連したファイル・システムが、正しく取り付けられていない。

ユーザーの処置: パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大文字小文字が区別されます。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題記述
3. 状況ファイル

DBI1550E ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。

説明: ファイル・システムにもっと多くのディスク・スペースを割り振ろうとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 指定の処理に十分なスペースが

解放されてから、コマンドを再試行してください。

DBI1570I 使用法 :

db2olset InstName

説明: 間違った引き数が db2olset コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

InstName

OLAP スターター・キットで使用できるようセットアップしたいインスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2olset InstName

DBI1631E サンプル・データベースを作成中にエラーが発生しました。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。
- DB2 製品が正しくインストールされていないか、あるいはコンポーネント・ファイルに抜けがある。

ユーザーの処置: ディスク・スペースの問題ではない場合、製品の再インストールを行います。問題が解決しない場合、トレースをオンにして CLP を介してデータベースを作成するステップを再試行してください。次に、ファイルにトレース情報を保管して、IBM サポート担当者に次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題記述
- トレース・ファイル

DBI1632E 「自動開始」インスタンスの構成中にエラーが発生しました。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを「自動開始」する機能がすでに使用可能である。
- “/etc/inittab” ファイルに入力を追加しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- /etc ファイル・システムに、新規のリソース・ファイル rc.db2 に割り当てるだけの十分なスペースがない。

ユーザーの処置: 上記 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題記述

DBI1633E インスタンスを「自動開始」する構成を削除中にエラーが発生しました。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを「自動開始」する機能が使用できない。
- “/etc/inittab” ファイルの入力を削除しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- ファイル “/etc/rc.db2” がない。

ユーザーの処置: 上記 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題記述

DBI1634W /etc/rc.db2 を更新して、dlfs ファイル・システムを自動マウントすることができません。

説明: /etc/rc.db2 を更新して、システム・リブート時に dlfs ファイル・システムの自動マウントを可能にしようとしたましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル /etc/rc.db2 を手操作で編集し、次の行を追加してください。

```
if [ -x /etc/rc.dlfs ]; then
    /etc/rc.dlfs
fi
```

DBI1635E 管理サーバー・グループ・リストに追加中に、エラーが発生しました。

説明: DB2 インスタンスを管理サーバー・グループ・リストに追加しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、DB2 インスタンスのグループ名をご使用の NIS サーバーの管理サーバーの第 2 グループに追加してみてください。

DBI1637W 「了解」をクリックすると、前のインスタンス設定は失われます。

ユーザーの処置: 続行するには「了解」をクリックしてください。取り消すには「取消」をクリックしてください。

DBI1639E 新規インスタンスをセットアップできません。

説明: 与えられたインスタンス名は既存のインスタンスに属していません。

ユーザーの処置:

- 新しいインスタンスを作成してください。
 - 対話式インストーラーを使用している場合、インスタンス作成パネルで新しいインスタンスを作成するよう選択してください。

- 応答ファイル・インストーラーを使用している場合、ユーザーについての追加情報を与えてください。
- 既存のインスタンスの名前を入力してください。

DBI1640W 指定されたインスタンスはサーバー・インスタンスではありません。

説明: DB2 サーバー・インスタンスとして構成できるのは、DB2 コンポーネントの一部だけです。

ユーザーの処置:

- 指定されたインスタンスがクライアント・インスタンスで、DB2 サーバー製品がインストールされている場合、db2iupdt を実行してクライアント・インスタンスをサーバー・インスタンスに更新してください。
- 指定されたインスタンスがデータ・リンク管理サーバーである場合、インストーラーを終了し、必要であれば、インスタンスをコマンド行でセットアップしてください。

DBI1651E 指定の UID は無効です。

説明: 無効な UID が入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられた UID はシステム上の既存のユーザーにすでに割り当てられている。
- 与えられた UID が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられた UID が 100 より小さいか等しい。

ユーザーの処置: 別のユーザー ID で再試行してください。

DBI1652E 指定のユーザー名が無効です。

説明: 無効な名前が入力されました。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在している。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在しているが別のグループ名に属している。
- 与えられたユーザー名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

ユーザーの処置: 別のユーザー名で再試行してください。

DBI1653E 指定のグループが無効です。

説明: 無効なグループ ID あるいはグループ名が入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたグループ ID がすでに存在しているがシステムの別のグループ名に属しているか、あるいは与えられたグループ名がすでに存在しているが別のグループ ID に属している。
- 与えられたグループ ID あるいはグループ名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられたグループ ID が 100 より小さいか等しい。

ユーザーの処置: 別のグループ ID あるいはグループ名で、再試行してください。

DBI1654E 指定したディレクトリーが無効です。

説明: 無効なディレクトリーが入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザーはすでに存在するがシステム上に別のホーム・ディレクトリーを指定している。
- 与えられたディレクトリーが大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

ユーザーの処置: システム上で指定されたユーザーのホーム・ディレクトリーあるいは別のディレクトリーを指定して再試行してください。

DBI1655E 指定されたパスワードが無効です。

説明: 無効なパスワードが入力されています。次の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパスワードの長さがゼロである。
- 与えられたパスワードが検証パスワードと一致しない。
- 与えられたパスワードに無効文字が入っている。

ユーザーの処置: 別のパスワードで再試行してください。

DBI1657E インスタンス名はすでに使用されています。

説明: 同じ名前を持つインスタンスがすでにシステムに存在します。

ユーザーの処置: “db2ilist” コマンドによって報告されたインスタンスのリストで確認してください。別のユーザー名で再試行してください。

DBI1701E 指定された 1 つまたは複数の TCP/IP パラメーターが無効です。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- サービス名の長さが 14 文字を超えています。
- 指定されたポート番号は範囲外にあります。この番号は 1024 から 65535 の間の数値にしてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1702E 指定されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。

説明: ユーザーによって入力されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と対立します。サービス名は別のポート番号ですでに使用されている可能性があるか、あるいはポート番号が別のサービス名です

で使用されている可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

DBI1703E 有効なサービス名あるいはポート番号が見つかりません。

説明: このインスタンスの有効なサービス名あるいはポート番号が TCP/IP サービス・ファイルに見つかりません。この情報は存在しないか、無効かのいずれかです。

“DB2 拡張エンタープライズ版” 製品をインストールした場合、このコマンドの使用前に、インスタンスのサービス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 詳細については、「DB2 エンタープライズ拡張エディション (UNIX 版) 概説およびインストール」を参照してください。このインスタンスの有効なサービス名およびポート番号を指定して、このコマンドを再入力してください。

DBI1704W TCP/IP はシステムで実行されていません。

説明: TCP/IP はシステムで実行されていません。TCP/IP サービス・ファイルは更新されません。

DBI1709E TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。

説明: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。サービス・ファイルも手操作で更新してください。ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファ

イルを更新する可能性があります。NIS サーバーは手操作で更新してください。この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされました。

DBI1711E 指定された 1 つまたは複数の IPX/SPX パラメーターが無効です。

説明: 次の状態のいずれかが発生しました。

- fileserver, objectname, あるいは ipx_socket パラメーターが null である。
- fileserver パラメーターが * に設定されているが objectname は * に設定されていない。
- 指定された objectname あるいは ipx_socket 値が固有でない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲にない。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1715E NetWare ユーザー ID または NetWare パスワードが無効です。

説明: 指定する NetWare ユーザー ID および NetWare パスワードは存在するもので NetWare ファイル・サーバーの DB2 オブジェクト名を登録するために使用され、監視あるいはそれと同等の権限が必要です。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1720E 指定されたユーザー ID あるいはグループ ID は NIS が実行中のため追加されません。

説明: NIS がシステムで実行中です。新規ユーザー ID あるいはグループ ID は NIS がシステムで実行中の間は作成されません。

ユーザーの処置: 以前作成されたユーザー ID およびグループ ID を使用してください。

DBI1722E 指定されたサービスは NIS が実行中のため /etc/services ファイルに追加されません。

説明: NIS がシステムで実行中です。新規サービスは NIS がシステムで実行中の間は /etc/services に作成されません。

ユーザーの処置: /etc/services ファイルの以前作成されたサービス名およびポート番号を使用して再試行してください。

DBI1725W データウェアハウス・エージェント用のエージェント・デーモンおよびロガー・サービスを作成できません。

説明: TCP/IP はシステムで実行されています。インストールは続行されますが、エージェント・デーモンとロガー・サービスを手操作で作成する必要があります。

ユーザーの処置: システムで TCP/IP を活動化し、インストーラーを実行してください。

DBI1740W セキュリティー・リスクです。

説明: ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対するフル・アクセス許可が与えられます。セキュリティ上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

ユーザーの処置: セキュリティー・リスクの可能性を回避するには、別のユーザー ID を使用してください。

DBI1741W プロトコルが検出されません。

説明: 選択プロトコルが検出されません。DB2 インストーラーはプロトコルで必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このプロトコルの設定に対する値は提供することができます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1744W DB2 データ・リンク・マネージャー管理者が作成されていません。

説明: DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を作成していません。DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を作成していないと、DB2 データ・リンク・マネージャーを管理することができません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1745W 管理サーバーが作成されません。

説明: 管理サーバーを作成していません。管理サーバーがなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行なうクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはコントロール・センターを使用してリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1746W DB2 インスタンスは作成されません。

説明: DB2 インスタンスを作成していません。DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1747W 指定されたディレクトリーはすでに存在します。

説明: ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: これが問題となる場合には、別のディレクトリーを選択してください。

DBI1750W セキュリティー・リスクです。

説明: ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対するフル・アクセス許可が与えられます。セキュリティ上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
 - 「取消」を押して別のユーザー ID を入力してください。
-

DBI1751W プロトコルが検出されません。

説明: 選択プロトコルが検出されません。DB2 インストーラーはプロトコルに必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このプロトコルの設定に対する値は提供することができます。

ユーザーの処置:

- プロトコルの設定を提供するのであれば「了解」を押してください。
 - 無視するのであれば「取消」を押してください。
-

DBI1753W 管理サーバーが作成されません。

説明: 管理サーバーを作成していません。DB2 管理サーバーなしでは、データウェアハウス・エージェントは完全にセットアップされません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
 - 戻るには、「取消」を押してください。
-

DBI1754W DB2 データ・リンク・マネージャー管理者が作成されていません。

説明: DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を作成していません。DB2 データ・リンク・マネージャー管理者を作成していないと、DB2 データ・リンク・マネージャーを管理することができません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1755W 管理サーバーが作成されません。

説明: 管理サーバーを作成していません。管理サーバーがなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行なうクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはコントロール・センターを使用してリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1756W DB2 インスタンスは作成されません。

説明: DB2 インスタンスを作成していません。DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1757W 指定されたディレクトリーはすでに存在します。

説明: ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置:

- このディレクトリーを使用する場合は「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1758W DB2 インスタンスまたは管理サーバーを検出しました。

説明: 全 DB2 製品の除去が選択されました。しかし、DB2 インスタンスまたは管理サーバーがシステムで検出されました。最初にこれらのインスタンスをドロップせずに DB2 製品を除去すると、DB2 インスタンスが後で正しく機能できない場合があります。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1759W DB2 インスタンスまたは管理サーバー構成を検出しました。

説明: 選択した管理サーバーがありません。これによって、管理サーバーおよび DB2 インスタンス構成が廃棄されてしまいます。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1760E “<pkg-name>” をセットアップするには、パッケージをインストールする必要があります。

説明: インスタンスの DB2 コンポーネントを構成するよう選択しました。パッケージがインストールされていないければ、これを行うことはできません。

ユーザーの処置: パッケージをインストールして、もう一度やり直してください。

DBI1761W ソフトウェア前提条件が、ファイル・セットまたはパッケージ “<pkg-name>” で違反していません。

説明: ソフトウェアの前提条件を上記ファイル・セットまたはパッケージで検証中にエラーが起きました。処理を続行すると、製品が正しく機能しない可能性があります。前提条件をインストールしないまま処理を続行しますか？

ユーザーの処置:

- 前提条件をインストールしないまま処理を続行する場合には「了解」を押してください。
- インストールをやめるのであれば「取消」を押してください。

DBI1762W ソフトウェア依存関係が、ファイル・セットまたはパッケージ “<pkg-name>” で違反していません。

説明: ソフトウェアの依存関係を上記ファイル・セットまたはパッケージで検証中にエラーが起きました。処理を続行すると、ソフトウェア依存関係をすべて削除する可能性があります。ソフトウェア依存関係を除去しますか？

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「了解」を押してください。
- 戻るには、「取消」を押してください。

DBI1763I 英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルもインストールされます。

説明: 英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルは、英語以外の HTML ドキュメンテーション・ファイルをインストール対象として選択した場合に必要です。これは、ユーザーが DB2 ドキュメンテーション・ライブラリー全体を検索することができるかどうかを確認するためのものです。

DBI1765W 存在しないユーザー ID “<InstName>” がレジストリーから検出されました。

説明: レジストリーに存在しないユーザー ID が入っています。この状態は、最初にインスタンスをドロップせずにユーザー ID のみを除去したために発生します。DB2 の通常の操作には影響しませんが、レジストリーのインスタンス・リストからこのユーザー ID を除去することをお勧めします。

ユーザーの処置: 次のコマンドを指定してレジストリーからこのユーザー ID を除去してください。db2iset -d “<InstName>”

DBI1766W “<userId>” の第 2 グループ・リストを変更することができません。

説明: 与えられたユーザー ID の第 2 グループ・リストを変更しようとしてコード “<code>” が返されました。次の状態のいずれかが発生しました。

- NIS が実行中である。
- 与えられたユーザー ID で現在実行中の処理がある。

ユーザーの処置: 管理サーバーが正しく機能するように、グループ ID “<groupId>” をユーザー ID “<userId>” の第 2 グループ・リストに追加する必要があります。

- 与えられたユーザー ID で実行中の処理がある場合には、この処理をすべて終了して、上記の指示に従ってこのユーザー ID の 2 次グループ・リストをセットアップしてください。
- このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、上記の指示に従ってご使用の NIS サーバーにあるユーザー ID の第 2 グループをセットアップしてください。

DBI1767W DB2 レジストリーには破壊された情報が入っている可能性があります。

説明: レジストリーには無効なインスタンス情報が入っている可能性があります。これは、インスタンスあるいは管理サーバーが、DB2 製品を除去する前に、正しく除去されていないことが原因となっている可能性があります。製品を再インストールして、レジストリー中の既存のインスタンス情報を保持したい場合には、「取消」を押してください。そうでない場合には、「了解」を押して、レジストリーを再作成します。レジストリーを再作成しますか。

ユーザーの処置:

- レジストリーを再作成するには、「了解」を押してください。
- 現在のレジストリー情報を保持するには、「取消」を押してください。

DBI1768W ユーザー “<inst-name>” の .profile あるいは .login ファイルの修正はできません。

説明: DB2 は、このユーザーの .profile ファイルまたは .login ファイルを修正することができません。これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。修正をしないと、DB2 を使用するために、このユーザーでログインするたびに、手動で環境を設定する必要があります。

ユーザーの処置: 次の行を .profile ファイルあるいは .login に追加してください。

```
. sqllib/db2profile      .profile ファイルに追加
source sqllib/db2cshrc  .login ファイルに追加
```

DB2 環境を自動的に設定する方法に関する詳細については、「概説およびインストール」をご覧ください。

DBI1769W DB2 プロファイル項目を “<inst-name>” の .profile あるいは .login ファイルから除去することができません。

説明: DB2 は、このユーザーの .profile ファイルまたは .login ファイルにある DB2 環境設定行を注釈にすることができません。次回このユーザーでログインする時に、ファイル db2profile (あるいは db2cshrc) が見つからないというメッセージを受け取る可能性があります。これは、次のいずれかが原因となっています。

- 2 ファイル (.profile と .login) が存在していない。
- 2 ファイルに対する書き込み許可がない。

ユーザーの処置: db2profile あるいは db2cshrc の脱落に関するメッセージを受け取った場合、ご使用の .profile あるいは .login ファイルを検索し、次の行を注釈にしてください。

```
. sqllib/db2profile      .profile ファイルから
source sqllib/db2cshrc  .login ファイルから
```

DBI1770E ファイル /etc/vfs を更新することができません。

説明: 次の DB2 データ・リンク・マネージャー特定項目が /etc/vfs ファイルに必要です。

```
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnhelp none
```

dlfs_num は 12 に設定されるか、または 12 がすでに別の fs に割り当てられている場合は、8 から 15 までの番号を設定します。この行を /etc/vfs ファイルに挿入しようとして、インストール処理

が失敗しました。これは、次のいずれかが原因となっている可能性があります。

- このファイルに対する書き込み許可がない。
- 8 から 15 までの番号がすべて使用されており、dlfs に割り当てられる番号がない。

ユーザーの処置: 手で /etc/vfs ファイルを編集して、dlfs 項目を追加してください。

DBI1771I ファイル /etc/vfs は /tmp/db2.etcvfs.backup にコピーされました。

説明: DB2 データ・リンク・マネージャーを動作させるためには、次の行を /etc/vfs ファイルに挿入する必要があります。

```
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none
```

オリジナルの /etc/vfs ファイルのバックアップ・コピーは /tmp/db2.etcvfs.backup にあります。

DBI1775W 既存の /etc/rc.dlfs ファイルが変更されました。

説明: DB2 が、既存の /etc/rc.dlfs ファイルを新しい dlfs ファイル・システム・マウント項目で変更しました。

ユーザーの処置: ファイル /etc/rc.dlfs を調べて、すべての項目が正しいことを確認してください。

DBI1780W DB2 データ・リンク・マネージャーは、現行オペレーティング・システムのバージョンではサポートされていません。

説明: 現行オペレーティング・システムのバージョンは、DB2 データ・リンク・マネージャーの実行をサポートしていません。ただし、ご自分の責任において、製品をインストールして構成することはできます。DB2 データ・リンク・マネージャーをサポートしているオペレーティング・システムを以下にリストします。

- “<OSlist>”

DBI1790E ODSSI ユーティリティはまだインストールされていないため、DB2 検索索引を作成することはできません。

説明: ODSSI ユーティリティはまだインストールされていません。次のユーティリティ (config_search、config_view および config_help) は、DB2 オンライン文書の検索索引を作成するために必要です。

ユーザーの処置: ODSSI ユーティリティをインストールして、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/IBMdb2/V7.1/doc/db2insthtml lang_locale
```

このコマンドは、言語ロケールである lang_locale に、DB2 ドキュメンテーションの検索索引を作成します。どの言語でドキュメンテーションをインストールしても、英語のドキュメンテーションもインストールされることに注意してください。英語ファイルの索引を作成するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/IBMdb2/V7.1/doc/db2insthtml en_US
```

DBI1791W html ファイルで DB2 検索索引を作成 / 除去する時に発生する可能性があるエラーです。

説明: DB2 は、システム・ユーティリティ config_view と config_help を実行して、SCOHELP で使用される DB2 検索索引の作成あるいは除去を行います。ただし、システム上に、正しく作成/除去されていない DB2 以外の別の索引がある場合、エラー・メッセージが戻る可能性があります。

ユーザーの処置:

- DB2 索引を作成していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルに追加されているかどうか、調べてください。

“TCP/IP” のようなストリングをテスト検索して、その結果が得られるか調べます。検索が可能であれば、DB2 検索索引は正常に作成されています。

- DB2 索引を除去していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルから除去されているかどうか、確認してください。項目がなくなっていると、DB2 索引は正常に除去されています。
- DB2 索引が正常に作成あるいは除去されているかどうか確認することができない場合、IBM サポートに連絡してください。

DBI1792I DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。
お待ちください ...

説明: DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。選択した言語によって、時間がかかる場合があります。

DBI1793W ユーザー ID “<userID>” が不明です。

説明: 指定されたユーザーが不明か、または現行システム上で見つかりません。

ユーザーの処置: ユーザーがこのシステムに存在することを確認してから再試行してください。

DBI1794E 1 つのグループに入れようとしたアイコンの数が多すぎます。

説明: デスクトップ・マネージャーによって許可された数を超えるアイコンを必須フォルダーに入れようとしたとき。

ユーザーの処置: デスクトップから不要なアイコンを除去して、コマンドを再試行してください。

DBI1795E すべての必須アイコンを作成するための空きメモリーが足りません。

説明: アイコンの生成中にアイコン作成ユーティリティーがメモリーを使い果たしました。

ユーザーの処置: 不要なプログラムをクローズして、もう一度やり直してください。

DBI1796W 適切な許可なしでディレクトリーにアイコンを作成しようとしてしました。

説明: このユーザー ID は、要求されたユーザーのアイコンを作成するために必要な許可を持っていません。

ユーザーの処置: ルート権限を持つユーザー、または、ユーザー・ディレクトリー内にファイルを作成するために必要な許可を持つユーザーとしてログオンして、コマンドを再試行してください。

DBI1797I アイコンが正常に作成されました。

DBI1900N Windows NT クラスタ・サポートはアクセスできません。

説明: DB2 は Windows NT クラスタにアクセスできません。

ユーザーの処置: Windows NT クラスタ・サポートが正しくインストールされていてクラスタ・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1901N DB2/NT クラスタ・サービスに対するユーザーの権利を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 サービスで使用するよう指定されたアカウントに対して必要なユーザー権利を与えようとしたときに DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: 有効なアカウントが指定されていてユーザーの権利を与えるのに必要な特権があることを確認してください。

DBI1902N DB2/NT クラスター・サービス構成を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2/NT クラスター・サービス構成を更新しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: サービス・データベースがロックされていないこととアクセス可能であることを確認してください。また、DB2/NT クラスター・サービスが作成されていることも確認してください。

DBI1903N クラスター・レジストリーのアクセス中にエラーが起きました。

説明: Windows NT クラスター・レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

DBI1904N DB2 インスタンスがクラスターされていません。

説明: DB2 はクラスター操作を行うためにインスタンスにアクセスしようとしていましたがインスタンスは DB2 クラスター・インスタンスとして識別されませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスがクラスター・オプションで作成されたか確認してください。インスタンスがドロップされてクラスター・オプションで再作成される可能性があります。ノード・ディレクトリー、データベース・ディレクトリー、およびデータベース・マネージャー構成ファイルは失われます。

DBI1905N DB2 クラスター操作中にシステム・エラーが発生しました。

説明: DB2 がクラスター操作を実行中にシステム・エラーを検出しました。

ユーザーの処置: Windows NT オペレーティング・システムが、クラスター・サポートに対して適切なレベルにあることを確認してください。

また、Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1906N DB2 クラスター・インスタンスにノードを追加しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスター・インスタンスをサポートするノードを更新しようとしてエラーが起きました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1907N DB2 クラスター・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスター・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

ワークステーション自体からクラスター・サポートをドロップできません。このタスクを実行するためにインスタンスをドロップしてください。

DBI1908N リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーが発生しました。

説明: クラスタ・サポートを使用可能にするために、リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1909N リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーが発生しました。

説明: クラスタ・サポートを使用不能にするために、リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1910N 使用法 : DB2NCRT
-I:<Instance-Name>
-C:<cluster-node>

説明: ユーザーが DB2NCRT コマンドに対して誤った引き数を指定しました。

ユーザーの処置: クラスタされたインスタンスおよびクラスタ・ノードに対する有効なワークステーション名を指定してコマンドを再発行してください。

DBI1911N 使用法 : DB2NLIST
-I:<Instance-Name>

説明: ユーザーが DB2NLIST コマンドに対して誤った引き数を指定しました。

ユーザーの処置: クラスタされたインスタンスを指定してコマンドを再発行してください。

DBI1912I DB2 クラスタ・コマンドは成功しました。

説明: ユーザー要求は正常に処理されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1913N リモート・マシン・レジストリーへの接続ができません。

説明: リモート・マシンの Windows NT レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンが実行中でコンピューター名が正しいことを確認してください。また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにリモート・マシン・レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

DBI1914N クラスタ・レジストリーへの接続ができません。

説明: Windows NT クラスタ・レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: Windows NT クラスタ・サポートが正しくインストールされていてクラスタ・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1915N ターゲット・マシンは **Windows NT** クラスタに所属しません。

説明: コマンドは次の理由のいずれかで失敗しました。

- (1) db2iclus ユーティリティが DB2 MSCS インスタンスからマシンを除去しようとしたがターゲット・マシンが DB2 MSCS インスタンスに追加されていない。
- (2) db2iclus ユーティリティがマシンを DB2 MSCS インスタンスに追加しようとしたがターゲット・マシンに、必要な Windows NT クラスタのサポート・ソフトウェアがインストールされていない。

ユーザーの処置: 問題の原因に対応する処置に従ってください。

- (1) "db2iclus list" コマンドを実行してマシンが DB2 MSCS インスタンスの一部であることを確認する。
- (2) ターゲット・マシンに Windows NT クラスタ・ソフトウェアをインストールしてコマンドをやり直す。

DBI1916N 指定されたインスタンス名が無効です。

説明: インスタンス名パラメーターで指定されたインスタンスがローカル・マシンに存在しません。

ユーザーの処置: 有効なインスタンスのリストを検出するには、db2ilist コマンドを実行してください。有効なインスタンス名を使用して、コマンドを再発行してください。

DBI1917N DB2 プロファイル変数 "%1" がターゲット・マシンに設定されていません。

説明: 必要な DB2 プロファイル変数がターゲット・マシンに設定されていません。コマンドの続行ができません。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

DBI1918N Windows NT レジストリーのアクセス中にエラーが起きました。

説明: ターゲット・マシンの Windows NT レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンの Windows NT レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

DBI1919N TCP/IP サービス・ファイルのアクセス中にエラーが起きました。

説明: TCP/IP サービス・ファイルの読み取りあるいは更新中に DB2 でエラーが起きました。

ユーザーの処置: システムにサービス・ファイルが存在しておりそのファイルが読み取りおよび書き込み権限にアクセスすることができることを確認してください。また、ファイルの内容が有効で、サービス・ファイルに項目の重複がないことも確認してください。

DBI1920N DB2 インスタンス・プロファイル・パスが無効です。

説明: DB2 インスタンス・プロファイル・パスが存在しないか、書き込みアクセスが現在のログオン・ユーザー・アカウントに与えられていないため、指定した DB2 インスタンス・プロファイル

ル・パスに DB2 はアクセスできません。

ユーザーの処置: DB2 インスタンス・プロファイル・ポイントのパス名が有効なディレクトリーとなっていて、現在のログオン・ユーザー・アカウントがそのディレクトリーに対して書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1921N ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

説明: ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

ユーザーの処置: 正しいアカウントでコマンドを再発行してください。

DBI1922N ホスト名が無効です。

説明: TCP/IP ホスト名パラメーターが無効であるか存在しないかのいずれかです。

ユーザーの処置: TCP/IP がシステムで操作可能であることを確認してください。定義域名サーバーを使用している場合、定義域名サーバーが活動状態であることを確認してください。正しい TCP/IP ホスト名を使用してコマンドを再発行してください。

DBI1923N TCP/IP ポート範囲パラメーターが指定されていません。

説明: 区分データベース・インスタンスに対する TCP/IP ポート範囲がサービス・ファイルに追加されていない場合にこのインスタンスを作成するには、db2icrt ユーティリティーには TCP/IP ポート範囲の指定が必要です。

ユーザーの処置: システムで使用可能な TCP/IP ポートの範囲を選択して db2icrt コマンドに `-r` オプションを付けて再発行してください。

DBI1924N コンピューター名が無効です。

説明: コンピューター名パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンが実行中でコンピューター名が正しいことを確認してください。また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにマシン・レジストリーに接続できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1925N DB2 サービスの状況を照会できません。

説明: DB2 サービスの状況の照会が DB2 ではできません。

ユーザーの処置: DB2 サービスがターゲット・マシンに存在しているか確認してください。現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンのサービス状況を照会できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1926N パスワードが期限切れです。

説明: パスワードの期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。

DBI1927N 使用法 :

```
db2iclus {add | drop | list |
          migrate }
          [/c:Cluster name]
          [/p:instance profile path]
          [/u:username,password]
          [/i:instance name]
```

説明: このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

add DB2 MSCS インスタンスに MSCS ノードを追加する

drop DB2 MSCS インスタンスから MSCS ノードを除去する

list DB2 MSCS インスタンスの一部であるすべての MSCS ノードをリストする

migrate

MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスに・マイグレーションする

このコマンドの有効なオプションは以下のとおりです。

- /c** デフォルト / 現行クラスターと異なる場合 MSCS クラスター名を指定する
- /p** インスタンス・プロファイル・パスを指定する。このオプションは MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスに・マイグレーションするときに必要です。
- /u** DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは別の MSCS ノードを DB2 MSCS 区分データベース・インスタンスに追加する時に必要です。
- /i** デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合インスタンス名を指定する

ユーザーの処置: 有効なパラメータを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1928N ユーザー・アカウントが指定されていません。

説明: 区分データベース・インスタンスの作成あるいはノードの追加を行う時には、ユーザー・アカウント・パラメータを指定する必要があります。Windows NT 環境では、インスタンス・ディレクトリーが置かれたネットワーク共有にアクセスするには、有効な Windows NT アカウントのもとでデータベース・マネージャ区分 (あるいは MPP ノード) を実行しなければなりません。

ユーザーの処置: コマンドに `-u` オプションを指定して、ユーザー・アカウント名とパスワードを指定して、再発行してください。

DBI1929N インスタンスは MSCS サポートですすでに構成されています。

説明: インスタンスは MSCS サポートですすでに構成されているため MSCS インスタンスへのインスタンスの・マイグレーションが失敗しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1930N ターゲット・マシンはすでに DB2 MSCS インスタンスの一部です。

説明: ターゲット・マシンがすでに DB2 MSCS インスタンスの一部であるため MSCS ノードの DB2 MSCS インスタンスへの追加が失敗しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBI1931N データベース区分サーバー (ノード) が活動状態です。

説明: データベース区分サーバーが活動状態のためドロップあるいは修正はできません。

ユーザーの処置: データベース区分サーバーがドロップあるいは変更の前に停止していることを確認してください。データベース区分サーバーを停止するには、次のように `db2stop` コマンドを使用します。

```
db2stop nodenum <node-number>
```

DBI1932N リモート・マシン上に同一インスタンスが存在しているためリモート・マシン上にデータベース区分サーバーを追加できません。

説明: リモート・マシンにインスタンスが存在しているため `db2ncrt` コマンドはリモート・マシン上に新規のデータベース区分サーバーを追加できません。

ユーザーの処置: リモート・マシン上のインスタンスが使用できない場合リモート・マシン上で

db2idrop コマンドを実行してインスタンスを除去してください。

DBI1933N システムにデータベースが存在しているためデータベース区分サーバーは新規のマシンに移動されません。

説明: db2nchg コマンドが /m:machine オプションを指定して発行されるとこのコマンドはデータベース区分サーバーを新規のマシンに移動します。システムにデータベースが存在している場合には db2nchg は失敗します。

ユーザーの処置: データベースが存在する時に新規マシンにデータベース区分サーバーを移動するには、db2start restart コマンドを使用してください。db2start コマンドの詳細については、『DB2 コマンド解説書』を参照してください。

DBI1934N 使用法 :

```
db2iupdt InstName
        /u:username,password
        [/p:instance profile path]
        [/r:baseport,endport]
        [/h:hostname]
```

説明: 無効な引き数が db2iupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

InstName

インスタンスの名前

/u DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは区分データベース・インスタンスを作成する時に必要です。

/p 更新されたインスタンスに対して新規のインスタンス・プロファイル・パスを指定する

/r MPP モードで実行する時に区分データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ロー

カル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されます。

```
DB2_InstName      baseport/tcp
DB2_InstName_END  endport/tcp
```

/h 現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名を上書きする。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1935N db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

説明: 次の理由のいずれかで db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

- (1) db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーから欠落している。
- (2) db2iupdt コマンドにインスタンス・ディレクトリー内にファイルあるいはサブディレクトリーを作成するのに必要な権限がない。

ユーザーの処置: db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーに存在し現行のログオン・アカウントにインスタンス・ディレクトリーにファイルおよびディレクトリーを作成するだけの権限があることを確認してください。インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります (ここで InstName はインスタンスの名前です)。

DBI1936N db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新に失敗しました。

説明: 前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、壊れているか欠落しているため、db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー

構成ファイルの更新ができませんでした。現在のインスタンスは不整合状態で使用できません。

ユーザーの処置: デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーにコピーしてコマンドを再実行してください。インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります。デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルは db2system という名前で ¥sqllib¥cfg ディレクトリーにあります。

DBI1937W db2ncrt コマンドは正常にノードを追加しました。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまで活動状態になりません。

説明: すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドで同時に停止されない限り、db2nodes.cfg ファイルが更新されて新規ノードが組み込まれることはありません。ファイルが更新されない限り、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止したら、db2start を発行して、新規のノードを含め、すべてのノードを開始してください。

DBI1950W インスタンス “<instance-name>” はすでにインスタンス・リストにあります。

説明: 作成または・マイグレーション中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

DBI1951W インスタンス “<instance-name>” がインスタンス・リストに見つかりませんでした。

説明: 示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

DBI1952E インスタンス名 “<instance-name>” が無効です。

説明: インスタンス名が無効です。次のものは使えません。

1. 8 文字より長い名前。
2. “sql”、“ibm”または“sys”で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a-z、\$、#、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1953E インスタンスが活動中です。

説明: 活動状態のインスタンスをドロップしようとしてしました。

ユーザーの処置: db2stop を発行 (そのインスタンスのユーザー ID から) して、インスタンスを停止する前に、インスタンスを使用しているアプリケーションがすべて終了しているかを確認してください。

DBI1954E インスタンス名は DB2 管理サーバーで使用しています。

説明: インスタンスを DB2 管理サーバーで使用するため作成できません。

ユーザーの処置: 別のインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

DBI1955E 使用法 : **db2idrop [-h] [-f]**
 InstName

説明: 間違った引き数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- h** 使用法情報を表示する
- f** 強制アプリケーション・フラグこのフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName
 インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2idrop [-h] [-f] InstName
```

DBI1956E 使用法: **db2ilist [-w WordWidth]**
 [-l]

説明: 間違った引き数が db2ilist コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

- h** 使用法情報を表示する
- w WordWidth**
 作成されるインスタンスの幅 (バイト単位: 32 または 64) です。(AIX、Sun)
- l** ロング形式を指定する

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2ilist [-w WordWidth] [-l]
```

DBI1957E **db2icrt** コマンドの構文に誤りがあります。

説明: db2icrt ユーティリティーはデータベース・インスタンスを作成します。

```
db2icrt InstName [-s {eeeeelclientstandalone|
                  satellite}]
                  [-mpp]
                  [-p instance profile path]
                  [-u username,password]
                  [-h hostname]
                  [-c Cluster name]
                  [-r baseport,endport]
                  [-?]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

-s 作成するインスタンスのタイプを指定する

eee 区分データベース・サーバー

ee ローカルおよびリモート・クライアントを持つデータベース・サーバー

client クライアント

standalone
 ローカル・クライアントを持つデータベース・サーバー

satellite
 サテライト・データベース・サーバー

-mpp このオプションを使用しないでください。区分データベース・インスタンスを作成する場合、“-s eee” で置き換えなければなりません。

-p インスタンス・プロファイル・パスを指定する。このオプションは区分データベース・インスタンスを作成する時に必要です。

-u DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは区分データベース・インスタンスを作成する時に必要です。

-h 現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名を上書きする。TCP/IP ホスト名はデフ

ォルトのノード (ノード 0) を作成するときに使用されます。

- c** MSCS クラスタ名を指定する。このオプションは MSCS をサポートする DB2 インスタンスを作成するために指定されます。
- r** MPP モードで実行する時に区分データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されます。

```
DB2_InstName      baseport/tcp
DB2_InstName_END  endport/tcp
```

-? ヘルプを表示する

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1958N インスタンス・プロファイルがレジストリーに追加できません。

説明: レジストリーにインスタンス・プロファイルを追加しようとしてエラーが起きました。インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1959N インスタンス・ディレクトリーが作成できません。

説明: 新規インスタンスに必要なファイルあるいはディレクトリーを作成しようとしてエラーが発生しました。インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーが作成されている位置に書き込みアクセスがあることを確認してください。インスタンス・ディレクトリーは製品がインストールされているパスの下に作成されます。DB2INSTPROF プロファイル変数を使用してインスタンス・ディレクトリー

に対する別の位置を指定する場合があります。

DBI1960N DB2 サービスが作成できません。

説明: DB2 サービスを登録中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: NT サービスを作成するのに十分な権限があり、サービス・データベースがロックされていないことを確認してから操作を再試行します。

DBI1961N 新規インスタンスに対するノード・キーがレジストリーに追加できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーで新規のインスタンスに対するノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1962N 新規ノードがレジストリーに追加できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーに新規のノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1963N インスタンスのアカウントに対するユーザーの権利を与えているときにエラーが発生しました。

説明: DB2 サービスのアカウントを構成しているときに、アカウントに次のユーザーの権利を与える必要があります。

1. オペレーティング・システムの一部として動作する
2. トークン・オブジェクトを作成する
3. 割り当てを増やす
4. サービスとしてログオンする

5. 処理レベル・トークンを置換する

インスタンスのアカウントに対するユーザーの権利を与えているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: マシンが NT ドメインに属している場合、1 次ドメイン・コントローラーが活動状態でネットワークからアクセス可能であることを確認してください。そうでない場合には IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1964N ログオン・アカウントが DB2 サービスに割り当てられません。

説明: DB2 サービスにログオン・アカウントを割り当て中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ログオン・アカウントのユーザー名およびパスワードが有効であることを確認してください。

DBI1965N ノード "<node-number>" がノード・リストに見つかりません。

説明: 指定されたノードがノード・リストで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2NLIST コマンドを使用してノードのリストを表示して、ノードが存在することを確認してください。

DBI1966N ノードがレジストリーから削除できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーから指定のノードを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1967N DB2 サービスが登録解除できません。

説明: DB2 サービスの登録解除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: NT サービスを削除するのに十分な権限があることを確認してください。

DBI1968N プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

説明: プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1969N インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中にエラーが起きました。

説明: インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中に内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーに書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1970N インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1971N インスタンス・プロファイルがレジストリーから除去できません。

説明: レジストリーから インスタンス・プロファイルを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1972N インスタンス・ディレクトリーが除去できません。

説明: 指定されたインスタンスに属する必要なファイルあるいはディレクトリーを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーがある位置への書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1973N DB2 サービスを開始するための構成が自動的に失敗しました。

説明: DB2 サービスを自動的に開始する設定中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: マシンをリブートしてコマンドを再度試行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1974N プロファイル変数
DB2ADMINSERVER がプロファイル・レジストリーに設定できません。

説明: プロファイル・レジストリーにプロファイル変数 **DB2ADMINSERVER** を設定中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1975N 環境変数 **DB2ADMINSERVER** がプロファイル・レジストリーから除去できません。

説明: プロファイル・レジストリーの環境変数 **DB2ADMINSERVER** を削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DBI1980W UPM でユーザー ID “<userID>”を作成できません。

説明: 製品のインストール中に提供するユーザー ID が、ユーザー・プロファイル管理 (UPM) で作成されませんでした。このユーザー ID は DB2 管理サーバーを開始するために必要です。

ユーザーの処置: UPM を使用するユーザー ID とパスワードを手動で作成し、次に DB2 管理サーバーを手動で開始します。“db2admin” コマンドを使用するユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用するために DB2 管理サーバーを設定する必要がある可能性があります。

第7章 DB2 メッセージ

どのメッセージにも、接頭部 (DB2) とメッセージ番号から成るメッセージ ID が付いています。メッセージはメッセージ番号順に一覧で示されています。警告またはエラー条件が発生すると、それを知らせるためこれらのメッセージがコマンド行プロセッサによって生成されます。メッセージは画面インターフェースに直接表示されます。コマンド行プロセッサは DB2 および SQL メッセージを返します。

DB2000r “<command>” コマンドが正常に完了しました。

説明: このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21001E 'DB2' コマンドの後ろ、または **DB2OPTIONS** 変数に指定された “<option-letter>” オプションが正しくありません。

説明: 示されたオプションはサポートされていません。サポートされているオプションは、次のとおりです。

Option	Description
-a	Display SQLCA
-c	Auto-commit
-e	Display SQLCODE/SQLSTATE
-f	Read from input file
-l	Log commands in history file
-n	Remove new line character
-o	Display output
-p	Display interactive prompt
-r	Save output report to file
-s	Stop execution on cmd error
-t	Set stmt termination character
-v	Echo current command
-w	Display FETCH/SELECT warnings
-x	Suppress printing of column headings
-z	Save all output to file

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なオプションを使用して、

コマンドを再発行してください。

DB21002E 'db2' コマンドの後ろ、または **DB2OPTIONS** 変数に指定された “<option-letter>” オプションのパラメーターがないか、または正しくありません。

説明: パラメーターを持つオプションのリストは、次のとおりです。

Option	Description
-ec	Display SQLCODE
-es	Display SQLSTATE
-f<filename>	Read from input file <filename>
-l<filename>	Log commands in history file <filename>
-r<filename>	Save output report to file <filename>
-td<x>	Set termination char. to 'x'
-z<filename>	Save all output to file <filename>

ユーザーの処置: 有効なオプションとパラメーターを使用して、コマンドを再実行依頼してください。

DB21003E “<environment-variable>” の値 “<value>” が無効です。

説明: DB2BQTRY の値は 0 から 4294967295 でなければなりません。

DB2BQTIME、DB2RQTIME または DB2IQTIME

の値は 1 から 4294967295 でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい値で環境変数を設定し、コマンドを再実行依頼してください。

DB21004E コマンド行プロセッサの呼び出しで、入力ファイルとコマンドの両方を指定することはできません。

説明: コマンド行プロセッサを呼び出す場合、-f オプションとコマンド行コマンドの両方は指定できません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21005E ファイル “<filename>” にアクセス中に、エラーが発生しました。

説明: エラーの原因になった可能性があるのは、次のとおりです。

- ファイル許可がファイル・アクセスを許可しません
- ファイルが存在しません

ユーザーの処置: エラーを訂正して、もう一度やり直してください。

DB21006E 入力コマンドが長すぎます。最大長は “<length>” です。

説明: 入力コマンドが、示されている長さを超えることはできません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21007E コマンド読み取り中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: ファイルの終わりに達したため、最後のコマンドが実行されませんでした。-t オプションを使用している場合、最後のコマンドを ';' (または定義済みの終了文字) で終了させます。+t オプションを使用している場合は、コマンドの最後

の行から '¥' を取り除きます。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21008E コマンドは、コマンド行プロセッサの対話モードか、ファイル入力モードでのみ入力できます。

説明: コマンド行プロセッサ・コマンドを DOS プロンプトから入力しようとした。

ユーザーの処置: コマンド行プロセッサの対話型モード、またはファイル入力モードを使用してください。

DB21010I “<help-command-phrase>” のヘルプです。

説明: このメッセージは、-I オプションで指定されたヒストリー・ファイルにのみ書き込まれます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21011I 区分されたデータベース・サーバー環境において、現行ノード上の表スペースのみリストされます。

説明: 現行ノード上の表スペースのみが LIST TABLESPACES コマンドで見ることができます。

ユーザーの処置: 別のノード上にある表スペースをリストするには、そのノードで LIST TABLESPACES コマンドを出さなければなりません。

DB21015E コマンド行プロセッサのバックエンド・プロセスの要求キューまたは入力キューが、タイムアウト時間内に作成されませんでした。

説明: DB2BQTRY および DB2BQTIME 環境変数の値を増やす必要があるか、またはコマンド行プロセッサのバックエンド・プログラム “db2bp” が始動できないかのいずれかです。

"db2bp" プログラムは、正しいデータベース・マネージャー・インストール・パスに存在していなければならない、ユーザーはそのファイルの実行許可を持っている必要があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21016E バックエンド・プロセスにコマンドを送信中に、コマンド行プロセッサでシステム・エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかが起きた可能性があります。

- バックエンド・プロセスが異常終了しました。
- バックエンド・プロセス・キューとの間の読み取りまたは書き込み中に、システム・エラーが起きました。
- フロントエンド・プロセスの出力キューからの読み取り中に、システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。このエラーが再び起こる場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

DB21017E コマンド行プロセッサのフロントエンド・プロセスの出力キューで、システム・エラーが発生しました。
理由コード = <reason code>。

説明: フロントエンド・プロセスの出力キューの作成または読み取り中に、システム・エラーが起きました。

理由コードが -2499 の場合、コマンド行プロセッサの出力キューが既存のキューと矛盾しています。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。このエラーが再び起こる場合、メッセージ番号と理由コードを記録して、システム管理者に報告してください。

DB21018E システム・エラーが発生しました。
コマンド行プロセッサは処理を続行できませんでした。

説明: 以下のいずれかがシステム・エラーの原因です。

- スクリーンに出力されるデータが多すぎます。処理の完了時に表示できるファイルに、出力をパイプ接続してください。
- コマンド行プロセッサが、割り込みシグナル・ハンドラーのインストールに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、バックエンド・プロセス・キューのオープンに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、バックエンド・プロセスの始動に失敗しました。
- バックエンド・プロセスが異常終了しました。
- フロントエンド・プロセスが、メモリーの割り振りまたは解放に失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、次のいずれかのプログラム終了シグナルを受け取りました。
 - SIGILL
 - SIGTRAP
 - SIGEMT
 - SIGBUS
 - SIGSEGV
 - SIGSYS

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合、DB2 メッセージ番号を記録しておいてください。トレースがアクティブの場合は、トレース情報を保管して、技術サポートに次の情報を渡してください。

- 問題記述
- DB2 メッセージ番号
- SQLCA (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

DB21019E ディレクトリー “<directory>” にアクセス中に、エラーが発生しました。

説明: エラーの原因になった可能性があるのは、次のとおりです。

- ディレクトリー許可がアクセスを許可しません
- ディレクトリーが存在しません

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21020E デフォルトのメッセージ・ファイル “<file>” を作成できません。

説明: このコマンドを適切に処理するため、メッセージをコンソールに表示する前に、処理の保管中にそのメッセージを発行したファイルが CLP に必要となります。このような目的で通常使用されているディレクトリー (UNIX プラットフォームの /tmp または ...OS/2 の ¥TMP) に、そのファイルを作成しようとしています。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21021E 管理サーバーのインスタンスが定義されていません。コマンドは失敗しました。

説明: 管理サーバーのインスタンスを使用するために必要なコマンドを実行しましたが、そのインスタンスは定義されていません。

ユーザーの処置: 管理サーバー・インスタンスを定義してコマンドを再度実行してください。

DB21022E 管理サーバーのインスタンス “<instance-name>” に切り替えられません。

説明: 管理サーバーのインスタンスを使用するために必要なコマンドを実行しました。コマンド行プロセッサが管理サーバーのインスタンス “<instance-name>” に切り替えようとしたことが、

失敗しました。次の理由が考えられます。

- 管理サーバーのインスタンスが正しく設定されていない。
- コマンド行プロセッサがすでに DB2 インスタンスに付加されている。
- コマンド行プロセッサがデータベースに接続している。

ユーザーの処置: このコマンドを使用する前に、有効な管理サーバー・インスタンスが設定されているかどうか検査してください。また要求を試みる前に、DETACH、CONNECT RESET、あるいは TERMINATE コマンドを実行するようお勧めします。

DB21023E 管理サーバーから実行される場合、コマンドは無効です。

説明: GET DBM CONFIGURATION、RESET DBM CONFIGURATION、あるいは UPDATE DBM CONFIGURATION のいずれかのコマンドを出しましたが、これらのコマンドは管理サーバーから実行できません。

ユーザーの処置: 管理サーバーで有効なコマンドのいずれかを発行してください。GET ADMIN CONFIGURATION、RESET ADMIN CONFIGURATION、あるいは UPDATE ADMIN CONFIGURATION。

DB21024I このコマンドは非同期であり、即時に有効にならない場合もあります。

説明: このメッセージは、ASYNC 文節を持つ FORCE コマンドの後に表示されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB21025I アプリケーションの次の始動まで、あるいは **TERMINATE** コマンドが実行されるまで、クライアントの変更は反映されません。次の **DB2START** コマンドまで、サーバーの変更は有効になりません。

説明: データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は、メモリーにロードされた後でのみ有効になります。通常これは、サーバーでの **DB2START** の後、およびクライアントでのアプリケーションの再始動の後に起きます。

ユーザーの処置: 新規データベース・マネージャーの構成パラメーターを効果的なものにするには、以下のいずれかを実行してください。

- ユーザー・アプリケーション: アプリケーションの停止および開始
- CLP: **TERMINATE** および再接続
- サーバー: **DB2STOP** および **DB2START** の発行

DB21026I 大半の構成パラメーターでは、変更を有効にする前にすべてのアプリケーションをこのデータベースから切断する必要があります。

説明: データベース構成コマンドは正常に処理されました。ただし、**MINCOMMIT** のような構成パラメーター以外は、すべてのアプリケーションは、データベースから切断するまで変更できません。アプリケーションがデータベースから切断される後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認し、**db2** 接続コマンドを実行してください。またバインド中に新規値が使用されるよう、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする場合があります。

DB21027E データベースに接続中は、分離レベルは変更できません。

説明: データベースに接続されている間に、分離レベルを変更しようとした。コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: 分離レベルの変更が必要な場合、現在のデータベースから切断した後で分離レベルを設定し、そのデータベースに再接続してください。

DB21028E カーソル “<cursor-name>” が宣言されていません。

説明: **OPEN**、**FETCH**、または **CLOSE SQL** ステートメントを発行する前に、示されているカーソルを宣言する必要があります。

ユーザーの処置: カーソルを宣言して、コマンドを再実行依頼してください。

DB21029E カーソル “<cursor-name>” は、すでに宣言されオープンされています。

説明: オープンされているカーソルを宣言しようとした。

ユーザーの処置: カーソルをクローズして、オープン・コマンドを再実行依頼してください。

DB21030E カーソル “<cursor-name>” がオープンされていません。

説明: 示されたカーソルをオープンする必要があります。

ユーザーの処置: カーソルをオープンして、コマンドを再実行依頼してください。

DB21031E カーソル “<cursor-name>” (“<internal-cursor>”) を使用している SQL ステートメントが戻されました。

説明: このメッセージは、ユーザー定義カーソルの内部カーソル名を表示します。いくつかの SQL エラー・メッセージが、内部カーソル名を示す場合があります。このメッセージは、SQL メッセージの前に表示されます。

ユーザーの処置: SQL エラーを訂正して、コマンドを再実行依頼してください。

DB21032E すでに、最大数のカーソルが宣言されています。

説明: コマンド行プロセッサは、WITH HOLD 属性で宣言された 100 のカーソル、および WITH HOLD 属性なしで宣言された 100 のカーソルをサポートしています。

ユーザーの処置: 既存のカーソルのいずれかを再宣言して、コマンドを再実行依頼してください。

DB21033E DRDA ホストに常駐するデータベースについて無効なコマンドです。

説明: 以下のコマンドは、DRDA ホスト・サーバーに存在するデータベースに対してサポートされていません。

- LIST TABLES
- LIST PACKAGES
- REORGCHK

ユーザーの処置: このデータベースに対してコマンドを実行しないでください。

DB21034E コマンドが、有効なコマンド行プロセッサ・コマンドでないため、SQL ステートメントとして処理されました。SQL 処理中に、そのコマンドが返されました。

説明: このメッセージは、SQL メッセージの前に表示されます。非 SQL コマンドの構文エラーが原因でエラーが発生します。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21035E “<list-name>” リストの項目の最大数を超えました。最大数は “<number>” です。

説明: リストの項目数は、示されている最大数を超えることはできません。このエラーは、無効な範囲指定によって起きた可能性があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21036E “<command>” コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドをトレースを活動状態にして再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管し次の情報を技術サポートに連絡してください。

- 問題記述
- DB2 メッセージ番号
- トレース・ファイル

DB21037W データ・ソースが見つかりません。

ユーザーの処置: 指定したタイプ (USER あるいは SYSTEM) の ODBC データ・ソースが見つかりませんでした。他のタイプ (SYSTEM あるいは USER) を指定して、コマンドを再試行してください。

DB21040E “<number>” は、有効な未確定トランザクション番号ではありません。

説明: “<number>” が、リストされている未確定のトランザクション番号のいずれでもありません。

ユーザーの処置: リストされているトランザクション番号のいずれかを選択して、コマンドを再実行依頼してください。

DB21041W <number> 個の未確定トランザクションが表示されていません。

説明: コマンド行プロセッサが、すべての未確定トランザクションを表示できませんでした。表示されなかったトランザクションの数は “<number>” です。

ユーザーの処置: システムの未確定トランザクションの合計数を減らすためには、未確定トランザクションの現在のリストの処理を完了してください。次に、未確定トランザクションのリスト・コマンドを再発行してください。

DB21042E トランザクション番号を指定しなければなりません。

説明: 未確定トランザクションの commit (c)、rollback (r)、または forget (f) サブコマンドには、トランザクション番号を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 適切なトランザクション番号を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21043E “<subcommand>” は有効な要求ではありません。

説明: 示された未確定トランザクション・サブコマンドが無効です。有効なサブコマンドは、次のとおりです。

Subcommand	Description
c <number>	Heuristically commit the

```
in-doubt transaction <number>.
r <number>      Heuristically rollback the
                in-doubt transaction <number>.
f <number>      Heuristically forget the
                in-doubt transaction <number>.
l <number>      List all in-doubt transactions
                or the in-doubt transaction
                <number>.
q               Exit LIST INDOUBT TRANSACTION
                prompting.
```

注: “f <number>” コマンドは、DB2 エンタープライズ拡張エディションで使用できません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21044E トランザクション番号 “<number>” の COMMIT を行うことができません。

説明: commit (c) サブコマンドを実行するときは、トランザクションが準備状態 (i) でなければなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを実行してください。

DB21045E トランザクション番号 “<number>” の ROLLBACK を行うことができません。

説明: ロールバック (r) サブコマンドを発行する際に、トランザクションは準備済み (i) またはアイドル (e) 状態である必要があります。

ユーザーの処置: 別のコマンドを実行してください。

DB21046E トランザクション番号 “<number>” の FORGET を行うことができません。

説明: forget (f) コマンドを実行するときは、トランザクションがヒューリスティック・コミット済み (c) またはヒューリスティック・ロールバック済み (f) の状態でなければなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを実行してください。

DB21050E "**<state>**" は有効な **SQLSTATE** ではありません。

説明: 示されている sqlstate が有効でないか、または見つかりませんでした。有効な状態は、2 から 5 桁の数値です。

ユーザーの処置: 別の状態を使用して、コマンドを再実行依頼してください。

DB21051E この環境ではサポートされないコマンドです。

説明: 要求されたコマンドは、現在の環境ではコマンド行プロセッサによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 別のプラットフォーム、または別の環境でコマンドを再実行依頼してください。

DB21052I "**<command>**" が実行のために発行されました。

説明: コマンド行プロセッサが、示されているコマンドを実行しようとしています。コマンドが正常に完了したかどうかは判別できません。

ユーザーの処置: コマンドが明らかに失敗した場合、そのコマンドをコマンド行プロセッサ外から実行依頼してください。

DB21053W **<isolation-level>** をサポートしないデータベースに接続すると、自動調整が行われます。

説明: 分離レベルはデータベースによって異なります。NC などの一部だけが、特定のデータベースにサポートされています。接続しているデータベースによってサポートされていない分離レベルを選択すると、サポートされているレベルに自動的に調整されます。

ユーザーの処置: 選択した分離レベルをサポート

するデータベースに接続するか、または別の分離レベルを選択してください。

DB21054E コマンド行プロセッサが、**<command>** コマンドでシステム・エラーを検出しました。理由コード = **<reason code>**。

説明: コマンド行プロセッサが、示されているコマンドを処理するために十分なメモリーを確保できませんでした。処理中にシステム・エラーが起きました。

Reason code	Description	Syntax
1	Data file	LOAD FROM file/pipe/dev...
2	Lob data	LOBS FROM lob-path...
3	Directory	USING directory...
4	Source	FROM dir/dev...
5	Target	TO dir/dev...
6	Tablespace	TABLESPACE tblspace-name...
7	Tblspace-def	MANAGED BY...
8	Container data	USING (PATH..., PATH...) or USING ({FILE DEVICE}..., {FILE DEVICE}...)
9	Log path	log-directory ..., log-directory ...
10	Node list	node-number ..., node-number ...

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21055W コマンドはタイプ 2 接続には無効です。

説明: タイプ 2 接続には適用されない GET CONNECTION STATE コマンドから情報が返されました。

ユーザーの処置: QUERY CLIENT を発行して、CONNECT = 1 を確認してください。

DB21056W ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで反映されません。

説明: ディレクトリー・キャッシュ (DBM CFG dir_cache) が使用可能であれば、データベース、ノード、および DCS ディレクトリー・ファイルがメモリーにキャッシュされます。ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで反映されません。ディレクトリー・キャッシュの説明については、「管理の手引き」で dir_cache 構成パラメーターを参照してください。

ユーザーの処置: CLP のディレクトリー・キャッシュをリフレッシュするには、db2 TERMINATE を発行してください。他のアプリケーションのディレクトリー情報をリフレッシュするには、そのアプリケーションの停止と再始動を行ってください。データベースのディレクトリー情報をリフレッシュするには、データベースの停止 (db2stop) と再始動 (db2start) を行ってください。

DB21057E 無効なテープ装置が指定されました。

説明: オペレーティング・システムに渡されたテープ装置は受け入れられていません。Windows NT では、これは形式 "¥¥¥¥TAPEx" でなければなりません。ここで x はドライブ番号 (0 が最初) を表します。

ユーザーの処置: 有効なテープ装置を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21058E 無効なテープ位置が指定されました。

説明: 指定されたテープ・マーク位置が無効です。Windows NT では、バックアップが記録される最初のテープ位置は 1 です。後続のバックアップ・イメージはテープ・マーク 2 で開始されます。

ユーザーの処置: 有効なテープ装置を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21059E 無効なテープ・ブロック・サイズが指定されました。

説明: 指定されたテープ・マーク・ブロック・サイズがテープ装置でサポートされる範囲内になっていません。さらに、作業のためのバックアップ / 復元では、これは係数または 4096 の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なテープ・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

DB21060E 一般的なテープの障害。

説明: テープ操作から予期しない戻りコードが戻されました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。このエラーが再び起こる場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

DB21061E コマンド行環境が初期化されていません。

説明: db2cmd.exe によって開始されていないコマンド・ウィンドウから、コマンド行プロセッサーを呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: DB2CMD を出して、コマンド行プロセッサー環境が初期化されているコマンド・ウィンドウを開始してください。

DB21080E このデータベース別名に対して事前に発行した、**REDIRECT** オプション付きの **RESTORE DATABASE** コマンドがないか、またはそのコマンドに関する情報が失われています。

説明: CONTINUE または ABORT オプションで、RESTORE DATABASE コマンドを実行しようとしてしました。しかし、前に REDIRECT オプションで RESTORE DATABASE コマンドを実行し

ていないか、または失敗コマンド上で指定されたのとは別のデータベース別名以外に対してそのようなコマンドを実行しました。このメッセージが出された別の原因として、前に正しく発行された RESTORE DATABASE ... REDIRECT コマンドの情報が消失したことが考えられます。これは、CLP バックエンド処理が異常終了した場合か、または TERMINATE コマンドを実行した場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: RESTORE DATABASE ... REDIRECT コマンドおよび SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを再発行して、フル・リダイレクトされた復元処理を再開してください。次に、RESTORE DATABASE ... CONTINUE コマンドを実行してください。

DB21081E db2cli.ini ファイルにはセクションがありません。

説明: GET CLI CONFIGURATION コマンドを使用することによって、db2cli.ini ファイルの CLI パラメーターをリストしようとしたのですが、ファイルが空です。ファイルにはセクションがありません。

ユーザーの処置: db2cli.ini ファイルを更新するには、UPDATE CLI CONFIGURATION コマンドを使用してください。

DB21082E UPDATE CLI CONFIGURATION コマンドを実行する権限がありません。

説明: このコマンドを実行するには、SYSADM 権限が必要です。

ユーザーの処置: データベース管理者から必要な権限を与えてもらってから、コマンドを再発行してください。

DB21083E セクション <section> がありません。

説明: セクション <section> が db2cli.ini ファイルにありません。

ユーザーの処置: 既存のセクションを指定して、コマンドを再度発行してください。

DB21084E 新規パスワードと確認パスワードが一致しません。

説明: ATTACH または CONNECT コマンドを使用していて、パスワードの変更を指定しました。新規パスワードは、NEW および CONFIRM 文節を使用して、あるいはプロンプトに回答して 2 回指定する必要があります。新規パスワードとして指定した 2 つのパスワードは、別々のものです。

ユーザーの処置: 同じパスワードを 2 回指定してください。

DB21085I インスタンス "<instance_name>" は、レベル ID "<level_id>" および通知トークン "<build_id1>"、"<build_id2>"、"<build_id3>" を指定して、DB2 コード・リリース "<rel_ver_mod>" を使用します。

説明: このメッセージは、db2level コマンドの出力で、指定の DB2 インスタンスのコード・レベルに関する詳細情報を提供します。この情報は、DB2 サービス担当による要求の場合があり、問題の解決に役立ちます。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当に提供するため、表示されている情報をすべて記録してください。

db2level 実行プログラムは、マシン間でコピーしないようにします。DB2 インストールおよびサービス保守プログラムのみが、このファイルを操作します。

db2level 実行プログラムは、カスタマーが DB2

サービス担当から受け取り、正式にサポートされているサービス・レベルのトップにインストールした専用テストの修正に関する情報の表示は行いません。

DB21086I このバックアップ・イメージの増分 **RESTORE** 操作が正しく完了しましたが、増分 **RESTORE** 操作全体を完了するために復元が必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

説明: 増分 **RESTORE** 操作を完了するには、その復元チェーン内の増分バックアップ・イメージがそれぞれ復元されていなければなりません。現在の操作は正常に終了しますが、**RESTORE** 操作全体が完了するためには復元が必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

ユーザーの処置: 次のバックアップ・イメージを復元します。

DB21100E ストアド・プロシージャ “<procedure-name>” が複数のスキーマに存在します。

説明: 示されているプロシージャ名が複数のスキーマに見つかりました。

ユーザーの処置: 完全修飾プロシージャ名 (“<schema>”、“<procedure-name>”) を指定して、**CALL** コマンドを出し直してください。

DB21101E ストアド・プロシージャに指定されたコマンド行パラメーターが少なすぎます。

説明: ストアド・プロシージャ定義には、さらにコマンド行パラメーターが必要です。

ユーザーの処置: コマンド行パラメーターを確認し、コマンドを出し直してください。

DB21102E 環境ハンドルの割り振り中にエラーが起きました。 **sqlrc = “<rc>”**

説明: DB2 は、環境ハンドルの割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合、テクニカル・サポートに連絡してください。

DB21103W 指定されている入力パラメーターが多すぎます。 (“<quantity>” を予期)

説明: ストアド・プロシージャに指定されたコマンド行パラメーターが多すぎます。予期されている **quantity** の後のパラメーターは無視されません。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャのパラメーターを確認してください。

DB21600N “<command>” コマンドは正常に完了していません。

説明: このコマンドの実行中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に連絡してください。 **db2diag.log** ファイルの情報によって、サービス担当者が失敗の原因について、判断することができます。

DB29320W 出力が切り捨てられました。

説明: 全照会結果が提供されているようにフェッチされません。コマンド行プロセッサの出力は **MAX_STATEMENT_SIZE** 文字の最大が可能です。ただし、特殊な列の出力は **MAX_COLUMN_SIZE** 文字の長さを超過できません。

ユーザーの処置: **CLP** 照会にはさらに短いストリングをフェッチするように書き込みされます。DB2 に対して、別のインターフェースを使用しても、**CLP** の制限を克服することができます。

DB29501E DB2 は不整合な環境を検出しました。次を調査してください：
"**<error>**"

説明: 操作環境内でエラーが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーは、不整合な DB2 環境またはオペレーティング・システム環境が原因で発生する場合があります。エラー・メッセージに示されている問題を訂正して、コマンドを再発行してください。

DB29502E 非互換 Java 実行時環境が検出されました。必要なレベルの Java 実行時環境がインストールされているかどうかを確認してください。Java アプリケーションが DB2 と一緒にインストールされた Java ランタイムを使用して起動されている可能性があります。

説明: インストールされた Java 実行時が、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

ユーザーの処置: インストールした DB2 Java ランタイムは、DB2 Java アプリケーションを立ち上げるために使用されます。インストールした Java ランタイムを使用する他の Java アプリケーションを先に終了してから、DB2 Java アプリケーションを実行し、正しく動作しているかを確認してください。

DB29503E 複数のデータベースへの接続はサポートされていません。

説明: 複数のデータベースには接続できません。

ユーザーの処置: 1 つのデータベースにだけ接続してください。

DB29504E 複数のユーザーへの接続はサポートされていません。

説明: 複数のユーザーに接続することはできません。

ユーザーの処置: 1 つのユーザーにのみ接続してください。

DB29526E この表をドロップできません; 存在しません。結果のあるジョブを選択して、再試行するか、スケジュール済みの回帰ジョブを選択して再試行してください。

説明: 関連する結果表をもたないジョブに対して、結果表をドロップする要求が出ました。

ユーザーの処置: 結果が出ているジョブを選択するか、スケジュールする定期的ジョブを選択してから、再試行してください。

DB29543E リソース DLL **rqrsres.dll** が見つかりません。

説明: リソース DLL **rqrsres.dll** を正常にロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー回帰照会スケジューラーの初期化中にリソース DLL **rqrsres.dll** が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。DB2 クエリー・パトローラー **QueryEnabler** を再インストールしてください。

DB29544E リソース DLL **qeres.dll** が見つかりません。

説明: リソース DLL **qeres.dll** を正常にロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー **QueryEnabler** の初期化中に、リソース DLL **qeres.dll** が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。DB2 クエリー・

パトローラー QueryEnabler を再インストールしてください。

DB29545E 無効な名前: 照会名は 20 文字以内にしてください。名前を変更して再試行してください。

説明: 20 文字を超える照会名が指定されました。

ユーザーの処置: 最大 20 文字で照会名を指定してください。

DB29546E 無効な名前: 照会名には英数字とスペース ... (“a..z”、 “A..Z”、 “0..9”) が使用されます。名前を変更して再試行してください。

説明: 英数字以外の文字の入った照会名が指定されました。

ユーザーの処置: 照会名を英数字のみで指定してください。

DB29608E スクリプト・ロードが失敗しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーに必要なスクリプト・ファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーを再インストールしてください。

DB29610E ODBC ドライバー・マネージャーをロードできませんでした。

説明: ODBC ドライバー dll ODBC32.DLL をロードできませんでした。

ユーザーの処置: ODBC ドライバー dll ODBC32.DLL が損傷を受けたか、または破棄されたため、ロードできませんでした。 ODBC を再インストールしてください。

DB29611E ログインが 3 回失敗しました！
トラッカーを終了します！

説明: DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーは、ログイン・ダイアログで指定された ODBC データ・ソースへの接続を必要とします。ログイン・ダイアログで指定されたユーザー ID とパスワードの組み合わせでは、指定されたデータベースへの接続を許可されませんでした。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーをもう一度立ち上げて、ログイン・ダイアログで指定された ODBC データ・ソースに有効なユーザー ID とパスワードの組み合わせを指定してください。

DB29613E リソース DLL tkres.dll が見つかりません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーには、正常な操作を行うためにリソース dll tkres.dll が必要です。 dll をロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーの初期化中に、リソース DLL tkres.dll が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。 DB2 クエリー・パトローラー・トラッカーを再インストールしてください。

DB29700E アプリケーション・プログラミング・インターフェース
“<program>” は理由コード
“<name>” を伴うオブジェクト
“<name>” のために正常終了しませんでした。もう一度やり直すか、またはローカル・サポート担当者に連絡してください。

説明: アプリケーション・プログラミング・インターフェースの呼び出しが完了しませんでした。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DB29701E クラス “<class name>” が見つかりません。クラス・パスをチェックしてください。

説明: “<class_name>” が、指定されたクラス・パスに見つかりません。

ユーザーの処置: クラス・パスが正しいことを確認してください。QueryAdmin.bat または QueryMonitor.bat を使用している場合は、バッチ・ファイルのクラス・パス設定を調べてください。

DB29702E ユーザー “<userID>” には、**QueryAdministrator** を使用する管理権限がありません。

説明: ユーザー “<userID>” には、**DB2** クエリー・パトローラー・ユーザー・プロファイル表で定義された管理権限がありません。

ユーザーの処置: **DB2** クエリー・パトローラー管理者を使用して、“<userID>” が操作の実行に必要な許可を持っているかを確認してください。

DB29703E ユーザー “<userID>” はユーザー・プロファイルに定義されていません。

説明: ユーザー “<userID>” が、**DB2** クエリー・パトローラー・ユーザー・プロファイル表に定義されていません。

ユーザーの処置: **DB2** クエリー・パトローラー管理者を使用して、“<userID>” がユーザー・プロファイル表に定義されているかを確認してください。

DB29704E ユーザー **iwm** は除去できません。

説明: ユーザー **iwm** は、**DB2** クエリー・パトローラーに必須のユーザー ID であるため、除去できません。

ユーザーの処置:

DB29705W “<column-name>” に無効値が入力されました。有効範囲は “<minimum_value>” から “<maximum_value>” です。

説明: “<column-name>” に入力された値は無効です。

ユーザーの処置: 範囲内の値で値を再入力してください。

DB29706E ジョブ・キュー “<queue_id>” は除去できません。このキューには、1 つまたは複数の未完了ジョブがあります。

説明: 実行されているジョブが入っているため、ジョブ・キュー “<queue_id>” は除去できません。

ユーザーの処置: このキュー内のジョブがすべて完了するまで待機してください。

DB29707E 結果宛先 “<destination-name>” はすでに定義されています。

説明: 示されている “<destination-name>” はすでに定義されています。“<destination-name>” は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有の “<destination-name>” を指定してください。

DB29708E ユーザー “<userID>” はすでに定義されています。

説明: 示されている “<userID>” はすでに定義されています。“<userID>” は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有の “<userID>” を指定してください。

DB29709E グループ “<group_id>” はすでに定義されています。

説明: 示されている “<group_id>” はすでに定義されています。“<group_id>” は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有の “<group_id>” を指定してください。

DB29710E ジョブ・キュー “<queue_id>” はすでに定義されています。

説明: 示されている “<queue_id>” はすでに定義されています。“<queue_id>” は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有の “<queue_id>” を指定してください。

DB29720E ユーザー “<userID>” には、**QueryMonitor** を使用するために必要な権限がありません。

説明: ユーザー “<userID>” は **DB2** クエリー・パトローラー・ユーザー・プロファイル表に定義されていますが、権限を持っていません。

ユーザーの処置: **DB2** クエリー・パトローラー管理者を使用して、“<userID>” が操作の実行に必要な許可を持っているかを確認してください。

DB29721E 新規ジョブの実行依頼でエラーが発生しました。理由コード : “<reason-code>”

説明: 新しい照会の実行依頼中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応しています。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29722E ジョブ順序番号の生成でエラーが発生しました。理由コード : “<reason-code>” ジョブは実行依頼されません。

説明: ジョブ順序番号の生成中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応しています。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29723E ジョブ “<job-id>” の結果セットの除去中にエラーが発生しました。理由コード : “<reason-code>”

説明: 指定された結果セットの除去中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応しています。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。表がシステム環境外に手操作でドロップされた可能性があります。

DB29724E ジョブ “<job-id>” の状況を変更しようとしてエラーが発生しました。理由コード : “<reason-code>”

説明: 指定されたジョブの状況を変更しているときに、エラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応しています。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29725E ジョブ “<job-id>” を SQL ステートメント “<SQL_stmt>” で再実行依頼中にエラーが発生しました。理由コード：“<reason-code>”

説明: 指定されたジョブの再実行依頼中にエラーが起きました。返された理由コードを調べてください。

理由コードは有効な SQL メッセージに対応しています。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29726E 要求は正常に完了しました。

説明: 要求が正常に行われました。

ユーザーの処置:

DB29727N DB2 クエリー・パトローラー・サーバーはインストールされていません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは DB2 サーバーにインストールされていません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをインストールしてください。

DB29801E 無効なコマンド行パラメーターです。

説明: 指定されたコマンド行のパラメーターが欠落しているか、または正しくありません。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29802E エラーで終了しました。

説明: プログラムはエラーのために終了しました。理由については、関連するエラー・メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、この操作を再試行してください。

DB29803E DB2 レジストリー変数 “<registry-variable>” が設定されていないか、無効です。

説明: 必須の DB2 レジストリー変数 “<registry-variable>” が設定されていないか、または無効な形式で設定されています。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー変数が DQP_RUNTIME の場合は、DQP_RUNTIME を DB2 クエリー・パトローラーのインストール先である完全修飾パスに設定してください。

DB2 レジストリー変数が DQP_SERVER または DQP_NET の場合は、DQP_SERVER または DQP_NET を [host]:[port] に設定してください。[host] は DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをインストールするマシンの IP アドレス、[port] は DB2 クエリー・パトローラー・サーバーで使用される TCP ポートです。

その他の DB2 レジストリー変数の場合は、DB2 クエリー・パトローラーの資料を参照してください。

DB29804E メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。

DB29805E ユーザー ID “<userID>” が定義されていません。

説明: “<userID>” がオペレーティング・システムで定義されていません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システム・ユーザー・アカウントを作成するか、または正しいユーザー ID を使用してください。

DB29806E 有効ユーザー ID を “<userID>” に変更できません。オペレーティング・システム・エラー : “<OS-error>”。

説明:

ユーザーの処置:

DB29807E ファイル “<file>” の読み取り中に、入出力エラー (理由 = “<code>”) が発生しました。

説明: “<file>” の読み取り操作が失敗しました。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再発行してください。

DB29808E ファイル “<file>” の書き込み中に、入出力エラー (理由 = “<code>”) が発生しました。

説明: “<file>” の書き込み操作が失敗しました。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再発行してください。

DB29809E 読み取り操作中に、入出力エラー (理由 = “<code>”) が発生しました。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが読み取られました。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再発行してください。

DB29810E 書き込み操作中に、入出力エラー (理由 = “<code>”) が発生しました。

説明: 書き込み処理中に入出力エラーが起きました。データが不完全な可能性があります。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再発行してください。

DB29811E ファイル “<file-name>” がオープンできませんでした (理由 = “<code>”)。

説明: ファイル “<file-name>” をオープンしようとしたときに、エラーが起きました。

ユーザーの処置: “<file-name>” が正しく、ファイル・システム内に存在していることと、ファイル許可が正しいことを確認してください。

DB29812E 処理 “<process-ID>” の終了中にエラーが発生しました。

説明: 処理 “<process-ID>” を強制終了しようとしたときに、エラーが起きました。

ユーザーの処置: 終了処理が十分な権限を持ち、処理が存在していることを確認してください。

DB29813E コマンドの処理に使用できる、十分なメモリがありません。

説明: コマンドの処理に使用できるランダム・アクセス・メモリ (RAM) が不足しています。

ユーザーの処置: システムに十分なページ・スペースがあるかを確認してください。使用していないアプリケーションを停止して、メモリを一部解放してください。

DB29814E オペレーティング・システムのプロセス、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達したために、要求は失敗しました。

説明: オペレーティング・システムのプロセス、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達しました。

ユーザーの処置: その制限を増やしてください (またはシステム管理者に、それを増やすように要求してください)。

DB29815E “<program-name>” を実行できません (理由 = “<reason-code>”)

説明: “<program-name>” の実行中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: この問題が訂正可能かどうか判別して、操作を再試行してください。

DB29816I 正常に完了しました。

説明: 要求が正常に行われました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB29820E ジョブ “<job-id>” に対して不明のジョブ・タイプ “<type>” です。

説明: **iwm_nodemgr** 処理が非認識タイプのジョブを検出しました。

ユーザーの処置: 照会を再実行依頼してください。問題が続く場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29821E 別のノード・マネージャーが動作中です。

説明: 各ノードで実行できる **iwm_nodemgr** 処理は 1 つだけです。

ユーザーの処置:

DB29822E ノード・マネージャーはジョブを回復できませんでした。

説明: **iwm_nodemgr** は、前回失敗したときに実行していたジョブをリカバリーできませんでした。

ユーザーの処置:

DB29823W **sysinfo** 統計は収集されていません。

説明: **sysinfo** 機能が使用できないため、このノードの CPU 使用率を収集することができません。

ユーザーの処置:

DB29824E ジョブ “<job-id>” が見つかりません。

説明: ジョブ “<job-id>” がジョブ表で見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

DB29825I ジョブ “<job-id>” の完了メッセージはファイル “<file-name>” に保管されました。

説明: エージェント・プロセスが、サーバー・コンポーネントとの連絡を失ったため、そのコンポーネントにジョブの完了を通知できませんでした。ノード・マネージャー処理が正常にこのノード上で再始動されると、サーバー・コンポーネントはジョブの完了通知を受け取ります。

ユーザーの処置:

DB29826N **SQL** ステートメント “<SQL-statement>” の実行中にエラーが発生しました。エラー : “<sqlcode>”。

説明: “<SQL-statement>” は失敗しました。

ユーザーの処置: “<SQL-statement>” を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

DB29827I 列の選択が多すぎます。

説明: ジョブの **SQL** ステートメントが選択した列が多すぎます。

ユーザーの処置: **SQL** ステートメントを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

DB29828E 結果表 “<result-table>” を作成できません。

説明: “<result-table>” を作成できませんでした。

ユーザーの処置: システムに十分な空きディスク・スペースがあり、表がすでに存在していないことを確認してください。

DB29829E SQLDA タイプ “<type>” は、列 “<column-name>” にはサポートされません。

説明: DB2 クエリー・パトローラーはデータベース列タイプを認識していません。

ユーザーの処置:

DB29830E ジョブ “<job-id>” が更新できません。

説明: このジョブの更新要求は、要求の変更がジョブの現在の状態に有効でないため実行できません。

ユーザーの処置:

DB29831W ジョブ “<job-id>” (処理 ID “<process-ID>”) はもう実行中ではありません。

説明: ジョブはサーバー・コンポーネントに通知せずに終了しました。

ユーザーの処置:

DB29832E ノード “<node-name>” が見つかりません。

説明: RequestHandler ノード・マネージャー処理は、要求されたノードで活動状態にありません。

ユーザーの処置:

DB29835W ノード “<node-name>” は 5 分間応答を待ち、リカバリーをしようとします。

説明: **iwm_nodemgr** 処理は、5 分間ノード情報を更新していません。**iwm_sched** 処理はノードの損傷を想定し、そのノードにスケジュールされたジョブをリカバリーします。

ユーザーの処置:

DB29836E スケジューラーがノード “<node-name>” に対するジョブを回復できません。

説明: ノード・リカバリー中にエラーが起きました。

ユーザーの処置:

DB29837W ジョブの割り当てに使用できる活動ノードはありません。

説明: 活動状態のノード・マネージャー処理を持つノードがありません。

ユーザーの処置:

DB29838I “<number>” 日以上前の “<number>” 結果表は除去されます。

説明: 結果表の除去が、DB2 クエリー・パトローラー・システム・パラメーターを通じて活動化されました。このメッセージは、除去された結果表の数を示します。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB29839I “<number>” 日以上前の “<number>” ジョブ・レコードは除去されます。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・ジョブの除去が、DB2 クエリー・パトローラー・システム・パラメーターを通じて活動化されました。こ

のメッセージは、除去されたジョブ数を示します。

ユーザーの処置:

DB29840I **PREPARE SQL** ステートメント “<SQL-statement>” は、ユーザー “<userID>” で **SQLCODE** “<sqlcode>” のために失敗しました。

説明: SQL ステートメントを準備できませんでした。

ユーザーの処置:

DB29841E **SQL** ステートメント “<SQL-statement>” が失敗しました。終了コード “<code>”。

説明:

ユーザーの処置:

DB29842E 次の **SQL** ステートメント “<SQL-statement>” の実行中にエラー “<sqlcode>” が発生しました。

説明: SQL ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、要求を再実行依頼してください。

DB29843E ユーザー ID “<user-id>” でデータベース “<database-alias>” に接続できません。エラー・コードは “<sqlcode>” です。

説明: SQL CONNECT ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置:

DB29844E ユーザー “<userID>” はユーザー・プロファイル表に定義されていません。

説明: ユーザーのユーザー・プロファイル表に行がありません。

ユーザーの処置: ユーザー ID を訂正するか、またはユーザーをユーザー・プロファイル表に追加するように管理者に依頼してください。

DB29845E ソケットのオープン・エラー。エラー : “<error-code>”

説明: 指定されたソケットをオープンできません。

ユーザーの処置: “<error-code>” を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29846E ソケットのクローズ・エラー。エラー : “<error-code>”

説明: 指定されたソケットをクローズできません。

ユーザーの処置: “<error-code>” を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29847E データの送信または受信中にエラーが発生しました。エラー : “<error-code>”

説明: データの送信中 / 受信中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: “<error-code>” を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29848E TCP/IP プロトコル・サポートでエラーが発生しました。TCP/IP 関数は “<function>” です。ソケットは “<socket>” です。エラー：“<error-code>”

説明: TCP/IP 関数が失敗しました。

ユーザーの処置: “<error-code>” を調べて、この問題を訂正できるかどうかを判別してください。

DB29849E 指定 listener ポート “<listener_port>” は無効です。

説明: 指定されたリスナー・ポートが有効ではありません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29850E 指定の接続ポート “<connector_port>” が無効です。

説明: 指定された接続ポートが有効ではありません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29851E 無効な IP アドレス “<internet_addr>”。

説明: 指定された IP アドレスが有効ではありません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29852E TCP/IP がローカル・ホスト・ファイルでホスト名 “<host_name>” を検出できませんでした。

説明: 指定された “<host_name>” を解決できません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29853E サービス “<service_name>” は TCP/IP サービス・ファイルで定義されていません。

説明: 指定された “<service_name>” を TCP/IP サービス・ファイル内で解決できません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29854E 無効なネットワーク ID “<network_string>”。

説明: ネットワーク ID の形式は **host-id:port-id** でなければなりません。 **host-id** は解決可能なホスト名またはドット形式の IP アドレス、 **port-id** は解決可能なサービス名またはポート番号です。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29855E DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが使用できません。

説明: サーバー・コンポーネントに接続できません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー構成パラメーターが正しく設定されているかを確認してください。

DB29856E 重大な内部処理エラーが発生しました。エラー “<error-code>”

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29857E “<name>” 値が欠落しています。

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29858E “<name>” 値が無効です。

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29859E 宛先 “<name>” は無効です。

説明: 宛先名が現在活動状態ではありません。

ユーザーの処置:

DB29860E 予定の応答メッセージを受け取っていません。

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29861E **iwm_net** への接続がなくなりました。

説明: **iwm_net** プログラムは現在活動状態ではありません。

ユーザーの処置: このノードのサーバー・コンポ

ネントまたはエージェントを再始動してください。

DB29862E 接続されていません。

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29863E メッセージが解釈できません。

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29864E **iwm_local** データベース・アクセスは使用できません。

説明: **iwm_local** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: **DB2** クエリー・パトローラーとすべてのエージェントを再始動してください。

DB29865E **iwm_remote** データベース・アクセスは使用できません。

説明: **iwm_remote** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: サーバー・コンポーネントを再始動してください。

DB29866E **iwm_local** データベース・アクセス機能が失敗しました。

説明: **iwm_local** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29867E iwm_remote データベース・アクセス機能が失敗しました。

説明: **iwm_remote** プログラムが失敗したか、または正常に開始されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29868E 無効なチケットです。

説明: 内部 **DB2** クエリー・パトローラー障害が起きました。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

DB29869E ログオンの有効期限切れです。

説明: **DB2** クエリー・パトローラーへのログオンの期限が切れしました。

ユーザーの処置: もう一度ログオンしなおしてください。

DB29870E 許可されません。

説明: 要求した機能の実行許可がありません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、必要な許可を取得してください。

DB29871N ジョブ “<job-id>” “<job-status>” のメールは “<email-address>” に送信されませんでした。理由 : “<reason-code>”

説明: ジョブ “<job-id>” に対するユーザー通知の送信中にエラーが起きました。

ユーザーの処置:

DB29991E DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが正しくインストールされていません。

説明: **DB2** クエリー・パトローラー・サーバーが正しくインストールされませんでした。

ユーザーの処置: **DB2** クエリー・パトローラー・サーバーを再インストールしてください。

DB210016E TCP/IP を初期化できません (理由 = “<reason-code>”)。システム上の **WINSOCK.DLL** のバージョンが “<winsock-level>” 以下であることを確認してください。

説明: **TCP/IP** を初期化できません。 **TCP/IP** 戻りコードは無効です。

ユーザーの処置: **WINSOCK** のバージョンが **DB2** クエリー・パトローラーによってサポートされていることを確認してください。 **DB2** クエリー・パトローラーは、“<winsock-level>” 以下のバージョンの **WINSOCK.DLL** をサポートします。

DB210017E サポートされない **WINSOCK.DLL** レベルです。システム上の **WINSOCK.DLL** のバージョンが “<winsock-level>” 以下であることを確認してください。

説明: このバージョンのファイル **WINSOCK.DLL** は **DB2** クエリー・パトローラーによってサポートされていません。

ユーザーの処置: **WINSOCK** のバージョンが **DB2** クエリー・パトローラーによってサポートされているか確認してください。 **DB2** クエリー・パトローラーは、“<winsock-level>” 以下のバージョンの **WINSOCK.DLL** をサポートします。

DB210018E プロセス ID “<process-ID>” のシグナル・ハンドラーを登録できませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: イベント・オブジェクトのシグナル・ハンドラーを作成できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210019E プロセス ID “<process-ID>” のシグナル・ハンドラー・セマフォアを待機できませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: イベント・オブジェクトのシグナル・ハンドラーを待機できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210020E プロセス ID “<process-ID>” のシグナル・ハンドラーのスレッドを作成できませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: 現在のプロセスで、シグナル・ハンドラーのスレッド・オブジェクトを作成できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210021E プロセス ID “<process-ID>” のシグナル・セマフォアを追加できませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: 現在のプロセスでシグナルが出されるイベントの状態を設定できませんでした。

ユーザーの処置:

DB210022E ログオンできませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: ユーザー ID およびパスワードが正しくないか、またはユーザーに必須特権が授与されていません。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードをチェックするか、あるいはユーザー ID に該当する特権を授与するようシステム管理者に依頼してください。

DB210023E 別のユーザー ID に切り替えることができませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: ターゲットのユーザー ID はすでにログオンしているため、DB2 クエリー・パトローラーで別のユーザー ID に切り替えることができませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DB210024E 理由コード = “<reason-code>” でロードが失敗しました。

説明: ファイル、テープ、または名前付きパイプからデータを DB2 表にロードすることができませんでした。

ユーザーの処置: データ・ソースがあるか確認してください。

DB210025E “<rows>” の読み取り後にロードが失敗しました。理由コード = “<reason-code>”。

説明: “<rows>” を読み取った後、データをロードすることができませんでした。理由コード = “<reason-code>”

ユーザーの処置:

DB210026E “<line>”を“<file-name>”から読み取っているときに、ロードが失敗しました。

説明: “<line>”を“<file-name>”から読み取っているとき、エラーが起きました。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル“<file-name>”があるか確認してください。

DB210027E “<user-profile>”または“<userID>”はすでに定義されています。

説明: ユーザー ID “<userID>”は DB2 クエリー・パトローラー用にすでに存在しています。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー用に固有のユーザー ID を定義してください。

DB210028E 宛先 “<destination-name>”はすでに定義されています。

説明: 結果宛先は DB2 クエリー・パトローラー用にすでに存在しています。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー用に固有の結果宛先名を定義してください。

DB210030E MAPI が初期化されていません。理由コード = “<reason-code>”。

説明: メッセージ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (MAPI) の初期設定が失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル MAPI32.dll があるか確認してください。

DB210031E このマシンでは MAPI を使用できません。

説明: メッセージ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (MAPI) はこのマシンにインストールされていません。

ユーザーの処置: MAPI のインストールと初期設

定が正しいか確認してください。ファイル MAPI32.dll があるか確認してください。

DB210032E iwm_cmd プログラムを呼び出すことができませんでした。

説明: iwm_cmd プロセスを呼び出すことができませんでした。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが稼働中かどうかチェックしてください。

DB210033E メール “<mail-subject>”を“<mail-address>”に送信することができませんでした。理由コード = “<reason-code>”。

説明: メール “<mail-subject>”を“<mail-address>”に送信することができませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (MAPI) のインストールと初期設定が正しいか確認してください。ファイル MAPI32.dll があるか確認してください。

DB210036N 結果表 “<result-table>”が存在しません。

説明: 結果表 “<result-table>”がデータベースに存在しません。

ユーザーの処置: 選択された結果表 “<result-table>”は存在しないため、別の結果表を選択してください。

DB210037I DQPSTART 処理が正常に終了しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラーを開始するコマンドが正しく完了しました。

DB210038I DQPSTOP 処理が正常に終了しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラーを停止するコマンドが正しく完了しました。

DB210039E DQPSTART または **DQPSTOP** はすでに進行中です。

説明: DB2 クエリー・パトローラーは現在、開始または停止コマンドを処理しています。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラーを開始または停止コマンドの別のインスタンスが処理されています。

ユーザーの処置: 処理中のコマンドが完了するまで待機してください。DB2 クエリー・パトローラーを開始または停止する別のプロセスが存在しなければ、インスタンス・パスの 'ctrl' ディレクトリから 'dqpstst.lck' ファイルを除去し、コマンドを出し直すことができます。

DB210040W DB2 クエリー・パトローラー・サービス が正しく開始されませんでした。

説明: 1 つまたは複数のプロセスが正しく開始されていないと思われます。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210041E DB2 クエリー・パトローラー・ライセンス についての要求が失敗しました。

説明: 有効なライセンスなしで DB2 クエリー・パトローラーを開始することができませんでした。

DB210044E 予期しないコマンド・パラメーター "**<commnad-token>**" が見つかりました。

説明: 出されたコマンドは無効です。

ユーザーの処置: 資料で有効な構文についてチェックしてください。

DB210045E DB2 クエリー・パトローラーが、処理を終了させたシステム・エラー を見つけました。

説明: エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断情報については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210046E "**<filename>**" でのファイル検索操作が失敗しました。(理由 = "**<reason-code>**")

説明: 処理中に、ファイルが壊れていたか、あるいは操作不能であったと思われます。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210047E ファイル "**<filename>**" でのアクセス許可の変更が失敗しました。(理由 = "**<reason-code>**")

説明: ファイル・アクセス許可を設定できませんでした。ファイルが使用不可であること、あるいはファイル許可の調整を禁止した、その他のシステム条件が原因だと考えられます。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210048E ファイル “<filename>” のファイル形式が無効です。行 “<line-number>”

説明: 予期しないトークン、または無効なファイル形式のために処理を続行できませんでした。

ユーザーの処置: 資料で正しいセットアップについてチェックしてください。

DB210049E インスタンス・パスを検索できませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: インスタンス・パスを検索できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 が正しくセットアップされていることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210050E インストール・パスを検索できませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: DB2 インストール・パスを検索できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 が正しくセットアップされていることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断について 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210051E インスタンス構成を検索できませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: インスタンス・データベース・マネージャ構成を検索できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 が正しくセットアップされていることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断につ

いて 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210052E ローカル・ホストまたはコンピューター名を獲得できませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: コンピューター名 (NT) またはホスト名 (UNIX) を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 診断については、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210053E ホスト名 “<hostname>” を解決できません。

ユーザーの処置: 診断については、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210054E DQPSTART 処理が失敗しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラーを開始できませんでした。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210055E システム・エラー。サービス制御ハンドラーの登録に失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210056E システム・エラー。サービス開始保留状況のチェックに失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210057E システム・エラー。サービス・セキュリティ記述子の初期化に失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210058E システム・エラー。イベントの作成に失敗しました。

説明: システム・エラーが起こり、処理が停止しました。診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210059E 構成ファイル “<filename>” の処理が失敗しました。(理由 = “<reason-code>”)

説明: 無効な形式であるか、想定外のトークンが入っているか、または壊れているため、構成ファイルを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 資料でファイルの正しい形式についてチェックしてください。問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210060E サービス “<service-name>” の開始に失敗しました。(理由 = “<reason-code>”)

説明: サービスを開始できませんでした。理由コードは以下のとおりです。

- 1 サービスが存在しません。
- 3 サービスはすでに実行中です。
- 5 現行ユーザーがサービスを開始するための適切な権限を持っていません。

6 サービスが開始に失敗しました。

ユーザーの処置:

- 1 サービスが存在することを確認してください。サービスが存在しない場合は、手操作で除去されたか、または DB2 クエリー・パトローラーのインストールが正常に完了していません。どちらの場合も、DB2 クエリー・パトローラーの再インストールが必要です。
- 3 サービスはすでに開始されています。サービスを再開するには、DQPSTOP コマンドを発行してから、DQPSTART コマンドをもう一度発行してください。
- 5 サービスのログオン情報が正しいかを確認して、コマンドをもう一度発行してください。
- 6 コマンドをもう一度発行してください。再度問題が起きる場合は、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' と 'db2diag.log' でより詳しい診断情報を調べてください。

DB210061E サービス “<service-name>” の停止に失敗しました。(理由 = “<reason-code>”)

説明:

- 1 サービスが存在しません。
- 3 サービスが開始されていないか、またはすでに停止されています。
- 5 現行ユーザーがサービスを開始するための適切な権限を持っていません。
- 6 サービスが停止に失敗しました。

ユーザーの処置:

- 1 サービスが存在することを確認してください。サービスが存在しない場合は、手操作で除去されたか、または DB2 クエリー・パトローラーのインストールが正常に完了していません。どちらの場合

も、DB2 クエリー・パトローラーの再インストールが必要です。

- 3 サービスはすでに停止されています。サービスを再開するには、DQPSTART コマンドを発行してください。
- 5 サービスのログオン情報が正しいかを確認して、コマンドをもう一度発行してください。
- 6 コマンドをもう一度発行してください。再度問題が起きる場合は、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' と 'db2diag.log' でより詳しい診断情報を調べてください。

DB210062E システム・エラー。共通初期化ルーチンが失敗しました (SQLCODE = “<sqlcode>”)

説明: 環境の初期化が SQLCODE “<sqlcode>” で失敗しました。

ユーザーの処置: SQLCODE を調べて、コマンドをもう一度発行してください。問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210064E システム・エラー。メッセージ・キュー化に失敗しました。(理由 = “<reason-code>”)

説明: システム・エラーが起り、処理が停止しました。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210065E DB2 クエリー・パトローラー・ノードは活動化されていません。

説明: 選択されたノードは、処理できるようセットアップされていません。

ユーザーの処置: 示されているノードが 'dqpnodes.cfg' に定義されていることを確認してから、コマンドを出し直してください。

DB210066E ノード開始または停止処理の結果をファイル “<filename>” から検索することができませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: 通信ファイルの内容を検索できませんでした。ファイルが存在しないか、またはオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 示されているファイルがアクセス可能であることを確認してから、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210067E ノード開始または停止処理がタイムアウト値に達しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラー開始または停止コマンドが、処理ノードから結果を待機している間にタイムアウト値に達しました。作成されていないか、またはアクセス可能でないため、結果ファイルの内容を獲得することができませんでした。

ユーザーの処置: 'dqpnodes.cfg' が正しくセットアップされているかどうか、またホスト名、IP アドレス、およびコンピューター名がすべて解決可能かどうか確認してください。正しいセットアップについては資料を参照してください。DQP_SERVER および DQP_NET 変数、また 'services' ファイル内の対応する項目が正しくセットアップされているかどうかチェックしてください。EEE では、'rah' ユーティリティーが正しくセットアップされているかどうかチェックしてください。診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210068E ノードでの処理の完了を待機している間に、通信エラーが見つかりました。(理由 = “<reason-code>”)

説明: 処理ノードのいずれかによって生成された無効な結果ファイルのため、DB2 クエリー・パトローラー開始または停止コマンドを続行できませんでした。結果ファイルを正しく解釈できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210069E プロセス “<process-name>” が失敗しました。

説明: プロセスが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210070E プロセス “<process-name>” の実行に失敗しました。(理由 = “<reason-code>”)

説明: プロセスを開始できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210071E プロセス “<process-name>” の実行が割り込まれました。(理由 = “<reason-code>”)

説明: プロセスの実行が割り込まれました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210072E 外部プログラム “<program-name>” を探索できませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: 示されている実行可能ファイルを見つけれませんでした。

ユーザーの処置: インストール環境をチェックするか、またはシステム管理者に連絡してからコマンドを出し直してください。診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210073E リソースが不十分なため、外部プログラム “<program-name>” を呼び出すことができませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: プロセスを開始するためのリソースを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを出し直しても問題が解決しない場合、診断についてシステム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210074E 権限が不十分なため、外部プログラム “<program-name>” を呼び出すことができませんでした。(理由 = “<reason-code>”)

説明: ユーザーには、プログラムを実行するために十分な権限がありません。

ユーザーの処置: 診断については、システム管理者に連絡するか、または 'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210075E DQPSTART 処理が完了しました。
“<number-of>” ノードが正しく開始され、“<number-of>” ノードはすでに開始されており、“<number-of>” ノードが失敗しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラー開始マネージャーは処理を完了しましたが、ノード開始コマンドの処理中、少なくとも 1 つのノードが警告またはエラーを報告しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210076E DQPSTOP 処理が完了しました。
“<number-of>” ノードが正しく停止され、“<number-of>” ノードはすでに停止されており、“<number-of>” ノードが失敗しました。

説明: DB2 クエリー・パトローラー停止マネージャーは処理を完了しましたが、ノード開始コマンドの処理中、少なくとも 1 つのノードが警告またはエラーを報告しました。

ユーザーの処置: 診断については、'syserr.log' および 'db2diag.log' をチェックしてください。

DB210085E 構成整合性の制約に違反したため、操作が打ち切られました。
SQLSTATE=“<state-code>”

説明: SQLSTATE=88000、88001:
IWM003_JOB_QUEUE 表での以下のいずれかの制約に違反したため、操作が失敗しました。

```
MAX(MAX_JOBS) <=
IWM003_DATA_SOURCE.MAX_JOBS
AND
MAX(MAX_COST) <=
IWM003_DATA_SOURCE.COST_THRESHOLD
```

SQLSTATE=88002、88003、88004:
IWM003_DATA_SOURCE 表での以下のいずれかの制約に違反したため、操作が失敗しました。

```
MAX_JOBS >=
MAX(IWM003_JOB_QUEUE.MAX_JOBS)
AND
MAX(MAX_JOBS) <=
IWM003_SYS_PARMS.QRY_THRESHOLD
AND
COST_THRESHOLD >=
MAX(IWM003_JOB_QUEUE.MAX_COST)
AND
MAX(COST_THRESHOLD) <=
IWM003_SYS_PARMS.COST_THRESHOLD
```

SQLSTATE=88005: IWM003_SYS_PARMS 表での以下のいずれかの制約に違反したため、操作が失敗しました。

```
QRY_THRESHOLD >=
MAX(IWM003_DATA_SOURCE.MAX_JOBS)
AND
COST_THRESHOLD >=
MAX(IWM003_DATA_SOURCE.COST_THRESHOLD)
```

SQLSTATE=88006、88007: 表 IWM003_SYS_PARMS は、1 つの行だけを持つことができます。表 IWM003_DATA_SOURCE が空であれば、この単一行は削除されることがあります。

SQLSTATE=88008: 名前が一致する (あるいは大文字小文字だけが異なる) ユーザーまたはグループ・プロファイルがすでに存在しています。

ユーザーの処置: 構成を見直して、フィールドに有効な値を指定してください。

DB210101E “<process>” からの応答を待機している間に、キュー読み取り操作が失敗しました。戻りコード = “<return-code>”。キュー・ハンドル = “<queue-handle>”、タイムアウト = “<timeout-value>”

説明: “<process;>” からの応答を待機している間に、キュー読み取り操作が失敗しました。タイムアウト期間が短すぎる場合、またはキュー・ハン

ドルが無効な場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: DQP_CHILD_WAIT DB2 プロファイル変数を “<timeout-value>” よりも大きい値に設定し、再試行してください。問題が解決しない場合、システムから “<queue-handle>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210102E DB2 インスタンスが見つかりませんでした。理由コード = “<reason-code>”

説明: DB2 インスタンスが見つかりませんでした。DB2INSTANCE 環境変数が有効な DB2 インスタンスに設定されていません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数または DB2 プロファイル変数 DB2INSTDEF を有効な DB2 インスタンスに設定してください。

DB210103E メッセージ・キューを削除しているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-code>” キュー・ハンドル = “<queue-handle>”

説明: メッセージ・キュー “<queue-handle>” を削除しているときにエラーが起こりました。

ユーザーの処置: システムから “<queue-handle>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210104E メッセージ・キューを初期化しているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-codes>” キュー名 = “<queue-name>”

説明: メッセージ・キュー “<queue-name>” を初期化しているときにエラーが起こりました。この名前のキューがすでに存在する場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: システムから “<queue-name>”

を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210105E 1 次メッセージ・キューに書き込んでいるときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-code>” キュー・ハンドル = “<queue-handle>”、要求タイプ = “<request-type>”、処置タイプ = “<action-type>”、セット・タイプ = “<group-type>”、トレース = “<trace-flag>”

説明: 1 次メッセージ・キュー “<queue-handle>” に書き込んでいるときにエラーが起こりました。キュー・ハンドルが無効な場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: システムから “<queue-handle>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210106E 1 次メッセージ・キューから読み取っているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-code>” キュー・ハンドル = “<queue-handle>”、タイムアウト = “<timeout-value>” 秒

説明: 1 次メッセージ・キュー “<queue-handle>” から読み取っているときにエラーが起こりました。キュー・ハンドルが無効な場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: システムから “<queue-handle>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210107E メッセージ・キューをオープンしているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-codes>” キュー名 = “<queue-name>”

説明: メッセージ・キュー “<queue-name>” をオープンしているときにエラーが起こりました。名

前 “<queue-name>” のキューがすでに存在していて、このプロセスにキューをオープンする権限がない場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: システムから “<queue-name>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210108E ファイル “<file-name>” でのロックを獲得しているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-code>”

説明: ファイル “<file-name>” でのファイル・ロックを獲得しているときにエラーが起こりました。 /tmp ディレクトリーのファイル “<file-name>” をロックする権限がこのプロセスにない場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: ファイル “<file-name>” が /tmp ディレクトリーに存在する場合、このファイルをシステムから除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210109E キュー上のメッセージを送信しているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-code>” キュー・ハンドル = “<queue-handle>”、メッセージ = “<message>”

説明: キュー “<queue-handle>” 上のメッセージ “<message>” を送信しているときにエラーが起こりました。キューに書き込む権限がこのプロセスにない場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: システムから “<queue-handle>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210110E メッセージ・キューをクローズしているときにエラーが起こりました。理由コード = “<reason-code>” キュー・ハンドル = “<queue-handle>”

説明: メッセージ・キュー “<queue-handle>” をクローズしているときにエラーが起こりました。キューをクローズする権限がこのプロセスにない場合、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: システムから “<queue-handle>” を除去するようシステム管理者に依頼してください。

DB210111E 選択された間隔および頻度では、選択された開始日時から終了日時までの間にジョブをスケジュールすることができません。

説明: 選択された間隔と頻度の値では、選択された開始日付および時刻と終了日付および時刻の間に、ジョブをスケジューリングできません。

ユーザーの処置: ジョブ・スケジュールを使用できるようにするには、以下のいずれかのオプションを実行してください。

- 開始日付および時刻か、終了日付および時刻を調整して、時刻範囲を広げる。
- 現行の時刻範囲で別の間隔と頻度の値を選択して、少なくとも一度はスケジューリングできるようにする。

DB210112E DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・プロセス “<server-process>” が停止しました。残りの DB2 クエリー・パトローラー・サーバー・プロセスも停止しました。

説明: 1 つまたは複数の DB2 クエリー・パトローラー・プロセス (iwm_logmon、 iwm_net、 iwm_server、 iwm_remote、 iwm_nodemgr、 iwm_sched など) が停止している場合、その他の

DB2 クエリー・パトローラー・プロセスも停止します。

ユーザーの処置: `syserr.log` ファイルを調べて、DB2 クエリー・パトローラー・プロセスが停止した原因を診断してください。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーを再始動してください。

DB210113E ノード開始または停止処理が失敗しました。理由コード “<reason-code>”。

説明: DB2 クエリー・パトローラーを指定のノードで開始または終了できません。理由コードは以下のとおりです。

- 1 サーバー・ノードがすでに `dqpnodes.cfg` ファイルに存在します。サーバー・ノードは 1 つだけ存在可能です。
- 2 サーバー・ノードが `dqpnodes.cfg` ファイルに存在しません。
- 3 同じノード番号を持つ既存の項目が `dqpnodes.cfg` ファイルにあります。
- 4 ノード番号が `dqpnodes.cfg` ファイルに存在しません。
- 5 同じホスト名を持つ既存の項目が `dqpnodes.cfg` ファイルにあります。
- 6 ノード・タイプが無効です。
- 7 サーバー・ノード項目はエージェントで置き換えられません。サーバー・ノード項目は `dqpnodes.cfg` ファイルに存在していなければなりません。
- 8 サーバー・ノード項目はドロップできません。サーバー・ノード項目は `dqpnodes.cfg` ファイルに存在していなければなりません。
- 9 複数のサーバー・ノード項目が `dqpnodes.cfg` ファイルに見つかりました。サーバー・ノードは 1 つだけ存在可能です。

10 `dqpnodes.cfg` ファイル内に無効なノード番号があります。

11 `dqpnodes.cfg` ファイル内に重複したノード番号があります。

12 `dqpnodes.cfg` ファイル内に重複したホスト名があります。

ユーザーの処置:

- 1 2 番目のサーバー・ノードを追加または再始動せずに、コマンドをもう一度発行してください。
- 2 `dqpnodes.cfg` ファイルにサーバー・ノードを追加してください。
- 3 ノード番号を調べて、別のノード番号を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 4 ノード番号を調べて、既存のノード番号を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 5 ホスト名を調べて、別のホスト名を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 6 ノード・タイプ “server” または “agent” を使用してコマンドをもう一度発行してください。
- 7 サーバー・ノードをエージェントで置換せずに、コマンドをもう一度発行してください。
- 8 サーバー・ノードをドロップせずに、コマンドをもう一度発行してください。
- 9 どの項目がサーバー・ノードかを判別して、他のサーバー・ノード項目を `dqpnodes.cfg` ファイルから除去してください。
- 10 `dqpnodes.cfg` ファイル内のノード番号を調べて、それらの番号が有効な非負数整数であることを確認してください。

11 dqpnodes.cfg ファイル内のノード番号を調べて、それらが固有番号であることを確認してください。

12 dqpnodes.cfg ファイル内のホスト名を調べて、それらが固有名であることを確認してください。

注: 別のホスト名を使用してサーバー・ノードを再始動することはできますが、唯一のサーバー・ノード項目をドロップまたは置換することはできません。

DB210114E DB2 登録変数 DQP_SERVER で設定されたマシン名が、dqpnodes.cfg ファイル内のサーバー・ノード項目と一致しません。

説明: DB2 登録変数 DQP_SERVER は [host]:[port] に設定されています。[host] は DB2 クエリー・パトローラー・サーバーがインストールされているマシンの IP アドレスです。この IP アドレスが、dqpnodes.cfg ファイルのサーバー・ノードの IP アドレスと一致しません。

ユーザーの処置: dqpnodes.cfg ファイルのサーバー・ノード項目の IP アドレスが DB2 登録変数 DQP_SERVER で設定された IP アドレスを一致しているかを確認してください。

DB210115E 現行ユーザーがコマンド “<command-name>” の実行を許可されていません。

説明: 現行ユーザーがコマンドを実行するための適切な権限を持っていません。コマンドが DQPSTART、DQPSTOP、または IWM_TRACKER である場合は、ユーザー “iwm” だけがその実行を許可されています。

ユーザーの処置: コマンドが DQPSTART、DQPSTOP、または IWM_TRACKER である場合は、ユーザー “iwm” としてログオンし、コマンドをもう一度発行してください。

DB210116E DB2 クエリー・パトローラーはすでにこのノードで開始されていません。

説明: DQPSTART コマンドが発行されたとき、DB2 クエリー・パトローラーはすでに稼働していました。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラーを再始動するには、DQPSTOP コマンドを発行してから、DQPSTART コマンドをもう一度発行してください。

DB210117E DB2 クエリー・パトローラーはすでにこのノードで停止されていません。

説明: DQPSTOP コマンドが発行されたとき、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは稼働していませんでした。

DB210118E ファイル “<filename>” を削除できませんでした (理由 = “<reason-code>”)。

説明: ファイル “<filename>” を削除しようとしたますが、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: ファイル “<filename>” が正しく、ファイル・システムに存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

DB210120E SQLCODE “<sqlcode>” の回復可能エラーのために、ユーザー ID “<userid>” でデータベース “<database-name>” に接続できませんでした。 “<retry-interval>” 分ごとに接続を再試行中です。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが、SQLCODE “<sqlcode>” のリカバリー可能エラーのために、データベースに接続できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE を調べて、リカバリ

一可能エラーを修正してください。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは “<retry-interval>” ごとにデータベースへの接続を試行します。

システムにリンク状態で残ることに注意してください。詳細については、 コマンド解説書 中の DROP DATALINKS MANAGER コマンドの使用上の注意を参照してください。

DB210121E アクティブ・ノードに属しているジョブの状況を回復できません。

説明: 指定されたノードはまだ活動状態になっています。ジョブ状況をリカバリーできるのは、障害が起きたノードで実行されているジョブの場合のみです。

DB210200I 変更を有効にするためには、データベースからすべてのアプリケーションを切断する必要があります。

説明: ADD または DROP DATALINKS MANAGER コマンドが正常に処理されました。ただし、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、変更は有効になりません。アプリケーションがデータベースから切断される後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認して、CONNECT ステートメントを発行してください。

**DB210201I 調整ユーティリティーを、DB2 データ・リンク・マネージャーのファイルへのリンクの入ったデータベース表で実行する必要があります。
DB2 データ・リンク・マネージャーはこれらのファイルのリンク解除処理を行いません。**

説明: DROP DATALINKS MANAGER コマンドが正常に処理されました。DB2 データ・リンク・マネージャーをドロップする前に、DB2 データ・リンク・マネージャー上のファイルへのリンクの入ったデータベース表がないことを確認してください。このようなリンクがある場合は、調整ユーティリティーを使用してデータベースから除去する必要があります。ファイル自体はファイル・シ

第8章 DWC メッセージ

以下は、データウェアハウスセンターによって発行されるメッセージのリストです。推奨されるユーザー処置とエラーに対する応答とともに、状況の簡単な説明が示されています。

DWC0000I ユーザー定義プログラムが正常に実行されました。

DWC01001I ユーザーがユーザー ID “<userID>” でログオンしました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC01002E ログオンできませんでした。修飾子 “<qualifier-name>” のデータベース “<database-name>” にログオンするためのユーザー ID “<userID>” とパスワードが一致しませんでした。

説明: 指定したパスワードがご使用のユーザー ID で設定されていないので、コントロール・データベースにログオンできませんでした。

ユーザーの処置: パスワード、ユーザー ID、データベース名、および表修飾子が正しいことを検査してください。

DWC01003E ログオンできませんでした。ユーザーは修飾子 “<qualifier-name>” のデータベース “<database-name>” に、ユーザー ID “<userID>” ですでにログオンしています。

説明: すでにデータウェアハウスセンターにログオンしている場合は、異なるユーザー ID でデータウェアハウスセンターにログオンしてみてください。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターをクローズします。次に他のユーザー ID でデータウェアハウスセンターにログオンします。

DWC01004E 現在の場合パスワードが無効なため、ユーザー ID “<userID>” のパスワードを変更できません。

説明: 入力した旧パスワードが正しくないため、旧パスワードを新規パスワードに変更できません。

ユーザーの処置: 正しい旧パスワードを入力してください。それから、新規パスワードを入力してください。

DWC01005E 無効な機能呼び出しです。この機能は `dddApp.LogonAsUser` が呼び出されるまでは呼び出せません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC01006E ユーザー ID “<userID>” のデータウェアハウスセンター アクセス権は取り消されました。

説明: アクセス権のないユーザー ID でデータウェアハウスセンターにログオンしようとした。

ユーザーの処置: 別のユーザー ID でログオンするか、データウェアハウスセンター管理者に連絡してください。

DWC01007E ログオンできませんでした。ユーザーの指定したデータベースはウェアハウス・サーバーの使用するデータベースと一致しません。

説明: ログオンできませんでした。ユーザーの指定したデータベースはウェアハウス・サーバーの使用するデータベースと一致しません。

ユーザーの処置: 指定されたコントロール・データベースがウェアハウス・サーバーの使用するデータベースと同じであることを確認してください。

DWC02001E ODBC カーソルの操作は、カーソルが準備されていないときは使用できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02002E データウェアハウスセンター コントロール・データベースとの ODBC 接続が確立されていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02003E ODBC 環境の割り振りに失敗しました (SQLAllocEnv が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02004E ODBC 環境の解放に失敗しました (SQLEnvFree が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02005E ODBC 接続ステートメントの割り振りに失敗しました (SQLAllocConnect が失敗しました)。データベース名: “<database-name>”。ユーザー ID: “<user-ID>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02006E ODBC 接続ステートメントの解放に失敗しました (SQLFreeConnect が失敗しました)。

説明: 内部メッセージが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02007E ODBC ステートメントの割り振りに失敗しました (SQLAllocStmt が失敗しました)。ステートメントまたはデータベース: “<database-name>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02008E ODBC ステートメントの解放に失敗しました (SQLFreeStmt が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート

担当者に連絡してください。

DWC02009E ODBC データベースへの接続に失敗しました (SQLConnect が失敗しました)。データベース名: “<database-name>”。ユーザー ID: “<user-ID>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02010E ODBC データベースからの切断に失敗しました (SQLDisconnect が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02011E 準備済み ODBC ステートメントの実行に失敗しました (SQLExecute が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02012E ODBC ステートメントの直接実行に失敗しました (SQLExecDirect が失敗しました)。ステートメント: “<statement-name>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02013E 接続済み ODBC データベースのトランザクションに失敗しました (SQLTransact が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02014E ODBC ステートメントの準備に失敗しました (SQLPrepare が失敗しました)。ステートメント: “<statement-type>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02015E ODBC データの取り出しに失敗しました (SQLFetch が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02016E ODBC データの拡張取り出しに失敗しました (SQLExtendedFetch が失敗しました)。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02017E ODBC パラメーターのバインドに失敗しました (SQLBindParameter が失敗しました)。パラメーター # : “<parameter-number>”。パラメーター・タイプ : “<parameter-type>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート

担当者に連絡してください。

DWC02018E ODBC 列のバインドに失敗しました (SQLBindCol が失敗しました)。Column #: “<column number>”。データ・タイプ: “<data-type>”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC02019E ODBC ステートメントの設定に失敗しました (SQLSetStmtOption が失敗しました)。ステートメント: “ < ステートメント名 > ”。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC03101E 新規ターゲット表名はソース・ステップ・ターゲット表名と同じです。

説明: コピーされるステップの指定された新規ターゲット表名は、コピーされる旧ステップのターゲット表名と同じです。

ユーザーの処置: コピー・ステップ・パネルの**新規表名**フィールドで、作成される新規表名の名前をコピーされるソース・ステップとは異なる名前に変更してください。

DWC03102E RelationCollection 項目はすでに次の関連名にあります:
“<relation-name>”

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03103E ID が 'XXXXXXXX' の無効なターゲット・エレメントが、次の関連名の **addLocal** に渡されました:
“<relation-name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03104E “<object-type>” オブジェクト名: “<object-name>” が無効です。正しく検索または作成されていない可能性があります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03105E “<object-type>” オブジェクト名: “<object-name>” はすでにデータウェアハウスセンター データベースにあります。

説明: データウェアハウスセンター ユーザー・エラーまたはデータウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。ステップ、プロセス、セキュリティ・グループ、ユーザー、またはデータベースなどのデータウェアハウスセンター エンティティを作成しようとしていたときにエラーが発生した場合、その名前のエンティティがすでに存在していた可能性があります。

新規エンティティを作成していないときにエラーが発生した場合、データウェアハウスセンター内部エラーの可能性もあります。

ユーザーの処置: 新規データウェアハウスセンター エンティティに名前を指定した場合、指定した名前を検査してその名前のエンティティが存在していないことを確認してください。

データウェアハウスセンター内部エラーが考えられる場合は、このエラー・メッセージのすべての詳細を記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03106E “<object-type>” がヌル・ポインタを “<method>” メソッドに渡しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03109E 無効値が TimeStamp またはステップ・オブジェクトに見つかりました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03110E “<object>” オブジェクト内の属性 “<attribute-name>” のセット演算の入力データの長さが無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03112E 検索で渡されたオブジェクト・タイプが無効なデータウェアハウスセンター オブジェクト・タイプです。

説明: 内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: ありません。

DWC03113E AttributeLink オブジェクトの 'linkType' 演算子が正しく設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03114E 属性オブジェクトは 'nativeDataType'、'Database'、または 'Table/File' 属性を正しく設定していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03115E 指定されたネイティブ・データ・タイプ: “<type-name>” は、データウェアハウスセンターでは ODBC に変換しません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03116E listNext() 操作の ODBC カーソルは初期設定されていません。

説明: 内部エラー・メッセージです。

ユーザーの処置: IBM カスタマー・サービスに連絡してください。

DWC03117E マップ・オブジェクトの
'typeOfMap' 属性は初期設定され
ていません。作成または更新が実行
されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが
発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細
をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー
トにこの情報を連絡してください。

DWC03118E 特殊文字 “<character>” はオブジ
ェクト名には使用できません。これ
はデータウェアハウスセンター ト
ークンの区切り文字に予約されてい
ます。

説明: 指定された特殊文字で表または列を作成し
ようとしたのですが、これは SQL SELECT ステ
ートメントに組み込めるデータウェアハウスセン
ター トークン用に予約されています。この特殊文
字は表または列の名前に使用できません。

ユーザーの処置: 作成している表または列名から
指定された特殊文字を除去してください。

DWC03119E “<object-type>” オブジェクト名
“<object-name>” はすでに、更新
中です。同時にオブジェクトを更新
できません。

説明: データウェアハウスセンター エンティテ
ィー “<object-name>” を他のユーザーと同時に更
新しようとした。

ユーザーの処置: 初期更新の完了までお待ちく
ださい。

DWC03127E 使用中のオブジェクトのエラーが発
生しました。

説明: 指定されたデータベースを使用するステ
ップで使用されているセキュリティ・グループを
除去しようとした。

ユーザーの処置: このデータベースの選択セキュ
リティ・グループからこのセキュリティ・グ
ループを除去する前に、データベースを使用する
ステップでのデータベースまたはセキュリティ
ー・グループに対するリファレンスを削除または
変更してください。

DWC03142E “<object-type>” オブジェクト:
“<object-name>” が、データウ
ェアハウスセンター コントロール・
データベースにありませんでした。

説明: リストからデータウェアハウスセンターを
オープンしようとしていた場合、オープンしよ
うとしていたエンティティを削除した可能性があ
ります。そうでなければ、内部データウェアハウ
スセンター エラーが発生しました。

ユーザーの処置: リストを最新表示し、再度エン
ティティを開いてください。同じエラーが発生
する場合、このエラー・メッセージの詳細をす
べて記録して、弊社のソフトウェア・サポートに
この情報を連絡してください。

DWC03148E 無効なサイト・ホスト名がエージェ
ント・サイト・オブジェクトへ渡さ
れました。

説明: 200 文字を超える長さのエージェント・サ
イトのホスト名を指定しました。

ユーザーの処置: エージェント・サイト・ノート
ブックの「ホスト名」フィールドで、エージェ
ント・サイト名を 200 文字未満に短縮してく
ださい。

DWC03149E 無効な OS タイプがエージェ
ント・サイト・オブジェクトへ渡さ
れました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが
発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細
をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー

トにこの情報を連絡してください。

DWC03150E 無効なユーザー ID がエージェント・サイト・オブジェクトへ渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03151E 無効なパスワードがエージェント・サイト・オブジェクトへ渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03153E 表 “<table-name>” はターゲット表としてステップで使用されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03154E 表 “<table-name>” は入力表としてステップで使用されています。

説明: ステップでソース表として使用されているデータウェアハウスセンター表定義を削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: 表を削除する前に、ステップでのソース表に対するリファレンスを削除するか、他のソース表に変更してください。

DWC03156E 列オブジェクト “<object-name>” は、マップ・オブジェクトが入力属性として使用しています。

説明: ステップでソース列として使用されている表の列を削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: 列を削除する前に、列をソースとして使用するステップのソース表に対するリファレンスを削除するか、他のソース表に変更してください。

DWC03157E 列オブジェクト “<object-name>” は、AttributeLink オブジェクトを属性列として使用しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03158E 列オブジェクト “<object>” は、AttributeLink オブジェクトを Attribute2 列として使用していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03159E エージェント・サイトは 1 つ以上のステップで使用されているので、削除できません。

説明: 1 つ以上のステップがエージェント・サイトとして指定しているエージェント・サイトを削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: エージェント・サイトを削除する前に、ステップでのエージェント・サイトに対するリファレンスを削除するか、他のエージェン

ト・サイトに変更してください。

DWC03160E ステップ “<step-name>” のターゲット表は他のステップへのソースとしてリンクされています。

説明: ターゲット表が他のステップへのソースとしてリンクされているステップを削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: ターゲット表からリンク解除すれば、このステップを削除できます。その後もターゲット表は他のステップへのソースとして使用されます。このためターゲット表を移植するための新しい方法を定義する必要があります。ステップまたはステップに関連した表示を実行すれば、このターゲット表に依存するすべてのステップを表示できます。

ステップを削除する前に、ステップでのソース・ステップに対するリファレンスを削除するか、他のソース表に変更してください。どのステップがこのステップをソースとして使用しているかを判別するには、削除したいステップを右マウス・ボタンでクリックしてから「関連表示」をクリックします。このアクションは、このステップから移植されるすべてのステップを表示するものです。

DWC03163E データウェアハウスセンター ステップは **SecurityGroup** オブジェクトを更新セキュリティ・グループとして使用しています。

説明: 1 つ以上のステップが更新セキュリティ・グループとして使用しているセキュリティ・グループを削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: セキュリティ・グループを削除する前に、更新セキュリティ・グループを異なるセキュリティ・グループに変更してください。

DWC03164E **SecurityGroup** オブジェクトはデータウェアハウスセンター ユーザーによって使用されています。

説明: データウェアハウスセンター ユーザーは 1 つ以上のデータウェアハウスセンター ユーザーから成るセキュリティ・グループを削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: セキュリティ・グループを除去する前に、ユーザーをセキュリティ・グループから除去してください。

DWC03165E “<object-type>” には **copy()** メソッドで渡されたヌル・ポインターがあります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03168E エージェント・サイトは 1 つ以上のデータベースで使用されているので、削除できません。

説明: 1 つ以上のターゲットまたはソース、あるいはその両方が使用しているエージェント・サイトを削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: このエージェント・サイトを削除する前に、このエージェント・サイトを使用するデータベースを、他のエージェント・サイトを使用するように変更してください。エージェント・サイト・ノートブックで「リソース」タブを選択し、**選択データベース**・リストからすべてのデータベースを除去してください。

DWC03169E 属性は、1 つまたは複数の 1 次キーによって使用されているため、削除できません。

説明: 表の 1 次キー定義の一部である列を削除しようとしています。

ユーザーの処置: この列を除去する前に、表の 1 次キー定義からその列を除去してください。表ノートブックで、「1 次」タブを選択し、定義から列を除去してください。

DWC03170E 属性は、1 つまたは複数の外部キーによって使用されているため、削除できません。

説明: 1 つまたは複数の外部キー定義の一部である列を削除しようとしています。

ユーザーの処置: この列を除去する前に、外部キー定義からその列を除去してください。外部キー定義で表のノートブックを開きます。「外部」タブを選択し、定義から列を除去します。

DWC03171E 表 / ファイルは 1 つ以上のステップで使用されているので、削除できません。

説明: ステップで使用中のデータウェアハウスセンター プログラムに指定された表またはファイルを削除しようとしてしました。

ユーザーの処置: 表またはファイルを除去する前に、ステップから除去してください。表ノートブックの「使用法」タブを選択すれば、表を使用するステップのリストを表示できます。

DWC03301E ターゲット・リソースとしてステップ “<step-name>” に付加されているリソースが、ウェアハウス・フラグを設定しませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03302E ソース・リソースとしてステップに付加されているリソースに、これがウェアハウス・リソースであることを示すウェアハウス・フラグ・セットがあります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03303E リソースは、ソースとターゲットの両方としてセキュリティー・グループと関連しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03304E リソース “<resource-name>” はソースとしてセキュリティー・グループに関連付けられていますが、これがウェアハウスであることを示す **iswarehouse** フラグが設定されています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03305E リソース “<resource-name>” はターゲットとしてターゲット・グループに関連付けられていますが、これがウェアハウスであることを示す **iswarehouse** フラグが設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03306E リソース “<resource-name>” は、**DB2** ストアード・プロシージャではないデータウェアハウスセンター プログラムに関連付けられています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03307E **DataResource** の (表) ファイル・タイプは、**InformationResource** が関連するデータベースのタイプに基づいて、正しく設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03308E エージェント・サイトがブランク名で作成または更新されます。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03309E エージェント・サイトが無効なタイプで作成または更新されます。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03310E **AIX** エージェント・サイトがユーザー ID を指定されずに作成または更新されます。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03311E リソース “<resource-name>” の **subdbType** は、指定された **dbType** には無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03312E 除去されるターゲット列が、テスト状態のステップに関連付けられており、この列を参照しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03466E listNext() 方式の選択パラメーターは初期設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03470E 無効な DB2 列バッファー・リストがデータベース・オブジェクトに渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03471E 無効なパラメーター・ポインター・リストがデータベース・オブジェクトに渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03477E 初期化されていないデータベースの 'name' フィールドに、 create または update が発行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03479E 初期化されていないデータベースの 'dbType' フィールドに、 create または update が発行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03480E 初期化されていないデータベース "<database>" の 'subDbType' フィールドに、 create または update が発行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03483E 更新される表に、それと関連する 1 つ以上の「実動」状態のステップがあります。更新は正常に終了しましたが、ステップを変更する必要があるかもしれません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03484E passed-in ターゲット・データベース・オブジェクトは無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03485E 作成される表の 'IRName' または 'name' 属性が初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03486E passed-in 表が無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03487E データベース・タイプはこのメソッドを使用するローカル・ファイル、またはリモート・ファイル・タイプでなければなりません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03488E 接続ストリングのパスワードはキー入力する必要があります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03489E データベース “<database-name>” は 1 つ以上のステップで使用されているので、エージェント・サイト “<agent-site-name>” から除去できません。

説明: エージェント・サイト選択リストからソースまたはターゲットを除去し、データベースおよびエージェント・サイトを使用する 1 つ以上のステップを除去しようとしてしました。

ユーザーの処置: エージェント・サイトからデータベースを除去する前に、データベースに対するリファレンスを除去し、ステップからサイトを除去してください。

DWC03490E ターゲット “<target>” 名 “<name>” が、ターゲット・データベースの表名の最大文字数を超過しています。表名は最長で “<name-length>” です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03491E データベース subType が内部ターゲット表に定義されていません。内部エラー。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03492E 新しい **KeyMap** オブジェクトを作成するためのパラメーター・リストが空です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03493E ウェアハウス 1 次キーは 1 つまたは複数のウェアハウス外部キーによって使用されているため、削除できません。

説明: 1 つまたは複数のウェアハウス外部キー定義で使用されている、ウェアハウス 1 次キー定義を削除しようとしています。

ユーザーの処置: ウェアハウス 1 次キー定義を除去する前に、ウェアハウス外部キー定義内にあるこのウェアハウス 1 次キーへのリファレンスを除去してください。

DWC03501E 管理権限とこのユーザーを持つセキュリティ・グループが他にないため、ユーザー “<name>” をセキュリティ・グループ “<group-name>” から除去できません。

説明: 管理特権を持っているログオン・ユーザー “<name>” をセキュリティ・グループから除去しようとしています。そのユーザーは他の管理特権を持ったセキュリティ・グループに属していません。現在ログオン特権を持つ (セキュリティ・グループ内で) ログオン中のユーザーは、データウェアハウスセンター・デスクトップにログオンしている間はその権限を失うことはできません。

ユーザーの処置: セキュリティ・グループからログオン・ユーザーを除去する前に、そのユーザーを管理特権を持った他のセキュリティ・グル

ープに追加してください。

DWC03502E 現在のログオン・データウェアハウスセンター・ユーザーは削除できません。

説明: 削除できないログオン・ユーザーを削除しようとしています。

DWC03503E 管理権限とこのユーザーを持つセキュリティ・グループが他にないため、管理権限をセキュリティ・グループ “<security group-name>” から除去できません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03504E ユーザー ID “<user-ID>” に既存ユーザーにすでに割り当てられているユーザー ID が含まれているため、このユーザー ID を作成することができません。

説明: データウェアハウスセンター内のどのユーザーにも、固有ユーザー ID が付いていなければなりません。固有のユーザー ID を選んでください。

ユーザーの処置: 既存のユーザー ID と競合しないユーザー ID を選んでください。

DWC03700E 無効なスケジュール・タイプが次の **stepSchedule** を計算するために渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03701E 無効な曜日が stepSchedule の曜日設定に渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03702E 無効な日付が stepSchedule の日付設定に渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03703E 無効な月が stepSchedule の月設定に渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03704E 無効なスケジュール頻度が stepSchedule に渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03705E この特定の操作のステップの状況が無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03706E 内部エラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03707E ステップ “<step-name>” は子、親、または現在定義されているカスケードに再帰的です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03708E ステップ別名に対するステップ関係が初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03709E このステップ別名のステップに関連したターゲット・データベースが初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03710E AttributeLink へのステップ関係が初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03711E listNext() 方式のストレージ・バッファは初期設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03712E listNext() 方式の選択パラメーターは初期設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03713E ステップ内のターゲット・データベースが初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03714E ステップ内の入力データベース・リストが初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03716E deepCopy() 方式の入力パラメーターが設定されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03717E deepCopy() メソッドのソース・ステップ入力パラメーターが検索されていないか、まだ作成されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03719E 渡されたオブジェクトはトークンではありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03726E ステップ - 一時ステップにスケジュールがあります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03729E ステップ - に関連した出力データベースがありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03730E ステップにエージェント・サイトが割り当てられていません。

説明: データウェアハウスセンター エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェント・サイトを割り当てて、再プロモートしてください。

DWC03735E ステップ “<step-name>” には、ソース表またはリテラルから抽出された列が少なくとも 1 つは必要ですが、これがありません。

説明: ステップを作成しようとしています。

ユーザーの処置: 「ステップ」ノートブックの「列マッピング」タブに戻って、少なくとも 1 つの列を追加してください。

DWC03737E ステップ “<name>” には、ソース表またはリテラルからプルされた列が少なくとも 1 つは必要ですが、これがありません。

説明: データウェアハウスセンターがターゲット表を作成するように指定するステップをテスト状況にプロモートしようとしています。ターゲット表にはソース列から抽出されているか、またはリテラルな定義済みの列がありません。

ユーザーの処置: ソース列から引き出されるか、またはリテラルである列を少なくとも 1 つターゲット表に追加する必要があります。

DWC03743E 表 “<table-name>” に、関連した列がありません。

説明: このエラーは、テストへのプロモート中に、ターゲット表に、ターゲット表定義で定義した列がない場合にのみ発生します。

ユーザーの処置: 「ターゲット表 (Target Table)」ノートブックの「プロパティ (Properties)」で、そのターゲット表に適切な数の列を定義してあるかどうか確認してください。ターゲット表定義が、「ステップ (Step)」ノートブックによってデフォルトのターゲット表として作成されている場合、ソースから列を選択したかどうかを確認してください。

DWC03744E ステップ - データベースに入力属性がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03745E ステップ - データベースに出力属性がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03746E ステップ - プログラム機能にプログラム名がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03747E ステップ - プログラム機能に機能名がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03751E ステップ “<step-name>” の最新エディションが 0 に設定されています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03754E 無効なマップ・タイプが検出されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03755E ステップ: “<step-name>” には次の名前の子ステップがあります: “<step-name>” これは開発中です。

説明: 開発状況のソース (子) ステップを 1 つ以上持つステップを、テスト状況にプロモートしようとしています。

ユーザーの処置: 親ステップのすべてのソース (子) ステップをテスト状態にプロモートさせないと、親ステップをテスト状態にプロモートできません。

DWC03756E ステップ: “<step-name>” には次の名前の子ステップがあります: “<step-name>” これは実動状態ではありません。

説明: まだ開発またはテスト状況のソース (子) ステップを 1 つ以上持つステップを、実動状況にプロモートしようとしています。

ユーザーの処置: 親ステップのすべてのソース (子) ステップを実動状態にプロモートさせないと、親ステップを実動状態にプロモートできません。

DWC03757E ステップ: “<step-name>” には次の名前の子ステップがあります: “<step-name>” これは開発状態ではありません。

説明: テストまたは実動状況のターゲット親ステップを 1 つ以上持つステップを、開発状況にプロモートしようとしています。

ユーザーの処置: このステップをソースとして使用するステップを開発状況にデモートしないと、ステップを開発状況にデモートできません。

DWC03758E ステップに開発またはテスト状況があるときは、最新エディション・フィールドだけを変更できます。

説明: ステップのエディション数を変更しようとしています。このステップに実動状況があるため、これはできません。

ユーザーの処置: ステップをテストまたは開発状況にデモートします。次にステップのエディションを変更します。

DWC03759E ステップが開発状態の場合、アトミック・フラグ・フィールドだけを変更できます。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03765E ステップ: “<step-name>” には次の名前の親ステップがあります:
“<step-name>” これは実動状態ではありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03766E ステップ: “<step-name>” を活動化できません。スケジュールも、カスケードも、要求機能もありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03767E ステップ: “<name>” の SELECT ステートメントは、データウェアハウスセンター トークン '&cur_edtn.ddd.ttt' を参照しますが、'ddd' または 'ttt' が無効です。

説明: データウェアハウスセンター トークン &cur_edtn.ddd.ttt (ddd の値はターゲット・データベース名で、ttt の値はターゲット表名) が指定されましたが、これは無効です。データウェアハウスセンターは ddd のデータベース名のウェアハウスで、ttt のターゲット表名を持つステップを見つけられませんでした。&cur_edtn.ddd.ttt トークンは指定されたターゲット表のある指定されたデータベース内で、ステップの現在のステップ・エディション番号を獲得します。

ユーザーの処置: ddd または ttt、あるいはその両方の値を、ステップに関連したデータウェアハウスセンター ウェアハウス内のターゲット表と一致するように変更してください。

DWC03768E ステップ: “<step-name>” の SELECT ステートメントは、データウェアハウスセンター トークン '&cur_edtn.ddd.ttt' を参照しますが、'ddd.ttt' に関連するステップのエディションがありません。

説明: データウェアハウスセンター トークン &cur_edtn.ddd.ttt (ddd の値はターゲット・データベース名で、ttt の値はターゲット表名) が指定されました。このターゲット・データベース内のターゲット表と関連したステップに、ターゲット表に保管されたエディションがありません。&cur_edtn.ddd.ttt トークンは指定されたターゲット表のある指定されたデータベース内で、ステップの現在のステップ・エディション番号を獲得します。

ユーザーの処置: ddd または ttt、あるいはその両方の値を、1 つ以上のエディションを指定するステップに関連したデータウェアハウスセンター ウェアハウス内のターゲット表と一致するように変更してください。また、「進行中の作業」ウィンドウで、ステップが実行されていることを検査してください。

DWC03774E ターゲット・リソースが AS/400 V3.1 で SQL ALTER コマンドをサポートしていないため、ステップ “<step-name>” に新規列を追加できません。

説明: データウェアハウスセンター エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 表が作成された後に列を追加しようとしないでください。新規列を使用して、もう一度表を作成してください。

DWC03775E 作成するための新しいプログラム・パラメーターのリストが空です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03776E データウェアハウスセンター プログラムはステップで使用されているため、削除できません。

説明: 1 つ以上のステップで使用されているデータウェアハウスセンター プログラムを削除しようとした。

ユーザーの処置: 「プログラム」ノートブックの「**使用法**」タブを使用して、どのステップがこのデータウェアハウスセンター プログラムを使用しているかを判別します。このデータウェアハウスセンター プログラムを削除する前に、ステップ内のデータウェアハウスセンター プログラムに対するリファレンスを変更してください。

DWC03777E データウェアハウスセンター プログラムは 1 つ以上のステップでカスケード・データウェアハウスセンター プログラムとして使用されているため、削除できません。

説明: 1 つ以上のステップで条件付きカスケード・プログラムとして使用されているデータウェアハウスセンター プログラムを削除しようとした。

ユーザーの処置: 「プログラム」ノートブックの「**使用法**」タブを使用して、どのステップがこのデータウェアハウスセンター プログラムを使用しているかを判別します。このユーザー定義プログラムを削除する前に、「**ステップ**」ノートブックの「**スケジュール**」ページにある「**プログラム**」をクリックして、ステップ内のデータウェアハウスセンター プログラムに対するリファレン

スを削除または変更してください。

DWC03778E データウェアハウスセンター デフォルト・データウェアハウスセンター プログラム・グループを削除できません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03779E データウェアハウスセンター プログラム・グループは 1 つ以上のデータウェアハウスセンター プログラムを含んでいるために削除できません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03780E データウェアハウスセンター プログラム・パラメーター・コマンド・ストリングで選択されたデータウェアハウスセンター トークンが無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03783E ProgFunc 関連オブジェクトがセットアップされていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03784E このデータウェアハウスセンタープログラムに関連した ProgType がセットアップされていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03786E ステップ “<step-name-1>” には、テストまたは実動状態になっていないステップ “<step-name-2>” と関連した、ウェアハウス 1 次キーを参照するウェアハウス外部キーがあります。

説明: 開発状況のあるステップに関連したウェアハウス 1 次キーを参照するステップをプロモートしようとしてしました。ウェアハウス 1 次キーに関連したステップを最初にプロモートしなければなりません。

ユーザーの処置: ウェアハウス 1 次キーに関連したステップを、テストまたは実動状況にプロモートしてください。次にウェアハウス 1 次キーを参照するウェアハウス外部キーを持つステップをプロモートしてください。

DWC03787E ステップ “<step-name-1>” には、開発状態になっていないステップ “<step-name-2>” と関連した、1 つ以上のウェアハウス外部キーを参照するウェアハウス 1 次キーがあります。

説明: 親ステップをデモートする前に、子ステップをデモートしようとしてしました。

ユーザーの処置: ウェアハウス外部キーのあるス

テップを開発にデモートします。次にウェアハウス 1 次キーを持つステップをデモートしてください。

DWC03788E ステップ “<step-name>” に定義されているウェアハウス 1 次キーは、1 つまたは複数のウェアハウス外部キーによって使用されているため、変更または削除することができません。

説明: 1 つまたは複数のウェアハウス外部キーによって参照されているウェアハウス 1 次キーは、削除または変更することができません。

ユーザーの処置: ウェアハウス 1 次キーを参照するウェアハウス外部キーのあるステップを、開発状態にデモートします。またはこれらのステップから、ウェアハウス外部キーを除去します。そうすれば、ウェアハウス 1 次キーを削除したり変更したりすることができます。

DWC03791E ステップ “<step-name>” は、パラメーター・テキスト・フィールドにブランク・データのあるパラメーターを持つデータウェアハウスセンタープログラムを使用しています。これはプロモートの前に提供されている必要があります。

説明: 未定義のパラメーターの入ったプログラム定義を参照するステップをプロモートすることはできません。

ユーザーの処置: 未定義パラメーターの定義を行ってください。これを行うには、プログラムのパラメーター・リストを開いて、ブランク・フィールドのパラメーターを定義します。特定のステップでプログラムを実行するようにパラメーターを定義するには、ステップのステップ・ノートブックを使用してパラメーター・リストにアクセスしてください。プログラムの定義のパラメーターを定義するには、パラメーター・リストにアクセスします。

DWC03792E IN および **NOT IN** の各比較値は単一引用符で囲む必要があります。つまり、**abc and def** は **'abc'**、**'def'** のようになっている必要があります。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。以下の比較演算子に入力されるすべての文字列値は、単一引用符で囲まなければなりません:

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効な文字列を再入力してください。

DWC03793E IN および **NOT IN** の比較値は、値の終了の単一引用符とコンマの区切り文字との間に、非空白文字を使用することはできません。つまり、**abc and def** は **'abc'**、**'def'** のようになっている必要があります。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。値の終了の引用符とコンマの間に非空白文字を使用することはできません。このメッセージは以下の比較演算子に適用されます:

- **in**
- **not in**
- **between**

- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効な文字列を再入力してください。

DWC03794E IN および **NOT IN** の比較値は、コンマの区切り文字と次の値の開始の単一引用符との間に、非空白文字を使用することはできません。つまり、**abc and def** は **'abc'**、**'def'** のようになっている必要があります。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。値の開始の引用符とコンマの間に非空白文字を使用することはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効な文字列を再入力してください。

DWC03795E 比較値 **IN** および **NOT IN** は、**'abc'**、**'def'** のようなパラメーターが必要です。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**in** または **not in** 演算子には無効です。値が引用符で囲まれていないか、または終了の単一引用符が欠落している可能性があります。以下の比較演算子に入力されるすべての文字列値は、単一引用符で囲まなければなりません:

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**

- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの値を引用符で囲むか、あるいは値の終了の単一引用符を追加する必要があるかもしれません。IN および NOT IN 比較演算子を使用する値の正しい形式については、データウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

DWC03796E 値フィールドの値に開始単一引用符がありません。**BETWEEN** および **NOT BETWEEN** の各比較値は単一引用符で囲む必要があります。たとえば、**abc and def** は **'abc', and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、開始単一引用符が欠落しています。以下の演算子に入力されるすべてのストリング値は、単一引用符で囲まなければならない:

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの値に開始単一引用符を追加してください。

DWC03797E 値フィールドの値に終了単一引用符がありません。**BETWEEN** および **NOT BETWEEN** の各比較値は単一引用符で囲む必要があります。たとえば、**abc and def** は **'abc', and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、終了単一引用符が欠落しています。以下の演算子に入力されるすべてのストリング値は、単一引用符で囲まなければならない:

- **in**
- **not in**
- **like**
- **not like**
- **between**
- **not between**

有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの値に終了単一引用符を追加してください。

DWC03798E **BETWEEN** および **NOT**

BETWEEN の比較値は、値の終了の単一引用符と **AND** 区切り文字との間に、非ブランク文字を使用することはできません。たとえば、**abc and def** は **'abc' and 'def'** のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**between** または **not between** 演算子には無効です。値の終了の引用符と **and** 区切り文字の間に非ブランク文字を使用することはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効なストリングを再入力してください。

DWC03799E BETWEEN および NOT BETWEEN の比較値は、AND 区切り文字と次の値の開始の単一引用符との間に、非ブランク文字を使用することはできません。たとえば、**abc and def** は 'abc' and 'def' のように入力します。正しい値を再入力してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**between** または **not between** 演算子には無効です。and 区切り文字と次の値の開始の引用符の間に非ブランク文字を使用することはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドに有効なストリングを再入力してください。

DWC03800E 比較値 BETWEEN および NOT BETWEEN は、最後の値の後に非ブランク文字を持つことはできません。値フィールドの最後の値の終了の引用符に続くエクストラ非ブランク文字を削除してください。

説明: 値フィールドに入力した値は、**between** または **not between** 演算子には無効です。値フィールドの最後の値の後に非ブランク文字を使用することはできません。有効な値の詳細については、「ロケール」についてのデータウェアハウスセンター オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーの処置: 値フィールドの最後の値の終了の引用符に続く非ブランク文字をすべて削除してください。

DWC03801E ステップを作成中であるか、'name' を指定せずに更新しています。 ステップには固有の名前を指定する必要があります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03802E ステップ "<step-name>" を作成中であるか、無効な値の stepType で更新中です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03803E ステップを作成中であるか、不正に設定された atomicFlag で更新しています。 ステップに同じターゲット・データベースとソース・データベースがあるか、または **atomicFlag** が **FALSE** になっていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03804E 作成中または更新中のステップ "<step-name>" は、ウェアハウスにもサブジェクトにも関連していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03805E 作成中または更新中のステップ
“<step-name>” は、ステップのウェアハウスにないターゲット表と関連しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03806E 作成中または更新中のステップ
“<step-name>” は、ステップのウェアハウスにないターゲット表と関連しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03807E 作成中または更新中のステップ
“<step-name>” はソース・リソースと関連していますが、ソース表がステップのソース・データベースと関連していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03808E 作成中または更新中のステップ
“<step-name>” はソース・リソースと関連していますが、関連するソース表がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03809E 作成中または更新中のステップ
“<step-name>” は、他のステップのターゲット表であるソース表と関連していますが、その子ステップが子ステップ関係になっていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03810E 作成中または更新中のステップ
“<step-name>” に、関連する更新セキュリティ・グループがありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03811E データウェアハウスセンター プログラム・グループに、作成または更新用の名前がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

トにこの情報を連絡してください。

DWC03812E データウェアハウスセンター プログラム定義に、作成または更新用の名前がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03813E データウェアハウスセンター プログラム定義に、作成または更新用に指定されたプログラム名がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03814E データウェアハウスセンター プログラム定義 “<definition-name>” は、プログラム・グループと関連していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03815E データウェアハウスセンター インスタンス “<instance-name>” は、ステップと関連していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー

トにこの情報を連絡してください。

DWC03816E データウェアハウスセンター インスタンス “<instance-name>” は、プログラム定義と関連していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03817E データウェアハウスセンター プログラム・パラメーターを、名前を指定せずに作成または更新していません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03818E データウェアハウスセンター プログラム・パラメーター “<parameter-name>” は、ProgFunc、TrigFunc、または AggreFunc と関連しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03819E “<function-name>” と呼ばれる ProgFunc、TrigFunc、または AggreFunc と関連したデータウェアハウスセンター プログラム・パラメーターは、固有の配列がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03820E 指定の名前なしでサブジェクトを作成または更新しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03821E 開発状況にデモート中のステップに、テストまたは実動状態の他のステップが使用しているターゲット表があります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03826E stepSchedule - 2 つのスケジュールを等化中に属性ミスマッチが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03827E stepSchedule - 自身への無効なコピーが試行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03828E stepSchedule - 自身からの無効なコピーが試行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03829E stepSchedule - 無効な値が分設定で指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03830E stepSchedule - 無効な値が秒設定で指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03831E stepSchedule - 無効な値が時間設定で指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03832E stepSchedule - 無効な値が年設定で指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03834E ログオン・ユーザーがデータウェアハウスセンター内で初期化されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC03835E サブジェクトは 1 つ以上のプロセスを含んでいるために削除できません。

説明: 1 つ以上のプロセスから成る対象物を除去しようとしています。対象物を除去する前に、対象物からプロセスを除去する必要があります。

ユーザーの処置: 対象物からプロセスを除去してから対象物を除去します。

DWC03836E オブジェクトは関連するステップがあるために除去できません。

説明: まだステップを関連付けられたままのオブジェクトを除去しようとしています。オブジェクトを除去する前に、関連したステップを除去する必要があります。

ユーザーの処置: オブジェクトからステップを除去してからオブジェクトを除去します。

DWC03837E このステップをソースとして使用する、実動状態の既存のステップがあります。ターゲットの除去が完了していません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC03838E この表をソースとして使用する既存のステップがこのプロセス内に存在します。ソース表は除去されませんでした。

説明: プロセスから表を除去しようとしたのですが、この表をソース表として使用しているプロセスにステップが残っています。まず表とステップ間のデータ・リンクを除去してから、プロセスの表を除去する必要があります。

ユーザーの処置: 表とステップ間のデータ・リンクを除去してから、プロセスの表を除去します。

DWC03839E この表をターゲットとして使用する既存のステップがこのプロセス内に存在します。ターゲット表は除去されませんでした。

説明: プロセスから表を除去しようとしたのですが、この表をターゲット表として使用しているプロセスにステップが 1 つ以上残っています。

ユーザーの処置: 表とステップ間のデータ・リンクを除去してから、プロセスの表を除去します。

DWC03840E このステップに付加されているソースまたはターゲット表が、このプロセスに関連する表ではありません。表は付加されませんでした。

説明: ステップに接続しようとしているソース表またはターゲット表が、このプロセスと関連していません。

ユーザーの処置: ステップに接続しようとしてい

るソース表またはターゲット表が、このプロセスと関連していません。

DWC03846E ステップが現在実行中であるため、ステップの名前を変更できません。

説明: テスト・モードまたは実動モードで、現在実行中のステップの名前を変更しようとしています。

ユーザーの処置: ステップが実行していないときにステップの名前を変更してください。WIP を使うと、ステップが現在実行中かどうか判別できません。

DWC05001E 新規への呼び出しが失敗しました。
メモリー名:
“<memory-name>”。Attempted
サイズ: “<attempted-size>”。

説明: 内部エラーが発生しました。メモリー不足です。

ユーザーの処置: オープンしているウィンドウまたはアプリケーションをクローズし、メモリーを解放します。

DWC05002E 無効なコマンド行引き数を受信しました。

説明: 無効なコマンド行引き数を持つデータウェアハウスセンター プログラムを実行しようとしてしました。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンタープログラムに正しくない数のコマンド行引き数を入力しました。コマンドを再入力してください。

DWC05003E 無効なログ・メッセージ・タイプを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー

トにこの情報を連絡してください。

DWC05004E ログ・サーバーがデータウェアハウスセンター ライセンス・ファイル “<file-name>” をオープンできませんでした。ウェアハウス・サーバーを開始できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター ライセンス・ファイルは損傷しているか破壊されています。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターを再インストールしてください。

DWC05005E ログ・サーバーがデータウェアハウスセンター ライセンス “<file-name>” を読み取れませんでした。データウェアハウスセンターサーバーを開始できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター ライセンス・ファイルは損傷しているか破壊されています。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターを再インストールしてください。

DWC05006E データウェアハウスセンター ライセンス・ファイルの有効期限が切れています。ウェアハウス・サーバーを開始できませんでした。お客様の IBM 販売担当者に連絡してください。

説明: データウェアハウスセンター ライセンス・ファイルの有効期限が切れています。

ユーザーの処置: お客様の IBM 販売担当者に連絡してください。

DWC05007E アテンション: ご使用のデータウェアハウスセンター ライセンス・ファイルは “<number-of>” 日後に有効期限が切れます。ウェアハウス・サーバーは開始されます。お早めに、お客様の **IBM** 販売担当者に連絡してください!

説明: ご使用のデータウェアハウスセンター ライセンスの有効期限が切れます。

ユーザーの処置: お客様の **IBM** 販売担当者に連絡してください。

DWC05008E プログラムが **db2licm.dll** ファイルをロードできませんでした。

説明: db2licm.dll ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: db2licm.dll が正しい DB2 パス (SQLLIB¥BIN) にあることを確認してください。

DWC05009E LicRequestAccess のエントリ・ポイントが **db2licm.dll** ファイルに見つかりません。

説明: db2licm.dll ファイルが破壊されている可能性があります。

ユーザーの処置: db2licm.dll ファイルに問題がないことを確認してください。

DWC05010E サーバー、ロガー、またはエージェント・プログラムを開始できません。

説明: ライセンスの有効期限が切れたか、コマンド (エージェント) を実行する権限がないか、プログラムにライセンスがありません。

ユーザーの処置: 適切なライセンスがあることを確認してください。

DWC06001E **Receive()** または **HaltReceive()** が **InitializeReceive()** を呼び出す前に試行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06002E 新規への呼び出しが失敗しました。
メモリー名: “<name>”。
Attempted サイズ: “<size>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06003E **InitializeSend()** を呼び出す前に、**Send()** が試行されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06004E ソケット・メッセージに指定されたバイト数が無効です。予期された受信カウント (バイト単位): “<count>”。実際の受信カウント (バイト単位): “<count>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06005E 送信されるデータ・バッファが長すぎます。許可される長さ (バイト単位): “<length>”。要求された長さ (バイト単位): “<length>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC06100E TCP/IP 環境を初期化できません。

説明: Windows NT の TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が初期設定できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06101E ソケットのクリーンアップに失敗しました。

説明: Windows NT の TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が終了できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06102E ソケット関数 **socket()** の呼び出しに失敗しました。

説明: Windows NT の TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が終了できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06103E ソケット関数 **bind()** の呼び出しに失敗しました。ポート番号: “<port-number>”

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- ネットワーク・サブシステムが失敗した。
- データウェアハウスセンターが使用しようとしたポート番号がすでに他で使用されているか、使用可能な空きポートがもうない。
- 多すぎる TCP/IP 接続がすでに存在する。バッファが不足している。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: ローカル・ポートのすべてが使用されているわけではないことを確認してください。TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06104E ソケット関数 `listen()` の呼び出しに失敗しました。インスタンス・カウント: “<count>”。

説明: Windows NT の TCP/IP ソケット・ソフトウェア自体が終了できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06105E ソケット関数 `connect()` の呼び出しに失敗しました。宛先ホスト: “<hostname>”。宛先ポート: “<port-ID>”。再試行カウント: “<count>”。再試行間隔: “<interval>”。

説明: Windows NT の TCP/IP ソケット・ソフトウェアが、ECONNREFUSED 以外のエラーで失敗し、パートナー・プロセスに接続できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・

インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06106E ソケット関数 `connect()` の繰り返し呼び出しに失敗しました。このメッセージを送信できませんでした。宛先ホスト: “<hostname>”。宛先ポート: “<port- ID>”。接続試行数: “<amount>”。これは、パートナー・プロセスがロードされていないか、または前提ポートの `listen` がないことを意味します。

説明: データウェアハウスセンターがパートナー・プロセスに TCP/IP 接続を確立できなかったか、エージェント・プロセスが異常終了したか、データウェアハウスセンターのライセンスの有効期限が切れています。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー、ロガー、およびリモート・エージェント・デーモン (適用できる場合) が、NT サービスで実行していることを確認してください。またご使用のデータウェアハウスセンター ライセンスの有効期限が切れている場合、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC06107E ソケット関数 `accept()` の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアが、パートナー・プロセスからデータを受け入れることができません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、および

ネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06108E メッセージ長バイトの受信を試みているときに、ソケット関数 **recv()** の呼び出しに失敗しました。予期された長さ (バイト単位): “<length>”。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアがパートナー・プロセスから、最初の 4 バイトのデータを受け取っている間にアボートされました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06109E メッセージ・データの受信を試みているときに、ソケット関数 **recv()** の呼び出しに失敗しました。予期された長さ (バイト単位): “<length>”。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアが、パートナー・プロセスからメッセージ・データを受け取っている間にアボートされました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06110E ソケット関数 **send()** の呼び出しに失敗しました。宛先ホスト: “<hostname>”。宛先ポート: “<port-ID>”。メッセージ長 (バイト単位): “<length>”。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアがパートナー・プロセスから、最初の 4 バイトのデータを受け取っている間にアボートされました。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06111E ソケット関数 **closesocket()** の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアはパートナー・プロセスへ接続したソケットを閉じることができません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再実行してください。

DWC06112E ソケット関数 **getsockname()** の呼び出しに失敗しました。ポート番号: “<port-number>”

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは現行ソケットのアドレスを入手できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペ

レーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06113E ソケット関数 `gethostbyname()` の呼び出しに失敗しました。ホスト名: “<hostname>”

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは記号ホスト名を検索できません。 `etc/hosts` ファイルが存在していることを確認してください。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

ドメイン名 (使用可能な場合) のあるターゲット・ホスト名を、 `etc/hosts` ファイルに追加することを考慮したほうがよいかもしれません。

DWC06114E ソケット関数 `gethostname()` の呼び出しに失敗しました。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは記号ホスト名を検索できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06115E ソケット関数 `getservbyname()` の呼び出しに失敗しました。サービス名: “<service-name>”。

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは `etc/services` ファイルから記号ホスト名を検索できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: `etc/services` ファイルが存在していることを確認してください。TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06116E ソケット関数 `inet_ntoa` の呼び出しに失敗しました。ホスト名: “<hostname>”

説明: TCP/IP ソケット・ソフトウェアは、32 ビット IP アドレスをドット 10 進表記に変換できません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: TCP/IP がこのマシンにフル・インストールされ、構成されていること、およびネットワークが操作可能であることを確認してください。確認できたら、マシンを再起動し、操作を再試行してください。

DWC06117E ウェアハウス・サーバー “<hostname>” (ポート番号 “<port-ID>”) が、現在応答していません。

説明: ウェアハウス・サーバー “<hostname>” (ポート番号 “<port-ID>”) が、現在応答していません。

(存在する場合) 2 次戻りコードは、ご使用のオペレーティング・システムから戻されたエラー番号を表示します。

ユーザーの処置: 「コントロール パネル」の「サービス」アプレットに移動して、データウェアハウスセンター サーバーとデータウェアハウスセンター ロガー・サービスの状態を検査してください。必要に応じてどちらか一方、または両方を再始動してください。

DWC06118E ウェアハウス・サーバーへのログオン試行が失敗しました。

説明: データウェアハウスセンターのクライアントが、使用可能なすべてのローカル・クライアント IP アドレスを使用して、ウェアハウス・サーバーに通信しようとしていました。しかしどのローカル・クライアント IP アドレスも、ウェアハウス・サーバーからの応答を受信できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーが活動状態であり、ローカル・クライアントとウェアハウス・サーバーとの間の TCP/IP 通信が活動状態であることを確認してください。

DWC06119E ウェアハウスのクライアントが、ウェアハウス・サーバーからの応答を受信できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーが活動状態であり、ローカル・クライアントとウェアハウス・サーバーとの間の TCP/IP 通信が活動状態であることを確認してください。次にデータウェアハウスセンターをクローズして、もう一度ログオンしてください。

DWC06200E 予期しない通信エラーが起きました。

説明: TCP/IP が正しく構成されていないか、ログオン時に間違ったサーバーが指定されました。

ユーザーの処置: TCP/IP が正しく構成されてい

るかどうかを確認してください。TCP/IP が正しく構成されていれば、ログオン時に指定したサーバーが正しいことを確認してください。

DWC07000E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”を検索できませんでした。このエラーは、エディション“<edition-number>”のタイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: ステップ定義がまだ存在し、コントロール・データベースがまだウェアハウス・サーバー・マシンからアクセスできることを検査してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07001E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”を更新できませんでした。このエラーは、タイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはステップ定義の変更点をコントロール・データベースに保管できませんでした。

ユーザーの処置: ステップ定義がまだ存在し、コントロール・データベースがまだウェアハウス・サーバー・マシンからアクセスできることを検査してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07003E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の状況を更新できませんでした。このエラーは、タイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07005E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の **SELECT** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップの定義済み SQL を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07006E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の **INSERT** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはターゲット表に行を挿入する SQL を作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07007E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の **DELETE** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターは SQL **DELETE** ステートメントを作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07008E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の **CREATE** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターは **CREATE TABLE** ステートメントを作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07009E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の **DROP** ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターは **DROP TABLE** ステートメントを作成するために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07010E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”の再試行カウントを検索できませんでした。このエラーは、エディション“<edition-number>”のタイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップの再試行の最大数を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07011E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”の再試行間隔を検索できませんでした。このエラーは、エディション“<edition-number>”のタイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップの再試行間隔を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07012E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”の子ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション“<edition-number>”のタイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップの子ステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07013E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”の並列カスケード・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション“<edition-number>”のタイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから、与えられたステップでカスケードされたステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07014E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”のカスケード・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション“<edition-number>”のタイプ“<job-type>”のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから、与えられたステップでカスケードされたステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07015E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のスケジュールをリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップのスケジュールを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07016E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の次にスケジュールされた移植を計算できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターは循環スケジュールの次の日付を計算できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07017E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” を検索できませんでした。このエラーは、タイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからデータベースのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07018E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のソース・データベースを検索できませんでした。このエラーはエディション “<edition-number>” の “<operation-type>” 処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからソース・データベースのメタデータを検索できませんでした。指定されたタイプの操作を実行中に、データウェアハウスセンターがデータを検索しようとしてしました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07019E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step>” のターゲット・データベースを検索できませんでした。このエラーはエディション “<edition-number>” の “<operation-type>” 処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のターゲット・データベースを検索できませんでした。このエラーはエディション “<edition-number>” の “<operation-type>” 処理中に発生しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07020E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の属性マッピング情報を検索できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはソース表の SELECT ステートメントの選択された列を、ター

ゲット表の INSERT ステートメントの列にマップするために必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07021E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の出力属性を検索できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからターゲット表の INSERT ステートメントの列のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07022E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の入力属性を検索できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからソース表の SELECT ステートメントの列のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07023E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエージェント・サイトを検索できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” を処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはエージェント・サイトへの接続に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07024E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” のエージェント・サイトを検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからデータベースのエージェント・サイト・メタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07025E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の総計機能を検索できませんでした。このエラーはエディション “<edition-number>” の “<operation-type>” 処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからデータウェアハウスセンター プログラムのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07026E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のターゲット・データベースを検索できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからターゲット・データベースのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07027E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のソース・データベースをリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからターゲット・データベースのメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07028E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の総計機能条件付きカスケード機能を検索できませんでした。このエラーはエディション “<edition-number>” の “<job-type>” 処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから条件付きカスケード・プログラムまたは事後処理プログラムを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07029E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の条件によってカスケードされるステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから、与えられたステップで条件によってカスケードされるステップのリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07030E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の GRANT ステートメントを検索できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウスはコントロール・データベースからステップの SQL GRANT ステートメントを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07031E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の別名をリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから、ステップ用のデータウェアハウスセンター定義のリストを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07032E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の別名 “<alias-name>” に使用する **CREATE** ステートメントを獲得できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはステップの別名を作成するための SQL の生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07033E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の別名 “<alias-name>” に使用する **DROP** ステートメントを獲得できませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはステップの別名をドロップするための SQL の生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07034E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のソース属性をリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからステップの属性のメタデー

タを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07035E ウェアハウス・サーバーがユーザー “<user-name>” を検索できませんでした。このエラーはクライアント “<client-name>” からの確認要求への応答内で発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから指定されたユーザー ID を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたユーザー ID が正しく、データウェアハウスセンター サーバーに定義されていることを検査してください。

DWC07036E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” からステップを検索できませんでした。このエラーは、タイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからターゲット・データベースに関連したステップを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07037E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の接続ストリングを検索できませんでした。このエラーは、タイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから、ターゲット・データベースへの接続に使用される ODBC 接続ストリングを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07038E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の ALTER ステートメントを構成できませんでした。このエラーは、タイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはステップの SQL ALTER TABLE ステートメントの生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07039E ウェアハウス・サーバーはコントロール・データベースから、ステップ “<step-name>” の無効なステップ・タイプ “<identifier>” を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07040E ウェアハウス・サーバーはコントロール・データベースから、ステップ “<step-name>” の無効なプログラム・タイプ “<program-type-identifier>” を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー

トにこの情報を連絡してください。

DWC07041E ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のデータウェアハウスセンター プログラム・コマンド行を生成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからデータウェアハウスセンター プログラムのコマンド行パラメーターを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07042E ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の SQL CALL ステートメントを生成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはストアド・プロシージャの SQL CALL ステートメントの生成に必要なメタデータを、コントロール・データベースから検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07043E ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のストアド・プロシージャ・データベース・データを生成できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーはステップからターゲット・データベースを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07044E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” の障害カスケード・ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-number>” のタイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーは障害カスケード・ステップをリストできませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07045E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” から起動障害ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-name>” のタイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” から起動障害ステップをリストできませんでした。このエラーは、エディション “<edition-name>” のタイプ “<job-type>” のジョブを処理中に発生しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07046E ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のストアード・プロシーチャーのデータウェアハウスセンター・プログラム・パラメーター・データを生成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからストアード・プロシーチャーのパラメーターのデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ

ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07047E ウェアハウス・サーバーは コンポーネント名 “<component-name>” および値 “<value>” の構成パラメーターを更新できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07048E ウェアハウス・サーバーは、コントロール・データベースからデータ・リソース ID を検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは、コントロール・データベースからデータ・リソース ID を検索できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーとコントロール・データベースの間に接続が確立されていることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07049E ウェアハウス・サーバーは、コントロール・データベースからユーザーの権限を検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは、コントロール・データベースからユーザーの権限を検索できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードが正しいことを検査してください。(ユーザー ID とパスワードは大文字小文字が区別されます。) 問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07050E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”を作成できま
せんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが
発生したか、コントロール・データベースに無効
なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細
をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー
トにこの情報を連絡してください。

DWC07051E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”をスケジュー
ルできせんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新で
きせんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07052E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”の移植を開始
できせんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新で
きせんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07053E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”の移植を完了
できせんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新で
きせんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07054E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”のページを開
始できせんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新で
きせんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07055E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-name>”のページ障害を
処理できせんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが
発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細
をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポー
トにこの情報を連絡してください。

DWC07056E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”を削除できま
せんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新でき
ませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07057E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のスケジュールさ
れたエディションを削除できません
でした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新でき
ませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07058E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディションを
削除できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新でき
ませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07059E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”を検索できま
せんでした。このエラーはタイプ
“<job-type>”のジョブを処理中に
発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を照会で
できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07060E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”の最古のエディシ
ョンを検索できませんでした。この
エラーはタイプ“<job-type>”のジ
ョブを処理中に発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を照会で
できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記
録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情
報を連絡してください。

DWC07061E ウェアハウス・サーバーは、サーバ
ーが最後に停止されたときに進行中
だったエディションを検索できませ
んでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を照会で
できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだ
コントロール・データベースに接続できることを
検査してください。接続がまだ確立されている
場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記

録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07062E ウェアハウス・サーバーはステップ“<step-name>”のエディション“<edition-number>”の状態が無効なために再始動できないことを検出しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生したか、コントロール・データベースに無効なメタデータがあります。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07063E ウェアハウス・サーバーは、移植用にスケジュールされたエディションを検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を照会できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07064E ウェアハウス・サーバーがエディションをその親のエディション番号で更新できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーが制御表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバーがまだコントロール・データベースに接続できることを検査してください。接続がまだ確立されている場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07066E ウェアハウス・サーバーは、このエディションの移植が終了する前にシャットダウンされました。

説明: 通知メッセージ。ステップ・エディションは、ウェアハウス・サーバーがシャットダウンされるまでの間に移植を終了しませんでした。ターゲット表に行ったすべての変更点はロールバックされます。ステップは 1 作業単位で移植されず。ステップを実行中にウェアハウス・サーバーをシャットダウンすると、ターゲット表に行ったすべての変更点はロールバックされます。

ユーザーの処置: 失敗したステップを再実行してください。

DWC07067E ウェアハウス・サーバーは、このエディションのページが終了する前にシャットダウンされました。

説明: 通知メッセージ。ステップ・エディションは、データウェアハウスセンター・サーバーがシャットダウンされるまでの間にページを終了しませんでした。ターゲット表に行ったすべての変更点はロールバックされます。ステップをページ中にウェアハウス・サーバーをシャットダウンすると、ターゲット表からされたすべての行は復元されます。

ユーザーの処置: ステップ・エディションをもう一度ページしてください。

DWC07068E このエディションを実行するようにスケジュールされていた期間は、ウェアハウス・サーバーが実行されていませんでした。

説明: このメッセージはウェアハウス・サーバーが手動で再始動するように構成されている場合にだけ適用されます。このステップはデータウェアハウスセンター・サーバーがシャットダウンされている間にだけ実行されるようにスケジュールされています。ウェアハウス・サーバーを自動再始動するように構成すれば、このエラーは回避でき

ます。この場合失敗したステップは、サーバーが再始動されると自動的に再始動されます。ただし自動再始動をするとステップが必ずしも望ましい時に開始するとは限らないので、これはお勧めできません。また失敗したすべてのステップが並行して開始されるので、システム・リソースを使い果たしてしまう可能性もあります。

ユーザーの処置: 次のスケジュールの前にこのステップを最新表示したい場合は、手動で再始動または再スケジュールしてください。

このステップ・エディションを実行するようにスケジュールされた時にサーバーがシャットダウンされた理由を判別してください。

DWC07069E ウェアハウス・サーバーは、このステップ・エディションの取り消しが終了する前にシャットダウンされました。

説明: ステップ・エディションは、ウェアハウス・サーバーがシャットダウンされるまでの間に取り消しを終了しませんでした。

ユーザーの処置: 「作業進行中 (Work in Progress)」ウィンドウからステップ・エディションをページします。

DWC07100E ウェアハウス・サーバーはユーザー ID “<user-ID>” を使用してコントロール・データベース “<control-database-name>” に接続できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは無効なユーザー ID でコントロール・データベースに接続しようとしてしました。そのユーザー ID はもうコントロール・データベースのアクセスが許可がされていないか、または無効またはスペルの違うユーザー ID が初期設定中に提供されました。

ユーザーの処置: ユーザー ID がまだコントロール・データベースの許可ユーザーであることを確認してください。ユーザー ID のスペルと大文字小文字が正しいことを確認してください。

DWC07101E ウェアハウスはコントロール・データベースからパラメーター “<parameter-name>” を検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから構成パラメーターの 1 つを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07102E ウェアハウス・サーバーは、無効な値 “<timeout-value>” のタイムアウト・パラメーター “<parameter-name>” を検索しました。

説明: 指定されたパラメーターの構成ノートブックに指定されているタイムアウト値は有効範囲に入っていません。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンター構成アプレットを開始してください。構成ノートブックに指定されたパラメーターのタイムアウト値を有効な値に変更してください。

DWC07103E ウェアハウス・サーバーは、データベース・エージェント用のコマンド行引き数を検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースからデータウェアハウスセンター エージェントの開始に使用されるコマンド行引き数を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07104E ウェアハウス・サーバーは構成パラメーター “<parameter-name>” を値 “<parameter-value>” で更新できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベース内の指示された構成パラメーターを更新できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07105E ウェアハウス・サーバーは値 “<parameter-value>” を構成パラメーター “<parameter-name>” に保管できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベース内の指示された構成パラメーターを保管できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07106E ウェアハウス・サーバーは構成されたホスト名 “<install-host-name>” が、サーバーの実行している “<tcpip-host-name>” ノードのホスト名と一致しないことを検出しました。

説明: このエラーの原因として最も考えられるのは、ウェアハウス・サーバー・マシンが物理的に他の位置に移動されたか新しい TCP/IP ホスト名が指定されたことです。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンター構成ノートブックをオープンし、「サーバー」タブを選択して、マシンに対して構成された TCP/IP DNS ホスト名と一致するように「サーバー・ホスト名」フィールドの値を変更してください。

DWC07150E ウェアハウス・サーバーは TCP/IP ホスト名を検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07151E ウェアハウス・サーバーは、エージェント・デーモンの TCP/IP を検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07152E ウェアハウス・サーバーは TCP/IP ポート番号を検索できませんでした。ウェアハウス・サーバーのサービス名は “<tcpip-service-name>” です。

説明: データウェアハウスセンターに与えられたサーバー・サービス名を使用すると、サーバーは TCP/IP SERVICES ファイルからポート番号を検索できません。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンタープロパティ・ノートブックをオープンし、「サーバー」タブを選択して、「サーバー・サービス名」フィールドの値を記録してください。この名前が TCP/IP SERVICES ファイルに単一記入項目があることを検査してください。この名前が重複している場合は、余分の記入項目を削除します。名前が SERVICES ファイルにない場合、手操作で追加するか、データウェアハウスセンター初期設定プログラムを再実行してください。デフォルトのサーバー・サービス名とポート番号を使用すれば、データウェアハウスセンターは初期設定時に自動的に追加するので、これを使用することをお勧めします。

DWC07153E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” を処理するためのメッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07154E ウェアハウス・サーバーは 1 次メッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07155E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” を処理するために使用されるメッセージ・キューを破壊できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07156E ウェアハウス・サーバーは 1 次メッセージ・キューを破棄できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07157E ウェアハウス・サーバーがいずれかのエージェント・プロセスをモニターできませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

DWC07158E ウェアハウス・サーバーがいずれかのエージェント・プロセスのモニターを正常に停止できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07159E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のコマンド・タイプ “<command-type>” を処理するためのエージェント・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07160E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” のコマンド・タイプ “<command-type>” を処理するためのエージェント・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07161E ウェアハウス・サーバーは、ホスト “<host-name>” でエージェント・プロセスを作成する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07162E ウェアハウス・サーバーは、エージェント・プロセスをシャットダウンする要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07163E ウェアハウス・サーバーは、ホスト “<host-name>” でエージェント・プロセスをシャットダウンする要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07164E ウェアハウス・サーバーは、ホスト “<host-name>” でエージェント・プロセスを強制終了する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07165E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” を移植する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07166E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” をパージする要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07167E ウェアハウス・サーバーは、カスケードされたステップ “<step-name>” を移植する要求を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07168E ウェアハウス・サーバーは、ジョブ終了通知を形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07169E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”のエージェント・
コマンド・タイプ
“<command-type>”を送信できま
せんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシ
テムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ
ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07170E ウェアハウス・サーバーは、エー
ジェント・プロセスをシャットダウン
するメッセージを送信できませんで
した。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシ
テムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ
ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07171E ウェアハウス・サーバーはジョブ完
了の通知を、ホスト
“<host-name>”のポート
“<port-number>”のリクエスト
に送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシ
テムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ
ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07172E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”の移植要求を
メイン・キューに送信できませんで
した。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシ
テムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ

ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07173E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”のページ要求
をメイン・キューに送信できませんで
した。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシ
テムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ
ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07174E ウェアハウス・サーバーは、ホスト
“<host-name>”でエージェント・
プロセスを作成する要求を送信でき
ませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは与えられたエー
ジェント・サイトでデータウェアハウスセンター
エージェント・デーモンと通信できませんでし
た。この問題はエージェント・デーモンが開始ま
たは応答されていないか、または通信問題がある
場合に発生します。2 次戻りコード (RC2) 値が
原因を識別します。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー・マシ
ンにエージェント・サイトへの TCP/IP コネクテ
ィビティがあり、データウェアハウスセンター
エージェント・デーモンが実行中であることを検
査してください。それでも問題が解決されなけれ
ば、データウェアハウスセンター エー
ジェント・デーモンを停止させて再始動してくださ
い。それでも問題が解決されなれば、RC2 コードを
調べ、推奨処置を取ってください。

DWC07175E ウェアハウス・サーバーは、ホスト
“<host-name>”でエージェント・
プロセスをシャットダウンする要求
を送信できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは与えられたエー
ジェント・サイトでデータウェアハウスセンター
エージェント・デーモンと通信できませんでし

た。この問題はエージェント・デーモンが開始または応答されていないか、または通信問題がある場合に発生します。2 次戻りコード (RC2) 値が原因を識別します。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー・マシンにエージェント・サイトへの TCP/IP コネクティビティがあり、データウェアハウスセンターエージェント・デーモンが実行中であることを検査してください。それでも問題が解決されなければ、データウェアハウスセンター エージェント・デーモンを停止させて再始動してください。それでも問題が解決されなければ、RC2 コードを調べ、推奨処置を取ってください。

DWC07176E ウェアハウス・サーバーがステップをカスケードするためのメッセージを、ステップ “<step-name>” からメイン・キューに送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07177E ウェアハウス・サーバーはジョブ完了の通知をメイン・キューに送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07178E ウェアハウス・サーバーは、ホスト “<host-name>” でエージェント・プロセスを強制終了する要求を送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ

ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07179E エージェント・プロセスからシャットダウンの応答を受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07180E エージェント・プロセスから開始の応答を受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07181E メッセージを受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07182E ステップ従属ツリーの処理中に、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07183E ウェアハウス・サーバーがエージェントを作成しようとしたが、エージェントまたはデーモンから有効な始動の肯定応答を受信しませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターエージェントをシャットダウンして再始動してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07184E ウェアハウス・サーバーはタイプ“<message-type>”およびサブタイプ“<message-sub-type>”の、予期しないメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはデータウェアハウスセンターコンポーネントの送信をデータウェアハウスセンターコンポーネントの受信時と異なるコード・レベルで行う場合に発生することがあります。たとえばあるメンテナンス・レベルのデータウェアハウスセンター エージェントのメッセージ・コードは、異なるメンテナンス・レベルのデータウェアハウスセンター サーバーと互換性がない場合があります。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07185E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”のエディション“<edition-number>”のコマンド・タイプ“<command-type>”の処理中に、予期しないメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはデータウェアハウスセンターコンポーネントの送信をデータウェアハウスセンターコンポーネントの受信時と異なるコード・レベルで行う場合に発生することがあります。たとえばあるメンテナンス・レベルのデータウェアハウスセンター エージェントのメッセージ・コードは、異なるメンテナンス・レベルのデータウェアハウスセンター サーバーと互換性がない場合があります。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07186E ウェアハウス・サーバーがステップ“<step-name>”のエディション“<edition-number>”のジョブ・タイプ“<job-type>”の従属ツリーの処理中に、予期しないメッセージを受信しました。受け取ったメッセージはタイプ“<message-type>”および要求タイプ“<request-type>”のメッセージでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07187E ウェアハウス・サーバーは予期しないメッセージ・タイプ
“<message-type>”を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはデータウェアハウスセンターコンポーネントの送信をデータウェアハウスセンターコンポーネントの受信時と異なるコード・レベルで行う場合に発生することがあります。たとえばあるメンテナンス・レベルのデータウェアハウスセンター エージェントのメッセージ・コードは、異なるメンテナンス・レベルのデータウェアハウスセンター サーバーと互換性がない場合があります。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07188E ウェアハウス・サーバーはサポートされていないメッセージ・タイプ
“<message-type>”を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07189E エージェント・プロセスからのシャットダウンの応答を待機しているときに、ウェアハウス・サーバーがタイムアウトになりました。

説明: エージェント・プロセスはすでにシャットダウンされているか、またはハングしています。

ユーザーの処置: エージェント・プロセスがエージェント・サイト・マシンでシャットダウンしたことを確認してください。その場合は、これ以後の処置は不要です。それ以外の場合は、エージェント・プロセスがハングしています。処理を終了

するか、またはエージェント・サイト・マシンを再起動してください。問題が頻繁に発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC07190E ウェアハウス・サーバーがステップ
“<step-name>”のエディション
“<edition-number>”のコマンド・
タイプ “<command-type>” の処
理中にメッセージの受信を待機して
いるときに、予期しないエラーが発
生しました。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07191E ウェアハウス・サーバーは、ステ
ップ “<step-name>” のエディショ
ン “<edition-number>” の状況変
更通知メッセージを形式設定できま
せんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07192E ウェアハウス・サーバーは、ステ
ップ “<step-name>” のエディショ
ン “<edition-number>” の状況変
更通知メッセージを、ホスト
“<host-name>” のポー
ト “<port-number>” で受信している
クライアントに送信できませんで
した。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07193E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の取り消しメッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07194E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の取り消しメッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07195E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のコマンド・タイプ “<command-type>” を処理しているときに、受信されたメッセージのメッセージ・タイプを判別できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07196E エージェント・プロセスが開始されるのを待機しているときに、ウェアハウス・サーバーは予期しないコマンド・タイプ “<command-type>” でのメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07197E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の行カウント・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07198E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の行カウント・メッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07199E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の行カウント照会を受信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェ

ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07200E ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の行カウント照会に対する無効な応答を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07201E ウェアハウス・サーバーはシャットダウン時に使用するメッセージ・キューを作成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07202E ウェアハウス・サーバーはシャットダウン時に使用するメッセージ・キューを破棄できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07203E ウェアハウス・サーバーは、メイン・メッセージ・キューに送信するシャットダウン・メッセージを形式設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07204E ウェアハウス・サーバーは、メイン・メッセージ・キューにシャットダウン・メッセージを送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07205E ウェアハウス・サーバーはメイン・メッセージ・キューに送信されたシャットダウン・メッセージに対する応答を受信しませんでした。

説明: データウェアハウスセンター通信サブシステムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07206E ウェアハウス・サーバーは、IP アドレスを検索できませんでした。

説明: ウェアハウス・サーバーは、IP アドレスを検索できませんでした。

ユーザーの処置: ネットワーク管理者に連絡して、データウェアハウスセンターのホスト名とホスト名の IP アドレスが有効であることを確認してください。

DWC07207E ユーザーに適切な権限がないため、ウェアハウス・サーバーは、このジョブを処理できませんでした。

説明: ユーザーに適切な権限がないため、ウェアハウス・サーバーは、このジョブを処理できませんでした。

ユーザーの処置: ユーザーにタスクを実行する有効な権限があるかどうか検査してください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07220E ウェアハウス・サーバーがローカル・エージェント・プロセス“<agent-executable-name>”を開始できませんでした。

説明: エージェント・プロセスの実行にはストレージ不足であるか、またはエージェントの実行可能コードがないか、破壊されているか、実行不可能かです。

ユーザーの処置: “<agent-executable-name>”ファイルが IWH インストール・ディレクトリーの BIN サブディレクトリーにまだあることを確認してください。ファイルがあれば、仮想記憶域を増やし、同時実行エージェントを少なくしてください。問題が解決されない場合、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07221E データウェアハウスセンター エージェント・プロセスが初期化できませんでした。

説明: エージェント・プロセスが開始しましたが、初期化中に失敗しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07222E データウェアハウスセンター エージェント・デーモンがリモート・エージェント・プロセスを作成できませんでした。

説明: エージェント・プロセスの実行にはストレージ不足であるか、またはエージェントの実行可能コードがないか、破壊されているか、実行不可能かです。

ユーザーの処置: エージェント実行可能ファイルが IWH インストール・ディレクトリーの BIN サブディレクトリーにまだあることを確認してください。ファイルがあれば、仮想記憶域を増やし、同時実行エージェントを少なくしてください。問題が解決されない場合、このエラー・メッ

セージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07223E ウェアハウス・サーバーが、認識されていないエージェント・プロセスをシャットダウンしようとした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07224E データウェアハウスセンター エージェント・デーモンがリモート・エージェント・プロセスをシャットダウンできませんでした。

説明: データウェアハウスセンターがエージェントをシャットダウンしようとして失敗しました。次にデータウェアハウスセンターは VW デーモンにエージェントをシャットダウンさせようとしていました。デーモンはエージェントをシャットダウンできませんでした。

ユーザーの処置: エージェントがユーザー・プロセスとして実行していた場合には、エージェント・サイトのオペレーティング・システムに対して適切なコマンドを使用して、手でエージェント・プロセスを終了してください。エージェントがシステム・プロセスとして実行していた場合は、稼働していないエージェント・プロセスを終結処理してシステムを再始動するまで、待つ必要があります。ともかく、他のエージェントを実行できるようにしてください。

DWC07225E データウェアハウスセンター エージェント・デーモンがリモート・エージェント・プロセスを終了できませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはウェアハウス・サーバーが通信できなくなっているエージェ

ントを強制的に終了するようにエージェント・デーモンに要求しました。処理は失敗しました。エージェント・プロセスはもはやシステム・コマンドに応答しないか、またはすでに終了していません。

ユーザーの処置: エージェントがユーザー・プロセスとして実行していた場合には、エージェント・サイトのオペレーティング・システムに対して適切なコマンドを使用して、手動でエージェント・プロセスの終了を試みてください。エージェントがシステム・プロセスとして実行していた場合は、稼働していないエージェント・プロセスを終結処理してシステムを再始動するまで、待つ必要があります。ともかく、他のエージェントを実行できるようにしてください。

DWC07226E ウェアハウス・サーバーは、ローカル・エージェント・プロセスを終了できませんでした。

説明: エージェント・プロセスはすでにシャットダウンされているか、またはハングしています。

ユーザーの処置: エージェント・プロセスが終了したことを確認してください。その場合は、これ以後の処置は不要です。それ以外の場合は、エージェント・プロセスがハングしています。処理を終了するか、またはエージェント・サイト・マシンを再起動してください。

DWC07227E ウェアハウス・サーバーがエージェント・ディスパッチャーを初期化しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07228E ウェアハウス・サーバーがエージェント・ディスパッチャーを終了しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07229E システム・ページ・ファイルがいっぱいになりそうです。実行しているエージェント数をハンドルするには、サイズを増やす必要があります。

説明: さらにエージェント・プロセスを開始するには、システムに定義された仮想記憶域量が不足しています。

ユーザーの処置: 仮想記憶域量を増やすか、または同時実行エージェントを減少してください。

DWC07250E ウェアハウス・サーバーはメッセージ・タイプ “<message-type>” に応答して、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブを作成できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07251E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” を処理していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07252E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” を実行するためのスレッドを開始できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07253E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” のコマンド・リストを作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07254E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” のジョブ・タイプ “<job-type>” のコマンド・リストを作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07255E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” のコマンド・リストを実行していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07256E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” のジョブ・タイプ “<job-type>” のコマンド・リストを実行していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07257E ウェアハウス・サーバーがジョブ・タイプ “<job-type>” を処理するためのステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の並列性を検査していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07258E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” の従属ツリーを移植していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 問題の原因について、ログの直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07259E ウェアハウス・サーバーは同じ実行ツリー内で、ステップ依存性 “<step-name>” を何度も移植しようとしてしました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07260E ウェアハウス・サーバーは同じ実行ツリー内で、ステップ依存性 “<step-name>” を何度もクリーンアップしようとしてしました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07261E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の実行ツリーを処理している間に、完了メッセージを処理できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07262E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の実行ツリーを処理している間に、ページ・メッセージを処理できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07263E ステップ・タイプが行制限をサポートしないので、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の移植用の行制限を設定できませんでした。

説明: 通知メッセージ。行制限を現行コンテキストに設定できません。

DWC07300E ウェアハウス・サーバーはジョブ・タイプ “<job-type>” の取り消しをサポートしません。

説明: 取り消しはこの時点では不可能です。

DWC07301E ステップが実動状況ではないため、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” は処理されませんでした。

説明: このタイプの操作はステップが実動状況でなければ実行することはできません。このステップは実動状況ではありません。

DWC07302E ステップが永続状態ではなかったため、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” は処理されませんでした。

説明: このタイプの操作はステップが一時的な状況だと実行することはできません。このステップは一時的な状況です。

DWC07303E ステップが開発状況ではないため、ステップ “<step-name>” はプロモートされませんでした。

説明: ステップが開発状況の場合にだけテスト状況にプロモートできます。このステップは開発状況ではありません。

ユーザーの処置: インターフェース・ウィンドウでステップの状況が開発になっていたら、ビューを最新表示してください。状況が開発以外の状況に更新されなければ、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07304E ステップが実行状況ではないため、ステップ “<step-name>” は中断されませんでした。

説明: ステップが実行状況の場合にだけテスト状況にデモートできます。このステップは実行状況ではありません。

ユーザーの処置: インターフェース・ウィンドウでステップの状況が実行になっていたら、ビューを最新表示してください。状況が実行以外の状況に更新されなければ、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07305E ステップが中断状況ではないため、ステップ “<step-name>” はパーージされませんでした。

説明: ステップを開発にデモートすると、ステップのターゲット表がドロップします。ステップがテスト状況の場合にだけテスト開発にデモートできます。このステップはテスト状況ではありません。

ユーザーの処置: インターフェース・ウィンドウでステップの状況がテストになっていたら、ビューを最新表示してください。状況がテスト以外の状況に更新されなければ、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07307E 移植されていないか移植に失敗したため、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” はパーージされませんでした。

説明: この状況のエディションをパーージできません。

ユーザーの処置: このエディションが処理を完了するまで待ってから、パーージしてください。処理を終了したエディションでこのエラーが発生したのであれば、これは内部エラーです。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07308E 移植されていないか移植に失敗したため、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” は置換されませんでした。

説明: この状況のエディションを置換できません。

ユーザーの処置: このエディションが処理を完了するまで待ってから、置換してください。処理を

終了したエディションでこのエラーが発生したのであれば、これは内部エラーです。このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07309E 移植は開始されているか移植が終了していないため、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” は移植されませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07310E 移植されていないか移植に失敗したため、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” は置換されませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07311E ウェアハウス・サーバーはデータベース “<database-name>” の列データをインポートしませんでした。表名が指定されていないため、コマンドは処理されませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07312E すでに等しい要求を処理しているため、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” を処理するための要求を処理しませんでした。

説明: 要求された操作はすでに実行されているので、データウェアハウスセンターはその要求を処理できませんでした。このエラーは管理クライアントが新しい状況で更新される前に別のデータウェアハウスセンター管理クライアントのユーザーが要求を出すと発生することがあります。

ユーザーの処置: しばらく待ってから再度試みてください。

DWC07313E ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプ “<job-type>” が実行中なので、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” の現在のエディション “<edition-number>” のジョブ・タイプを開始できませんでした。2 つのジョブを同時に実行することはできません。

説明: すでに進行中の他の操作を妨害してしまうので、データウェアハウスセンターはその要求を処理できませんでした。

ユーザーの処置: しばらく待ってから再度試みてください。

DWC07314E ウェアハウス・サーバーはすでに終了処理を行っています。現在処理中のすべてのジョブを完了後、シャットダウンします。

説明: ウェアハウス・サーバーはすでにシャットダウン要求を受信しています。

DWC07315E エディションは現在では移植されていないので、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の現在の行カウントを判別できません。

説明: 通知メッセージ。エージェントはすでに与えられたエージェントの移植を完了して、終了しています。最終行数は「統計」ウィンドウからのみ入手できます。

DWC07316E データベース・タイプはその種の照会をサポートしていないので、データベース “<database-name>” からカタログ情報をインポートできません。

説明: メタデータをインポートしようとしたデータベース・タイプには、メタデータを照会する機能がありません。

ユーザーの処置: 詳しくはソース・ベンダーの資料を調べてください。データベース記述は手操作で入力してください。

DWC07317E ステップはテスト状況ではないため、ステップ “<step-name>” のスケジュールを活動化できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07318E ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” の統計表に行を追加できませんでした。

説明: 統計表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07319E ステップはテスト状況ではなかったため、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” に権限を再付与できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07320E ステップは開発状況ではなかったため、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” に別名を追加できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07321E ステップは開発状況ではなかったため、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” の別名を除去できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07322E ウェアハウス・サーバーはユーザー “<user-name>” のパスワードを認証できませんでした。このエラーはクライアント “<client-name>” からの確認要求への応答内で発生しました。

説明: 提供されたパスワードが正しくありませんでした。このエラーの多くは、文字の大文字小文

字の違いです。パスワードでは大文字小文字を区別します。

ユーザーの処置: パスワードを再入力してください。

DWC07323E ステップ “<step-name>” がテスト状況ではなかったため、ステップ “<step-name>” の表を更新されませんでした。

説明: ステップがテスト状況の場合にだけ、既存のステップ表に新しいカラムを追加することができます。

ユーザーの処置: ステップ状況をテストに変更して、操作をやり直してください。

DWC07324E ID ストリングが見つからなかったため、ウェアハウス・サーバーはデータベースまたは表 “<table-name>” のデータをサンプル取りできません。

説明: データウェアハウスセンター コントロール・データベースで見つからないデータウェアハウスセンター表からデータをサンプル取りしようとした。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンター サポートに連絡してください。

DWC07325E 作成タイプがサポートされていないため、ウェアハウス・サーバーはデータベースからトランスフォーマーをインストールできませんでした。

説明:

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07350E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のコマンド・リスト・タイプ “<command-list-type>” を処理するためのエージェントを獲得しようとしていたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: ウェアハウス・サーバーは、エージェント・プロセスを開始できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07351E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のコマンド・リスト・タイプ “<job-type>” を処理するために使用するエージェントを解放しようとしていたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンターがエージェント・プロセスをシャットダウンしているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07352E ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” のコマンド・リスト・タイプ “<job-type>” を作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 詳細な情報は直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07353E ウェアハウス・サーバーがデータベース “<database-name>” のコマンド・リスト・タイプ “<command-list-type>” を作成していたときに、直前のエラーが発生しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 詳細な情報は直前のエラー・メッセージを調べてください。

DWC07354E ステップ “<step-name>” にはステップが処理されるように定義されたエージェント・サイトがありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07355E データベース “<database-name>” への接続性のあるエージェント・サイトが定義されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07356E エージェントはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” に対してコマンド・タイプ “<command-type>” を処理していましたが、失敗しました。

説明: エージェントは処理中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

ックし、推奨処置を取ってください。

DWC07357E ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” の行カウントが失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは行カウント照会をしているときにエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07358E ステップ “<step-name>” の別名 “<alias-names>” が見つかりませんでした。このエラーは、タイプ “<command-type>” のコマンドを処理中に発生しました。

説明: データウェアハウスセンターはコントロール・データベースから、与えられた別名のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07400E ウェアハウス・サーバーがセマフォア “<semaphore-name>” を獲得できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07401E ウェアハウス・サーバーがセマフォア “<semaphore-name>” を解放できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポート

トにこの情報を連絡してください。

DWC07450E ウェアハウス・サーバーがスケジューラーを初期化しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: エラーが発生したため、ウェアハウス・サーバーはスケジューラーを開始できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07451E ウェアハウス・サーバーがスケジューラーを終了しているときに、直前のエラーが発生しました。

説明: エラーが発生したため、ウェアハウス・サーバーはスケジューラーを停止できませんでした。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC07454E ウェアハウス・サーバーは、スケジューラーのスレッドを開始できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07500I ウェアハウス・サーバーがステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” を取り消しました。

説明: 通知メッセージ。

DWC07501E エディションは移植されていなかったために、ウェアハウス・サーバーは、ステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” を取り消せませんでした。

説明: 取り消し要求を受信したときはエディションはすでに実行されていなかったため、ステップ・エディションを取り消せませんでした。

DWC07502I エディションがすでに取り消されている間に、ウェアハウス・サーバーはステップ “<step-name>” のエディション “<edition-number>” を取り消す重複した要求を受信しました。

説明: 通知メッセージ。ステップのエディションを取り消す要求を処理していたときに、さらにそのエディションを取り消す要求を受信しました。エディションは取り消されます。

DWC07550E ウェアハウス・サーバーのメモリーがなくなりました。

説明: ウェアハウス・サーバーの操作に必要な量の仮想記憶域がありません。このメッセージを発行した後に、ウェアハウス・サーバー・サービスはシャットダウンされます。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターサーバーのあるマシンの仮想記憶域の量を増やして、データウェアハウスセンター サービスを再始動してください。

DWC07551E 例外が発生したために、ウェアハウス・サーバーは終了します。

説明: 解決できないプログラム例外が発生したために、オペレーティング・システムはウェアハウス・サーバーを終了します。

ユーザーの処置: 例外およびこのエラーの前のイベントについてできるだけ多くの情報を集めて、問題を弊社のソフトウェア・サポートに報告して

ください。ウェアハウス・サーバーの再始動を試行してください。

DWC07552E ウェアハウス・サーバーが予期せずに終了しました。

説明: ウェアハウス・サーバーに重大な内部エラーが発生したのでシャットダウンされます。

ユーザーの処置: 例外およびこのエラーの前のイベントについてできるだけ多くの情報を集めて、問題を弊社のソフトウェア・サポートに報告してください。ウェアハウス・サーバーの再始動を試行してください。

DWC07700I ウェアハウス・サーバーがエージェントから警告を受信しました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC07900E エディション “<edition-number>”が見つかりませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07901E 指定された状況

“<edition-status>”が無効であったため、ステップ “<step-name>”のエディション “<edition-number>”を完了済みとしてマークできませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC07902E エディション “<edition-number>”は “<timestamp>” に移植されるようにスケジュールされていましたが、また移植が開始されていなかったためにステップ “<step-name>”が最新の状態になっていません。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップが開始されたときにはスケジュールよりも遅れて実行されていたため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 「執行中の作業」ウィンドウの「すぐの実行 (Run Now)」機能を使用して、他のステップを強制的に移植し、従属ステップをもう一度実行してみてください。

DWC07903E エディション “<edition-number>”は移植されていなかったために、ステップ “<step-name>”が最新の状態になっていません。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。失敗したステップが開始されたときには、その他のステップは処理が終了していなかったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他の処理が処理を終了するのを待って、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07904E エディション “<edition-number>”は再試行を待機していないので、ステップ “<step-name>”が最新の状態になっていません。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップを実行しようとしたときに、他のステップは再試行中だったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他の処理が処理を終了するのを待って、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07905E エディション “<edition-number>” は現在ページ中なので、ステップ “<step-name>” が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップは失敗したステップを実行しようとしたときに、他のステップはページ中だったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他の処理がページを終了するのを待って、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07906E エディション “<edition-number>” は移植される最後のエディションで、正常に移植されなかったために、ステップ “<step-name>” が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップが最後の移植の試みに失敗したため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップを再実行し、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC07907E どのエディションも正常に移植されなかったため、ステップ “<step-name>” が最新の状態になっていませんでした。

説明: 失敗したステップは他のステップのデータに依存していました。他のステップに正常に完了したエディションがなかったため、移植できませんでした。

ユーザーの処置: 他のステップを実行し、失敗した従属ステップをもう一度やり直してください。

DWC08000E 試行された操作は、現在このエージェントではサポートされていません。

説明: 使用を試みたデータウェアハウスセンター機能は、このエージェント・サイト・プラットフォームでは現在サポートされていません。

ユーザーの処置: 現在のエージェント・サイトではこのデータウェアハウスセンター機能を使用しないでください。データウェアハウスセンターサービスでこの機能の可用性と代替機能の有無を検査してください。

DWC08005I データウェアハウスセンター エージェントはシャットダウンされます。

説明: 通知メッセージ。エージェントはサーバーが発行したシャットダウン・コマンドを実行しました。

DWC08010E エージェント・メッセージがオーバーフローし、返されたカタログ・リスト内で “<initial-count>” 項目から “<final-count>” 項目で切り捨てられています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。原因としては、戻された表のリストが大きすぎるということが考えられます。

ユーザーの処置: 表修飾子を使って、戻される表の数を減らします。これでもうまくいかない場合は、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにご連絡ください。

DWC08205E エージェントが受け取った入力パラメーターが少なすぎます。サーバー・ポートおよびホスト名を提供する必要があります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08206E エージェントが受け取った入力パラメーターが多すぎます。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08207E エージェントが無効なエディション・タイプを受け取りました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

**DWC08210E エージェントが次の無効な入力パラメーターを受信しました:
“<parameter-name>”。**

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08215E エージェント・コマンドは順不同です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08220E エージェント・デーモンが無効なコマンドを受け取りました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08221E エージェント・デーモンが割り当てられたポートを介して通信できません。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: サーバー、ロガー、エージェントによって要求されたポート番号が他のツールで使用でないことを検査してください。

DWC08225E システムのメモリーが不足しています。ページ・ファイルの限界に到達しました。これ以上のエージェントは作成できません。

説明: システムの仮想記憶域が不足しているため、データウェアハウスセンター エージェント・デーモンはエージェント・プロセスを開始できませんでした。

ユーザーの処置: エージェント・サイト・マシンの仮想記憶域量を増やすか、そのマシンのいくつかのアプリケーションをシャットダウンするか、または同時実行エージェントを減らしてください。

DWC08405E 入力コマンド行が長過ぎます。次のコマンドです: “<command>”。

説明: エージェントへ渡されたファイル処理コマンドが長すぎました。

ユーザーの処置: 可能ならコマンドを短くしてください。それでも問題が解決されなければ、弊社ソフトウェア・サポートにこの情報をお知らせください。

DWC08410E エージェントはデータウェアハウスセンター プログラムを実行できませんでした。

説明: 2 次戻りコード (RC2) が戻された場合は、エージェントは実行したが、実行中に失敗しました。RC2 の値はデータウェアハウスセンタープログラムの返す戻りコードです。

NT エージェントで RC2 = 1 の場合、これは「プログラム」ノートブックの「プログラム」ページにある完全修飾のプログラム名が正しくないか、そのプログラムがインストールされていないことを示している場合があります。

AIX エージェントで RC2 = 127 の場合、これは「プログラム」ノートブックの「プログラム」ページにある完全修飾のプログラム名が正しくないか、そのプログラムがインストールされていないか、またはこのエージェント・サイトに指定されたユーザー ID に実行権限と読み取り権限がないことを示している場合があります。両方の権限タイプが必要です。

RC2 が返されなかった場合、データウェアハウスセンタープログラムのファイルが見つからなかったか、実行可能な形式ではありませんでした。

ユーザーの処置: RC2 値を調べてください。データウェアハウスセンタープログラムがゼロ以外の戻りコードを返した場合、データウェアハウスセンタープログラムの資料に記述されている、その戻りコードに対する推奨処置を取ってください。プログラムがデータウェアハウスセンターとともに出荷された弊社のプログラムである場合、資料は CD-ROM のデータウェアハウスセンタープログラムのディレクトリーにあります。

RC2 の値がヌルまたはゼロである場合、データウェアハウスセンタープログラムに指定されたパスとファイル名が有効であることを検査してください。有効であればデータウェアハウスセンタープログラムが実行可能な形式であることを検査してください。

DWC08411E エージェントは FTP コマンドを実行できませんでした。

説明: エージェントはホストへの FTP 接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: FTP に提供されたホスト名、ユーザー ID、パスワードが正しいことを確認してください。

ホスト名、ユーザー ID、およびパスワードが正しければ、以下を行ってください:

- 現在のサイトで、ftp が FTP セッションを開始するために使用されるコマンドであることを検査してください。
- FTP デモン・プロセスがホストで実行中であることを確認してください。
- エージェント・サイトからホストへ ping コマンドを実行して、TCP/IP 接続が存在することを確認してください。

DWC08412E エージェントは FTP コマンドを削除できませんでした。

説明: FTP 操作が失敗しました。FTP が検索したファイルは、もうエージェント・サイトにないか、またはそのファイルが別のプロセスで使用されています。

ユーザーの処置: ファイルがデータベース定義で指定されたパスに対して検索され、ファイルが存在していることを検査してください。存在する場合は、別のプロセスで使用されているかどうかを判別してください。

DWC08413E ファイルが実行可能でないか、無効な実行可能ファイル形式です。

説明: データウェアハウスセンタープログラムの形式が無効なため、実行できません。参照されたファイルは本当に実行可能でないか、または損傷されて実行できません。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンタープログラム・ファイルが存在し、実行可能である

ことを検査してください。

DWC08414E コマンド・インタープリターが損傷しているか、存在しません。

説明: オペレーティング・システムのコマンド・インタープリターまたはシェルが損傷しているか、またはありません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムのコマンド・インタープリターまたはシェル・プログラムがエージェント・サイトで機能していることを確認してください。

DWC08420E 十分なメモリーがないか、使用可能メモリーが破壊されているか、または無効なブロックが存在していません。

説明: エージェントがプロセスを作成、またはデータ・バッファーを割り振るには、エージェント・サイト・マシンの仮想記憶域が不十分でした。

ユーザーの処置: エージェント・サイト・マシンの仮想記憶域量を増やすか、そのマシンのいくつかのアプリケーションをシャットダウンするか、または同時実行エージェントを減らしてください。エージェント・サイト・マシンを再起動すると、空きメモリーが増える場合があります。

DWC08425E 処理されるファイルが読み取り専用でした。次のファイル名です:
“<filename>”。

説明: エージェントはそのファイルに対して読み取り専用権限しかないため、データウェアハウスセンターは FTP で転送されたファイルの削除も書き込みもできませんでした。

ユーザーの処置: FTP で転送されるファイルが、エージェント・ユーザー ID に読み取りおよび書き込み権限を確実に付与されてエージェント・サイト・マシンに作成されるように、システム設定を変更してください。

DWC08430E ファイルまたはパスが見つかりませんでした。次のファイル名です:
“<filename>”。

説明: ファイルが見つからないため、データウェアハウスセンターは FTP で転送されたファイルの削除も書き込みもできませんでした。別のプロセスまたはユーザーがファイルを移動または削除した可能性があります。

ユーザーの処置: ステップをもう一度実行して、ターゲット・ファイルの作成後に他のプロセスまたはユーザーが削除または移動しないようにしてください。データウェアハウスセンターは処理が完了するとファイルを削除します。

DWC08440E Intersolv ODBC ドライバー・プロファイルの更新に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントが ODBC ドライバーの使用する QETXT.INI ファイルを更新または作成できなかったか、データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: QETXT.INI ファイルが作成されるディレクトリー (システム・ディレクトリー内のディレクトリーまたはソース・テキスト・ファイルのあるディレクトリー) に対する読み取りおよび書き込み権限がエージェントにあることを検査してください。エージェントに、このディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み権限があれば、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08445E テキスト・ファイルにフィールド“<field-name>”に対する無効なデータ・タイプがあります。SQL データ・タイプ “<data-type>” はサポートされていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08450E ユーザー DLL “<dll-name>” をロードできませんでした。

説明: データウェアハウスセンターはダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) データウェアハウスセンター プログラムをメモリーにロードできなかったか、DLL を検出できませんでした。

ユーザーの処置: DLL が見つからないか、損傷しているか、またはパスが正しくありません。DLL ファイルが存在していてまだ有効で、データウェアハウスセンター プログラム定義に指定されたパスがエージェント・サイトのライブラリー・パスが組み込まれているか、または DLL へのパスがエージェント・サイトのライブラリー・パスに組み込まれていることを確かめてください。

DWC08455E ユーザー機能 “<function-name>” のアドレスを見つけられませんでした。

説明: データウェアハウスセンターは指定された DLL 内で指定された機能を検出できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DLL エントリー・ポイントがデータウェアハウスセンター プログラムの定義に指定されて指定されていることを検査してください。データウェアハウスセンター デスクトップで「設定」>「データウェアハウスセンター プログラム」を選択してください。

DWC08457E ユーザー機能 “<function-name>” を実行できませんでした。

説明: OS/2 エージェントが呼び出された DLL の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: 2 次戻りコード (RC2) をチェックし、推奨処置を取ってください。

DWC08460E FTP が失敗しました。ユーザー ID、パスワード、およびファイル名を確認してください。ホストによって、大文字小文字を区別する場合があります。

説明: FTP コマンドはソース・ファイルをエージェント・サイト・マシンへ転送するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 転送を試みているファイルが FTP サーバー・マシンに存在すること、および FTP コマンドに提供したユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

DWC08461E コード・ページ変換表をオープンしているときか、Unicode とローカル・ロケールとの間でデータを変換しているときに、エラーが発生しました。

説明: 要求を実行するためにリモート・データウェアハウスセンター・エージェントに送信しましたが、リモート・エージェントはコード・ページ変換表をオープンして要求メッセージをローカル・ロケールに変換することができませんでした。

ユーザーの処置: エージェントのあるオペレーティング・システムに、Unicode からローカル・ロケールへの正しい変換表があることを確認してください。UNIX のエージェントで使用されているローカル・ロケールを検出するには、IWH. 環境ファイルを参照してください。ローカル・ロケールが誤っていた場合は、IWH. 環境ファイルを編集して、エージェント・デーモンを再始動してください。

Sun Solaris プラットフォームで実行中にこのエラーを受信した場合、環境変数

VWA_LOCALE_TABLE を使用してローカルの Solaris コード・セット・ストリングを定義してください。エージェント・デーモンを再始動して再試行してください。

DWC08462E ワイド文字からマルチバイト文字へ
エージェント・メッセージを変換中
にエラーが起きました。

説明: リモート・エージェントがウェアハウス・サーバーに応答を送信しようとしたのですが、応答メッセージをワイド文字形式からマルチバイト文字形式に変換しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェントが UNIX プラットフォームで実行中だった場合は、IWH. 環境ファイルが正しいロケールに設定されていることを確認してください。正しくない場合は、IWH. 環境ファイルを編集して、デーモンを再始動してください。そうでない場合は、オペレーティング・システムの技術サポート担当者に連絡して、オペレーティング・システムに適切なメンテナンスが適用されていることを確認してください。

DWC08463E マルチバイト文字からワイド文字へ
エージェント・メッセージを変換中
にエラーが起きました。

説明: リモート・エージェントが要求メッセージを処理しようとして、メッセージをマルチバイト文字形式からワイド文字形式へ変換中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェントが UNIX プラットフォームで実行中だった場合は、IWH. 環境ファイルが正しいロケールに設定されていることを確認してください。正しくない場合は、IWH. 環境ファイルを編集して、デーモンを再始動してください。そうでない場合は、オペレーティング・システムの技術サポート担当者に連絡して、オペレーティング・システムに適切なメンテナンスが適用されていることを確認してください。

DWC08472E データウェアハウスセンター トランスフォーマーをターゲット・データベースに登録できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター トランスフォーマーをターゲット・データベースに登録できませんでした。

ユーザーの処置: 詳細についてはデータウェアハウスセンターの 2 次戻りコード、およびシステム・メッセージを参照してください。

DWC08474E データウェアハウスセンター トランスフォーマーをターゲット・データベースからドロップできませんでした。

説明: データウェアハウスセンター トランスフォーマーをターゲット・データベースからドロップできませんでした。

ユーザーの処置: 詳細についてはデータウェアハウスセンターの 2 次戻りコード、およびシステム・メッセージを参照してください。

DWC08505E エージェントは ODBC 環境ハンドルの割り振りに失敗しました。

説明: ODBC ドライバー・マネージャーは環境ハンドルにストレージを割り振れませんでした。システムのメモリーが不足しているか、ODBC ドライバー・マネージャーに重大なエラーが発生しています。

ユーザーの処置: マシンの仮想記憶域量を確認してください。仮想記憶域不足でない場合は、ODBC ドライバー・マネージャーの再インストールを試みてください。

DWC08510E エージェントは ODBC 接続ハンドルの割り振りに失敗しました。

説明: エージェントは ODBC 接続ハンドルを入手できませんでした。これはストレージの割り振り中のエラー、データベース・エラー、またはオ

ベレーティング・システム・エラーが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: マシンの仮想記憶域量を確認してください。仮想記憶域不足でない場合は、このエラー・メッセージに伴う SQLSTATE を確認してください。

DWC08515E エージェントは次の ODBC データ・ソースに接続できませんでした: “<source-name>”。

説明: 示されたデータベースへの接続が失敗しました。失敗の理由は数多くあります。以下が最も一般的な失敗の理由です。データベースが ODBC システム DSN としてカタログされていない (エージェントが Windows NT にある場合)、エージェント・サイトのマシンから示されたデータベースへの接続性に問題があるか、または指定されたユーザー ID かパスワードが正しくありません。

ユーザーの処置: 提供されたユーザー ID とパスワードが必ず有効であるようにしてください。

エージェントが Windows NT で実行している場合は、指定のデータベースが ODBC ドライバー・マネージャーでシステム DSN としてカタログされていることを確認してください。AS/400 にアクセスするのに CA/400 を使用している場合は、最新の CA/400 サービス・パックがインストールされており、cwbcfg.exe を実行して CA/400 がシステム・タスクとして実行可能になっていることを確認してください。サービス・パックおよび cwbcfg.exe の詳細については、

<http://www.as400.ibm.com/clientaccess/service.htm> を参照してください。またはデータベース・ベンダーの資料で接続障害の原因として考えられるものを調べてください。

DWC08516E エージェントは ODBC ソース “<source-name>” に接続オプションを設定できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは SQLExecute() 呼び出しをデータベースに発

行しようとしたのですが、ゼロ以外の戻りコードを受信しました。イベント・ログをチェックして、追加の SQL エラー・メッセージがないか調べてください。

ユーザーの処置: 追加の SQL エラー・メッセージ・イベント・ログがない場合は、DB2 トレースまたは ODBC トレースのいずれか適用できる方をオンにしてください。

DWC08520E エージェントは ODBC ステートメント・ハンドルの割り振りに失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは ODBC ステートメント・ハンドルを獲得できませんでした。このエラーはソースへの接続が確立されないか、または ODBC ドライバー・マネージャーがステートメント・ハンドルにメモリーを割り振れない場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: マシンの仮想記憶域量を確認してください。仮想記憶域不足でない場合は、データベース接続がドロップされていたか判別してください。この問題を必ず再現できる場合は、データベース・ベンダーのトレース機能を調べてデータベース接続がドロップしているかどうかを判別してください。

DWC08525E エージェントは SQL ステートメント “<statement>” の実行に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントが実行しようとした SQL ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: ステップの「ステップ」ノートブックで SQL エラー処理の設定を参照してください。エラーのハンドル方法が希望通りに設定されていることを確認してください。この設定に満足したら、データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または

SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08530E エージェントがソース・データベースからフェッチできませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントがソース結果セットから行をフェッチしている間に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08535E エージェントはターゲット・データベースに挿入できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントがターゲット表にデータを挿入している間に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

SQL コードが 30081 で SQLSTATE が 40003 であれば、DB2 のログを検査してターゲット表にデータを導入するだけの十分なスペースがあることを確認してください。

DWC08540E エージェントは次の ODBC ソースから切断できませんでした:
“<database- name>”。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは示されたデータベースから切断できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08541E ソースに対する接続が存在しません。

説明: データウェアハウスセンター エージェントはデータベースから切断するコマンドを受信しましたが、接続はすでに終了しています。

DWC08545E エージェントは結果セット内の列の合計数を検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは結果セット内の列のカウント数を獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08546E エージェントは列属性の検索に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター データベース管理システムから列のメタデータを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08547E エージェントはターゲット表に挿入された行の合計数を検索できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントはターゲット・データベースからターゲット表に挿入された行数を獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08550E エージェントは ODBC SQLDescribeCol API 呼び出しで失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは列からメタデータを獲得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08555E エージェントは列属性をソース・データベースから選択された列に列属性をバインドできませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントはバッファをバインドして、結果セットの列からフェッチしたデータを保留することができませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08560E エージェントは列属性をターゲット・データベースの挿入列にバインドできませんでした。

説明: データウェアハウスセンター エージェントはバッファをバインドして、ターゲット表の列に挿入されたデータを保留することができませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

ステップがトランスフォーマーを参照する場合は、データウェアハウスセンター ストアード・プロシージャがターゲット・データベースに挿入されていることを検査してください。

DWC08565E エージェントは実行のための SQL スtringの準備に失敗しました。ステートメントは次のとおりです：“<statement>”。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは動的 SQL ステートメントを準備できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08570E エージェントは内部エラーで失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08575E エージェントは SQLExecute API 呼び出しで失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントがデータベースに SQLExecute() 呼び出しを発行しようとしたときに、ゼロ以外の戻りコードを受信しました。

ユーザーの処置: イベント・ログをチェックして、追加の SQL エラー・メッセージがないか調べてください。なければ DB2 トレースまたは ODBC トレース (適用できる方) をオンにして、ステップをもう一度実行してください。

DWC08580E エージェントは次の ODBC ソースにコミットできませんでした：“<data-source-name>”。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは示された ODBC ソースに加えられた変更点をコミットできませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08585E エージェントは次の ODBC ソースにロールバックできませんでした:
“<data-source-name>”。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは示された ODBC ソースに加えられたアクションをロールバックできませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08590E エージェントはステートメント・ハンドルの解放に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは ODBC ステートメント・ハンドルを解放できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08600E エージェントはカタログ表情報の検索に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは要求された表のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08605E エージェントはカタログ列情報の検索に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは要求された列のメタデータを検索できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08610E 更新または挿入されたデータはありません。

説明: ステップを実行したときに返された行はありません。このエラー・メッセージは空の結果セットがエラーであることを指定した場合だけに戻されます。

DWC08615E インポート表名は大文字小文字を区別します。指定された名前は、正しくないか存在していないかのいずれかです。表名 : “<table-name>”。

説明: 表またはインポートを試みた表 (1 つまたは複数) は検出されませんでした。このエラーは通常無効な表名または修飾子 (作成者) が原因です。

ユーザーの処置: 提供した表名および修飾子 (作成者) のスペルおよび大文字小文字の区別を確認してください。プラットフォームによっては、大文字小文字を区別します。

DWC08620E INSERT に “<insert-list-count>” 列があったときに、SELECT ステートメントに “<select-list-count>” 列がありました。

説明: ターゲット表に挿入される値の数が、ソース表から選択される列の数と異なります。

ユーザーの処置: ターゲット表の列の数が、ステ

ップ・ノートブックの列マッピング・ページに定義されている選択リストと同じ数だけあることを検査してください。

DWC08625E 使用された列 “<type>” が無効であるか、次の SQL データ・タイプをサポートしていませんでした：“<unknown- data_type>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC08630E ストアード・プロシージャを実行中にエラーが起きました。詳細については 2 次戻りコードとターゲット・ウェアハウス・データベースにある “<your-control-database-qualifier>.logTable を参照してください。

説明: トランスフォーマーの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: トランスフォーマー用のターゲット・データベースの指定ログ表の詳細メッセージを調べて、問題を訂正してください。ターゲット・データベースの指定ログ表を調べても問題が判別できない場合は、DB2 CLI トレースをオンにして、DB2 診断メッセージを調べてください。

DWC08635E ストアード・プロシージャを実行中に「データが見つかりません」というエラーが起きました。

説明: ストアード・プロシージャまたはトランスフォーマーを実行するよう要求しましたが、データベース・マネージャーは実行するストアード・プロシージャまたはトランスフォーマーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: この問題を診断するには、DB2

CLI トレースまたは ODBC トレース (適用できる方) をオンにして、診断メッセージを調べてください。

DWC08700E エージェントは ODBC の実行のキャンセルに失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター エージェントは SQL ステートメントの処理に割り込めませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ベンダーのドキュメンテーションの SQL コードの値、または SQLSTATE を調べて、適切な処置過程を決定してください。

DWC08710E このジョブをキャンセルするには遅すぎます。キャンセルは行われません。実行されている現行コマンドは “<command-name>” です。

説明: 通知メッセージ。変更点をコミットし、変更点をロールバックして、ソースまたはターゲットから切断してしまうと、ステップ・エディションを取り消せません。ターゲット表への変更はすでに行われていました。

DWC08715E データウェアハウスセンター エージェントはソースから 1 次キー情報を検索できませんでした。

説明: このエラーは多くの異なる問題によって起こされます。問題の多くは、通信リンク障害、メモリー割り振り問題、有効期限切れタイムアウト、無効なカーソル状態、または無効なストリングまたは無効なバッファ長のような内部問題です。

ユーザーの処置: エラーの発生源を判別してください。通信リンクが接続されていること、十分なメモリーがあること、タイムアウトが発生していないことを確認してください。

通信リンクが接続されていて、十分なメモリーがあり、タイムアウトが発生していない場合は、内

部エラーが発生しています。エージェント・トレースを実行して、技術サポートへ連絡してください。

DWC08720E データウェアハウスセンター エージェントはソースから外部キー情報を検索できませんでした。

説明: このエラーは多くの異なる問題によって起こされます。問題の多くは、通信リンク障害、メモリ割り振り問題、有効期限切れタイムアウト、無効なカーソル状態、または無効なストリングまたは無効なバッファ長のような内部問題です。

ユーザーの処置: エラーの発生源を判別してください。通信リンクが接続されていること、十分なメモリがあること、タイムアウトが発生していないことを確認してください。

通信リンクが接続されていて、十分なメモリがあり、タイムアウトが発生していない場合は、内部エラーが発生しています。エージェント・トレースを実行して、技術サポートへ連絡してください。

DWC08730E データウェアハウスセンター エージェントは始動時に無効なステップ・パラメーターを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エージェント・トレースを実行して、技術サポートへ連絡してください。

DWC08800E 試行された操作は、現在このエージェントではサポートされていません。

説明: 使用しようとした機能は、選択したこのリリースのエージェント・サイトのデータウェアハウスセンター エージェントにはサポートされていません。

ユーザーの処置: この機能を使用しないようにす

るか、この機能をサポートする別のプラットフォームで実行しているエージェントを使用してください。

DWC08900E 誤った接続パラメーターが原因で WebSphere Site Analyzer への接続が失敗しました。

説明: パラメーター設定の誤りのため、ユーザー定義プログラムは WebSphere Site Analyzer に接続できませんでした。

ユーザーの処置: ソースの作成時に指定した接続パラメーター (WebSphere Site Analyzer のホスト名と WebSphere Site Analyzer のポート番号) が正しいことを確認してください。

DWC08901E WebSphere Site Analyzer に接続できません。HTTP 戻りコードが無効です。

説明: 認証用の WebSphere Site Analyzer の HTTP サーバーの構成が、唯一の許可されたタイプの構成です。

ユーザーの処置: ユーザー定義プログラムは、WebSphere Site Analyzer に対してデータを要求しましたが、有効な HTTP リターン・コードを得ることができませんでした。WebSphere Site Analyzer 用の HTTP の設定を調べてください。WebSphere Site Analyzer で使用される HTTP サーバーは、データウェアハウスセンターのユーザー定義プログラムで扱うのに適した構成になっていません。

DWC08902E WebSphere Site Analyzer の認証が失敗しました。

説明: ユーザー ID とパスワードのどちらか一方または両方が誤っているため、WebSphere Site Analyzer にアクセスするための認証プロセスが失敗しました。

ユーザーの処置: 指定したユーザー ID とパスワードを調べてください。

**DWC08903E WebSphere Site Analyzer HTTP
サーバーに接続できません。**

説明: データウェアハウスセンターのユーザー定義プログラムは、WebSphere Site Analyzer の HTTP サーバーへの接続を確立できません。

WebSphere Site Analyzer のサーバーが停止しているか、または接続が割り込まれた可能性があります。

DWC08904E WebSphere Site Analyzer から有効なデータを取得できません。

説明: データウェアハウスセンターのユーザー定義プログラムは、WebSphere Site Analyzer から有効なデータを得られません。内部 JSP エンジン・エラーが起きたか、または空のデータが戻されました。

ユーザーの処置: WebSphere Site Analyzer のデータ・インポートが指定されていることを確認してください。

**DWC08907C 内部エラー: 無効な接続ストリング
がエージェントからユーザー定義プログラムに渡されました。**

説明: ユーザー定義プログラムの実行中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM 担当者に相談してください。

DWC08908C 内部エラー: 出力ファイルへのアクセスが失敗しました。

説明: ユーザー定義プログラムの実行中にデータ出力ファイルにアクセスしようとしたが、内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: IBM 担当者に相談してください。

DWC08909C 内部エラー: 入力ファイルへのアクセスが失敗しました。

説明: ユーザー定義プログラムの実行中に入力ファイルにアクセスしようとしたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: IBM 担当者に相談してください。

DWC08910E WebSphere Site Analyzer から状況を取得できません。

説明: データウェアハウスセンターのポーリング状況プログラムは、WebSphere Site Analyzer から状況を得られません。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターでのサイト名とデータ・インポートが、WebSphere Site Analyzer のものと同じであることを確認してください。

DWC08911E 内部エラー: 入力ファイルの内容が壊れています。

説明: エージェントからポーリング・ステップ・プログラムに渡された入力ファイル内のデータは無効です。

DWC08912E 入力したサイト名が WebSphere Site Analyzer に存在しません。

説明: 指定されたサイト名に関連した情報が WebSphere Site Analyzer のメタデータ内に見つかりません。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターに入力したサイト名が、WebSphere Site Analyzer に指定した名前と一致していることを確認してください。Web トラフィック・ソースを再定義してください。

DWC08913E WebSphere Site Analyzer がエラー・コード “<error-code>” を返しました。

説明: 接続しようとしたときに、WebSphere Site Analyzer からエラー・コードを受信しました。

ユーザーの処置: その解説とユーザー処置の詳細は、WebSphere Site Analyzer の資料を参照してください。

DWC08914E 内部エラー: ユーザー定義プログラムのエラー・メッセージを検索できません。

説明: エラー・メッセージが見つかりません。

DWC08915E 内部エラー: ユーザー定義プログラムの実行中にエラーが発生しました。

説明: Java 例外が発生したか、またはポーリング・ステップ・プログラムが割り込まれました。

DWC08917E 内部エラー: ユーザー定義プログラムの実行中に予期しない割り込みがありました。

説明: ポーリング・ステップ・プログラムに対して想定外の割り込みが行われました。

DWC08919I ポーリング・ステップ・プログラムは正常に実行されました。リアルタイム・データの最後のタイム・スタンプは “<timestamp>” です。

説明: WebSphere Site Analyzer の webmart の最後の更新のタイム・スタンプが示されます。データ・インポートがリアルタイム・データ・インポートであるときは必ずこのメッセージが表示されます。

DWC08930E 内部 SAP 抽出エラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>” (機能 “<function-name>”。

ユーザーの処置: メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08931E SAP サーバーに接続できません。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

説明: SAP サーバーが停止しているか、または認証上の問題があります。

ユーザーの処置: 詳細は、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08932E ビジネス・オブジェクト・リストの検索中にエラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

ユーザーの処置: 詳細は、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08933E ビジネス・オブジェクト詳細の検索中にエラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

ユーザーの処置: 詳細は、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08934E SAP データの検索中にエラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。
SAP メッセージ = “<message-id>”。

ユーザーの処置: 詳細は、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08935E ターゲット表の移植中にエラーが発生しました。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。
SAP メッセージ = “<message-id>”。

ユーザーの処置: 詳細は、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および関連メッセージを参照してください。

DWC08936W ビジネス・オブジェクト詳細で見つかった不整合なメタデータが原因で、“<function-name>” がスキップされました。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。
SAP メッセージ = “<message-id>”。

説明: メタデータが不整合であるため、このビジネス・オブジェクトは検索されません。

ユーザーの処置: 詳細は、メッセージ・カテゴリ、メッセージ・コード、および SAP メッセージを参照してください。

DWC08937I SAP サーバーに接続しています。
メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

DWC08938I ビジネス・オブジェクト・リストを検索中です。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。
SAP メッセージ = “<message-id>”。

DWC08939I ビジネス・オブジェクト詳細を検索中です。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

DWC08940I SAP データを検索中です。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

DWC08941I ターゲット表を移植中です。メッセージ・カテゴリ = “<category-name>”。メッセージ・コード = “<code-id>”。 SAP メッセージ = “<message-id>”。

DWC08960I この後、BPI ImportDimBatch コマンドのエージェント STDOUT コンソール・メッセージが続きます。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上でデータウェアハウスセンター BPI コマンドの実行中にエラーが起きました。エラーの原因の診断に役立つよう、コンソール STDOUT メッセージ・ストリームが表示されます。

ユーザーの処置: 検出されたエラーの詳細は、コンソール STDOUT メッセージで調べてください。

DWC08961I この後、BPI ImportDimBatch コマンドのエージェント STDERR コンソール・メッセージが続きます。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上で BPI コマンドの実行中にエラーが起きました。エラーの原因の診断に役立つよう、コンソール STDERR ストリームが表示されます。

ユーザーの処置: 検出されたエラーの詳細は、コンソール STDERR メッセージで調べてください。

DWC08962I この後、BPI DataBatch コマンドのエージェント STDOUT コンソール・メッセージが続きます。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上で BPI コマンドの実行中にエラーが起きました。問題の診断に役立つよう、このプロセスに関するコンソール STDOUT メッセージが表示されます。

ユーザーの処置: 問題の診断に役立つ詳細は、コンソール STDOUT メッセージで調べてください。

DWC08963I この後、BPI DataBatch コマンドのエージェント STDERR コンソール・メッセージが続きます。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上で BPI コマンドの実行中にエラーが起きました。問題の診断に役立つよう、このコマンド・プロセスに関するコンソール STDERR ストリームが表示されます。

ユーザーの処置: STDERR コンソール・メッセージを参考に、問題の原因を診断してください。

DWC08964I BPI エージェント・プログラム・パラメーターがありません。必須パラメーターが指定されませんでした。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上で BPI コマンドが呼び出されましたが、必要なパラメーターがすべて指定されたわけではありません。

ユーザーの処置: このステップ用のデータウェアハウスセンター・プロパティ・ダイアログをオープンし、すべてのパラメーターを指定したことを確認してください。どのパラメーターにも有効値を使用するか、そうでなければヌルに設定して、パラメーターとして何も値を渡さないことを示さなければなりません。

DWC08965I BPI プロパティ・ファイル “<filename>” を一時ディレクトリー “<directory-name>” に作成できません。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上の i2 Connector データウェアハウスセンター・プログラムは、プロパティ・ファイルを作成できませんでした。このプロパティ・ファイルが、BPI コマンドにパラメーターを渡します。

ユーザーの処置: TMP 環境変数で指示されたディレクトリーに対する書き込み権限をデータウェアハウスセンター・エージェントが持っていることを確認してください。

DWC08966E BPI コマンドの完了待ちで入出力例外が発生しました。この後、例外メッセージが続きます。

説明: BPI コマンド処理が完了するのを待っているときに、入出力例外が i2 Connector Java プログラムに戻されました。

ユーザーの処置: エラーを診断するには、例外メッセージを調べてください。

DWC08967E BPI プロパティー・ファイルの書き込み中に入出力例外が発生しました。この後、例外メッセージが続きます。

説明: i2 Connector データウェアハウスセンター・エージェント・プログラムは、BPI コマンドにパラメーターを渡すために一時ディレクトリー内にプロパティー・ファイルを作成します。このファイルに書き込もうとしたときに Java プログラムから入出力例外が戻されました。このファイルは、Java の一時作業ディレクトリーに書き込まれます。

ユーザーの処置: エラーを診断するには、例外メッセージを調べてください。

DWC08968E BPI プロパティー・ファイルの書き込み中に FileNotFound 例外が発生しました。この後、例外メッセージが続きます。

説明: データウェアハウスセンター・エージェント上で実行されているデータウェアハウスセンター・プログラムは、BPI プロパティー・ファイルを作成できませんでした。このファイルの名前は DWCBPIxxxx.properties の形式です。

ユーザーの処置: TMP 環境変数で指示されたディレクトリーに対する書き込み権限をデータウェアハウスセンター・エージェントが持っているかどうかを調べてください。詳細は、例外メッセージのテキストを参照してください。

DWC09001E オペレーティング・システム・イベントが発生するのを待機している間に、データウェアハウスセンタープロセスがタイムアウトになりました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポ

ートにこの情報を連絡してください。

DWC09002E 新規プロセスを作成中にエラーが発生しました。

説明: このメッセージがメッセージ 7220 の 2 次戻りコードの場合は、エージェント・サイト定義で提供された無効なユーザー ID またはパスワードが原因か、またはエージェントの実行中に IWH2AGNT が欠落あるいは損傷していることが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: エージェント・サイト定義で提供されたユーザー ID とパスワードをチェックしてください。この情報が正しい場合は、サポートのために IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC09003E 既存プロセスを終了中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09004E すでに実行しているプロセスの開始が要求されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09005E もはや活動状態ではないプロセスの終了が要求されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポ

トにこの情報を連絡してください。

DWC09006E 新規スレッドを作成中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09007E 既存スレッドを終了中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09008E すでに存在しているスレッドを作成しようとしてしました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09009E もはや存在しないスレッドを終了しようとしてしました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09010E 相互排他セマフォアを獲得中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09011E すでに獲得されている相互排他セマフォアを獲得しようとしてしました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09012E 相互排他セマフォアを解放中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09013E すでに解放されている相互排他セマフォアを解放しようとしてしました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09014E 相互排他セマフォアを作成中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09015E 開かれていない相互排他セマフォアを獲得または解放しようとした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09016E イベント・セマフォアの信号送出中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09017E イベント・セマフォアの待機中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09018E イベント・セマフォアを作成中にエラーが発生しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09019E データウェアハウスセンター .INI ファイル (レジストリー内) のオープン中にエラーが発生しました。

説明: NT レジストリーのデータウェアハウスセンター部にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 初期化中に指定したユーザー ID とパスワードに管理権限があり、その項目が HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/IBM/Data Warehouse Center の NT レジストリーにあることを確認してください。

DWC09020E エージェント・サイト・ユーザー ID で指定されたユーザー ID のセキュリティ・アカウント情報を獲得できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09021E イベント・セマフォアのセット・シグナルで失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09022E イベント・セマフォアのリセット・シグナルで失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09102E メッセージ・キューはすでに存在しています。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09103E メッセージ・キューの作成に失敗しました。これは、ほかのプロセスが同じポート番号を使用していることを示している可能性があります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09104E メッセージ・キューの破棄に失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09105E メッセージ・キュー・インスタンス・カウントが無効です。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09106E メッセージ・キューの **listen** が異常終了しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09107E キューが無効なメッセージを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09108E 無効なメッセージ・タイプを受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09109E 無効なメッセージ・キューのサイズが指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09110E 無効なメッセージ番号がメッセージ・キューに渡されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09111E 無効なメッセージ・キュー名を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09112E メッセージ・キューが作成されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09113E メッセージ・キューのページが失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09114E メッセージを受信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09115E メッセージ・キューを受け入れられませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09116E メッセージ・キューを送信できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09117E メッセージを受信する前に、メッセージ・キューがタイムアウトになりました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. 表名をインポートしている場合、リスト内の表の数を制限してください。これを実行する方法は次のとおりです。
 - 表は要求するがビューは要求しない。
 - 表修飾子を使用する。
 - 表修飾子と表名を要求する。
2. 構成でエージェント開始 / 停止タイムアウトを増やす。
3. これでもうまくいかない場合は、このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにご連絡ください。

DWC09118E 無効なメッセージ番号が指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09119E 無効なメッセージ・キューの文字タイプ (non-Unicode) が指定されました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09120E メッセージ・キューに受信されたメッセージはありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09121E クライアントの最大数がすでにポーリングされています。クライアント・カウント最大数: “<count>”

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09122E クライアント名が無効です。クライアント名: “<name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09123E ポーリング・クライアント表には、ほかのクライアント用の余地がありません。現在のクライアント・カウント: “<count>”

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09124E パートナーが接続を失ったかダウンしたため、パートナー・プロセスのポーリングが失敗しました。Pingメッセージ: “<message>”。ループ・カウント: “<count>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09125E 返される、ダウンしたクライアント名がありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09141E メッセージ属性の設定メソッドが失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09142E メッセージ属性の獲得メソッドが失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09143E メッセージ属性の設定メソッドに無効なデータがあります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09144E メッセージを送信する準備ができていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09145E メッセージの内容が破壊されていません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細

をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09146E メッセージの内容に、サポートされていない (non-Unicode) 文字タイプがあります。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09147E メッセージのバック・メソッドが失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09148E メッセージのバック・バッファーが大きすぎます。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09149E データウェアハウスセンター クライアント・メッセージ・コードが下位レベルのバージョンで、インストールされたウェアハウス・サーバーと通信できません。

説明: データウェアハウスセンター クライアント・メッセージ・コードが下位レベルのバージョンで、インストールされたウェアハウス・サーバーと通信できません。

ユーザーの処置: ウェアハウス・サーバー・レベ

ルと一致するように、クライアント・コードを更新してください。

DWC09152E Win32 関数 FormatMessage() が失敗しました。試行された戻りコードの検索: “<return-code>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09153E Win32 関数 LoadLibrary() が失敗しました。ロードしようとしたファイル: “<file-name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09154E Win32 関数 RegCreateKeyEx() が失敗しました。サブキー: “<subkey>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09155E Win32 関数 RegSetValueEx() が失敗しました。値: “<value>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09156E Win32 関数

RegisterEventSource() が失敗しました。イベント・ソース名: “<source-name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09157E Win32 関数 ReportEvent() が失敗しました。イベント・コード: “<code>”。イベント・タイプ: “<type>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09158E データウェアハウスセンターは Windows NT レジストリーからキーを削除できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09159E Win32 関数 RegOpenKeyEx() が失敗しました。キー: “<key>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09160E Win32 関数 RegQueryValueEx() が失敗しました。値：“<value>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09161E Win32 関数 GetEnvironmentVariable() が失敗しました。変数名：“<name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09162E 構成変数 “<variable-name>” が構成表にありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09163E 構成変数 “<variable-name>” が数値変数ではありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09164E 構成変数 “<variable-name>” が文字ストリング変数ではありません。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09171E NT サービス “<service-name>” を開始できませんでした。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09172E Win32 関数 OpenSCManager() が失敗しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09173E Win32 関数 CreateService() が失敗しました。サービス名：“<service-name>”。サービス・ラベル：“<service-label>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09181E 新規への呼び出しが失敗しました。メモリー名：“<name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09191E _wfopen() への呼び出しが失敗しました。ファイル名:
“<file-name>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09192E fwprintf() への呼び出しが失敗しました。ファイル名:
“<file-name>”。ストリング :
“<string>”。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09203E 無効な数の引き数を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09204E 無効な引き数を受信しました。

説明: データウェアハウスセンター内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの詳細をすべて記録して、弊社のソフトウェア・サポートにこの情報を連絡してください。

DWC09205E コントロール・データベースへのデータベース作成 DB2 コマンドが失敗しました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10004E WSAEINTR (ブロック化) 呼び出しが、**WSACancelBlockingCall()** で取り消されました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWCE10009E WSAEBADF

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10013E WSAEACCES 要求されたアドレスはブロードキャスト・アドレスですが、適切なフラグが設定されていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10014E WSAEFAULT 引き数は、ユーザー・アドレス・スペースの有効な部分にありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10022E WSAEINVAL ソケットがバインドでアドレスにバインドされていないか、あるいは `listen` 関数が受け入れの前に呼び出されませんでした。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10024E WSAEMFILE 受け入れる項目でキューが空になっていて、記述子を使用できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10035E WSAEMFILE 使用可能なファイル記述子がありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10036E WSAEINPROGRESS ブロック化ウィンドウ・ソケット操作が進行中です。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10037E WSAEALREADY 取り消されている非同期ルーチンは、すでに完了しています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10038E WSAENOTSOCK 記述子がソケットではありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10039E WSAEDESTADDRREQ 宛先アドレスが必要です。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10040E WSAEMSGSIZE データグラムは指定されたバッファーには大きすぎるため、切り捨てられました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10041E WSAEPROTOTYPE 指定されたプロトコルは、このソケットには不正なタイプです。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10042E WSAENOPROTOOPT 使用中のオペレーティング・システムでは、このオプションは不明またはソケットによってサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10043E WSAEPROTONOSUPPORT 指定されたプロトコルはサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10044E WSAESOCKTNOSUPPORT このアドレス・ファミリーでは、指定されたソケット・タイプはサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10045E WSAEOPNOTSUPP 参照されているソケットは、接続型サービスをサポートするタイプではありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10046E WSAEPFNOSUPPORT

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10047E WSAEAFNOSUPPORT 指定されたアドレス・ファミリーは、このプロトコルによってサポートされていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10048E WSAEADDRINUSE 指定されたアドレスはすでに使用されています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10049E WSAEADDRNOTAVAIL 指定されたアドレスは、ローカル・コンピューターから使用できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10050E WSAENETDOWN Windows ソケット・インプリメンテーションが、ネットワーク・サブシステムに障害があることを見つけました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10051E WSAENETUNREACH 現在、このホストからネットワークに到達することはできません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10052E WSAENETRESET Windows ソケット・インプリメンテーションが接続をドロップしたため、その接続をリセットしなければなりません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10053E WSAECONNABORTED タイムアウトまたはその他の障害のため、バーチャル・サーキットがアボートされました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10054E WSAECONNRESET バーチャル・サーキットがリモート・サイドによってリセットされました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10055E WSAENOBUFS 使用可能なバッファ・スペースがありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10056E WSAEISCONN ソケットはすでに接続されています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10057E WSAENOTCONN ソケットは接続されていません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10058E WSAESHUTDOWN ソケットはシャットダウンされています。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10059E WSAETOOMANYREFS

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10060E WSAETIMEDOUT 接続を試みましたが、確立されずにタイムアウトになりました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10061E WSAECONNREFUSED 接続の試みが強制的に拒否されました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10062E WSAELOOP

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10063E WSAENAMETOOLONG

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC10064E WSAEHOSTDOWN

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10065E WSAEHOSTUNREACH

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10066E WSAENOTEMPTY

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10067E WSAEPROCLIM

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10068E WSAEUSERS

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10069E WSAEDQUOT

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10070E WSAESTALE

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10071E WSAEMFILE

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10091E WSASYSNOTREADY 基礎ネット
ワーク・サブシステムは、ネットワ
ーク通信をする用意ができていま
せん。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10092E WSAVERNOTSUPPORTED 必要
な **Windows** ソケット・サポート
のバージョンは、この特定の
Windows ソケット・インプリメン
テーションによって与えられていま
せん。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC10093E WSANOTINITIALISED この機能を
使用するには、**WSA** スタートアッ
プが正しく行われていなければなり
ません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC11001E WSAHOST_NOT_FOUND 権限の
ある応答ホストが見つかりません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート
担当者に連絡してください。

DWC11002E WSATRY_AGAIN 権限のないホストが見つからないか、または **SERVERFAIL** です。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC11003E WSANO_RECOVERY リカバリー不能エラー:
FORMERR、REFUSED、NOTIMP

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC11004E WSANO_DATA 名前は有効ですが、要求されたタイプのデータ・レコードがありません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC12001I ウェアハウス・サーバーは正常に開始されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC12002I ウェアハウス・サーバーは正常に停止されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC12003I データウェアハウスセンター ログは正常に開始されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC12004I データウェアハウスセンター ログは正常に停止されました。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: ありません。

DWC13001E インポート / エクスポートはタグ言語ファイル “<filename>” のオープンに失敗しました。

説明: 以下のいずれかの理由で、タグ言語ファイルをオープンして入力 (インポート) または出力 (エクスポート) することができませんでした。

- タグ言語ファイルが使用中です。
- ファイル名が無効です。
- インポートの場合のみ: ファイル名が既存のファイル名ではありません。「検索」を使用して既存のタグ言語ファイルを選択してください。
- インポートの場合のみ: 関連ファイルのうちのいずれかが、タグ・ファイルと同じディレクトリ内にありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルがエクスポートで置き換えられようとしている場合は、読み取り専用の属性設定でないことを確認してください。インポートの場合、番号付き拡張子をもった関連ファイルがすべて、タグ・ファイルと同じディレクトリ内にあることを確認してください。

DWC13002E タグ言語ファイルにはインポートする有効なタグが含まれていません。

説明: 「インポート」で空のタグ言語ファイルが検出されたか、指定されたタグ言語ファイルにインポートして使用できるタグが入っていません。

ユーザーの処置: 有効なタグ言語を使ったファイルの名前をデータウェアハウスセンター オブジェクトに指定したことを確かめてください。

DWC13003E インポートはタグ言語ファイルを読み取ることができません。

説明: インポートがタグ言語ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: インポート中にタグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。それから、システムに使用可能なメモリーが十分であることを確認してください。

DWC13004E タグ言語ファイルに不完全なオブジェクト定義あるいは関係定義があります。

説明: インポートで、tag 検出ファイルの終了に不完全なオブジェクトまたは関係定義が検出されました。

ユーザーの処置: エクスポートまたはインポートしようとしてタグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。それでもこのエラーを受け取る場合は、ファイルを生成するプログラムに問題がある可能性があります。外部プログラムを使用している場合は、そのプログラムまたはタグ言語ファイルを提供しているベンダーに連絡してください。

DWC13101E インポートは、入力ファイルを開くことができませんでした。

説明: エクスポートでは入力ファイルをオープンできませんでした。ファイルが使用中かファイル名が無効です。

ユーザーの処置: ファイルをエクスポートするインターフェースを使用している場合は、そのファイルが使用中ではなく、ファイル名が正しいことを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13102E 入力ファイルに、エクスポートで使用できないデータが含まれていません。

説明: エクスポート中に空の入力ファイルが検出されました。

ユーザーの処置: 再度エクスポートしてみてください。メッセージが何度も表示される場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13103E エクスポートでは入力ファイルを読み取れません。

説明: エクスポートで入力ファイルを読み取っていたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エクスポート中に入力ファイルが破壊されていないことを確認してください。それから、システムに使用可能なメモリーが十分であることを確認してください。

DWC13105E 関係で指定されたオブジェクト・タイプは存在しません。

説明: 関係を不明なオブジェクト・タイプに、または不明なオブジェクト・タイプからエクスポートしようとしてしました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13106E インストール・エラーが発生しています。エクスポートはオブジェクト定義を含むファイルを開くことができません。

説明: エクスポートを実行するには、データウェアハウスセンターは以下のファイルにアクセスしなければなりません。

- Flgnyvw0.ty1
- Flgnyvw1.ty1

ファイルが欠落しています。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンターを再インストールしてください。

DWC13201 インポートは、ログ・ファイルを開くことができません。

説明: 以下のいずれかに理由で、インポート時にログ・ファイルをオープンできませんでした。

- ファイル名が無効である。
- パス名が無効である。
- ログ・パスへの書き込みアクセス権限がない。

ユーザーの処置: 指定したログ・パスへの書き込みアクセスがあること、システムに使用可能なメモリーが十分であることを確認してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**DWC13202E 構文エラー -- タグが順不同です。
OBJECT タグは
ACTION.OBJINST タグに続く必要
があります。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義を備えています。OBJECT タグが ACTION.OBJINST タグの後にありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。

タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13203E 構文エラー -- OBJECT タグ。
TYPE キーワードが見つかりませ
ん。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義を備えています。OBJECT タグの TYPE キーワードが見つからないか、あるいはタグの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。

タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13204W OBJECT タグ -- TYPE キーワ
ードの値が無効です。**

説明: インポートは OBJECT タグの TYPE キーワードの値を判別しませんでした。TYPE キーワードは、タグ言語ファイルの先頭に定義されている OBJECT TYPE 値のいずれかと同じである必要があります。

ユーザーの処置: 構文エラーを訂正し、インポートを再実行してください。その後、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13205E インポートにはさらにメモリーが必要なため、インポートを終了する必要があります。ウィンドウまたはアプリケーションを閉じる必要がある場合があります。

説明: インポートではデータウェアハウスセンター オブジェクトを表すために必要なメモリーを割り振れませんでした。

ユーザーの処置: システム (ページング・ファイル・サイズ) で使用できる仮想メモリーを増やすか、あるいは実行中の他のウィンドウやアプリケーションを閉じてください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13206E 構文エラー -- 1 つ以上のタグが順不同です。 **INSTANCE** タグが **ACTION.OBJINST** タグの後にありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義を備えています。更新対象のオブジェクト・インスタンスを特定するには、**ACTION.OBJINST** タグの後に **INSTANCE** が続いていなければなりません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13207E 構文エラー -- タグが順不同です。 **RELTYPE** タグが **ACTION.RELATION** タグの後にありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。 **RELTYPE** タグがオブジェクト定義にありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ・ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13208E 構文エラー -- **RELTYPE** タグ。 **TYPE** キーワードが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。 **RELTYPE** タグの **TYPE** キーワードが見つからないか、あるいは構文が正しくありません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13209E 構文エラー -- **RELTYPE** タグ。 **SOURCETYPE** キーワードが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。

RELTYPE タグの SOURCTYPE キーワードがありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13210W RELTYPE タグ --

SOURCTYPE キーワードの値が無効です。

説明: RELTYPE タグの SOURCTYPE キーワードの値が無効です。RELTYPE タグの SOURCTYPE キーワードは、タグ言語ファイルの先頭に定義されている OBJECT TYPE 値のいずれかである必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。エラーが続く場合は、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度ファイルをエクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13211E 構文エラー -- RELTYPE タグ。 TARGETYPE キーワードが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。RELTYPE タグの TARGETYPE キーワードがありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。エラーが続く場合は、エクスポートとインポートを試行して、タ

グ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13212W RELTYPE タグ -- TARGETYPE キーワードの値が無効なタイプです。

説明: RELTYPE タグの TARGETYPE キーワードは、タグ言語ファイルの先頭に定義されている OBJECT TYPE 値のいずれかである必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13213E 構文エラー -- タグが順不同です。 INSTANCE タグが ACTION.RELATION タグの後ではありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。INSTANCE タグが関係定義にありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (ま

たはタグ言語ファイルを提供したベンダー)に連絡してください。

**DWC13214E 構文エラー -- RELTYPE タグ。
SOURCEKEY キーワードが見つかりません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。

RELTYPE タグの SOURCETYPE キーワードの値がありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13215E 構文エラー -- RELTYPE タグ。
TARGETKEY キーワードが見つかりません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全な関係定義を備えています。

RELTYPE タグの TARGETYPE キーワードの値がありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13216E 構文エラー -- ACTION タグが見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルは、不完全なオブジェクト定義または関係定義を備えています。オブジェクトまたは関係定義の ACTION タグがありませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。これを行うには、再度エクスポートおよびインポートしてください。タグ言語ファイルが破壊されている場合は、ファイルを訂正してインポートを再実行してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13217E 無効なタグ名 “<tag-name>” が見つかりました。

説明: タグ言語ファイルに無効なタグがありました。

ユーザーの処置: 有効なタグのリストについては、*Information Catalog Manager Administration Guide* を調べてください。その後、正しいタグをタグ言語ファイルに挿入します。次に、再度エクスポートとインポートを試行して、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

**DWC13218E 構文エラー -- ACTION タグ。
:ACTION. は、OBJTYPE、
OBJINST、または RELATION キーワードのあとにすぐ置かれていなければなりません。**

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルには、無効なタグ言語が入っています。

OBJTYPE、OBJINST、RELATION のどれも備えていない :ACTION. タグが入っています。

ユーザーの処置: 適切な構文をタグ言語ファイルに追加してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13219E 内部エラーが起きました。

説明: インポートで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13220E 内部エラーが起きました。

説明: インポートで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13221E 構文エラー -- タグに無効な括弧のネストがあります。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルには、無効なタグ言語が入っています。

:INSTANCE タグに無効な括弧のネストがあります。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルの構文エラーを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。
2. タグ言語ファイルで、メタデータ内に () が使われていないことを確認してください。ファイルに () があれば、単一引用符で囲んでください。

DWC13222E 構文エラー -- キーワード値の右小括弧がありません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルには、無効なタグ言語が入っています。tag キーワードの右小括弧が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルの構文エラーを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13223E 内部エラーが起きました。

説明: 内部エラーがインポート・プログラムに導入されました。

ユーザーの処置: 他のエラーが報告されていないか調べてください。他に報告されたエラーがなければ、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13224E 関係定義の SOURCEKEY または TARGETKEY キーワードで参照されるデータウェアハウスセンターオブジェクトが存在しません。

説明: インポートで関係の処理をしている時に、関係定義の SOURCEKEY または TARGETKEY 値で参照されるデータウェアハウスセンターオブジェクトが、ターゲット・コントロール・データベースに定義されていませんでした。関係定義で参照されるオブジェクトは、関係定義がタグ言語ファイルに定義される前に定義されているか、あるいはオブジェクトがターゲット・データベースにすでに存在している必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルの構文を訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポ

ートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13226E 内部エラーが起きました。

説明: インポートではタグ・オブジェクト定義に対応するデータウェアハウスセンター オブジェクトを割り振れませんでした。

ユーザーの処置: システム (ページング・ファイル・サイズ) で使用できる仮想メモリーを増やしてください。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13227E データウェアハウスセンターでは SOURCTYPE “<source type-name>” と TARGETTYPE “<target-type-name>” とで関係を持たせることはできません。

説明: データウェアハウスセンターでは指定された SOURCTYPE のオブジェクトと指定された TARGETTYPE のオブジェクトとの間で関係を持たせることはできません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルのエラーを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13229E 内部エラーが起きました。

説明: 内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13230E 関係定義の SOURCEKEY または TARGETKEY キーワードで参照されるデータウェアハウスセンターオブジェクトが存在しません。

説明: インポートで関係を処理する前に、関係定義の SOURCEKEY または TARGETKEY 値で参照されるデータウェアハウスセンター オブジェクトがタグ言語ファイルに定義されていませんでした。オブジェクト・タイプは、それらを参照している関係がタグ言語ファイルに現れるよりも前にタグ言語ファイルに現れる必要があります。あるいは、オブジェクト・タイプはすでにターゲット・データベースに存在している必要があります。これらのオブジェクト・タイプは、通常はステップと関連しています。たとえばこれらのオブジェクト・タイプはステップ・マップまたはステップ別名である可能性があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13231E 内部エラーが起きました。

説明: 内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC13232E データベース・オブジェクトが表オブジェクト “<table-object-name>” にありません。

説明: 表オブジェクトが、対応するデータベース・オブジェクトがタグ言語ファイルで見つかるよりも前にタグ言語ファイルで見つかりました。データベースはターゲット・コントロール・データベースに定義されていません。表オブジェクト

が処理される時、表が定義される前にそのデータベースがタグ言語ファイルに定義されているか、あるいはすでにターゲット・データベースに存在している必要があります。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してインポートを再実行してください。その後、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認してください。確認を行うには、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13233E オブジェクトに必要な INSTANCE 短縮名が見つかりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルには、無効なタグ言語が入っています。オブジェクトで必要ないずれかの INSTANCE キーワードが見つかりません。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13234E タグ言語ファイルの最初の 5 行のうちいずれかは、プラットフォーム情報を持つ COMMENT タグにしなければなりません。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルが無効です。タグ言語ファイルの最初の 5 行のうちいずれかは、次のようにしなければなりません。:COMMENT.SYSTEM(WindowsNT) または :COMMENT.SYSTEM(OS/2)。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊され

ていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13235E IWHPROGF、IWHAGGRF、または IWHTRIGF オブジェクトの PGMTYPE キーワードの値が無効です。

説明: インポートしようとしたタグ言語ファイルが無効です。IWHPROGF、IWHAGGRF、または IWHTRIGF オブジェクトの PGMTYPE キーワードの値が有効なプログラム・タイプではありません。以下のいずれかの数、または同等のキーワードでなければなりません。0 = 動的ロード・ライブラリー、1 = コマンド・プログラム、2 = 実行可能、4 = DB2 ストアード・プロシージャ

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再実行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13236E 関連するオブジェクトがないため、オブジェクト “<object-name>” を作成できません。

説明: オブジェクトは、その関連するオブジェクトが見つからないので作成できません。現在、関連するオブジェクトは以下に相当します。

- IWHPROGF オブジェクトを必要とする IWHAGGRF および IWHTRIGF オブジェクト
- IWHKEY オブジェクトを必要とする IWHFKEY オブジェクト
- COLUMN オブジェクトを必要とする IWHKMAP オブジェクト

ユーザーの処置: タグ言語ファイルを訂正してください。それから、タグ言語ファイルが破壊されていないことを確認し、インポートを再実行してください (あるいはエクスポートとインポートを再試行してください)。それでもこのエラーを受信する場合は、弊社のソフトウェア・サポート (またはタグ言語ファイルを提供したベンダー) に連絡してください。

DWC13237E 開発状況ではないため、ステップ “<step-name>” を更新できません。

説明: データウェアハウスセンターはすでにターゲット・コントロール・データベースに定義されてはいても開発状況になっていないステップをインポートできませんでした。

ユーザーの処置: ステップを開発状況にデモートして、もう一度インポートしてください。ステップをデモートできない場合、ステップ・ノートブックを使用して、(インポートするよりは) 更新してください。

DWC13238W “<object-key>” によって識別されているタイプ “<object-type>” のオブジェクトが、タグ言語ファイルに 2 度定義されています。

説明: 1 つのオブジェクトが複数、同じタグ言語ファイルに定義されています。2 番目のインスタンスが保管されました。

ユーザーの処置: 重複するインスタンスがエラーまたは問題の原因となっている場合、オブジェクトの OBJINST タグのセットのいずれかをタグ言語ファイルから除去し、もう一度ファイルのインポートを試みてください。タグ言語ファイルがメタデータ・エクスポート・ユーティリティから作成されている場合、IBM ソフトウェア・サポート、またはそのタグ言語ファイルの提供元である販売店に連絡してください。

追加情報については、ログ・ファイルを調べてください。

DWC13239E タグ言語ファイルのオブジェクトまたは関係定義が処理されませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのオブジェクトまたは関係定義がタグ言語ファイル内に入っていることを確認してください。開始チェックポイント ID を指定した場合、そのチェックポイント ID の後か、または指定したものより大きい任意のチェックポイント ID の後に、少なくとも 1 つのオブジェクトまたは関係定義があることを確認してください。

DWC13300E ファイル “<filename>” のオープンまたは読み取りを行うことができません。

説明: ファイル “<filename>” のオープンまたは読み取りを行おうとしたときにエラーが起きました。

ユーザーの処置: 正しいファイル名およびパス名を使用してください。

DWC13301E “<filename>” を作成または書き込みできません。

説明: ファイル “<filename>” の作成または書き込みを行おうとしたときにエラーが起きました。

ユーザーの処置: 正しいファイル名およびパス名を使用してください。

DWC13302E トークン “<token-name>” の DB2 エクステンダー DAD ファイル “<filename>” に構文解析エラーがあります。理由コード: “<reason-code>”

説明: 以下の理由コードで示されているとおり、表定義用の DAD ファイル “<filename>” の構文解析中に、トークン “<token-name>” 内でエラーが起きました。

1. DAD ファイル内の XML 構文エラー。

2. 表タグに名前属性がありません。
3. 名前およびタイプに必要な値が列またはノードに入っていません。
4. DAD ファイル内に <DAD> エlementが見つかりません。
5. DAD ファイル内に Xcollection Elementが見つかりません。
6. 列タグの数が誤っています。“<RDB-node>”では 1 つしか列タグを使えません。
7. 表タグの数が誤っています。この“<RDB-node>”内に列タグがある場合、“<RDB-node>”内に 1 つの表がなければなりません。

ユーザーの処置: DAD ファイル内の構文エラーを訂正してください。

DWC13304E トークン “<token-name>” の近くの Trillium DDL ファイル “<filename>” に構文解析エラーがあります。理由コード: “<reason-code>”

説明: 以下の理由コードで示されているとおり、表定義用の Trillium DDL ファイル “<filename>” の構文解析中に、トークン “<token-name>” 近くでエラーが起きました。

1. フィールドの属性はすでに定義済みであるか、またはフィールドが定義されていません。
2. タイプおよび長さに関する情報がレコードには必要です。
3. タイプ、長さ、および開始に関する情報がフィールドには必要です。
4. 長さおよび開始には、数値が必要です。
5. 想定外のファイルの終わり。レコード用のフィールドが定義されていません。
6. どのファイルにもレコードは 1 つしか許可されません。

ユーザーの処置: DDL ファイル内の構文エラーを訂正してください。

DWC13600I エクスポート処理は完了していません。詳細はログ・ファイル “<log-file>” を参照してください。

説明: エクスポートが正常に完了しても、エラーを生じて、エクスポート・プロセスのすべての詳細を取り込むためのログ・ファイルがデータウェアハウスセンターで常に作成されます。

ユーザーの処置: ログ・ファイルを調べて、エクスポート・プロセスの結果を確かめてください。

DWC13601I コントロール・データベース “<control-database>” からメタデータが正常にエクスポートされました。

説明: これは、エラーを生じないでメタデータがエクスポートされたことを確認するための通知メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DWC13602E データウェアハウスセンターは、メタデータ “<metadata>” のエクスポート中にエラーを検出しました。

説明: エラーのため、データウェアハウスセンターは、選択されたメタデータをエクスポートできませんでした。

ユーザーの処置: エラーの詳細を見るには、ログ・ファイルを表示してください。エクスポートが正常に完了しても、エラーを生じて、エクスポート・プロセスの詳細を取り込むためのログ・ファイルがデータウェアハウスセンターで常に作成されます。エラーを訂正できない場合、弊社のソフトウェア・サポートに問い合わせてください。

DWC13603E エクスポート・ユーティリティが
ログ・ファイルをオープンできません
でした。

説明: データウェアハウスセンターは、エクスポート・プロセスの詳細をすべて取り込むために、常にログ・ファイルを作成しようとしています。このエラーは、データウェアハウスセンターがこのログ・ファイルにアクセスまたはオープンできないことを示しています。データウェアハウスセンターがログ・ファイルを作成できない場合、エクスポート・プロセスは継続できません。ログ・ファイルがオープンできない理由には、一般に次のようなものがあります。

- ファイル名が無効です。
- パス名が無効。
- ログ・パスへの書き込みアクセス権限がない。

ユーザーの処置: 指定のログ・パスの書き込みアクセス権限を持っているか、またシステムに十分なメモリーとストレージがあるかを確認してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13604E エクスポート・ユーティリティが、
フィードバック・ファイル
“<feedback-file>”を開くことが
できません。

説明: データウェアハウスセンターは、エクスポートされる XML ファイルと同じディレクトリー内にフィードバック・ファイルを作成しようとしています。このエラーは、データウェアハウスセンターがフィードバック・ファイルにアクセスまたはオープンできないことを示しています。データウェアハウスセンターがこのフィードバック・ファイルを作成できない場合、エクスポート・プロセスの結果を表示できないので、このプロセスを継続することはできません。

ユーザーの処置: 指定のパスの書き込みアクセス権限を持っているか、またシステムに十分なメモリーとストレージがあるかを確認してください。

問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13700E “<object2-type>” タイプのデータ
ウェアハウスセンター・オブジェクト
“<object2-name>” のインポート
に必要な “<object1-type>” タイ
プのデータウェアハウスセンター・
オブジェクト “<object1-name>”
が見つかりませんでした。

説明: これは、インポート・ユーティリティがデータウェアハウスセンターにすでに存在すべきオブジェクトを見つけられないときに起きる内部エラーです。必要なオブジェクトがインポート・プロセス中に作成されなかった場合、インポート・ユーティリティは継続できません。

ユーザーの処置: インポートしている XML ファイルが損傷を受けていないことを確認してください。これを行うには、オリジナルのソース・ファイルから XML ファイルを再生成し、もう一度インポートします。それでもエラー・メッセージが出される場合は、IBM ソフトウェア・サポートまたはファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13701E タイプ “<object2-type>” の共通
ウェアハウス・メタモデル・オブジ
ェクトが見つからなかったため、
“<object1-type>” タイプのデータ
ウェアハウスセンター・オブジ
ェクト “<object1-name>” をインポ
ートできません。

説明: このタイプのオブジェクトの作成は、データウェアハウスセンターが共通の必須ウェアハウス・メタモデル・オブジェクトを見つけるかどうかに依存します。この共通ウェアハウス・メタモデル・オブジェクトがないと、データウェアハウスセンター・オブジェクトは無効になります。このエラー・メッセージを受け取った場合は、インポートしている XML ファイルに必須の共通ウェアハウス・メタモデル・オブジェクトが入ってい

ないことが考えられます。

ユーザーの処置: インポートしている XML ファイルが損傷を受けていないことを確認してください。これを行うには、オリジナルのソース・ファイルから XML ファイルを再生成し、もう一度インポートします。それでもエラー・メッセージが出される場合は、IBM ソフトウェア・サポートまたはファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13702E 1 次キーがすでに存在し、更新できません。インポート・プロセスは継続できません。

説明: ウェアハウス・コントロール・データベースが 1 次キーを持っており、インポートしようとしているデータに同じ表の異なる 1 次キーが入っています。インポート・プロセスを完了するには、1 次キーを 1 つだけにするか、または 2 つの 1 次キーが一致している必要があります。2 つの異なる 1 次キーを持つことはできません。

ユーザーの処置: 一致しない 1 次キーを解決するには、以下のいずれかの処置を行ってください。

- ウェアハウス・コントロール・データベースの 1 次キーを、インポートしたいデータにある 1 次キーに一致するように変更します。
- インポートしたいデータから 1 次キーを削除し、ウェアハウス・コントロール・データベースにある 1 次キーを使用します。
- インポートしたいデータの 1 次キーを、ウェアハウス・コントロール・データベースにある 1 次キーに一致するように変更します。

DWC13703E 外部キーがすでに存在し、更新できません。インポート・プロセスは継続できません。

説明: ウェアハウス・コントロール・データベースが外部キーを持っており、インポートしようとしているデータに同じ表の異なる外部キーが入っています。インポート・プロセスを完了するに

は、外部キーを 1 つだけにするか、または 2 つの外部キーが一致している必要があります。2 つの異なる外部キーを持つことはできません。

ユーザーの処置: 一致しない外部キーを解決するには、以下のいずれかの処置を行ってください。

- ウェアハウス・コントロール・データベースの外部キーを、インポートしたいデータにある外部キーに一致するように変更します。
- インポートしたいデータから外部キーを削除し、ウェアハウス・コントロール・データベースにある外部キーを使用します。
- インポートしたいデータの外部キーを、ウェアハウス・コントロール・データベースにある外部キーに一致するように変更します。

DWC13704E インポート・ユーティリティーは、“<object1-name>” という名前のデータウェアハウスセンターのオブジェクト “<object1-type>” をインポートできませんでした。これは、UML オブジェクトのタイプ “<object3-type>” に対して指定された TaggedValue オブジェクト “<object2-type>” の値が無効であるために起こります。

説明: これは、順当な範囲の外にある値を TaggedValue オブジェクト内でデータウェアハウスセンターが見つけたときに起きる内部エラーです。たとえば、数値ではなくテキスト値がファイルに入っていたり、数値が誤っていたりする場合があります。

ユーザーの処置: 弊社のソフトウェア・サポートに連絡するか、またはファイルの供給元のベンダーに問い合わせてください。

DWC13705E インポート・ユーティリティーが EXCHANGE ディレクトリーに一時 XML ファイルを作成できませんでした。例外 = “<exception-code>”

説明: データウェアハウスセンターは、CWM.DTD ファイルと同じディレクトリーに XML ファイルのコピーを作成できることが必要です。このエラー・メッセージは、データウェアハウスがその XML ファイルを作成できないことを示しています。データウェアハウスセンターがこのファイルを作成できない場合、インポート・プロセスは継続できません。

ユーザーの処置: 指定の EXCHANGE パスの書き込みアクセス権限を持っているか、またシステムに十分なメモリーとストレージがあるかを確認してください。問題を解決できない場合は、エラー・メッセージの例外コードを書きとめて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13706E XML ファイル “<XML-file>” をロードできません。例外 = “<exception-code>”

説明: これは、データウェアハウスセンターがインポート・プロセス中に XML ファイルを読み取れないときに起きる内部エラーです。これは一般に、損傷しているファイル、または XML データを持っていないファイルが原因と考えられます。データウェアハウスセンターが XML ファイルを読み取れない場合、インポート・プロセスは継続できません。

ユーザーの処置: インポートしている XML ファイルが損傷を受けていないことを確認してください。これを行うには、オリジナルのソース・ファイルから XML ファイルを再生成し、もう一度インポートします。それでもエラー・メッセージが出される場合は、IBM ソフトウェア・サポートまたはファイルを提供したベンダーに連絡してください。

DWC13707E インポート・ユーティリティーがログ・ファイルをオープンできませんでした。

説明: データウェアハウスセンターは、インポート・プロセスの詳細をすべて取り込むために、常にログ・ファイルを作成しようとします。このエラーは、データウェアハウスセンターがログ・ファイルにアクセスまたはオープンできないことを示しています。データウェアハウスセンターがログ・ファイルを作成できない場合、インポート・プロセスは継続できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルがインポートでオープンできない理由には、一般に次のようなものがあります。

- ファイル名が無効です。
- パス名が無効。
- ログ・パスへの書き込みアクセス権限がない。

このような問題が存在するかどうかを調べ、問題が存在する場合は必要な変更を行うか、または IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DWC13708E インポート・ユーティリティーが、フィードバック・ファイル “<feedback-file>” を開くことができません。

説明: データウェアハウスセンターは、インポートされる XML ファイルと同じディレクトリー内にフィードバック・ファイルを作成しようとしています。このエラーは、データウェアハウスセンターがフィードバック・ファイルにアクセスまたはオープンできないことを示しています。データウェアハウスセンターがこのフィードバック・ファイルを作成できない場合、インポート・プロセスの結果は表示されません。

ユーザーの処置: 指定のパスの書き込みアクセス権限を持っているか、またシステムに十分なメモリーとストレージがあるかを確認してください。問題が解決されない場合は、弊社のソフトウェア

ア・サポートに連絡してください。

DWC14001E “<database-name>”: データベースが見つかりません。

説明: トランスフォーマーで内部エラーが発生しました。変換可能データベースがリソース・プロパティー・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: データベースが正常に実行していることを確認してください。トランスフォーマーを実行中のプロセスに表を作成する権限があることを確認してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14002E ログ表アクセス・エラーです。

説明: トランスフォーマーがトランスフォーマー・エラー・ログ表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: データベースが正常に実行していることを確認してください。トランスフォーマーを実行中のプロセスに表を作成する権限があることを確認してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14003E ログ表定義エラーです。

説明: トランスフォーマー・エラー・ログ表の構造が、エラー・ログ関数で必要な構造と一致していません。トランスフォーマー・コードが更新されている場合は、必要なエラー・ログ表構造が変更されている可能性があります。

ユーザーの処置: トランスフォーマー・エラー・ログ表をドロップしてください。次にトランスフォーマーを実行するときにトランスフォーマーによって再作成されます。

DWC14005E 実行 ID “<value>” が無効です。整数である必要があります。

説明: 指定された実行 ID 値が無効です。整数である必要があります。実行 ID はトランスフォーマーによってログ表で使用され、トランスフォー

マーが呼び出されるときにプロセスを一意的に識別します。

ユーザーの処置: 実行 ID を整数に変更してください。

DWC14006E 必須パラメーターが指定されていません: “<parameter-name>”

説明: 必須パラメーターをトランスフォーマーに提供しませんでした。

ユーザーの処置: 欠落しているパラメーターを入力し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14007E 指定された列タイプとして、列 “<column-name>” のデータ・タイプは無効です。

説明: 列のデータ・タイプが、指定した期間の必須データ・タイプに一致しません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの処置を実行してください。

- 指定した期間のデータ・タイプに一致するデータ・タイプの列を選択してください。
- 期間を、選択した列に一致するデータ・タイプを持つ期間に変更してください。

DWC14008E 指定された実行ログにアクセスできません: “<table-name>”

説明: トランスフォーマーがトランスフォーマー・エラー・ログ表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: データベースが正常に実行していることを確認してください。トランスフォーマーを実行中のプロセスに表を作成する権限があることを確認してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14009E “<column-name>” 列のデータ・タイプが無効です。“<data-type>” でなければなりません。

説明: 選択された列のデータ・タイプが誤っています。

ユーザーの処置: 列のデータ・タイプを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14010E パラメーター “<name>” および “<name>” を同時に指定することはできません。

説明: 一緒に使用できない 2 つのフィールドに対して情報を指定しました。

ユーザーの処置: いずれかのフィールドをクリアしてください。

DWC14011E パラメーター “<name>” および “<name>” のうち 1 つだけを指定しなければなりません。

説明: 一緒に使用できない 2 つのフィールドに対して情報を指定しました。

ユーザーの処置: フィールドの 1 つ (1 つのみ) に情報を指定していることを確認してください。

DWC14012E 指定された列 “<column-name>” が表 “<table-name>” に見つかりません。

説明: 指定された列が選択した表で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定された列が選択した表に定義されていること、あるいは適切な表が使用されていることをチェックしてください。

DWC14013E メソッド “<class-name>”.“<method-name>” で、統計値を計算することができません。エラー・タイプ: “<error>”。

説明: 統計方式は統計値の計算を完了することができませんでした。以下のいずれかが原因だと思われる。

- 統計ルーチンに渡された入力値が小さ過ぎるかまたは大き過ぎました。
- 計算を実行中にルーチンが NaN (非数値) または無限大を検出しました。

ユーザーの処置: 入力データを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14016E 入力表の列タイプは、共通プロモート可能データ・タイプでなければなりません。

説明: 指定された入力表の列は、同種であるか、あるいは自動プロモーションによって相互関連するタイプでなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの処置を実行してください。

- データ・ピボット・トランスフォーマーを使用するステップを定義している場合、ピボット・グループが自動プロモーションによって相互関連していることを確認してください。
- データ逆転トランスフォーマーを使用するステップを定義している場合、ソース表の列がデータ・タイプ・プロモーションによって相互関連していることを (最初の列が出力列名として使用される場合を除く) 確認してください。

関連データ・タイプのグループを理解するには、*SQL 解説書* でデータ・タイプのプロモーションについて参照してください。

DWC14017E 無効なパラメーター:
“<parameter-name>”

説明: トランスフォーマーに渡されたパラメーターが無効です。

ユーザーの処置: トランスフォーマーのドキュメンテーションで、パラメーターで許可されているデータ形式を見つけてください。それからパラメーターを修正してください。

DWC14018E 表 “<table-name>” 用の 1 次キーが見つかりません。

説明: 指定された表に定義された 1 次キーがありません。1 次キーが表の更新には必要です。

ユーザーの処置: 指定された表に 1 次キーを定義してください。

DWC14019E “<parameter-name>” パラメーターの値 “<value>” が無効です。

説明: フィールドに指定された値が無効です。

ユーザーの処置: トランスフォーマーのドキュメンテーションをチェックして、フィールドで許可されているデータ形式を調べてください。

DWC14025E 表 “<table-name>” には、更新のために使用するキー列がありません。

説明: トランスフォーマーで表を更新するには、表に 1 次キー列が定義されている必要があります。

ユーザーの処置: 表で 1 次キーを定義し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14026E 表 “<table-name>” にアクセスできませんでした。

説明: トランスフォーマーが指定された表にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 指定された表が存在していることを検査してください。

DWC14027E 表 “<table-name>” に行がありません。

説明: 指定された表が空です。表に行が定義されていません。

ユーザーの処置: 正しい表が指定されていることを検査してください。

DWC14028E 統計関数から NaN または無限大が返されました。

説明: 統計方式は統計値の計算を完了することができませんでした。非数値 (NaN) あるいは無限大が計算から返されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

DWC14029E いずれかが指定されている場合、パラメーター “<name>” および “<name>” の両方を指定しなければなりません。

説明: 片方のフィールドを使用せずにもう片方のフィールドを使用することはできません。

ユーザーの処置: これらのフィールドの両方に情報を提供してください。

DWC14100E “<value>” サブパラメーターが “<parameter-name>” パラメーターに指定されませんでした。

説明: 必須の 2 次情報を指定せずにフィールドに情報を提供しました。

ユーザーの処置: 正しい 2 次情報を指定し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14101E “<column-name>” 列のデータ・タイプは **DATE**、**TIMESTAMP**、または **TIME** でなければなりません。

説明: 誤ったデータ・タイプを持つ列を指定しました。データ・タイプは **DATE**、**TIMESTAMP**、または **TIME** でなければなりません。

ユーザーの処置: データ・タイプを **DATE**、**TIMESTAMP**、または **TIME** に訂正して、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14102E “<parameter-name>” パラメータの値が、“<parameter-name>” パラメータの前にあります。

説明: メッセージ内の最初のパラメータに指定された値は、メッセージ内の 2 つ目に指定された値よりも後にする必要があります。

ユーザーの処置: 最初のパラメータの値を (あるいは必要であれば 2 つ目のパラメータを) 訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14103E 無効な “<value>” サブパラメータが列 “<column-name>” に指定されました。

説明: 列に無効なサブパラメータを指定しました。

ユーザーの処置: サブパラメータに有効な値を指定し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14104E 指定された **Date** または **Time** 値 “<value>” は **ISO** 形式ではないか、または無効な値です。

説明: 互換性のない **Date** または **Time** 値を指定しました。

ユーザーの処置: データ・タイプを **Date**、**TimeStamp**、または **Time** に訂正し、トランスフ

ォーマーを再実行してください。

DWC14200E 分散分析は、3 つまでのグループ化列をサポートします。

説明: 分散分析は、3 つまでのグループ化列をサポートしています。グループ化列の数値は実行される分散分析計算のタイプを決定します。1 つ、2 つ、3 つのグループ化列はそれぞれ 1 元、2 元、3 元分散分析となります。

ユーザーの処置: グループ化列の数値を適切に変更してください。

DWC14201E 分散分析グループ化列はデータ列と同じです。

説明: 分散分析グループ化列はデータ列と同じです。

ユーザーの処置: データ列として使用したい列をグループ化列から除去してください。

DWC14202E 分散分析セル・カウントが 2 より小さくなっています。

説明: 2 元または 3 元分散分析では、複数次元セル・カウント (サブグループ内のデータ項目の数) は 2 以上です。

ユーザーの処置: 入力データ表をチェックして、入力データがこの要件に従っていることを確認してください。

DWC14203E 分散分析セル・カウントが、すべてのセルと同じではありません。

説明: 2 元または 3 元分散分析では、複数次元セル・カウント (サブグループ内のデータ項目の数) はすべてのセルと同等である必要があります。

ユーザーの処置: 入力データ表をチェックして、入力データがこの要件に従っていることを確認してください。

DWC14204E 照会が、
“<grouping-column-name>” につ
いて無効な行数を返しました。

説明: 照会中に、指定されたグループ化列に対し
て無効な行数が返されました。期待されていた行
数は、もっと前の照会から判別されました。

ユーザーの処置: 機能を再実行してください。入
力表が別のプロセスで同時に更新されていないこ
とを確認してください。

DWC14255E 表をクロス集計表に変換できませ
ん。

説明: カイ二乗トランスフォーマーの入力表をク
ロス集計表に変換できません。2つのグループ
化列が入力されました。概して、カイ二乗はこれ
らの2つの列のデータを使用して、観測度数列
データによるクロス集計表の行と列を形成しま
す。

ユーザーの処置: クロス集計表を作成するのに使
用できるデータが入力表のグループ化列に入っ
ているかどうかを調べてください。

DWC14256E 2つのグループ化列なしで期待値を
計算できません。

説明: 期待値を計算するのに2つのグループ化
列が必要です。

ユーザーの処置: グループ化列に追加の列を選択
するか、あるいは期待度数列として使用する列を
指定してください。

DWC14257E 期待度数列が指定されている場合、
期待値を計算することはできません。

説明: 期待度数列名と期待値出力表名を入力しま
した。どちらか片方のみ指定できます。

ユーザーの処置: 期待度数列名または期待値出力
表名のいずれかをステップから除去してくださ
い。

DWC14300E 規則定義 “<rule-name>” に入力
データ列が指定されていません。

説明: 定義した規則にソース・データ列を提供し
ませんでした。

ユーザーの処置: ソース表がデータウェアハウス
センターにインポートされていること、および規
則定義で使用されている列がすべて、インポート
された表に存在することを確認してください。

DWC14301E 同じ出力列 “<column-name>” を
指定している複数の行が、異なる入
力列を持っています。

説明: 同じターゲット列に書き込む複数の規則を
定義しました。

ユーザーの処置: データ整理トランスフォーマー
規則定義を変更して、ターゲット表の各列がソー
ス表の1つの列とのみ関連するようにしてくだ
さい。

DWC14302E 入力列 “<column-name>” および
出力列 “<column-name>” のデー
タ・タイプが一致しません。

説明: 規則に定義したソースおよびターゲット表
の名前列に異なるデータ・タイプを持つ列があり
ます。

ユーザーの処置: ソースおよびターゲット表の名
前列が同じタイプであることを確認してくださ
い。

DWC14303E 規則定義 “<rule-definition>” にお
いて、表 “<table-name>” に規則
タイプが指定されていません。

説明: 整理トランスフォーマーに整理タイプを指
定しませんでした。

ユーザーの処置: データウェアハウスセンター整
理データ・トランスフォーマー・ウィンドウの項
目ごとに整理タイプが選択されていることを確認
してください。

DWC14304E 規則定義 “<rule-name>” において、規則タイプ “<rule-type>” に表が指定されていません。

説明: 規則表が規則定義に指定されていません。

ユーザーの処置: 「検出および置換」、「クリップ」、「離散化」規則すべてが、存在し、データウェアハウスセンターに認識されている規則表を持っていることを確認してください。

DWC14305E 規則定義 “<rule-name>” において、表 “<table-name>” に列が指定されていません。

説明: 列が規則定義に指定されていません。

ユーザーの処置: 「検出および置換」、「クリップ」、「離散化」規則それぞれに、選択された規則に該当する列を持つ表があることをチェックしてください。

DWC14306E 規則定義 “<rule-name>” において、指定された列 “<column-names>” に表が指定されていません。

説明: 規則表が規則定義に指定されていません。

ユーザーの処置: 「検出および置換」、「クリップ」、「離散化」規則それぞれに、選択された規則に該当する列を持つ表があることをチェックしてください。

DWC14307E 規則定義 “<rule-name>” において、規則タイプ “<rule-type>” には “<count>” の列名が必要です。

説明: 定義している規則に対して選択された正しい列数を持たない規則表を選択しました。

ユーザーの処置: 規則定義に対して正しい列数を選択してください。

検出および置換規則には 2 または 3 列、列ごとに順序となるエクストラ列が必要です。(セクション「トランスフォーマーの使用法」にある「デ

ータウェアハウスセンターの管理」を参照してください。)

離散化規則では、3 または 4 列と、規則が規則表から取り出される順序を指定するエクストラ列が必要です。クリップ規則では、前述の 2 つの規則と同様の理由で余分なオプション列が指定されている 4 または 5 列を必要とします。

DWC14308E 規則定義 “<rule-name>” において、入力および出力列のデータ・タイプが規則表のデータ・タイプに一致しません。

説明: 規則定義で、指定したソースとデータ・タイプとは異なるデータ・タイプを持つ規則表を指定しました。

ユーザーの処置: (順序列以外の) 規則表の名前付き列が、ソースとターゲット表の名前付き列と同じデータ・タイプであることをチェックしてください。

DWC14309E 規則定義 “<rule-name>” において、行整理パラメーター “<name>” が無効です。これは、“0” あるいは “1” のどちらかである必要があります。

説明: 規則定義の行整理パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: このパラメーター用の “0” または “1” が SQL スtringに入っていることを確認してください。デフォルトは “0” です。

DWC14310E 規則定義 “<rule-name>” において、空白標識パラメーター “<name>” が無効です。これは、“0” あるいは “1” のどちらかである必要があります。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの空白フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: このパラメーター用の "0" または "1" が SQL スtringに入っていることを確認してください。何も入力しないと、デフォルトは "0" です。

DWC14311E 規則定義 "<rule-name>" において、大文字小文字区別パラメーター "<name>" が無効です。これは、"0" あるいは "1" のどちらかである必要があります。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの大文字小文字区別フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: このパラメーター用の "0" または "1" が SQL スtringに入っていることを確認してください。何も入力しないと、デフォルトは "1" です。

DWC14312E 規則定義 "<rule-name>" において、圧縮空白パラメーター "<name>" が無効です。これは、"0" あるいは "1" のどちらかである必要があります。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの圧縮空白フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: このパラメーター用の "0" または "1" が SQL スtringに入っていることを確認してください。何も入力しないと、デフォルトは "0" です。

DWC14313E 規則定期 "<rule-name>" において、数値許容度は正の整数または 10 進数でなければなりません。

説明: 整理トランスフォーマー - 数値パラメーター・ウィンドウの数値許容度フィールドに、無効な数値を入力しました。

ユーザーの処置: このパラメーターに入力された

値が基底 10 数値で、ゼロ以上であることをチェックしてください。

DWC14350E 出力表 "<table-name>" は入力表と同じです。

説明: 入出力用に同じ表を使用して、統計または相関トランスフォーマーを実行しました。これらのトランスフォーマーでは、入力表は出力表と同じである必要があります。トランスフォーマーは入力表からデータを読み取り、結果を出力表に書き込みます。

ユーザーの処置: 入力データの入った表の名前と、結果が書き込まれる別の表の名前を指定して、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14351E 予期しない "<parameter-name>" パラメーターの終わりに達しました。

説明: トランスフォーマー・ストアード・プロシージャのパラメーターの構文解析が完了しませんでした。パラメーターの終わりが予期したよりも早く検出されました。このエラーは、いくつかの理由のために発生した可能性があります。たとえば:

- 左括弧に合う右括弧がないか、あるいはパラメーター・Stringに無関係なコンマが入っている
- 統計 ID が欠落している

ユーザーの処置: エラーのあるパラメーターの正しい構文を検討し、パラメーターを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14352E 入力列 "<column-name>" のデータ・タイプ "<data-type>" は、統計 "<statistic-name>" には無効です。

説明: 統計計算は特定のデータ・タイプでのみ実行できます。サポートされないデータ・タイプの列が統計計算の入力列として指定されました。

ユーザーの処置: エラーのある統計の有効な入力データ・タイプを検査し、有効なデータ・タイプを持つ入力列の名前を指定し、計算を再実行してください。

DWC14353E 出力列 “<column-name>” のデータ・タイプ “<data-type>” は、統計 “<statistic-name>” および入力列 “<column-name>” には無効です。

説明: 統計計算に指定された出力列のデータ・タイプが無効です。統計計算からの出力は特定のデータ・タイプのみです。有効なデータ・タイプは統計によって異なります。統計の中には、有効なデータ・タイプが入力列のデータ・タイプによって異なるものもあります。無効なデータ・タイプの列が統計計算の出力列として指定されたので、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーのある統計の有効な出力データ・タイプを検査し、有効なデータ・タイプを持つ出力列の名前を指定し、計算を再実行してください。

DWC14354E 出力列 “<column-name>” が、統計 “<name>” および統計 “<name>” に指定されています。

説明: 2 つの統計計算で、同じ出力列を指定しました。出力列は 1 つの統計計算にのみ使用できます。

ユーザーの処置: 1 つの統計計算の結果に使用できる列の名前と、もう 1 つの統計計算の結果に使用できる別の列の名前を指定して、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14355E 統計 ID “<number>” はサポートされていません。

説明: 統計計算および相関トランスフォーマーのデータウェアハウスセンター ステップには、統計ごとの名前だけを指定できます。統計計算または相関トランスフォーマーによって計算される各

統計には、固有の数値 ID が割り当てられます。

ユーザーの処置: IBM カスタマー・サポートへ連絡してください。

DWC14356E グループ化列 “<column-name>” は入力列と同じです。

説明: グループ化列フィールドの列を、統計計算または相関トランスフォーマーの統計定義の入力データ列として指定しました。

ユーザーの処置: 入力データの入った列の名前と、別の列の名前、または計算統計の結果をグループ化するのに使用できる列を指定してください。それから、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14357E グループ化列 “<column-name>” が 2 つ指定されています。

説明: グループ化列パラメーターから重複している列名を除去し、トランスフォーマーを再実行してください。

ユーザーの処置: グループ化列パラメーターから重複している列名を除去し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14358E グループ化列 “<column-name>” は出力列と同じです。

説明: 列がグループ化列パラメーターでグループ化列として、また統計計算または相関トランスフォーマーの統計定義パラメーターで出力データ列として指定されました。

ユーザーの処置: 統計計算または相関トランスフォーマーの出力データ列統計定義フィールドとして指定したグループ化列フィールドに、同じ列を指定しました。

DWC14400E 相関計算の結果が NULL 値になりました。

説明: 相関計算の結果を数値で表すことができず、結果が出力表で NULL として表されました。この NULL 結果は、以下のいずれかの条件によって発生した可能性があります。

- 相関統計計算の入力値を 1 つのみ指定しました。たとえば、入力表が 1 行のデータのみを備えているか、あるいは 1 つまたは複数のグループ化列が指定されて、1 つまたは複数のグループが 1 行のデータのみを備えている可能性があります。
- 継続する小数部の計算中に反復の最大数に達したため、P 値を計算できませんでした。
- 相関統計計算の結果は負か正の無限大です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの処置を実行してください。

- 入力表に少なくとも 2 行のデータがあることを確認してください。変更を行った後、相関トランスフォーマーを再実行してください。
- 相関トランスフォーマー・パラメーター・リストに 1 つまたは複数のグループ化列が指定されている場合、各グループに少なくとも 2 行の入力データがあることを確認して、NULL 結果を避けられる可能性があります。

DWC14401E 出力列 “<column-name>” のデータ・タイプは “<type>” ですが、この列では “<type>” でなければなりません。

説明: 相関トランスフォーマーは、入力データの入った 2 つの列の名前を出力表の最初の 2 つの列に書き込みます。出力表の最初の 2 つの列の 1 つが無効なデータ・タイプです。

ユーザーの処置: 出力表の列のデータ・タイプを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14402E 出力列 “<column-name>” のデータ・タイプは “<type>” で、出力列 “<column-name>” のデータ・タイプは “<type>” ですが、これらの列では “<type>” でなければなりません。

説明: 相関トランスフォーマーは、入力データの入った 2 つの列の名前を出力表の最初の 2 つの列に書き込みます。出力表の最初の 2 つの列の両方が無効なデータ・タイプです。

ユーザーの処置: 出力表の 2 つの列のそれぞれのデータ・タイプを訂正し、トランスフォーマーを再実行してください。

DWC14500E 逆転する行 (“<count>”) が多すぎます。最大数は “<count>” です。

説明: データベースでサポートしている列の最大数よりも多くの行を持つ表を逆転しようとした。

ユーザーの処置: ソース表に、このトランスフォーマーを実行中の DB2 のバージョンでサポートされている表列の最大数以下の行数があることを検査してください。

DWC14600E 移動平均タイプが無効です。

説明: 要求された移動平均タイプが無効です。以下の関数タイプがサポートされています。

- 標準移動平均
- 指数平滑化移動平均
- 縦視野移動合計

ユーザーの処置: 移動平均タイプをサポートされている 3 つのタイプの 1 つに変更してください。

DWC14601E 移動平均期間は 1 より大きくなければなりません。

説明: 移動平均または縦視野移動合計の計算に指定された期間が無効です。期間は 1 より大きい整数にしてください。

ユーザーの処置: 移動平均期間を 1 より大きい整数に変更してください。

DWC14602E 移動平均データ列が順序列と同じです。

説明: 選択された移動平均データ列の 1 つが順序列と同じです。

ユーザーの処置: 順序列と異なる移動平均用のデータ列を選択してください。

DWC14650E 持ち越し列はペアで指定しなければなりません。

説明: ソース列名とターゲット列名の両方が持ち越しパラメーターには必要です。

ユーザーの処置: ソース列名が存在し、指定されたターゲット列名がデータウェアハウスセンターの制限において有効であることを確認してください。

DWC14651E ピボット列数が無効です。

説明: ピボット・グループに異なる列数が入っています。各ピボット・グループには、同じ数の列が入っている必要があります。

ユーザーの処置: 列名が 1 つしか指定されているのでなければ、列名の数がピボットされる各グループの列数に一致することを検査してください。

DWC14652E 集約列数が無効です。

説明: ピボット列フィールドに列を指定しませんでした。

ユーザーの処置: ピボット列フィールドに列を指

定してください。列名の数が、提供されている各グループの列数と一致することを確認してください。

DWC14653E 集約グループの列数がピボット列数に一致しません。

説明: ピボット列フィールドに指定したデータ列数が、ユーザーのピボット・グループの列の合計数と等しくありません。

ユーザーの処置: ピボット列パラメーター (SQL) が、各グループがセミコロン ";" で区切られるという規則に従っていることを確認してください。グループ内の最初のパラメーターは出力列名です。グループ内の 2 番目から n 番目のパラメーターは入力表列の名前です。グループに 1 つの名前しかない特別な場合は、名前は集合入力列の出力列名で、入力列の数と名前は前もって分かりません。

DWC14654E 持ち越しパラメーターが表 "`<table-name>`" に見つかりません。

説明: 持ち越し列ペアで選択した列が存在しません。

ユーザーの処置: 持ち越し列ペアがゼロまたはそれ以上あり、名前付き列がソース表とターゲット表に存在することを検査してください。

DWC14700E 独立データ列が従属データ列と同じです。

説明: 回帰トランスフォームの予測子列に選択した列と同じ列を基準列の列に選択しました。基準列として選択した列を予測子列に選択した列と同じにすることはできません。

ユーザーの処置: 予測子選択から基準列を除去し、回帰トランスフォームを再実行してください。

DWC14701E 独立データ列が重複しています。

説明: 列が予測子列として 2 度選択されています。

ユーザーの処置: 予測子列フィールドから選択を 1 つ除去してください。回帰トランスフォームを再実行してください。

DWC14702E 結果セットからのカウントと前の行数が同じではありません。

説明: 照会中に、無効な行数が返されました。期待されていた行数は、もっと前の照会から判別されました。

ユーザーの処置: トランスフォーマーを再実行してください。入力表が別のプロセスで同時に更新されていないことを確認してください。

DWC14750E 小計グループ化列が日付列と同じです。

説明: 選択された小計グループ化列の 1 つが日付列と同じです。

ユーザーの処置: グループ化列を変更し、日付列が入らないようにしてください。

DWC14751E 小計データ列が日付列と同じです。

説明: 小計データ列が日付列と同じです。

ユーザーの処置: データ列を変更し、日付列が入らないようにしてください。

DWC14752E 小計データ列がグループ化列と同じです。

説明: 小計データ列がグループ化列と同じです。

ユーザーの処置: データ列を変更し、グループ化列が入らないようにしてください。

DWC14753E 小計期間が無効です。

説明: 要求された小計期間が無効です。5 つの期間タイプがサポートされています。

- 週
- 半月
- 月
- 四半期
- 年

ユーザーの処置: 小計期間タイプをサポートされているタイプの 1 つに変更してください。

第9章 FLG メッセージ

以下は、情報カタログ・マネージャーによって発行されるメッセージのリストです。推奨されるユーザー処置とエラーに対する応答とともに、状況の簡単な説明が示されています。

情報カタログ・マネージャー理由コード

理由コード 0 FLG_OK

説明: 正常に完了しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1 FLG_WRN

説明: プレースホルダー。警告の数値的範囲の先頭を示します。

有効な拡張コード: なし

理由コード 201 FLG_WRN_DISCONNECTED

説明: データベースが切断されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 202 FLG_WRN_DBM_ALREADY_STARTED

説明: データベース・マネージャーは情報カタログ初期化の前にすでに開始されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 203 FLG_WRN_DB_RESTART

説明: データベース・マネージャーは情報カタログ初期化の前に再始動する必要があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 204 FLG_WRN_DB_ACTIVE

説明: 指定されたデータベース・マネージャーは情報カタログ初期化の前にすでに活動状態になっていました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1001 FLG_WRN_INST_NOTFOUND

説明: オブジェクト・インスタンス (FLGListOrphans、FLGFoundIn、FLGListAssociates、および FLGExport も使用) が見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1002 FLG_WRN_CONTAINER_NOTFOUND

説明: 指定されたオブジェクト・インスタンスのコンテナが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1003 FLG_WRN_CONTAINEE_NOTFOUND

説明: 指定されたオブジェクト・インスタンスに含まれるオブジェクトが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1004 FLG_WRN_CONTACT_
NOTFOUND

説明: 指定されたオブジェクト・インスタンスの
コンタクトが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1005 FLG_WRN_PROGRAM_
NOTFOUND

説明: このオブジェクト・タイプに関連付けられ
たプログラムが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1006 FLG_WRN_ANCHOR_
NOTFOUND

説明: 情報カタログで定義されたアンカー (サブ
ジェクト) が見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1007 FLG_WRN_PROGRAM_
CHANGED

説明: オブジェクト・タイプが削除されたとき
に、関連するプログラム・インスタンスが変更さ
れました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1008
FLG_WRN_NO_INPARM_ICON_
FILE

説明: FLGGetReg API 呼び出しに検索されるア
イコン・ファイルの名前を受け取るためのポイン
ターが指定されていません。情報カタログ・マネ
ージャーはアイコンを返しませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1009 FLG_WRN_NO_ICON

説明: オブジェクト・タイプに関連付けられたア
イコンがありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1010
FLG_WRN_ID_LIMIT_REACHED

説明: オブジェクト・タイプの最大数に達しまし
た。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1011 FLG_WRN_OBJECT_NOT_
CHANGED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード 1012 FLG_WRN_EXCEED_MAX_
ANCHORNUM

説明: 情報カタログで定義されたすべてのアンカ
ー (サブジェクト) を返すことができません。

有効な拡張コード: 実際のアンカー数

理由コード 1013
FLG_WRN_ICON_REPLACED

説明: アイコン・ファイルがすでに指定された
ICOPATH に存在します。アイコン・ファイルは
置換されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1014 FLG_WRN_PROPDUP

説明: 付加するプロパティがすでに存在しま
す。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1015 FLG_WRN_EXCEED_MAX_ORPHANNUM

説明: オーフアンの最大数を超過しています。

有効な拡張コード: 実際のオーファン数

理由コード 1016 FLG_WRN_DB_ICON_REPLACED

説明: オブジェクト・タイプ・アイコンが情報カタログで置換されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1017 FLG_WRN_LINKOBJ_NOTFOUND

説明: 指定されたオブジェクト・インスタンスのリンク・オブジェクトが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1018 FLG_WRN_ATTACHOBJ_NOTFOUND

説明: 指定されたオブジェクト・インスタンスの接続オブジェクトが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 1019 FLG_WRN_MISSING_PROPS_IN_ISTRUCT

説明: 入力構造に含まれるプロパティーが、オブジェクト・タイプに定義されているよりも少なくなっています。欠落しているプロパティーはすべてオプションです。オブジェクト・インスタンスは作成または更新されます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2002 FLG_WRN_NO_DISKNTL_TAG_PRESENTED

説明: DISKCNTRL が取り外し可能装置上の入力タグ言語ファイルの最初のタグではありません。インポートは続行されますが、現行ディスクト上のタグ言語ファイルのみが処理されます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2003 FLG_WRN_NEED_NEW_TAGFILE_DISKETTE

説明: 次のディスクトを入れて、タグ言語ファイルのインポートを続行してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2004 FLG_WRN_ICONFILE_OPENERR

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード 2005 FLG_WRN_NOTHING_TO_IMPORT

説明: 最後のチェックポイントの後にタグ言語ファイルまたはタグ言語ファイルの一部にインポートするデータが見つかりません。ファイルまたはファイルの一部が空か、COMMENT または DISKCNTRL タグのみを含んでいます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2006 FLG_WRN_ICONFILE_RETRIEVE_ERROR

説明: パラメーター pszIconFileID で指定されたアイコン・ファイルの検索 (オープン、読み取り、クローズ) 中に、API FLGCreateReg または FLGUpdateReg がエラーを検出しました。拡張コードで返された理由コードはエラーが起きたことを示しています。 FLGCreateReg および

FLGUpdateReg は、他の登録処理をすべて正常に完了しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 2007 FLG_WRN_P_HANDLES_CLEARED

説明: FLGImport はプログラム・インスタンスの HANDLES プロパティ値をクリアしました。これは、この値がターゲットの情報カタログに存在しないオブジェクト・タイプを参照しているためです。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2501 FLG_WRN_CFLAG_IGNORED

説明: エクスポートされたオブジェクトが Grouping カテゴリに属していないため、そのオブジェクトの CONTAINEE-IND 値が無視されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2502 FLG_WRN_TFLAG_IGNORED

説明: エクスポートされたオブジェクトが Grouping または Elemental カテゴリに属していないため、そのオブジェクトの CONTACT-IND 値が無視されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2503 FLG_WRN_NO_ICOPATH

説明: アイコン・パスが指定されていません。アイコンはエクスポートされませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2504 FLG_WRN_GETREG_WARNING

説明: エクスポートで FLGGetReg からの警告を受け取りました。拡張コードに FLGGetReg から返された理由コードが入っています。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 2505 FLG_WRN_GETINST_WARNING

説明: エクスポートで FLGGetInst からの警告を受け取りました。拡張コードに FLGGetInst から返された理由コードが入っています。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 2506 FLG_WRN_LISTCONTACTS_WARNING

説明: エクスポートで FLGListContacts からの警告を受け取りました。拡張コードに FLGListContacts から返された理由コードが入っています。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 2507 FLG_WRN_NAVIGATE_WARNING

説明: エクスポートで FLGNavigate からの警告を受け取りました。拡張コードに FLGNavigate から返された理由コードが入っています。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 2508 FLG_WRN_AFLAG_IGNORED

説明: オブジェクトが Attachment カテゴリにあるか、関連する接続オブジェクトを持つことができないうために、エクスポートされたオブジェクトの ATTACHMENT-IND 値が無視されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2509

FLG_WRN_LFLAG_IGNORED

説明: エクスポートされたオブジェクトが Grouping または Elemental カテゴリに属していないため、そのオブジェクトの LINK-IND 値が無視されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2601 **FLG_WRN_NO_HISTORY**

説明: ヒストリー・バッファーにヒストリー項目がありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 2602

FLG_WRN_NO_TYPE_RELATE_TO_PROGRAM

説明: プログラム・インスタンスに関連するオブジェクト・タイプがありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 7500 **FLG_WRN_VIEW_NOT_SUPPORTED**

説明: ビュー "T" がツール・プロファイルで指定されていますが、この機能は情報カタログ・マネージャーでサポートされていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 7501 **FLG_WRN_LEVEL_NOT_SUPPORTED**

説明: レベル "T" がツール・プロファイルで指定されていますが、この機能は情報カタログ・マネージャーでサポートされていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 7505 **FLG_WRN_NO_BEGIN_DEFINITION_SECTION**

説明: BEGIN DEFINITION セクションがタグ言語ファイルにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 7510

FLG_WRN_VALUE_TRUNCATED

説明: 許容される最大の長さを超えているため、値が切り捨てられました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 7515

FLG_WRN_INV_TIMESTAMP_FORMAT

説明: 日付または時刻の値が正しい形式ではありません。

日付の形式: YYYY-MM-DD

時刻の形式: HH.MM.SS

最新表示日付の形式: YYYY-MM-DD-HH.MM.SS

有効な拡張コード: なし

理由コード 30000 **FLG_ERR**

説明: プレースホルダー。エラーの数値的範囲の先頭を示します。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30001

FLG_ERR_INVALID_NUM_STR

説明: 入力として情報カタログに渡された数値ストリングが無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30002

FLG_ERR_INVALID_NUMBER

説明: 入力として情報カタログに渡された整数値が大きすぎます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30003

FLG_ERR_BUFF_TOO_SMALL

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30004

FLG_ERR_MSGFILE_NOTFOUND

説明: 情報カタログ・マネージャー・メッセージ・ファイル (DG_{xy} MSG.MSG または DG_{xy} STR.MSG, *x* はプラットフォーム ID, *y* は各国語バージョン ID) が見つかりません。

このファイルは情報カタログ・マネージャー作業ディレクトリーになければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30005

FLG_ERR_MSGID_NOTFOUND

説明: メッセージ ID がメッセージ・ファイルに見つかりませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30006

FLG_ERR_CANT_ACCESS_MSGFILE

説明: 情報カタログ・マネージャー・メッセージ・ファイルをオープンできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30007

FLG_ERR_INVALID_MSGFILE_FORMAT

説明: メッセージ・ファイル (DG_{xy} MSG.MSG または DG_{xy} STR.MSG, *x* はプラットフォーム ID, *y* は各国語バージョン ID) が壊れているか、または無効です。

影響を受けるファイルを再インストールしてください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30008

FLG_ERR_MSGFILE_ERROR

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30009 **FLG_ERR_TRACE_FAIL**

説明: 情報カタログ・マネージャー・トレース機能でエラーが起きました。トレース・ファイルが壊れているか、不完全である可能性があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30010

FLG_ERR_INTERNAL_ERROR

説明: 情報カタログ・マネージャーが内部エラーを検出しました。

拡張コードで返された理由コードを調べて、問題を修正してください。問題が修正できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

有効な拡張コード: なし; 理由コード

理由コード 30011 **FLG_ERR_RESDLL_NOT_LOADED**

説明: 言語 DLL ファイルが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30012

FLG_ERR_DGPATH_NOT_FOUND

説明: 環境パス (DG2PATH) が CONFIG.SYS ファイルで設定されていませんでした。

環境パス (DGWPATH) がシステム・レジストリーまたは AUTOEXEC.BAT ファイルで設定されていませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30013

FLG_ERR_CP_LOAD_FAILED

説明: CONFIG.SYS ファイルで指定された 1 次または 2 次コード・ページが情報カタログ・マネージャーでサポートされていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30014

FLG_ERR_DBSEM_ERROR

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー (データベース・セマフォールを取得できません)。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30015

FLG_ERR_STRINGFILE_ERROR

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード 30016

FLG_ERR_MSG_TOO_LONG

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30017 **FLG_ERR_DG_DB_INUSE**

説明: ユーザーが同じ情報カタログへのログオンを 2 回試行しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30018

FLG_ERR_DGLANG_PATH_NOT_FOUND

説明: 情報カタログ・マネージャー言語固有ディレクトリー・パスが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30019 **FLG_ERR_INV_DG_CP**

説明: ワークステーションで指定されたコード・ページが情報カタログ・マネージャーでサポートされていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30020 **FLG_ERR_INV_DB_CP**

説明: ワークステーションで指定されたコード・ページがデータベースでサポートされていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 30021

FLG_ERR_VWSPATH_NOT_FOUND

説明: 環境パス (VWSPATH) がシステム・レジストリーまたは AUTOEXEC.BAT ファイルで設定されていませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31000 **FLG_ERR_DBERROR**

説明: 予期しないデータベース・エラーが起きました。SQLCODE の説明については、データベースの資料を参照してください。

有効な拡張コード: データベース SQLCODE

理由コード 31001 FLG_ERR_DBDISC_FAIL

説明: データベースからの切断中にエラーが起きました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31002 FLG_ERR_NODBACCESS

説明: 指定されたデータベースにアクセスできません。

管理者またはデータベース管理者に、必要なデータベース許可の取得を依頼してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31003 FLG_ERR_ID_LIMIT_EXCEEDED

説明: システム生成 ID (オブジェクト・タイプ ID またはインスタンス ID) が、データベースで許される ID の最大数を超過しています。

この制限はオブジェクト・インスタンス ID では 99999999、オブジェクト・タイプ ID では 999999 です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31004 FLG_ERR_PROP_LIMIT_EXCEEDED

説明: オブジェクト・タイプに許されるプロパティの最大数 (255) を超過しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31005 FLG_ERR_LONG_VARCHAR_LIMIT_EXCEEDED

説明: オブジェクト・タイプに許される LONG VARCHAR プロパティの最大数 (14) を超過しました。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 31006

FLG_ERR_PTNAME_EXCEEDS_ENVSIZE

説明: オブジェクト・タイプの物理タイプ名が許される長さを超えています。この最大長は、使用しているデータベースによって異なります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31007

FLG_ERR_DBNAME_NOT_FOUND

説明: データベースが見つかりません。データベースがローカルの場合、データベース名が見つかりませんでした。データベースがリモートの場合、データベース名がローカル・データベース・ディレクトリーで定義されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31008

FLG_ERR_SRH_CRITERIA_TOOLONG

説明: 検索基準の全長が長すぎます。指定されたすべての検索基準の合計長の最大は 32,700 バイトで、これは検索基準にあるプロパティの数によって異なります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31009

FLG_ERR_DB_TRANSLOG_FULL

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいです。

FLGCommit または FLGRollback をすぐに発行してください。データベース・ログ・サイズを増やして、変更のコミットが必要になるまでに可能な変更の数を増加してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31010 FLG_ERR_INVALID_
AUTHENTICATION

説明: データベースが正しくない認証オプションでカタログ化されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31011 FLG_ERR_CHARCONV_
WINTODBM

説明: Windows コード・ページからデータベース・コード・ページに文字を変換中にエラーが起きました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31012 FLG_ERR_DB_TIMEOUT

説明: データベース・サーバーが使用中か、またはロックされています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31013
FLG_ERR_NOT_SUPPORTED_
BY_DB

説明: この機能はデータベース・サーバーでサポートされていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 31014
FLG_ERR_DB_ICON_EXIST

説明: FLG_ACTION_CREATE に設定された InOptions パラメーターを指定して FLGManageIcons が呼び出されましたが、pszIconFileID で指定されたアイコンがすでにデータベースに存在します。

別のアイコン・ファイルを指定するか、または FLG_ACTION_UPDATE を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32000
FLG_ERR_REG_NOTEXIST

説明: 指定されたオブジェクト・タイプに登録情報が存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32001
FLG_ERR_TYPEID_NOTEXIST

説明: 指定されたオブジェクト・タイプに登録情報が存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32002 FLG_ERR_SRCTYPEID_
NOTEXIST

説明: 指定されたソース・オブジェクト・タイプが存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32003 FLG_ERR_TRGTYPEID_
NOTEXIST

説明: 指定されたターゲット・オブジェクト・タイプが存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32004
FLG_ERR_INSTID_NOTEXIST

説明: 指定されたオブジェクト ID (FLGID) が存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32005 FLG_ERR_SRCINSTID_
NOTEXIST

説明: 指定されたソース・オブジェクト ID (FLGID) が存在しません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32006 FLG_ERR_TRGINSTID_
 NOTEXIST**

説明: 指定されたターゲット・オブジェクト ID (FLGID) が存在しません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32007
 FLG_ERR_PROP_NOTEXIST**

説明: 指定されたプログラムを開始できません。プログラム・オブジェクト・パラメーター・リストで指定されたプロパティが、オブジェクト・インスタンスについて定義されていません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32008
 FLG_ERR_REL_NOTEXIST**

説明: 存在しないため、関係を削除できません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32009
 FLG_ERR_TYPE_NOT_CREATED**

説明: 指定されたオブジェクト・タイプは登録されていますが、作成されていません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32010
 FLG_ERR_SRCTYPE_NOT_
 CREATED**

説明: ソース・オブジェクト・インスタンスの FLGID で指定されたオブジェクト・タイプは登録されていますが、作成されていません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32011
 FLG_ERR_TRGTYPE_NOT_
 CREATED**

説明: ターゲット・オブジェクト・インスタンスの FLGID で指定されたオブジェクト・タイプは登録されていますが、作成されていません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32012
 FLG_ERR_INV_P_CATEGORY**

説明: オブジェクト・タイプの作成時または削除時には、P (Program) は無効な値です。Program カテゴリー・オブジェクト・タイプを作成または削除できません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32013
 FLG_ERR_INV_P_HANDLE_CAT**

説明: プログラム・オブジェクト・インスタンスの HANDLES プロパティ値が無効です。

この値はプログラム以外のオブジェクト・タイプの名前でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32014
 FLG_ERR_P_HANDLE_NOTEXIST**

説明: プログラム・オブジェクト・インスタンスの HANDLES プロパティ値が無効です。指定されたオブジェクト・タイプが存在しません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 32015
 FLG_ERR_P_HANDLE_NOT_
 CREATED**

説明: プログラム・オブジェクト・インスタンスの HANDLES プロパティ値が無効です。指定されたオブジェクト・タイプは登録されています

が、作成されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32016

FLG_ERR_INV_A_CATEGORY

説明: オブジェクト・タイプの作成時または削除時には、A (Attachment) は無効な値です。

Attachment カテゴリ・オブジェクト・タイプは作成、削除、付加はできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32300 **FLG_ERR_REG_DUP**

説明: オブジェクト・タイプを登録できません。指定されたオブジェクト・タイプはすでに登録されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32301 **FLG_ERR_TYPE_DUP**

説明: 指定された名前のオブジェクト・タイプを作成できません。指定されたオブジェクト・タイプ名はすでにデータベースに存在します。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32302 **FLG_ERR_INST_DUP**

説明: 指定されたオブジェクト・インスタンスを作成できません。データベースにはすでに同じ UI プロパティ値を持つオブジェクト・インスタンスがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32303 **FLG_ERR_REL_DUP**

説明: 指定されたオブジェクト関係を作成できません。関係はすでに存在します。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32304

FLG_ERR_REL_RECURSIVE

説明: 指定された関係を作成できません。指定された関係を作成すると、グループ・オブジェクトがそれ自体に入ってしまいます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32305 **FLG_ERR_UII_DUP**

説明: このオブジェクト・タイプまたはオブジェクトの定義に、同じ順序番号を持つ複数のプロパティがあります。

有効な拡張コード: UII 順序番号が重複するプロパティの順序番号

理由コード 32306

FLG_ERR_INVALID_LINK_RELATION

説明: リンクする側とされる側が同一であるため、指定された LINK 関係は無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32307 **FLG_ERR_INVALID_ATTACHMENT_RELATION**

説明: ターゲット・オブジェクトがすでに非接続ソース・オブジェクトに関係しているため、接続関係は拒否されます。Attachment カテゴリ・オブジェクトは 1 つの非 Attachment カテゴリ・ソース・オブジェクトにのみ関連付けることができます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32308

FLG_ERR_ICONFILE_RETRIEVE_ERROR

説明: パラメーター pszIconFileID で指定されたアイコン・ファイルの検索 (オープン、読み取り、クローズ) 中に、API FLGManageIcons がエ

ラーを検出しました。これは入力オプション
FLG_ACTION_CREATE または
FLG_ACTION_UPDATE にのみ適用されます。拡張
コードで返された理由コードはエラーが起きた
ことを示しています。 処理は失敗しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 32400

FLG_ERR_CONTAINEE_EXIST

説明: このグループ・オブジェクト・インスタ
ンスは、オブジェクト・インスタンスが入っている
ために削除できません。関係または入っているオ
ブジェクトを削除するまで、このオブジェクト・
インスタンスは削除できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32401 **FLG_ERR_INST_EXIST**

説明: 指定されたオブジェクト・タイプは存在す
るため、削除できません。そのインスタンスをす
べて削除するまで、このオブジェクト・タイプは
削除できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32402 **FLG_ERR_TYPE_EXIST**

説明: そのオブジェクト・タイプは存在するた
め、オブジェクト・タイプ登録を削除できませ
ん。オブジェクト・タイプが削除されるまで、こ
のオブジェクト・タイプ登録は削除できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32403 **FLG_ERR_CONTAINEE_
DIFFTYPE**

説明: 異なるオブジェクト・タイプに属するもの
が入っていることを検出したため、
FLGDeleteTypeExt API が停止しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32500

FLG_ERR_INVALID_SRC CAT

説明: 指定された関係を作成できません。ソー
ス・オブジェクト・タイプのカテゴリが無効で
す。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32501

FLG_ERR_INVALID_TRGCAT

説明: 指定された関係を作成できません。ターゲ
ット・オブジェクト・タイプのカテゴリが無効
です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32502 **FLG_ERR_INVALID_CAT**

説明: 入力オプション・タイプのカテゴリが正
しくありません。

必要な入力オブジェクト・タイプについて呼び出
される API の資料を参照してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32600 **FLG_ERR_KAEXIST**

説明: 管理者としてログオンできません。別の管
理者がすでにログオンしています。情報カタロ
グ・マネージャーは一時点で 1 つの管理者のみ
ログオンを許可しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32601 **FLG_ERR_NOTAUTH**

説明: 現在のユーザー ID はこの情報カタログ・
マネージャー機能の使用を許可されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32602**

FLG_ERR_NOT_INITIALIZED

説明: 情報カタログが初期化されていません。

情報カタログ・マネージャーが何か他の機能を実行するためには、FLGInit が初期化されていなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32603** **FLG_ERR_ALREADY_INITIALIZED**

説明: 情報カタログはすでに初期化されています。FLGTerm 呼び出しを発行する前に、2 回目の FLGInit 呼び出しを発行することはできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32604**

FLG_ERR_NOT_CREATOR

説明: 自分が作成していない注釈オブジェクトを更新する権限を持っていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32700**

FLG_ERR_INVALID_TYPEID

説明: 指定されたオブジェクト・タイプ ID (OBJTYPID) が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32701**

FLG_ERR_INVALID_TYPEID_LEN

説明: 指定されたオブジェクト・タイプ ID (OBJTYPID) が無効です。この値は 6 バイトの長さでなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32702**

FLG_ERR_INVALID_TYPEID_VAL

説明: 指定されたオブジェクト・タイプ ID (OBJTYPID) の値が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32703**

FLG_ERR_INVALID_FLGID

説明: 指定されたオブジェクト ID (FLGID) が無効です。

有効な拡張コード: エクスポートされたオブジェクト数またはパラメーターの位置

理由コード **32704**

FLG_ERR_INVALID_FLGID_LEN

説明: オブジェクト ID (FLGID) が無効です。この値は 16 バイトの長さでなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32705**

FLG_ERR_INVALID_FLGID_VAL

説明: オブジェクト ID (FLGID) に無効な文字があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32706**

FLG_ERR_INVALID_TYPNM

説明: オブジェクト・タイプ名が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32707**

FLG_ERR_INVALID_INSTNM

説明: オブジェクト・インスタンス名が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32708

FLG_ERR_INVALID_TIMESTAMP

説明: 入力値が無効です。入力値は YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.NNNNNN の形式で、長さが 26 バイトのタイム・スタンプでなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 32709

FLG_ERR_INVALID_SRCID

説明: ソース・オブジェクト ID (FLGID) が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32710

FLG_ERR_INVALID_TRGID

説明: ターゲット・オブジェクト ID (FLGID) が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32711

FLG_ERR_INVALID_RELTYPE

説明: 指定された関係タイプ (RelType) が無効です。有効な値は C、T、A、L です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32712

FLG_ERR_INVALID_RELOPT

説明: 指定された関係オプション (RelOpt) が無効です。有効な値は C と D です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32713

FLG_ERR_INVALID_PGM_FLGID

説明: 指定されたプログラム・オブジェクトのオブジェクト ID (FLGID) が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32714

FLG_ERR_INVALID_OBJ_FLGID

説明: FLGOpen 呼び出しにパラメーターを与える、指定されたオブジェクトのオブジェクト ID (FLGID) が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32718

FLG_ERR_INVALID_USERID

説明: ユーザー ID 値が無効です。長さは 1-8 文字でなければなりません。

ユーザー ID またはパスワードが無効です (パスワードは AIX では大文字小文字が区別されません)。

ユーザーがリモート・ノードにログオンしていません (DB2 (OS/2 版) V2.1)。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32719

FLG_ERR_INVALID_PASSWORD

説明: 指定されたパスワードが無効です。長さは 1-8 文字でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32720

FLG_ERR_INVALID_DBNAME

説明: 指定されたデータベース名が無効です。長さは 1-8 文字でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32721

FLG_ERR_INVALID_ADMINOPT

説明: 指定されたユーザー・オプション (admin) が無効です。有効な値は Y と N です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32722

FLG_ERR_INVALID_TRACEOPT

説明: トレース・オプション (TraceOpt) が無効です。有効なオプションは 0、1、2、3、4 です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32723

FLG_ERR_NULL_PARAMETER

説明: この API 呼び出しに対する入力として必要なパラメーターがないか、またはヌルです。拡張コードにヌル・パラメーターの位置が示されています。

有効な拡張コード: パラメーターの位置

理由コード 32724

FLG_ERR_NULL_EXTCODE

説明: 拡張コード・ポインター・パラメーター (pExtCode) がヌルです。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32725 **FLG_ERR_INVALID_CONVERTOPT**

説明: 指定された入力オプション (Options) が無効です。有効な値は D と F です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32726

FLG_ERR_INVALID_ICONOPT

説明: 指定された入力オプション (Options) が FLGManageIcons には無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32727

FLG_ERR_INVALID_TAGBUFOPT

説明: FLGManageTagBuf API に指定された InOptions が無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_TAGBUF_QUERY または FLG_TAGBUF_RESET を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32728

FLG_ERR_INVALID_TAGFILEOPT

説明: FLGXferTagBuf API に指定された Options パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_TAGOPT_NEW または FLG_TAGOPT_REPLACE を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32729 **FLG_ERR_INV_DGFLAG_ACTION**

説明: FLGManageFlags に指定された Action パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_ACTION_GET または FLG_ACTION_UPDATE を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 32730 **FLG_ERR_INV_DGFLAG_FLAGTYPE**

説明: FLGManageFlags API に指定された FlagType パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_HISTORY_TYPE_DELETE を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32731**

FLG_ERR_INV_DGFLAG_VALUE

説明: FLGManageFlags に指定された chValue パラメーターが無効です。有効な値は FLG_YES と FLG_NO です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32732**

FLG_ERR_INV_STATUS_ACTION

説明: FLGManageCommentStatus API に指定された Action パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_ACTION_UPDATE または FLG_ACTION_GET を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32733**

FLG_ERR_INV_STATUS_LEN

説明: 入力構造オブジェクト・エリアに、長さが 80 文字を超える状況フィールドがあります。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード **32734**

FLG_ERR_INVALID_TREEOPT

説明: FLGDeleteTree API に指定された Options パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_DELTREE_REL または FLG_DELTREE_ALL を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32735**

FLG_ERR_INVALID ASSOCOPT

説明: FLGListAssociates API に指定された Options パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_LIST_PROGRAM、FLG_LIST_ATTACHMENT、FLG_LIST_COMMENTS、

FLG_LIST_CONTAIN、FLG_LIST_CONTACT、または FLG_LIST_LINK を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32736** **FLG_ERR_INVALID_ORPHANOPT**

説明: FLGListOrphans API に指定された Options パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_LIST_PROGRAM、FLG_LIST_CONTACT、FLG_LIST_ATTACHMENT、または FLG_LIST_COMMENTS を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **32737** **FLG_ERR_INVALID_FOUNDINOPT**

説明: FLGFoundIn API で指定された Options パラメーターが無効です。DGxAPI.H ファイルで定義されている FLG_LIST_CONTAIN、FLG_LIST_CONTACT、または FLG_LIST_ATTACHMENT を使用してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **33000**

FLG_ERR_ICON_NOTEXIST

説明: 指定されたアイコン・ファイルが存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34000**

FLG_ERR_INVALID_IOSTRUCT

説明: 入力構造が無効です。定義エリア長またはオブジェクト・エリア長が、それが記述するエリアの長さに一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34001**

FLG_ERR_NO_DEFN_AREA

説明: 定義エリアが入力構造にありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34002**

FLG_ERR_NO_OBJ_AREA

説明: オブジェクト・エリアが入力構造にありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34003**

FLG_ERR_INVALID_POSITION

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34004** **FLG_ERR_IOSTRUCT_**
CONVERSION

説明: 入力構造の読み取り時、または出力構造の書き込み時に情報カタログ・マネージャー内部エラーが起きました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34005**

FLG_ERR_INVALID_IOSTRUCT_
NULL

説明: 入力構造にヌル文字があります。

有効な拡張コード: バイト・オフセット

理由コード **34006**

FLG_ERR_OBJLEN_OBJCNT_
MISMATCH

説明: オブジェクト・エリア項目カウントまたはオブジェクト・エリア長がゼロです。

値の 1 つがゼロより大きい場合、他の値はゼロにはできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34200**

FLG_ERR_INV_HEADER_IDENT

説明: 入力構造ヘッダー・エリアにある ID が無効です。

ID は FLG-HEAD でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34201** **FLG_ERR_INV_HEADER_**
DEFLEN

説明: 入力構造ヘッダー・エリアにある定義長が無効です。

定義長は 0 より大きく、160 の倍数でなければなりません。API 呼び出しには、固定長を必要とするものがあります。必要な定義長については、API 呼び出しの構文を参照してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34202** **FLG_ERR_INV_HEADER_**
DEFCNT

説明: ヘッダー・エリアにある定義長にもとづいて予期される定義の数が FLGExport には無効です。

定義の数は FLGExport では 5 と決まっています。そのため、定義長は 800 でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34203** **FLG_ERR_INV_HEADER_**
OBJLEN

説明: 入力構造ヘッダー・エリアにあるオブジェクト長が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34204 FLG_ERR_INV_HEADER_
OBJCNT

説明: 入力構造ヘッダー・エリアにあるオブジェクト・エリア項目カウントが無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34205 FLG_ERR_INV_HEADER_
CATEGORY

説明: 無効なカテゴリーがヘッダー・エリアで指定されています。

FLGCreateReg の場合、カテゴリー値は G、E、C、D、S のいずれかでなければなりません。

FLGCreateType、FLGCreateInst、FLGUpdateReg、FLGAppendType、および FLGUpdateInst の場合、カテゴリー値は関連するオブジェクト・タイプ登録の値一致していなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34206 FLG_ERR_INV_HEADER_
OBJTYPEID

説明: ヘッダー・エリアにあるオブジェクト・タイプ ID の値が無効です。

この値は、関連するオブジェクト・タイプ登録について生成されたオブジェクト・タイプ ID と同一でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34207 FLG_ERR_CONFLICTING_
HEADER_FIELDS

説明: 定義長から派生したプロパティー数が、ヘッダー・エリアにあるオブジェクト・エリア項目カウントと矛盾しています。

プロパティー数は定義エリアの長さを 160 で割った値に等しく、オブジェクト・エリア項目カウ

ントはプロパティー数で等しく分割可能でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34208 FLG_ERR_CONFLICTING_
OBJTYPID

説明: オブジェクト・エリアにあるオブジェクト・タイプ ID (OBJTYPID) に指定された値が、ヘッダー・エリアにあるオブジェクト・タイプ ID に一致しません。

有効な拡張コード: プロパティーの順序番号

理由コード 34209
FLG_ERR_HEADER_DEFLEN_
EXCEEDS_MAX

説明: ヘッダー・エリアにある定義長がプロパティーの最大長を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34210 FLG_ERR_NONBLANK_
HEADER_CATEGORY

説明: ヘッダー・エリアにあるカテゴリー値が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34211 FLG_ERR_NONBLANK_
HEADER_OBJTYPEID

説明: ヘッダー・エリアにあるオブジェクト・タイプ ID 値が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34222 FLG_ERR_NONBLANK_
HEADER_RESERVED

説明: 入力構造ヘッダー・エリアの予約エリアは常に空白でなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34500

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_
NAME**

説明: 指定されたプロパティ名が、この API 呼び出しに必要なプロパティ名の 1 つではありません。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 34501

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_
PPNAME**

説明: 定義エリアにあるプロパティのプロパティ短縮名が無効です。値が欠落しているか、DBCS 文字を使用しているか、または API 呼び出しに必要な値を使用していない可能性があります。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 34502

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_
DATATYPE**

説明: 定義エリアにあるプロパティのデータ・タイプが無効です。

有効な値は、API 呼び出しに応じて CHAR、TIMESTAMP、VARCHAR、LONG VARCHAR のいずれかになります。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 34503

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_V_
FLAG**

説明: 定義エリアで指示されたプロパティの値フラグが無効です。

有効な値は R、O、および S です。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34504

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_
SVALUE_V_FLAG**

説明: 定義エリアで指示されたプロパティの値フラグが無効です。指定された値フラグは S ですが、情報カタログ・マネージャーはプロパティ短縮名に指示されたプロパティを生成していません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34505

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_CS_
FLAG**

説明: 定義エリアで指示されたプロパティのケース・センシティブ・フラグ値が無効です。

有効な値は Y または N です。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 34506

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_FS_
FLAG**

説明: 定義エリアで指示されたプロパティのファジー検索フラグ値が無効です。

有効な値は Y または N です。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34507

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_
UIUSEQ**

説明: 定義エリアで指示されたプロパティの UI 順序が無効です。

有効な値は、1、2、3、4、5、および空白です。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34508

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_LEN_
FOR_DTYPE**

説明: 定義されたデータ・タイプのために、長さ値が定義エリアで指示されたプロパティには無効です。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 34509

**FLG_ERR_INV_PROP_LEN_
FIELD**

説明: 定義エリアで指示されたプロパティの長さが無効です。

長さについては、API 呼び出し構文を参照してください。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34510

FLG_ERR_INV_PROP_VAL_LEN

説明: オブジェクト・エリアにある VARCHAR または LONG VARCHAR プロパティ値の長さフィールドが無効です。右寄せされた数字が入っていないければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34511

FLG_ERR_INV_RQDPROP_SPEC

説明: 定義エリアにあるプロパティ定義で、必須プロパティの定義に必要な 1 つまたは複数のフィールドが無効です。

必須プロパティでは、次のフィールドが API 呼び出しの入力構造ダイアグラムに示された通りに定義されていなければなりません。

- プロパティ名 (バイト 0-79)
- データ・タイプ (バイト 80-109)
- 長さ (バイト 110-117)

- プロパティの短縮名 (バイト 118-125)
- 値フラグ (バイト 126)
- UUI 順序番号 (バイト 127)

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34512

**FLG_ERR_DUP_PROPERTY_
NAME**

説明: 入力構造内の別のプロパティがすでにこのプロパティ名を持っています。プロパティ名は入力構造内でそれぞれ固有でなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34513

**FLG_ERR_DUP_PROPERTY_
PPNAME**

説明: 示されたプロパティのプロパティ短縮名が、この入力構造にある他のプロパティ短縮名と同一です。プロパティ短縮名は入力構造内でそれぞれ固有でなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34514

FLG_ERR_INV_TOT_UUI_LEN

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード 34515

FLG_ERR_INV_UUI_LENGTH

説明: 定義エリアで指示された UUI プロパティ一長の値が、UUI プロパティの最大長を超えています。

有効な拡張コード: UUI 順序番号

理由コード 34516

FLG_ERR_MISSING_PROPERTY

説明: オブジェクト・インスタンスの定義エリアに、オブジェクト・タイプに定義されたすべてのプロパティーが入っていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34517

FLG_ERR_MISSING_PROPERTY_
NAME

説明: プロパティー名は必須ですが、定義エリアで指示されたプロパティーにありません。

有効な拡張コード: プロパティーの順序番号

理由コード 34518

FLG_ERR_MISSING_PROPERTY_
LENGTH

説明: 長さは必須ですが、定義エリアで指示されたプロパティーにありません。

有効な拡張コード: プロパティーの順序番号

理由コード 34519

FLG_ERR_MISSING_PROPERTY_
PPNAME

説明: プロパティー短縮名は必須ですが、定義エリアで指示されたプロパティーにありません。

有効な拡張コード: プロパティーの順序番号

理由コード 34520

FLG_ERR_MISSING_REG_
DPNAME

説明: DP NAME (DPNAME) プロパティーは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34521

FLG_ERR_MISSING_REG_
PTNAME

説明: PHYSICAL TYPE NAME (PTNAME) プロパティーは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34522

FLG_ERR_MISSING_REG_
CREATOR

説明: CREATOR プロパティーは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34523

FLG_ERR_MISSING_REG_
UPDATIME

説明: LAST CHANGED DATE AND TIME (UPDATIME) プロパティーは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34524

FLG_ERR_MISSING_REG_
UPDATEBY

説明: LAST CHANGED BY (UPDATEBY) プロパティーは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34525

FLG_ERR_MISSING_REG_NAME

説明: EXTERNAL NAME OF OBJ TYPE (NAME) プロパティーは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34526 FLG_ERR_MISSING_UUI_
SEQUENCE

説明: 示された UUI 順序番号は定義エリアで指定されていましたが、その前の番号が指定されていません。

UUI 順序番号はスキップしていない、連続した番号です。1、2、3 は有効ですが、1、3、5 は無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34527
FLG_ERR_MISSING_RQD_
INSTIDNT

説明: Instance identifier (INSTIDNT) プロパティは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34528
FLG_ERR_MISSING_RQD_
NAME

説明: Name (NAME) プロパティは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34529
FLG_ERR_MISSING_RQD_
OBJTYPID

説明: Object type identifier (OBJTYPID) プロパティは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34530
FLG_ERR_MISSING_RQD_
UPDATEBY

説明: Last Changed By (UPDATEBY) プロパティは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34531
FLG_ERR_MISSING_RQD_
UPDATIME

説明: Last Changed Date and Time (UPDATIME) プロパティは必須ですが、入力構造定義エリアにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34532 FLG_ERR_NOMATCH_
PROPERTY_NAME

説明: 定義エリアで指示された入力プロパティは既存プロパティのプロパティ短縮名とは一致しますが、プロパティ名が一致しません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34533 FLG_ERR_NOMATCH_
PROPERTY_SPEC

説明: 定義エリアで指示されたプロパティは既存プロパティのプロパティ名とプロパティ短縮名には一致しますが、データ・タイプ、長さ、値フラグ、UUI 順序値が一致しません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34534
FLG_ERR_PROPERTY_NOTEXIST

説明: 選択基準の一部として指定されたプロパティが存在しません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34536 FLG_ERR_UNMATCH_
DEFINITION

説明: 以下のいずれかが起きました。

- オブジェクト・インスタンスの定義エリアで指定された、示されたプロパティが、オブジェクト・タイプに定義されたプロパティに一致しない。
- オブジェクト・タイプに定義されたより多くのプロパティがオブジェクト・インスタンスの定義エリアで定義されている。

有効な拡張コード: なし; プロパティの順序番号

理由コード 34537 FLG_ERR_PROPDUP

説明: 定義エリアに重複するプロパティ名またはプロパティ短縮名が指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34538
FLG_ERR_REG_PROPS_OUT_
OF_SEQUENCE

説明: 登録プロパティが正しい順序で指定されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34539
FLG_ERR_RQD_PROPS_OUT_
OF_SEQUENCE

説明: 必要なプロパティが定義エリアで正しい順序で指定されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34540
FLG_ERR_INV_V_FLAG_FOR_
APPEND

説明: 示された付加プロパティが S または R の値フラグを持っています。

付加プロパティは O (オプション・プロパティ) の値フラグを持っていないければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34541 FLG_ERR_INV_UII_FOR_
APPEND

説明: 示された付加プロパティは UII プロパティとして指定されています。付加プロパティは UII プロパティにはできません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34542 FLG_ERR_NONBLANK_
PROPERTY_V_FLAG

説明: 示されたプロパティの値フラグがブランクではありません。値フラグはこの API 呼び出しでは使用されず、ブランクでなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34543 FLG_ERR_NONBLANK_
PROPERTY_CS_FLAG

説明: 示されたプロパティのケース・センシティブ・フラグがブランクではありません。ケース・センシティブ・フラグはこの API 呼び出しでは使用されず、ブランクでなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34544 FLG_ERR_NONBLANK_
PROPERTY_FS_FLAG

説明: 示されたプロパティのファジー検索フラグがブランクではありません。ファジー検索はこの API 呼び出しでは使用されず、ブランクでなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34545 FLG_ERR_NONBLANK_
PROPERTY_UISEQ

説明: 示されたプロパティの UII 順序位置が
ブランクではありません。

UII 順序位置はこの API 呼び出しでは使用され
ず、ブランクでなければなりません。

データ・タイプは LONG VARCHAR で、UII 順
序位置はブランクではありません。 UII プロパ
ティは CHAR、VARCHAR、TIMESTAMP には
できますが、LONG VARCHAR にはできませ
ん。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34546 FLG_ERR_NONBLANK_
PROPERTY_RESERVED

説明: 入力構造プロパティ指定の予約エリアは
常にブランクでなければなりません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34547
FLG_ERR_UII_V_FLAG_MUST_
BE_R

説明: すべての UII プロパティが R
(required) の値フラグを持っていないならばな
いため、示されたプロパティの値フラグは有効
ではありません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34548
FLG_ERR_AT_LEAST_ONE_UII_
PROP_RQD

説明: 定義エリアで指定されたプロパティが
UII プロパティとして定義されていません。

情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タ
イプはすべて、少なくとも 1 つの UII プロパテ
ィーで定義されていなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34550
FLG_ERR_DUP_REG_DPNAME

説明: 定義エリアで指定された DP NAME
(DPNAME) が、既存のオブジェクト・タイプ登録
の DP NAME 値と重複しています。

DPNAME 値はデータベース間にわたって固有で
なければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34551
FLG_ERR_DUP_REG_PTNAME

説明: PHYSICAL TYPE NAME (PTNAME) がデ
ータベース内の既存の表の名前と重複していま
す。

PTNAME 値はデータベース間にわたって固有で
なければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34552
FLG_ERR_DUP_REG_NAME

説明: 指定された EXTERNAL NAME OF OBJ
TYPE (NAME) が、既存のオブジェクト・タイプ
登録の NAME 値と重複しています。

NAME はデータベース間にわたって固有でなけれ
ばなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34553 FLG_ERR_INV_DPNAME

説明: 指定された DPNAME 値の構文が無効で
す。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34554
FLG_ERR_INV_DB_PTNAME

説明: 指定された PTNAME 値がデータベース構
文規則に従っていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34555

FLG_ERR_INV_DB_DPNAME

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード 34556

**FLG_ERR_INV_DB_PROPERTY_
PPNAME**

説明: プロパティ短縮名がデータベース構文規則に従っていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34557

**FLG_ERR_INV_TOT_PROPERTY_
LEN**

説明: CHAR、VARCHAR、TIMESTAMP プロパティの全長にオーバーヘッドを加えた長さが、データベースの物理表にある各行について、データベースで許される最大を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34558 **FLG_ERR_INV_PTNAME**

説明: 指定された PTNAME 値の構文が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34559

**FLG_ERR_INV_PROPERTY_CS_
FLAG_FOR_DB**

説明: ケース・センシティブ・フラグの値がデータベースには無効です。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34560

**FLG_ERR_SRH_PROP_VAL_
TOOLONG**

説明: 検索基準値が長すぎます。DB2 (MVS/ESA 版) 使用時の最大長は 254 バイトです。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34561

**FLG_ERR_EXTRA_PROPS_IN_
IOSTRUCT**

説明: 入力構造に、オブジェクト・タイプ定義にないプロパティがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 34562

**FLG_ERR_MISSING_REQ_
PROPERTY**

説明: 必須プロパティが FLGCreateInst または FLGUpdateInst API の入力構造にありません。拡張コードが、オブジェクト・タイプの完全な定義を使用して、欠落したプロパティの位置をポイントします。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34800 **FLG_ERR_PROP_VALUE_
REQUIRED**

説明: オブジェクト・エリアに、示されたプロパティについての値が指定されていません。プロパティの定義は、値が必要であることを指定しています。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード 34801 **FLG_ERR_PROP_VALUE_
EXCEEDED**

説明: 示されたプロパティの値の長さが、定義エリアで定義された最大長を超えています。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード **34802**

FLG_ERR_INVALID_PROPERTY_
VALUE

説明: 次のいずれかの理由で、プロパティ値が無効です。

- 値が DBCS 文字を使用しているが、SBCS 文字を使用しなければならない。
- FLGUpdateInst の場合、オブジェクト・エリアの INSTIDNT 値が有効でない。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード **34803**

FLG_ERR_INV_SRH_VAL_FOR_
LONGVARCHAR

説明: 示されたプロパティの検索値が、LONG VARCHAR データ・タイプ (3000) を持つ検索基準に許される最大長を超えています。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード **34804**

FLG_ERR_INV_OBJ_LENGTH

説明: オブジェクト・エリアの実際の長さが、ヘッダー・エリアで指定されたオブジェクト長に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34805** **FLG_ERR_PARMLIST_**
REQUIRES_HANDLES

説明: HANDLES プロパティが定義エリアに指定されていません。

有効な拡張コード: プロパティの順序番号

理由コード **34806**

FLG_ERR_REG_CONFLICT

説明: オブジェクト・エリアで指定された DPNAME または PTNAME 値が、オブジェク

ト・タイプで識別される登録情報の値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34807**

FLG_ERR_ICON_EXCEEDS_
LIMIT

説明: アイコン・サイズが最大アイコン・サイズ (30000) を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34808** **FLG_ERR_INST_VALUE_**
EXCEEDED

説明: インスタンス値の全長がデータベースの限界を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード **34809**

FLG_ERR_INVALID_VARCHAR_
LENGTH

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **34810**

FLG_ERR_INVALID_CREATOR

説明: API FLGCreateInst および FLGUpdateInst が入力出力構造でエラーを見つけました。CREATOR 値がログオンしたユーザー ID と同じではありません。これは、呼び出したユーザーがオブジェクト管理操作を実行する許可を持っていない場合に必要になります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **35000**

FLG_ERR_PRG_NOT_STARTED

説明: 予期しないオペレーティング・システム・エラーのため、プログラムを開始できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **35001** **FLG_ERR_PROG_PARM_TOOLONG**

説明: プログラム・オブジェクトの Parameter list (PARMLIST) プロパティに指定されたパラメーターが、プラットフォーム特有のプログラム呼び出しには長すぎます。

有効な拡張コード: なし

理由コード **35002** **FLG_ERR_INV_PROG_PARM**

説明: プログラム・オブジェクトのパラメーター・リストに、一致しないトークン指定子 (%)が入っているか、またはトークンで区切られたプロパティが HANDLES プロパティで識別されたオブジェクト・タイプのプロパティではありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **35003** **FLG_ERR_PROGRAM_NOTEXIST**

説明: 開始するプログラムが見つからないか、またはパス指定が正しくありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **35004** **FLG_ERR_INV_SYNTAX_STARTCMD**

説明: プログラム・オブジェクトの STARTCMD プロパティの値が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36001** **FLG_ERR_ACCESS_DENIED**

説明: ファイルのオープン時または読み取り時にアクセスが拒否されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36002** **FLG_ERR_BAD_INVOCATION**

説明: 情報カタログ・マネージャー・コマンド行呼び出しでエラーが起きました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36003** **FLG_ERR_BROKEN_PIPE**

説明: 指定されたファイルのオープンまたは読み取りができません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36004** **FLG_ERR_BUFFER_OVERFLOW**

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36005** **FLG_ERR_CANNOT_MAKE**

説明: 指定されたファイルを作成できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36006** **FLG_ERR_CLOSE_ERROR**

説明: ファイルをクローズすることができません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36007** **FLG_ERR_COPY_ERROR**

説明: ファイルをコピーできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36008** **FLG_ERR_DELETE_ERROR**

説明: 指定されたファイルを削除できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36009**
FLG_ERR_DEVICE_IN_USE

説明: ファイルにアクセスできません。ファイルは現在使用中です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36010**
FLG_ERR_DIRECT_ACCESS_HANDLE

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36011** **FLG_ERR_DISK_FULL**

説明: ディスクがいっぱいでファイルを作成できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36012**
FLG_ERR_DRIVE_LOCKED

説明: ドライブにアクセスできません。ドライブは現在使用中です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36013**
FLG_ERR_DUPHNDL_ERROR

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36014**
FLG_ERR_EAS_DIDNT_FIT

説明: アイコン・ファイルが持つ拡張属性が多すぎます。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36015** **FLG_ERR_EA_LIST_INCONSISTENT**

説明: アイコン・ファイルの拡張属性のいくつかが無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36016** **FLG_ERR_EAS_NOT_SUPPORTED**

説明: 拡張属性を持つファイルは拡張属性をサポートしないファイル・システムにコピーできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36017**
FLG_ERR_FILENAME_EXCED_RANGE

説明: ファイル名またはパスが無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36018**
FLG_ERR_FILE_NOT_FOUND

説明: 指定されたパスおよびファイル名が見つかりませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36019**
FLG_ERR_FINDFILE_ERROR

説明: 指定されたファイルが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36020**
FLG_ERR_FINDNEXT_ERROR

説明: 次のファイルが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36021

FLG_ERR_INVALID_ACCESS

説明: ファイルに書き込めません。ファイルは読み取り専用です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36022

FLG_ERR_INVALID_DIRECTORY

説明: 指定されたディレクトリーが無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36023

FLG_ERR_INVALID_DRIVE

説明: 指定されたドライブにアクセスできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36024

FLG_ERR_INVALID_EA_NAME

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36025

FLG_ERR_INVALID_FILE_NAME

説明: 指定されたファイル名が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36026

FLG_ERR_INVALID_FUNCTION

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36027

FLG_ERR_INVALID_HANDLE

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36028 **FLG_ERR_INVALID_PARAMETER**

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36029

FLG_ERR_INVALID_TARGET_HANDLE

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36030

FLG_ERR_LOCK_VIOLATION

説明: ファイルにアクセスできません。ファイルは他のアプリケーションがロックしています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36031

FLG_ERR_META_EXPANSION_TOO_LONG

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 36032 **FLG_ERR_MORE_DATA**

説明: ファイルをオープンできません。ファイルが大きすぎます。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36033**

FLG_ERR_NEED_EAS_FOUND

説明: 拡張属性をサポートしていないドライブにファイルを移動できません。拡張属性はこのファイルに必要です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36034**

FLG_ERR_NEGATIVE_SEEK

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36035**

FLG_ERR_NOT_DOS_DISK

説明: 指定されたディスクが有効でないか、または存在しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36036**

FLG_ERR_NO_MORE_FILES

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36037**

FLG_ERR_NO_MORE_SEARCH_HANDLES

説明: この情報カタログ・マネージャー・セッションがハンドルの最大数に達しました。

CONFIG.SYS ファイルの FILES= オプションの値を増やしてください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36038** **FLG_ERR_OPEN_ERROR**

説明: アイコン・ファイル、タグ言語ファイル、エコー・ファイル、またはログ・ファイルをオープンできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36039** **FLG_ERR_OPEN_FAILED**

説明: アイコン・ファイル、タグ言語ファイル、エコー・ファイル、またはログ・ファイルをオープンできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36040**

FLG_ERR_PATH_NOT_FOUND

説明: 指定されたパスが見つかりませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36041** **FLG_ERR_PIPE_BUSY**

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36042** **FLG_ERR_READ_ERROR**

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36043**

FLG_ERR_SEEK_ON_DEVICE

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36044**

FLG_ERR_SETFILEPTR_ERROR

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36045**

FLG_ERR_SHARING_BUFFER_EXCEEDED

説明: このファイルは共用できません。バッファがオーバーフローしています。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36046** **FLG_ERR_SHARING_VIOLATION**

説明: このファイルはアクセスできません。他のプロセスがこのファイルを使用しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36047**
FLG_ERR_TOO_MANY_OPEN_FILES

説明: これ以上ファイルをオープンできません。

OS/2 で FILES= オプションの値を増やしてください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36048**
FLG_ERR_WRITE_ERROR

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36049** **FLG_ERR_WRITE_FAULT**

説明: ディスクに書き込めません。ディスクがロックされているか、または読み取り不能である可能性があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36050**
FLG_ERR_WRITE_PROTECT

説明: ファイルに書き込めません。ファイルは読み取り専用です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36200**
FLG_ERR_NO_MORE_THREADS

説明: これ以上のシステム・スレッドは使用できません。

既存のプログラムをいくつかクローズして続行してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **36201** **FLG_ERR_QDISK_FAIL**

説明: ディスク・ドライブに関する情報にアクセスできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37001**
FLG_ERR_INV_RESTART_OPT

説明: 指定された再始動オプション (RestartOpt) が無効です。

有効な値は、B、C、b、c です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37002**
FLG_ERR_INV_OBJTYPE_OPT

説明: ACTION.OBJTYPE タグのオプションが無効です。

有効なオプションは、MERGE、ADD、UPDATE、DELETE、DELETE_EXT、APPEND です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37003**
FLG_ERR_INV_OBJINST_OPT

説明: ACTION.OBJINST タグのオプションが無効です。

有効なオプションは、ADD、UPDATE、

DELETE、DELETE_TREE_REL、
DELETE_TREE_ALL、MERGE です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37004

FLG_ERR_INV_RELATION_OPT

説明: ACTION.RELATION タグのオプションが無効です。

有効なオプションは ADD と DELETE です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37005 **FLG_ERR_TAG_OUT_OF_**
SEQUENCE

説明: タグ言語ファイル内で ACTION タグに続くタグの順序が正しくありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37006

FLG_ERR_KEYNAME_TOO_
LONG

説明: INSTANCE タグの UII プロパティー短縮名が最大長 (8) を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37007

FLG_ERR_INV_ACTION_TYPE

説明: ACTION タグのキーワードが無効です。

有効なキーワードは OBJTYPE、OBJINST、RELATION です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37008

FLG_ERR_KEYWORD_TOO_
LONG

説明: タグのキーワードが、許されている最大長を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37009

FLG_ERR_PROPNAME_TOO_
LONG

説明: INSTANCE タグのプロパティー短縮名が最大長 (8) を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37010

FLG_ERR_VALUE_TOO_LONG

説明: タグ言語ファイルの値がそのキーワード、プロパティー短縮名または UII プロパティー短縮名で許される最大長を超えています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37011

FLG_ERR_OBJTAG_DUP_
KEYWORD

説明: OBJECT タグのキーワードが複数回指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37012

FLG_ERR_PROPTAG_DUP_
KEYWORD

説明: PROPERTY タグのキーワードが複数回指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37013 **FLG_ERR_RELTAG_DUP_**
KEYWORD

説明: キーワードが RELTYPE タグで複数回指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37014

**FLG_ERR_INSTTAG_DUP_
KEYNAME**

説明: UUI プロパティ短縮名が INSTANCE タグで複数回指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37015

**FLG_ERR_INSTTAG_DUP_
PROPNAME**

説明: プロパティ短縮名が INSTANCE タグで複数回指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37016 **FLG_ERR_OBJTAG_INV_
KEYWORD**

説明: OBJECT タグのキーワードが無効です。

有効なキーワードは、TYPE、CATEGORY、EXTNAME、PHYNAME、ICOFIELD、ICWFIELD です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37017

**FLG_ERR_PROPTAG_INV_
KEYWORD**

説明: PROPERTY タグのキーワードが無効です。

有効なキーワードは、EXTNAME、DT、DL、SHRTNAME、NULLS、UISEQ です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37018 **FLG_ERR_RELTAG_INV_
KEYWORD**

説明: RELTYPE タグのキーワードが無効です。

有効なキーワードは、TYPE、SOURCETYPE、TARGETTYPE です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37019

**FLG_ERR_CMMTTAG_INV_
KEYWORD**

説明: COMMIT タグのキーワードが無効です。

有効なキーワードは CHKPID です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37020 **FLG_ERR_INSTTAG_INV_
KEYNAME**

説明: INSTANCE タグの UUI プロパティ短縮名が無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37021 **FLG_ERR_INSTTAG_INV_
PROPNAME**

説明: INSTANCE タグのプロパティ短縮名が無効です。

プロパティ短縮名は OBJECT タグで指定されたオブジェクト・タイプに存在していなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37022

**FLG_ERR_INSTTAG_MISSING_
SKEY**

説明: SOURCEKEY が INSTANCE タグの最初のキーワードではありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37023

**FLG_ERR_INSTTAG_MISSING_
TKEY**

説明: 関係を作成または削除するときに、TARGETKEY が INSTANCE タグの 2 番目のキーワードになっていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37024** **FLG_ERR_TAGFILE_**
PREMATURE_EOF

説明: タグ言語ファイルをインポートしているときに、情報カタログ・マネージャーが予期せずタグ言語ファイルの終わりを検出しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37025** **FLG_ERR_PROPTAG_INV_DT**

説明: PROPERTY タグの DT 値が無効です。

有効な値は、C、V、L、T です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37026** **FLG_ERR_PROPTAG_**
RESERVED_SHRTNAME

説明: 予約されたプロパティの短縮名が PROPERTY タグの SHRTNAME の値として指定されました。

次の短縮名は予約されており、SHRTNAME として指定できません。 OBJTYPID、 INSTIDNT、 UPDATIME、 UPDATEBY。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37027** **FLG_ERR_PROPTAG_INV_**
NULLS

説明: PROPERTY タグの NULLS 値が無効です。

有効な値は Y と N です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37028** **FLG_ERR_PROPTAG_INV_**
UIUSEQ

説明: PROPERTY タグの UIUSEQ 値が無効です。

有効な値は、0、1、2、3、4、5 です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37029** **FLG_ERR_INSTTAG_RESERVED_**
PROPNAME

説明: 予約されたプロパティのプロパティ短縮名が INSTANCE タグに指定されていました。

次のプロパティ短縮名は予約されており、値を割り当てることはできません。 OBJTYPID、 INSTIDNT、 UPDATIME、 UPDATEBY。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37030** **FLG_ERR_OBJTAG_MISSING_**
REQD_KEYWORD

説明: 必須キーワードが OBJECT タグにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37031** **FLG_ERR_OBJTAG_KEYWORD_**
NOT_ALLOWED

説明: OBJECT タグで指定されたキーワードは、現在の ACTION タグ・キーワードおよびオプションでは許されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37032**

**FLG_ERR_PROPTAG_MISSING_
REQD_KEYWORD**

説明: 必須キーワードが PROPERTY タグにありません。

必須キーワードは、EXTNAME、DT、DL、SHRTNAME、NULLS です。

NAME が SHRTNAME の値として指定されたときは、必要なキーワードは SHRTNAME だけです。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37033**

**FLG_ERR_RELTAG_MISSING_
REQD_KEYWORD**

説明: 必須キーワードが RELTYPE タグにありません。

必須キーワードは、TYPE、SOURCETYPE、TARGETYPE です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37034**

**FLG_ERR_INVALID_DISKCNL_
TAG**

説明: DISKCNL タグの値とキーワードが無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37035**

**FLG_ERR_NO_VALID_INPUT_
TAG**

説明: タグ言語ファイルに有効なタグがありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37037** **FLG_ERR_OBJTAG_INV_
CATEGORY**

説明: OBJECT タグの CATEGORY 値が無効です。

有効な値は、GROUPING、ELEMENTAL、CONTACT、DICTIONARY、SUPPORT です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37038**

FLG_ERR_RELTAG_INV_TYPE

説明: RELTYPE タグの TYPE 値が無効です。

有効な値は、CONTAIN、CONTACT、LINK、ATTACHMENT です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37039**

FLG_ERR_MISSING_LPAREN

説明: キーワード、UII プロパティ短縮名、またはプロパティ短縮名の後に左括弧がありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37040** **FLG_ERR_INSTTAG_NO_
PROPNAME**

説明: INSTANCE タグにプロパティ短縮名が指定されていませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37041** **FLG_ERR_NO_VALUE**

説明: 指定されたキーワードに値がありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37042** **FLG_ERR_NO_KEYWORD**

説明: タグにキーワードがありません。

COMMENT、NL、TAB を除くすべてのタグに、

少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37043**

FLG_ERR_TAG_FOLLOWED_BY_GARBAGE

説明: 有効なタグの後に余分な文字があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37044** **FLG_ERR_BAD_PAREN_WITHIN_VALUE**

説明: この値の中に指定された括弧が無効です。

値の中の括弧は、単一引用符で囲まなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37046** **FLG_ERR_PROPTAG_KEYWORD_NOT_ALLOWED**

説明: SHRTNAME の値として NAME が指定されたときは、指定されたキーワードは PROPERTY タグでは許されていません。

この場合の有効なキーワードは SHRTNAME と UUISEQ です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37047**

FLG_ERR_UNEXPECTED_LPAREN

説明: 予期されるキーワード、UUI プロパティ短縮名、またはプロパティ短縮名の前に左括弧が指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37048**

FLG_ERR_UNEXPECTED_RPAREN

説明: 予期される左括弧、キーワード、UUI プロパティ短縮名、またはプロパティ短縮名の前に右括弧が指定されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37300** **FLG_ERR_CHKPT_DUP**

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37301**

FLG_ERR_CHKPT_NOTEXIST

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37302**

FLG_ERR_INV_SAVEAREA_LEN

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37303**

FLG_ERR_INV_CHKPT_TOT_LEN

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37304**

FLG_ERR_MISSING_CHKPT_VALUE

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37305

**FLG_ERR_NO_MATCH_ON_
CHKPTID**

説明: システム保管チェックポイント ID を、指定されたタグ言語ファイルにある COMMIT タグ・チェックポイント ID と突き合わせるできません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37500

**FLG_ERR_REQUEST_A_NEW_
DISK_FAILED**

説明: ユーザーが次のタグ言語ファイル・ディスクセットを順序内に挿入しませんでした。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37501

**FLG_ERR_VERIFY_DISKETTE_
SEQUENCE_FAILED**

説明: 情報カタログ・マネージャーがディスクセット順序を検査していたときにエラーを検出しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37502

**FLG_ERR_UNABLE_TO_FIND_
REQUIRED_PROPERTY**

説明: 指定されたプロパティ短縮名がターゲット・データベースに見つかりません。

ACTION.OBJINST(UPDATE) または ACTION.OBJINST(MERGE) を使用してオブジェクト・インスタンスを更新またはマージしているときに、このプロパティ短縮名が INSTANCE タグで指定されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37503

**FLG_ERR_UNABLE_TO_FIND_
REQUIRED_OBJTYPE**

説明: OBJECT タグで指定されたオブジェクト・タイプ名がターゲット・データベースに見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37504

**FLG_ERR_NONUNIQUE_UII_
KEY**

説明: 指定された UII 値が複数のインスタンスを識別しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37505

**FLG_ERR_MISMATCH_UII_IN_
MERGE**

説明: オブジェクト・タイプのマージで、入力タグ言語ファイルのオブジェクト・タイプの UII プロパティ短縮名が、データベースの同じオブジェクト・タイプの UII プロパティ短縮名に一致していません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37506

**FLG_ERR_DATA_LENGTH_
CONVERSION_FAILED**

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37507

**FLG_ERR_MISMATCH_DATA_
LENGTH_IN_MERGE**

説明: 入力タグ言語ファイルで ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグの後にある PROPERTY タグの DL (data length) の値が、同

じオブジェクト・タイプのターゲット・データベース内の同じプロパティの値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37508**

**FLG_ERR_MISMATCH_DATA_
TYPE_IN_MERGE**

説明: 入力タグ言語ファイルで ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグの後にある PROPERTY タグの DT (data type) の値が、同じオブジェクト・タイプのターゲット・データベース内の同じプロパティの値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37509** **FLG_ERR_MISMATCH_
PROPERTY_NAME_IN_MERGE**

説明: 入力タグ言語ファイルで ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグの後にある PROPERTY タグの SHRTNAME (プロパティ短縮名) の値が、同じオブジェクト・タイプのデータベース内のどのプロパティにも一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37510** **FLG_ERR_MISMATCH_
CATEGORY_IN_MERGE**

説明: 入力タグ言語ファイルで ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグの後にある OBJECT タグの CATEGORY の値が、同じオブジェクト・タイプのデータベース内の値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37511**

**FLG_ERR_MISSING_REQUIRED_
OBJTYPE_MERGE_STATEMENT**

説明: ACTION.OBJTYPE(MERGE) を使用してオブジェクト・タイプをマージする前に、

ACTION.OBJINST(MERGE) を使用してオブジェクト・インスタンスをマージすることはできません。

ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグは、同じオブジェクト・タイプの ACTION.OBJINST(MERGE) の前に処理されていなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37512** **FLG_ERR_NONUNIQUE_
SOURCE_UII_KEY**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37513** **FLG_ERR_NONUNIQUE_
TARGET_UII_KEY**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37514**
**FLG_ERR_NO_TAGFILE_ON_
DISKETTE**

説明: ディスケットに入力タグ言語ファイルが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37515**
**FLG_ERR_WRONG_DISK_
SEQUENCE**

説明: タグ言語ファイルのあるディスクが間違った順序で挿入されました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37516** **FLG_ERR_REQ_INST_
NOTFOUND**

説明: 更新するインスタンスが見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37801** **FLG_ERR_NO_UII**

説明: エクスポートで UUI のないオブジェクトが検出されました。これは処理できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37802**
 FLG_ERR_CREATEREG_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37803**
 FLG_ERR_UPDATEREG_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37804**
 FLG_ERR_GETREG_FAILED

説明: エクスポートが FLGGetReg を呼び出し、これがエラーを返しました。

このエラーがエクスポートに与える影響に関する情報については、ログ・ファイルを参照してください。

有効な拡張コード: なし; 理由コード

理由コード **37805**
 FLG_ERR_DELETEREG_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37806**
 FLG_ERR_CREATETYPE_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37807**
 FLG_ERR_APPENDTYPE_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37808**
 FLG_ERR_GETTYPE_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37809**
 FLG_ERR_DELETETYPE_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37820**
 FLG_ERR_CREATEINST_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37821**
 FLG_ERR_UPDATEINST_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37822**
 FLG_ERR_GETINST_FAILED

説明: エクスポートが FLGGetInst を呼び出し、これがエラーを返しました。

このエラーがエクスポートに与える影響に関する情報については、ログ・ファイルを参照してください。

有効な拡張コード: なし; 理由コード

理由コード **37823**

FLG_ERR_DELETEINST_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37824**

FLG_ERR_LISTTYPE_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37825**

FLG_ERR_SEARCH_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37826**

FLG_ERR_RELATE_FAILED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **37827**

FLG_ERR_LISTCONTACTS_FAILED

説明: エクスポートが FLGListContacts を呼び出し、これがエラーを返しました。

このエラーがエクスポートに与える影響に関する情報については、ログ・ファイルを参照してください。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37828**

FLG_ERR_NAVIGATE_FAILED

説明: エクスポートが FLGNavigate を呼び出し、これがエラーを返しました。

このエラーがエクスポートに与える影響に関する

情報については、ログ・ファイルを参照してください。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37829**

FLG_ERR_FREEMEM_FAILED

説明: エクスポートが FLGFreeMem を呼び出し、これがエラーを返しました。

このエラーがエクスポートに与える影響に関する情報については、ログ・ファイルを参照してください。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37831**

FLG_ERR_LISTASSOC_FAILED

説明: この機能が FLGListAssociates を呼び出し、これがエラーを返しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37901**

FLG_ERR_NULL_LOGFILE

説明: ログ・ファイル・ポインター・パラメーター値が NULL です。

このパラメーターには値が必要です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37902**

FLG_ERR_LOGFILE_OPENERR

説明: インポートまたはエクスポートが、ログ・ファイルのオープン中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 37904**FLG_ERR_LOGFILE_WRITEERR**

説明: インポートまたはエクスポートが、ログ・ファイルへの書き込み中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 37906**FLG_ERR_LOGFILE_CLOSEERR**

説明: インポートまたはエクスポートが、ログ・ファイルのクローズ中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 37908**FLG_ERR_INV_TAGFILE_LEN**

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- タグ言語ファイルの指定された名前がヌルである。
- パス情報の入ったタグ言語ファイルのフルネームが許される最大長 (259) を超えている。
- タグ言語ファイル名と拡張子が許される最大長 (240) を超えている。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37909**FLG_ERR_INV_LOGFILE_LEN**

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- ログ・ファイルの指定された名前がヌルである。
- パスの入った名前全体が許される最大長 (259) を超えている。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37910 FLG_ERR_INV_TAGFILE

説明: タグ言語ファイルに指定されたドライブは、アクセスしようとしたときに情報カタログ・マネージャーがエラーを検出したため無効です。

タグ言語ファイルが MDIS 形式の場合、ドライブには取り外し可能ドライブを指定できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37911 FLG_ERR_INV_LOGFILE

説明: ログ・ファイルに指定されたドライブが無効です。指定されたドライブが取り外し可能であるか、または情報カタログ・マネージャーがこれにアクセスしようとしたときにエラーが起きた可能性があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 37912**FLG_ERR_ECHOFILE_OPENERR**

説明: インポートがエコー・ファイルのオープン中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 37913**FLG_ERR_TAGFILE_READERR**

説明: インポートがタグ言語ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード 37914**FLG_ERR_ECHOFILE_WRITEERR**

説明: インポートが、エコー・ファイルへの書き込み中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37915**

FLG_ERR_INV_ICOPATH_LEN

説明: 指定されたアイコン・パスが長すぎます。

アイコン・パスの最大長は、ドライブとディレクトリーを含めて 246 です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37919** **FLG_ERR_ICOPATH_NONBLANK_EXT**

説明: 指定されたアイコン・パス (pszIcoPath) に拡張子が入っています。

この値にはパスのみを指定してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37920** **FLG_ERR_INV_ICOPATH**

説明: 次のいずれかの理由で、アイコン・パスで指定されたドライブまたは拡張子が無効です。

- ドライブが指定されていないか、ドライブが取り外し可能か、または情報カタログ・マネージャーがドライブの読み取り中にエラーを検出した。
- ファイル拡張子がアイコン・パスに指定された。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37921**

FLG_ERR_TAGFILE_OPENERR

説明: インポート、エクスポート、または FLGXferTagBuf がタグ言語ファイルのオープン中にエラーを検出しました。

拡張コードにオープン・エラーの理由コードが入っています。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37922**

FLG_ERR_TAGFILE_CLOSEERR

説明: インポート、エクスポート、または FLGXferTagBuf がタグ言語ファイルのクローズ中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37923**

FLG_ERR_ECHOFILE_CLOSEERR

説明: インポートがエコー・ファイルのクローズ中にエラーを検出しました。

拡張コードに、エラーの理由コードが入っていません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37924**

FLG_ERR_INV_ECHOFILE_LEN

説明: タグ言語ファイル名を持つログ・ファイル・パスと ECH 拡張子の長さが、完全なエコー・ファイルのパスと名前に許された最大長を超えています。

この最大は 259 文字です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37925**

FLG_ERR_MAX_OBJTYPE_EXCEEDED

説明: タグ言語ファイルには、インポートまたはエクスポート時に許された最大数を超える離散的オブジェクト・タイプがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37926**

FLG_ERR_TAGFILE_WRITEERR

説明: エクスポートまたは FLGXferTagBuf API が、タグ言語ファイルへの書き込み中にエラーを検出しました。

拡張コードに書き込みエラーの理由コードが入っています。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **37928**

FLG_ERR_INV_TAGFILE_EXT

説明: タグ言語ファイルに指定されたファイル名に ECH の拡張子があります。この拡張子は無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37929**

FLG_ERR_INV_LOGFILE_EXT

説明: ログ・ファイルに指定されたファイル名に ECH の拡張子があります。この拡張子は無効です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **37930**

FLG_ERR_TAGFILE_LOGFILE_CONFLICT

説明: 指定されたログ・ファイルがタグ言語ファイルと同じです。2 つのファイルは異ならなければなりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **38000**

FLG_ERR_INVALID_EXPORT_IOSTRUCT

説明: FLGExport の入力構造が無効です。

有効な拡張コード: オブジェクトの順序番号

理由コード **38001**

FLG_ERR_INVALID_CFLAG

説明: コンテニー・フラグ値が FLGExport 入力構造で無効です。

有効な値は Y または N です。

有効な拡張コード: オブジェクトの順序番号

理由コード **38002**

FLG_ERR_INVALID_TFLAG

説明: コンタクト・フラグ値が FLGExport 入力構造で無効です。

有効な値は Y または N です。

有効な拡張コード: オブジェクトの順序番号

理由コード **38003**

FLG_ERR_TAGFILE_EXIST

説明: エクスポート出力タグ言語ファイル (pszTagFileID) に指定された名前が、すでに存在するファイルをポイントしています。

出力タグ言語ファイルの名前は既存のものではありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **38004**

FLG_ERR_GET_ICON_FAILED

説明: 指定されたオブジェクト・タイプのアイコンをエクスポートできません。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **38005**

FLG_ERR_INVALID_AFLAG

説明: エクスポート入力構造の接続フラグが無効です。有効な値は Y と N です。

有効な拡張コード: オブジェクトの順序番号

理由コード 38006

FLG_ERR_INVALID_LFLAG

説明: エクスポート入力構造のリンク・フラグが無効です。有効な値は Y と N です。

有効な拡張コード: オブジェクト・タイプの順序番号。

理由コード 39000 **FLG_ERR_UPM_FAIL**

説明: ユーザー・プロファイル管理ユーティリティーに障害が起きました (ログオンが失敗したか、またはログオン・ユーザー ID が接続されたユーザー ID と異なっている)。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39001

FLG_ERR_INV_INPUT_PARM

説明: コマンドの入力パラメーター・キーワードが無効か、欠落しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39002

FLG_ERR_MISSING_PARM_VALUE

説明: コマンドの入力パラメーター値が無効か、欠落しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39003

FLG_ERR_INIT_BIDI_ERROR

説明: 双方向環境の初期化中、情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。これは、情報カタログ・マネージャーがアラビア語またはヘブライ語のマシンで稼働しているときのみ適用されます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39201

FLG_ERR_INVALID_USERTYPE_FOR_UPDATE

説明: 更新を指定されたユーザー・タイプが無効です。有効なタイプは 1 次またはバックアップ管理者です。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39202

FLG_ERR_INVALID_USERTYPE_FOR_CRT_OR_DEL

説明: 作成または削除を指定されたユーザー・タイプが無効です。オブジェクト管理タスクの実行を許可されたユーザーだけが、作成または削除を行うことができます。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39203

FLG_ERR_INVALID_ID_BAD_CHAR

説明: 指定されたユーザー ID に無効な文字があります。有効な文字については、ご使用のデータベースの資料を参照してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39204

FLG_ERR_INVALID_ID_NUM_START

説明: 指定されたユーザー ID が数字で始まっています。これは有効な先頭文字ではありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 39205

FLG_ERR_INVALID_ID_IMB_BLANK

説明: 指定されたユーザー ID に組み込みブランクがあります。これは許されていません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **39206**

FLG_ERR_INVALID_MUU_OPT

説明: FLGManageUsers API に指定されたオプションが無効です。有効なアクションは、FLG_ACTION_CREATE、FLG_ACTION_UPDATE、FLG_ACTION_DELETE、FLG_ACTION_LIST です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **39209**

FLG_ERR_INVALID_PADMIN_USERID

説明: 1 次管理者に指定されたユーザー ID が無効です。データベースの資料でユーザー ID の構文を確かめてください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **39210**

FLG_ERR_INVALID_BADMIN_USERID

説明: バックアップ管理者に指定されたユーザー ID が無効です。データベースの資料でユーザー ID の構文を確かめてください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **39211** **FLG_ERR_INVALID_POWERUSER_USERID**

説明: 指定されたユーザー ID が無効です。データベースの資料でユーザー ID の構文を確かめてください。

有効な拡張コード: 入力構造に無効なユーザー ID に対する索引があります。

理由コード **39502** **FLG_ERR_CDF_ERROR**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **39504**

FLG_ERR_INSTPROFILE_ERROR

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **39700** **FLG_ERR_TERM_FAIL_ROLLBACK_CLOSE**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **39701** **FLG_ERR_TERM_FAIL_ROLLBACK**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **39702**

FLG_ERR_TERM_FAIL_COMMIT

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **40001**

FLG_ERR_INVALID_CONFIG_PROFILE

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに有効な BEGIN CONFIGURATION がありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40002** **FLG_ERR_CONFIGFILE_READERR**

説明: MDIS インポートが構成プロファイル・ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **40003** **FLG_ERR_CONFIGFILE_**
CLOSEERR

説明: MDIS インポートが構成プロファイル・ファイルのクローズ中にエラーを検出しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **40006**
FLG_ERR_CONFIGFILE_INV_
BEGIN_STMT

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに無効な BEGIN ステートメントがあります。有効なステートメントは BEGIN CONFIGURATION です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40007**
FLG_ERR_CONFIGFILE_INV_
END_STMT

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに無効な END ステートメントがあります。有効なステートメントは END CONFIGURATION です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40010**
FLG_ERR_CONFIGFILE_INV_
KEYWORD

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに無効なキーワードがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40011**
FLG_ERR_CONFIGFILE_INV_
TEXT

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに無効なテキストがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40012**
FLG_ERR_CONFIGFILE_INV_
VALUE

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに無効なキーワード値があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40013**
FLG_ERR_CONFIGFILE_VALUE_
TOO_LONG

説明: MDIS 構成プロファイル・ファイルに、キーワードに許された最大長を超えるキーワードがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40015** **FLG_ERR_CONFIGFILE_**
PREMATURE_EOF

説明: MDIS インポートが予期せず構成プロファイル・ファイルの終わりを検出しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40021**
FLG_ERR_INVALID_TOOL_
PROFILE

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに有効な BEGIN TOOL セクションがありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40022**
FLG_ERR_TOOLFILE_READERR

説明: MDIS インポートがツール・プロファイル・ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **40023**
FLG_ERR_TOOLFILE_CLOSEERR

説明: MDIS インポートがツール・プロファイル・ファイルのクローズ中にエラーを検出しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **40026**
FLG_ERR_TOOLFILE_INV_BEGIN_STMT

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに無効な BEGIN ステートメントがあります。有効なステートメントは BEGIN TOOL と BEGIN APPLICATIONDATA です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40027**
FLG_ERR_TOOLFILE_INV_END_STMT

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに無効な END ステートメントがあります。有効なステートメントは END TOOL と END APPLICATIONDATA です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40030**
FLG_ERR_TOOLFILE_INV_KEYWORD

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに無効なキーワードがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40031**
FLG_ERR_TOOLFILE_INV_TEXT

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに無効なテキストがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40032** **FLG_ERR_TOOLFILE_INV_VALUE**

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに無効なキーワード値があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40033**
FLG_ERR_TOOLFILE_VALUE_TOO_LONG

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに、キーワードに許された最大長を超えるキーワードがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40034** **FLG_ERR_TOOLFILE_CONFLICTING_VALUES**

説明: MDIS ツール・プロファイル・ファイルに、矛盾する RECORD、DIMENSION、または ELEMENT 値があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40050** **FLG_ERR_TOOLFILE_PREMATURE_EOF**

説明: MDIS インポートが予期せずツール・プロファイル・ファイルの終わりを検出しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **40100**
FLG_ERR_UNSUPPORTED_MDIS_FUNCTION

説明: 構成プロファイル・ファイルが、情報カタログ・マネージャーでサポートされていない機能を指定しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40101

**FLG_ERR_MISSING_REQ_
MDIS_KEYWORD**

説明: 必須 MDIS キーワードがタグ言語ファイルにありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40110 **FLG_ERR_TAGFILE_INV_
KEYWORD**

説明: MDIS タグ言語ファイルに無効なキーワードがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40111

FLG_ERR_TAGFILE_INV_TEXT

説明: MDIS タグ言語ファイルに無効なテキストがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40112

FLG_ERR_TAGFILE_INV_VALUE

説明: MDIS タグ言語ファイルに無効なキーワード値があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40113

**FLG_ERR_TAGFILE_VALUE_
TOO_LONG**

説明: MIDS タグ言語ファイルに、キーワードに許された最大長を超えるキーワード値があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40115

FLG_ERR_MISSING_DQUOTE

説明: キーワードの後に二重引用符がありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40116

**FLG_ERR_UNEXPECTED_
DQUOTE**

説明: 予期せず二重引用符が見つかりました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40117 **FLG_ERR_SPECIFIED_
PROPERTY_NOT_FOUND**

説明: 指定されたプロパティ短縮名がターゲット・データベースに見つかりません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40118

**FLG_ERR_TAGFILE_INV_END_
STMT**

説明: MDIS タグ言語ファイルに無効な END ステートメントがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40119 **FLG_ERR_TAGFILE_INV_
BEGIN_STMT**

説明: MDIS タグ言語ファイルに無効な BEGIN ステートメントがあります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40130 **FLG_ERR_INV_RECORD_
SECTION**

説明: BEGIN RECORD セクションが MDIS タグ言語ファイルで間違ったネストがされています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40131

FLG_ERR_INV_DIMENSION_
SECTION

説明: BEGIN DIMENSION セクションが MDIS タグ言語ファイルで間違ったネストがされています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40132

FLG_ERR_INV_SUBSCHEMA_
SECTION

説明: BEGIN SUBSCHEMA セクションが MDIS タグ言語ファイルで間違ったネストがされています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40201 **FLG_ERR_DUPLICATE_**
IDENTIFIER

説明: ID 値が MDIS タグ言語ファイルで重複しています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40202

FLG_ERR_INV_IDENTIFIER_
REFERENCE

説明: SourceObjectIdentifier または TargetObjectIdentifier 値が、タグ言語ファイルで以前に定義された ID 値を参照していません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40211

FLG_ERR_INV_PART1_VALUE

説明: MDIS オブジェクトの最初のパーツの値が、親の値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40212

FLG_ERR_INV_PART2_VALUE

説明: MDIS オブジェクトの 2 番目のパーツの値が、親の値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40213

FLG_ERR_INV_PART3_VALUE

説明: MDIS オブジェクトの 3 番目のパーツの値が、親の値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40214

FLG_ERR_INV_PART4_VALUE

説明: MDIS オブジェクトの 4 番目のパーツの値が、親の値に一致しません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40215 **FLG_ERR_MDIS_WORK_**
BUFFER_OVERFLOW

説明: MDIS ファイル (構成プロファイル・ファイル、ツール・プロファイル・ファイル、またはタグ言語ファイル) に、内部作業バッファに許された最大サイズ (32,700 バイト) を超える値があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 40216

FLG_ERR_MDIS_APPL_DATA_
TOO_LONG

説明: MDIS タグ言語ファイルの ApplicationData セクションが、Application data オブジェクト・タイプの制限を超えています。Application data オブジェクト・タイプは 10 プロパティでそれぞれ 32,700 バイトに制限されています。

有効な拡張コード: なし

理由コード 80000 FLG_SEVERR

説明: プレースホルダー。重大エラーの数値的範囲の先頭を示します。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 80002
FLG_SEVERR_NO_MEMORY**

説明: 情報カタログ・マネージャーはこれ以上のメモリーを割り振れません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 80003
FLG_SEVERR_MEM_ERROR**

説明: 以下のいずれかが起きました。

- ハードウェア・メモリー割り込みが起きた。
- 情報カタログ・マネージャー・ヒープで破壊が起きたため、情報カタログ・マネージャーはメモリーを割り振りおよび割り振り解除できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 80004 FLG_SEVERR_NO_CSA

説明: 情報カタログ・マネージャー内部エラー。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 80005
FLG_SEVERR_APIDLL_FAILURE**

説明: API DLL が API 呼び出しにないか、または API DLL をロードできませんでした。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 80006
FLG_SEVERR_VIOPOPUP_FAIL**

説明: 情報カタログ・マネージャーは、ビデオ入出力 (VIO) を使用して OS/2 文字ベース・エラー・メッセージを表示できません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 80007
FLG_SEVERR_BIDIDLL_FAILURE**

説明: PMBIDI.DLL のロード中に情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。この DLL は、情報カタログ・マネージャーがアラビア語またはヘブライ語のマシンで稼働するときに必要なになります。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 80008
FLG_SEVERR_DG2IFORDLL_FAILURE**

説明: 必須 DG2IFOR.DLL ファイルが見つからないか、または無効です。情報カタログ・マネージャーは処理を続行できません。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 81000
FLG_SEVERR_STARTDBM_FAIL**

説明: ローカル・データベース管理システムを開始できません。SQLCODE の説明については、データベースの資料を参照してください。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 81001
FLG_SEVERR_STARTDB_FAIL**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード 81002 FLG_SEVERR_DB_DISCONNECTED

説明: データベースが予期せず切断されました。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 81003 FLG_SEVERR_DB_
INCONSISTENT**

説明: 情報カタログ・マネージャーがデータベース内の不整合を検出しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 81004 FLG_SEVERR_COMMIT_FAIL

説明: データベースに対するコミット呼び出しが失敗しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 81005 FLG_SEVERR_ROLLBACK_FAIL

説明: データベースに対するロールバック呼び出しが失敗しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード 81006 FLG_SEVERR_NO_DBSPACE

説明: データベース・サーバーのスペースが足りないか、またはファイル・システムがいっぱいです。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 81007 FLG_SEVERR_DB_AUTO_
ROLLBACK_COMPLETE**

説明: 情報カタログ・マネージャーがデータベース・エラーを検出し、コミットされていない変更をデータベースにロールバックしました。

情報カタログ・マネージャーにロールバックを実行させるエラー条件を記述するデータベース SQLCODE について、拡張コードを調べてください。

有効な拡張コード: データベース SQLCODE

**理由コード 81008 FLG_SEVERR_DB_AUTO_
ROLLBACK_FAIL**

説明: 情報カタログ・マネージャーがデータベース・エラーを検出し、コミットされていない変更をデータベースにロールバックしようとしたましたが、ロールバックが失敗しました。

情報カタログ・マネージャーにロールバックを実行させるエラー条件を記述するデータベース SQLCODE について、拡張コードを調べてください。

データベースが不整合状態にあり、リカバリーが必要である可能性があります。

有効な拡張コード: データベース SQLCODE

理由コード 82000 FLG_SEVERR_INIT_FAIL

説明: 情報カタログ・マネージャーが予期しない状態、おそらく OS/2 内部メモリー・エラーを検出しました。このため情報カタログ・マネージャーは正常に実行できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 82001 FLG_SEVERR_TERM_FAIL

説明: 情報カタログ・マネージャーが予期しない状態、おそらく OS/2 内部メモリー・エラーを検出しました。このため情報カタログ・マネージャーは割り振られたリソースを解放できません。リソースは、呼び出し側アプリケーション・セッションが終了すると解放されます。

有効な拡張コード: なし

**理由コード 82002 FLG_SEVERR_TERM_FAIL_
CLOSE**

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **82200**

FLG_SEVERR_GETREG_FAILED

説明: エクスポートが FLGGetReg を呼び出し、これが重大エラーを返しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **82201**

FLG_SEVERR_GETINST_FAILED

説明: エクスポートが FLGGetInst を呼び出し、これが重大エラーを返しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **82202**

FLG_SEVERR_LISTCONTACTS_FAILED

説明: エクスポートが FLGListContacts を呼び出し、これが重大エラーを返しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **82203**

FLG_SEVERR_NAVIGATE_FAILED

説明: エクスポートが FLGNavigate を呼び出し、これが重大エラーを返しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **82204**

FLG_SEVERR_FREEMEM_FAILED

説明: エクスポートが FLGFreeMem を呼び出し、これが重大エラーを返しました。

有効な拡張コード: 理由コード

理由コード **82400**

FLG_SEVERR_THREAD_FAILED

説明: 新しいスレッドを作成中に重大エラーが起き、情報カタログ・マネージャーを続行できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **82500**

FLG_SEVERR_PARMS_MISSING

説明: 情報カタログ・マネージャーが必要とするシステム表が壊れているか、またはありません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **82501** **FLG_SEVERR_DGEMPTY**

説明: 情報カタログ・マネージャー・データベースに登録またはオブジェクト・タイプがありません。データベースが壊れています。

バックアップ・データベース・ファイルを使用してデータベースをリカバリーしてください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **82502**

FLG_SEVERR_TYPE_WOUT_PROPERTY

説明: 指定されたオブジェクト・タイプにプロパティがないか、または情報カタログ・マネージャーがプロパティを検索できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **82503**

FLG_SEVERR_MORE_THAN_ONE_KA

説明: セキュリティ違反が起きました。複数の管理者が同時にログオンしました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **83000** **FLG_SEVERR_SESSION_**
ABENDED

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **83001**
FLG_SEVERR_CDF_ERROR

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **83002**
FLG_SEVERR_INTERNAL_
ERROR

説明: 予約

有効な拡張コード: なし

理由コード **84000**
FLG_SEVERR_DEMO_EXPIRED

説明: IBM 情報カタログ・マネージャー管理者の評価期間が終了しました。製品のオーダーは、最寄りのソフトウェア販売店または IBM 担当員にお問い合わせください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84101**
FLG_SEVERR_DB_CONNECT_
FAILED

説明: データベースに接続できません。SQLCODE の説明については、データベースの資料を参照してください。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84102** **FLG_SEVERR_DB_BIND**

説明: 情報カタログにバインドできません。情報カタログ・マネージャーが予期しないデータベース・エラーを見つけたか、または現行ディレクト

リーまたはパスでバインド・ファイルを見つけれません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84103**
FLG_SEVERR_INSAUTH_BIND

説明: 情報カタログにバインドするには SYSADM 権限が必要です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84104**
FLG_SEVERR_CREATETAB

説明: 情報カタログ・マネージャー・システム表を作成できません。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84105**
FLG_SEVERR_INSAUTH_GRANT

説明: 情報カタログのアクセス権を与えるには SYSADM 権限が必要です。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84106** **FLG_SEVERR_**
CREATECOLLECTION

説明: 情報カタログ・マネージャーが DB2 UDB (AS/400 版) ライブラリー・コレクションの作成に失敗しました。

有効な拡張コード: なし

理由コード **84107**
FLG_SEVERR_ICON_NOT_
GENERATED

説明: 情報カタログ・マネージャーがシステム・エラーを検出したか、アイコン・ファイルまたは実行可能ファイルを見つけれません。

情報カタログ・マネージャー・アイコンは生成されません。

有効な拡張コード: なし

理由コード 84108 FLG_SEVERR_DGCOL_
NOTEXIST

説明: このユーティリティを呼び出す前に、DB2 UDB (AS/400 版) ライブラリー・コレクション、DATAGUID を作成する必要があります。

有効な拡張コード: なし

理由コード 84109
FLG_SEVERR_DB_NOTFOUND

説明: 情報カタログ・マネージャーが指定されたデータベースを見つけられません。存在しない場

FLG0001 – FLG0083 情報カタログ・マネージャー・メッセージ

FLG0001W 選択されたワイルドカード
<wildcard> は、適用できない値を示すために使用される文字と同じです。これは検索の結果に影響を与え可能性があります。<wildcard> をワイルドカードとして使用しますか?

説明: ワイルドカードとして選択した文字が、適用不可能または存在しない値を示すために使用される文字と同じになっています。このメッセージはその文字をワイルドカードにしておくかどうかを尋ねています。ワイルドカードにしておく場合、文字はワイルドカードとして扱われ、適用不可能値としては扱われません。これは検索の結果に影響を与える可能性があります。

ユーザーの処置: 文字をワイルドカードにしておきたい場合は、メッセージ・ウィンドウの「はい」をクリックしてください。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

FLG0003E カatalog名が間違って入力されたか、まだ登録されていません。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、使用する前に登録されている必要があります。情報カタロ

グはデータベースを作成してください。次にリモート・データベースをワークステーションに登録してください。

有効な拡張コード: なし

グが正しく登録されていませんでした。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャー登録ユーティリティを使用して、情報カタログを登録してください。情報カタログ名を正しく入力したかを確認してください。

FLG0004E ユーザー・プロファイル <profile name> が壊れています。情報カタログ・マネージャーはクローズされます。

説明: ユーザー登録が、アプリケーション、レジストリーを編集している人、または情報カタログ FLGSETT の命名によって損傷を受けています。

ユーザーの処置: REGEDIT ツールの使い方が分かっている場合は 管理者応答を完了し、そうでない場合は管理者に支援を依頼してください。

管理者の応答:

1. MS-DOS プロンプトで WINDOWS ディレクトリーに変更します。
2. コマンド・プロンプトで REGEDIT と入力します。
3. ..\DGWIN\<profile name>.INI というセクションを削除します。<profile name> は、メ

ッセージに示されたユーザー・プロファイル名です。レジストリーから情報を削除するときは注意が必要です。間違えて削除すると、他のアプリケーションまたはデスクトップに影響するおそれがあります。

そうすれば問題が除去されますが、削除したユーザー・プロファイルが FLGSETT.INI である場合、設定情報は失われます。他のユーザー・プロファイルが削除された場合は、コレクションまたは保管された検索が失われます。

FLG0005W 情報カタログ・マネージャーが現行ディレクトリーまたはヘルプ・パスでヘルプ・ファイルを見つけられません。製品情報とオブジェクト・タイプ凡例を除き、ヘルプは使用できなくなります。

説明: ヘルプ・ファイルが削除、名前変更、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。その結果、次の「ヘルプ」メニュー項目が使用できなくなります。

ヘルプ索引
一般ヘルプ
ヘルプ使用法

F1 を押したときにヘルプが使用できなくなります。

ヘルプ機能なしで情報カタログ・マネージャーの稼働を続けることができます。ヘルプ・ファイルをリカバリーできない場合は、再インストールすることができます。

FLG0006E このウィンドウはオープンできませんでした。

説明: 現在オープンしているウィンドウが多すぎるか、または内部エラーがあります。

ユーザーの処置: ウィンドウをいくつかクローズして、必要なウィンドウをもう一度オープンして

ください。このメッセージが再度出される場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0007E 情報カタログ・マネージャーが予期しないエラーを検出したため、クローズされます。理由コードは **<reason code>** です。プレゼンテーション・マネージャー・コードは **<PM reason code>** です。

説明: 重大な Windows エラーが起きました。

ユーザーの処置:

1. 情報カタログ・マネージャーのクローズ後に、トレース・ファイルを名前変更することで保管してください。(トレース・ファイルは使用している情報カタログと同じ名前です。DGWPATH で指定されたディレクトリーにあります。)
2. 情報カタログ・マネージャーをオープンして、アクションを再試行してください。このメッセージが再度出される場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: メッセージが出されたときに実行されていた他のアプリケーションを書き留めて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0008E **<field name>** フィールドには入力が必要です。

説明: 必須フィールドに入力されていません。

ユーザーの処置: 空のフィールドに入力して、アクションを再試行してください。

FLG0009E この名前のコレクションがすでに存在します。

説明: 複数のコレクションに同じ名前を使用することはできません。

ユーザーの処置: 異なる名前をコレクションに割り当ててください。

FLG0010E データベース <database name> がストレージを使い果たしました。情報カタログ・マネージャーはクローズされます。管理者の処置が必要です。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログのあるドライブがいっぱいです。

管理者の応答: ドライブ上のファイルをいくつか削除するか、または情報カタログを別のドライブに移動してください。

FLG0011E 必須の情報カタログ・マネージャー・ファイルが見つからないか、または無効です。管理者の処置が必要です。理由コードは <reason code> です。

説明: ファイルが壊れているか、削除、名前変更、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。

管理者の応答: 情報カタログ・マネージャーをクローズして、以下を確認してください。

- AUTOEXEC.BAT ファイルで、LIBPATH が情報カタログ・マネージャーファイルのあるディレクトリーを指定している。
- DGWAPI.DLL および DGWCOM.DLL ファイルが LIBPATH で指定されたディレクトリーにある。
- DGWRES.DLL が DGWPATH で指定されたディレクトリーにある。

情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。メッセージが再度出される場合は、情報カタログ・マネージャーをクローズして再インストールしてください。

FLG0012E 情報カタログ・マネージャー・トレース機能が内部エラーを検出し、クローズされます。トレース・ファイルは不完全である可能性があります。

説明: 情報カタログ・マネージャーがトレース・ファイルを作成できないか、またはシステム限界に達しました。トレース・ファイルは不完全である可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 情報カタログ・マネージャーをクローズして、AUTOEXEC.BAT ファイルをオープンしてください。
2. DGWPATH が情報カタログ・マネージャーファイルのある既存のディレクトリーを指定していることを確かめてください。DGWPATH が有効な場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: メッセージが出されたときに操作していたデータを書き留めて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0013E このウィンドウのオブジェクトは以前に削除されています。ウィンドウの一部のみが印刷または保管可能です。

説明: このウィンドウをオープンした後に、管理者またはオブジェクトの削除許可を持つユーザーがオブジェクトを削除しました。

ユーザーの処置:

1. ウィンドウをクローズしてください。
2. ウィンドウを再オープンしてください。
3. ウィンドウの内容を印刷または保管してください。

FLG0014E 開始されたアクションが多すぎるか、またはオープンしているウィンドウが多すぎます。情報カタログ・マネージャーが処理を完了したら、ウィンドウをいくつかクローズする必要があるかもしれません。

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- 同時に開始された情報カタログ・マネージャーアクションが多すぎるため、情報カタログ・マネージャーがすべてのアクションを完了できない。
- 現在オープンしている情報カタログ・マネージャーウィンドウが多すぎるため、これ以上の情報カタログ・マネージャーをオープンできない。

ユーザーの処置: 必要に応じて、以下を行ってください。

- 同時に開始するアクションを減らすか、またはアクションを開始する対象オブジェクトを減らします。
- 情報カタログ・マネージャーが処理を完了したら、ウィンドウをいくつかクローズします。

FLG0015E 情報カタログ・マネージャーが予期しないエラーを検出したため、クローズされます。管理者の処置が必要です。理由コードは **<reason code>** です。

説明: 情報カタログ・マネージャーがメモリーを解放できません。

管理者の応答:

1. 情報カタログ・マネージャーのクローズ後に、トレース・ファイルを名前変更することで保管してください。(トレース・ファイルは使用している情報カタログと同じ名前です。DGWPATH で指定されたディレクトリーにあります。)
2. IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0016W 情報カタログ・マネージャーがアイコン・ファイル **<icon file name>** をロードできません。デフォルトまたは以前のアイコンが使用されません。

説明: アイコン・ファイルがこのシステムにとって正しくない形式であるか、または壊れています。

FLG0017E プロパティーの値がタイム・スタンプ形式 **<timestamp format>** に従っていないために無効です。

説明: プロパティーに形式の正しくないタイム・スタンプが入っているため、情報カタログ・マネージャーが検索を実行できません。

ユーザーの処置: タイム・スタンプを正しい形式で入力して、検索を再試行してください。

FLG0018E 情報カタログが更新されたため、この検索は無効ではなくなりました。基準に含まれていないオブジェクト・タイプが存在します。

説明: 検索は少なくとも 1 つのオブジェクト・タイプを指定していなければなりません。この検索に指定されたオブジェクト・タイプには存在しないものがあります。このため検索は現在無効になっています。

ユーザーの処置: 検索を削除するか、または既存のオブジェクト・タイプを少なくとも 1 つ指定してください。

FLG0019E 選択されたアイコン・ファイルは取り外し可能ディスク **<disk>** にあるため、使用できません。

説明: アイコン・ファイルは取り外し可能でないディスク上になければなりません。

ユーザーの処置: アイコン・ファイルを取り外し不能ディスクにコピーして「検索」プッシュボタ

ンをクリックし、もう一度アイコン・ファイルを位置指定してください。

FLG0020W 情報カタログ・マネージャーが予期しないエラーを検出しました。製品情報とオブジェクト・タイプ凡例を除き、ヘルプは使用できなくなります。

説明: 情報カタログ・マネージャーがそのヘルプ・ファイルにアクセスできません。その結果、次の「ヘルプ」メニュー項目が使用できなくなります。

ヘルプ索引

一般ヘルプ

ヘルプ使用法

キー・ヘルプ

F1 を押したときにヘルプが使用できなくなります。ヘルプ機能をなしで情報カタログ・マネージャーの稼働を続けることができます。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーをクローズして再オープンすると、ヘルプに再度アクセス可能になる場合があります。それでも上記のヘルプ機能にアクセスできない場合は、すべてのヘルプ・ファイルを再インストールしてください。

FLG0021E データベース <database name> はすでに他の情報カタログ・マネージャー・セッションが使用しているため、この情報カタログ・マネージャー・セッションがこのデータベースを使用できません。

説明: 同じ情報カタログを複数の情報カタログ・マネージャーセッションから使用することはできません。

ユーザーの処置: この情報カタログ・マネージャーセッションをクローズして、すでに情報カタログに接続している他のセッションを使用してください。

FLG0022E すべての値の合計長が長すぎるため、検索ができません。いくつかの値を短くして再実行してください。

説明: 入力されたすべての値の長さが、情報カタログ・マネージャーが検索ごとに扱うことのできる最大長を超えています。

ユーザーの処置: いくつかの値を短くして再実行してください。

FLG0023W 新しく作成したオブジェクト・タイプ <object type name> についての検索を保管しようとしたが、<object type name> - という名前の検索が既に存在します。<object type name> - を保管しますか?

説明: 新しいオブジェクト・タイプが作成され、情報カタログ・マネージャーがこのタイプのすべてのオブジェクトについての検索を保管しようとした。情報カタログ・マネージャーがこの検索に自動的に与えた名前が、情報カタログに保管された既存の検索の名前と競合します。このメッセージは、新しい検索をその名前で保管したいのかどうかを尋ねています。その名前で保管した場合は、既存の検索が失われることになります。

ユーザーの処置: 検索を保管したい場合は、メッセージ・ウィンドウの「はい」をクリックしてください。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

FLG0024W 情報カタログ が更新されています。最新の情報を得るには、ウィンドウをクローズおよび再オープンしてから再実行してください。

説明: 情報カタログが変更されました。その結果、一部の情報が古くなっている可能性があります。

ユーザーの処置: ウィンドウをクローズおよび再オープンした後もこのメッセージが出される場合は、情報カタログ・マネージャーをログオフし

て、情報カタログ・マネージャーをもう一度オープンしてください。

FLG0025E スtring・ファイル **fblnstr.str** が見つからなかったか、または無効です。

説明: ファイルが壊れているか、削除、名前変更、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。

ユーザーの処置: ファイルを再インストールしてください。

FLG0026W この名前の検索はすでに存在しません。 <search name> として保管しますか？

説明: 複数の検索に同じ名前を使用することはできません。このメッセージは、検索をその名前で保管したいのかどうかを尋ねています。その名前で保管した場合は、他の検索が失われることになります。

ユーザーの処置: 検索を保管したい場合は、メッセージ・ウィンドウの「はい」をクリックしてください。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

FLG0027W オブジェクト <object name> はコレクション <collection name> に移動されませんでした。これは、コレクションにすでにオブジェクトが含まれているためです。

説明: オブジェクトはコレクション内に複数存在することはできません。

FLG0028E ユーザー ID またはパスワードが登録されていないか、正しく入力されていません。

説明: このメッセージは次のいずれかの理由で出されます。

- ユーザー ID が登録されていなかった。

- 入力したユーザー ID またはパスワードが間違っていた。

ユーザーの処置:

- ユーザー ID またはパスワードの入力が間違っていた場合は、これを再入力して「了解」をクリックしてください。
- ユーザー ID またはパスワードが登録されていなかった場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: ユーザー ID とパスワードを登録してください。

FLG0029W 現在の情報カタログで「大小文字の無視」がサポートされていないため、検索結果が変わった可能性があります。

説明: 「大小文字の無視」が使用できないため、検索では大文字小文字が区別されます。このため、通常は検索結果に示されていたオブジェクトのいくつかを示されなくなる可能性があります。

FLG0031W オブジェクト <object name> はコレクション <collection name> にコピーされませんでした。これは、コレクションにすでにオブジェクトが含まれているためです。

説明: オブジェクトはコレクション内に複数存在することはできません。

FLG0032E この番号はメッセージ・ファイル・エラーのヘルプのために予約されています。

説明: メッセージ・ファイルが壊れているか、削除、名前変更、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。また他の可能性として、メッセージがメッセージ・ファイルに見つからなかったことが考えられます。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルをリカバリーするか、または新しいメッセージ・ファイルをインストールしてください。メッセージ・ファ

イルがリカバリーまたは再インストールできない場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0033E 情報カタログ・マネージャーが予期しない内部エラーを検出したため、クローズされます。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 内部エラーが起きました。

ユーザーの処置:

1. 情報カタログ・マネージャーのクローズ後に、トレース・ファイルを名前変更することで保管してください。(トレース・ファイルは使用している情報カタログと同じ名前です。DGWPATH で指定されたディレクトリーにあります。)
2. 情報カタログ・マネージャーをオープンして、アクションを再試行してください。このメッセージが再度出される場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: メッセージが出されたときに操作していたデータを書き留めて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0034E 情報カタログ・マネージャーが予期しないデータベース・エラーを検出したため、クローズされます。管理者の処置が必要です。SQL コードは **<SQL code>** です。

説明: データベース・エラーが起きました。

管理者の応答: DB2 (OS/2 版)、DB2 UDB (AS/400 版)、DB2 UDB (AIX 版)、または DB2 UDB (Windows NT 版) データベースを使用している場合は、DB2 ユニバーサル・データベースメッセージ解説書 で SQL コードを調べてください。

DB2 (MVS/ESA 版) データベースを使用している

場合は、DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) メッセージおよびコード で SQL コードを調べてください。

問題が解決しない場合、またはさらに支援が必要な場合は、トレースをオンにして問題を再現し、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0035E 情報カタログ・マネージャーがデータベースにアクセスできないため、クローズされます。

説明: データベース接続が異常終了しました。

ユーザーの処置: 接続のタイプに応じて、次のいずれかを行い、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。

- LAN への物理接続をクライアントとサーバーの両方について調べます。
- LAN にログオンしていることを確かめます。
- ネットワーク・プロトコル接続が存続していることを確かめます。

上記の処置を行ってもこのメッセージが再度出される場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: 接続のタイプに応じて、次のいずれかを確認し、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。

- データベース・サーバーが稼働している。
- 他のユーザーが接続できる。
- ユーザーのデータベース・サーバーまたは LAN への接続が存続している。

FLG0036E 情報カタログ・マネージャーが予期しないデータベース損傷を検出したため、クローズされます。管理者の処置が必要です。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 情報が情報カタログから失われているか、またはインストール・エラーがあります。

管理者の応答: 情報カタログ・マネージャーを再インストールする必要があります。情報カタログの最新のバックアップがある場合は、それを復元してください。ない場合は、データのタグ・ファイルをインポートして、情報カタログを再作成できるかもしれません。

FLG0040E オブジェクトの移動またはコピー先になるようなコレクションは他に作成されていません。別のコレクションを作成して再試行してください。

説明: 情報カタログにはコレクションが 1 つしかありません - これはオブジェクトのコピーまたは移動元です。これらのオブジェクトのコピーまたは移動先であるコレクションは他にありません。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーの「カタログ」ウィンドウのメニュー・バーで「カタログ」→「コレクションの作成」をクリックして、別のコレクションを作成し、再試行してください。

FLG0041E ファイルをクローズすることができません。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーがファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーをクローズしてください。この結果 Windows によってファイルがクローズされる可能性があります。

FLG0042E コレクションが作成されていません。コレクションを作成して再試行してください。

説明: オブジェクトのコピー先になるコレクションが情報カタログにありません。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーの「カタログ」ウィンドウのメニュー・バーで「カ

タログ」→「コレクションの作成」をクリックして、コレクションを作成してから再試行してください。

FLG0043E ファイルを保管できません。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーがファイルのパスで指定されたディスクにアクセスできないか、または書き込み保護された既存ファイルに書き込もうとしている可能性があります。

ユーザーの処置: 有効なディスク・ドライブを指定したかを確認してください。既存ファイルへの書き込みを行っている場合は、代わりに新しいファイルへ書き込んでみてください。

FLG0044W 情報カタログ・マネージャーがアイコン・ファイル <icon file name> を見つけられません。デフォルト・アイコンが使用されます。

説明: アイコン・ファイルが削除、名前変更、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。

FLG0045E 呼び出し構文エラー: <keyword> に値が必要です。理由コードは <reason code> です。

説明: 示されたキーワードには値が必要です。

ユーザーの処置: キーワードに有効な値を指定して、コマンドを入力し、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。情報カタログ・マネージャーの呼び出しの正しい構文については、情報カタログ・マネージャー 管理の手引き を参照してください。

FLG0046E 呼び出し構文エラー: <value> は有効なキーワードではありません。理由コードは <reason code> です。

説明: 示されたキーワードが無効です。

ユーザーの処置: 正しいキーワードを使用して、コマンドを入力し、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。情報カタログ・マネージャーの呼び出しの正しい構文については、*情報カタログ・マネージャー 管理の手引き* を参照してください。

FLG0047E 呼び出し構文エラー: 必須キーワードが欠落しています。理由コードは <reason code> です。

説明: キーワードには後続のキーワードを必要とするものがあります。

ユーザーの処置: 欠落したキーワードを指定して、コマンドを入力し、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。情報カタログ・マネージャーの呼び出しの正しい構文については、*情報カタログ・マネージャー 管理の手引き* を参照してください。

FLG0048E プロパティー <property name> に入力した値が長すぎます。

説明: プロパティーに最大長を超える値が入っているため、情報カタログ・マネージャーが検索を実行できません。

ユーザーの処置: プロパティーの値を短くして、検索を再試行してください。

FLG0049W <field> が無効です。

説明: いずれかのフィールドの入力が無効です。

ユーザーの処置: フィールドの入力を訂正して、アクションを再試行してください。

FLG0050E ファイルをオープンすることはできません。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーがファイルを書き込みオープンできません。

ユーザーの処置: 以下の項目について確認してください。

- ディスク・ドライブがアクセス可能である。
- ディスクの書き込み許可を持っている。
- ディスクがいっぱいではない。
- ファイルが読み取り専用ではない。

FLG0051E メモリーが不足しているため、情報カタログ・マネージャーはクローズされます。ウィンドウまたはアプリケーションをいくつかクローズする必要がある場合があります。

説明: 情報カタログ・マネージャーは次のいずれかの理由で、より多くのメモリーを必要としています。

- 実行中のアプリケーションが多すぎる。
- 情報カタログ・マネージャーが持つオブジェクトまたはオブジェクト・タイプが多すぎる。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーのクローズ後、他のウィンドウおよびアプリケーションをいくつかクローズして、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。

管理者の応答: インポート機能を使用して、現在の情報カタログ・マネージャーからオブジェクトまたはオブジェクト・タイプをいくつか削除してください。

FLG0052E 単一文字ワイルドカードと複数文字ワイルドカードは異ならなければなりません。

説明: 「単一文字ワイルドカード」 および「複数文字ワイルドカード」フィールドに同じ文字を選択しました。

ユーザーの処置: これらのフィールドでそれぞれ異なる文字を選択して、「了解」をクリックしてください。

FLG0053E 情報カタログ・マネージャーがプログラム `<program name>` を開始できません。管理者の処置が必要です。理由コードは `<reason code>` です。

説明: プログラム・オブジェクトにエラーがあるか、またはユーザー環境にプログラムが組み込まれていません。

管理者の応答: 以下の項目について確認してください。

- プログラムが情報カタログ・マネージャーの外部で正常に実行されている。
- PARMLIST プロパティーで指定されたプログラム・パラメーターが正しい構文を使用している。
- プログラムが正しい場所にある。
- 拡張パラメーターの長さが 245 文字を超えていない。
- STARTCMD プロパティーで指定されたプログラム呼び出し名が正しい。

FLG0054E この情報の表示を許可されていません。情報カタログ・マネージャーはクローズされます。管理者に依頼して、`<database name>` 情報カタログに対する適切な許可を取得してください。

説明: この情報カタログにアクセスする許可を持っていません。

ユーザーの処置: 管理者に依頼して、情報カタログに対する適切な許可を取得してください。

FLG0055W この `<search or collection>` が、他の情報カタログ・マネージャー・セッションで情報カタログから削除されました。このオブジェクトは作業域から除去されます。

説明: 使用しようとしているコレクションまたは検索が、現在のセッションと同じ情報カタログおよびユーザー ID を使用する他の情報カタログ・マネージャーセッションから削除されました。

ある情報カタログ・マネージャー・セッションからコレクションまたは検索を削除すると、同じユーザー ID および情報カタログを使用するすべてのセッションについてそのオブジェクトが削除されます。

「了解」をクリックすると、このオブジェクトが現行情報カタログから削除されます。

FLG0056W 現在の情報カタログで「大小文字の無視」がサポートされていないため、検索結果が変わった可能性があります。検索を実行しますか?

説明: 「大小文字の無視」が使用できないため、検索を実行すると大文字小文字が区別されます。このメッセージは、検索を実行するかどうかを尋ねています。実行すると、通常は検索結果に示されていたオブジェクトのいくつかを示されなくなる可能性があります。

ユーザーの処置: 検索を実行したい場合は、メッセージ・ウィンドウの「はい」をクリックしてください。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

FLG0057E プログラム `<program name>` が見つかりません。

説明: プログラム・オブジェクトが正しいパスおよびファイル名を指定していないか、またはユーザーの環境で正しい呼び出しパラメーターを指定していない可能性があります。プログラムが削

除、除去、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。

ユーザーの処置: プログラム・オブジェクトで指定されたパスおよびファイル名が有効であること、プログラムがマシンに存在すること、プログラムが情報カタログ・マネージャーの外部で実行されていることを確かめてください。いずれかが該当しなかった場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: 指定されたパスおよびファイル名が無効である場合は、「**プログラムの更新**」ウィンドウでプログラムの有効なパスおよびファイル名を指定してください。プログラムがユーザーのマシンに存在しない場合は、プログラムをインストールしてください。

FLG0058W 情報カタログ・マネージャーが現行ディレクトリーまたはヘルプ・パスでヘルプ・ファイルを見つけられません。ヘルプは使用できません。

説明: ヘルプ・ファイルが削除、名前変更、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。その結果、次の「ヘルプ」メニュー項目が使用できなくなります。

ヘルプ索引

一般ヘルプ

ヘルプ使用法

キー・ヘルプ

ユーザーの処置: ヘルプ機能なしで情報カタログ・マネージャーの稼働を続けることができます。ヘルプ・ファイルをリカバリーできない場合は、再インストールすることができます。

FLG0059W サブジェクト数が最大を超えています。<total number> サブジェクトのうち <maximum number> が表示されます。

説明: 情報カタログ内のサブジェクトの数が、「サブジェクト」ウィンドウに表示可能な最大数を超えています。

FLG0060E 情報カタログ・マネージャーが <program name> を開始できません。プログラムが **Microsoft Windows** で実行されていないか、またはプログラムがシステムで使用不能になっています。

説明: プログラム・オブジェクトが正しいパスおよびファイル名を指定していないか、またはユーザーの環境で正しい呼び出しパラメーターを指定していない可能性があります。プログラムが削除、除去、または他のディレクトリーに移動された可能性があります。

ユーザーの処置: プログラム・オブジェクトで指定されたパスおよびファイル名が有効であること、プログラムがマシンに存在すること、プログラムが情報カタログ・マネージャーの外部で実行されていることを確かめてください。いずれかが該当しなかった場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: 指定されたパスおよびファイル名が無効である場合は、「**プログラムの更新**」ウィンドウでプログラムの有効なパスおよびファイル名を指定してください。プログラムがユーザーのマシンに存在しない場合は、プログラムをインストールしてください。

FLG0061E 情報カタログ・マネージャーが予期しない **Windows** エラーを検出したため、クローズされます。

説明: 重大な Windows エラーが起きました。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーのクローズ後に、トレース・ファイルを名前変更してください。(トレース・ファイルは使用しているデータベースと同じ名前です。DGWPATH で指定されたディレクトリーにあります。)

情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。このメッセージが再度出される場合は、管理者応答が必要です。

管理者の応答: メッセージが出されたときに実行されていた他のアプリケーションを書き留めて、

IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0064E 入力したデータに、情報カタログ・マネージャーがサポートしていない特殊文字が含まれています。

説明: 入力したテキストに、情報カタログ・マネージャーがサポートしていない特殊文字が入っています。

ユーザーの処置: その文字なしでテキストを入力して、アクションを再試行してください。

FLG0065E <file name> はアイコン・ファイルではありません。情報カタログ・マネージャーはデフォルト・アイコン・ファイルを使用します。

説明: 指定されたファイル名がアイコン・ファイルではないか、または Windows のアイコン形式になっていません。

ユーザーの処置: 他のアイコン・ファイル名を入力してください。

FLG0066W DGWPATH で指定されたディスクがいっぱいのため、情報カタログ・マネージャーがトレースを続行できません。情報カタログ・マネージャー・トレースはオフにされます。

説明: トレース・ファイルのあるディスク・ドライブがいっぱいであるため、情報カタログ・マネージャーがトレース・ファイルにこれ以上情報を書き込むことができません。ディスク・ドライブは AUTOEXEC.BAT ファイルの DGWPATH ステートメントで指定されています。

ユーザーの処置: トレースをもう一度開始するには、指定されたディスク上のファイルをいくつか消去してから情報カタログ・マネージャーを再始動してください。

FLG0067E コレクションへのコピーまたは移動のために選択したオブジェクトの数が、1600 オブジェクトの制限を超えています。 <collection name> コレクションにはすでに <number> オブジェクトがあります。情報カタログ・マネージャーはオブジェクトをコピーまたは移動しませんでした。

説明: 情報カタログ・コレクションに入れられるのは 1600 オブジェクトまでです。指定したコレクションにはすでにオブジェクトが入っています。情報カタログ・マネージャーは選択されたオブジェクトをコレクションにコピーまたは移動しませんでした。

ユーザーの処置: 選択するオブジェクトの数を少なくして、再試行してください。

FLG0068W 印刷ドライバーが無効です。別のプリンターを選択してください。

説明: プリンターに選択した印刷ドライバーは有効なドライバーではありません。

ユーザーの処置: 「プリンター」リストから別のプリンターを選択してください。印刷ドライバーの再インストールが必要な場合もあります。

FLG0069I 印刷ジョブが正常に作成され、プリンターへ経路指定されました。

FLG0070E プリンターが使用できません。別のプリンターを選択してください。

説明: プリンターを使用できません。プリンターの電源が落ちているか、プリンターが LAN 上にある場合はワークステーションがネットワークに接続していない可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- 「プリンター」リストから別のプリンターを選択してください。

- 選択したプリンターの電源が入っていることを確認します。
- 選択したプリンターが LAN に接続されている場合は、ワークステーションがネットワークに接続されているかを確認します。

FLG0071E 内部エラーが発生したため、情報カタログ・マネージャーが印刷ジョブを作成できませんでした。

説明: システムがメモリーを使い果たしたか、または別の問題が発生した可能性があります。

ユーザーの処置: ワークステーションをシャットダウンおよびリブートしてください。

FLG0072E 呼び出し構文エラー: <keyword> に値が必要か、またはその値が無効です。理由コードは <reason code> です。

説明: 示されたキーワードには値が必要です。

ユーザーの処置: 情報カタログを作成するコマンドを入力して、キーワードに有効な値を指定してください。詳細については、情報カタログ・マネージャー 管理の手引き を参照してください。

FLG0073I 印刷ジョブが取り消されました。

FLG0074W 選択したフォントが長すぎるか、または使用できません。

説明: 選択したフォントが長すぎるか、または使用できません。

ユーザーの処置: 他のフォントを選択して、印刷を再実行してください。

FLG0075E <name of comment> を作成できませんでした。作成していない注釈を削除する許可を持っていません。

説明: 作成していない注釈は削除できません。

ユーザーの処置: 注釈を削除するには、注釈を削

除できる次の人たちのうちの誰かに依頼してください。

- 注釈の作成者。
- この情報カタログの他のタスクの実行を許可されている情報カタログ・ユーザー。
- 情報カタログ管理者。

FLG0076E プリンターが使用できないか、または接続されていません。

FLG0077I システムがインストールされたプリンターを見つけられません。

FLG0078I プリンターが用紙切れか、または接続されていません。プリンターに用紙を補充し、プリンター接続を確認してください。

FLG0079E コード・ページがデータベースでサポートされていません。有効なコード・ページのリストについては、データベースの資料を参照してください。

説明: データベースが AUTOEXEC.BAT ファイルに定義されたコード・ページをサポートしていません。

ユーザーの処置:

1. データベースの資料を調べて、この環境でどのコード・ページが有効かを判別してください。
2. AUTOEXEC.BAT に有効なコード・ページを定義して、システムをリブートしてください。

新しいコード・ページのサポートを追加するために、オペレーティング・システム・ディスケットが必要になるかもしれません。

FLG0080E データベースがビジーのため、アクションを完了できません。後で再試行してください。

説明: データベースが処理中の他の要求が多すぎるため、要求したアクションが完了しませんでした。

ユーザーの処置:

1. 多くの人が一度にデータベース更新を要求していたため、または管理者がタグ・ファイルをインポート中だったためにエラーが起きたことを確認してください。
2. ビジーでないときに再試行してください。

FLG0081W オブジェクト・タイプが更新されました。最新の情報を得るには、情報カタログ・ウィンドウの「カタログ」→「最新表示」をクリックしてから再試行してください。

説明: オブジェクト・タイプが情報カタログで変更されました。その結果、一部の情報が古くなっている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 情報カタログ・ウィンドウのメニュー・バーで「カタログ」→「最新表示」をクリックしてください。
情報カタログ・ウィンドウと「インポート」ウィンドウを除き、すべてのウィンドウがクローズされます。
2. メッセージを受け取った時点に戻るために必要なウィンドウをオープンして、再試行してください。

FLG0200 – FLG0273 情報カタログ・マネージャー・メッセージ

FLG0200E オブジェクト・タイプに指定された省略名が無効です。

説明: オブジェクト・タイプに指定された省略名が無効な文字が入っています。省略名の規則は次の通りです。

FLG0082E 同じ名前、作成者、および作成日を持つ注釈がすでに存在します。

説明: 名前、作成者、作成日の同じ組み合わせを複数の注釈に使用することはできません。

ユーザーの処置:

1. 「注釈の作成」、「注釈のコピー」、または「注釈の更新」ウィンドウをクローズしてください。
2. ウィンドウを再オープンしてください。
3. 「名前」フィールドに注釈の別の名前を入力してください。

FLG0083E IBM 情報カタログ・マネージャーの初期化ユーティリティーで有効なライセンスがありません。最寄りのソフトウェア販売店または IBM 営業担当員にお問い合わせください。

説明: 有効なライセンスがない状態で、情報カタログ・マネージャーの初期化ユーティリティーを使用しようとしてしました。

ユーザーの処置: DB2 ウェアハウス・マネージャーまたは IBM DB2 OLAP Server を購入して、情報カタログ・マネージャーのコンポーネントをインストールする必要があります。このコンポーネントに、情報カタログ初期化ユーティリティーが入っています。

- 最大 8 文字 (SBCS)。
- 先頭の文字は大文字または小文字の英字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、\$ (ドル記号) のいずれかでなければなりません。

- 後続の文字は大文字または小文字の英字、0-9、@ (アットマーク)、# (番号記号)、\$ (ドル記号)、_ (下線) のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 構文に従って有効な省略名を入力してください。

FLG0201E プロパティーに指定された省略名 <short name> が無効です。

説明: プロパティーに指定された省略名に無効な文字が入っています。プロパティーの省略名の規則は次の通りです。

- 最大 8 文字 (SBCS)。
- 先頭の文字は大文字または小文字の英字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、\$ (ドル記号) のいずれかでなければなりません。
- 後続の文字は大文字または小文字の英数字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、\$ (ドル記号)、_ (下線) のいずれかでなければなりません。
- SQL の予約語は使用できません。
- 固有でなければなりません。このオブジェクトにすでに存在する名前を入力すると、情報カタログ・マネージャーが別の名前を要求します。

ユーザーの処置: 構文に従って有効な省略名を入力してください。

FLG0202E アイコン・ファイル <icon file> にアクセスできません。理由コードは <reason code> です。

説明: アイコン・ファイルのアクセスでエラーが起きました。

ユーザーの処置: メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションで理由コードを調べて問題の原因を突き止めてください。

FLG0203E 呼び出しパラメーターを指定するには、プログラムがオブジェクト・タイプに関連付けられていなければなりません。

説明: 呼び出しパラメーターを指定しましたが、オブジェクト・タイプがプログラムに関連付けられていませんでした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプをプログラムに関連付けるか、または呼び出しパラメーターを使用しないでください。

FLG0205E ユーザー <user ID> には管理者権限がありません。

説明: 「情報カタログのオープン」ウィンドウで指定されたユーザーが、管理者としてログオンする許可を持っていません。

ユーザーの処置: 管理者機能なしで (/ADMIN パラメーターなしで) ログオンしてください。

FLG0206E 管理者がすでにログオンしていません。

説明: 一時点で管理者としてログオンできるユーザーは 1 人だけです。

ユーザーの処置: 管理者機能なしで (/ADMIN パラメーターなしで) ログオンしてください。または、現在の管理者がこの情報カタログをクローズするのを待ってから管理者としてログオンしてください。

FLG0207E データベース内の情報カタログ・マネージャー表が破壊されており、複数の活動管理者フラグを持っています。

説明: データベースが壊れており、複数の活動管理者フラグが情報カタログ・マネージャー・システム表に見つかりました。

ユーザーの処置: CLEARKA ユーティリティ (情報カタログ・マネージャー 管理の手引き) を参

照) を実行してください。

FLG0212E パラメーター・リストのプロパティ
ーが関連するオブジェクト・タイプ
のプロパティではないか、または
パラメーター・リストが正しい形式
ではありません。

説明: 正しくないパラメーターを入力したか、ま
たはパラメーター・リストの形式が正しくありま
せん。

関連するオブジェクト・タイプのプロパティの
みが、パラメーターとして使用できます。

パラメーター・リストの正しい形式は次の通りで
す。

- パラメーターはすべてパーセント記号で囲みま
す (たとえば %NAME%)。
- リテラルのパーセント記号は 2 つのパーセン
ト記号 (%%) として入力します。

ユーザーの処置: パーセント記号で囲まれたすべ
てのテキストが、関連するオブジェクト・タイプ
のプロパティの省略名であることを確かめてく
ださい。

パラメーター・リストを正しい形式に変更してく
ださい。

FLG0213E 情報カタログ・マネージャーが予期
しないデータベース・エラーを検出
したため、クローズされます。情報
カタログの変更は行われません。

説明: システム・エラーのために、コミットまた
はロールバック処理が正常に処理できませんでし
た。情報カタログ・マネージャーが追加の SQL
ステートメントを発行することを許可されていま
せん。

管理者の応答:

1. データベースを使用しているすべてのアプリ
ケーションを終了してください。

2. データベースを再始動してください。リカバ
リーが不可能な場合には、バックアップ・コ
ピーからデータベースを復元してください。

FLG0214E プロパティ <property number>
の値はタイム・スタンプ形式
<timestamp format> に従ってい
なければなりません。

説明: プロパティに形式の正しくないタイム・
スタンプが入っているため、情報カタログ・マネ
ージャーがオブジェクトを作成または更新できま
せん。

ユーザーの処置: タイム・スタンプを正しい形式
で入力して、検索を再試行してください。

FLG0215E プログラムに関連付けるオブジェク
ト・タイプが存在しません。

説明: プログラムは既存の、非プログラム・カテ
ゴリーのオブジェクト・タイプにのみ関連付ける
ことができます。

ユーザーの処置: プログラムを既存のオブジェク
ト・タイプに関連付けてください。

FLG0216E このオブジェクト・タイプはプログ
ラムに関連付けることはできませ
ん。

説明: プログラムは既存の、非プログラム・カテ
ゴリーのオブジェクト・タイプにのみ関連付ける
ことができます。

ユーザーの処置: プログラムを非プログラム・カ
テゴリーのオブジェクト・タイプに関連付けてく
ださい。

FLG0217E 非 LONG VARCHAR プロパティ
ーの合計長が長すぎます。いくつか
のプロパティを短くして再試行し
てください。

説明: オブジェクト・タイプの CHAR、
VARCHAR、TIMESTAMP プロパティの合計

長には制限があります。この制限は環境によって異なります。

ユーザーの処置: いくつかのプロパティを短くして再試行してください。

FLG0218E オブジェクト・タイプに指定されたアイコンが最大サイズ <maximum size> バイトを超えているため、使用できません。

説明: オブジェクト・タイプに指定したアイコンが最大サイズを超えているため、使用できません。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプに対して小さいアイコンを指定してください。

FLG0219E 省略名には空白は許されていません。

説明: 省略名が空白で始まっているか、または途中に空白が入っています。

ユーザーの処置: 無効な空白を除去してください。

FLG0220E 指定されたパスまたはファイル名が無効です。理由コードは <reason code> です。

説明: 指定したパスおよびファイル名に情報カタログ・マネージャーがアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションで理由コードを調べて問題の原因を突き止めてください。

FLG0221E インポート・ファイルのチェックポイントが見つかりませんでした。

説明: チェックポイント・タグがインポート・ファイルに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 「始めから開始」をクリックし

て、ファイルを始めからインポートしてください。

FLG0222W 指定されたユーザー ID はすでに存在します。

説明: 指定されたユーザー ID は以前に追加されています。

ユーザーの処置: 追加しようとしているユーザー ID を調べてください。ユーザー ID のつづりが正しくない場合は、つづりを訂正してもう一度追加してみてください。

FLG0223W 「エクスポート」ウィンドウはすでにオープンしています。他のウィンドウを開始する前に、このウィンドウからのエクスポートを完了または取り消してください。

説明: 一度にオープンできる「エクスポート」ウィンドウは 1 つだけです。

FLG0224W インポートすべきものがタグ言語ファイルにありません。

説明: インポートを要求したタグ言語ファイルに有効なタグがありません。

FLG0225E オブジェクト <object name> にはコンテンツがあるため削除できません。

説明: オブジェクトは、他のオブジェクトが入っていない場合にのみ削除することができます。

ユーザーの処置: オブジェクトを削除したい場合は、まずそのオブジェクトに入っているオブジェクトを除去してください。オブジェクトのポップアップ・メニューから「グループの更新」を選択してください。

FLG0226W このプロパティは現在 UUI の一部になっています。プロパティが除去された場合、オブジェクト・タイプを作成する前に UUI を再定義する必要があるかもしれません。除去しますか？

説明: 除去を要求したプロパティが現在 UUI の一部になっています。

ユーザーの処置: プロパティを除去したい場合は、メッセージ・ウィンドウの「はい」をクリックしてください。「UUI の定義」ウィンドウで、プロパティに影響を受ける UUI に再割り当てる必要があるかもしれません。

FLG0227E 少なくとも 1 つのパーツに入力が必要です。

説明: 「UUI の定義」ウィンドウで UUI パーツが指定されていません。

ユーザーの処置: 少なくとも UUI パーツ 1 のプロパティは選択してください。

FLG0228E 必要なパーツが欠落しています。
<number>- パーツ UUI 定義については、パーツ 1 から <number> に入力が必要です。

説明: UUI パーツを指定するときは、パーツをスキップすることはできません。たとえば 4 パーツ UUI では、1 から 4 のパーツはいずれも <none> として指定することはできません。

ユーザーの処置: 間違っって <none> として指定されたパーツに入力してください。

FLG0229E 複数のパーツに同じプロパティを使用することはできません。

説明: プロパティが複数の UUI パーツについて使用されていました。

ユーザーの処置: 重複するパーツのいずれかを変更してください。

FLG0230E プロパティに指定された省略名は、データベースが使用する予約語であるため無効です。

説明: プロパティに指定された省略名が、データベースが使用する予約語になっています。

ユーザーの処置: 予約語については、データベースの解説書を参照してください。

FLG0231E オブジェクト・タイプを作成するには UUI 定義が必要です。

説明: オブジェクト・タイプを作成するには、UUI の生成に使用されるプロパティを定義する必要があります。

ユーザーの処置: 「UUI の定義」をクリックして UUI を定義してください。

FLG0232E UUI プロパティが除去または変更されたため、UUI 定義が無効になりました。オブジェクト・タイプを作成するには、UUI を再定義する必要があります。

説明: UUI 定義で指定されたプロパティが除去されたか、またはそのデータ・タイプが変更されました。その結果、UUI 定義が現在無効になっています。

ユーザーの処置: 「UUI の定義」ウィンドウで、影響を受ける UUI パーツの新しいプロパティを選択してください。

FLG0233E オブジェクト・タイプが許される最大より <number> 多いプロパティを持っています。

説明: オブジェクト・タイプのプロパティ数が制限を超えています。

ユーザーの処置: メッセージに示された数のプロパティを除去して、再試行してください。

FLG0234E オブジェクト・タイプは <number> より多くのデータ・タイプ **LONG VARCHAR** のプロパティを持つことはできません。少なくとも <number> の **LONG VARCHAR** プロパティのデータ・タイプを除去または変更してください。

説明: データ・タイプ **LONG VARCHAR** のプロパティ数が制限を超えています。

ユーザーの処置: **LONG VARCHAR** プロパティのいくつかを除去するか、またはデータ・タイプを変更し、再試行してください。

FLG0235E 情報カタログ・マネージャーに障害が起きました。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーで障害が起きました。

ユーザーの処置: メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションで理由コードと拡張理由コードを調べて問題の原因を突き止めてください。

FLG0236E 既存の <object type name> オブジェクトに異なるオブジェクト・タイプが含まれているため、<object type name> オブジェクト・タイプを削除できません。

説明: オブジェクト・タイプは、そのオブジェクト・タイプが他のオブジェクト・タイプのオブジェクトを収容していない場合にのみ削除することができます。

ユーザーの処置:

- オブジェクト・タイプの異なるオブジェクトの入ったオブジェクトを削除してください。

1. 削除したいオブジェクトをそれぞれ右クリックし、ポップアップ・メニューの「削除」をクリックします。
 2. オープンした「ツリーの削除」ウィンドウで「すべての下位オブジェクトの削除」チェック・ボックスを選択します。
 3. 「削除」をクリックします。
- 削除したいオブジェクト・タイプのオブジェクトに入っている別のオブジェクト・タイプのオブジェクトをすべて削除してください。
 1. 削除したいオブジェクトをそれぞれ右クリックし、ポップアップ・メニューの「削除」をクリックします。
 2. オープンした「削除」ウィンドウで「削除」をクリックします。

FLG0237E <object> は <grouping object> を含むこともそれに含まれることもできません。「グループ内のオブジェクト」ボックスから <object> を除去し、「更新」をもう一度クリックしてください。

説明: オブジェクトは同じオブジェクトを収容することもそれに収容されることもできません。

ユーザーの処置: 他のオブジェクトをグループ化オブジェクトに追加している場合、またはそこから除去している場合は、更新またはグループ化を完了するために以下を行ってください。

1. 「グループ内のオブジェクト」ボックスの示されたオブジェクトを除去します。
2. 「更新」をクリックします。

示されたオブジェクトをグループ化に追加したい場合は、まずオブジェクトからグループ化を除去する必要があります。オブジェクトのポップアップ・メニューで「グループの更新」をクリックしてください。

FLG0238E 変更が最大数の 600 を超えています。最大に達する前の変更はすべて行われます。

説明: 一度に情報カタログに対して行うことができる変更より多くの変更を行いました。最大数に達する前の変更のみが有効です。

ユーザーの処置: 情報カタログに変更が行われた後、未保管の変更をもう一度入力してください。

FLG0239E このオブジェクトの UUI が他のオブジェクトの UUI と同じになっています。UUI で使用されているプロパティの少なくとも 1 つの値を変更してください。

説明: 複数のオブジェクトが同じ UUI を持つことはできません。

ユーザーの処置: UUI で使用されているプロパティの少なくとも 1 つの値を変更してください。

FLG0240E オブジェクト・タイプに指定された省略名は、データベースが使用する予約語であるため無効です。

説明: オブジェクト・タイプに指定された省略名は、データベースが使用する予約語であるため無効です。

ユーザーの処置: 予約語については、データベースの解説書を参照してください。

FLG0241E プロパティ <property name> はすでに存在します。

説明: プロパティの名前はオブジェクト・タイプ内で固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 異なる名前を重複するプロパティに割り当ててください。

FLG0242E 省略名 <short name> を持つプロパティはすでに存在します。

説明: プロパティの省略名はオブジェクト・タイプ内で固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 異なる省略名を重複するプロパティに割り当ててください。

FLG0243E このプロパティに入力したサイズが無効です。選択したデータ・タイプ (<data type>) では、サイズは 1 から <maximum length> の範囲になければなりません。

説明: プロパティに入力したサイズが、メッセージに示された有効な範囲にありません。

ユーザーの処置: 範囲にもとづいてプロパティの有効なサイズを入力してください。

FLG0244W このプロパティは現在 UUI の一部になっています。プロパティはオプションに変更された場合、UUI パーツとしては使用できません。変更しますか?

説明: オプションとして指定しようとしているプロパティは現在 UUI のパーツになっています。このプロパティがオプションになると、UUI パーツにすることはできません。このメッセージは、プロパティを変更するかどうかを尋ねています。変更した場合は、UUI 内でこのプロパティを置き換える別のプロパティを選択することが必要になります。

ユーザーの処置: 変更したい場合は、メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックしてください。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

FLG0245W このプロパティは現在 UI の一部になっています。データ・タイプが **LONG VARCHAR** に変更された場合、UI パーツとしては使用できません。変更しますか？

説明: LONG VARCHAR として指定しようとしているプロパティは現在 UI のパーツになっています。このプロパティのデータ・タイプが LONG VARCHAR に変更された場合、UI パーツとしては使用できません。このメッセージは、プロパティを変更するかどうかを尋ねています。変更した場合は、UI 内でこのプロパティを置き換える別のプロパティを選択することが必要になります。

ユーザーの処置: 変更したい場合は、メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックしてください。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

FLG0246E 省略名 <short name> を持つオブジェクト・タイプはすでに存在します。

説明: オブジェクト・タイプの省略名は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 異なる省略名をオブジェクト・タイプに割り当ててください。

FLG0247E オブジェクト・タイプ <object type name> はすでに存在します。

説明: 情報カタログ内では、オブジェクト・タイプの名前は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 異なる名前をオブジェクト・タイプに割り当ててください。

FLG0248W Grouping または Elemental としてカテゴリ化されたオブジェクトがないため、検索は定義できません。

説明: 基本およびグループ化にカテゴリ化されたオブジェクトのみがグループに追加できます。現在情報カタログにはありません。

FLG0249W Contact としてカテゴリ化されたオブジェクトがないため、検索は定義できません。

説明: Contact としてカテゴリ化されたオブジェクトのみが Contact としてオブジェクトに追加できます。現在情報カタログにはありません。

FLG0250E 情報カタログ・マネージャーがシステム ID を使い果たしました。オブジェクトまたはオブジェクト・タイプは作成できません。

説明: オブジェクトまたはオブジェクト・タイプが作成されるときは必ず、情報カタログ・マネージャーが固有な番号をシステム ID に割り当てます。情報カタログ・マネージャーが使用する最大のシステム ID の番号に達しました。

ユーザーの処置: 詳細については情報カタログ・マネージャー 管理の手引き を参照してください。

FLG0252E プログラムを呼び出すコマンドが正しい形式ではありません。

説明: プログラムを呼び出すコマンドを指定するプロパティ値が無効です。呼び出しコマンドは最後のパラメーターで、全ファイル名と拡張子を持っていなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なプロパティ名を正しい形式で入力してください。

FLG0253W 指定されたユーザー ID はすでに登録されています。

説明: 指定されたユーザー ID は以前に登録されています。

ユーザーの処置: 登録しようとしているユーザー ID を調べてください。ユーザー ID のつづりが正しくない場合は、つづりを訂正してもう一度登録してみてください。

FLG0254E 情報カタログ・マネージャーがアイコン・ファイル <icon file> を見つけられません。

説明: パスおよびファイル名が正しく入力されなかったか、アイコン・ファイルが存在しない可能性があります。

ユーザーの処置: 「検索」をクリックして、有効なパスおよびファイル名を入力してください。

FLG0255E <field name> に指定されたディスク・ドライブが無効か、または使用できません。

説明: 存在しない、または作動可能でないドライブが指定されました。

ユーザーの処置: ディスケットまたは CD-ROM を入れて指定されたドライブを作動可能にするか、または別のドライブを指定してください。

FLG0256E ファイル <file name> をオープンできません。理由コードは <reason code> です。

説明: ファイルのオープン中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションで理由コードを調べて問題の原因を突き止めてください。

FLG0257E ファイル <file name> に書き込みません。理由コードは <reason code> です。

説明: ファイルへ書き込み中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションで理由コードを調べて問題の原因を突き止めてください。

FLG0258E エコー・ファイルについて生成されたパスおよびファイル名が長すぎるため、情報カタログ・マネージャーを開始できません。ログ・ファイルの名前を短くするか、またはインポート・タグ・ファイルを名前変更してください。

説明: インポート時に情報カタログ・マネージャーはエコー・ファイルを作成します。このファイルはインポート問題の診断に使用することができます。エコー・ファイルのパスは常にログ・ファイルと同じパスです。エコー・ファイルのファイル名は、デフォルトではインポート・ファイルと同じになり、拡張子には .ech が付けられます。

この場合は、エコー・ファイルのパスおよびファイル名の長さが最大を超えています。

ユーザーの処置: このインポートを続行するには、ログ・ファイルのパス、またはエコー・ファイル名を短くしてください。

ログ・ファイルのパスを変更するには、「インポート」ウィンドウの「ログ・パスおよびファイル名」フィールドを変更してください。

エコー・ファイルを名前変更するには、コマンド・プロンプトで **rename** コマンドを発行してください。

FLG0259E データベースを変更中にエラーが起きました。情報カタログ・マネージャーはクローズされます。データベースは継続的状態のままになります。SQL コードは <SQL code> です。

説明: オブジェクト・タイプの作成、更新、または削除中に、API 内でエラーが起きました。エラーのため、情報カタログのロールバックが行われました。情報カタログは継続的状態にあります。変更は行われませんでした。

ユーザーの処置:

1. データベース・サーバーが現在使用可能で、正常に稼働しているかを確認してください。
2. CLEARKA コマンドを実行して、情報カタログ・マネージャー管理者を情報カタログからクリアしてください。
3. 情報カタログ・マネージャーを開始して、情報カタログに対してもう一度変更を行ってください。変更を行うことができない場合、情報カタログを復元する可能性があります。

FLG0260E データベースを変更中にエラーが起きました。情報カタログ・マネージャーはクローズされます。データベースは継続的状態にない可能性があります。SQL コードは <SQL code> です。

説明: オブジェクト・タイプの作成、更新、または削除中に、API 内でエラーが起きました。エラーのため、情報カタログのロールバックが行われましたが、失敗しました。情報カタログは継続的状態にありますが、変更は行われませんでした。

ユーザーの処置:

1. データベース・サーバーが現在使用可能で、正常に稼働しているかを確認してください。
2. CLEARKA コマンドを実行して、情報カタログ・マネージャー管理者を情報カタログからクリアしてください。

3. 情報カタログ・マネージャーを開始して、情報カタログに対してもう一度変更を行ってください。変更を行うことができない場合、情報カタログを復元する可能性があります。

FLG0261I 削除ヒストリーが正常にタグ言語ファイルに転送されました。

FLG0262I 削除ヒストリーのログが使用不可になりました。

FLG0263I 削除ヒストリーのログが使用可能になりました。

FLG0264I 削除ヒストリーが正常に管理されています。

FLG0265I 情報カタログからオブジェクト・タイプとそのすべての下位オブジェクト・インスタンスを削除しますか?

FLG0266W ユーザー ID <user ID> に無効な文字があります。

説明: 指定されたユーザー ID にブランクまたは無効な文字があります。

ユーザーの処置:

- ユーザー ID のブランクを除去してください。
- ユーザー ID に有効な文字をデータベースの資料で参照し、指定したユーザー ID から無効な文字を除去してください。

FLG0267W 「情報カタログ・ユーザーの管理 (Manage Information Catalog Users)」ウィンドウで「了解」をクリックしないと、これ以上ユーザーを追加できません。

説明: 一度に 100 を超えるユーザーは追加できません。

ユーザーの処置:

1. 「了解」をクリックしてすでに指定された 100 ユーザーを追加してください。
2. 100 のグループにあるユーザーの追加を続行するには、「了解」をクリックして各グループを追加してください。

FLG0269W <number of objects not moved> オブジェクトが移動できません。

説明: 以下のいずれかを行おうとしたため、オブジェクトは移動できません。

- オブジェクトをそれ自体に関連付けるか、リンクしようとした。
- オブジェクトをリンク・オブジェクト、注釈オブジェクト、または Contact オブジェクトのリストに、またはオブジェクトがすでに存在するグループに追加した。
- 注釈オブジェクトを作成していないため、許可がないにもかかわらず注釈オブジェクトを他のオブジェクトに接続した。

FLG0270W 作成していない注釈を更新する許可を持っていません。

説明: この注釈を作成していないために更新する権限を持っていないか、または情報カタログを更新する権限を持っていません。

FLG0271W この注釈の状況フィールド値は現在有効な選択ではありません。リストから別の値を選択してください。

説明: 現在有効でない注釈状況値を指定しました。状況値は情報カタログ管理者によって定義さ

FLG0301 – FLG0800 情報カタログ・マネージャー・メッセージ

FLG0301E ヌル入力パラメーター: <sequence number>。

説明: 発行されたコマンドまたは API が必要とするパラメーターの 1 つがヌルです。 number

れ、状況リストに示されます。最後に値を入力して以降に、情報カタログ管理者が有効な状況値を変更した可能性があります。

ユーザーの処置: 新しい注釈状況値を状況リストから選択してください。

FLG0272W このプロパティは現在 UUI の一部になっています。プロパティのサイズが 254 文字を超えて変更された場合、UUI パーツとしては使用できません。変更しますか?

説明: UUI プロパティとして定義されたプロパティのサイズを変更しようとした。UUI パーツの最大値は 254 文字であり、値を変更すると UUI パーツとして使用できなくなります。

ユーザーの処置: プロパティを変更するには「了解」をクリックしてください。

FLG0273E 選択された検索オプションに検索値を入力する必要があります。

説明: 「選択したプロパティの値を入力」フィールドに値が入力されていません。「完全一致」検索オプションを選択したときは、値が必要です。

ユーザーの処置:

1. 検索したい値を入力してください。情報カタログ・マネージャーは、「選択したプロパティの値を入力」フィールドに入力した通りの値を検索します。
2. 検索を再実行してください。

はヌルであるパラメーターの位置を指定します。

ユーザーの処置: このパラメーターに有効な値を指定してください。

FLG0302E この機能を実行するには管理者権限が必要です。

説明: 管理者または許可されたユーザーのみが情報カタログをエクスポートできます。

ユーザーの処置:

- 情報カタログを管理者としてオープンしてください。
- 管理者に、情報をエクスポートできるように許可の拡張を依頼してください。
- 必要な情報をエクスポートするように管理者に依頼してください。

FLG0303E 入力構造を処理中に情報カタログ・マネージャー API エラーが起きました。

説明: FLGExport API 呼び出しの入力構造の処理中に情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 以下の入力構造エラーについて調べてください。

- ヘッダー・エリアにある定義長が正しくない。
- ヘッダー・エリアにあるオブジェクト長が正しくない。
- 入力構造にヌル文字が入っている。

FLG0304E タイプ ID が存在しません。

説明: FLGExport 入力構造の FLGID 値の 0-5 バイトで指定されたオブジェクト・タイプ ID が情報カタログに存在しません。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプ ID が正しく指定されていることを確かめてください。

FLG0305E プロパティ <sequence number> の値が長すぎます。

説明: プロパティ値のサイズが、プロパティ定義で指定されたデータ長を超えています。

ユーザーの処置: 定義されたデータ長より短いプ

ロパティ長を定義してください。

FLG0306I エクスポートが正常に完了しました。

FLG0307I エクスポートが完了しましたが、警告があります。

FLG0308I エクスポートがエラーで終了しました。

FLG0309I エクスポートが重大エラーで終了しました。

FLG0310W アイコン・パスが指定されていないため、アイコンをエクスポートできません。

説明: エクスポートされたアイコン・ファイルのターゲット・アイコン・パスが指定されていませんでした。アイコン・ファイルはエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: アイコン・ファイルをエクスポートしたい場合は、ターゲット・ディレクトリー・パスを指定してください。

FLG0311W オブジェクトが **Grouping** のカテゴリではないため、オブジェクト **<object name>** の **CONTAINEE-IND** が無視されました。

説明: CONTAINEE-IND の値が、グループ化オブジェクトではないオブジェクトの入力構造で Y に設定されています。

エクスポート機能は CONTAINEE-IND 値を無視し、続行します。

FLG0312W オブジェクトが **Grouping** または **Elemental** のカテゴリーではないため、オブジェクト <FLGID> の **CONTACT-IND** が無視されました。

説明: オブジェクトがグループ化または基本オブジェクトではないため、CONTACT-IND 値はオブジェクトについて無視されました。

CONTACT-IND 値は、オブジェクトのすべての Contact オブジェクトをエクスポートするかどうかを指定します。

FLG0313E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。入力は **FLG-HEAD** で始まっていなければなりません。

説明: FLGExport API 呼び出しの入力として指定されたデータ構造が FLG-HEAD で始まっていません。

ユーザーの処置: FLG-HEAD を入力構造ヘッダー・エリアの 0-7 バイトに指定してください。

FLG0314E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。ヘッダー・エリアの定義長が無効です。

説明: FLGExport の入力構造のヘッダー・エリアにある定義エリア長が無効です。

FLGExport が入力として要求する定義エリアの長さは常に 800 です。

ユーザーの処置: ヘッダー・エリアのバイト 8-15 で定義エリア長 800 を指定してください。

FLG0315E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。ヘッダー・エリアのオブジェクト・エリア長が無効です。

説明: FLGExport の入力構造のヘッダー・エリアにあるオブジェクト・エリア長が無効です。

オブジェクト・インスタンスに必要な 3 つのプロパティ値の全長は 20 です。そのため、オブ

ジェクト・エリア長は 20 の倍数 (オブジェクト・インスタンス数の 20 倍) でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘッダー・エリアのバイト 16-23 にあるオブジェクト・エリア長として 20 の倍数を指定してください。

FLG0316E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。ヘッダー・エリアのオブジェクト・カウントが無効です。

説明: FLGExport の入力構造のヘッダー・エリアにあるオブジェクト・エリア・カウントが無効です。

指定されたオブジェクト・インスタンスごとに 5 つのプロパティが必要で、そのため、オブジェクト・エリア・カウントは 5 の倍数 (オブジェクト・インスタンス数の 5 倍) でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘッダー・エリアのバイト 24-31 にあるオブジェクト・エリア・カウントとして 5 の倍数を指定してください。

FLG0317E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。プロパティ <sequence number> に指定されているプロパティ・タイプが無効です。有効なプロパティ・タイプは **CHAR** だけです。

説明: 定義エリアで指示されたプロパティに指定されているプロパティ・データ・タイプが無効です。

FLGExport の入力構造で、有効なプロパティ・データ・タイプは **CHAR** だけです。その他のデータ・タイプは無効です。

ユーザーの処置: 指示されたプロパティのプロパティ・データ・タイプとして **CHAR** を指定してください。

FLG0318E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。プロパティー <sequence number> の場合、ケース・センシティブ (cs) フラグはブランクでなければなりません。

説明: 指示されたプロパティーの場合、入力構造の定義エリアにあるケース・センシティブ (cs) フラグはブランクでなければなりません。

FLGExport API 呼び出しで使用されている場合、このフラグは無効です。

ユーザーの処置: 指示されたプロパティーの定義にあるバイト 128 の値をブランクに設定してください。

FLG0319E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。プロパティー <sequence number> の場合、**UII** シーケンス (us) フラグはブランクでなければなりません。

説明: 指示されたプロパティーの場合、入力構造の定義エリアにある汎用固有 ID シーケンス (us) フラグはブランクでなければなりません。拡張コードには、非ブランクの us フラグを持つプロパティーのシーケンス番号が入っています。

UII シーケンス (us) フラグは UII でのプロパティーのシーケンスを表しますが、FLGExport API 呼び出しで使用されている場合、このフラグは無効です。

ユーザーの処置: 指示されたプロパティーの定義にあるバイト 127 の値をブランクに設定してください。

FLG0320E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。プロパティー <sequence number> の場合、**ファジー検索 (fs)** フラグはブランクでなければなりません。

説明: 指示されたプロパティーの場合、入力構造の定義エリアにあるファジー検索 (fs) フラグはブ

ランクでなければなりません。

FLGExport API 呼び出しで使用されている場合、この fs フラグは無効です。

ユーザーの処置: 指示されたプロパティーの定義にあるバイト 129 の値をブランクに設定してください。

FLG0321E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。プロパティー <sequence number> の場合、**値フラグ (vf)** はブランクでなければなりません。

説明: 指示されたプロパティーの場合、入力構造の定義エリアにある値フラグ (vf) はブランクでなければなりません。

値フラグは値がオプション、必須、またはシステム生成のいずれであるかを表しますが、FLGExport API 呼び出しで使用されている場合、このフラグは無効です。

ユーザーの処置: 指示されたプロパティーの定義にあるバイト 126 の値をブランクに設定してください。

FLG0322E タグ言語ファイルのオープン・エラー。理由コードは <reason code> です。

説明: エクスポートされたデータのタグ言語ファイルをオープンしているときに、情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0323E タグ言語ファイルのクローズ・エラー。理由コードは <reason code> です。

説明: エクスポートされたデータが入っているタグ言語ファイルをクローズしているときに、情報

カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

エクスポートされたタグ言語ファイルは使用できない可能性があります。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

FLG0324E タグ言語ファイルの書き込みエラー。理由コードは **<reason code>** です。

説明: エクスポートされたデータのタグ言語ファイルに書き込みを行っているときに、情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

エクスポートされたタグ言語ファイルは使用できない可能性があります。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

FLG0325E ログ・ファイルのオープン・エラー。理由コードは **<reason code>** です。

説明: エクスポート・ログ・ファイルをオープンしているときに、情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

FLG0326E ログ・ファイルのクローズ・エラー。理由コードは **<reason code>** です。

説明: エクスポート・ログ・ファイルをクローズしているときに、情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー**

理由コード セクションを参照してください。

FLG0327E ログ・ファイルの書き込みエラー。理由コードは **<reason code>** です。

説明: エクスポート・ログ・ファイルに書き込みを行っているときに、情報カタログ・マネージャーがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

FLG0328W オブジェクト・タイプ **<object type identifier>** の情報を検索しているときに警告が出されました。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 示されているオブジェクト・タイプの登録情報を検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが警告を検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

エクスポートされたタグ言語ファイルを調べて、この警告が内容に影響していないことを確認してください。

FLG0329W オブジェクト **<FLGID>** についての情報を検索しているときに警告が出されました。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 示されているオブジェクトの情報を検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが警告を検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

エクスポートされたタグ言語ファイルを調べて、この警告が内容に影響していないことを確認してください。

FLG0330W オブジェクト <FLGID> のコンタクトを検索しているときに警告が出されました。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 示されているオブジェクトの情報を検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが警告を検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

エクスポートされたタグ言語ファイルを調べて、この警告が内容に影響していないことを確認してください。

FLG0331W オブジェクト <FLGID> のコンテナーを検索しているときに警告が出されました。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 示されているオブジェクトに入っているオブジェクトを検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが警告を検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

エクスポートされたタグ言語ファイルを調べて、この警告が内容に影響していないことを確認してください。

FLG0332E オブジェクト・タイプ <object type identifier> の情報を検索できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプについての情報を検索できませんでした。

エクスポートされたタグ言語ファイルは使用できない可能性があります。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0333E オブジェクトについての情報を検索できません。UUI: <part 1>、<part 2>、<part 3>、<part 4>、<part 5>。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、UUI によって識別されているオブジェクトについての情報を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0334E オブジェクト <FLGID> のコンタクトを検索できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクトの Contact オブジェクトを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0335E オブジェクト <FLGID> のコンテンツを検索できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクトに入っているオブジェクトを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0336E タグ言語ファイル名の長さが無効です。

説明: エクスポートされたタグ言語ファイルのパスおよびファイル名が長すぎるか、または長さが 0 です。

ユーザーの処置: タグ言語ファイルのドライブ、ディレクトリー、およびファイル名を 1 から 259 文字で指定してください。

FLG0337E ログ・ファイル名が長すぎます。

説明: 指定されたエクスポート・ログ・ファイルのファイル名が長すぎます。

ログ・ファイルのドライブ、ディレクトリー、およびファイル名として許可されている長さは 259 文字です。

ユーザーの処置: ドライブ、ディレクトリー、およびファイル名を 1 から 259 文字で指定してください。

FLG0338E タグ言語ファイル名が無効です。理由コードは <reason code> です。

説明: エクスポートされたデータを受け取るためのタグ言語ファイルに指定されているドライブ、ディレクトリー、ファイル名、および拡張子が無効です。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0339E ログ・ファイル名が無効です。理由コードは <reason code> です。

説明: エクスポート・ログ・に指定されているドライブ、ディレクトリー、ファイル名、および拡張子が無効です。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0340E オブジェクト・タイプ情報を検索しているときに重大エラーが起きました。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: オブジェクト・タイプの情報を検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが重大エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0341E オブジェクトについての情報を検索しているときに重大エラーが起きました。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: オブジェクトについての情報を検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが重大エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0342E オブジェクトのコンタクトを検索しているときに重大エラーが起きました。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: Contact オブジェクトを検索しているときに、情報カタログ・マネージャーが重大エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0343E オブジェクトのコンテニーを検索しているときに重大エラーが起きました。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 情報カタログ・マネージャーが重大エラーを検出したため、別のオブジェクトに入っているオブジェクトを検索できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0344E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。オブジェクト **<FLGID>** の場合、**CONTAINEE-IND** は **Y** または **N** でなければなりません。

説明: 入力構造のオブジェクト・エリアにある **CONTAINEE-IND** 値は **Y** または **N** でなければなりません。

CONTAINEE-IND 値は、示されているグループ化オブジェクトに入っているオブジェクトすべてを情報カタログ・マネージャーがエクスポートするかどうかを示します。その他のオブジェクト・タイプの場合、この値は必要ですが、無視されません。

ユーザーの処置: 示されているオブジェクト・イ

ンスタンスの **CONTAINEE-IND** プロパティーとして **Y** または **N** を指定してください。

FLG0345W アイコンはエクスポートされませんでした。オブジェクト・タイプ **<object type identifier>** に関連するアイコンはありません。

説明: 示されているオブジェクト・タイプには、関連するアイコンがありません。

このオブジェクト・タイプでは、アイコン・ファイルはエクスポートされませんでした。

FLG0346E 入力構造のエクスポート・エラー: オブジェクト **<FLGID>** の場合、**CONTACT-IND** は **Y** または **N** でなければなりません。

説明: 示されているオブジェクトの場合、入力構造のオブジェクト・エリアにある **CONTACT-IND** 値は **Y** または **N** でなければなりません。

CONTACT-IND 値は、示されているグループ化または基本オブジェクトに入っている Contact オブジェクトすべてを情報カタログ・マネージャーがエクスポートするかどうかを示します。その他のオブジェクトの場合、この値は必要ですが、無視されます。

ユーザーの処置: 示されているオブジェクト・インスタンスの **CONTACT-IND** プロパティーとして **Y** または **N** を指定してください。

FLG0347E アイコン・パスが無効です。理由コードは **<reason code>** です。

説明: エクスポートされるアイコン・ファイルを入れるよう指定されているアイコン・パスが無効です。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0348E アイコン・パスが長すぎます。

説明: 指定されたアイコン・パスが長すぎます。

ユーザーの処置: 246 を超えないパスを指定してください。

FLG0349E 入力構造のエクスポート・エラー:
理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーが FLGExport API の入力構造を読み取っていたときにエラーが起きました。

ユーザーの処置:

1. 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー理由コードセクションを参照してください。
 2. 入力構造でエラーを訂正してください。
 3. プログラムを再実行してください。
-

FLG0350E メモリーを解放できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、情報のエクスポート時に情報カタログ・マネージャーが使用しているメモリーのエリアを解放できません。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー理由コードセクションを参照してください。

FLG0352W オブジェクト <FLGID> には、エクスポートするオブジェクトがありません。

説明: 示されているオブジェクトの CONTAINEE-IND 値は、FLGExport の入力構造のオブジェクト・エリアで Y になっていますが、このグループ化オブジェクトにはオブジェクトが入っていません。

オブジェクトはエクスポートされませんでした。

FLG0353W オブジェクト <FLGID> には、エクスポートするコンタクトがありません。

説明: 示されているオブジェクトの CONTACT-IND 値は、FLGExport の入力構造のオブジェクト・エリアで Y になっていますが、このオブジェクトは Contact オブジェクトに関連していません。

Contact オブジェクトはエクスポートされませんでした。

FLG0354E オブジェクト ID (FLGID) の値 <flgid> は無効です。

説明: 示されているオブジェクト ID (FLGID) は無効です。

ユーザーの処置: 有効な FLGID を指定してください:

FLGID は 16 バイトの長さでなければなりません。

FLGID には数字 (0-9) のみが入ってなければなりません。

バイト 0-5 がすべてゼロではいけません。

バイト 6-15 がすべてゼロではいけません。

FLG0355I エクスポート開始: タグ言語ファイル
-- <tag language file name>**FLG0356I** エクスポート終了: タグ言語ファイル
-- <tag language file name>

FLG0357E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。ヘッダー・エリアのカテゴリは空白でなければなりません。

説明: FLGExport の入力構造のヘッダー・エリアで、カテゴリ・バイト位置 (32) が空白ではありません。

FLGExport 入力構造にあるヘッダー・エリアのカテゴリ・バイト位置は空白でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘッダー・エリアのバイト 32 の値を空白に設定してください。

FLG0358E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。ヘッダー・エリアのオブジェクト・タイプ ID は空白でなければなりません。

説明: FLGExport 入力構造にあるヘッダー・エリアのオブジェクト・タイプ ID バイト位置 (33-38) が空白ではありません。

これらのオブジェクト・タイプ ID バイト位置は空白でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘッダー・エリアのバイト 33-38 の値を空白に設定してください。

FLG0359E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。ヘッダー・エリアの予約済みエリアは空白でなければなりません。

説明: FLGExport の入力構造にあるヘッダー・エリアの予約済みエリア・バイト位置 (39-159) が空白ではありません。

これらの予約済みエリア・バイト位置は空白でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘッダー・エリアのバイト 39-159 の値を空白に設定してください。

FLG0360E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。定義エリアの予約済みエリアは空白でなければなりません。

説明: FLGExport の入力構造にある定義エリアの予約済みエリア・バイト位置 (39-159) が空白ではありません。

これらの予約済みエリア・バイト位置は空白でなければなりません。

ユーザーの処置: 定義エリアのバイト 130-159 の値を空白に設定してください。

FLG0361I オブジェクト <object name> のエクスポートが完了しました。

FLG0362I 生成済みチェックポイント ID: <checkpoint ID>

FLG0363E 情報カタログが初期化されていません。

説明: 情報カタログを初期化しなければ、FLGExport を出すことはできません。

ユーザーの処置: エンド・ユーザー・インターフェースで情報カタログをオープンし、FLGInit API への呼び出しを出してください。

FLG0364I オブジェクト <object name> および関連する Contact オブジェクトすべてのエクスポートが完了しました。

FLG0365I オブジェクト <object name> に含まれているオブジェクトすべてのエクスポートが完了しました。

FLG0366E 指定された名前のタグ言語ファイルが存在します。存在しないファイルの名前を指定してください。

説明: エクスポートされるタグ言語ファイルとして指定されたファイル名およびパスは、既存のファイルを識別しています。

出力タグ言語ファイルを存在する名前にはできません。

ユーザーの処置: 新しいファイルのファイル名およびパスを指定して、エクスポートされるタグ言語を組み込んでください。

FLG0367E オブジェクト <FLGID> の情報を検索できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクトの情報を検索できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0368E オブジェクト・タイプ <object type identifier> のアイコンをエクスポートできません。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプのアイコンをエクスポートできませんでした。アイコンのエクスポート中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

オブジェクト・タイプの省略名として同じ名前を持つアイコンが、指定されたアイコン・パスに存在しないことを確認してください。

FLG0369W オブジェクト・タイプ <object type name> のアイコン・ファイルがアイコン・パスに存在していません。アイコン・ファイルは置換されました。

説明: アイコン・パスには、エクスポートされたオブジェクト・タイプのアイコン・ファイルが存在していません。情報カタログ・マネージャーは、既存のアイコン・ファイルを置換しました。

FLG0370E 情報カタログ・マネージャーはオブジェクト <object name> を処理できません。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、情報カタログ内のデータを処理できませんでした。情報カタログ・マネージャーではなく、別のメソッドによって情報カタログがアクセスまたは更新されたと思われる。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0371W オブジェクト <name of object> には、エクスポートする接続またはリンク・オブジェクトがありません。

説明: 示されているオブジェクトの ATTACHMENT-IND または LINK-IND 値は、FLGExport の入力構造のオブジェクト・エリアで Y になっていますが、このオブジェクトには Attachment またはリンク・オブジェクトが関連付けられていません。

FLG0372W オブジェクト <name of object> は Attachment オブジェクトであるため、その ATTACHMENT-IND は無視されました。

説明: オブジェクトが Attachment オブジェクトではないため、ATTACHMENT-IND 値はそのオブジェクトについて無視されました。ATTACHMENT-IND 値は、オブジェクトに接続されている注釈オブジェクトをすべてエクスポートするかどうかを指定します。

ユーザーの処置: 接続をエクスポートしないよう指示するには、入力構造の ATTACHMENT-IND に N を指定してください。

FLG0373W オブジェクト <object name> が Grouping または Elemental カテゴリーにないため、その LINK-IND は無視されました。

説明: オブジェクトはリンク・オブジェクトを関連付けることができないため、LINK-IND 値はそのオブジェクトについて無視されました。リンク・オブジェクトを関連付けることができるのは、グループ化または基本カテゴリーのオブジェクトだけです。

ユーザーの処置: 接続されたオブジェクトをエクスポートしないよう指示するには、入力構造の LINK-IND に N を指定してください。

FLG0374E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。オブジェクト <FLGID> の場合、LINK-IND は Y または N でなければなりません。

説明: 入力構造のオブジェクト・エリアにある LINK-IND 値は Y または N でなければなりません。

LINK-IND 値は、指示されたグループ化または基本オブジェクトにリンクしているオブジェクトをすべてエクスポートするかどうかを指定します。その他のオブジェクトの場合、この値を N にし

なければなりません。(値 Y は無視されます。)

ユーザーの処置: 示されているオブジェクト・インスタンスの LINK-IND プロパティとして Y または N を指定してください。

FLG0375E 入力構造のエクスポートでエラーが起きました。オブジェクト <FLGID> の場合、ATTACHMENT-IND は Y または N でなければなりません。

説明: 入力構造のオブジェクト・エリアにある ATTACHMENT-IND 値は Y または N でなければなりません。

ATTACHMENT-IND 値は、指示されたオブジェクトに接続されているオブジェクトをすべてエクスポートするかどうかを指定します。Attachment カテゴリー・オブジェクトの場合、この値は必要ですが、無視されます。

ユーザーの処置: 示されているオブジェクト・インスタンスの ATTACHMENT-IND プロパティとして Y または N を指定してください。

FLG0376I 次のディスクレットを挿入して Enter を押してください。

FLG0401E コミットが失敗しました。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。データベースは不整合状態にあります。データベース・リカバリを実行してください。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、変更を情報カタログにコミットできませんでした。情報カタログは不整合状態にあります。

ユーザーの処置: データベースリカバリを実行して、情報カタログを整合状態に戻してください。

FLG0402E ロールバックが失敗しました。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。データベースは不整合状態にあります。データベース・リカバリーを実行してください。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、情報カタログへの変更を除去できませんでした。タグ言語ファイルのインポート中にエラーが見つかったとき、情報カタログは変更をロールバックしようと試みました。

情報カタログは不整合状態にあります。

ユーザーの処置: データベースリカバリーを実行して、情報カタログを整合状態に戻してください。

FLG0403E オブジェクト・インスタンスおよび従属ツリーを削除できません。
UUI: **<Part 1>**、**<Part 2>**、**<Part 3>**、**<Part 4>**、**<Part 5>**。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクトおよび従属関係 (ツリー構造) を削除できませんでした。従属オブジェクトも削除するよう選択した場合、情報カタログ・マネージャーはそれらも削除できませんでした。

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つの

タグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0404E 情報カタログ・マネージャー API で内部エラーが起きました。理由コードは **<reason code>** です。

説明: インポートまたはエクスポート中に内部エラーが見つかりました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。

理由コードと拡張コードを書き留めて IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0405E タグ言語ファイルで、予期しないファイルの終わりに達しました。

説明: 情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルの終わりに達しましたが、情報が不十分であるため、最後に要求されたアクション完了できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、ファイルのインポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを編集して、最後のアクションのタグを完成させてください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0406E 構文エラー -- **ACTION** タグ。
'<keyword>' は有効なキーワードではありません。
OBJTYPE、**OBJINST**、または
RELATION のいずれかを指定してください。

説明: ACTION タグには無効なキーワードが入っています。ACTION タグでは、以下のキーワードが有効です。

OBJTYPE
OBJINST
RELATION

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. 構文エラーを修正してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0407E 構文エラー -- タグ言語ファイルに、順序の正しくないタグがあります。

説明: タグ言語ファイルに、予期した順序に従っていないタグがあります。たとえば

ACTION.OBJTYPE(ADD) タグには、OBJECT タグではなく PROPERTY タグが続いていなければなりません。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0408E 構文エラー -- **ACTION** タグ。
OBJINST オプションが無効です。
有効な **OBJINST** オプションは
ADD、**UPDATE**、**DELETE**、
DELETE_TREE_REL、
DELETE_TREE_ALL、および
MERGE です。

説明: OBJINST キーワードのオプションが ACTION タグには無効です。有効なオプションは以下のとおりです。

ADD
UPDATE
DELETE
DELETE_TREE_ALL
DELETE_TREE_REL
MERGE

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを編集し、ACTION タグの OBJINST キーワードのオプションを訂正してください。ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0409E 構文エラー -- ACTION タグ。RELATION オプションが無効です。有効な RELATION オプションは ADD および DELETE です。

説明: RELATION キーワードのオプションは、ACTION タグには無効です。有効なオプションは以下のとおりです。

ADD
DELETE

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを編集し、ACTION タグの RELATION キーワードのオプションを訂正してください。ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0410W オブジェクト・タイプ (<short name>) がターゲット情報カタログに存在しないため、情報カタログ・マネージャーはプログラム・オブジェクト (UUI: <part 1>, <part 2>, <part 3>, <part 4>, <part 5>) の HANDLES プロパティー値をクリアしました。インポートは続行します。

説明: ターゲット情報カタログには、示されているプログラムに関連付けるためのオブジェクト・タイプがありません。インポート機能は HANDLES プロパティー値をブランクで置き換え、タグ・ファイルのインポートを続行します。

ユーザーの処置: 以下のようにして、プログラム・オブジェクト HANDLES プロパティー値を有効なオブジェクト・タイプ名で更新してください。

1. プログラム・オブジェクトに関連させる既存のオブジェクト・タイプを決定するか、または新しいオブジェクト・タイプを作成します。
2. 示されているプログラム・オブジェクトを検索します。
3. そのプログラム・オブジェクトを右クリックします。
4. ポップアップ・メニューで「オブジェクトの更新」をクリックしてください。
「オブジェクトの更新」ウィンドウがオープンします。
5. **HANDLES** プロパティーを「プロパティー / 値」リスト・ボックスでクリックします。(このプロパティーは異なる名前を持っていることがあります。サンプル情報カタログでは、「このプログラムが扱うオブジェクト・タイプ」です。)
6. 「選択済みプロパティーに値を入力」フィールドに、情報カタログに存在するオブジェクト・タイプの省略名を入力します。

7. 「入力」をクリックします。
8. PARMLIST プロパティの既存の値に、HANDLES プロパティに指定したオブジェクト・タイプとの互換性があることを確認してください。
9. 「更新」をクリックします。

FLG0412E 構文エラー -- ACTION タグ。OBJTYPE オプションが無効です。有効な OBJTYPE オプションは MERGE、ADD、UPDATE、DELETE、DELETE_EXT、および APPEND です。

説明: ACTION タグに、OBJTYPE キーワードには無効なオプションがあるか、またはオプションがありません。

有効なオプションは MERGE、ADD、UPDATE、DELETE、DELETE_EXT、APPEND です。

停止する前に、インポート・プログラムは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックしました。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. 構文エラーを修正してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0413E 情報カタログ・マネージャーのインポート機能が予期しない内部エラーを見つけ、停止しています。データベースはロールバックされます。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーがインポート中に内部エラーを見つけ、停止しています。情報カタログはロールバックされます。

ユーザーの処置: 通常インポート (MDIS インポートではない) を実行している場合、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して最終チェックポイントから開始し、トレース機能を使用してください。MDIS インポートを実行している場合、トレース機能を使用してタグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

このメッセージで返された理由コードと拡張コードを書き留めて、IBM サービス技術員に連絡してください。

FLG0414I 新しいオブジェクト・インスタンスが作成されました。タイプ: <object type name>、UUI:

FLG0415I オブジェクト・インスタンスが更新されました。タイプ: <object type name>、UUI:

FLG0416I オブジェクト・インスタンスが削除されました。タイプ: <object type name>、UUI:

FLG0417I ユーザーの要求でインポートまたはエクスポートが終了しました。

FLG0418I オブジェクト・タイプが更新されました: <object type name>

FLG0419I オブジェクト・タイプが削除されました: <object type name>

FLG0420W 情報カタログ・マネージャーがアイコン・ファイル <icon file name> を検索できなかったため、オブジェクト・タイプ <object type name> には関連するアイコン情報がありません。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーが、示されているアイコン・ファイルを検索できなかったため、情報カタログ・マネージャーはアイコン情報なしでオブジェクト・タイプを作成しました。

ユーザーの処置:

1. アイコン情報のないオブジェクト・タイプを識別するには、ログ・ファイルを調べてください。
2. 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使用してオブジェクト・タイプを更新し、アイコン情報を訂正してください。

FLG0421I 新しいオブジェクト・タイプが作成されました: <object type name>

FLG0422I オブジェクト・タイプの新しいプロパティが追加されました: <short name>

FLG0423I 新しい関係が作成されました。UUI:

FLG0424I 関係が削除されました。UUI:

FLG0425E アクションを完了できません。必要な情報が情報カタログに見つかりませんでした。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、要求されたアクションを実行するために必要な情報を見つけられませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0426E アクションを完了できません。オブジェクト・タイプ <object type name> についての必要な情報を検索できませんでした。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプについての情報を検索できませんでした。この情報なしで、情報カタロ

グ・マネージャーは要求されたインポート・アクションを実行することができません。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0427E アクションを完了できません。オブジェクト・タイプについての必要な情報を検索できませんでした。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、オブジェクト・タイプについての情報を情報カタログから検索できませんでした。この情報なしで、情報カタログ・マネージャーは要求されたインポートを実行することができません。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0428E オブジェクト・インスタンスを更新できません。UUI: <part 1>、<part 2>、<part 3>、<part 4>、<part 5>。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクトの情報を更新できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0429E オブジェクト・タイプ <object type name> を作成できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプを作成できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0430E オブジェクト・タイプ <object type name> を更新できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプの情報を更新できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0431E オブジェクト・タイプ <object type name> にプロパティーを追加できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプにプロパティーを追加できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0432E オブジェクト・インスタンスを作成できません。 UUI: <part 1>、<part 2>、<part 3>、<part 4>、<part 5>。 理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されたオブジェクトを作成できませんでした。

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミット

されたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0433E オブジェクト・タイプ <object type name> の情報を完全に削除できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプの定義を完全に削除できませんでした。

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0434E オブジェクト・タイプ <object type name> を削除できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプを削除できませんでした。

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最

最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0436E オブジェクト・インスタンスを削除できません。 **UUI:** <part 1>、<part 2>、<part 3>、<part 4>、<part 5>。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクトを削除できませんでした。

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポ

イント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0437E エコー・ファイルのオープン中にエラーが起きました。理由コードは <reason code> です。

説明: エコー・ファイルのオープン中にエラーが起きました。理由コードは <reason code> です。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0438E タグ言語ファイルの読み取り中にエラーが起きました。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、入力タグ言語ファイルを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0439E エコー・ファイルへの書き込み中にエラーが起きました。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、エコー・ファイルへの書き込み中にエラーを見つけました。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0440E タグ言語ファイルにあるオブジェクト・タイプ `<object type name>` の UUI 定義が、ターゲット情報カタログに一致しません。

説明: ソース・タグ言語ファイルにある、示されているオブジェクト・タイプの UUI 定義が、ターゲット情報カタログの UUI 定義と異なっています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. ターゲット情報カタログにある既存のオブジェクト・タイプの UUI 定義に一致するよう、示されているオブジェクト・タイプの UUI 定義をソースタグ言語ファイルに指定してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0441E アクションを完了できません。理由コードは `<reason code>` です。拡張コードは `<extended code>` です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、インポート・アクションを完了できません。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つの

タグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

3. PROPERTY タグに入力したデータ長 (DL) の値がすべて数値であることを確認してください。
4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0442E タグ言語ファイルでプロパティー `<short name>` に定義されているデータ長が、ターゲット情報カタログに一致しません。

説明: 示されているプロパティーには、ターゲット情報カタログとは異なるデータ長がソース・タグ言語ファイルに定義されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. PROPERTY タグの DL キーワードの場合、ターゲット情報カタログにある既存のオブジェクト・タイプのプロパティーに一致するデータ長を指定してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0443E タグ言語ファイルでプロパティー <short name> に定義されているデータ・タイプが、ターゲット情報カタログに一致しません。

説明: 示されているプロパティーには、ターゲット情報カタログとは異なるデータ・タイプが入力タグ言語ファイルに定義されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. PROPERTY タグの DT キーワードの場合、ターゲット情報カタログにある既存のオブジェクト・タイプのプロパティーに一致するデータ・タイプを指定してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0444E プロパティー名 (short_name) <short name> が、ターゲット情報カタログに見つかりませんでした。

説明: 示されている入力プロパティー省略名 (short_name) は、ターゲット情報カタログにあるどのプロパティー省略名にも一致しません。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つの

タグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. PROPERTY タグの SHRTNAME キーワードの場合、ターゲット情報カタログにある既存のオブジェクト・タイプのプロパティーに一致する 8 文字のプロパティー名を指定してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0445E タグ言語ファイルでオブジェクト・タイプ <object type name> に定義されているカテゴリが、ターゲット情報カタログに一致しません。

説明: 示されているオブジェクト・タイプに定義されているカテゴリが、入力タグ言語ファイルとターゲット情報カタログで異なっています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置: ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

1. OBJECT タグの CATEGORY キーワードの場合、ターゲット情報カタログにある、示されている既存のオブジェクト・タイプのプロパティーに一致するカテゴリを指定してください。
2. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0446E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
プロパティ名 (**short_name**)
<short name> は、オブジェクト・タイプには無効です。

説明: INSTANCE タグにある、示されているプロパティ省略名 (**short_name**) は無効です。プロパティ名が長すぎるか、あるいはオブジェクト・タイプには無効です。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。プロパティ省略名の規則は以下のとおりです。
 - プロパティ省略名の長さは最大 8 文字です。
 - この省略名は、そのインスタンスのオブジェクト・タイプに定義されているプロパティの省略名に一致しなければなりません。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0447E 構文エラー -- OBJECT タグ。複数の <keyword> がタグで使用されています。

説明: 示されているキーワードは、同じ OBJECT タグで複数指定されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0448E 構文エラー -- PROPERTY タグ。複数の <keyword> がタグで使用されています。

説明: 示されているキーワードは、同じ PROPERTY タグで複数指定されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0449E 構文エラー -- RELTYPE タグ。複数の <keyword> がタグで使用されています。

説明: 示されているキーワードは、同じ RELTYPE タグで複数指定されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最

最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0450E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
複数の UUI プロパティ名
(UUI_short_name) <short name>
がタグで使用されています。

説明: 示されている UUI プロパティ名 (UUI_short_name) は、同じ INSTANCE タグの SOURCEKEY または TARGETKEY に複数指定されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0451E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
複数のプロパティ名
(short_name) <short name> がタグで使用されています。

説明: 示されているプロパティ省略名 (short_name) は、同じ INSTANCE タグで複数指定されています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0452E 構文エラー -- OBJECT タグ。
<keyword> の値が最大長
<maximum length> を超えています。

説明: OBJECT タグで、示されているキーワード値の長さが、そのキーワード値の長さとして許可されている最大長を超えています。

OBJECT タグでのキーワード値は、左括弧と右括弧に囲まれています。値の長さを判別するとき、情報カタログ・マネージャーはキーワード値の先行空白を無視しますが、後書き空白は計算に入れます。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0453E 構文エラー -- PROPERTY タグ。
<keyword> の値が最大長
<maximum length> を超えています。

説明: PROPERTY タグで、示されているキーワード値の長さが、そのキーワードの長さとして許可されている最大長を超えています。

PROPERTY タグでのキーワード値は、左括弧と右括弧に囲まれています。値の長さを判別するとき、情報カタログ・マネージャーはキーワード値の先行ブランクを無視しますが、後書きブランクは計算に入れます。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0454E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
プロパティ '<short name>' の
値が最大長 <maximum length>
を超えています。

説明: INSTANCE タグで、示されているプロパティ値の長さが、その値の長さとして許可されている最大長を超えています。

INSTANCE タグでのプロパティおよび UII プロパティ値は、左括弧と右括弧に囲まれています。値の長さを判別するとき、情報カタログ・マネージャーは値の先行ブランクを無視しますが、後書きブランクは計算に入れます。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0455E 構文エラー -- RELTYPE タグ。
<keyword> の値が最大長
<maximum length> を超えています。

説明: RELTYPE タグで、示されているキーワード値の長さが、そのキーワード値の長さとして許可されている最大長を超えています。

RELTYPE タグでのキーワード値は、左括弧と右括弧に囲まれています。値の長さを判別するとき、情報カタログ・マネージャーはキーワード値の先行ブランクを無視しますが、後書きブランクは計算に入れます。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

**FLG0456E 構文エラー -- COMMIT タグ。
CHKPID 値が最大長 <maximum length> を超えています。**

説明: COMMIT タグの CHKPID 値の長さが、示されている最大長を超えています。

COMMIT タグでのキーワード値は、左括弧と右括弧に囲まれています。値の長さを判別するとき、情報カタログ・マネージャーはキーワード値の先行ブランクを無視しますが、後書きブランクは計算に入れます。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

**FLG0457E 構文エラー -- OBJECT タグ。
<keyword> は有効なキーワードではありません。有効なキーワードは
TYPE、CATEGORY、
EXTNAME、PHYNAME、
ICOFIELD、および ICWFIELD です。**

説明: 示されているキーワードは OBJECT タグでは無効です。有効なキーワードは以下のとおりです。

TYPE
CATEGORY
EXTNAME
PHYNAME
ICOFIELD
ICWFIELD

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0458E 構文エラー -- **PROPERTY** タグ。
<keyword> は有効なキーワードではありません。有効なキーワードは **EXTNAME**、**DT**、**DL**、**SHRTNAME**、**NULLS**、および **UISEQ** です。

説明: 示されているキーワードは **PROPERTY** タグでは無効です。有効なキーワードは以下のとおりです。

EXTNAME
DT
DL
SHRTNAME
NULLS
UISEQ

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (**COMMENT** タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを **C** (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0459E 構文エラー -- **RELTYPE** タグ。
<keyword> は有効なキーワードではありません。有効なキーワードは **TYPE**、**SOURCETYPE**、および **TARGETYPE** です。

説明: 示されているキーワードは **RELTYPE** タグでは無効です。有効なキーワードは以下のとおりです。

TYPE
SOURCETYPE
TARGETYPE

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (**COMMENT** タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを **C** (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0460E 構文エラー -- **COMMIT** タグ。
<keyword> は有効なキーワードではありません。有効なキーワードは **CHKPID** です。

説明: 示されているキーワードは **COMMIT** タグでは無効です。 **COMMIT** タグで有効なキーワードは **CHKPID** だけです。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (**COMMENT** タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。

- 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0461E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
<keyword> は有効なキーワードではありません。有効なキーワードは **SOURCEKEY** です。関係を表す場合のみ **TARGETKEY** も有効です。

説明: 示されているキーワードは INSTANCE タグでは無効です。有効なキーワードは以下のとおりです。

SOURCEKEY

INSTANCE が RELTYPE タグに続いている場合、TARGETKEY

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

- ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
- エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
- 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0462E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
UII プロパティ名
(UII_short_name) <short name>
がオブジェクト・タイプに無効か、
あるいは UII の一部ではありません。

説明: INSTANCE タグで、示されている UII プロパティ名 (UII_short_name) が以下のいずれかの状況です。

- 長すぎる (8 文字を超えている)
- オブジェクト・タイプに無効である
- オブジェクト・タイプには有効でも、UII の一部ではない

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

- ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
- エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
- 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0463E 構文エラー -- INSTANCE タグ。
必要な位置に **SOURCEKEY** が
見つかりませんでした。

説明: SOURCEKEY が INSTANCE タグの最初のキーワードではありません。以下の場合、SOURCEKEY キーワードは INSTANCE タグの最初のキーワードとして指定されていなければなりません。

オブジェクト・インスタンスを削除

```
:ACTION.OBJINST(DELETE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY()
```

or

```
:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY()
```

or

```
:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY()
```

オブジェクト・インスタンスを更新

```
:ACTION.OBJINST(UPDATE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY()
```

関係を追加または削除

:RELTYPE タグの例においては改行に意味がないため、キーワードをすべて同じ行に入力してください。

```
:ACTION.RELATION()
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE()
TARGETTYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY() TARGETKEY()
```

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0464E 構文エラー -- **INSTANCE** タグ。
必要な位置に **TARGETKEY** が
見つかりませんでした。

説明: TARGETKEY が INSTANCE タグの 2 番目のキーワードとして指定されていません。関係を追加または削除するために INSTANCE が RELTYPE タグの後に続いている場合、TARGETKEY を 2 番目のキーワードとして指定しなければなりません。

この場合、タグの順序は以下のとおりです。

```
:ACTION.RELATION(ADD) or
:ACTION.RELATION(DELETE)
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY() TARGETKEY()
```

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0465E 構文エラー -- **OBJECT** タグ。
<keyword> がありません。この特定の **ACTION** タグ・オプションにはキーワードが必要です。

説明: 示されている必須キーワードが OBJECT タグに見つかりません。

必要な OBJECT キーワードは、ACTION タグ・オプションによって異なります。

TYPE 常に必須です。オブジェクト・タイプの名前を指定します。

CATEGORY

:ACTION.OBJTYPE(ADD) または
:ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く
場合、必須です。その他の ACTION タグ・オプションでは無効です。

EXTNAME

:ACTION.OBJTYPE(ADD) または
:ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く
場合、必須です。
ACTION.OBJTYPE(UPDATE) の場合はオプションです。その他の ACTION タグ・オプションでは無効です。

PHYNAME

オプションですが、
:ACTION.OBJTYPE(ADD) または
:ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く
場合、有効です。

ICOFILE

オプションですが、
:ACTION.OBJTYPE(ADD)、
:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)、または
:ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く
場合、有効です。

ICWFILE

オプションですが、
:ACTION.OBJTYPE(ADD)、
:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)、または
:ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く
場合、有効です。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0466E 構文エラー -- **OBJECT** タグ。
CATEGORY 値が無効です。有効な **CATEGORY** 値は **GROUPING**、**ELEMENTAL**、**CONTACT**、**DICTIONARY**、および **SUPPORT** です。

説明: **OBJECT** タグで **CATEGORY** キーワードとして指定された値が無効です。有効な値は以下のとおりです。

GROUPING
ELEMENTAL
CONTACT
DICTIONARY
SUPPORT

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0467E 構文エラー -- PROPERTY タグ。
DT 値が無効です。有効な DT 値
は C、V、L、および T です。

説明: PROPERTY タグで DT キーワードとして指定された値が無効です。有効な値は以下のとおりです。

- C** 固定長文字ストリング
- V** 可変長文字ストリング
- L** 長形式可変長文字ストリング
- T** タイム・スタンプ・データ

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0468E 構文エラー -- PROPERTY タグ。
NULLS 値が無効です。有効な
NULLS 値は Y および N です。

説明: PROPERTY タグで NULLS キーワードとして指定された値が無効です。有効な値は以下のとおりです。

- Y** このプロパティーに値は必要ありません。ヌルにすることができます。
- N** このプロパティーには値が必要です。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0469E 構文エラー -- PROPERTY タグ。
UUISEQ 値が無効です。有効な
UUISEQ 値は 0、1、2、3、4、お
よび 5 です。

説明: PROPERTY タグで UUISEQ キーワードとして指定された値が無効です。有効な値は以下のとおりです。

0 (デフォルト)

プロパティーは汎用固有 ID (UUI) の一部ではありません。

1、2、3、4、または 5

プロパティーは UUI の一部で、UUI で示されている位置にあります。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。

3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0470E 構文エラー -- RELTYPE タグ。
TYPE 値が無効です。有効な
TYPE 値は **CONTAIN**、
CONTACT、**LINK**、および
ATTACHMENT です。

説明: RELTYPE タグで TYPE キーワードとして指定された値が無効です。有効な値は以下のとおりです。

ATTACHMENT

ターゲット・オブジェクトは、注釈オブジェクトとしてソース・オブジェクトに接続されています。

CONTAIN

ソース・オブジェクトにターゲット・オブジェクトが入っています。

CONTACT

ソース・オブジェクトは、ターゲット Contact オブジェクトに関連していません。

LINK ソース・オブジェクトは、ターゲット・オブジェクトにリンクしていません。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。

3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0471E 構文エラー -- PROPERTY タグ。
予約済みプロパティ省略名であるため、<short name> は **SHRTNAME** キーワードに有効な値ではありません。予約済み省略名の値は **OBJTYPID**、**INSTIDNT**、**UPDATIME**、および **UPDATEBY** です。

説明: 予約済みプロパティ短縮名であるため、示されている SHRTNAME キーワードの値は PROPERTY タグでは無効です。

以下の値が情報カタログ・マネージャーによって予約されており、新しいプロパティの SHRTNAME (short_name) 値として指定できません。

OBJTYPID
INSTIDNT
UPDATIME
UPDATEBY

NAME が新しいオブジェクト・タイプの UII プロパティであることを指示するには、新しいプロパティの省略名として NAME を指定してください。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。

- 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0472E 構文エラー -- **INSTANCE** タグ。
インポートによる使用に予約されているため、<short name> は有効な short_name 値ではありません。予約済み short_name 値は **OBJTYPID**、**INSTIDNT**、**UPDATIME**、および **UPDATEBY** です。

説明: そのプロパティ用の値を情報カタログ・マネージャーが生成するため、示されているプロパティ省略名 (short_name) は **INSTANCE** タグでは無効です。ユーザーはこの値をリセットできません。

以下のプロパティの値が、情報カタログ・マネージャーによって生成されます。

OBJTYPID
INSTIDNT
UPDATIME
UPDATEBY

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

- ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (**COMMENT** タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
- エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
- 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0473E 構文エラー -- **RELTYPE** タグ。
<keyword> がありません。有効なキーワードは **TYPE**、**SOURCETYPE**、および **TARGETYPE** です。

説明: 示されているキーワードが **RELTYPE** タグに必要ですが、見つかりません。必須キーワードは以下のとおりです。

TYPE
SOURCETYPE
TARGETYPE

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

- ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (**COMMENT** タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
- エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
- 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0474E 構文エラー -- **PROPERTY** タグ。
<keyword> がありません。必須キーワードは、**EXTNAME**、**DT**、**DL**、**SHRTNAME**、**NULLS** です。

説明: 示されているキーワードが **PROPERTY** タグに必要ですが、見つかりません。必須キーワードは以下のとおりです。

EXTNAME
DT
DL

SHRTNAME

NULLS

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0475E 構文エラー -- OBJECT タグ。この特定の ACTION タグ・オプションとともに <keyword> が使用されていません。

説明: 示されているキーワードは、この OBJECT タグでは無効です。いくつかの ACTION タグ・オプションにのみ、特定の OBJECT タグ・キーワードが有効です。OBJECT タグ・キーワードの使用については、以下のリストを参照してください。

TYPE 常に必須です。オブジェクト・タイプの名前を指定します。

CATEGORY

必須ですが、:ACTION.OBJTYPE(ADD) または :ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く場合のみ有効です。

EXTNAME

:ACTION.OBJTYPE(ADD) または :ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く場合、必須です。

:ACTION.OBJTYPE(UPDATE) の後に続く場合はオプションです。

PHYNAME

オプションですが、:ACTION.OBJTYPE(ADD) または :ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く場合、有効です。

ICOFIELD

オプションですが、:ACTION.OBJTYPE(ADD)、:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)、または :ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く場合、有効です。

ICWFILE

オプションですが、:ACTION.OBJTYPE(ADD)、:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)、または :ACTION.OBJTYPE(MERGE) の後に続く場合、有効です。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0476E チェックポイント ID <checkpoint ID> が見つからなかったため、タグ言語ファイル <tag language file name> のインポートをリセットできません。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、最後のコミット・チェックポイントの時点で開始された、示されているタグ言語ファイルをインポートできません。システムによって保管されているチェックポイント ID が、示されているタグ言語ファイルの COMMIT タグにあるチェックポイント ID に一致しません。

ユーザーの処置: 以下の原因が考えられます。

- 複数のファイルが同じ名前になっています。この場合、正しいファイルをインポートしていることを確認してください。
- 保管済みチェックポイントがタグ言語ファイルから除去されています。この場合、チェックポイントをファイルに復元してください。
- チェックポイントが、別のディレクトリーにあるファイル用のチェックポイントです。正しいディレクトリーからインポートを行っていることを確認してください。

FLG0477E 構文エラー -- DISKCNTRL タグ。

説明: DISKCNTRL タグに構文エラーがあります。このコマンドの構文:

```
:DISKCNTRL.SEQUENCE(nn, + | -)
```

- nn* ディスケットの順序番号です。
- +** タグ言語ファイルは、いくつかのディスクケットに続いています。
- このディスクケットに、タグ言語ファイルの末尾があります。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0478E オブジェクト・タイプ <object type name> を更新できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 内部エラーまたはデータベース・エラーのため、情報カタログ・マネージャーは示されているオブジェクト・タイプを更新できません。

ユーザーの処置: 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0479E オブジェクト・タイプ <object type name> が、ターゲット情報カタログに見つかりませんでした。

説明: 示されているオブジェクト・タイプがターゲット情報カタログに見つかりませんでした。情報カタログ・マネージャーは、以下のいずれかの ACTION タグの既存オブジェクト・タイプに、このオブジェクト・タイプ名を突き合わせることができませんでした。

```
ACTION.OBJTYPE(UPDATE)
ACTION.OBJTYPE(APPEND)
ACTION.OBJINST(ADD)
ACTION.OBJINST(UPDATE)
ACTION.OBJINST(DELETE)
ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)
```


ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)

ACTION.OBJINST(MERGE)

ACTION.RELATION(ADD)

ACTION.RELATION(DELETE)

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルを調べてください。
2. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. OBJECT タグの TYPE キーワードの場合、ターゲット情報カタログにある、示されている既存のオブジェクト・タイプ名に一致するオブジェクト・タイプ名を指定してください。
4. タグ言語ファイルを更新し、そのタグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0481E オブジェクト・タイプ <object type name> で **OBJTYPE(MERGE)** が処理される前に **OBJINST(MERGE)** が見つかりました。

説明: オブジェクト・タイプで :ACTION.OBJTYPE(MERGE) が行われる前にオブジェクト・インスタンスで :ACTION.OBJTYPE(MERGE) が行われているため、情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルのインポートを停止しました。

情報カタログ・マネージャーはまず、タグ言語ファイルにあるオブジェクト・タイプのプロパティ

一定義とターゲット・カタログに互換性があることを確認するため、オブジェクト・タイプを組み合わせます。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0482E 関係を削除できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは関係を削除できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポ

イント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0483E 関係を作成できません。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは関係を作成できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。
2. ログ・ファイルを調べてください。
3. 通常の (MDIS インポートではなく) インポートを実行している場合は、エコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
4. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。通常のインポートを実行している場合は、再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートすることができます。

FLG0484E タグ言語ファイル **<tag language file name>** がディスクットに見つかりませんでした。正しいディスクットを挿入して **Enter** を押してください。

説明: 示されているタグ言語ファイルは、このディスクットにはありません。

ユーザーの処置: 正しいディスクットを挿入して

Enter を押してください。

FLG0485E ディスクットが正しい順序で挿入されませんでした。番号 **<number>** のディスクットを挿入して、**Enter** を押してください。

説明: このディスクットは、正しくない順序で挿入されました。

入力タグ言語ファイルは複数のディスクットに保管されているため、正しい順序でディスクットを挿入する必要があります。

ユーザーの処置: 正しいディスクットを挿入して **Enter** を押してください。

FLG0486I 番号 **<number>** のディスクットを挿入して、**Enter** を押してください。

FLG0487E 構文エラー -- **INSTANCE** タグ。プロパティー名 (**short_name**) が見つかりませんでした。少なくとも **1** つのプロパティー名 (**short_name**) が必要です。

説明: この **INSTANCE** タグには、プロパティー省略名 (**short_name**) が指定されていません。以下の場合、1 つまたは複数のプロパティー省略名 (**short_name**) および値を **INSTANCE** タグに指定しなければなりません。

オブジェクト・インスタンスを更新
:ACTION.OBJINST(UPDATE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY()
short_name (value) ...

オブジェクト・インスタンスを追加または組み合わせる :ACTION.OBJINST(ADD) または
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY()
EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE()
:INSTANCE.*short_name (value) ...*

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. この INSTANCE タグに、1 つまたは複数のプロパティー省略名 (short_name) および値を指定してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0488W 情報カタログ・マネージャーがアイコン・ファイル <icon file name> を検索できなかったため、オブジェクト・タイプ <object type name> のアイコン情報は更新されませんでした。理由コードは <reason code> です。

説明: 示されているアイコン・ファイルを検索できなかったため、情報カタログ・マネージャーは、このオブジェクト・タイプのアイコン情報を更新できませんでした。

ユーザーの処置:

1. アイコン情報のないオブジェクト・タイプを識別するには、ログ・ファイルを調べてください。
2. 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使用してオブジェクト・タイプを更新し、アイコン情報を訂正してください。

FLG0489E 構文エラー -- ACTION タグ。
<keyword> の値が最大長
<maximum length> を超えています。

説明: 示されているキーワード値の長さが、そのキーワード値の長さとして許可されている最大長を超えています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0490I インポート開始: タグ言語ファイル
-- <tag language file name>

FLG0491I インポート終了: タグ言語ファイル
-- <tag language file name>

FLG0492I チェックポイント <checkpoint ID>
でのコミットが完了しました。

FLG0493I インポートがエラーで終了しました。データベースは最後のコミット・ポイント、またはタグ言語ファイルの先頭までロールバックされています。

FLG0494I インポートが正常に完了しました。

FLG0496E 構文エラー -- <tag name> タグ。
必要な位置に左括弧が見つかりませ
んでした。

説明: 示されているタグには、左括弧が後に続いていないキーワードがあります。キーワードの後には左括弧が必要です。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0497E 構文エラー -- <tag name> タグ。
<keyword/short name> 値に、引用符で囲まれていない括弧がありません。

説明: 示されている値には、引用符で囲まれていない括弧があります。以下で説明されているように、キーワード内の括弧は引用符で囲まなければなりません。(この例での改行には意味がないため、タグは同じ行に入力してください。)

```
:INSTANCE.REMARK(This is a ('great'))  
example)
```

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つの

タグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0498I 削除するオブジェクト・タイプ
(<object type name>) が見つかり
ませんでした。インポートは続行し
ます。

FLG0499I インポートが完了しましたが、警告
があります。

FLG0500E 構文エラーです。有効なタグ <tag
name> の後に余分な文字がありま
す。

説明: 示されているタグと次のタグの先頭の間は無効な文字が見つかりました。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0501E 構文エラー -- <tag name> タグ。
このタグにはキーワードが指定されていません。

説明: 以下のタグが、キーワードなしで指定されました。

ACTION
COMMIT
OBJECT
PROPERTY
RELTYPE

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. 必要なキーワードをタグに追加してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0502E 構文エラー -- <tag name> タグ。
<keyword> の値がないか、あるいはすべてブランクになっています。

説明: 示されているキーワードの値がないか、あるいはすべてブランクになっています。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つの

タグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. 必須であれば、値を指定してください。値がオプションで、これを省略したい場合、キーワードを除去してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0504E 更新するオブジェクト・インスタンスが見つかりませんでした。オブジェクト・タイプ: <object type name>, UUI: <part 1>, <part 2>, <part 3>, <part 4>, <part 5>。

説明: 更新したい、示されているオブジェクト・インスタンスが情報カタログに見つかりませんでした。情報カタログには、この UUI (汎用固有 ID) プロパティー値を持つオブジェクトがありません。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. エラーがある UUI プロパティー値を訂正してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0505E オブジェクト・タイプ <object type name> を作成できません。理由コードは <reason code> です。拡張コードは <extended code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプをインポート中に作成できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置: 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0506I 削除するオブジェクト・インスタスが見つかりませんでした。オブジェクト・タイプ: <object type name>、 UUI: <part 1>、 <part 2>、 <part 3>、 <part 4>、 <part 5>。 インポートは続行します。

FLG0507E エコー・ファイルのクローズ中にエラーが起きました。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、エコー・ファイルのクローズ中にエラーを見つけました。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0508I 関係が重複しています。 UUI:

FLG0510I 存在しないため、関係を削除できません。 UUI:

FLG0511E 構文エラー -- PROPERTY タグ。 SHRTNAME(NAME) が指定されている場合、 <keyword> は PROPERTY タグには使用されません。

説明: SHRTNAME キーワードに NAME の値がある場合、示されているキーワードは PROPERTY タグには無効です。 NAME は予約済みプロパティ略名であるため、この場合、PROPERTY タグとして考えられるのは以下の構文だけです。

:PROPERTY.SHRTNAME(NAME) UUISEQ(n)

その他の PROPERTY キーワードは無効です。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. PROPERTY タグの構文を訂正してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0512E タグ言語ファイルに有効なタグが見つかりませんでした。

説明: タグ言語ファイルが有効なタグで始まっていないため、情報カタログ・マネージャーはファイルの内容を認識できません。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルにユーザー情報が入っている場合、この情報をコメント・タグで識別してください。
2. エラーを修正し、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0513E タグ言語ファイルには、インポートまたはエクスポート時に許可されている最大数を超える離散的オブジェクト・タイプがあります。

説明: インポート中であれば、このメッセージは、タグ言語ファイルに 3500 を超える離散的オブジェクト・タイプが入っていることを意味します。

エクスポート中であれば、このメッセージは、すでに情報カタログ・マネージャーが 3500 の離散的オブジェクト・タイプをエクスポートしたことを意味します。

ユーザーの処置: インポートの場合、タグ言語ファイルをいくつかのファイルに分割し、インポート機能を実行するごとにインポートされる離散的オブジェクト・タイプの数を減らしてください。

エクスポートの場合、エクスポート機能を実行するごとに、より少ない離散的オブジェクト・タイプをエクスポートしてください。

FLG0514E 構文エラー -- <tag name> タグ。必要な位置に右括弧が見つかりませんでした。左括弧、キーワード、**short_name**、または **UII_short_name** のいずれかがありません。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、順序が正しくない右括弧を見つけました。以下のエレメントのいずれかがタグから欠落しています。

左括弧: 以下の例では、NAME と VALUE が左括弧で区切られていなければなりません。

エラー :INSTANCE.NAMEVALUE)

修正後 :INSTANCE.NAME(VALUE)

キーワード: 以下の例では、OBJECT タグと値 ABC の間に TYPE キーワードを指定する必要があります。

エラー :OBJECT.)

修正後 :OBJECT.TYPE(ABC)

short_name: 以下の例では、後に続く右括弧の前にプロパティ省略名および値を指定する必要があります。(または右括弧を除去)

エラー :INSTANCE.PROP1(VALUE1)
PROP2(VALUE2))

修正後 :INSTANCE.PROP1(VALUE1)
PROP2(VALUE2) PROP3(VALUE3)

UII_short_name: 以下の例では、SOURCEKEY の括弧の中に UII_short_name (UII プロパティの 8 文字の名前) および値を指定する必要があります。

エラー: :INSTANCE.SOURCEKEY()

修正後:
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_1(VALUE1))

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
2. 必要なエレメントを無効なタグに追加してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0515E 構文エラー -- `<tag name>` タグ。
必要な位置に左括弧が見つかりませんでした。 キーワード、
`short_name`、または
`UII_short_name` のいずれかがありません。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、順序が正しくない左括弧を見つけました。以下のエレメントのいずれかがタグから欠落しています。

キーワード: 以下の例では、`:ACTION.` とオプション (`ADD`) の間にキーワードが必要です。

エラー `:ACTION.(ADD)`

修正後 `:ACTION.OBJTYPE(ADD)`

short_name: 以下の例では、プロパティの値 (情報カタログ・マネージャーを使用) の前にプロパティ省略名を指定する必要があります。

エラー `:INSTANCE.(情報カタログ・マネージャーを使用)`

修正後 `:INSTANCE.TITLE(情報カタログ・マネージャーを使用)`

UII_short_name: 以下の例では、値 (`J. Smith`) の前に `UII_short_name` を指定する必要があります。

エラー `:INSTANCE.SOURCEKEY((J. Smith)
TITLE(情報カタログ・マネージャーを使用))`

修正後 `:INSTANCE.SOURCEKEY(AUTHOR(J.
Smith) TITLE(情報カタログ・マネージャーを使用))`

情報カタログ・マネージャーはデータベースを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つの

タグ (`COMMENT` タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. 必要なエレメントをタグに追加してください。
3. 再始動オプションを `C` (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0516W 関係を削除できません。ソース
UII: `<part 1>`、`<part 2>`、
`<part 3>`、`<part 4>`、`<part 5>`
が見つかりませんでした。

説明: 示されているソース・オブジェクト・インスタンスをターゲット情報カタログに見つけれなかったため、情報カタログ・マネージャーは関係を削除できませんでした。SOURCEKEY キーワードの UII 値が、情報カタログにあるどのオブジェクト・インスタンスにも一致しませんでした。

処理は続行されます。

FLG0517E 関係を作成できません。ソース
UII: `<part 1>`、`<part 2>`、
`<part 3>`、`<part 4>`、`<part 5>`
が見つかりませんでした。

説明: ソース・オブジェクト・インスタンス (`SOURCEKEY`) をターゲット情報カタログに見つけれなかったため、情報カタログ・マネージャーは関係を追加できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (`COMMENT` タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. ソース・オブジェクト・インスタンス (SOURCEKEY) の UUI を変更してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0518W 関係を削除できません。ターゲット UUI: <part 1>、<part 2>、<part 3>、<part 4>、<part 5> が見つかりませんでした。

説明: 示されているターゲット・オブジェクト・インスタンスを情報カタログに見つけられなかったため、情報カタログ・マネージャーは関係を削除できませんでした。TARGETKEY キーワードの UUI プロパティに指定されている値が、情報カタログにあるどのインスタンスにも一致しませんでした。

処理は続行されます。

FLG0519E 関係を作成できません。ターゲット UUI: <part 1>、<part 2>、<part 3>、<part 4>、<part 5> が見つかりませんでした。

説明: ターゲット・オブジェクト・インスタンスをターゲット情報カタログに見つけられなかったため、情報カタログ・マネージャーは関係を追加できませんでした。TARGETKEY キーワードの UUI プロパティの値が、ターゲット情報カタログにあるどのオブジェクト・インスタンスにも一致しませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。

2. ターゲット・オブジェクト・インスタンス (TARGETKEY) の UUI 値を変更してください。
3. 再始動オプションを C (チェックポイント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0520E 情報カタログ・マネージャーが予想しない問題を検出したため、クローズしなければなりません。管理者の処置が必要です。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーがメモリーを解放できません。

ユーザーの処置:

1. 情報カタログ・マネージャーのクローズ後に、トレース・ファイルを名前変更することで保管してください。(トレース・ファイルは使用している情報カタログと同じ名前です。DGWPATH で指定されたディレクトリーにあります。)
2. 情報カタログ・マネージャーを再オープンして、アクションを再実行してください。このメッセージが再度出される場合は、管理者処置が必要です。
3. IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

FLG0521E メモリーが不足しているため、情報カタログ・マネージャーはクローズされます。ウィンドウまたはアプリケーションをいくつかクローズ必要がある場合があります。

説明: 以下のいずれかの理由で、情報カタログ・マネージャーを続行するためにはメモリーがさらに必要です。

- 実行中のアプリケーションが多すぎる。

- ・情報カタログ・マネージャーが持つオブジェクトまたはオブジェクト・タイプが多すぎる。

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャーをクローズした後、他のウィンドウおよびアプリケーションをいくつかクローズして、情報カタログ・マネージャーを再オープンしてください。

管理者の応答: インポート機能を使用して、現在の情報カタログからオブジェクトまたはオブジェクト・タイプをいくつか削除してください。

FLG0522I オブジェクト・タイプ **<object type name>** およびその従属オブジェクト・インスタンスがすべて削除されました。

FLG0523E オブジェクト・タイプ **<object type name>** およびその従属オブジェクト・インスタンスを削除できません。理由コードは **<reason code>** です。拡張コードは **<extended code>** です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されているオブジェクト・タイプ、およびそのタイプのオブジェクトを削除できませんでした。

情報カタログ・マネージャーは情報カタログを最終チェックポイントまでロールバックし、インポートを停止します。

ユーザーの処置:

1. 理由コードおよび拡張コードの説明については、メッセージ解説書の **情報カタログ・マネージャー 理由コード セクション**を参照してください。
2. ログ・ファイルとエコー・ファイルを調べてください。エコー・ファイルの最後の 2 つのタグ (COMMENT タグは含まない) のいずれかがエラーのあるタグです。
3. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新し、再始動オプションを C (チェックポ

イント) に設定して、最後にコミットされたチェックポイントからタグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0524I オブジェクト・インスタンスおよび従属ツリー構造が削除されました。オブジェクト・タイプ: **<object type name>**、 UII:

FLG0525I 従属オブジェクトすべてを含む、オブジェクト・インスタンスのツリー構造が削除されました。オブジェクト・タイプ: **<object type name>**、 UII:

FLG0600I 情報カタログが正しく登録されました。情報カタログ・マネージャー・アイコンが生成されています。

FLG0601I 情報カタログが正しく作成されました。情報カタログ・マネージャー・アイコンが生成されています。

FLG0602E この名前の情報カタログがすでに存在します。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0603I この別名を持つ情報カタログがすでに存在します。情報カタログ・マネージャー・アイコンが生成されています。

FLG0604E コード・ページをロードできません。コード・ページの設定については、情報カタログ・マネージャーのインストールに関する資料を参照してください。

FLG0606E 情報カタログ・マネージャーがメモリーの割り振り中にエラーを検出したため、クローズしなければなりません。

FLG0607E コマンド・ファイルをオープンできません。

FLG0608E コマンド・ファイルをクローズできません。

FLG0609E コマンド・ファイルを読み取ることができません。

FLG0610E 情報カタログ名に無効な文字があります。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0611P 登録が進行中です。お待ちください。

FLG0612E 無効なドライブ ID、または読み取り / 書き込みアクセスを許可されていないドライブ ID を選択しました。

FLG0613E 情報カタログの作成に失敗しました。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0614E 情報カタログ・システム表 **<system table name>** を作成できません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0615E 情報カタログ・マネージャーを情報カタログにバインドできません。情報カタログ・マネージャーが予期しないデータベース・エラーを検出したか、現行ディレクトリーまたはパスで、バインド・ファイルを見つけることができません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0616E 情報カタログ・マネージャーが、情報カタログへの接続を失いました。情報カタログが不整合状態にあり、ドロップしなければならない可能性があります。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0617E システム・リソースが不足しているため、情報カタログを作成できません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0618P アップグレードが進行中です。お待ちください。

FLG0619E 情報カタログ・マネージャーを情報カタログにバインドするためには、**SYSADM** 権限が必要です。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0620E ローカル・データベース管理システムを開始できません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。データベースの資料を参照してください。

FLG0621E 情報カタログを作成するためには、**SYSADM** 権限が必要です。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0622E 情報カタログへのアクセス権を与えるためには、**SYSADM** 権限が必要です。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0623E データベースに接続できません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。データベースの資料を参照してください。

FLG0624P 作成が進行中です。お待ちください。

FLG0625E 情報カタログ・マネージャーをクローズできません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。データベースの資料を参照してください。

FLG0626E 情報カタログ・マネージャーが予期しないデータベース損傷を検出したため、クローズしなければなりません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。データベースの資料を参照してください。

FLG0627E コマンド・ファイルが見つかりません。

FLG0628I コマンド・ファイルは正しく処理されています。

FLG0629E 予約語であるため、**<reserved word>** を名前または別名として使用できません。別の名前または別名を選択してください。

FLG0630E 情報カタログ・マネージャーは共通オブジェクト・タイプをインポートできませんでした。理由コードは **<reason code>** です。エラーを修正した後、「共通オブジェクト・タイプのインポート」ユーティリティを使用してインポートを行ってください。

FLG0631E 情報カタログ・マネージャーが予期しないデータベース・エラーを検出したため、クローズしなければなりません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。データベースの資料を参照してください。

FLG0632E システム・エラーが発生しました。選択されたコマンド・ファイルを処理できません。

FLG0633E ファイルは実行可能ファイルではありません。ファイルを修正するか、あるいは別のコマンド・ファイルを選択して再試行してください。

FLG0634W 情報カタログ・マネージャーが予期しないエラーを検出しました。ヘルプは使用できません。

FLG0636E **<directory name>** ディレクトリにコマンド・ファイルがないため、サーバー・ノードの登録を続行できません。

FLG0638E 情報カタログ・マネージャーが予期しない内部エラーを検出したため、クローズされます。

FLG0640W 選択されたコマンド・ファイルは、<field name> フィールドの大きさを超えています。コマンド・ファイル全体は表示されません。

FLG0641E 登録済みノード ID がありません。情報カタログ・マネージャーを続行できません。

FLG0642E 情報カタログ・マネージャーは AS/400 ライブラリー・コレクション <collection name> を作成できませんでした。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。操作については、AS/400 管理者に連絡してください。

FLG0643E このユーティリティを呼び出す前に、AS/400 ライブラリー・コレクション "DATAGUID" を作成しなければなりません。
SQLCODE=<SQLCODE>、
SQLSTATE=<SQLSTATE>。

FLG0644E <field name> に値を入力しなければなりません。

FLG0645E 情報カタログ・マネージャーがシステム・エラーを検出したか、情報カタログ・マネージャー・アイコン・ファイルまたは情報カタログ・マネージャー実行可能ファイルを見つけられませんか。情報カタログ・マネージャー・アイコンは生成されません。

FLG0646E システムには、有効な情報カタログ・マネージャー・コード・ページがありません。サポートされているコード・ページについては、情報カタログ・マネージャーのインストールに関する資料を参照してください。

FLG0647E 選択したコード・ページは、データベースによってサポートされていません。有効なコード・ページについては、データベースの資料を参照してください。

FLG0648E 情報カタログの作成に失敗しました。DB2 (OS/2 版) データベース作成 API rc=<rc>

FLG0649E システム・データベース・ディレクトリーにデータベース ID がないため、このアップグレードは無効です。

FLG0650E アイコン・ファイルをオープンできません。サンプル・アイコン・ファイルが、PATH ステートメントに指定されているディレクトリーに保管されていることを確認してください。オペレーティング・システムによって異なりますが、PATH はシステム・レジストリー、**AUTOEXEC.BAT**、または **CONFIG.SYS** に設定されています。

FLG0651E 情報カタログ・マネージャーは、サンプル・アイコン・ファイルを情報カタログに置くことができません。**SQLCODE=<SQLCODE>**、**SQLSTATE=<SQLSTATE>**。データベースの資料を参照してください。

FLG0652I 情報カタログが正しくアップグレードされました。情報カタログ・マネージャー・アイコンが生成されています。

FLG0653E 必須バインド・パッケージがデータベースに定義されていないか、またはタイム・スタンプ競合が起きました。パスに **<bind file name>** ファイルが 1 つだけ存在することを確認してください。

FLG0654I 情報カタログが正しくアップグレードされました。情報カタログ・マネージャー・アイコンが生成されています。ただし、**UUI** プロパティの長さが最大長 254 バイトを超えているオブジェクト・タイプがあります。更新するオブジェクト・タイプについては、**<listing of object types to update>** を参照してください。

FLG0655E **<file name>** への書き込み中にエラーが起きました。

FLG0656E 情報カタログ・マネージャーが予期しない **Windows** エラーを検出しました。

FLG0657E 情報カタログ・マネージャーが **DGWPATH** 設定を見つけられないか、あるいは **DGWPATH** に指定されているドライブまたはディレクトリが無効です。オペレーティング・システムによって異なりますが、**DGWPATH** はシステム・レジストリー、**AUTOEXEC.BAT**、または **CONFIG.SYS** に設定されています。

FLG0658I 情報カタログではないデータベースを登録しました。情報カタログの作成方法については、管理者に確認してください。

FLG0659I 下位レベルの情報カタログを登録しました。情報カタログのアップグレード方法については、管理者に確認してください。

FLG0660E 情報カタログ・マネージャーは、指定されたデータベースを見つけられません。存在しなければ、データベースを作成してください。**DB2 CATALOG DATABASE** コマンドを使用して、ワークステーション上でリモート・データベースをカタログしてください。

FLG0661E 必須オブジェクト・タイプが情報カタログに存在しません。定義済みオブジェクト・タイプのインポート方法については、管理者に確認してください。

FLG0701E 出力タグ言語ファイル <tag language file name> をオープンできません。

説明: DGETL_SM は、書き込みのために DG_ETI.TAG をオープンできません。

ユーザーの処置: ファイルがオープンしていないこと、または別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。

FLG0702E 入力ファイルを読み取ることができません。ファイルの形式が正しくありません。

説明: DGETL_SM コマンドはファイルが正しい形式であることを前提としていますが、指定されたファイルは予期された形式に従っていません。壊れている可能性があります。

ユーザーの処置: 新しいファイルの生成については、ETI 管理者に連絡してください。

FLG0703E タグ言語ファイルの書き込みエラー。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、DG_ETI.TAG への書き込み中にエラーを見つけました。タグ言語ファイルを使用できない可能性があります。

ユーザーの処置: ファイルがオープンしていないこと、または別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。

FLG0750I MDIS 変換が開始されました: 入力タグ言語ファイル -- <tag language file name>、出力タグ言語ファイル -- <tag language file name>

FLG0751I MDIS 変換が正しく完了しました。

FLG0752I MDIS 変換がエラーで終了しました。

FLG0753I MDIS インポートで、エラーが見つかったと思われます。メッセージについては、ログ・ファイル (<file name>) を参照してください。

FLG0754I MDIS エクスポートが正しく完了しました。詳しくは (<file name>) を参照してください。

FLG0755I MDIS インポートが正しく完了しました。詳しくは (<file name>) を参照してください。

FLG0756I MDIS エクスポートで、エラーが見つかったと思われます。メッセージについては、ログ・ファイル (<file name>) を参照してください。

FLG0757W 指定されたオブジェクトをエクスポートできません。情報カタログ内のどのオブジェクトにも一致しません。

説明: 情報カタログには、/MDIS_EXPORT コマンドの /OBJTYPE および /OBJECTS に指定されている値に一致するオブジェクトがありません。

ユーザーの処置: MDIS オブジェクト・タイプおよびオブジェクト名が正しく指定されていることを確認してください。

FLG0758I <object type> オブジェクト、<MDIS object name> での MDIS エクスポートが完了しました。

FLG0759E 呼び出し構文エラー: /OBJECTS キーワードに指定されている値が無効です。

説明: /OBJECTS キーワードに指定されている値が、正しい形式に従っていません。

ユーザーの処置: キーワードに有効な値を指定し

てコマンドを入力し、MDIS エクスポートのために情報カタログ・マネージャーを開始してください。欠落したキーワードを指定して、コマンドを入力し、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。情報カタログ・マネージャーを呼び出すための正しい構文については、*情報カタログ・マネージャー 管理の手引き* を参照してください。

FLG0760E 呼び出し構文エラー: /OBJTYPE
キーワードに指定されている値が無効です。

説明: /OBJTYPE キーワードに指定されている値が、正しい形式に従っていません。

ユーザーの処置: キーワードに有効な値を指定してコマンドを入力し、MDIS エクスポートのために情報カタログ・マネージャーを開始してください。欠落したキーワードを指定して、コマンドを入力し、情報カタログ・マネージャーをオープンしてください。情報カタログ・マネージャーを呼び出すための正しい構文については、*情報カタログ・マネージャー 管理の手引き* を参照してください。

FLG0761E MDIS 構文エラー -- BEGIN
<MDIS section name> セクション。
<keyword> キーワードは、このセクションには無効です。

説明: 示されているキーワードは、このセクションには無効です。

セクションごとに有効なキーワードがあります。

セクション
BEGIN HEADER

BEGIN DATABASE

BEGIN RECORD

有効なキーワード

CharacterSet
ExportingTool
ToolVersion
ServerName
ServerType
ToolInstanceID
MDISVersion
Date
Time
MaxRecLength
ID
DateUpdated
TimeUpdated
DateCreated
TimeCreated
ServerName
DatabaseName
OwnerName
DatabaseLongName
BriefDescription
LongDescription
DatabaseType
ServerType
DatabaseStatus
ContactName
ID
DateUpdated
TimeUpdated
DateCreated
TimeCreated
ServerName
DatabaseName
OwnerName
RecordLongName
BriefDescription
LongDescription
RecordName
RecordType
RecordLastRefreshDate
RecordUpdateFrequency
ContactName

セクション	有効なキーワード	セクション	有効なキーワード
BEGIN ELEMENT	ID	BEGIN SUBSCHEMA	ID
	DateUpdated		DateUpdated
	TimeUpdated		TimeUpdated
	DateCreated		DateCreated
	TimeCreated		TimeCreated
	ServerName		ServerName
	DatabaseName		DatabaseName
	OwnerName		OwnerName
	RecordName		SubschemaName
	DimensionName		SubschemaLongName
	ElementName		BriefDescription
	ElementLongName		LongDescription
	BriefDescription		ContactName
	LongDescription	BEGIN RELATIONSHIP	ID
	ElementDataType		SourceObjectIdentifier
	ElementLength		TargetObjectIdentifier
	ElementNulls		DateUpdated
	ElementKeyPosition		TimeUpdated
	ElementPosition		DateCreated
	ElementPrecision		TimeCreated
	ElementOrdinality		ServerName
	ElementLastRefreshDate		OwnerName
	ContactName		RelationshipLongName
BEGIN DIMENSION	ID		BriefDescription
	DateUpdated		LongDescription
	TimeUpdated		RelationshipName
	DateCreated		RelationshipType
	TimeCreated		RelationshipExpression
	ServerName		SourceSequenceOrder
	DatabaseName		RelationshipOrdinality
	OwnerName		RelationshipBidirectional
	DimensionName		ContactName
	DimensionLongName	BEGIN	ToolName
	BriefDescription	APPLICATIONDATA	ToolData
	LongDescription		
	DimensionType		
	DimensionCount		
	DimensionLevelCount		
	ContactName		

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。

2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0762E MDIS 構文エラー -- 予期しないキーワード。 <invalid MDIS keyword> は <MDIS keyword> でなければなりません。

説明: 示されているキーワードは無効です。キーワードが有効な MDIS キーワードではない (たとえば BEGIN の代わりに START) か、あるいは BEGIN および END ステートメントがペアで使用されていないために無効であると思われる。

例:

```
BEGIN DATABASE
END DATABASE
```

キーワードを誤った順序で指定することはできません。(たとえば、BEGIN RECORD を BEGIN ELEMENT セクション内で使用することはできません。)

見つかったキーワードが 50 文字を超えている場合、メッセージ・テキストには先頭から 47 文字が書き込まれ、その後には省略記号 (...) が続きます。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0763E MDIS 構文エラー -- <identifier> 値 <value> が、前に識別されたオブジェクトに一致しません。

説明: 示されている SourceObjectIdentifier または TargetObjectIdentifier 値は、BEGIN RELATIONSHIP セクションの前にタグ言語ファイルで識別されたオブジェクトに一致していません。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0764E MDIS 構文エラー -- BEGIN <MDIS section name> セクション。 <keyword> キーワードがありません。

説明: 示されている必須キーワードが、セクションに見つかりません。

必要なキーワードはセクションによって異なります。

セクション	必須キーワード
BEGIN HEADER	CharacterSet ExportingTool ToolVersion ToolInstanceID MDISVersion Date Time

セクション	必須キーワード
BEGIN DATABASE	ID ServerName DatabaseName OwnerName DatabaseType ServerType ¹
BEGIN RECORD	ID RecordName RecordType
BEGIN ELEMENT	ID ElementName ElementDataType ElementPrecision ²
BEGIN DIMENSION	ID DimensionName DimensionType
BEGIN SUBSCHEMA	ID SubschemaName
BEGIN RELATIONSHIP	ID SourceObjectIdentifier TargetObjectIdentifier ServerName OwnerName RelationshipType RelationshipExpression ³ RelationshipOrdinality RelationshipBidirectional

注:

1. MDIS バージョン 1.0 では必須、MDIS 1.1 ではオプション
2. 10 進数には必須
3. RelationshipType が DERIVED であれば必須

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。

3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0765I 現在の更新が正しくコミットされました。

FLG0766E MDIS 構文エラー -- BEGIN
<MDIS section name> セクション。**<keyword>** キーワード値がないか、またはすべて空白になっています。

説明: 示されているセクションで、必須キーワードが見つからないか、または空白になっています。

必要なキーワード値はセクションによって異なります。

セクション	値が必要なキーワード
BEGIN DATABASE	ID DatabaseType
BEGIN RECORD	ID RecordType
BEGIN ELEMENT	ID ElementDataType ElementPrecision
BEGIN DIMENSION	ID
BEGIN SUBSCHEMA	ID
BEGIN RELATIONSHIP	ID SourceObjectIdentifier TargetObjectIdentifier RelationshipType RelationshipOrdinality RelationshipBidirectional ToolName

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。

2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0767W BEGIN DEFINITION セクションがありません。**MDIS** インポートは続行します。

説明: 現在のタグ言語ファイルには、BEGIN HEADER セクションの後に必要な BEGIN DEFINITION セクションがありません。情報カタログ・マネージャーは MDIS インポートを続行します。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. 既存の BEGIN DEFINITION セクションを BEGIN HEADER セクションの後の正しい位置に移動するか、あるいは BEGIN DEFINITION セクションを作成してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0768W BEGIN <MDIS section name> セクション。<keyword> キーワードが無効な日付 / 時刻形式になっています。**MDIS** インポートは続行します。

説明: 示されているセクションで、キーワードが無効な日付 / 時刻形式になっています。各キーワードの有効な形式は以下のとおりです。

キーワード	形式
DateCreated	YYYY-MM-DD
DateUpdated	YYYY-MM-DD
TimeCreated	HH.MM.SS
TimeUpdated	HH.MM.SS
RecordLastRefreshDate	YYYY-MM-DD- HH.MM.SS

キーワード	形式
ElementLastRefreshDate	YYYY-MM-DD- HH.MM.SS

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの場所を判別してください。
2. 示されている値が正しい形式であることを確認してください。
3. 値が正しくなくても構わない場合、タグ言語ファイルをもう一度インポートする必要はありません。

FLG0769E MDIS プロファイル・ファイル <file name> の読み取り中にエラーが起こりました。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されている MDIS プロファイル・ファイルを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0770E MDIS プロファイル・ファイル <file name> のクローズ中にエラーが起こりました。理由コードは <reason code> です。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、示されている MDIS プロファイル・ファイルをクローズできませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードの説明については、メッセージ解説書の情報カタログ・マネージャー 理由コード セクションを参照してください。

FLG0771I <name> からのメタデータが正しく発行されました。

FLG0772I <name> からメタデータを発行しているときに、情報カタログ・マネージャがエラーを見つけたと思われます。

FLG0773E MDIS 構文エラー -- BEGIN
 <MDIS section name> セクション。
 <keyword> キーワード値が無効です。

説明: 示されているセクションで、必須キーワード値が無効です。

必要なキーワード値は、セクションおよび他のキーワード値によって異なります。

セクション	キーワード	有効な値または形式
BEGIN HEADER	CharacterSet	ENGLISH INTLENG GERMAN FRENCH SPANISH JAPANESE SWISS PORTUG ITALIAN NORDIC
	MDISVersion	1.0 1.1
	Date	YYYY-MM-DD
	Time	HH.MM.SS
	MaxRecLength	1-99999999 の整数
BEGIN DATABASE	DatabaseType	RELATIONAL MULTIDIMENSIONAL HIERARCHICAL FILE OBJECT NETWORK
	DatabaseStatus	PRODUCTION DEVELOPMENT TEST
BEGIN RECORD	DatabaseType が RELATIONAL であれば RecordType	TABLE
	DatabaseType が NETWORK であれば RecordType	RECORD GROUP
	DatabaseType が OBJECT であれば RecordType	CLASS
	DatabaseType が FILE であれば RecordType	FILE GROUP
	DatabaseType が HIERARCHICAL であれば RecordType	GROUP SEGMENT

セクション	キーワード	有効な値または形式
BEGIN ELEMENT	ElementDataType	CHARVARCHARSTRING TEXT BINARY SIGNED-INTEGER UNSIGNED-INTEGER DECIMAL FLOAT DATE TIME TIMESTAMP RECORD PROGRAM
	ElementLength	整数
	ElementNulls	TF
	ElementKeyPosition	整数
	ElementPosition	整数
	ElementPrecision	整数
BEGIN DIMENSION	ElementOrdinality	N 整数
	DimensionCount	N 整数
	DimensionLevelCount	整数
BEGIN RELATIONSHIP	RelationshipType	EQUIVALENT DERIVED INHERITS-FROM CONTAINS INCLUDES LINK-TO REDEFINES GROUP-EQUIVALENT USER-DEFINED
	SourceSequenceOrder	整数:整数
	RelationshipOrdinality	1:1 1:N N:N 1:整数
	RelationshipBidirectional	TF

情報カタログ・マネージャはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0774E MDIS プロファイル・ファイル
 <file name> で、予期しないファイルの終わりに達しました。

説明: 情報カタログ・マネージャが、示されている MDIS プロファイル・ファイルの予期しない終わりに達しました。

ユーザーの処置:

1. 示されている MDIS プロファイル・ファイルを調べて、エラーの原因を判別し、修正してください。
2. MDIS インポートを呼び出して、タグ言語ファイルをインポートしてください。

FLG0775E MDIS 構文エラー -- BEGIN
<MDIS section name> セクション。 **IDENTIFIER** キーワード値 **<value>** が固有ではありません。

説明: 示されている IDENTIFIER キーワードの値が固有ではありません。 IDENTIFIER キーワードの値は固有でなければなりません。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを更新して、エラーになった値の代わりに固有な IDENTIFIER 値を挿入してください。
2. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0776I メタデータの発行が完了しました。
詳しくはトレース・ファイル (**<file name>**) を参照してください。

FLG0777E MDIS 構文エラー -- MDIS プロファイル・ファイル **<file name>**。
<keyword> キーワード値が無効です。

説明: 示されているプロファイル・ファイルで、キーワード値が無効です。

プロファイル・ファイル	キーワード	有効な値
Configuration	AllowOverride	TF

プロファイル・ファイル	キーワード	有効な値
Tool	Database	T
	Subschema	TF
	Dimension	TF
	Record	TF
	Element	TF
	Relationship	TF
	Level	TF
	View	TF

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. 示されているプロファイル・ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. 有効な値を使用してプロファイル・ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0778E MDIS プロファイル・ファイル **<file name>** が、情報カタログ・マネージャーの現在のバージョンではサポートされていない機能を要求しました。

説明: 示されているプロファイル・ファイルが、情報カタログ・マネージャーによってサポートされていない機能を要求しました。たとえば Configuration プロファイル・ファイルでは、キーワード用にサポートされている値は以下のとおりです。

キーワード	サポートされている値
Objects	*
AllowOverride	T

ユーザーの処置:

1. 示されているプロファイル・ファイルを調べて、エラーの場所を判別してください。
2. サポートされている代替機能を置き換えることができる場合、プロファイル・ファイルを編集してサポートされているキーワード値を組み込んでください。
3. プロファイル・ファイルを変更した場合、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0779E MDIS 構文エラー -- MDIS プロファイル・ファイル <file name>。 <invalid keywords> は <valid keywords> でなければなりません。

説明: 示されているキーワードは無効です。つづりが誤っているか、または省略されているため、キーワードが無効だと思われます。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. 示されているプロファイル・ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. プロファイル・ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0780E MDIS プロファイル・ファイル <file name> に競合する値があります。

説明: 示されているツール・プロファイル・ファイルに、互換性のないキーワード値があります。たとえば、値 F の DIMENSION キーワードまたは値 F の RECORD キーワードを指定する場合、値 T の ELEMENT キーワードには互換性がありません。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. 示されているツール・プロファイル・ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. プロファイル・ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0781E MDIS プロファイル・ファイル <file name> が無効です。

説明: 示されているプロファイル・ファイルには、情報カタログ・マネージャーがタグ言語ファイルをインポートするために必要とするキーワードおよび値がありません。

構成プロファイル・ファイルには、以下のキーワードおよび値の入った BEGIN CONFIGURATION/END CONFIGURATION のペアが入っていなければなりません。

キーワード	値
TargetToolName	情報カタログ・マネージャー
TargetToolVersion	3.1
TargetToolInstance	ヌル、または情報カタログ名に一致
SourceToolName	インポートされるタグ言語ファイルの BEGIN HEADER セクションにある ExportingTool 値に一致
SourceToolVersion	インポートされるタグ言語ファイルの BEGIN HEADER セクションにある ToolVersion 値に一致

SourceToolInstance	ヌル、またはインポートされるタグ言語ファイルの BEGIN HEADER セクションにある ToolInstanceID 値に一致
MDISVersion	インポートされるタグ言語ファイルの BEGIN HEADER セクションにある MDISVersion 値に一致

ツール・プロファイル・ファイルには、以下のキーワードおよび値の入った BEGIN TOOL/END TOOL のペアが入っていないなければなりません。

キーワード	値
ToolName	情報カタログ・マネージャー
ToolVersion	3.1
MDISVersion	インポートされるタグ言語ファイルの BEGIN HEADER セクションにある MDISVersion 値に一致

情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルをインポートできません。

ユーザーの処置:

1. 示されているプロファイル・ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. プロファイル・ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0782E MDIS 構文エラー -- MDIS プロファイル・ファイル <file name>。
<keyword> キーワードは、このプロファイル・ファイルには無効です。

説明: 示されているキーワードは、このプロファイル・ファイルには無効です。プロファイル・ファイルごとに有効なキーワードは以下のとおりです。

プロファイル・ファイル	有効なキーワード
構成プロファイル	TargetToolName
	TargetToolVersion
	TargetToolInstance
	SourceToolName
	SourceToolVersion
	SourceToolInstance
	MDISVersion
	Objects
AllowOverride	
ツール・プロファイル	ToolName
	ToolVersion
	MDISVersion
	Database
	Subschema
	Dimension
	Record
	Element
	Relationship
	Level
	View
	InvokeImport
	InvokeExport
Begin ApplicationData	
End ApplicationData	

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. 示されているプロファイル・ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. プロファイル・ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0783E MDIS 構文エラー -- MDIS プロファイル・ファイル <file name>。<keyword> の値が最大長 <maximum length> を超えています。

説明: MDIS プロファイル・ファイルで、示されているキーワード値の長さが、そのキーワード値の長さとして許可されている最大長を超えています。情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルのインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. 示されているプロファイル・ファイルを調べてください。
2. エラーの原因を判別し、プロファイル・ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0784W BEGIN <MDIS section name> セクション。最大長 <maximum length> を超えているため、<keyword or property short name> 値が切り捨てられました。MDIS インポートは続行します。

説明: MDIS セクションで、示されているキーワードまたはプロパティー省略名の長さが、そのキーワード値の長さとして許可されている最大長を

超えています。キーワード値は切り捨てられ、情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルのインポートを続行しました。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルを調べてください。
2. エラーの原因を判別し、必要なデータが失われている場合はタグ言語ファイルを更新してください。
3. 必要であれば、タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0785E MDIS 構文エラー -- BEGIN <MDIS section name> セクション。<keyword or property short name> の値が最大長 <maximum length> を超えています。

説明: MDIS セクションで、示されているキーワードまたはプロパティー省略名の長さが、そのキーワード値の長さとして許可されている最大長を超えています。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルを調べてください。
2. エラーの原因を判別し、タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0786E MDIS 構文エラー -- BEGIN <MDIS section name> セクション。<MDIS keyword> キーワード値 <value> が親値に一致しません。

説明: MDIS セクションで、示されているキーワードがタグ言語ファイルに明示的に指定されています。この指定では、値が、ネストされている他のセクションで対応するキーワードに指定されている値に競合しています。

たとえば、リレーショナル表の中の列をインポー

トしている場合、以下のネストされたオブジェクトがインポートされます。

データベース・オブジェクト・タイプ・オブジェクト

リレーショナル表および視点オブジェクト
列またはフィールド・オブジェクト

上のオブジェクトそれぞれに値を明示的に指定する場合、値は以下のように一致しなければなりません。

パート 1	パート 2	パート 3	パート 4
ServerName	DatabaseName		
ServerName	DatabaseName	OwnerName	RecordName
ServerName	DatabaseName	OwnerName	RecordName

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0787W MDIS プロファイル・ファイル <file name>。 <function name>
機能は、情報カタログ・マネージャの現行バージョンでサポートされていません。MDIS インポートは続行します。

説明: 示されているツール・プロファイル・ファイルが、情報カタログ・マネージャによってサポートされていない機能を要求しました。ツール・プロファイル・ファイルでは、キーワード用にサポートされている値は以下のとおりです。

キーワード	サポートされている値
VIEW	F
LEVEL	F

ユーザーの処置: 情報カタログ・マネージャがタグ言語ファイルのインポートを完了した後、ログ・ファイルを調べ、サポートされていない値が

原因で問題が起こっていないかどうか確認してください。

FLG0788E MDIS 構文エラー -- BEGIN <MDIS section name> セクションは、その位置では無効です。

説明: 示されている MDIS セクションは、タグ言語ファイルに置かれている位置では無効です。以下の規則に従って、MDIS セクションをネストすることができます。

セクション	以下の場合、BEGIN DATABASE 内で有効
BEGIN RECORD	DatabaseType が Multidimensional ではない: 最初のセクションにすることができます。
	別の有効な BEGIN RECORD セクションの後に続いている
	BEGIN SUBSCHEMA セクションの後に続いている (DatabaseType が Hierarchical ではない場合)
BEGIN DIMENSION	BEGIN DIMENSION セクションの後に続いている
	DatabaseType が Multidimensional である
	最初の BEGIN RECORD セクションの後に続いている
BEGIN DIMENSION	最初の BEGIN SUBSCHEMA セクションの後に続いている

セクション	以下の場合、 BEGIN DATABASE 内で有効
BEGIN SUBSCHEMA	最初のセクションである
	別の有効な BEGIN SUBSCHEMA セクションの後に続いている
	最初の BEGIN RECORD セクションの後に続いている (DatabaseType が Hierarchical ではない場合)
	BEGIN DIMENSION セクションの後に続いている

ユーザーの処置:

1. タグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0789E MDIS 構文エラー -- BEGIN <MDIS section name> セクション。オブジェクト・タイプ <object type name> のプロパティ省略名 <short name> が、ターゲット情報カタログに見つかりませんでした。

説明: 示されているセクション内のプロパティ省略名が、ターゲット情報カタログにある、示されているオブジェクト・タイプのどのプロパティ省略名にも一致しませんでした。オブジェクト・タイプが MDIS に準拠していないか、あるいは情報カタログ ApplicationData セクション内のオブジェクト・タイプ定義に無効なプロパティ省略名が入っています。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルおよびタグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0790E MDIS 構文エラー -- 情報カタログ ApplicationData セクション。必要な位置に左括弧が見つかりませんでした。property_short_name がありません。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、順序が正しくない左括弧を見つけました。MDIS パージョン 1.1 の場合、ApplicationData セクションは以下の形式に従っていなければなりません。

```

BEGIN ApplicationData
ToolName "toolname"
ToolData "tooldata"
ToolName "情報カタログ・マネージャー"
ToolData "property_short_name(property_value)
           property_short_name(property_value)
...
END ApplicationData

```

このメッセージは、予期せず左括弧が見つかったことを示しています。例:

```
ToolData "(property_value)"
```

プロパティ省略名がないことを示しています。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルおよびタグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルで、示されている ApplicationData セクションを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0791E MDIS 構文エラー -- 情報カタログ ApplicationData セクション。必要な位置に左括弧が見つかりませんでした。

説明: 情報カタログ・マネージャーは、必要な左括弧を見つけられませんでした。MDIS パージョン 1.1 の場合、ApplicationData セクションは以下の形式に従っていなければなりません。

```
BEGIN ApplicationData
ToolName "toolname"
ToolData "tooldata"
ToolName "情報カタログ・マネージャー"
ToolData "property_short_name(property_value)
         property_short_name(property_value)
...
END ApplicationData
```

このメッセージは、左括弧が見つからなかったことを示しています。

例:

```
ToolData "property_short_name property_value)"
```

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルおよびタグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルで、示されている ApplicationData セクションを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0792E MDIS 構文エラー -- MDIS ファイル <file name>。予期しない位置に二重引用符が見つかりました。キーワードがありません。

説明: 示されているファイルで、情報カタログ・マネージャーが、順序の正しくない二重引用符 (") を見つけました。二重引用符はキーワードの後に続くはずですが、この場合、キーワードが見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

1. 示されているファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. そのファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0793E MDIS 構文エラー -- MDIS ファイル <file name>。必要な位置に二重引用符が見つかりませんでした。

説明: 示されているファイルで、情報カタログ・マネージャーが、予期しない二重引用符 (") を見つけました。二重引用符はキーワードの後に続くはずですが、この場合、二重引用符が後に続いているキーワードが見つかりました。

ユーザーの処置:

1. 示されているファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. そのファイルを更新してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0794E MDIS 構文エラー -- MDIS ファイル <file name>。キーワード値の長さが最大長 32,700 バイトを超えています。

説明: 示されているファイルには、情報カタログ・マネージャーがインポートするには長すぎる値があります。値の最大長は 32,700 バイトです。

ユーザーの処置:

1. 示されているファイルを調べて、長さが 32,700 バイトを超えている値を見つけてください。
2. 必要に応じて、その値を短くしてください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0795I MDIS ID <identifier> と MDIS ID <identifier> の間で、コンテナー / コンテニー関係が重複しています。

FLG0796I MDIS ID <identifier> と MDIS ID <identifier> の間で、新しいコンテナー / コンテニー関係が作成されました。

FLG0797I オブジェクト・インスタンスが更新されました。 MDIS ID: <identifier>、情報カタログ・タイプ: <object type name>、 UUI:

FLG0798I 新しいオブジェクト・インスタンスが作成されました。 MDIS ID: <identifier>、情報カタログ・タイプ: <object type name>、 UUI:

FLG0799E MDIS 構文エラー -- 情報カタログ **ApplicationData** セクション。値に、引用符で囲まれていない括弧があります。

説明: タグ言語ファイルの情報カタログ **ApplicationData** セクションで、引用符に囲まれていない括弧が値に入っています。キーワード内の括弧は引用符で囲まなければなりません。

例: (この例での改行には意味がないため、同じ行に入力することができます。)

```
ToolData  
"property_short_name(xxx '('123')' yyy zzz)"
```

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルおよびタグ言語ファイルを調べて、エラーの原因を判別してください。
2. タグ言語ファイルで、示されている **ApplicationData** セクションを更新してください。

3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

FLG0800E MDIS 構文エラー -- **ApplicationData** が情報カタログの制限を超えています。

説明: タグ言語ファイルの **ApplicationData** セクションは、情報カタログ・マネージャーが情報カタログ **ApplicationData** オブジェクト・タイプにインポートするには大きすぎます。

ApplicationData オブジェクト・タイプには 10 のプロパティが入っており、プロパティそれぞれの値が 32,700 バイトを超えることはできません。

情報カタログ・マネージャーはインポートを停止しました。

ユーザーの処置:

1. ログ・ファイルを調べて、エラーの場所を判別してください。
2. タグ言語ファイルで、長すぎる **ApplicationData** セクションを見つけ、情報カタログの制限に合わせてサイズを調整してください。
3. タグ言語ファイルをもう一度インポートしてください。

第10章 GSE メッセージ

この項では、DB2 地理情報エクステンダー・メッセージが記述されています。メッセージは番号順にリストされています。

GSE0000I 操作が正しく完了しました。

GSE0001E 地理情報エクステンダーは、ユーザー ID “<user-id>” で要求された操作 (“<operation-name>”) を実行できませんでした。

説明: この操作を実行するための特権または権限のないユーザー ID から操作を要求しました。

ユーザーの処置: 資料を参照して適切な権限を調べるか、または地理情報エクステンダー管理者に権限を要求してください。

GSE0002E “<value>” は、“<argument-name>” 引き数として有効な値ではありません。

説明: 入力された値は正しくないか、またはつづりに誤りがあります。

ユーザーの処置: 資料を参照するか、あるいは地理情報エクステンダー管理者に連絡し、指定しなければならない値または値の範囲について調べてください。

GSE0003E 引き数 “<argument-name>” が指定されていないため、地理情報エクステンダーは要求された操作を実行できませんでした。

説明: この操作に必要な引き数を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 目的の値とともに引き数 “<argument-name>” を指定して、操作を要求し直してください。

GSE0004W 引き数 “<argument-name>” は評価されませんでした。

説明: 要求された操作は、引き数 “<argument-name>” を使用しません。

ユーザーの処置: 必要ありません。

GSE0005E 地理情報エクステンダーは、オブジェクト “<object-name>” の作成要求を処理できませんでした。

説明: オブジェクト “<object-name>” がすでに存在するか、あるいはオブジェクトを作成するための適切な許可がありません。オブジェクトとは、表、列、トリガー、索引、ファイル、またはその他の種類のオブジェクトです。

ユーザーの処置: “<object-name>” が必要のないオブジェクトであれば、処置は必要ありません。必要なオブジェクトであれば、名前を正しく指定して、オブジェクト作成のために適切な許可を持っていることを確認してください。

GSE0006E 地理情報エクステンダーは、使用可能または登録済みオブジェクト “<object-name>” で要求された操作を実行できませんでした。

説明: オブジェクト “<object-name>” はすでに使用可能または登録済みか、あるいはすでに存在しています。オブジェクトは、レイヤー、索引、地理情報参照システム、調整システム、ジオコーダー、またはその他の種類のオブジェクトです。

ユーザーの処置: オブジェクト “<object-name>”

が存在することを確認し、要求を再実行依頼してください。

GSE0007E 地理情報エクステンダーは、使用可能または登録済みになっていないオブジェクト “<object-name>” で要求された操作を実行できませんでした。

説明: オブジェクト “<object-name>” は、使用可能または登録済みになっていません。オブジェクトは、レイヤー、索引、地理情報参照システム、地理情報調整システム、ジオコーダー、またはその他の種類のオブジェクトです。

ユーザーの処置: オブジェクト “<object-name>” を使用可能にするか、または登録してください。その後、要求を実行依頼してください。

GSE0008E 予期しない SQL エラー (“<sql-error-message>”) が起こりました。

ユーザーの処置: SQL エラー・メッセージ “<sql-error-message>” の SQLCODE に関連する詳細メッセージを参照してください。必要であれば、IBM サービス担当者に連絡してください。

GSE0009E すでに存在するオブジェクト “<object-name>” で、要求された操作を実行できませんでした。

説明: “<object-name>” はすでにデータベースまたはオペレーティング・システムにあります。オブジェクトとは、ファイル、表、視点、列、索引、トリガー、またはその他の種類のオブジェクトです。

ユーザーの処置: アクセスを試みるときに、オブジェクトを正しく指定していることを確認してください。必要であれば、オブジェクトを削除してください。

GSE0010E 存在しないと思われるオブジェクト “<object-name>” で、要求された操作を実行できませんでした。

説明: “<object-name>” は、データベースまたはオペレーティング・システムに存在しません。オブジェクトとは、ファイル、表、視点、列、索引、トリガー、またはその他の種類のオブジェクトです。

ユーザーの処置: オブジェクトにアクセスするための適切な許可を持っていることを確認してください。許可があってもオブジェクトが存在しない場合、オブジェクトを作成する必要があります。

GSE0011E 地理情報エクステンダーは、オブジェクト “<object-name>” を使用不可に、または登録解除することができません。

説明: “<object-name>” は別のオブジェクトに從属しています。“<object-name>” とは、地理情報参照システム、レイヤー、ジオコーダー、またはその他の種類のオブジェクトです。

ユーザーの処置: 資料を参照して、“<object-name>” が從属できるオブジェクトの種類について調べてください。その後、“<object-name>” が從属している特定のオブジェクトを除去してください。

GSE0012E 完全修飾の地理情報列 “<layer-schema.layer-name.layer-column>” が表レイヤーとして登録されていないため、地理情報エクステンダーは要求を処理できませんでした。

説明: 完全修飾の地理情報列 “<layer-schema.layer-name.layer-column>” を表レイヤーとして登録しておかなければ、この列に関連する特定の操作（たとえば、索引を使用可能にしたり、ジオコーダーで列をバッチ・モードで移植したり、または自動的に更新したりすること）を

実行することはできません。

ユーザーの処置: 地理情報エクステンダーで DB2GSE.GEOMETRY_COLUMNS 視点を調べて、完全修飾の地理情報列

“<layer-schema.layer-name.layer-column>” が表レイヤーとして登録されていることを確認してください。また、その列の入った表に、対応する有効な属性列があることも確認してください。

GSE0013E データベースは地理情報分析に使用できません。

説明: データベースは地理情報分析に使用できません。そのため、地理情報エクステンダー・カタログは存在しません。

ユーザーの処置: データベースで地理情報操作ができるようにしてください。

GSE0014E すでにデータベースで地理情報操作ができるようになっています。

説明: すでにデータベースで地理情報操作ができるようになっています。

ユーザーの処置: データベースが期待通り使用可能になっていることを確認してください。必要ならば、データベースを使用不可にします。

GSE0498E 次のエラーが起きました:
“<error-message>”

GSE0499W 地理情報エクステンダーが次の警告を出しました:
“<warning-message>”

GSE0500E 指定された操作モード (“<operation-mode>”) は無効です。

説明: 示されているモードは、要求された操作によってサポートされていません。

ユーザーの処置: 資料を参照して、この操作によ

ってサポートされているモードを調べてください。

GSE1001E 地理情報エクステンダーは、地理情報列 “<schema-name.table-name.column-name>” に基づいている視点レイヤー “<schema-name.view-name.column-name>” を登録できませんでした。

説明: 指定された地理情報列 (“<schema-name.table-name.column-name>”) は、表レイヤーとして登録されていません。

ユーザーの処置: 列 “<schema-name.table-name.column-name>” を表レイヤーとして登録してください。

GSE1002E 地理情報エクステンダーは、表 “<schema-name.table-name>” に基づいている視点レイヤー “<schema-name.view-name.column-name>” を登録できませんでした。

説明: 指定された表 (“<schema-name.table-name>”) は、直接または間接的に視点 “<schema-name.view-name.column-name>” の基本になっていません。

ユーザーの処置: 視点 “<schema-name.view-name.column-name>” の基礎表を調べて、その表を指定してください。

GSE1003E 地理情報エクステンダーは、表または視点 “<schema-name.object-name>” の列 “<column-name>” にアクセスできませんでした。

説明: 表または視点 “<schema-name.object-name>” には、列 “<column-name>” がありません。

ユーザーの処置: 表または視点

“<schema-name.object-name>” の定義をチェックして、目的の列の正しい名前を調べてください。

GSE1004E 地理情報エクステンダーは、完全修飾の地理情報列 “<schema-name.table-name.column-name>” を表レイヤーとして登録できませんでした。

説明: 列

“<schema-name.table-name.column-name>” は地理情報データ・タイプではないか、あるいは基礎表に関連していません。

ユーザーの処置: 列

“<schema-name.table-name.column-name>” に地理情報データ・タイプを定義するか、この列がローカル基礎表の一部であることを確認してください。

GSE1005E 視点レイヤーとして指定されている地理情報参照システム (“<view-layer-spatial-reference-id>”) が、このレイヤーの基礎表として使用されている地理情報参照システム (“<table-layer-spatial-reference-id>”) と異なっています。

説明: 視点レイヤーの地理情報参照システムは、基礎表レイヤーの地理情報参照システムと同じでなければなりません。

ユーザーの処置: 視点レイヤーとして基礎表レイヤーの地理情報参照システムを指定してください。

GSE1006E “<spatial-reference-id>” は無効な地理情報参照システム ID であるため、地理情報エクステンダーは要求されたレイヤーを登録できませんでした。

説明: 指定された地理情報参照システム (“<spatial-reference-id>”) は、使用可能または登録済みになっていません。

ユーザーの処置: 地理情報参照システムを使用可能に、または登録してください。その後、レイヤーを登録する要求を実行依頼してください。

GSE1007E 地理情報エクステンダーが地理情報列 (“<column-name>”) を表 “<schema-name.table-name>” に追加できなかったときに、SQL エラー (SQLSTATE “<sqlstate>”) が起こったと思われます。

ユーザーの処置: SQLSTATE “<sqlstate>” に関連するメッセージを調べてください。

GSE1008E 視点レイヤーの地理情報データ・タイプ “<layer-column-type>” が基礎表レイヤーの地理情報データ・タイプ “<geo-schema.geo-name.geo-column>” に一致していないため、地理情報エクステンダーは視点レイヤー “<layer-schema.layer-name.layer-column>” を登録できませんでした。

説明: 視点レイヤー

“<layer-schema.layer-name.layer-column>” の地理情報データ・タイプは、視点レイヤーの基礎表レイヤー “<geo-schema.geo-name.geo-column>” の地理情報データ・タイプに一致している必要があります。これら 2 つのデータ・タイプが矛盾していると、地理情報データは処理される際にあいまいになります。

ユーザーの処置: 視点レイヤーと基礎表レイヤーの地理情報データ・タイプが同じであることを確認してください。

GSE1020E “<spatial-reference-id>”は無効な地理情報参照システム ID です。

説明: ID “<spatial-reference-id>”の地理情報参照システムは使用可能になっていません。

ユーザーの処置: 示されている地理情報参照システムが使用可能になっていることを確認してください。

GSE1021E 対応する地理情報座標システム ID “<spatial-coordinate-id>”が無効であるため、地理情報エクステンダーは地理情報参照システム “<spatial-reference-id>”を使用可能にできませんでした。

説明: ID “<spatial-coordinate-id>”の座標システムは、地理情報エクステンダー・カタログに定義されていません。

ユーザーの処置: 地理情報エクステンダー・カタログで DB2GSE.COORD_REF_SYS 視点を調べて、座標システム ID “<spatial-coordinate-id>”を確認してください。

GSE1030E “<schema-name.table-name>”が基礎表ではないため、地理情報はこれに対してジオコーダーを使用可能にすることができませんでした。

説明: ジオコード化したいソース・データが入っているオブジェクトは、基礎表でなければなりません。

ユーザーの処置: ジオコード化したいソース・データが入っている列が、基礎表の一部であることを確認してください。

GSE1031E 地理情報エクステンダーは、レイヤー “<layer-schema.layer-name.layer-column>”を自動的に作成モードで操作できるよう、ジオコーダー “<geocoder-id>”を使用可能にすることができませんでした。

説明: 説明は以下のとおりです。

- すでにジオコーダーは、レイヤー “<layer-schema.layer-name.layer-column>”を自動的に更新することができます。
- このレイヤーに対して、ジオコーダーは一時的に無効になっています。
- このレイヤーにソース・データ用の列が定義されていません。

ユーザーの処置: ジオコーダーが一時的に無効になっている場合、ジオコーダーが自動的に再作成モードで操作できるようにしてください。

GSE1032E 地理情報エクステンダーは、レイヤー “<layer-schema.layer-name.layer-column>”を自動的に再作成モードで操作できるよう、ジオコーダー “<geocoder-id>”を使用可能にすることができませんでした。

説明: 説明は以下のとおりです。

- すでにジオコーダーは、レイヤー “<layer-schema.layer-name.layer-column>”を自動的に更新することができます。
- ジオコーダーは、このレイヤーに対して無効になっていませんでした。
- このレイヤーにソース・データ用の列が定義されていません。

ユーザーの処置: ジオコーダーがドロップ・モードで使用不可になっている場合、あるいはこのレイヤーに対して定義されたことがない場合、ジオコーダーが自動的に作成モードで操作できるようにしてください。

GSE1033E 地理情報エクステンダーが、レイヤー
—
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” 用の列を含む表にトリガーを追加しようと試みたときに、**SQL エラー**が起きました。
(SQLSTATE “<sqlstate>”)

説明: トリガーの目的は、ジオコーダーの入力が入っていた属性列、およびその出力の宛先である地理情報列の間のデータ保全性を保つことです。DB2 がトリガーの作成を試みたときに **SQL エラー**が起きました。

ユーザーの処置: SQLSTATE “<sqlstate>” に関連するメッセージを調べてください。

GSE1034E 地理情報エクステンダーは、レイヤー
—
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” に対して、ドロップ・モードでジオコーダー
“<geocoder-id>” を使用不可能にすることができませんでした。

説明: 説明は以下のとおりです。

- ジオコーダーは、レイヤー
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” を自動的に更新することができません。
- ジオコーダーは、ドロップ・モードでは使用不可能になっています。

ユーザーの処置: 使用不可能にする前に、ジオコーダーの状態を確認してください。たとえば登録されているかどうか、または使用可能になっているかどうかを調べてください。その後、ドロップ・モードで使用不可能にする必要があるかどうかを決定してください。たとえば、使用可能になっていない場合、ジオコーダーを使用不可能にする必要はありません。

GSE1035E 地理情報エクステンダーは、レイヤー
—
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” に対して、無効モードでジオコーダー “<geocoder-id>” を使用不可能にすることができませんでした。

説明: 説明は以下のとおりです。

- ジオコーダーは、レイヤー
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” を自動的に更新することができません。
- ジオコーダーは、無効モードまたはドロップ・モードでは使用不可能になっています。

ユーザーの処置: 使用不可能にする前に、ジオコーダーの状態を確認してください。たとえば登録されているかどうか、または使用可能になっているかどうかを調べてください。その後、無効モードで使用不可能にする必要があるかどうかを決定してください。たとえば、すでに無効モードで使用不可能になっている場合、ジオコーダーを同じモードで再び使用不可能にする必要はありません。

GSE1036E 地理情報エクステンダーが、レイヤー
—
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” 用の列を含む表からトリガーをドロップしようと試みたときに、**SQL エラー**が起きました。
(SQLSTATE “<sqlstate>”)

説明: トリガーは、ジオコーダーの入力が入っていた属性列、およびその出力の宛先である地理情報列の間のデータ保全性を保つために作成されました。DB2 がトリガーのドロップを試みたときに **SQL エラー**が起きました。

ユーザーの処置: SQLSTATE “<sqlstate>” に関連するメッセージを調べてください。

GSE1037E 地理情報エクステンダーは、表レイヤー
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” に対してソース・データをジオコード化することができませんでした。このレイヤー用のソース・データを提供する属性列の数を指定している引き数に、誤った値 “<number-of-attributes>” が割り当てられたことが原因だと思われます。

説明: このレイヤーに関連する属性列の数が誤って指定されたか、あるいはそれらの列の名前のいくつかが誤って指定されました。

ユーザーの処置: このレイヤーが、関連する属性列について正しい数および名前に登録されていることを確認するか、あるいはジオコーダーの入力および出力が正しいことを確認してください。

GSE1038E 地理情報エクステンダーが、表レイヤー
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” のソース・データをバッチ・モードでジオコード化しているときに、SQL エラーが起きました。(SQLSTATE “<sqlstate>”)

ユーザーの処置:

- SQLSTATE “<sqlstate>” に関連するメッセージを調べてください。
- このレイヤーの内容および primaryUDF 引き数が正しく定義されていることを確認してください。

GSE1050E 指定された格子サイズ (“<grid-size>”) は、最初の格子レベルには無効です。

説明: 最初の格子レベルの格子サイズとして、0 または負の数値を指定しました。

ユーザーの処置: 格子サイズとして正の数値を指定してください。

GSE1051E 指定された格子サイズ (“<grid-size>”) は、2 番目および 3 番目の格子レベルには無効です。

説明: 2 番目または 3 番目の格子レベルの格子サイズとして、負の数値を指定しました。

ユーザーの処置: 格子サイズとして 0 または正の数値を指定してください。

GSE1052E 地理情報エクステンダーが表レイヤー
“<layer-schema.layer-name.layer-column>” の地理情報索引 “<index-schema.index-column>” を作成しようと試みているときに、SQL エラーが起きました。(SQLSTATE “<sqlstate>”)

ユーザーの処置:

- 地理情報索引が正しく指定され、関連する索引が地理情報列にないことを確認してください。
- SQLSTATE “<sqlstate>” に関連するメッセージを調べてください。

GSE1500I ソース・レコード “<record-number>” が正しくジオコード化されました。

説明: 属性データが入っているレコードは正しくジオコード化されました。

GSE1501W ソース・レコード “<record-number>” はジオコード化されませんでした。

説明: 精度レベルが高すぎました。

ユーザーの処置: より低い精度レベルでジオコードを行ってください。

GSE1502W ソース・レコード
“<record-number>”が見つかりま
せませんでした。

説明: ソース・レコード “<record-number>” が見
つかりませんでした。

ユーザーの処置: レコードがデータベースに存在
するかどうか調べてください。

GSE2001E 地理情報エクステンダーは、要求さ
れた操作を実行できませんでした。

ユーザーの処置: データベース管理者に相談して
ください。

GSE2002E データベース管理システム・エラー
が起きました。

ユーザーの処置: データベース管理者に相談して
ください。

GSE2003E 呼び出したストアード・プロシージャ
は、ワークステーションに接続
できません。

説明: ストアード・プロシージャは、ワークス
テーションを識別するための情報にアクセスでき
ません。

ユーザーの処置: データベース管理者に相談して
ください。

GSE2004E 地理情報エクステンダーは、インポ
ートされる SDE 転送ファイルに指
定されている座標システム ID を検
査できません。

ユーザーの処置: 以下の方法の 1 つ以上を試み
てください。

- SDE 転送ファイル内の地理参照システム ID
が、正しい座標システム ID を指していること
を確かめます。
- DB2GSE.COORD_REF_SYS カタログ視点内に
正しい座標システム ID が載っているかどうか

を確かめます。この視点内に ID がなければ、
データベース管理者に知らせてください。

- SDE 転送ファイルが壊れているかどうかを確
かめます。壊れている場合、このファイルの正
常なコピーの入手とインポートを試みてくださ
い。

GSE2005E 地理情報エクステンダーは、エク
ポートされるファイルを検査できま
せん。

説明: この問題には 1 つ以上の原因がある可能
性があります。たとえば、ファイルにアクセスす
る許可を受けていない場合や、地理情報エク
ステンダーがそのファイルの検出または読み取りを
できなかったり、その中のデータのタイプを認識
できなかったりする場合があります。

ユーザーの処置: 必ず、ファイルの完全修飾パス
を指定してください。また、
db2gse.gse_export_shape ストアード・プロシ
ージャの実行に使用するユーザー ID が、パス内の
各ディレクトリーに読み取りおよび書き込みア
クセスできることも確認してください。さらに、そ
のようなディレクトリーの入ったディスクが、
DB2 が実行されているのと同じノード上にマウン
トされていて、しかもパス内に指定されているの
と同じマウント・ポイントを使用していることを
確かめてください。また、ファイルに入っている
データのデータ・タイプが地理情報エクステン
ダーで認識されていることも確かめてください。

エラーが再発する場合、ファイルが壊れているか
どうかを究明してみてください。壊れている場
合、このファイルの正常なコピーの入手とエク
ポートを試みてください。

GSE2006E ファイル “<filename>” で入出力
エラーが起きました。

説明: ファイル “<filename>” で入出力エラーが
起きました。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイルへ
の適切なアクセス権があり、ファイルが別のユー

ザーによって使用されていないことを確認してください。

GSE2007E 地理情報エクステンダーは、データのインポート先のレイヤーを検査できません。

説明: このレイヤーが定義されている列の名前を誤って指定したか、または標準命名規則に準じた名前でない可能性があります。同様に、その列が属する表の名前を誤って指定したか、または標準命名規則に準じた名前でない可能性もあります。

ユーザーの処置: レイヤーが DB2GSE.GEOMETRY_COLUMNS カタログ視点内に載っていて、しかも列名とそれが属する表の名前を正しく指定していて、さらに名前が標準命名規則に準じていることを確かめます。

GSE2008E 地理情報エクステンダーは、非ヌル制約をもつレイヤー内へヌルを挿入しようとしています。

ユーザーの処置: ヌルを備えた列を、ヌルを受け入れられるレイヤーにインポートするか、またはデータベース管理者に依頼して非ヌル制約を除去してもらいます。

GSE2012E 地理情報エクステンダーは、データのインポート先のレイヤーにアクセスできません。

説明: レイヤーにアクセスするのに使用したユーザー ID は、そのレイヤーが定義されている列を変更する許可を受けていません。

ユーザーの処置: データベース管理者に依頼して、必要な許可 (たとえば、列が属する表に対する挿入または選択の特権) を受けてください。

GSE2014E 地理情報エクステンダーは、指定されたレイヤーにデータをインポートできません。

説明: 地理情報エクステンダーは、データのインポート先のレイヤーを見つけれられません。

ユーザーの処置: レイヤーが DB2GSE.GEOMETRY_COLUMNS 視点に載っているかどうかを確かめてください。載っていない場合、db2gse.gse_register_layer ストアド・プロシージャを使うか、または「コントロール・センター (Control Center)」内の「レイヤーの作成 (Create Layer)」ウィンドウを使って、レイヤーを登録します。レイヤーが DB2GSE.GEOMETRY_COLUMNS 内にある場合、データベース管理者に問題を報告してください。

GSE2016E 地理情報エクステンダーは、要求された形状ファイルを、指定されたレイヤーにインポートできません。

説明: インポートしようとしている地理情報データのデータ・タイプは、その地理情報データのインポート先のレイヤーのデータ・タイプと互換性がありません。

ユーザーの処置: インポートしようとしている地理情報データのデータ・タイプと互換性のあるデータ・タイプをもつ新規のレイヤーを作成してください。次に、データをその新しいレイヤーにインポートします。あるいは、別の形状ファイルをインポートしてください。つまり、移植しようとしているレイヤーと互換性のある地理情報データをもつファイルをインポートします。

GSE2021E 地理情報エクステンダーは、データのインポート先の形状ファイルにアクセスできません。

説明: この問題には、いくつかの原因が考えられます。たとえば、地理情報エクステンダーが、形状ファイルの絶対パスを認識していないか、この

ファイルの形式を認識できないか、またはこのファイルが置かれているディスクが正しくマウントされていないかもしれません。

ユーザーの処置: 必ず、ファイルの完全なパスを指定してください。そのようにしてもエラーが再発する場合、ファイルが確かに形状ファイルであり、誤って形状ファイルと指定された別の種類のファイルではないことを確認してください。ファイルが形状ファイルである場合、以下の対処策のいずれかを試してみてください。

- ファイルが壊れているかどうかを確かめます。壊れている場合、このファイルの正常なコピーの入手とインポートを試みてください。
- 別のワークステーションからこのファイルにアクセスする場合、以下を確認してください。
 - ファイルを取めたディスクがマウントされている。
 - そのディスクは、ファイル・パス名に指定されているのと同じマウント・ポイントを使っている。
 - 別のワークステーションで使用しているユーザー ID は、そのファイルに読み取りアクセスすることができる。

GSE2023E 地理情報エクステンダーは、指定された形状ファイルから属性データをインポートできません。

説明: 形状ファイル内の属性列の定義を、データのインポート先の表内の対応する列の定義に変換できません。

ユーザーの処置: この属性列のデータ・タイプ、最大長、およびその他の特性を、データのインポート先の属性列用の同等または対応する特性に変換できることを確認してください。

GSE2026E 地理情報エクステンダーは、インポートできなかったデータを入れるファイルを作成できません。

説明: 形状ファイルがインポートされると地理情報エクステンダーは、インポートに失敗したすべてのレコードを集めてそのファイルに入れ、後で修正してインポートできるようにします。この場合、地理情報エクステンダーは、拒否されたレコードを入れるファイルを作成するのに十分な情報または許可をもっていません。

ユーザーの処置: 拒否されたレコード用に地理情報エクステンダーが作成するファイルの完全修飾パスを指定します。それと同じパスと名前をもつファイルがまだ存在していないことを確かめてください。また、`db2gse.gse_import_shape` ストアード・プロシージャの実行に使用するユーザー ID が、パス内の各ディレクトリーに読み取りおよび書き込みアクセスすることも確認してください。さらに、そのようなディレクトリーの入ったディスクが、DB2 が実行されているのと同じノード上にマウントされていて、しかもパス内に指定されているのと同じマウント・ポイントを使用していることを確かめてください。

GSE2027E 地理情報エクステンダーは、要求されたインポートまたはエクスポート操作を実行できませんでした。

説明: 操作を完了するのに十分なメモリーがありません。インポートまたはエクスポートしようとしているファイルは壊れていて、メモリーが過度にドレインする原因になっていると思われます。

ユーザーの処置: ファイルをもう一度インポートまたはエクスポートしてみてください。それでもエラーが再発する場合、ファイルが壊れているかどうかを究明してみてください。壊れている場合、このファイルの正常なコピーを取得してから、そのコピーのインポートまたはエクスポートを試みてください。まだ問題が続く場合、データベース管理者に報告してください。

GSE2030 地理情報エクステンダーは、指定された列にデータをインポートできません。

説明: 指定された列は、レイヤーとして登録されていません。

ユーザーの処置: SDE データをインポートしたい場合、DB2 コントロール・センターまたは db2gse.gse_import_sde ストアード・プロシージャを使って、その列をレイヤーとして登録してから、データをインポートしてください。形状データをインポートしたい場合、DB2 コントロール・センターまたは db2gse.gse_import_shape ストアード・プロシージャを使って、その列をレイヤーとして登録してから、データをインポートしてください。

GSE2031 地理情報エクステンダーは、指定されたレイヤーにデータをインポートできません。

説明: レイヤーが定義されていた表はもう存在しません。

ユーザーの処置: SDE データをインポートしたい場合、DB2 コントロール・センターまたは db2gse.gse_import_sde ストアード・プロシージャを使って、表をもう一度作成してから、データをインポートしてください。形状データをインポートしたい場合、DB2 コントロール・センターまたは db2gse.gse_import_shape ストアード・プロシージャを使って、表をもう一度作成してから、データをインポートしてください。

GSE2032E 地理情報エクステンダーは、属性データをインポートできません。

説明: インポート・ファイル内に指定されている 1 つ以上の属性列に対応する列が、データのインポート先の表内にありません。

ユーザーの処置: インポート・ファイル内で、ファイルのロード先の表において対応する列をもたない列 (またはおのおの列) を特定してください

い。次に、足りなかった 1 つ以上の列を表に付加します。あるいは、インポートの対象を、当初の対象とは異なるレイヤーと一連の属性列に変更してもかまいません。

GSE2033E 地理情報エクステンダーは、インポートされる完全ファイルを読み取れませんでした。

説明: ファイルは、破れているか、または切り捨てられています。

ユーザーの処置: ファイルをもう一度インポートしてみてください。エラーが再発する場合、このファイルの正常なコピーの入手とインポートを試みてください。

GSE2034E 地理情報エクステンダーは、要求された SDE 転送ファイルをインポートできません。

説明: インポートしようとしている地理情報データのデータ・タイプは、その地理情報データのインポート先のレイヤーのデータ・タイプと互換性がありません。

ユーザーの処置: インポートしようとしている地理情報データのデータ・タイプと互換性のあるデータ・タイプをもつ新規のレイヤーを作成してください。次に、データをその新しいレイヤーにインポートします。あるいは、別の SDE 転送ファイルをインポートしてください。つまり、移植先のレイヤーと互換性のある地理情報データをもつファイルをインポートします。

GSE3001E 不明なシステム障害。

説明: 想定外のシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 構文を訂正してから、もう一度関数を呼び出してください。それでも問題が続く場合、テクニカル・サポートに連絡してください。

GSE3002E ウェルノウン・テキスト・ストリングは無効です。

説明: 呼び出した関数に対して、無効のウェルノウン・テキスト・ストリングを入力しました。

ユーザーの処置: ストリングを訂正してから、もう一度関数を呼び出してください。ウェルノウン・テキスト・ストリングの正しいフォーマットを確かめるには、「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。

GSE3003E 無効な SRID です。

説明: この関数に渡そうとした地理情報参照システム ID (SRID) は、DB2 地理情報エクステンダー・システム・カタログに載っていません。

ユーザーの処置: 現在 DB2GSE.SPATIAL_REF_SYS カatalog視点に記録されている SRID を指定するか、または指定する予定の SRID をもつ地理情報参照システムを作成してください。

GSE3004E メモリー不足です。

説明: 使用できるメモリーが足りません。地理情報エクステンダーには、最大 1 メガバイトのメモリーが必要です。

ユーザーの処置: 地理情報エクステンダーが使える量を増やすため、メモリーを再割り振りしてください。メモリーを再割り振りできない場合、物理メモリーを増やしてください。

GSE3005E 形状の SRID が異なっています。

説明: DB2 地理情報エクステンダーに渡す形状は、同じ地理情報参照システム ID (SRID) を共有していなければなりません。

ユーザーの処置: 形状のうちの 1 つを再作成して、その地理情報参照システムが他のシステムに一致するようにしてください。

GSE3006E バイナリー・ストリングは無効です。

説明: 呼び出した関数に対して、誤って作成されたウェルノウン・バイナリー・ストリングまたは ESRI バイナリー・ストリングを入力しました。

ユーザーの処置: 正しいフォーマットのストリングを再作成してください。正しいフォーマットを確かめるには、「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。

GSE3007E 有効な形状を指定していません。

説明: 呼び出した関数に対して、有効なタイプの形状を渡しませんでした。正しいタイプは、形状、ポイント、ライン・ストリング、ポリゴン、マルチポイント、マルチライン・ストリング、およびマルチ・ポリゴンです。

ユーザーの処置: 有効な形状タイプをもった SQL ステートメントを実行依頼し直してください。

GSE3008E 括弧のバランスがとれていません。

説明: ウェルノウン・テキスト表示ストリング内の左括弧の数は、右括弧の数と同じではありません。

ユーザーの処置: 左括弧に対応する数の右括弧を使って、ストリングを入力し直してください。

GSE3009E 指定したパーツが多すぎます。

説明: バイナリー・ストリングまたはテキスト・ストリングに示されているパーツ数は、実際に指定したパーツ数より多いです。

ユーザーの処置: 正しい数のパーツを使ってストリングを入力し直してください。

GSE3010E 形状タイプが誤っています。

説明: 呼び出した関数に対して、誤ったタイプの形状を渡しました。たとえば、入力としてポリゴンをとる関数に対して、ライン・ストリングを渡した可能性があります。

ユーザーの処置: 関数が処理できるタイプの形状を関数に渡すか、または、渡したいタイプの形状を受け入れる関数を使ってください。

GSE3011E テキスト・ストリングが長すぎます。

説明: 形状テキスト・ストリングが、最大長の4000文字を超えています。

ユーザーの処置: 詳細すぎてテキストに変換できない内容が形状に入っています。ただし、WKBフォーマットまたはESRI形状バイナリー・フォーマットに変換することはできます。

GSE3012E パラメーター値が無効。

説明: 無効なパラメーターが関数に渡されました。

ユーザーの処置: 「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび解説書」に一覧で示されているものに対して、関数の構文を比較してください。無効パラメーターを訂正してから関数を再実行依頼してください。

GSE3013E 無効な格子サイズ。

説明: 以下のいずれかの無効指定が行われました。

- 1番目、2番目、または3番目の格子レベルの格子サイズとして、負の数値を指定しました。
- 1番目の格子レベルの格子サイズとして、0を指定しました。
- 2番目の格子レベルに指定した格子サイズは、1番目の格子レベルの格子サイズよりも低いです。

- 3番目の格子レベルに指定した格子サイズは、2番目の格子レベルの格子サイズよりも低いです。

ユーザーの処置: 「索引作成」ウィンドウまたはdb2gse.gse_enable_idx ストアード・プロシージャを使って、有効な格子サイズを指定してください。有効な格子サイズの詳細は、「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。

GSE3014E 格子サイズが小さすぎます。

説明: 格子サイズを指定しましたが、それによって形状あたり1000個を超える格子セルが生じます。

ユーザーの処置: 「索引作成」ウィンドウまたはdb2gse.gse_enable_idx ストアード・プロシージャを使って、格子サイズを大きくするか、または別の格子レベルを追加してください。

GSE3015E 無効な形状を作成しました。

説明: 入力したパラメーターによって、無効なものが作成されました。たとえば、LineFromShape関数を使ってパラメーターを入力すると、無効な形状が作成されます。無効な形状とは、形状のプロパティに違反している形状のことです。

ユーザーの処置: パラメーターを訂正してから形状を再実行依頼してください。

GSE3016E 誤った形状を実行依頼しました。

説明: この関数の場合、ある1つのタイプの2つの形状が指定されるはずなのに、それらは指定されませんでした。たとえば、同一ディメンションの2つの形状がST_Union関数では前提とされるのに、別々のディメンションをもつポイントとライン・ストリングが渡されました。

ユーザーの処置: 有効入力として関数で受け入れられる形状を指定してください。この関数ではどのタイプの形状が有効かを確かめるには、「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび

解説書」を参照してください。

GSE3017E 形状の保安全性エラーです。

説明: 関数は、渡された形状を処理できません。その形状の 1 つ以上のプロパティが、保安全性制約に違反しているからです。

ユーザーの処置: 正しく定義したプロパティを使って、もう一度形状を実行依頼してください。形状のプロパティの詳細は、「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。

GSE3018E ポイントが多すぎます。

説明: 作成した形状は 1 MB のストレージ限度を超えています。形状にあるポイントが多すぎます。

ユーザーの処置: 不要なポイントを除去してください。パフォーマンスとストレージに配慮するため、形状を表現するポイントしか使用しないでください。不可欠ではないポイントは除外しなければなりません。

GSE3019 形状が小さすぎます。

説明: ST_Difference、ST_Intersection、ST_SymmetricDiff、または ST_Union 関数から戻された形状は小さすぎて、現在の座標システムの値で表現できません。

ユーザーの処置: 結果が必要な場合、db2gse.gse_enable_sref ストアード・プロシージャを使って、ソース形状の地理情報参照システムの xyunits パラメーターを大きくしてください。次に、ソース形状を保管する表を作成し直してください。

GSE3020E バッファは境界外です。

説明: バッファ関数は、座標システム外にバッファを作成しました。

ユーザーの処置: バッファ距離を短くするか、

またはソース形状の座標システムを変更してください。たいていの場合、座標システムを変更するには、地理情報列を再ロードしなければなりません。

GSE3021E スケール因数が無効です。

説明: スケール因数 (XY 単位、Z 単位、または M 単位) を 1 より小さくすることはできません。

ユーザーの処置: db2gse.gse_enable_sref ストアード・プロシージャを使って、DB2GSE.SPATIAL_REF_SYS カタログ視点内の 1 より小さいすべてのスケール因数を訂正してください。

GSE3022E 座標は境界外です。

説明: 座標は、大きすぎるかまたは小さすぎて、座標システムの境界内にぴったり収まりません。

ユーザーの処置: 座標が正しいかどうかを確かめてください。正しければ、使用している座標システムの境界内にぴったり収まっているかどうかを究明してください。この座標システムの詳細は、DB2GSE.COORD_REF_SYS カタログ視点を参照してください。

GSE3023E 座標システム ID が無効です。

説明: 地理情報エクステンダーは、指定された座標システム ID の妥当性検査を行うことができません。

ユーザーの処置: DB2GSE.COORD_REF_SYS カタログ視点内にその ID が載っているかどうかを確かめてください。載っていない場合、それが正しいことを確認してから、地理情報エクステンダー・システム・カタログ内にそれを記録するようデータベース管理者に依頼してください。

GSE3024E 注釈テキストは無効です。

説明: 指定された座標システムを定義している注釈テキストを、有効な展開に変換できません。

ユーザーの処置: DB2GSE.COORD_REF_SYS カタログ視点内で、この座標システム用の注釈テキストを検索してください。テキストがシステムを正しく定義しているかどうかを確かめてください。参考になる詳細は、「DB2 地理情報エクステンダー 使用者の手引きおよび解説書」の中の座標システムに関する章を参照してください。

GSE3025E 展開エラーです。

説明: 形状の展開中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: 展開の適正ドメイン内に形状があることを確認してください。

GSE3026E ポリゴン・リングがオーバーラップしています。

説明: ポリゴンのリングはオーバーラップしてはなりません、タンジェントで交差してもかまいません。

ユーザーの処置: ポリゴンの座標を訂正してから、再実行依頼してください。

GSE3027E ポイントが少なすぎます。

説明: ライン・ストリングは、少なくとも 2 つの点で構成されていなければならず、ポリゴンは、少なくとも 4 つの点で構成されていなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい数の点を指定して、形状を再実行依頼してください。

GSE3028E ポリゴンが閉じていません。

説明: ポリゴンの開始と終了の点の座標が同じではありません。

ユーザーの処置: 開始と終了ポイントが必ず同じになるようにポリゴンの座標リストを編集してから、再実行依頼してください。

GSE3029E 外側のリングは無効です。

説明: 外側のリングに内側のリングが収まっていません。内側のリングは、まったくオーバーラップしないで外側のリングから完全にはみ出ています。

ユーザーの処置: 内側のリングの座標が外側のリング内に完全に収まっていることを確認してください。内側のリングは実際には別のポリゴンの外側のリングを表している場合、その形状をマルチ・ポリゴンとして入力してください。

GSE3030E ポリゴンに範囲がありません。

説明: 2 次元のスペース内に存在する座標をもつ形状がポリゴンです。

ユーザーの処置: 範囲をもつようにポリゴンの座標を編集してから、そのポリゴンを再実行依頼してください。ただし、該当する場合は、ライン・ストリングを実行依頼してください。

GSE3031E ポリゴンにスパイクが入っています。

説明: ポリゴンの開始点と終了点だけが同じであってもかまいません。他の座標はすべてそれぞれ異なっていて、全部が集まって範囲を形成していなければなりません。

ユーザーの処置: 同じ X 値と Y 値をもつ座標のペアを探してください。そのような点を編集してポリゴンが単一の範囲を占めるようにしてから、ポリゴンを再実行依頼してください。

GSE3032E 外側のリングがオーバーラップしています。

説明: マルチ・ポリゴンの外側のリングはタンジェントで交差してもかまいませんが、オーバーラップしてはなりません。

ユーザーの処置: 外側のリングを編集してオーバーラップを起こさないようにしてから、マルチ・ポリゴンを再実行依頼してください。

GSE3033E ポリゴンは自己交差しています。

説明: ポリゴンのリングは、自己交差することはできません。

ユーザーの処置: 自身を交差しているリングの座標を編集してから、そのポリゴンを再実行依頼してください。

GSE3034E 測定数が無効です。

説明: バイナリー・ストリングの *number of measures* のパラメーターに、ストリングに指定された測定数とは異なる測定数が入っています。

ユーザーの処置: *number of measures* パラメーターを編集し、バイナリー・ストリングに指定した数に対応するようにしてください。

GSE3035E パーツ数が無効です。

説明: バイナリー・ストリングの *number of parts* パラメーターに、ストリングに指定したパーツ数とは異なるパーツ数を指定しました。

ユーザーの処置: *number of parts* パラメーターを編集し、バイナリー・ストリングに指定した数に対応するようにしてください。

GSE3036E パーツ・オフセットが無効です。

説明: バイナリー・ストリングの *part offset* パラメーターに、ストリングに指定したパーツ・オフセットとは異なるパーツ・オフセットを指定しました。

ユーザーの処置: *part offset* パラメーターを編集し、バイナリー・ストリングに指定したパーツ・オフセットに対応するようにしてください。

GSE3037E パーツ区切り文字が無効です。

説明: 正しくない形状が検出されました。そのパーツ区切り文字は無効です。

ユーザーの処置: IBM 担当者に連絡してください。

GSE3038E BLOB が小さすぎます。

説明: 指定した 2 進ラージ・オブジェクト (BLOB) 内のバイト数は、提供された BLOB 内のバイト数より小さいです。

ユーザーの処置: BLOB の長さを、BLOB 内のバイト数に等しくしてから、関数を再実行依頼してください。

GSE3039E 無効なエンティティ・タイプです。

説明: 正しくない形状が検出されました。それに関連したエンティティ・タイプは無効です。

ユーザーの処置: IBM 担当者に連絡してください。

GSE3040E バイトの配列が無効です。

説明: バイトの配列は 0 または 1 でなければなりません。

ユーザーの処置: バイト配列を編集して、リトル・エンディアンの場合は 0 に、ビッグ・エンディアンの場合は 1 になるようにしてください。

GSE3041E パーツが無効です。

説明: 関数パラメーターは、存在しないパーツに索引を付けました。このエラーが発生するのは、たとえば、マルチポイントに 2 つしかポイントが入っていないときに、そのマルチポイント内の 3 番目のポイントを戻すために 3 が ST_GeometryN 関数に渡された場合です。

ユーザーの処置: パラメーターを編集してから関数を再実行依頼してください。

GSE3042E 形状は空です。

説明: 空の形状が ST_AsBinary 関数に渡されましたが、それはこの関数に対する入力として許可されていません。

ユーザーの処置: 実行依頼した SQL ステートメントを編集し、空でない形状だけが ST_AsBinary 関数に渡されるようにしてください。たとえば、WHERE 文節を使って、ST_IsEmpty 関数に対しては空の形状を無効にすることができます。

第11章 SAT メッセージ

この項では、サテライト (SAT) メッセージについて説明されています。メッセージは番号順にリストされています。

SAT1000I グループの最初のアプリケーション・バージョンは、代表的なサテライト・インストールで使用される値に一致するようにデフォルト設定されています。

説明: 一般的な方法でサテライトをインストールする場合、サテライトのアプリケーション・バージョンは事前定義値に設定されます。この事前定義アプリケーション・バージョンは、グループで作成される最初のアプリケーション・バージョンのデフォルト値と同じです。

ユーザーの処置: 標準方式でこのグループのサテライトをインストールしなかったり、またはインストール後にサテライトのアプリケーション・バージョンを変更したりした場合は、新しいアプリケーション・バージョンを作成するために指定した ID とサテライトのアプリケーション・バージョンの整合性がとれているかどうかを確認してください。

SAT1001I いずれかのノートブック・ページで必須情報が欠落しています。ノートブックは、情報が欠落しているページに戻ります。

説明: アクションを完了するには、すべての必須フィールドが埋められていなければなりません。

ユーザーの処置: 必須情報を入力して、アクションを再試行してください。

SAT1002I 選択したターゲットへのテスト接続が、指定された認証証明を使用して正常に終了しました。

説明: ターゲットへの接続が試みられました。指定の認証を使用して、接続が正常に確立されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SAT2000W 変更は保管されませんでした。今保管しますか?

説明: 変更を保管せずにウィンドウまたはノートブックを終了しようとしています。

ユーザーの処置: 変更を保管するには、「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2001W ATTACH または CONNECT ステートメントがスクリプト内で検出されました。

説明: スクリプト内容に CONNECT または ATTACH ステートメントが入っていると思われる。サテライトでは、DB2 インスタンスまたは DB2 データベース・スクリプトが実行される前に、必要なインスタンス・レベル接続またはデータベース・レベル接続が自動的に確立されます。したがって、スクリプトが複数の実行ターゲットを指定しない場合は、DB2 インスタンスまたはデータベース・スクリプトに ATTACH または CONNECT ステートメントを組み込む必要はありません。

ユーザーの処置: スクリプトが複数のターゲット

を指定していない場合は、そのスクリプトから CONNECT または ATTACH ステートメントを除去してください。

SAT2002W スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾している可能性があります。

説明: スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾するように変更されたか、またはスクリプト・タイプがスクリプト内容と矛盾するように変更されました。

ユーザーの処置: スクリプト・タイプとスクリプト内容に互換性があることを確認してください。

SAT2003W 暗黙表スペースが作成されました。

説明: プロモーションが少なくとも 1 つの暗黙表スペースを作成しました。

ユーザーの処置: 作成された暗黙表スペースがあなたのビジネス要件に合っていない場合は、スクリプトの表スペースを変更してください。

SAT2014W サテライト “<satellite>” を本当にプロモートしますか？

説明: サテライトをプロモートすると、サテライトがグループのバッチの実行を開始します。サテライトが修正バッチを正常に実行して、いつでもグループ・バッチを実行できる状態になったときにのみサテライトをプロモートしてください。

ユーザーの処置: サテライトをグループ・バッチの実行にプロモートするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2015W サテライト “<satellite>” を本当に修正しますか？

説明: サテライトを修正モードに設定すると、サテライトでグループ・バッチを実行できなくなります。サテライトは、グループ・バッチの実行にプロモートされるまで修正バッチしか実行できま

せん。サテライトがサービスを要求したときにのみサテライトを修正モードに設定してください。

ユーザーの処置: サテライトを修正モードに設定して修正バッチを実行できるようにするには、「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2016W 名前 “<object>” のオブジェクトはすでにデータベース “<database>” に存在します。オブジェクトを本当に削除しますか？

説明: オブジェクトを上書きすると、オブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトを上書きするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2017W 名前 “<object>” のオブジェクトはすでにデータベース “<database>” に存在しており、他のオブジェクトによって使用中です。オブジェクトの定義を本当に変更しますか？

説明: オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2018W オブジェクト “<object>” の定義を本当に変更しますか？

説明: オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2019W 名前 “<object>” のオブジェクト
はすでにデータベース
“<database>” に存在しています。
“<database>” に作成する前に
“<object>” を名前変更しますか？

説明: “<database>” に “<object>” を作成中に、
同じ名前を持つ別のオブジェクトがすでに存在す
ることが見つかりました。オブジェクトは固有の
名前を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 別の名前でもオブジェクトを保管
するには「はい」をクリックします。そうでない
場合は「いいえ」をクリックしてください。オブ
ジェクトは作成されません。

SAT2020W 選択したサテライトの少なくとも 1
つが現在オンラインになっていま
す。オンラインのサテライトで行う
アクションはありません。

説明: サテライトがオンラインで同期していると
き、そのサテライトは更新できません。

ユーザーの処置: どのサテライトが現在オンライ
ンかを判別します。これらのサテライトがオフラ
インになってから、要求を再試行してください。

SAT2021W 指定された認証を使用した、選択し
たターゲットへのテスト接続に失敗
しました。

説明: ターゲットへの接続が試みられました。認
証エラーのため、接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: ターゲットに対する認証が正し
いことを確認してから、要求を再試行してくださ
い。

SAT2022W サテライトがテスト・サテライトの
場合は、このサテライトへの変更を
行うことができます。サテライトが
整合状態のままであるように注意し
てください。

説明: サテライトをテスト・サテライトとして設
定することは、サテライトがテスト・バッチを実
行することを意味します。テスト・バッチには、
不確かな結果をもたらすバッチ・ステップが入っ
ている可能性があり、サテライトが不整合状態に
なるかもしれません。サテライトをテスト・サテ
ライトとして設定するときには、こうしたリスクを
含んでいることを十分認識した上で行ってくださ
い。

ユーザーの処置: サテライトをテスト・サテライ
トとして設定するには「了解」をクリックしま
す。そうでない場合は、「取消」をクリックして
ください。

SAT2023W このテスト・サテライトを本当に実
動サテライトに変更しますか？ この
サテライトで使用できる管理機能は
厳しく制限されます。

説明: テスト・サテライトは、構成変更を実動サ
テライトで使用できるようにする前にテストする
ために使用されます。したがって、構成変更が成
功しなかったときにテスト・サテライトが不整合
状態になる可能性があります。テスト・サテライ
トを修復するには、構成変更を繰り返しテストで
きるようにサテライトを整合状態に戻します。テ
スト・サテライトには、その他の管理アクション
を実行することもできます。サテライトが実動サ
テライトに変更された場合には、テスト目的で使
用できなくなります。このサテライトに使用でき
る管理機能は、必然的に厳しく制限されます。;

ユーザーの処置: サテライトを実動サテライトと
して設定するには「了解」をクリックします。そ
うでない場合は、「取消」をクリックしてくださ
い。

SAT2024W 同期セッションが進行中です。同期セッションを本当に終了しますか？

説明: 同期セッションの処理中に終了アクションが要求されました。

ユーザーの処置: 終了を続行した場合、同期セッションが完了する前に停止されます。終了を取り消して、同期セッションを完了してください。

SAT2025W 統合シナリオにある未完了の整合した変更データ表以外を使用する場合、ターゲット表はサテライトが同期化されるとリフレッシュされません。

説明: 統合レプリケーション・シナリオで、未完了の整合した変更データ表が、サテライトが同期化されるときに全リフレッシュされていません。他のタイプの表 (たとえばユーザー・コピーまたは時刻指定ターゲット表) は、サテライトの同期化時にターゲット表が全リフレッシュされます。レプリケーション・シナリオを定義しているとき、データ・キャプチャーが全リフレッシュである場合は、ターゲット表はサテライトが同期化されるたびに全リフレッシュされます。データ・キャプチャーが全リフレッシュであることを指定していない場合は、アプライ・プログラムがサテライトで最初に呼び出されたときにのみ、全リフレッシュされます。

ユーザーの処置: サテライトの同期化時にターゲット表をリフレッシュしたくない場合は、処置は必要ありません。ターゲット表のタイプを変更したい場合は、DB2 制御サーバーからレプリケーション・サブスクリプションの一般化の効果を除去し、コントロール・センターに戻ってレプリケーション・シナリオを変更しなければなりません。その後で、レプリケーション・サブスクリプションをもう一度一般化してください。

SAT2026W サテライトは、ユーザーがユーザー・データを変更する前に同期化する必要があります。サテライトの初期同期化の前に変更されたユーザー・データは複製できません。

説明: サテライトの同期化時、キャプチャーおよびアプライ・プログラムがサテライトで呼び出されます。レプリケーション・シナリオの定義方法に応じて、最初の同期化セッションの前にサテライト・データベースのユーザー・データに行われた変更は、コーポレート・ソースに複製できないか、またはサテライトで上書きされません。

- レプリケーション・シナリオが統合、またはサテライトからコーポレート・ソースへ定義された複製方向の両方向更新である場合、最初の同期化の前に行われたユーザー・データの変更はサテライトからコーポレート・ソースへ複製できません。収集プログラムが呼び出されると、これらの変更は取り込めません。
- レプリケーション・シナリオが統合、またはコーポレート・ソースからサテライトへ定義された複製方向での配布または更新である場合、最初の同期化の前に行われたユーザー・データの変更は、サテライトで全リフレッシュが行われたときに上書きされます。

ユーザーの処置: サテライト・ユーザーがサテライトでデータを変更する前に、すべてのサテライト・ユーザーに同期化を指示してください。

SAT3000N 名前 “<name>” はすでに存在しません。

説明: 作成しようとしているオブジェクトの名前 “<name>” がすでに存在します。

ユーザーの処置: 固有名を指定してください。

SAT3001N コピーのターゲット名
“<targetname>” はデータベース
“<cdb>” にすでに存在します。

説明: コピーに指定した名前 “<targetname>”
が、ターゲット・サテライト・コントロール・デ
ータベース “<cdb>” で固有ではありません。

ユーザーの処置: 固有名を指定してください。

SAT3002N アプリケーション・バージョン
“<application version name>”
はグループ “<group name>” に
すでに存在します。

説明: このアプリケーション・バージョンに指定
した名前は、すでにこのグループで使用されてい
ます。

ユーザーの処置: グループ “<group name>” で使
用されていないアプリケーション・バージョンの
名前を指定してください。

SAT3003N このグループにはアプリケーション
・バージョンが存在しません。

説明: グループに対して要求されたアクションに
は少なくとも 1 つのアプリケーション・バー
ジョンが必要です。

ユーザーの処置: グループのアプリケーション・
バージョンを作成してください。

SAT3004N オブジェクト “<name>” は存在し
ません。

説明: 示されているオブジェクト “<name>” が
存在しません。オブジェクトの入った表示が埋め
られた後で、オブジェクトが除去された可能性が
あります。

ユーザーの処置: オブジェクトが表示される表示
を最新表示してください。

SAT3005N オブジェクト “<name>” は、現在
他のオブジェクトによって参照され
ているため削除できません。

説明: 別のオブジェクトが参照しているため、オ
ブジェクト “<name>” を削除できません。
“<name>” が削除された場合は、整合性を維持で
きません。

ユーザーの処置: このオブジェクトを削除する前
に、オブジェクトに従属するすべてのオブジェク
トを削除してください。

SAT3006N 少なくとも 1 つの使用可能なサテ
ライトを持っているため、グループ
“<group name>” を削除できませ
ん。

説明: グループを削除する前に、グループととも
に削除できるようにそのすべてのサテライトを使
用不可にしてください。グループ内に少なくとも
1 つの使用可能なサテライトが見つかりました。

ユーザーの処置: このグループ内のすべてのサテ
ライトを使用不可にしてください。

SAT3007N 少なくとも 1 つの、テスト・レベ
ルか実動レベルのバッチを持つアプ
リケーション・バージョンがあるた
め、グループ “<group name>”
を削除できません。

説明: 実動レベルおよびテスト・レベルのバッチ
は、サテライトが使用する活動レベルと見なされ
ます。したがって、これらのバッチを削除するこ
とはできません。つまりアプリケーション・バー
ジョン、アプリケーション・バージョンが属する
グループを削除することはできません。

ユーザーの処置: このグループのすべての実動レ
ベル・バッチを廃止し、すべてのテスト・レベ
ル・バッチを除去します。そのあと要求を再試行
してください。

SAT3008N テスト・レベルか実動レベルのバッチを持っているため、アプリケーション・バージョン “<application version name>” を削除できません。

説明: 実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用する活動レベルと見なされます。したがって、これらのバッチを削除することはできません。つまり、これらのバッチが属するアプリケーション・バージョンを削除することはできません。

ユーザーの処置: このアプリケーション・バージョンの実動レベル・バッチを廃止し、テスト・レベル・バッチを除去します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3009N 汎用複製サブスクリプション・セットがグループ “<group name>” にありません。

説明: 汎用複製サブスクリプション・セットがグループ “<group name>” にありません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つの汎用複製サブスクリプションが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: このグループに 1 つ以上の汎用複製サブスクリプション・セットを定義してください。

SAT3010N グループ “<group name>” のアプリケーション・バージョンが存在しません。

説明: グループ “<group name>” のアプリケーション・バージョンが存在しません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: このグループのアプリケーション・バージョンを定義してください。

SAT3011N デフォルトの複製サブスクリプション・セットがグループ “<group name>” のアプリケーション・バージョン “<application version name>” にありません。

説明: グループ “<group name>” のアプリケーション・バージョン “<application version name>” のデフォルト複製サブスクリプション・セットが、汎用化アクションによって生成されました。汎用複製サブスクリプションをカスタマイズするには、このようなサブスクリプション・セットが必要です。

ユーザーの処置: 汎用化アクションが正常に完了したことを確認して、要求を再試行してください。

SAT3012N グループ “<group name>” のアプリケーション・バージョン “<application version name>” のデフォルトの複製制御サーバーが汎用複製サブスクリプション・アクションによって生成されました。このような制御サーバーは、汎用複製サブスクリプションがカスタマイズされる前に必要です。

説明: グループ “<group name>” のアプリケーション・バージョン “<application version name>” のデフォルト複製制御サーバーが存在しません。

ユーザーの処置: 複製サブスクリプションの汎用化が正常に完了したことを確認します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3013N 確認パスワードが指定されたパスワードと一致しません。

説明: 確認パスワードは、指定されたパスワードと一致していなければなりません。パスワードでは大文字小文字が区別されます。

ユーザーの処置: 確認パスワードをもう一度入力します。入力されたすべての文字が、オリジナル

のパスワードとまったく同じであることを確認してください。

SAT3014N 少なくとも 1 つの指定されたバッチ・ステップがターゲット別名、成功コード・セット、またはその両方を持っていません。

説明: 新しいバッチ・ステップとしてスクリプトがインポートまたは追加されたときに、新しいバッチ・ステップ用に追加する必要があるターゲット別名および成功コード・セットが提供されませんでした。

ユーザーの処置: どのバッチ・ステップにターゲット別名または成功コード・セットが欠落しているかを識別して、欠落情報を追加してください。

SAT3015N ターゲット別名が選択されていません。認証を指定するには、ターゲット別名を選択する必要があります。

説明: 認証をターゲット別名と関連付けるには、まずターゲット別名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ターゲット別名を指定します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3016N アプリケーション・バージョンがこのサテライトに設定されていません。このページは、サテライトがアプリケーション・バージョンを報告するまで使用できません。

説明: サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。したがって、アプリケーション・バージョンのバッチ・ステップを指定できません。

ユーザーの処置: サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト・アドミニストレーション・センターからこのアクションを実行することはできません。

SAT3017N アクションを実行できません。アプリケーション・バージョンが設定されていません。

説明: サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。したがって、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト・アドミニストレーション・センターからこのアクションを実行することはできません。

SAT3018N 実行ターゲットのタイプがスクリプトのタイプに対して正しくありません。

説明: 正しくないターゲット別名が選択されました。スクリプトは、別のタイプのターゲットに対して実行されるように指定されています。

ユーザーの処置: 選択されたスクリプトと同じタイプのターゲット別名を選択します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3019N 指定された成功コード範囲が競合しています。

説明: 成功コード・セットには、「より小さい」(<) 関係で指定された数の範囲とオーバーラップする数の範囲を指定する「より大きい」(>) 関係を入れることはできません。たとえば、> 10、< 11 の 2 つの関係を同じ成功コード・セットで使用することはできません。

ユーザーの処置: 範囲内でオーバーラップするような関係を成功コード・セットから除去するか、または訂正してください。2 つの数の間に限られた範囲の数を指定するには、範囲内のそれぞれの数に a、b、等号 (=) 関係を指定する必要があります。たとえば、5 と 10 の間に成功コードとして限られた範囲の数を指定するには、

=5、=6、=7、=8、=9 および =10 の等号関係が必要です。

SAT3022N プロモーションが以下のエラーによって失敗しました:
SQLCODE=“<sqlcode>”、
SQLSTATE=“<sqlstate>”、トークン: “<token1>”、“<token2>”、“<token3>”。ロケーション “<location>” でエラーが検出されました。

説明: プロモーションが、予期しない状況で失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3023N システムまたは内部エラーが発生しました。

説明: 考えられるエラーには、オペレーティング・システムによって返されるシステム・エラー、リソース不足、不正な構成などがあります。

ユーザーの処置: 複製構成を確認するか、またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3024N 複製サーバーがサポートされていないレベルにあります。

説明: 複製サーバーの製品レベルがサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているレベルにアップグレードしてください。

SAT3025N 複製サーバーに接続したときに認証障害が発生しました。

説明: このアクションには、複製サーバーの認証が必要です。いずれかのサーバーの認証に失敗しました。

ユーザーの処置: 正しいユーザー ID およびパス

ワードを指定したかどうか確認します。要求を再試行するか、またはシステム管理者に連絡してください。

SAT3026N 生成されたスクリプトのサイズが使用可能なストレージを超えました。

説明: このアクションによってスクリプトが生成されました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが、使用可能な最大ストレージを超えています。

ユーザーの処置: システム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3027N 複製ソース・サーバー、制御サーバー、またはターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目がインスタンス “<instance name>” に存在しません。

説明: このアクションを行うには、インスタンス “<instance name>” に複製ソース・サーバー、制御サーバー、およびターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目が存在している必要があります。ディレクトリー項目の少なくとも 1 つが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: “<instance name>” で複製ソース・サーバー、制御サーバー、およびターゲット・サーバーをカタログします。またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3028N 修正バッチ “<batch>” は、少なくとも 1 つのサテライトによって使用されているため削除できません。

説明: 現在使用されているバッチを削除することはできません。

ユーザーの処置: バッチがサテライトで使用されなくなるまでお待ちください。そのあと要求を再試行してください。

SAT3029N スクリプト “<script>” は、少なくとも 1 つの実動または廃止バッチ・ステップによって使用されているため変更できません。

説明: スクリプトは、実動または廃止バッチ・ステップで使用されていない場合にのみ変更できます。

ユーザーの処置: スクリプトが実動または廃止バッチ・ステップで現在使用されていないことを確認します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3030N 廃止されていないバッチによって使用されているため、指定された廃止バッチ・ステップを削除できません。

説明: 廃止バッチ・ステップは、廃止レベルではないバッチによって使用されていない場合のみ削除できます。

ユーザーの処置: このバッチ・ステップを使用するバッチがサテライトで使用されていない場合は、廃止レベルに移動します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3031N バッチ・ステップのセットの最後のステップではないため、このバッチ・ステップは削除できません。

説明: バッチ・ステップのセットの中にあるバッチ・ステップを削除することはできません。まず、その後のすべてのバッチ・ステップを削除する必要があります。

ユーザーの処置: 削除するバッチ・ステップの後のすべてのバッチ・ステップを削除します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3032N 実動バッチ・ステップを削除できません。

説明: 実動バッチ・ステップは同期のために実動サテライトで使用されているため、削除できません。

ん。削除できるのは、テスト、未割り当て、および廃止バッチ・ステップだけです。

ユーザーの処置: バッチ・ステップを実動から取り出します。そのあと要求を再試行してください。

SAT3033N サテライト・コントロール・データベース **SATCTLDB** がデータベース・ディレクトリー内で検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライト・コントロール・データベースがデータベース・ディレクトリーに正しくカタログされていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3034N サテライト制御サーバーでの認証エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 制御サーバーに送信されたユーザー ID またはパスワードが正しくありません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3035N サテライト ID がローカルで検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: このエラーは、オペレーティング・システム・ログオンを省略したために起きた可能性があります。

ユーザーの処置: すでにオペレーティング・システムにログオンしている場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3036N サテライト制御サーバーがこのサテライトを認識しないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、またはこのサテライトがサテライト制御サーバーで正しく定義されていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3037N 不明エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 不明です。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3038N シンクロナイザーが重大な DB2 エラーを検出しました。同期を継続できません。

説明: この重大エラーの原因は不明です。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3039N サテライトの同期に失敗しました。サテライトがサテライト制御サーバーで失敗状態にあります。

説明: このサテライトが障害状態になっているため、修正する必要があります。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3040N サテライト制御サーバーに接触できないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライトとその制御サーバーの間の通信を確立できませんでした。制御サーバーが操作可能でないか、または通信構成が正しくない (たとえば、サテライト制御サーバーのホスト名または

ポート番号が正しくない) と考えられます。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3041N サテライト制御サーバーとの通信が失われたため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 通信リンク障害が起きました。サテライト制御サーバーが非活動状態になっているか、またはネットワーク障害が起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3042N サテライトの同期セッションで、一部のタスクが正常に完了しませんでした。

説明: サテライト同期セッション中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3043N サテライトの同期セッションが正常に開始しませんでした。

説明: サテライト同期セッションの始動フェーズでエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3044N サテライトの同期セッションのクリーンアップ・フェーズが正常に完了しませんでした。

説明: サテライト同期セッションのクリーンアップ・フェーズでエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3045N “<control server>” は有効な複製制御サーバーではありません。

説明: 選択されたサーバーは有効な複製制御サーバーではありません。要求は完了できません。

ユーザーの処置: 有効な複製制御サーバーを選択してから要求を再試行してください。

SAT3046N 一般化された複製サブスクリプション・セットがグループ “<group name>” のアプリケーション・バージョン “<application version name>” にありません。

説明: グループ “<group name>” のアプリケーション・バージョン “<application version name>” には一般化された複製サブスクリプション・セットがありません。一般化された複製サブスクリプション・セットは、カスタマイズの前に存在している必要があります。

ユーザーの処置: アプリケーション・バージョン用に 1 つ以上の複製サブスクリプション・セットを一般化して、要求を再度試行してください。

SAT3047N フィールド “<field name>” の入力力が制限を超えています。このフィールドに対して許可される最大長は “<maximum length>” です。

説明: フィールド “<field name>” の入力力が制限 “<maximum length>” を超えています。

ユーザーの処置: 入力力が制限の最大値以内であることを確認し、要求を再試行してください。

SAT3048N 複数のターゲット・サーバーが、制御サーバー “<control server>” の適用修飾子 “<apply qualifier>” に関連しています。

説明: 複製サブスクリプションのターゲット・サーバーが指定のアプリケーション・バージョンを実行しているグループのサテライトを表していま

す。その結果、提供された適用修飾子にはターゲット・サーバーが 1 つだけ認められます。複製構成が単一ターゲット・サーバーを指定すると、関連した適用修飾子が正しく指定されていない可能性があります。そうでない場合、複製構成はサテライト環境では一般化のために受け入れられない可能性があります。

ユーザーの処置: まず、複製構成が複数のターゲット・サーバーを指定していないか、確認します。指定している場合、複製構成を訂正し、複製サブスクリプションの一般化要求を再試行してください。複製構成が複数のターゲット・サーバーを指定していない場合、正しい適用修飾子が複製サブスクリプションの一般化要求に指定されているか確認してください。そのあと要求を再試行してください。

SAT3049N ファイル名が無効です。

説明: 文字 ¥ / : * ? " < > | のいずれかが入っているため、ファイル名は無効です。

ユーザーの処置: ファイル名には、上の文字を使用しないようにしてください。そのあと要求を再試行してください。

SAT3050N 選択されたサテライトの 1 つまたは複数に、アプリケーション・バージョンがありません。

説明: アプリケーション・バージョンのないサテライトの複製パラメーターを変更することはできません。

ユーザーの処置: 選択されたサテライトがすべて、アプリケーション・バージョンを持つようにしてください。そのあと要求を再試行してください。

SAT3051N 複製サブスクリプションの汎用化に失敗しました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

説明: 生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

ユーザーの処置: 汎用化を再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

SAT3052N データベース別名またはデータベース名 “<name>” が見つかりません。

説明: コマンドに指定されているデータベース名または別名が見つかりません。データベースがデータベース・ディレクトリー内でカタログ化されていないか、あるいは存在しません。

ユーザーの処置: 示されているデータベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、そのデータベースが存在することを確認してください。そのあと要求を再試行してください。

SAT3053N サテライトは、通知値を設定または検索する要求を処理できませんでした。要求を再度試行してください。

SAT3054N 内部 API エラーのため、サテライト上のデータベース・マネージャー構成値を検索または更新できませんでした。データベース・インスタンスを再始動し、要求をやり直してください。

SAT3055N 内部システム・エラーのため、このサテライトの通知ファイル “<instance>.nfy、またはそのバックアップ “<instance>.nfb” を読み取ったり書き込んだりすることはできません。要求を再度試行してください。

SAT3056N 無効な通知値がサテライトで検出されました。要求を再度試行してください。

SAT3057N 通知ログをアップロードできませんでした。システム・エラーが起きたか、または通知ファイルが欠落または壊れています。要求を再度試行してください。

SAT4000C “<cldb>” は無効なサテライト・コントロール・データベースです。

説明: データベース “<cldb>” は、有効なサテライト制御データベースではありません。まず、データベース SATCTLDB がサテライト制御データベースと想定されます。このようなデータベースに対して実行される、サテライト管理に関するアクションは、まずそのデータベースが有効かどうかを確認します。データベースが正しく構成されていない場合、アクションは成功しません。“<cldb>” がサテライト制御データベースの場合、そのデータベースが使用できなくなるように構成が更新されました。そうでない場合は、非コントロール・データベースに SATCTLDB という名前が付けられました。

ユーザーの処置: データベースをサテライト・コントロール・データベースと誤って表すことを避けるには、データベースを SATCTLDB 以外の名前に変更します。“<cldb>” がサテライト・コントロール・データベースの場合は、その構成をオリジナルの定義とともに確認してください。

第12章 SPM メッセージ

SPM0400 **DBALIAS="<dbalias>"** による未確定トランザクションの解決でヒューリスティックな損傷が示されている
- データベースが **UOW** およびコミットされた
LUNAME="<luname>" の調整プログラムをロールバックしました。トランザクションは
LUWID="<luwid>" によって識別されます。

説明: DB2 は、"**<luwid>**" によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。DB2 データベースの解決によって、ヒューリスティックな損傷が示されています。"**<dbalias>**" で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。"**<luname>**" の DB2 データベースはトランザクションをロールバックしました。これは、"**<luname>**" の DRDA2 調整プログラムのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

dbalias

DB2 データベースの別名。

luname

調整プロトコルの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した **XID** はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: COORDINATOR

"**<luname>**" および DATABASE "**<dbalias>**" の両方のデータベース管理者に、"**<luwid>**" のトランザクションにヒューリスティックな損傷が起こったことを知らせてください。DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。COORDINATOR "**<luname>**" の DRDA2 AR は、"**<luwid>**" が行ったデータベースの更新を COMMIT する決定を行いました。"**<dbalias>**" PARTICIPANT は、"**<luwid>**" が行った更新を ROLL BACK するヒューリスティックな決定を行いました。

SPM0401 **DBALIAS="<dbalias>"** による未確定トランザクションの解決でヒューリスティックな損傷が示されている
- データベースがコミットされ、**LUNAME="<luname>"** の調整プログラムをロールバックしました。トランザクションは
LUWID="<luwid>" によって識別されます。

説明: DB2 は、"**<luwid>**" によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。DB2 DATABASE の解決によって、ヒューリスティックな損傷が起こっているのが示されています。"**<dbalias>**" で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。"**<dbalias>**" がトランザクションをコミットしました。これは "**<luname>**" の DRDA2 COORDINATOR のロールバックの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのロールバックが伝えられました。
- 参加者側で更新されたりリソースがコミットされました。

dbalias

DB2 データベースの別名。

luname

調整プロトコルの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: COORDINATOR

"<luname>" および DATABASE "<dbalias>" の両方のデータベース管理者に、"<luwid>" のトランザクションにヒューリスティックな損傷が起こったことを知らせてください。DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。COORDINATOR "<luname>" の DRDA2 AR は、"<luwid>" が行ったデータベースの更新をロールバックする決定を行いました。PARTICIPANT "<dbalias>" で、"<luwid>" が行った更新を COMMIT するヒューリスティックな決定が行われました。

SPM0402 **LUNAME="<luname>"** および **DBALIAS="<dbalias>"** の参加者による未解決のトランザクションの解決でヒューリスティックな損傷が示されている - 参加者はコミットされ、**DB2** はロールバックしました。トランザクションは **LUWID="<luwid>"** によって識別されます。

説明: DB2 は、"<luwid>" によって識別されるトランザクションを担当する調整プログラムを持っています。参加者による解決で、ヒューリスティックな損傷が起こっているのが示されています。"<luname>" と "<dbalias>" によって識別される参加者は、手操作で未確定のトランザクションを解決しました。行われた処置は、このトランザクションをコミットするものでした。これは調整

プログラムのロールバックの決定に反していません。

- アプリケーションには、この作業単位のロールバックが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがコミットされました。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luname

参加者の LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: ローカル・データベース管理者と "<luname>" のデータベース管理者に、"<luwid>" でトランザクションにヒューリスティックな損傷が起こったことを知らせてください。DB2 はトランザクションの調整プログラム側で、"<luwid>" が行ったデータベースの更新をロールバックする決定を行いました。"<luname>" で、"<luwid>" が行った更新を COMMIT するヒューリスティックな決定が行われました。

SPM0403 **LUNAME="<luname>"** および **DBALIAS="<dbalias>"** の参加者による未解決のトランザクションの解決でヒューリスティックな損傷が示されている - 参加者はロールバックし **DB2** はコミットされました。トランザクションは **LUWID="<luwid>"** によって識別されます。

説明: DB2 は、"<luwid>" によって識別されるトランザクションを担当する調整プログラムを持

っています。参加者による解決で、ヒューリスティックな損傷が起こっているのが示されています。"<luname>" と "<dbalias>" によって識別される参加者は、手操作で未確定のトランザクションを解決しました。行われた処置は、UOW をロールバックするものでした。これは調整プログラムのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: ローカル・データベース管理者と "<luname>" のデータベース管理者に、"<luwid>" でトランザクションにヒューリスティックな損傷が起こったことを知らせてください。DB2 はトランザクションの調整プログラム側で、"<luwid>" が行ったデータベースの更新を COMMIT する決定を行いました。"<luname>" で、"<luwid>" が行った更新を ROLL BACK するヒューリスティックな決定が行われました。

SPM0404 LUNAME="**<luname1>**" の調整プログラムによる未確定トランザクションの解決中にプロトコル・エラー - LUNAME="**<luname2>**" の DB2 データベースには、LUWID="**<luwid>**" で識別される未確定トランザクションがあります。

説明: DB2 は、"<luwid>" によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。

LUNAME="**<luname2>**" のデータベースと関連づけられた DB2 トランザクションは未確定です。"<luname1>" によって識別される調整プログラムによる未確定の解決中にプロトコル・エラーが起きました。

luname1

調整プログラムとして活動しているパートナーの LU 名。

luname2

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションは未確定のまま残されます。再同期プロトコル違反追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。トランザクションを手操作で解決する必要があります。調整プログラム側で行われるコミットまたは打ち切りの決定は、この参加者の DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

"<luname>" と "<dbalias>" の調整プログラム側のデータベース管理者に連絡して、トランザクシ

ンがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。

未確定トランザクションを解決するためには、この (参加者) dbalias で LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用してください。

SPM0405 LUNAME="`<luname1>`" の DB2 データベースの LUWID="`<luwid>`" トランザクションは、LUNAME="`<luname2>`" の調整プログラムとの通信障害のために、未確定です。

説明: "`<luname2>`" で調整プログラムとの 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、"`<luname1>`" のデータベースでトランザクションが未確定です。

このトランザクションは未確定状態に置かれて、LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTIONS レポートに表示されます。自動的に解決するために調整プログラムとの通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname1

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luname2

調整プロトコルの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

未確定の作業単位と関連した XID がこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソ

ースを解除するために、未確定のトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、次のようにしてください。

- 調整プログラム側で行ったコミットまたは打ち切りの決定を調べて、DB2 データベースで同じ決定を行うことができるようにしてください。"`<luname>`" の調整プログラム側のデータベース管理者に連絡して、トランザクションがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。
- この (参加者の) dbalias で LIST INDOUBTS TRANSACTION コマンドを使用して、未確定のトランザクションを解決してください。

SPM0406 LUNAME="`<luname>`" および DBALIAS="`<dbalias>`" の参加者の LUWID="`<luwid>`" のトランザクションは、通信障害のために未確定となる可能性があります。DB2 はコミットしました。

説明: "`<luname>`" で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたはアボートのためにトランザクションが準備されています。トランザクションをコミットする決定が行われましたが、この時点では参加者と通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。この担当は LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname

参加者の LU 装置名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id.

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

SPM0407 LUNAME="`<luname>`" の参加者による LUWID="`<luwid>`" トランザクションの自動的な解決によってコミットが行われました。DB2 汎用データベースは "`<dbname>`" です。

説明: "`<dbname>`" で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、"`<luname>`" で識別される調整プログラムとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはコミットされました。

luname1

調整プロトコルの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id.

luname2

変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0408 LUNAME="`<luname>`" の参加者による自動的な解決中に通信障害が起きました。使用している通信プロトコル="`<protocol>`"。使用している通信 API="`<api>`"。エラーを検出した通信機能="`<function>`"。プロトコル特定エラー・コードは "`<rc1>`"、"`<rc2>`"、"`<rc3>`" です。

説明: "`<luname>`" の 1 つまたは複数の未確定のトランザクションが存在します。DB2 が未確定のトランザクションを自動的に解決しようとしたが、通信エラーが起きました。

protocol

使用中の通信プロトコル。サポートされるのは "APPC" だけです。

api

使用中の通信 api。"CM2 APPC" または "SNA/6000 OS subroutine" のいずれかを指定することができます。

codes

"CM2 APPC" api の場合には、rc1、rc2、および rc3 に 1 次戻りコード、2 次戻りコード、および SNA センス・コードが入っています。"SNA/6000 OS Subroutines" api の場合には、rc1 に errno グローバル変数が入っています。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

SPM0409 **LUWID**="`<luwid>`" のトランザクションが **LUNAME**="`<luname>`" のコールド・スタートのために解決できません。**DB2** トランザクション状況="`<status>`"。**DB2** 応答可能性="`<responsibility>`"。

説明: "`<luname>`" のパートナーに未確定のトランザクションが存在します。パートナーが前にコールド・スタートされていて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失っているのので、**DB2** は未確定トランザクションを解決することができません。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

status **DB2** に認識されるトランザクションのコミット状況。コミット状況は、未確定、コミット、またはロールバックのいずれかです。

responsibility

DB2 トランザクションの担当。**DB2** は、調整プログラムまたは参加者のいずれかになります。

ユーザーの処置: 調整プログラムおよび参加者に矛盾するデータがあると考えられます。データベース管理者にトランザクションの状況を知らせてください。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要です。ヒューリスティックな決定 (すなわち、トランザクションをコミットまたはロールバックするか) は、他の参加者あるいは調整プログラムと調整する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、調整プログラムがコールド・スタートしていても、調整プログラムのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたは打ち切りの決定は、ダウストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されます。

SPM0410 **LUNAME**="`<luname>`" のパートナーによるウォーム・スタート接続が拒否されました。パートナーが、当方側ログ名 "`<oldourname>`" "`<(newourname)>`"、相手側ログ名 "`<oldtheirname>`" "`<(newtheirname)>`"、同期点プロトコル "`<oldpa(newpa)>`"、送られたフラグ・バイト "`<oldfb(newfb)>`"、送られた **cclluname** "`<oldcccls(newcccls)>`" の少なくとも 1 つを変更し、確定トランザクションに解決が必要です。

説明: パートナーが通信の失われた時点で使用していたものとは違う同期点セットを指定しているので、パートナーとのウォーム・スタート接続を行おうとする試みが拒否されました。**DB2** は、パートナーに関係した (調整プログラムまたは参加者としての) 未確定のトランザクションについての情報を保存しています。このエラーは、パートナーが元の同期点パラメーターを指定して再始動できれば、リカバリー可能となります。それができない場合には、パートナーは **DB2** とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

luname

パートナーの LU 名。

oldourname

この **DB2** サブシステムのログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、ヌルです。

newourname

パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信してきたこの **DB2** のログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、ヌルです。

oldtheirname

最後の接続時にパートナーが使用して、**DB2** が記憶しているログ名。

newtheirname

ウォーム・スタート接続を行おうとしてパートナーが使用したログ名。

oldpa 最後の接続時に使用された、DB2 が記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

newpa 最後の接続時に使用された、パートナーが記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

oldfb 最後の接続時の、DB2 が記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

newfb 最後の接続時の、パートナーが記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

oldccls

会話相関係子が最後の接続中に、DB2 が記憶している同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

newcccls

最後の接続時の、パートナーが記憶している、対話相互関係子の luname が同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

パートナーとの接続は拒否されます。DB2 は未確定の情報を保存します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: パートナー "`<luname>`" 側のデータベース管理者に連絡して、パートナーが同じ同期点パラメーター

(`'oldourname'`、`'oldtheirname'`、`'oldpa'`、`'oldfb'`、`'oldccls'`) を指定してウォーム・スタートを実行することが可能かどうかを確認してください。これが可能であれば、次の接続は正常に行われます。

可能でない場合に考えられる解決法は次の 2 つです。

- パートナー "`<luname>`" に、この DB2 サブシステムとのコールド・スタート接続を実行させる。
- パートナーに次回はコールド・スタート接続で接続させる。

SPM0411 **LUNAME="`<luname>`" の調整プログラムによるコールド・スタート接続が受け入れられました。未確定のトランザクションは手操作で解決する必要があります。**

説明: DB2 は DRDA2 AS で、未確定トランザクションを担当する参加者を持っています。調整プログラムは、コールド・スタート操作を実行していて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失ったことを DB2 に伝えています。この DB2 の未確定トランザクションは、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決されなければなりません。

dbalias

調整プログラムのデータベースの別名。

パートナーとの接続は受け入れられます。追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: DB2 は参加者で、調整プログラムが "`<luname>`" の 1 つまたは複数の未確定のトランザクションを持っています。"`<luname>`" の DBMS がコールド・スタートを実行しました。DB2 参加者は、調整プログラムのリカバリー・ログが失われたかまたは損傷があつて、未確定のトランザクションを解決できないと

見なしています。調整プログラム側に矛盾するデータがあると考えられます。

ヒューリスティックな決定 (すなわち、トランザクションをコミットまたはロールバックするか) は、他の参加者と座標する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、調整プログラムがコールド・スタートしていても、調整プログラムのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたは打ち切りの決定は、ダウストリームすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されます。

SPM0412 LUNAME="`<luname1>`" の調整プログラムの同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。
LUNAME="`<luname2>`" の DB2 データベースの LUWID="`<luwid>`" トランザクションが未確定になる可能性があります。

説明: DB2 はこのトランザクションの参加者です。"`<luname>`" によって識別される調整プログラムとの SNA 同期点の交換中にプロトコル・エラーが起きました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 調整プログラムから DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname1

調整プロトコルの LU 名。

luname2

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

コミットの決定の前にプロトコル・エラーが検出されている場合には、LU name="`<luname2>`" のデータベースでトランザクションが未確定の場合があります。プロトコル・エラーのために、DB2 はこのような未確定のトランザクションを自動的には解決しません。

コミットの決定後にプロトコル・エラーが検出された場合には、そのトランザクションはコミットまたは打ち切り処理を完了しています。

同期点プロトコル違反の追跡が書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者は、手操作で未確定のトランザクションを解決する必要があります。

データベース管理者の処置: トランザクションが未確定かどうかを調べてください。未確定の場合には、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決しなければなりません。調整プログラム側で行われるコミットまたは打ち切りの決定は、DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

調整プログラム dbalias のデータベース管理者に連絡して、LUWID="`<luwid>`" のトランザクションがコミットされたかアボートされたかを調べてください。

調整プログラムのシステムが別の DB2 である場合には、DB2 の調整プログラム側で次のステップに従ってコミットまたは打ち切りの決定を調べることができます。

SPM0413 **LUNAME="<luname>"** および **DBALIAS="<dbalias>"** の参加者の同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。
LUWID="<luwid>" のトランザクションが参加者で未確定になる可能性があります。**DB2** はコミットしました。

説明: DB2 はトランザクションの調整プログラムです。"<luname>" および "<dbalias>" によって識別されるパートナーとの SNA 同期点の交換中にプロトコル・エラーが起きました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのコミットが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコ

ル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

同期点プロトコル違反の追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

SPM0414 **LUNAME="<luname>"** および **DBALIAS="<dbalias>"** の参加者による未確定トランザクションの解決でプロトコル・エラーが検出されました。**LUWID="<luwid>"** のトランザクションが参加者で未確定になる可能性があります。**DB2** はロールバックしました。

説明: DB2 は、ロールバックされたトランザクションを担当する調整プログラムを持っています。"<luname>" および "<dbalias>" によって識別される参加者による未確定の解決中にプロトコル・エラーが起きました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されます。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

データベース管理者の処置: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (ヒューリスティックに) 解決しなければなりません。

SPM0415 LUNAME="**<luname>**" の調整プログラムによる LUWID="**<luwid>**" トランザクションの自動的な解決によってロールバックが行われました。DB2 汎用データベースは "**<dbname>**" です。

説明: "**<dbname>**" で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、"**<luname>**" で識別される調整プログラムとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはロールバックされました。

luname1

調整プロトコルの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

luname2

変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0416 LUNAME "**<luname>**" のパートナーによるコールド・スタート接続が拒否されました。

説明: DB2 は、パートナー dbalias とのコールド・スタート接続を試みました。パートナーがこの接続の試みを拒否しました。

luname

調整プロトコルの LU 名。

接続は行われませんでした。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: DB2 は、パートナー

"**<luname>**" が DB2 とコールド・スタート接続できるまでパートナー "**<luname>**" に接続することはできません。パートナー "**<luname>**" のデータベース管理者に連絡してください。

さらに援助が必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

SPM0417 LUNAME="**<luname>**" および DBALIAS="**<dbalias>**" の参加者の同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。LUWID="**<luwid>**" のトランザクションが参加者で未確定になる可能性があります。DB2 はロールバックしました。

説明: DB2 はトランザクションの調整プログラムです。"**<luname>**" および "**<dbalias>**" によって識別されるパートナーとの SNA 同期点の交換中にプロトコル・エラーが起きました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのロールバックが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

同期点プロトコル違反の追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

SPM0420 LUNAME="`<lunname>`" の参加者によるコールド・スタート接続が受け入れられました。損傷の可能性があります。

説明: DB2 は、参加者側の未確定のトランザクションを担当する調整プログラムを持っていて、前にコールド・スタートしたために、未確定トランザクションについてのすべての情報を失った参加者と接続したところです。参加者側に損傷のあることが考えられます。

lunname

損傷があると考えられる参加者の LU 名。

パートナーとの接続は受け入れられます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: DB2 は調整プログラムで、"`<lunname>`" の 1 つまたは複数の未確定の作業単位に対する未確定のトランザクションの解決を担当します。"`<lunname>`" の DBMS がコールド・スタートを実行しました。DB2 は、参加者のリカバリー・ログが失われたかまたは損傷している、未確定のトランザクションの解決を行うことができないと見なしています。参加者側に矛盾するデータがあると考えられます。少なくとも、参

加者は障害が起こった時点で未確定であったトランザクションの最終結果を完全には反映していません。

SPM0421 LUNAME="`<lunname>`" のパートナーによる SNA XLN プロトコル違反。

説明: DB2 が、指定された "`<lunname>`" のパートナーとの SNA 交換ログ名 (XLN) の交換中にプロトコル違反を検出しました。

lunname

正しくない XLN メッセージを送信したパートナーの LU 名。

リモート側との接続の試みが正常に実行されていません。XLN プロトコル違反の追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: リモート側のシステム・プログラマーに連絡してください。正しくない XLN メッセージは追跡レコードに記録されています。リモート側で正しくない XLN メッセージの原因となったシステムの論理エラーを訂正する必要があります。

SPM0422 パートナーが当方側のログ名を間違っていて覚えていたために、LUNAME="`<lunname>`" のパートナーによるウォーム・スタート接続が拒否されました。当方側ログ名は、"`<name1>`" ですが、パートナーはこれを "`<name2>`" として覚えていました。

説明: パートナーがログ名を `name2` として指定したので、パートナーとのウォーム・スタート接続の試みが拒否されました。このログ名は `name1` で、これはローカル DB2 の `lunname` です。このエラーは、パートナーがログ名を `name1` と指定して再始動できれば、リカバリー可能となります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

luname

接続が行われなかったパートナーの LU 名。

name1 こちら側に記憶されているログ名。

name2 パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信したログ名。

パートナーとの接続は拒否されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: パートナー "`<luname>`" のデータベース管理者に連絡して、パートナーがこの DB2 の luname として指定されたログ名でウォーム・スタートを実行することが可能かどうかを調べてください。これが可能であれば、次の接続は正常に行われます。あるいは、パートナー "`<luname>`" に、DB2 とのロール・スタート接続を行わせてください。

SPM0423 LUNAME="`<luname>`" および DBALIAS="`<dbalias>`" のパートナーによる LUWID="`<luwid>`" トランザクションの自動的な解決によってコミットが行われました。

説明: 未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。参加者にはコミットの決定が通知されました。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0424 LUNAME="`<luname>`" および DBALIAS="`<dbalias>`" の参加者による LUWID="`<luwid>`" トランザクションの自動的な解決によってロールバックが行われました。

説明: 未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。参加者にはロールバックの決定が通知されました。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0425 LUNAME="`<luname>`" および DBALIAS="`<dbalias>`" の参加者の LUWID="`<luwid>`" のトランザクションは、通信障害のために未確定となる可能性があります。DB2 はロールバックしました。

説明: "`<luname>`" で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたはアボートのためにトランザクションが準備されています。トランザクションをロールバックする決定が行われましたが、この時点では参加者に通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。この担当は LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname

参加者の LU 装置名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者の処置: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がロールバックされることを知らせてください。

SPM0426 **LUNAME**="`<luname>`" および **DBALIAS**="`<dbalias>`" の参加者による未確定トランザクションの解決でプロトコル・エラーが検出されました。**LUWID**="`<luwid>`" のトランザクションが参加者で未確定になる可能性があります。**DB2** はコミットしました。

説明: DB2 は、コミットされたトランザクションを担当する調整プログラムを持っています。`"<luname>"` および `"<dbalias>"` によって識別される参加者による未確定の解決中にプロトコル・エラーが起きました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されます。プロトコル違反のために、DB2 は未確定

のトランザクションを自動的に解決しません。

luname

参加者の LU 名。

dbalias

参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反追跡レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

データベース管理者の処置: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (ヒューリスティックに) 解決しなければなりません。

SPM0434 同期点マネージャーを使用することができない - 通信レベルが正しくない。

説明: ローカル通信のリリース・レベルが最小のリリース・レベルより古いか、あるいはコミュニケーション・マネージャーが APPC SYNCLEVEL(SYNC) 対話をサポートするように正しく構成されていません。

保護対話を作成する試みは正常に実行されていません。

ユーザーの処置: SYNCLEVEL(SYNC) 対話をサポートするために必要な、正しい通信レベルをインストールして構成してください。

SPM0438 同期点マネージャー・リカバリー・ログが正しくありません。

説明: 同期点マネージャーのリカバリー・ログに矛盾があり、DB2 の始動処理中にリカバリーの実行に使用することができません。

ユーザーの処置: DRDA2 アプリケーション・サーバーに未確定のトランザクションが存在する場合があります。これらの未確定のトランザクションは手操作でリカバリーする必要があります。

データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: 同期点マネージャーを始動するために、spmlog ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

SPM0439 同期点マネージャー・リカバリー・ログに書き込もうとしているときに、同期点マネージャーにリカバリー不能なエラーが起きました。

説明: 同期点マネージャーのログに矛盾があり、使用することができません。DB2 の処理中に SPM ログに書き出そうとしているときに、リカバリー不能なエラーが検出されました。

ユーザーの処置: 同期点マネージャーは、新しい同期レベル (2 フェーズ) 接続を行うことができません。LIST DRDA INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを出して、未確定のトランザクションの状況を調べてください。

データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者の処置: 同期点マネージャーを始動するために、spmlog ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

SPM0440E "<protocol>" プロトコル・サポートを開始しようとしたときにエラーが起きました。"<function>" からの戻りコードは "<rc>" です。このエラーの原因として最も考えられるものは SNA が開始されていないことです。DB2 を停止して SNA を開始し、DB2 を再始動してください。

SPM0441 同期点マネージャーは、同期点マネージャー LU に使用可能ではありません。同期点マネージャー LU は "<lu-name>" で、LU プロファイルは "<lu-profile>" です。

説明: 同期点サポートは DB2 では使用できません。原因として最も考えられるものは以下のとおりです。

1. AIX SNA 通信レベルが無効である。同期点サポートには AIX SNA V2 またはそれ以上が必要です。
2. AIX SNA V2 では、リカバリー・リソース・マネージャー (RRM) を使用できません。このパラメーターは SNA システム・デフォルトで検出されます。このパラメーターを使用可能にして、SNA プロファイルを検証し、次に AIX SNA および DB2 の両方を停止して再始動してください。
3. AIX SNA V3 では、リカバリー・リソース・マネージャー (RRM) は同期点マネージャー LU "<lu-name>" を使用できません。このパラメーターは LU "<lu-name>" に対する LU 定義で見つかります。このパラメーターを使用可能にして、SNA プロファイルを検証し、次に AIX SNA および DB2 の両方を停止して再始動してください。

ユーザーの処置: 記述されている可能性に基づいて、原因を判別してください。訂正して再試行してください。

SPM0442 同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、“<name>”の名前では **CPIC** サイド情報プロファイルが存在しないことです。

説明: 同期点マネージャーは、名前 “<name>” の **CPIC** サイド情報プロファイルを必要としています。このプロファイルが見つからないか、あるいは誤った情報が入っています。

ユーザーの処置: このプロファイルを訂正、SNA プロファイルを検証、および **DB2** と **SNA** の両方を停止して再始動してください。同期点マネージャー・サポートを構成する方法については、「**DB2** コネクト 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0443 同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、同期点マネージャーを開始しているインスタンスが **AIX SNA** のトラステッド・グループ名のいずれにも属していないことです。

説明: 同期点マネージャー自体の初期化を行うためには、**DB2** を開始しているインスタンスが、**SNA** サポートで対話するための特定の権限を必要とします。**AIX SNA** では、これらのコマンドを出すユーザー **ID** がトラステッド・グループ名に入っていなければなりません。

ユーザーの処置: 「**SNA** システム・デフォルト」ダイアログで、トラステッド・グループ名として定義されているグループのいずれかに、同期点マネージャーを開始するインスタンスを追加してください。**AIX SNA** を停止し、再始動してください。**AIX Term** からログオフし、インスタンス **ID** にログオンし直し、さらに **DB2** を再始動してください。

それでも同期点マネージャーを開始できない場合、**AIX SNA** 用の最新 **PTF** を適用し、上の手順を繰り返してください。

SPM0444 同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、“<name>”の名前では **トランザクション・プログラム・プロファイル**が存在しないことです。

説明: 同期点マネージャーは、名前 “<name>” の **トランザクション・プログラム・プロファイル**を必要としています。このプロファイルが見つからないか、あるいは誤った情報が入っています。

ユーザーの処置: このプロファイルを訂正、SNA プロファイルを検証、および **DB2** と **SNA** の両方を停止して再始動してください。同期点マネージャー・サポートを構成する方法については、「**DB2** コネクト 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0445 **トランザクション・プログラム** “<tp-name>” が **DB2** で **listen** されません。これは重大エラーではありませんが、この **トランザクション・プロファイル**が必要な場合には、**AIX SNA** 構成の **トランザクション・プロファイル**で定義されていないことを確認してください。

説明: 同期点マネージャー自体を初期化すると、同期点マネージャーが **listen** する **トランザクション・プログラム**を登録します。同期点マネージャーが示されている **TP** の **listen** を行うためには、同期点マネージャーと **AIX SNA** の間に不整合がある **TP** を他で定義する **トランザクション・プログラム・プロファイル**がないことが必要です。このような不整合が存在する場合、**AIX SNA** が **listen** し、同期点マネージャーは **listen** しません。

ユーザーの処置: 示されている **TP** の **listen** を行うために同期点マネージャーが必要な場合、この **トランザクション・プログラム**を参照している **TP** **プロファイル**が他にないことを確認してください。同期点マネージャーはこのエラーに関係なく正常に開始します。

SPM0446E トランザクション・プログラム "**<tp-name>**" が DB2 で **listen** されません。これは重大エラーです。同期点マネージャーを開始できませんでした。原因として最も考えられるのは、データベース・マネージャー構成で同じ **SPM_NAME** を使用している同期点マネージャーを別のインスタンスが開始しているか、あるいは **Encina** ピアツーピア・ゲートウェイが同一マシンに存在し、指定のトランザクション・プログラムが **AIX SNA** トランザクション・プロファイルに定義されていることです。

説明: 同期点マネージャーがこの TP を登録しようと試みましたが、できませんでした。

ユーザーの処置: TP プロファイルを AIX SNA から除去してください。DB2 と AIX SNA の両方を停止して再始動します。

SPM0447E "**<protocol>**" プロトコル・サポートを開始しようとしたときにエラーが起きました。"**<function>**" からの戻りコードは "**<rc>**" です。このエラーの原因として最も考えられるものは **LU** "**<lu-name>**" が同期点管理ですでに使用中であることです。 **Encina** ピアツーピア・ゲートウェイまたは別の同期点マネージャーがこの **LU** を使用していないことを確認してください。

説明: LU は 1 つのアプリケーションによる同期点をサポートするものとして AIX SNA で登録されます。この場合、要求された同期点マネージャー LU はすでに登録済みです。原因として最も考えられるものは、ピア・ゲートウェイに対する **Encina** ピアがこの LU を同期点マネージャーとして使用しているか、あるいは別の DB2 インスタンスがこれを同期点マネージャーとして使用していることです。

ユーザーの処置: 固有の LU が使用されるようなデータベース・マネージャー構成で **SPM_NAME** を変更してください。DB2 を停止して再始動します。

SPM0448E 同期点マネージャー・プロトコル・サポートを開始しようとした時にエラーが起きました。同期点マネージャーは、同期点サポート **LUNAME** "**<luname>**" の登録ができません。これは、この **LU** が **SNA API** クライアント使用のために構成されているためです。同期点マネージャーに対して別の **LU** を選択するか、あるいはこの **LU** に対するローカル **LU 6.2** 定義での **SNA API** クライアント使用を禁止してください。

説明: このエラーは、カスタマーが CS/NT 5.01 を使用して同期点マネージャーを開始しようとして、**SNA API** クライアント使用フラグが設定されているローカル **LU 6.2** 定義を使用している時に発生します。

ユーザーの処置: 別のローカル **LU 6.2** (**SNA API** クライアント使用構成なし) を選択するか、ローカル **LU 6.2** 定義に対する **SNA API** クライアント使用フラグを使用不能にしてください。

SPM0449E 接続に失敗しました。この失敗の原因として考えられるのは、**CPIC** サイド情報プロファイル "**<profile1>**" で指定された **LU** が **CPIC** サイド情報プロファイル "**<profile2>**" で指定された同期点マネージャー **LU** と一致しないことです。

説明: ホスト・システムとの正しい通信を行うには、通信用に定義された **CPIC** サイド情報プロファイルが、構成済みの同期点マネージャーに対して定義されている **LU** と同じ名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: SNA CPIC サイド情報プロファイル "<profile1>" を正しい LU を指定して更新し、SNA プロファイルを検査して、SNA と DB2 の両方をいったん停止してから再始動して接続をやり直してください。

SPM0450E ライブラリーがロードできませんでした。アクセス許可が拒否されました。

説明: この問題の原因として最も考えられるのは、Windows NT のバグです。

ユーザーの処置: システムのすべてのネットワーク・ドライブとローカル PATH ステートメントが PATH ステートメントの終わりであることを確認してください。「スタート / 設定 / コントロール パネル / システム / 環境 / システム / パス」を選択して、すべてのネットワーク・ドライブをパス・ステートメントの終わりに移動します。システムをシャットダウンして再始動してください。

SPM0451E MS SNA サーバーが始動されていません。

説明: SNA サーバーが始動していません。

ユーザーの処置: SNA サーバーを始動して DB2 を再始動してください。

SPM0452I データベース・マネージャー構成に指定されている **SPM_NAME** が、制御点名 "<name>" と同じではないことを確認してください。
SPM_NAME は一時的に "<temp-name>" で置き換えられています。

説明: SPM_NAME を制御点と同一名にすることはできません。SPM_NAME は一時的に代替名で置き換えられています。データベース・マネージャー構成ファイルは変更されていません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構

成ファイルの SPM_NAME を更新してください。制御点名ではない名前を指定してください。

SPM0453C Microsoft SNA サーバーが開始していないため、同期点マネージャーは開始されませんでした。

説明: この DB2 インスタンスは、同期点マネージャーを開始するよう構成されています。しかし、基礎 SNA スタック Microsoft SNA サーバーは開始されていません。そのため、同期点マネージャー・サポートを開始できません。

ユーザーの処置: Microsoft SNA サーバーを開始しなければなりません。コマンド DB2STOP FORCE を使用して、DB2 を停止してください。その後、以下のステップに従ってください。

1. スタート
2. 設定
3. コントロール パネル
4. 「サービス」をダブルクリック
5. SnaServer をクリック
6. 「開始」をクリック

Microsoft SNA サーバーが開始したら、コマンド DB2START を使用して DB2 を再始動してください。

SPM0454C LU 別名 "<lualias>" によって表される論理装置 (LU) の排他的使用を必要としているため、同期点マネージャーは開始されませんでした。

説明: 同期点マネージャーは、論理装置 (LU) の排他的使用を必要としています。同期点マネージャーによって使用されている LU は、デフォルト発信ローカル APPC LU プールの一部として識別されています。そのため、この LU は、どのアプリケーションからも使用可能です。また LU は、SPM_NAME データベース・マネージャー構成パラメーターによって、同期点マネージャーに使用される LU としても識別されています。同期点マネージャーがこの LU の排他的使用を必要として

いるため、LU をデフォルト発信ローカル APPC LU プールのメンバーにすることはできません。

ユーザーの処置: LU がデフォルト発信ローカル APPC LU プールのメンバーになるよう LU 定義を変更するか、またはこのデフォルト・プールのメンバーではない LU に SPM_NAME 値を変更してください。SNA サーバーを停止および再始動してください。さらに DB2 を停止して再始動します。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 コネクト 概説およびインストール」または「DB2 ユニバーサル・データベース 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0455C 同期点マネージャーは開始されませんでした。LU 別名 “<lualias>” によって表される論理装置 (LU) が、同期点マネージャーによって使用されるよう正しく構成されていません。

説明: 同期点マネージャーを使用するには、同期点操作が可能になるよう LU を構成しなければなりません。

ユーザーの処置: 同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに SNA サーバーの名前が入るよう LU 定義を変更してください。SNA サーバーを再始動し、さらに DB2 を再始動してください。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 コネクト 概説およびインストール」または「DB2 ユニバーサル・データベース 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0456C 同期点マネージャーは開始されませんでした。LU 別名 “<lualias>” によって表される論理装置 (LU) の「クライアント」フィールドに、この SNA サーバーの名前が含まれていることを確認してください。

説明: 同期点マネージャーを開始するには、LU で同期点操作が可能でなければなりません。LU で同期点操作を可能にするには、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスがチェックされ、この SNA サーバーの名前が「クライアント」フィールドに入っていることを確認してください。

この状況では、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスはチェックされていますが、「クライアント」フィールドには何も入っていません。

ユーザーの処置: 同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに SNA サーバーの名前が入るよう LU 定義を変更してください。SNA サーバーを停止および再始動し、さらに DB2 を停止および再始動してください。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 コネクト 概説およびインストール」または「DB2 ユニバーサル・データベース 概説およびインストール」を参照してください。

SPM0457W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しません。

説明: 同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen するインスタンスを定義してください。その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>
```

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

SPM0458W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム x'07'6DB を listen しません。

説明: 同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム x'07'6DB を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム x'07'6DB を listen するインスタンスを定義してください。その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>
```

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

SPM0459W インストールされている SNA のバージョンには、この DB2 のバージョンとの互換性がありません。

説明: DB2 コネクト (AIX 版) および DB2 ユニバーサル・データベース (AIX 版) V6.1 またはそれ以上には、SNA 接続のために IBM eNetwork Communication Server for AIX V5.0.3 またはそれ以上が必要です。

IBM Communication Server の必須バージョンは、このマシンにはインストールされていません。

ユーザーの処置: IBM eNetwork Communications Server for AIX V5.0.3 にアップグレードしなければなりません。PTF は、以下の URL でダウンロードすることができます。

<http://service.software.ibm.com/cgi-bin/support/rs6000.support/downloads>

「AIX General Software Fixes」、 「AIX Fix Distribution Service」、 「AIX Version 4」、 さらに「Search By PTF Number」を選択してください。検索ストリングとして sna.rte を入力します。「Find Fix」を選択してください。PTF がリストされるので、目的の PTF を選択して「Get Fix Package」をクリックし、指示に従ってください。

SPM0460W このマシンにインストールされている Microsoft SNA サーバーのバージョンは、同期点マネージャーをサポートしていません。

説明: このインスタンスは、Microsoft SNA サーバーで DB2 SNA 同期点マネージャーを使用するよう構成されています。このマシンにインストールされている Microsoft SNA サーバーのバージョンは、同期点マネージャーをサポートしていません。

ユーザーの処置: 同期点マネージャーを使用するには、Microsoft SNA サーバー V4 サービス・パック 3 またはそれ以上が必要です。

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版)、

(OS/400 版)、または (VM/VSE 版)で複数サイトの更新を行うには、Microsoft SNA サーバー V4 サービス・パック 3 またはそれ以上をインストールしなければなりません。適切なバージョンの Microsoft SNA サーバーをインストールした後、DB2 コネクトまたは DB2 ユニバーサル・データベースを停止して再始動してください。

第13章 SQJ メッセージ

このセクションには Java (SQLJ) メッセージの DB2 組込み SQLJ が含まれます。メッセージは番号順にリストされています。

SQJ0001W プロファイル "**<profile-name>**" をカスタマイズしています。

説明: このメッセージは、プリコンパイラーの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。

トークン "**<profile-name>**" は、カスタマイズされている特定のプロファイルを参照します。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQJ0100E 無効なオプションが "**<option>**" に指定されています。

説明: 指定オプションは無効です。

ユーザーの処置: 構文をチェックして、有効なオプションおよびパラメーターを指定してコマンドを再発行してください。形式は

<option>=<parameter> です。

SQJ0101E 不明なオプション "**<option>**"。

説明: オプションは不明あるいはサポートされていません。

ユーザーの処置: 使用法ヘルプのオプション指定なしで、コマンドを単独で実行してください。有効なオプションを使用して、コマンドを再発行してください。

SQJ0102E **<option>** が指定されていません。

説明: オプションが欠落しています。

ユーザーの処置: 必要なオプションを指定して、コマンドを再発行してください。

SQJ0103E プロファイルが指定されていません。

説明: プロファイル名が必要ですが、欠落しています。

ユーザーの処置: プロファイル名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQJ0104E プロファイル "**<profile>**" をロードできません。

説明: 指定されたプロファイルが見つからないか、または存在しません。

ユーザーの処置: プロファイルが存在するか、またはプロファイル名が正しく指定されているかを確認してください。

SQJ0105E プロファイル "**<profile>**" をカスタマイズできません。

説明: システム・エラーまたは内部エラーのためにプロファイルをカスタマイズできません。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

SQJ0106E 無効な構文 "**<command-syntax>**"。

説明: 指定されたオプションの構文が無効です。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用して、コマンドを再発行してください。

SQJ0200E 内部エラーが発生しました。

説明: 予期しない内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、エラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- トレース・ファイル

SQJ0201E プロファイルのカスタマイズ中に内部エラーが発生しました。理由コードは "<reason-code>"。

説明: プロファイルのカスタマイズ時に予期しない内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 および CLI トレースをオンにして、エラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

SQJ0202E プリコンパイル中に内部エラーが発生しました。理由コードは "<reason-code>"。

説明: プリコンパイル時に予期しない内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、エラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード

- トレース・ファイル

SQJ0203E コマンドの処理時に内部エラーが発生しました。理由コードは "<reason-code>"。

説明: コマンドの処理時に予期しない内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: トレース機能をオンにし、エラーの原因のステップを再試行してください。問題が再び起こる場合は、トレース情報をファイルに保管して次の情報を IBM サポートに連絡してください。

- 問題記述
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

SQJ0204E FOR UPDATE 文節が SELECT ステートメントから検出されました。

説明: SQL ステートメントの構文エラーが、SELECT ステートメントの update 文節が現れたときに検出されました。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントの構文を訂正して、update 文節を iterator-declaration 文節によって指定してください。

SQJ4011E 複合 SQL ステートメントに、無効な SQL サブステートメントがあります。

説明: このエラーは、複合 SQL ステートメントで、無効なサブステートメントが見つかったときに戻されます。有効なステートメントは、以下のとおりです。

- ALTER TABLE
- COMMENT ON
- CREATE INDEX
- CREATE TABLE
- CREATE VIEW
- 検索済み DELETE

- DROP
- GRANT
- INSERT
- LOCK TABLE
- REVOKE
- SELECT INTO
- 検索済み UPDATE
- COMMIT; 最後のサブステートメントとして指定された場合のみ

ユーザーの処置: 無効なサブステートメントなしでコマンドを再実行依頼してください。

付録A. SPM プロトコル違反レコード

このセクションは、同期点マネージャーによって生成されるプロトコル違反レコードを示します。これらのレコードは基本障害保守ログ (db2diag.log) に送られ、対応するメッセージの後に記録されます。

Resync プロトコル違反レコード

```
/*
 * SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206 - Resync Protocol error.
 *
 * This trace is produced when a protocol error occurs during a Resync Compare
 * States (CS) exchange with a remote LU. The following are examples of SNA
 * Compare States protocol errors:
 *   * an unknown STATE was found in the SNA CS message
 *   * an invalid data message was received from the remote site
 *   * an invalid LU6.2 verb sequence was detected
 *
 *****/
#define SQLCSPM_RPV_206_T "SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206" /* Title */
typedef struct sqlcspm_resync_protocol_violation_206
{
    SQLCSPM_LUNAME luname; /* Site involved in violation. */
    SQLCSPM_LUWID luwid; /* LUWID for the unit of work. */
    SQLXA_XID xid; /* XID of the thread. */
    char role; /* Role of DB2 in LUW -- C or P.
               /* C for coordinator.
               /* P for participant.
    char status; /* Local thread status -- C, A or I
                /* C for COMMIT.
                /* A for ABORT.
                /* I for INDOUBT.
    SQLCSPS_TRACE comm_trace; /* Communication trace of violation. */
} SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206;
```

Syncpoint プロトコル違反レコード

```
/*
 * SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208 - SNA syncpoint protocol error.
 *
 * This trace is produced when a protocol error occurs during the SNA
 * syncpoint process with a remote LU. The following are examples of SNA
 * syncpoint protocol errors:
 *   * an unknown SNA PS header was received.
 *   * an SNA PS header was received in the wrong sequence.
 *   * an invalid LU6.2 verb sequence was detected.
 *   * the remote site issued DEALLOCATE TYPE (ABEND_SVC).
 *****/
```

```

#define SQLCSPM_2PPV_208_T "SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208" /* Title.*/
typedef struct sqlcspm_2phase_protocol_violation_208
{
    /*
    SQLCSPM_LUNAME  luname;          /* Site involved in violation.      */
    SQLCSPM_LUWID   luwid;          /* LUWID for the unit of work.     */
    SQLXA_XID       xid;           /* XID of the thread.              */
    char            role;          /* Role of DB2 in LUW -- C or P.   */
    /* C for coordinator.          */
    /* P for participant.          */
    char            local_status;  /* Local thread status -- C, A or I */
    /* C for COMMIT.              */
    /* A for ABORT.                */
    /* I for INDOUBT.              */
    char            partner_status; /* Partner thread status -- C, A or I */
    /* C for COMMIT.              */
    /* A for ABORT.                */
    /* I for INDOUBT.              */
    SQLCSPS_TRACE  comm_trace;    /* Communication trace of violation. */
} SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208;

```

XLN プロトコル違反レコード

```

/*****
* SQLCSPM_XLN_PROTOCOL_VIOLATION_236 - SNA XLN protocol error. *
*
* This trace is produced when a protocol error occurs during the SNA *
* syncpoint process with a remote LU. The following are examples of SNA *
* syncpoint protocol errors: *
* * an unknown SNA PS header was received. *
* * an SNA PS header was received in the wrong sequence. *
* * an invalid LU6.2 verb sequence was detected. *
* * the remote site issued DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC). *
*****/
#define SQLCSPM_XPV_236_T "SQLCSPM_XLN_PROTOCOL_VIOLATION_236" /* Title.*/
typedef struct sqlcspm_xln_protocol_violation_236
{
    /*
    SQLCSPM_LUNAME  luname;          /* Site involved in violation.      */
    SQLCSPX_XLN_INF xln_inf;        /* Current XLN information          */
    /* in LUB. */
    SQLCSPX_XLN_INF txln_inf;      /* Temporary XLN information       */
    /* in LUB. */
    SQLCSPM_GDSAREA xln;          /* Current XLN GDS being           */
    /* processed. */
    SQLCSPS_TRACE  comm_trace;    /* Communication trace of violation. */
} SQLCSPM_XLN_PROTOCOL_VIOLATION_236;

```

付録B. DB2 ライブラリーの使用法

DB2 ユニバーサル・データベース ライブラリーは、オンライン・ヘルプ、ブック (PDF および HTML)、および HTML 形式のサンプル・プログラムから成っています。この項では、ユーザーに提供される情報について紹介し、その入手方法を示します。

オンライン製品情報をご利用になるには、インフォメーション・センターを使用することができます。詳細については、567ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。ここではタスク情報、DB2 ブック、トラブルシューティング情報、サンプル・プログラム、および Web の DB2 情報を見ることができます。

DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料

DB2 情報

以下に示す表では、DB2 ブックを 4 つのカテゴリーに分類しています。

DB2 の手引きおよび解説書

これらの資料は、すべてのプラットフォームに共通の DB2 情報を含んでいます。

DB2 のインストールおよび構成の情報

これらの資料は、特定のプラットフォーム上の DB2 ごとに用意されています。たとえば、OS/2、Windows、および UNIX ベースのプラットフォームで稼働するそれぞれの DB2 用に、別個の概説およびインストール 資料が用意されています。

プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)

これらのサンプルは、アプリケーション開発クライアントとともにインストールされるサンプル・プログラムの HTML 版です。これらのサンプルは参考用であり、実際のプログラムに代わるものではありません。

リリース情報

これらのファイルには、DB2 ブックには含まれなかった最新の情報が記載されています。

インストール情報、リリース情報、およびチュートリアルは、製品 CD-ROM から HTML 形式で参照することができます。ほとんどの資料は、製品 CD-ROM から HTML 形式で表示できますし、DB2 の資料 CD-ROM から Adobe Acrobat (PDF) 形

式で表示し印刷することができます。IBM にハードコピー版の資料を注文したい場合は、563ページの『印刷資料の注文方法』を参照してください。注文可能な資料については、以下の表をご覧ください。

OS/2 および Windows プラットフォームの場合、HTML ファイルは `sqllib¥doc¥html` ディレクトリーにインストールできます。DB2 情報はいくつかの言語で提供されています。しかし、すべての言語に翻訳されているわけではありません。ある言語で情報が提供されていない場合は、英語版の情報が提供されます。

UNIX プラットフォームの場合、言語ごとに異なる複数の HTML ファイルを `doc/%L/html` ディレクトリーにインストールできます。ここで、`%L` は地域を表しています。詳細については、適切な概説およびインストールの手引きを参照してください。

DB2 ブックを入手して情報を利用するには、次のようなさまざまな方法があります。

- 566ページの『オンライン情報の表示』
- 571ページの『オンライン情報の検索』
- 563ページの『印刷資料の注文方法』
- 563ページの『PDF 資料の印刷』

表 1. DB2 情報

資料名	記述	資料番号	HTML ディレクトリー
		PDF ファイル名	
DB2 の手引きおよび解説書情報			
管理の手引き	<p>管理の手引き: 計画 は、データベース概念について概説し、設計 (たとえば、論理および物理データベース設計) に関する情報を提供し、高い可用性について解説しています。</p>	SC88-8513	db2d0
	<p>管理の手引き: インプリメンテーションは、設計、データベースへのアクセス、監査、バックアップ、およびリカバリーなどのインプリメンテーションについて説明しています。</p>	SC88-8511	db2d2x70
	<p>管理の手引き: パフォーマンス は、データベース環境について解説し、さらにアプリケーションのパフォーマンスの評価と調整の方法について説明しています。</p>	SC88-8512	db2d3x70
管理 API 解説書	<p>データベースの管理に使用できる DB2 アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) およびデータ構造について説明します。また、この資料は、アプリケーションから API を呼び出す方法も示します。</p>	SC88-8514	db2b0
アプリケーション構築の手引き	<p>環境設定に関する情報を提供し、Windows、OS/2、および UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 アプリケーションのコンパイル、リンク、実行の各ステップについて説明します。</p>	SC88-8515	db2ax
APPC, CPI-C, and SNA Sense Codes	<p>DB2 ユニバーサル・データベース製品をご使用中に発生する可能性のあるセンス・コード APPC、CPI-C、および SNA についての一般情報を提供します。</p>	資料番号なし	db2ap
HTML 形式でのみご利用いただけます。			

表 1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
アプリケーション開発の手引き	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、組み込み SQL または Java (JDBC および SQLJ) を使用して開発する方法について説明します。さらに、ストアド・プロシージャの作成方法、ユーザー定義関数の作成方法、ユーザー定義タイプの作成方法、トリガーの使用法、区画化されている環境または統合されているシステムでのアプリケーションの開発方法などについて解説されています。	SC88-8516 db2a0x70	db2a0
コール・レベル・インターフェースの手引きおよび解説書	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、DB2 コール・レベル・インターフェース (Microsoft ODBC 仕様互換の呼び出し可能 SQL) を使用して開発する方法について説明します。	SC88-8517 db2l0x70	db2l0
コマンド解説書	コマンド行プロセッサの使用法について説明し、データベースの管理に使用できる DB2 コマンドについて解説しています。	SC88-8518 db2n0x70	db2n0
コネクティビティー補足	DB2 (AS/400 版)、DB2 (OS/390 版)、DB2 (MVS 版)、または DB2 (VM 版) を DRDA アプリケーション・リクエスターとして DB2 ユニバーサル・データベース とともに使用するためのセットアップ情報および参照情報を提供します。また、この資料は DRDA アプリケーション・サーバーを DB2 コネクト アプリケーション・リクエスターとともに使用する方法の詳細を示します。	資料番号なし db2h1x70	db2h1
HTML と PDF でのみ利用可能			
データ移動ユーティリティー手引きおよび解説書	データの移動を行う DB2 ユーティリティー (インポート、エクスポート、ロード、AutoLoader、および DPROF など) の使用法について説明しています。	SC88-8522 db2dmx70	db2dm

表1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
データウェアハウスセンター 管理の手引き	データウェアハウスセンターを使用してデータウェアハウスを構築および保守する方法を説明します。	SC88-8545 db2ddx70	db2dd
データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き	プログラマーがアプリケーションをデータウェアハウスセンターおよび情報カタログ・マネージャーと統合するのに役立つ情報を提供します。	SC88-8546 db2adx70	db2ad
DB2 コネクト 使用者の手引き	DB2 コネクト製品の概念、プログラミング、および一般的な使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8521 db2c0x70	db2c0
DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き	DB2 クエリー・パトローラー・システムの運用の概説を行い、運用および管理に関する詳細情報、および管理用グラフィカル・ユーザー・インターフェース・ユーティリティについてのタスク情報を提供します。	SC88-8525 db2dwx70	db2dw
DB2 クエリー・パトローラー 使用者の手引き	DB2 クエリー・パトローラーのツールや関数の使用方法を説明します。	SC88-8527 db2wwx70	db2ww
用語集	DB2 およびそのコンポーネントで 사용되는用語の定義を示します。 HTML 形式と SQL 解説書 で利用可能	資料番号なし db2t0x70	db2t0
イメージ、オーディオ、およびビデオ・エクステンダー 管理およびプログラミングの手引き	DB2 エクステンダーの一般情報について提供し、画像、音声、およびビデオ (IAV) エクステンダーの管理と構成について、および IAV エクステンダーを使用したプログラミングについて説明しています。さらに、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルも収録されています。	SC88-8609 dmbu7x70	dmbu7
情報カタログ・マネージャー 管理の手引き	情報カタログを管理するためのガイドです。	SC88-8547 db2dix70	db2di
情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書	情報カタログ・マネージャー用の体系化されたインターフェースの定義を示します。	SC88-8549 db2bix70	db2bi

表 1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き	情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェースの使用に関する情報を提供します。	SC88-8548 db2aix70	db2ai
インストールおよび構成補足	プラットフォーム固有の DB2 クライアントの計画、インストール、およびセットアップのガイドです。この補足資料には、バインド、クライアント / サーバー通信の設定、DB2 GUI ツール、DRDA AS、分散インストール、分散要求の構成、および異機種データ・ソースへのアクセスについても説明されています。	GC88-8524 db2iyx70	db2iy
メッセージ解説書	DB2、情報カタログ・マネージャー、およびデータウェアハウスセンターから出されるメッセージとコードをリストし、取るべき処置を解説しています。	第 1 巻 GC88-8543 db2m1x70 第 2 巻 GC88-8544 db2m2x70	db2m0
<i>OLAP Integration Server Administration Guide</i>	OLAP Integration Server の Administration Manager コンポーネントの使用方法を説明します。	SC27-0787 db2dpx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Metaoutline User's Guide</i>	標準の OLAP Metaoutline インターフェースを使用して (Metaoutline Assistant を使用するのではなく) OLAP metaoutline を作成しデータを取り込む方法を説明しています。	SC27-0784 db2upx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Model User's Guide</i>	(Model Assistant ではなく) 標準的な OLAP Model Interface を使用して OLAP モデルを作成する方法を説明します。	SC27-0783 db2lpx70	n/a
<i>OLAP のセットアップおよびユーザーズ・ガイド</i>	OLAP スターター・キットの構成およびセットアップに関する情報を提供します。	SC88-8652 db2ipx70	db2ip
<i>Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for Excel</i>	Excel 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC88-8724 db2epx70	db2ep

表 1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
<i>Hyperion Essbase</i> スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for <i>Lotus 1-2-3</i>	ロータス 1-2-3 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC88-8723 db2tpx70	db2tp
レプリケーションの手引きおよび解説書	DB2 に付属の IBM レプリケーション・ツールの計画、構成、管理、および使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8550 db2e0x70	db2e0
地理情報エクステンダー使用者の手引きおよび解説書	地理情報エクステンダーのインストール、構成、管理、プログラミング、およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。また、地理情報データの概念についての重要事項を示し、地理情報エクステンダー固有の参照情報 (メッセージおよび SQL) を提供します。	SC88-8624 db2sbx70	db2sb
SQL 概説	SQL の概念を紹介し、構造体とタスクの例を多数提供しています。	SC88-8539 db2y0x70	db2y0
SQL 解説書	SQL の構文、セマンティクス、および言語規則について説明します。また、この資料には、各リリース間の互換性、製品の制限事項、およびカタログ・ビューも含まれます。	第 1 巻 SC88-8540 db2s1x70 第 2 巻 SC88-8657 db2s2x70	db2s0
システム・モニター 手引きおよび解説書	データベースおよびデータベース・マネージャーに関連したさまざまな情報を収集する方法を示します。この資料は、この情報を利用して、データベース活動の把握、パフォーマンス向上、および問題原因の判別を行う方法を説明しています。	SC88-8523 db2f0x70	db2f0

表 1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
テキスト・エクステンダー 管理およびプログラミング	DB2 エクステンダーの一般情報、テキスト・エクステンダーの管理および構成情報、およびテキスト・エクステンダーを使用したプログラミングの方法について解説します。この資料には、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルが入っています。	SC88-8610 desu9x70	desu9
問題判別の手引き	エラーの原因の判別、問題からのリカバリー、および DB2 カスタマー・サービスの支援の下での診断ツールの使用方法を記載しています。	GD88-7271 db2p0x70	db2p0
新機能	DB2 ユニバーサル・データベースバージョン 7 の新しい機能および拡張機能について説明します。	SC88-8541 db2q0x70	db2q0
DB2 のインストールおよび構成の情報			
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (OS/2 および Windows 版) 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 コネクト エンタープライズ・エディションで、計画、移行、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8520 db2c6x70	db2c6
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 コネクト エンタープライズ・エディションの計画、移行、インストール、構成、およびタスクに関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8519 db2cyx70	db2cy

表1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 コネクト パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、移行、インストール、および構成を行う場合のタスク情報を提供します。また、この資料はサポートされているすべてのクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8533	db2c1
		db2c1x70	
DB2 コネクト パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8528	db2c4
		db2c4x70	
DB2 データ・リンク・マネージャー 概説およびインストール	AIX および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 データ・リンク・マネージャーで、計画、インストール、構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8532	db2z6
		db2z6x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 エンタープライズ拡張エディションの計画、インストール、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8530	db2v3
		db2v3x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 エンタープライズ拡張エディションで、計画、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8529	db2v6
		db2v6x70	

表 1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) 概説およびインストール	OS/2 オペレーティング・システムでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、移行、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8534 db2i2x70	db2i2
DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、移行、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8536 db2ixx70	db2ix
DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 ユニバーサル・データベースで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8537 db2i6x70	db2i6
DB2 パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8535 db2i1x70	db2i1
DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8538 db2i4x70	db2i4
DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引き	DB2 クエリー・パトローラーのインストール情報を提供します。	GC88-8526 db2iwx70	db2iw

表 1. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
ウェアハウス・マネージャ インストールの手引き	ウェアハウス・エージェント、ウェアハウス・トランスフォーマー、および情報カタログ・マネージャのインストール情報を提供します。	GC88-8572 db2idx70	db2id
プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)			
サンプル・プログラム (HTML)	DB2 のサポートするすべてのプラットフォームでのプログラム言語用に、サンプル・プログラム (HTML 形式) を提供します。これらのサンプル・プログラムは、参照用としてのみ提供されています。サンプルは、すべてのプログラミング言語で利用できるわけではありません。HTML サンプルが利用できるのは、DB2 アプリケーション開発クライアントがインストールされている場合だけです。 プログラムの詳細については、アプリケーション構築の手引き を参照してください。	資料番号なし	db2hs
リリース情報			
DB2 コネクト リリース情報	DB2 コネクトの資料には含められなかった最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照してください。	db2cr
DB2 インストール情報	DB2 ブックには含められなかったインストールに関する最新の情報が収録されています。	製品 CD-ROM からのみ利用できます。	
DB2 リリース情報	DB2 ブックには含められなかった DB2 製品とその機能に関する最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照してください。	db2ir

注:

1. ファイル名の 6 桁目の文字 *x* は、その資料の言語を表します。たとえば、ファイル名 db2d0e70 は、管理の手引き の英語版であることを示し、ファイル名 db2d0f70 は同じ資料のフランス語版を示します。資料の言語を表すためにファイル名の 6 桁目で使用されている文字は以下のとおりです。

言語	ID
ブラジル・ポルトガル語	b
ブルガリア語	u
チェコ語	x
デンマーク語	d
オランダ語	q
英語	e
フィンランド語	y
フランス語	f
ドイツ語	g
ギリシャ語	a
ハンガリー語	h
イタリア語	i
日本語	j
韓国語	k
ノルウェー語	n
ポーランド語	p
ポルトガル語	v
ロシア語	r
簡体字中国語	c
スロベニア語	l
スペイン語	z
スウェーデン語	s
繁体字中国語	t
トルコ語	m

2. DB2 ブックには含められなかった最新の情報が、「リリース情報」で HTML 形式および ASCII ファイルとして利用できます。HTML 版は、インフォメーション・センターおよび製品 CD-ROM からご利用になれます。ASCII ファイルの参照方法:

- UNIX ベースのプラットフォームでは、ファイル `Release.Notes` を参照してください。このファイルは `DB2DIR/Readme/%L` ディレクトリーにあります。ここで `%L` は地域名を、`DB2DIR` は以下のものを表します。
 - `/usr/lpp/db2_07_01` (AIX の場合)
 - `/opt/IBMdb2/V7.1` (HP-UX、DYNIX/ptx、Solaris、および Silicon Graphics IRIX の場合)
 - `/usr/IBMdb2/V7.1` (Linux の場合)
- これ以外のプラットフォームでは、ファイル `RELEASE.TXT` を参照してください。このファイルは、製品がインストールされているディレクトリーにあります。OS/2 プラットフォームでは、**IBM DB2** フォルダをダブルクリックし、**Release Notes** アイコンをダブルクリックすることもできます。

PDF 資料の印刷

資料のハードコピー版が必要な場合、DB2 の資料 CD-ROM にある PDF ファイルを印刷することができます。Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷することができます。ライブラリー内の各資料のファイルについては、553ページの表1 を参照してください。

Adobe Acrobat Reader の最新版は、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> から入手できます。

PDF ファイルは、DB2 の資料 CD-ROM に収録されており、ファイル拡張子 PDF が付いています。PDF ファイルにアクセスするには以下のようにします。

1. DB2 の資料 CD-ROM を挿入します。UNIX ベースのプラットフォームの場合は、DB2 資料 CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、概説およびインストール を参照してください。
2. Acrobat Reader を起動します。
3. 以下に示すいずれかの位置から必要な PDF ファイルを開きます。

- OS/2 および Windows プラットフォームでは:
x:\doc¥language ディレクトリー。ここで、x は CD-ROM ドライブを、language は 2 桁の言語を表す国コード (たとえば、EN は英語) を示します。
- UNIX ベースのプラットフォームでは:
CD-ROM の /cdrom/doc/%L ディレクトリー。ここで、/cdrom は CD-ROM のマウント・ポイントを、%L は地域名を表します。

さらに、PDF ファイルを CD-ROM からローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブにコピーし、そこから参照することもできます。

印刷資料の注文方法

ハードコピー版の DB2 ブックは、個別に注文することができます。資料を注文するには、IBM 承認の販売業者または営業担当員に連絡してください。

DB2 オンライン文書

オンライン・ヘルプへのアクセス

すべての DB2 コンポーネントで、オンライン・ヘルプを利用できます。以下の表に、さまざまな種類のヘルプを示します。

ヘルプの種類	内容	利用方法
コマンド・ヘルプ	コマンド行プロセッサの コマンド構文について説明 します。	コマンド行プロセッサの対話モードから、次のよ うに入力します。 ? <i>command</i> ここで <i>command</i> はキーワードまたはコマンド全体 を表します。 たとえば、? <i>catalog</i> と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプが表示され、 ? <i>catalog database</i> と入力すると、CATALOG DATABASE コマンドのヘルプが表示されます。
クライアント構成アシ スタントのヘルプ	そのウィンドウまたはノートブックで実行できるタスクについて説明します。このヘルプは、知っておく必要のある概説および前提条件に関する情報を含みます。また、ウィンドウやノートブックの制御の使用方法を示します。	ウィンドウまたはノートブックから、「ヘルプ (Help)」プッシュボタンをクリックするか、または F1 キーを押します。
コマンド・センターの ヘルプ		
コントロール・センタ ーのヘルプ		
データウェアハウスセ ンターのヘルプ		
イベント・アナライザ ーのヘルプ		
情報カタログ・マネー ジャーのヘルプ		
サテライト管理センタ ーのヘルプ		
スクリプト・センタ ーのヘルプ		

ヘルプの種類	内容	利用方法
メッセージ・ヘルプ	メッセージの原因、および取るべき処置を説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn</pre> <p>ここで、<i>XXXnnnnn</i> は有効なメッセージ ID を表します。</p> <p>たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表示します。</p> <p>一度に 1 画面分のメッセージ・ヘルプを表示させるには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn more</pre> <p>メッセージ・ヘルプをファイルに保管するには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn > filename.ext</pre> <p>ここで、<i>filename.ext</i> はメッセージ・ヘルプを保管するファイルを表します。</p>
SQL ヘルプ	SQL ステートメントの構文について説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>help statement</pre> <p>ここで、<i>statement</i> は SQL ステートメントを表します。</p> <p>たとえば、help SELECT と入力すると、SELECT ステートメントのヘルプが表示されます。</p> <p>注: UNIX ベースのプラットフォームでは、SQL ヘルプを利用できません。</p>
SQLSTATE ヘルプ	SQL 状態およびクラス・コードについて説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? sqlstate or ? class code</pre> <p>ここで、<i>sqlstate</i> は有効な 5 桁の SQL 状態を、<i>class code</i> は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。</p> <p>たとえば、? 08003 によって SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 によってクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。</p>

オンライン情報の表示

この製品に付属のブックは、ハイパーテキスト・マークアップ言語 (HTML) ソフトコピー形式です。ソフトコピー形式では情報を検索または表示したり、ハイパーテキスト・リンクを利用して関連情報に移動したりすることができます。また、1 つの端末を超えてライブラリーを容易に共用することができます。

オンライン・ブックやサンプル・プログラムは、HTML バージョン 3.2 仕様に準拠するすべてのブラウザを使って表示できます。

オンライン・ブックまたはサンプル・プログラムは、次のようにして表示します。

- DB2 アドミニストレーション・ツールを実行している場合、インフォメーション・センターを使用します。
- ブラウザーで、「**ファイル (File)**」→「**ページを開く (Open Page)**」をクリックします。次のようなページを開いて、DB2 情報に関する説明とリンクを表示してください。
 - UNIX ベースのプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
INSTHOME/sqlllib/doc/%L/html/index.htm
```

ここで %L はロケール名です。

- その他のプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
sqlllib¥doc¥html¥index.htm
```

パスは DB2 がインストールされているドライブです。

インフォメーション・センターをインストールしていない場合、**DB2**

Information アイコンをダブルクリックしてページを開くことができます。このアイコンは、ご使用のシステムに応じて、製品のメイン・フォルダー内または Windows 「スタート」メニューにあります。

Netscape ブラウザーのインストール

システムに Web ブラウザーがインストールされていない場合、製品の箱の中にある Netscape CD-ROM から Netscape をインストールすることができます。インストールに関する詳細な説明については、以下を参照してください。

1. Netscape CD-ROM を挿入します。
2. UNIX ベースのプラットフォームでは、CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、概説およびインストール を参照してください。
3. インストールの手順については、CDNAVnn.txt ファイルを参照します。ここで、nn は 2 桁の言語 ID を表します。ファイルは CD-ROM のルート・ディレクトリーにあります。

インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス

インフォメーション・センターを使用すると、DB2 製品情報にす早くアクセスすることができます。インフォメーション・センターは、DB2 管理ツールを使用できるすべてのプラットフォームで利用できます。

インフォメーション・センターは「インフォメーション・センター (Information Center)」アイコンをダブルクリックすることによってオープンできます。このアイコンのある場所はシステムによって異なります。メイン・プロダクト・フォルダーか Windows の「スタート」メニューのどちらかです。

Windows プラットフォームの DB2 では、ツールバーおよびヘルプ・メニューを使用して、インフォメーション・センターにアクセスすることもできます。

インフォメーション・センターは 6 種類の情報を提供します。適切なタブをクリックすると、種類ごとに提供されているトピックが表示されます。

タスク (Tasks) DB2 を使用して実行できる主要なタスク。

参照 (Reference)

DB2 参照情報 (キーワード、コマンド、API など)。

ブック (Books) DB2 ブック。

トラブルシューティング (Troubleshooting)

エラー・メッセージのカテゴリーと、メッセージに対するリカバリー処置。

サンプル・プログラム (Sample Programs)

DB2 アプリケーション開発クライアントに付属のサンプル・プログラム。DB2 アプリケーション開発クライアントをインストールしていない場合、このタブは表示されません。

Web

WWW 上にある DB2 情報。この情報にアクセスするには、ご使用のシステムから Web への接続が必要です。

リストから項目を 1 つ選択すると、インフォメーション・センターはビューアーを立ち上げて情報を表示します。選択した情報の種類に応じて、ビューアーはシステム・ヘルプ・ビューアー、エディター、または Web ブラウザーです。

インフォメーション・センターには検索機能が備わっており、リストを参照せずに特定のトピックを探すことができます。

テキストの全検索を行うには、インフォメーション・センター内のハイパーテキスト・リンク「**DB2 オンライン情報の検索 (Search DB2 Online Information)**」検索フォームに従います。

通常、HTML 検索サーバーは自動的に始動します。HTML 情報の検索がうまくいかない場合は、以下の方法の 1 つを使用して、検索サーバーを始動しなければならない場合もあります。

Windows では

「スタート」をクリックし、「プログラム」 → 「IBM DB2」 → 「Information」 → 「Start HTML Search Server」を選択します。

OS/2 では

「DB2 (OS/2 版)」フォルダーをダブルクリックして、「Start HTML Search Server」アイコンをダブルクリックします。

HTML 情報の検索でこの他の問題が発生した場合は、リリース情報を参照してください。

注: 検索機能は、Linux、DYNIX/ptx、および Silicon Graphics IRIX 環境では利用できません。

DB2 ウィザードの使用

ウィザードを使用すると、各タスクをステップごとに進めることによって、さまざまな管理タスクを遂行することができます。ウィザードは、コントロール・センターおよびクライアント構成アシスタントを通して使用できます。以下の表では、ウィザードとその目的をリストしています。

注: データベース作成、索引作成、マルチサイト更新の構成、およびパフォーマンス構成ウィザードは、区分済みデータベース環境で使用できます。

ウィザード	内容	利用方法
データベース追加 (Add Database)	クライアント・ワークステーション上にデータベースのカタログを作成します。	クライアント構成アシスタントから、「追加 (Add)」をクリックします。
データベース・バックアップ (Back up Database)	バックアップ計画を決定、作成、およびスケジュールします。	「コントロール・センター (Control Center)」からバックアップするデータベースを右クリックし、「バックアップ (Backup)」 → 「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。

ウィザード	内容	利用方法
マルチサイト更新の構成 (Configure Multisite Update)	マルチサイト更新、分散トランザクション、または 2 フェーズ・コミットを構成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「マルチサイト更新 (Multisite Update)」を選択します。
データベース作成 (Create Database)	データベースを作成し、いくつかの基本的な構成タスクを実行します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。
表作成 (Create Table)	基本的なデータ・タイプを選択して、表の基本キーを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表 (Tables)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表 (Table Using Wizard)」を選択します。
表スペース作成 (Create Table Space)	新しい表スペースを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表スペース (Table Spaces)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表スペース (Table Space Using Wizard)」を選択します。
索引作成 (Create Index)	すべての照会について、作成すべき索引および除去すべき索引を提案します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「索引 (Index)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する索引 (Index Using Wizard)」を選択します。

ウィザード	内容	利用方法
パフォーマンス構成 (Performance Configuration)	ビジネス要件に適合するように構成パラメーターを更新して、データベースのパフォーマンスを調整します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、調整したいデータベースを右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。 区分データベース環境では、「Database Partitions」視点から、調整したい最初のデータベース区画を右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。
データベース復元 (Restore Database)	障害の後、データベースを回復します。どのバックアップを使用し、どのログを再生するかを判別を支援します。	「コントロール・センター (Control Center)」から復元するデータベースを右クリックし、「復元 (Restore)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。

文書サーバーのセットアップ

デフォルトでは、DB2 情報はローカル・システムにインストールされます。つまり、DB2 情報にアクセスする必要のある各担当者が同じファイルをインストールする必要があります。DB2 情報を 1 か所に格納するには、次のようにします。

1. %sqllib%doc%html のすべてのファイルとサブディレクトリーを、ローカル・システムから Web サーバーにコピーします。各ブックには独自のサブディレクトリーがあり、そのブックを構成する必要な HTML および GIF ファイルが入っています。ディレクトリー構造は常に同じ状態に保つ必要があります。
2. Web サーバーを構成して、ファイルを新しい場所で検索するようにします。さらに詳しい情報については、インストールおよび構成 補足 の NetQuestion 付録を参照してください。
3. インフォメーション・センターの Java バージョンをご使用の場合は、すべての HTML ファイルのベース URL を指定できます。この URL はブックのリストに使用してください。
4. 資料ファイルが表示されるようになったなら、よく使うトピックにはブックマークを付けておいてください。ブックマークを付けるページは、たとえば以下のものがあります。
 - ブックのリスト

- 頻繁に使用されるブックの目次
- 頻繁に参照する情報 (たとえば、ALTER TABLE トピックなど)
- 検索フォーム

中央のマシンから DB2 ユニバーサル・データベース オンライン文書ファイルを提供する方法については、インストールおよび構成 補足 の NetQuestion 付録を参照してください。

オンライン情報の検索

HTML ファイルの情報を検索するには、以下の方法のどれか 1 つを使用してください。

- 最上部にある「**検索 (Search)**」をクリックします。検索フォームを使用して特定のトピックを見つけます。この機能は、Linux、DYNIX/ptx、または Silicon Graphics IRIX 環境ではご利用になれません。
- 最上部にある「**索引 (Index)**」をクリックします。索引を使用して、ブック内の特定のトピックを見つけます。
- HTML 資料またはヘルプの目次あるいは索引を表示してから、Web ブラウザーの検索機能を利用してブック内の特定のトピックを見つけます。
- Web ブラウザーのブックマーク機能を使用して、特定のトピックにす早く戻ります。
- インフォメーション・センターの検索機能を使用して、特定のトピックを検索します。詳しくは、567ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。

付録C. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒 106-0032 東京都港区六本木 3丁目 2-31
AP 事務所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更 (たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など) は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
1150 Eglinton Avenue East
Tronto, Ontario
M3C 1H7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのA

アプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのすべての部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All Rights Reserved.

商標

アスタリスク (*) 付きの以下の用語は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IBM
AISPO	IMS
AIX	IMS/ESA
AIX/6000	LAN DistanceMVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	OS/2
BookManager	OS/390
CICS	OS/400
C Set++	PowerPC
C/370	QBIC
DATABASE 2	QMF
DataHub	RACF
DataJoiner	RISC System/6000
DataPropagator	RS/6000
DataRefresher	S/370
DB2	SP
DB2 Connect	SQL/DS
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	System/370
DB2 Universal Database	System/390
Distributed Relational Database Architecture	SystemView VisualAge
DRDA	VM/ESA
eNetwork	VSE/ESA
Extended Services	VTAM
FFST	WebExplorer
First Failure Support Technology	WIN-OS/2

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Tivoli および、NetView は、Tivoli Systems, Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス、ヘルプへの 1
インストール
Netscape ブラウザー 566
インフォメーション・センター 567
ウィザード
索引 569
タスクを遂行する 568
データベース作成 569
データベース追加 568, 569, 570
データベース復元 570
データベース・バックアップ 568
パフォーマンス構成 569
表作成 569
表スペース作成 569
マルチサイト更新の構成 568
オンライン情報
検索 571
表示 566
オンライン・ヘルプ 1, 563

[カ行]

概要、メッセージの 1
言語 ID
ブック 561
検索
オンライン情報 567, 571
コマンド行プロセッサ 195

[サ行]

最新情報 562
索引ウィザード 569
サンプル・プログラム
プラットフォーム共通の 561
HTML 561
収集プログラム 5
セットアップ、文書サーバーの 570
その他のメッセージ・ソース 3
ソフト・エラー 5

[タ行]

データベース管理ユーティリティー・メッセージ 65
データベース作成ウィザード 569
データベース追加ウィザード 568, 569, 570
データベース・インストール・メッセージ 133
データベース・ディレクター・メッセージ 65
データベース・バックアップ・ウィザード 568

[ハ行]

パフォーマンス構成ウィザード 569
表作成ウィザード 569
表示
オンライン情報 566
表スペース作成ウィザード 569
復元ウィザード 570
複製メッセージ 5
ブック 551, 563
ヘルプ 1
変更適用プログラム 22

[マ行]

マルチサイト更新の構成ウィザード 568
メッセージ 1
収集プログラム 5
複製 5
変更適用プログラム 22
ASN 5
AUD 3
CCA 39
CLI 49
DB2 195
DBA 65
DBI 133
DIA 3
GOV 3
GSE 495
SAT 513
SPM 525
SQLJ 545
メッセージ、概要 1

[ラ行]

リリース情報 562

A

ASN メッセージ 5
AUD メッセージ 3

C

CCA メッセージ 39
CLI メッセージ 49

D

DB2 メッセージ 195

DB2 ライブラリー
印刷版のブックの注文 563
インフォメーション・センター
567
ウィザード 568
オンライン情報の検索 571
オンライン情報の表示 566
オンライン・ヘルプ 563
構成内容 551
最新情報 562
セットアップ、文書サーバーの
570
ブック 551
ブックの言語 ID 561
PDF 資料の印刷 563
DBA メッセージ 65
DBI メッセージ 133
DIA メッセージ 3

G

GOV メッセージ 3
GSE メッセージ 495

H

HTML
サンプル・プログラム 561

N

Netscape ブラウザー
インストール 566

P

PDF 563
PDF 資料の印刷 563

S

SAT メッセージ 513
SmartGuides
ウィザード 568
SPM メッセージ 525

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、時間をとって**問題判別の手引き** に定義されている処置を検討し、それらの提案を実行した後で、お客様サポートに連絡をとってください。この資料には、お客様サポートがお客様を支援するために必要とする情報が説明されています。

製品情報

以下の情報は英語で提供されます。内容は英語版製品に関する情報です。

<http://www.ibm.com/software/data/>

DB2 World Wide Web ページには、ニュース、製品説明、研修スケジュールなどの DB2 に関する最新情報が提供されています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

「DB2 Product and Service Technical Library」では、よくされる質問 (FAQ)、修正内容、資料、および最新の DB2 技術情報などの情報へのアクセスが提供されています。

注: この情報のご提供は英語のみとなりますのでご注意ください。

<http://www.elink.ibm.com/pbl/pbl/>

「International Publications」注文用 Web サイトでは、マニュアルの注文方法についての情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/education/certify/>

IBM の「Professional Certification Program」Web サイトでは、DB2 を含むさまざまな IBM 製品の認証テストの情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<ftp://software.ibm.com>

匿名でログオンしてください。ディレクトリー /ps/products/db2 には、DB2 および多数の他製品に関連したデモ、修正プログラム、情報、およびツールがあります。ただし、提供されている情報は英語です。

<comp.databases.ibm-db2>, <bit.listserv.db2-l>

これらのインターネット・ニュースグループは、ユーザーが DB2 製品に関する自分の経験について話し合うために利用できます。ただし、提供されている情報は英語です。

Compuserve: GO IBMDB2

このコマンドを入力すると、IBM DB2 Family forum にアクセスできます。すべての DB2 製品が、このフォーラムでサポートされています。ただし、提供されている情報は英語です。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、*IBM Software Support Handbook* の Appendix A を参照してください。この資料にアクセスするには、Web ページ: <http://www.ibm.com/support/> にアクセスし、ページの最下部にある「IBM Software Support Handbook」リンク・ボタンを選択します。

注: 国によっては、IBM が承認している販売業者が、IBM サポート・センターの代わりにそれら販売業者のサポート・センターに連絡する場合があります。



Printed in Japan

GC88-8543-01



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12